

昭和四年度直轄工事年報

内務省土木局



八 四	七 三	六 二	三 七	三 一	二 八	二 六	二 三	一 六	〃	〃	一 四	頁 行 段	正
一 二	七 七	七 六	六 七	一 三	三 三	五 八	一 二	八 二	〃	〃	五		
一	三	一	三	一	三	三	三	三	一	三	二		
健 次	小 御 殿	顯 次	真 壁 縣	谷 口	芦 屋 下	江 葉	豐 野 郡	練 馬 村	大 分 市	正 治	一 五 三 一	事 務 所	誤 表
健 二	北 御 殿	顯 二	真 壁 郡	谷 口	紅 葉	豐 能 郡	練 馬 町	大 分 郡	正 次	一 五 三 一	立 工 場	正	

昭和四年度直轄工事年報目次

總論

第一	治水事業	一頁
第二	港灣改良事業	五
第三	復舊及補修事業	七
第四	本年度施行工事	八
第五	竣功工事	一三
第一章	河川改修工事	一五
第一	利根川改修工事	一五
第二	荒川改修工事	三七
第三	北上川改修工事	五三
第四	阿賀野川改修工事	六一

目次

第五	最上川改修工事	六九
第六	江合、鳴瀬兩川改修工事	七七
第七	雄物川改修工事	八三
第八	淀川改修増補工事	八九
第九	多摩川改修工事	九七
第一〇	千曲川改修工事	一〇三
第一一	加古川改修工事	一〇九
第一二	神通川改修工事	一一七
第一三	岩木川改修工事	一二七
第一四	太田川改修工事	一三三
第一五	阿賀川及阿武隈川改修工事	一三九
第一六	圓山川改修工事	一四九
第一七	富士川改修工事	一五五

第一八	木曾川上流改修工事	一六三
第一九	斐伊川改修工事	一七三
第二〇	信濃川上流改修工事	一八一
第二一	天龍川改修工事	一八七
第二二	千代川改修工事	一九一
第二三	蘆田川改修工事	一九七
第二四	紀ノ川改修工事	二〇一
第二五	筑後川改修工事	二〇七
第二六	緑川改修工事	二一三
第二七	北川改修工事	二一七
第二八	旭川改修工事	二二三
第二九	鬼怒川改修工事	二二七
第三〇	大淀川改修工事	二三七

第三一	狩野川改修工事	二四一
第三二	那賀川改修工事	二四五
第三三	大野川改修工事	二五一
第三四	渡川改修工事	二五五
第二章	河川附屬物及水路維持工事	
第一	木曾川附屬物及水路維持工事	二五九
第二	淀川附屬物及水路維持工事	二六三
第三	利根、渡良瀬兩川維持工事	二六七
第四	信濃川維持工事	二七五
第三章	砂防工事	
第一	淀川流域砂防工事	二七九
第二	富士川流域砂防工事	二八三
第三	桂川流域砂防工事	二八七

第四章 港灣改良工事

第 四	千曲川流域砂防工事	二八九
第 五	鬼怒川流域砂防工事	二九一
第 六	神通川流域砂防工事	二九五
第 七	常願寺川流域砂防工事	二九七
第 八	手取川流域砂防工事	三〇一
第 九	揖斐川流域砂防工事	三〇五
第一〇	木津川流域砂防工事	三〇九
第 一	關門海峽改良工事	三一
第 二	鹽釜港修築工事	三一九
第 三	神戸港修築工事	三二五
第 四	門司港修築工事	三三五
第 五	橫濱港修築工事	三四一

第 六	清水港修築工事	三五
第 七	下關港修築工事	三五九
第 八	敦賀港修築工事	三六五
第 九	境港修築工事	三七一
第一〇	小松島港修築工事	三七七
第一一	今治港修築工事	三八五
第一二	鹿兒島港修築工事	三九三
第一三	伏木港修築工事	三九九
第一四	土崎港修築工事	四〇五
第一五	小名濱港修築工事	四〇九
第一六	宮古港修築工事	四一三
第一七	浦戶港修築工事	四一五
第一八	七尾港修築工事	四一九

第一九	尾道港修築工事	四二三
第二〇	舞鶴港修築工事	四二七
第二一	博多港修築工事	四三一
第五章	復舊工事及補修工事	
第一	相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事	四三五
第二	信濃川補修工事	四四七
第三	利根、渡良瀬兩川維持工水害復舊工事	四五五

口繪寫眞(三十二面)

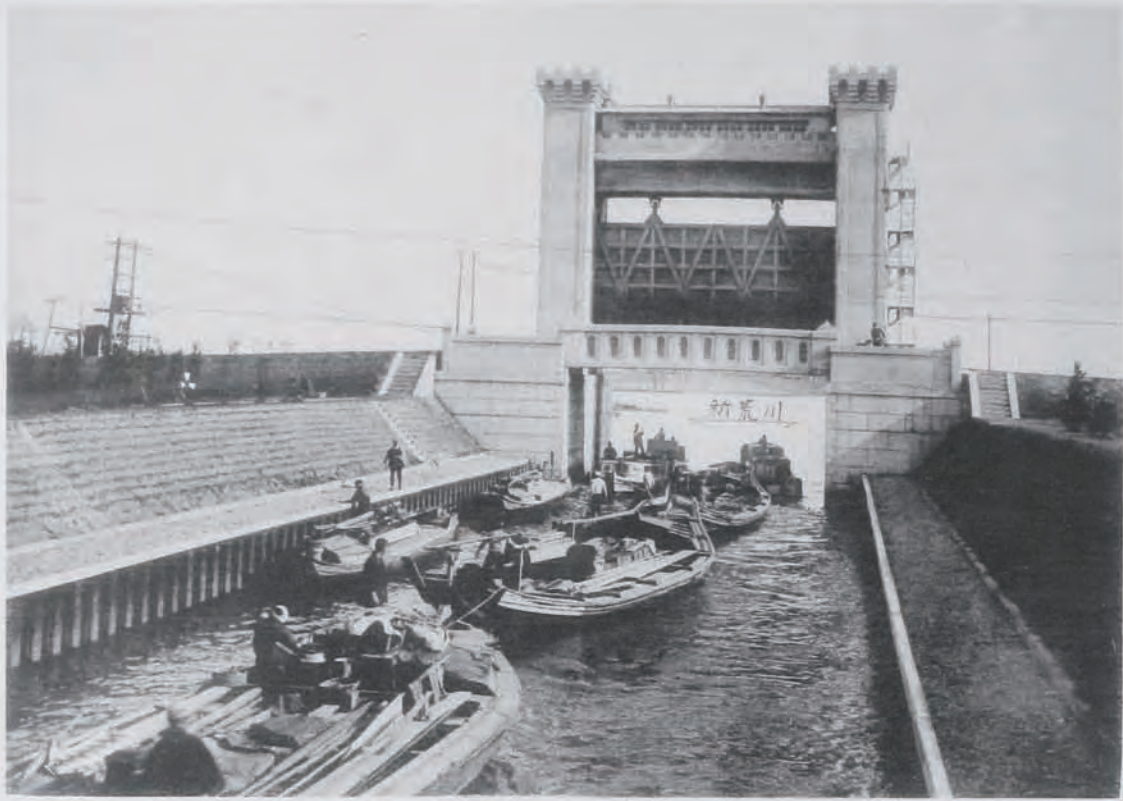
1	荒川下流改修工事小松川開門
2	荒川下流改修工事船堀開門
3	北上川改修工事飯野川可動堰(澤田山ヨリ遠望)
4	北上川改修工事飯野川可動堰(高水敷降開式轉堰据付作業)
5	北上川改修工事脇谷開門及洗堰
6	北上川改修工事鴛波洗堰

目次

目次

- 7 北上川改修工事福地水門
- 8 北上川改修工事二俣水路
- 9 淀川改修増補工事三栖閘門
- 10 淀川改修増補工事三栖洗堰
- 11 淀川改修増補工事長柄運河給水樋門
- 12 淀川改修増補工事毛馬洗堰補修工事
- 13 淀川改修増補工事附帶工事
- 14 富士川改修工事藤田水制
- 15 蘆田川改修工事土取場
- 16 利根、渡良瀬兩川維持工事舞木護岸
- 17 利根、渡良瀬兩川維持工事富勢水制
- 18 千曲川流域砂防工事
- 19 常願寺川流域砂防工事
- 20 神戸港修築工事外國貿易設備第五突堤
- 21 神戸港修築工事岸壁築造用鐵筋混凝土函製造
- 22 橫濱港修築工事橫棧橋脚柱
- 23 下關港修築工事東工區五米四岸壁
- 24 下關港修築工事西工區埋立地

32	31	30	29	28	27	26	25
信濃川補修工事第二床固堰堤	信濃川補修工事固堰	信濃川補修工事可動堰基礎及水叩工事(昭和五年二月作業)	信濃川補修工事可動堰基礎及水叩工事(昭和四年十一月作業)	鹿兒島港修築工事南防波堤築造	敦賀港修築工事ケーソン製造	敦賀港修築工事防波堤	敦賀港修築工事鐵道省委託八米五岸壁



(1) 荒川下流改修工事小松川閘門
 (東京府南葛飾郡小松川町地先)
 扉室幅十一米、閘室幅十四米四、閘室有効長九十一米



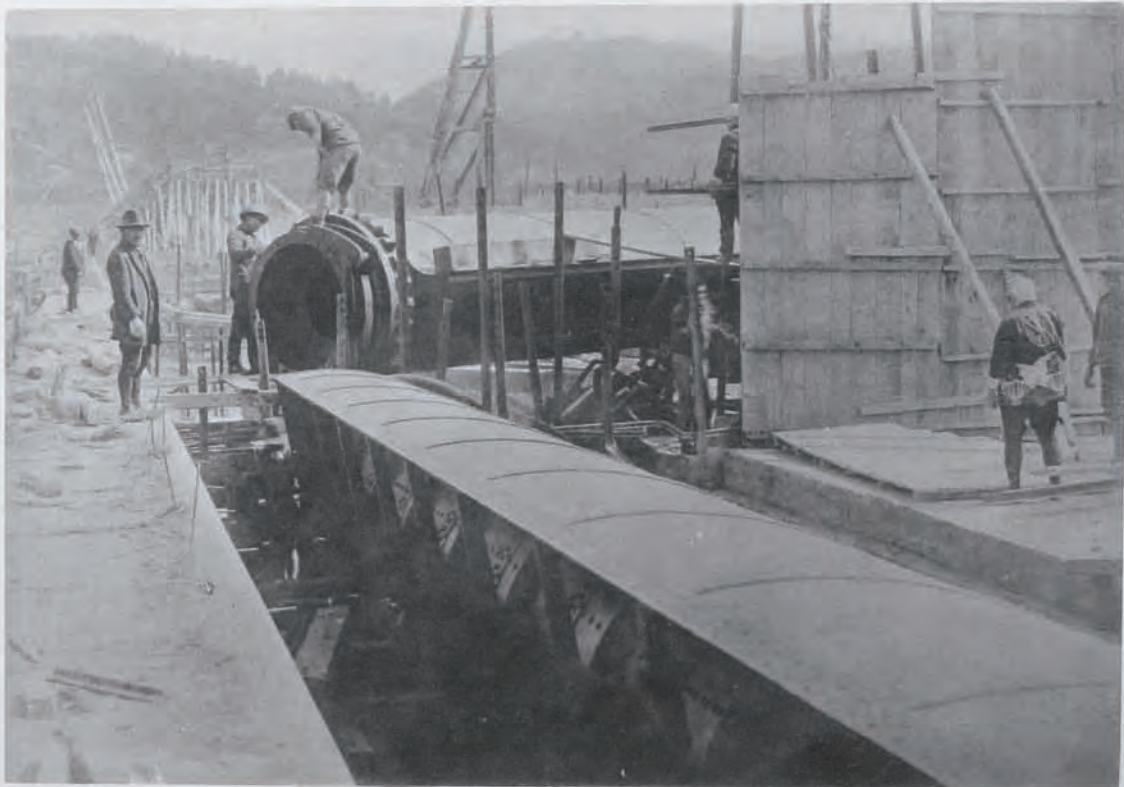
(2) 荒川下流改修工事船堀閘門
 (東京府南葛飾郡松江村地先)
 扉室幅十一米、閘室幅十四米四、閘室有効長九十一米



(3) 北上川改修工事 飯野川可動堰

(宮城県桃生郡飯野川町地先)

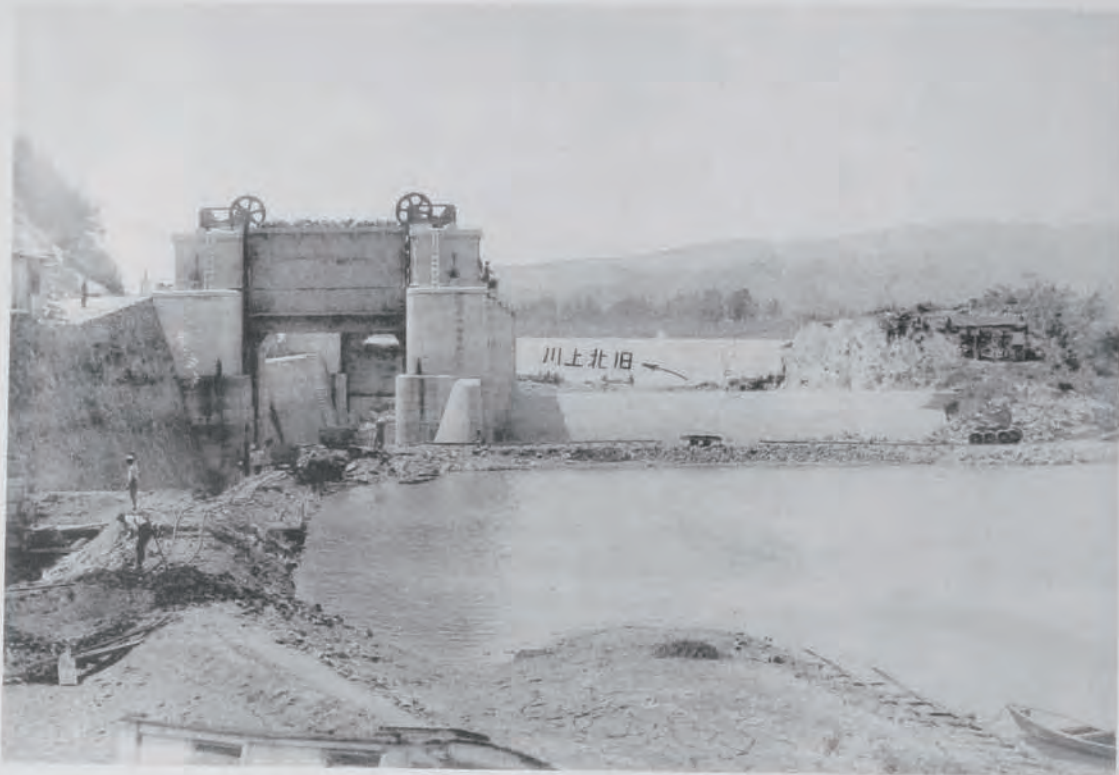
可動堰延長四百十米、水通十七米、低水路ハ四連、高水敷ハ十七連ヨリ成ル、
高水敷ノ内左岸一連、右岸四連ハ固定堰ナリ、扉ハローリングダムヲ用フ



(4) 北上川改修工事 飯野川可動堰

右岸高水敷降開式轉堰据付作業

降開式轉堰ノ直徑一米五、鐵板ニテ作り混凝土ヲ填充ス、一個重量九十九噸



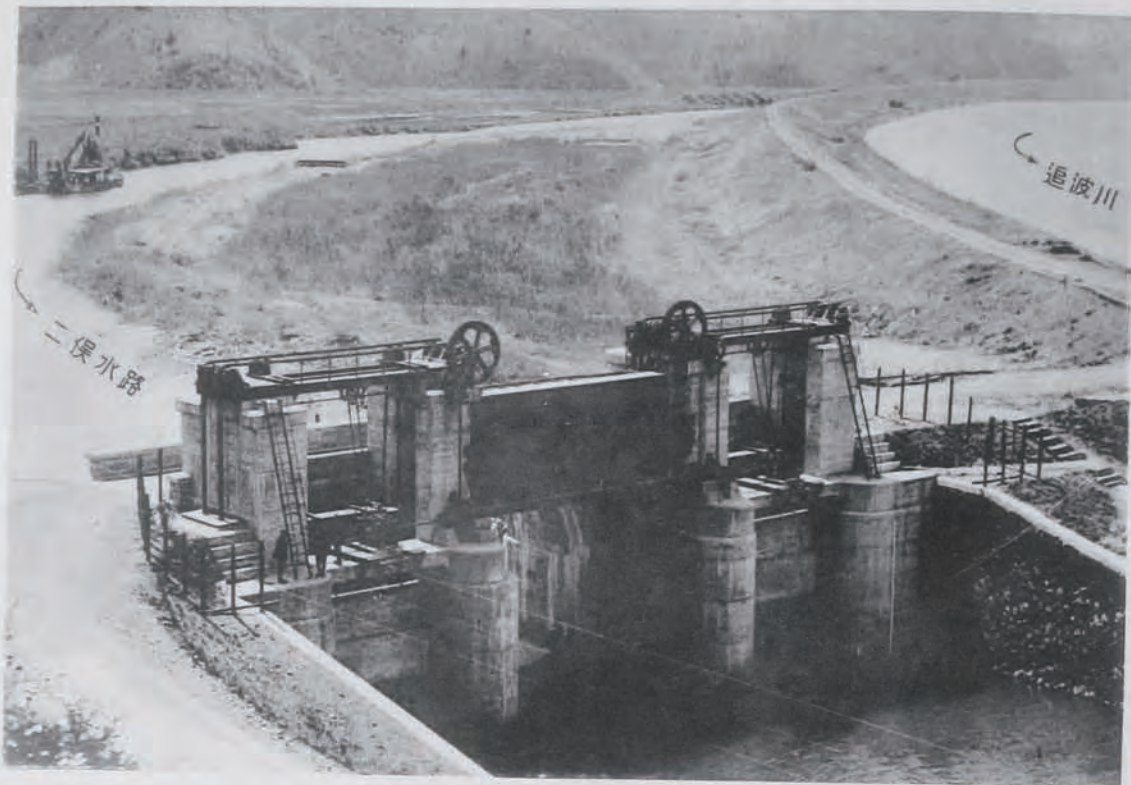
(5) 北上川改修工事脇谷閘門及洗堰
(宮城縣桃生郡桃生村地先)

閘門幅七米九、長五十八米、扉ハ引揚扉ニシテ何レモ二枚ヨリ成リ上流側ノモノ
總高九米三、下流側ノモノ總高七米八ナリ、洗堰ハ閘門ノ右側ニアリ、高五米
五、幅七米八、六連ヨリ成リ其上部長二十二米ハ洪水ヲ溢流セシムルモノトス



(6) 北上川改修工事挽波洗堰
(宮城縣遠田郡豊里村地先)

洗堰ハ高一米三、幅九十種ノ通水部十八連及其上部長五十一米ノ溢流部ヨリ成ル



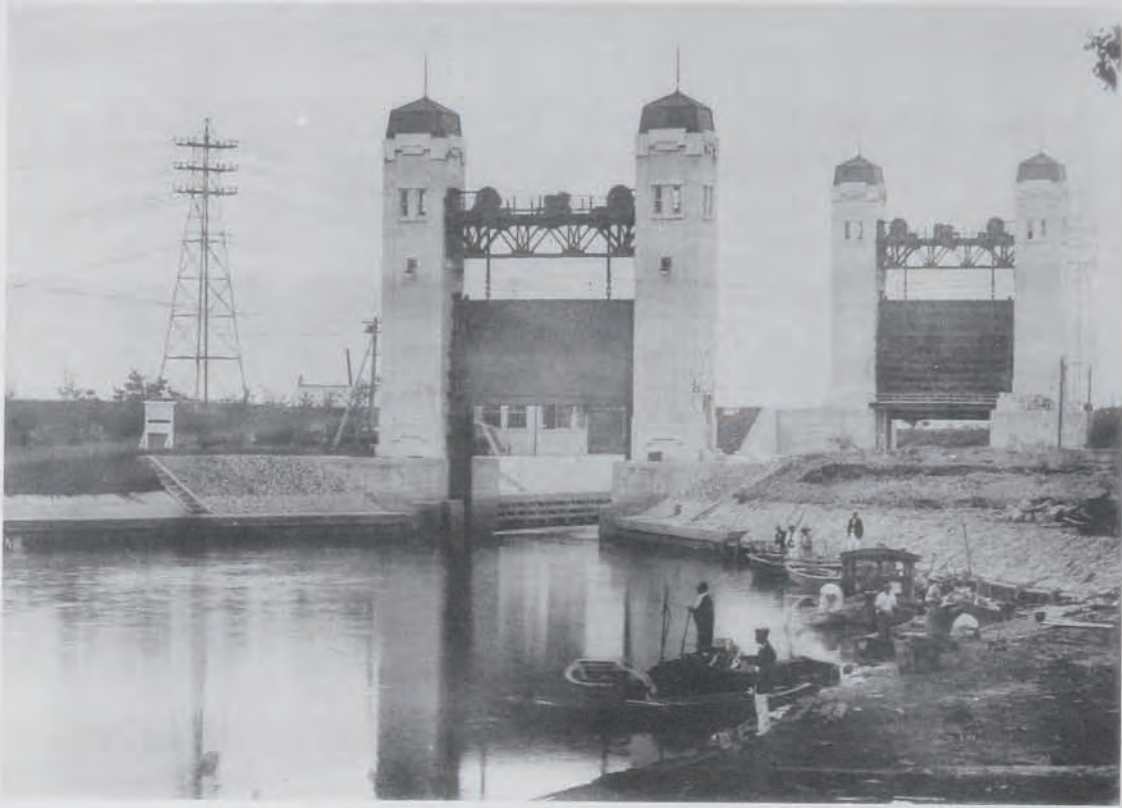
(7) 北上川改修工事福地水門
(宮城縣牡鹿郡大川村地先)

二俣水路ノ追波川ニ合スル所ニ設ケラレ中央船通シ徑間七米九、兩側水通徑間四米五ナリ
船通部ハ高各四米一ノ引揚扉二枚ヨリ成リ總高七米七、水通部ハ高四米一ノ扇形扉ヲ用フ

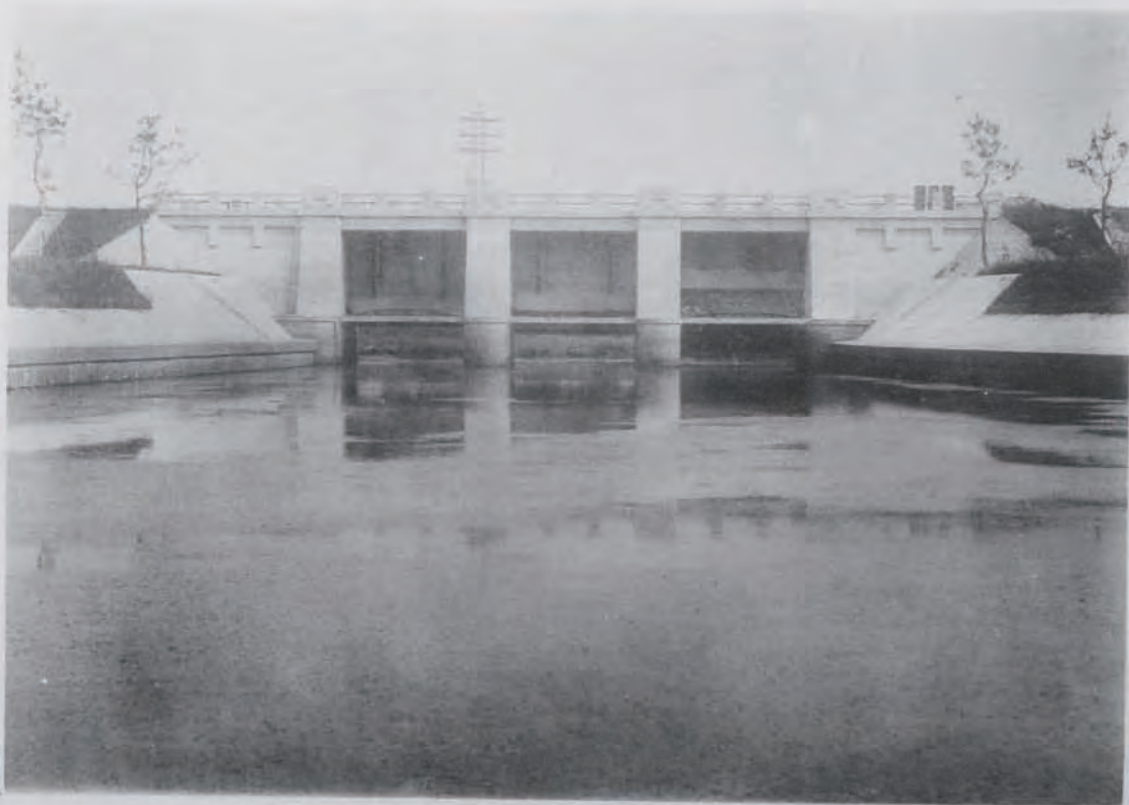


(8) 北上川改修工事二俣水路
(宮城縣牡鹿郡二俣村及大川村地先)

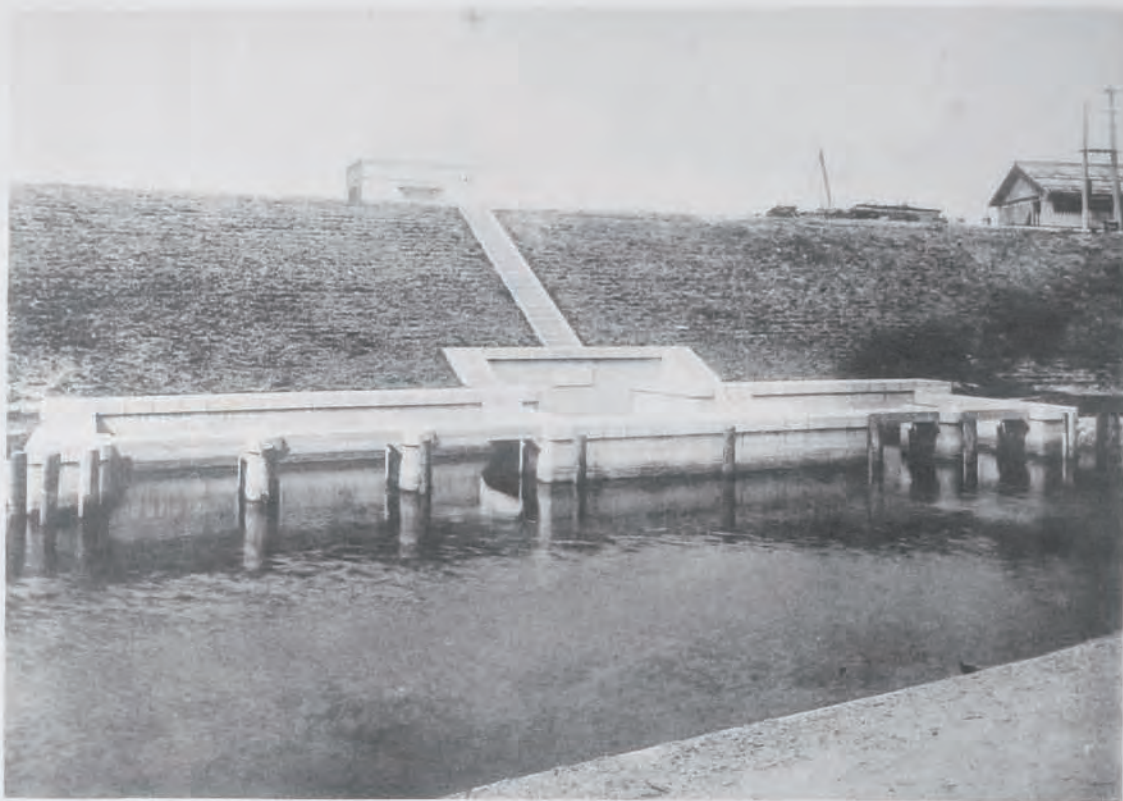
追波川右岸堤ニ沿ヒ排水、航路兼用ノ爲メ開鑿セラル
延長五千四百五十米、敷幅十八米、水深一米六



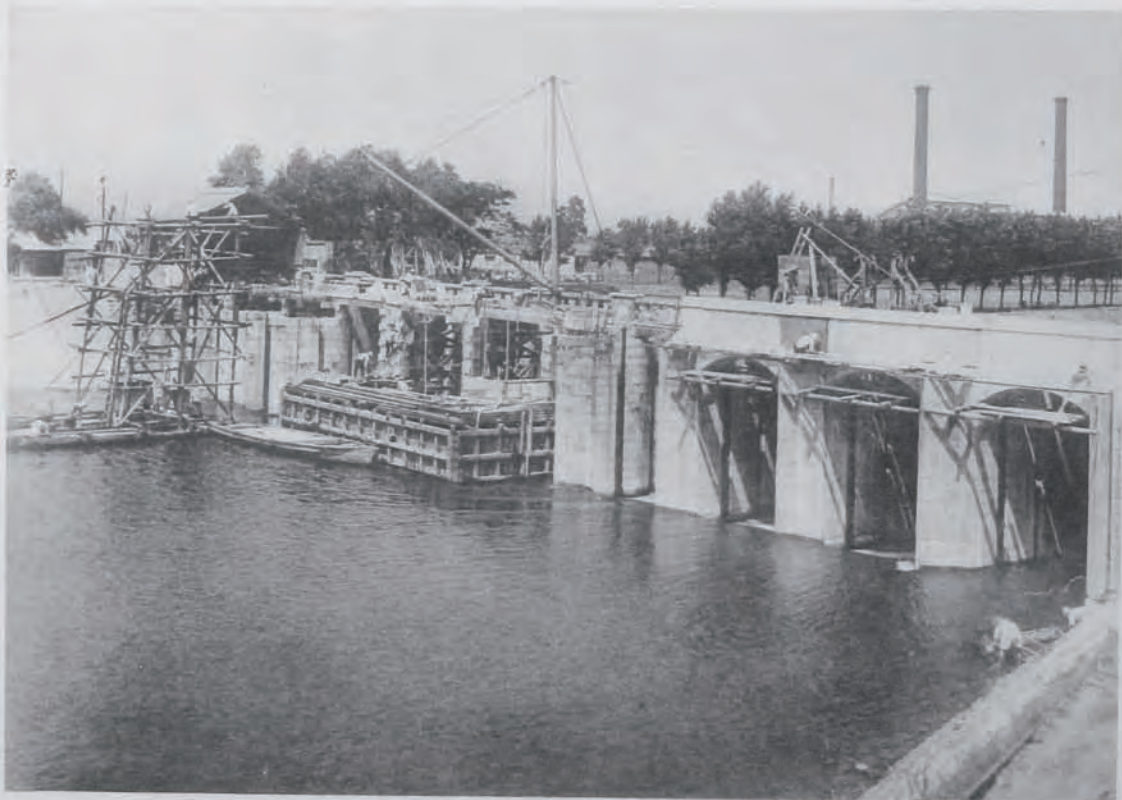
(9) 淀川改修増補工事三栖閘門
 (京都府伏見市外金井戸島地先)
 扉室幅八米、閘室幅十一米、有効長八十三米



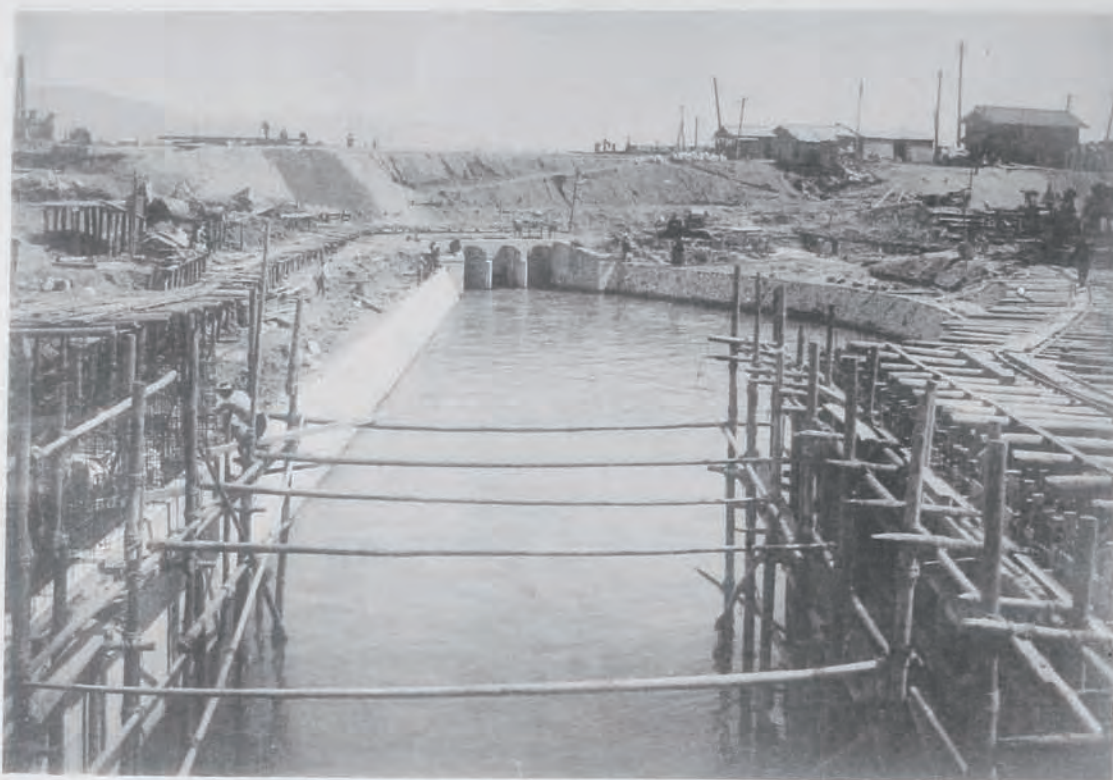
(10) 淀川改修増補工事三栖洗堰
 (京都府伏見市外金井戸島地先)
 水通幅五米五、高三米 三連



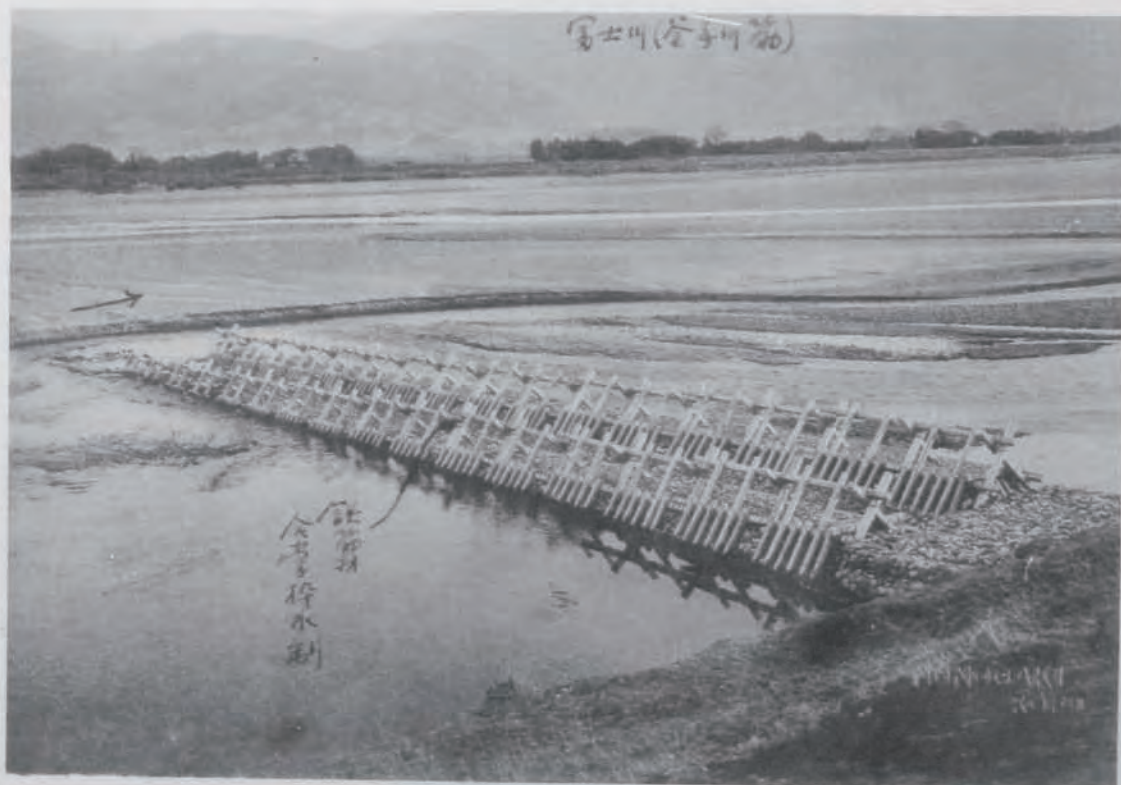
(11) 淀川改修増補工事長柄運河給水樋門
 (大阪市東淀川區長柄濱通地先)
 高一米二、幅一米五 二連、川裏正面運河側



(12) 淀川改修増補工事毛馬洗堰補修工事
 (大阪市東淀川區長柄濱通地先)



(13) 淀川改修増補工事附帯工事
 淀川左岸八樋管統一取水樋門背面
 高一米五、幅一米八、長三十二米四 三連



(14) 富士川改修工事藤田水制
 (山梨縣中巨摩郡忍村大字今福新田地先)



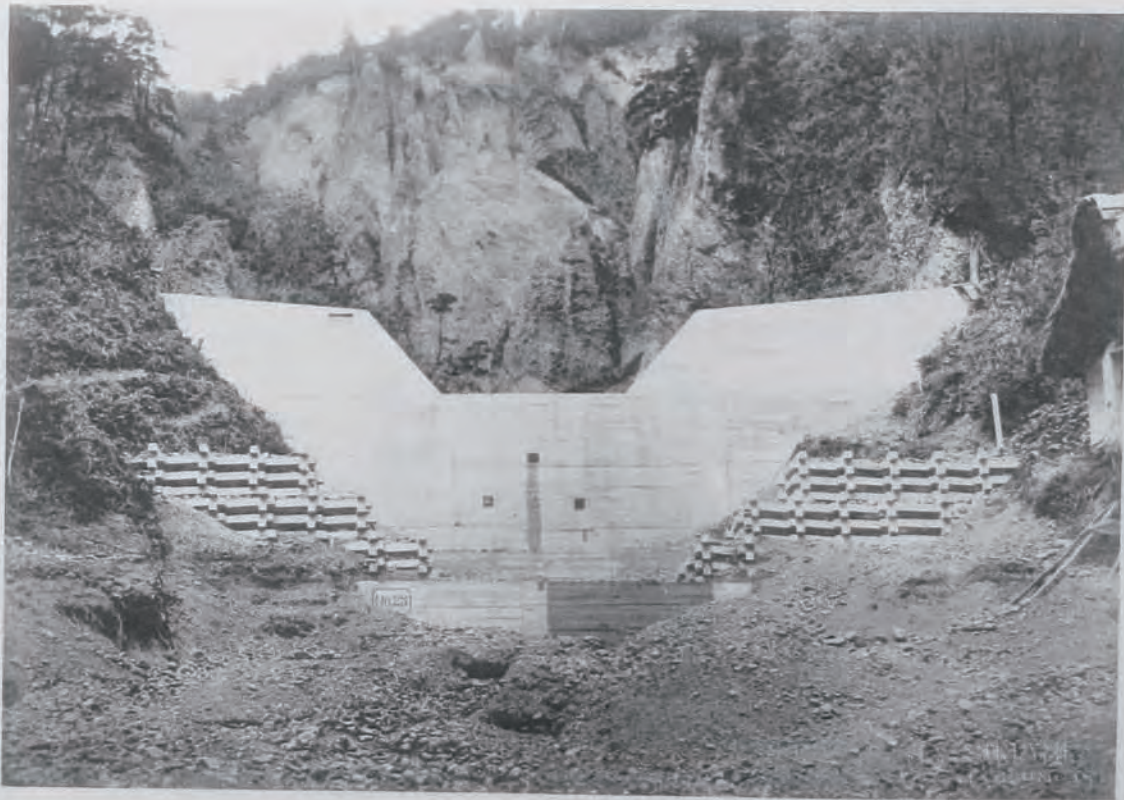
(15) 蘆田川改修工事土取場
 (廣島縣沼隈郡草戸村地先)
 六噸重油機關車使用



(16) 利根渡良瀨兩川維持工事舞木護岸
 (群馬縣邑樂郡永樂村大字舞木地先)



(17) 利根渡良瀬兩川維持工事富勢水制
(千葉縣東葛飾郡富勢村布施地先)



(18) 千曲川流域砂防工事
犀川筋木澤第二十三號及第二十四號堰堤
(長野縣北安曇郡陸鄉村地先)



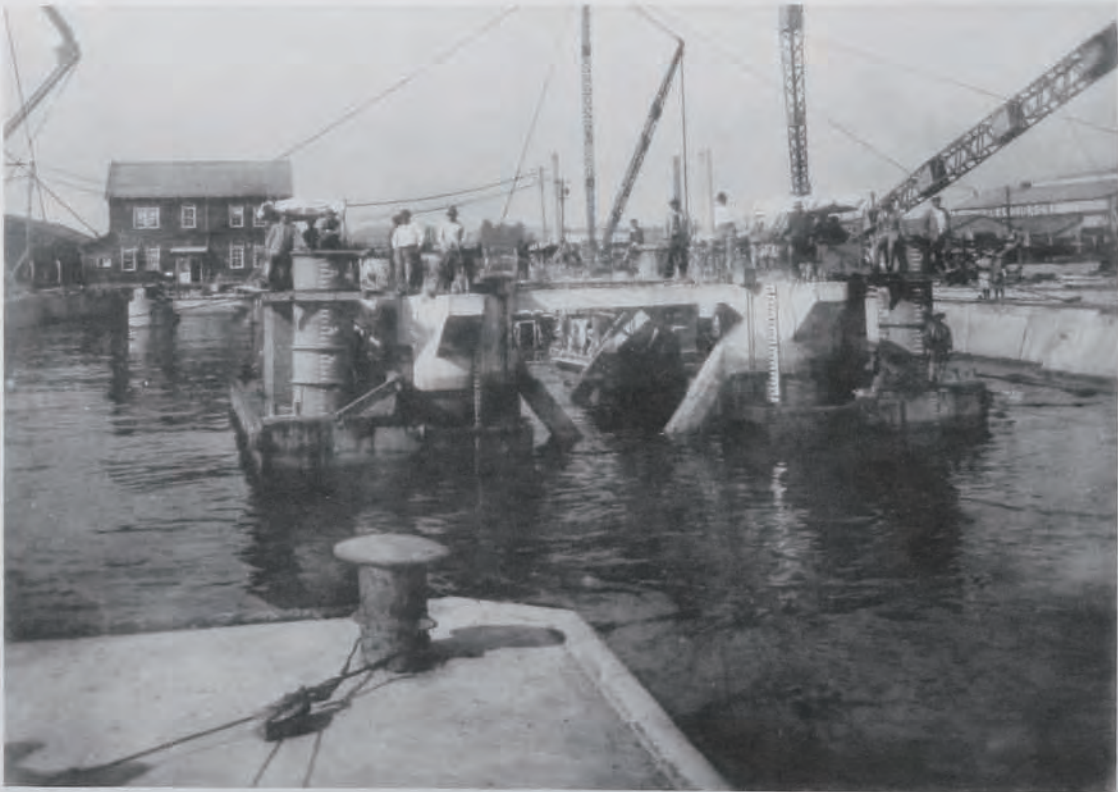
(19) 常願寺川流域砂防工事
 白岩堰堤箇所上流左岸崩壊並護岸準備工事
 (富山縣上新川郡大山村及中新川郡立山村地先)



(20) 神戸港修築工事外國貿易設備第五突堤
 沖合右岸ハ東防波堤ノ一ノ鐵筋混凝土函据付済ノ部分ニ
 シテ左方方塊疊積ハ同防波堤基礎工事施行中ノモノナリ



(21) 神戸港修築工事岸壁築造用鉄筋混凝土函製造



(22) 横濱港修築工事横浅橋脚柱
造函船渠内ニテ製作セル圓筒構ヲ浮カシタル狀況



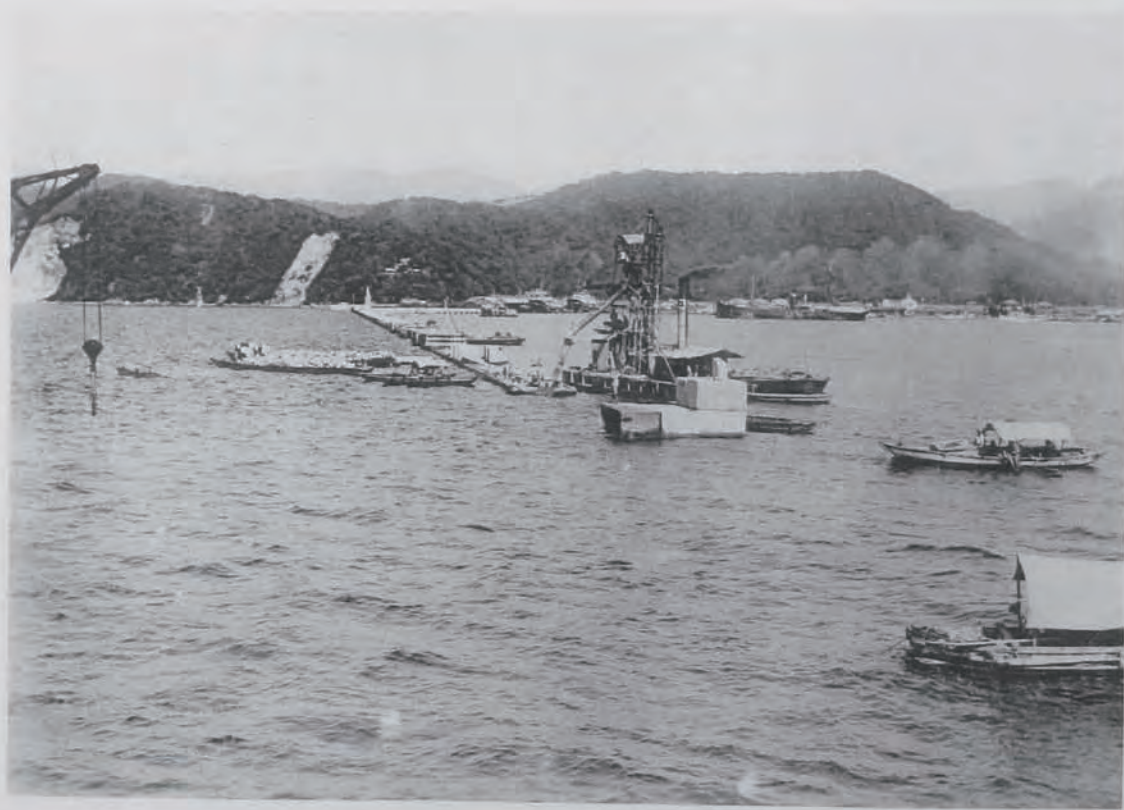
(23) 下關港修築工事東工區五米四岸壁
岸壁延長二百三十七米、前床混凝土幅八米
(昭和五年二月下關要塞司令部承認済)



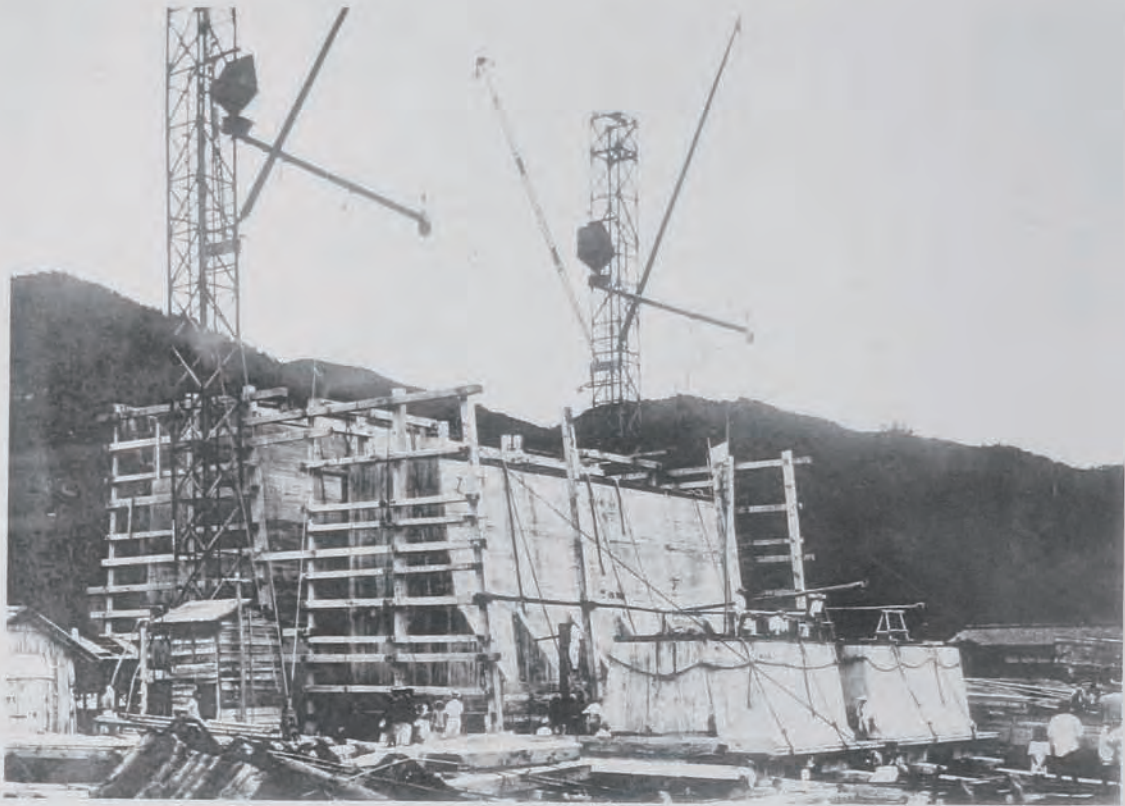
(24) 下關港修築工事西工區埋立地
埋立面積五萬三千八百平方米、五米四岸壁三百四十
四米、二米七岸壁百三十九米、護岸二百一十一米
(昭和五年二月下關要塞司令部承認済)



(25) 敦賀港修築工事鐵道省委託八米五岸壁
延長百六十四米



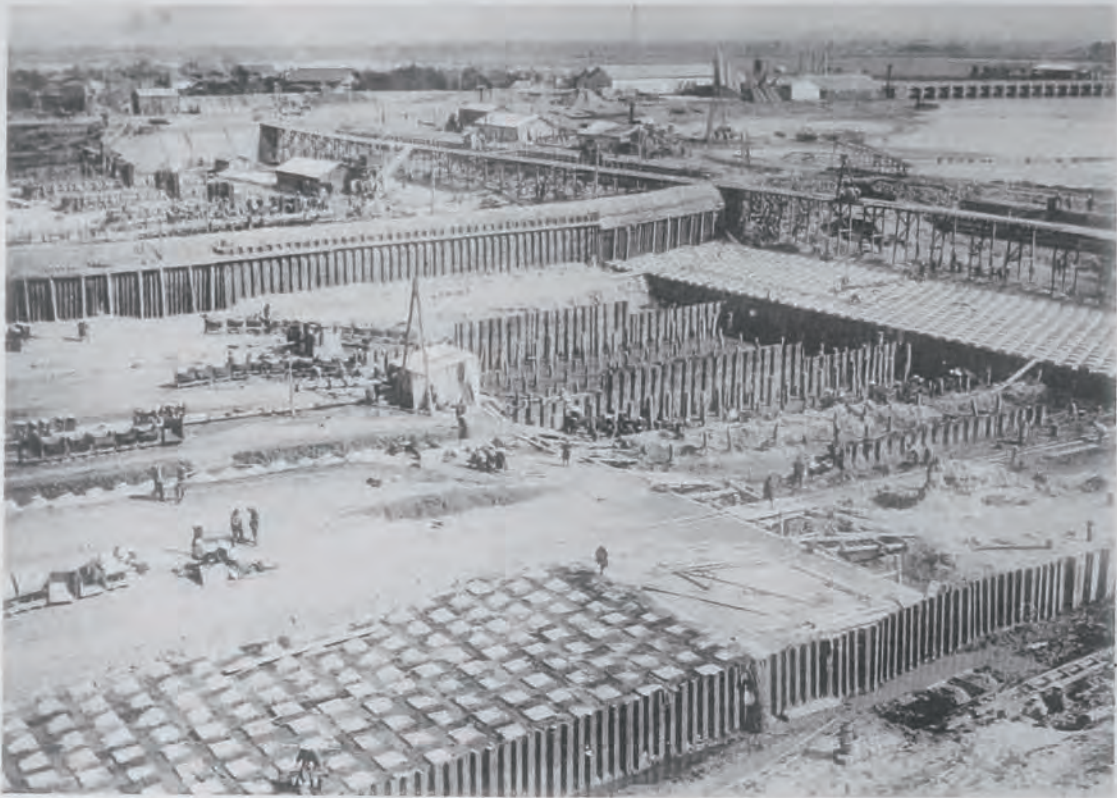
(26) 敦賀港修築工事防波堤
ケーソン高九米五、上幅四米八五、下幅七米八、長十八米四



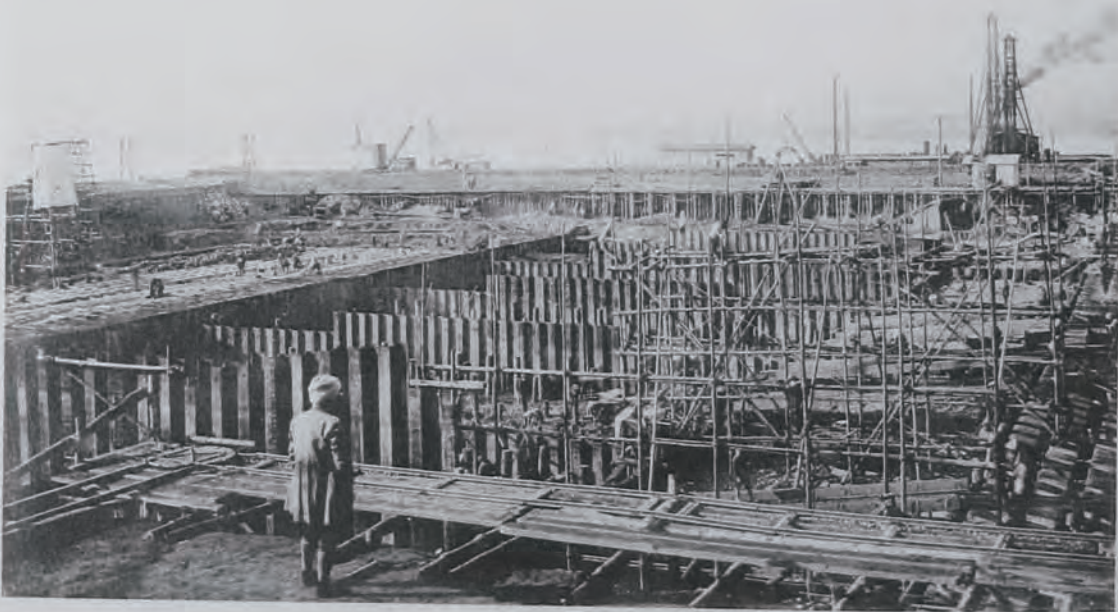
(27) 敦賀港修築工事ケーソン製造
前方防砂堤用、中央七米三岸壁用、後方防波堤用



(28) 鹿兒島港修築工事南防波堤築造
基礎捨石沈壓作業並ケーソン及方塊据付



(29) 信濃川補修工事可動堰基礎及水叩工事
 (新潟縣三島郡大河津村地先)
 昭和四年十一月可動堰右半部ヲ締切り混凝土ノ施工ヲ陸上作業ト爲ス



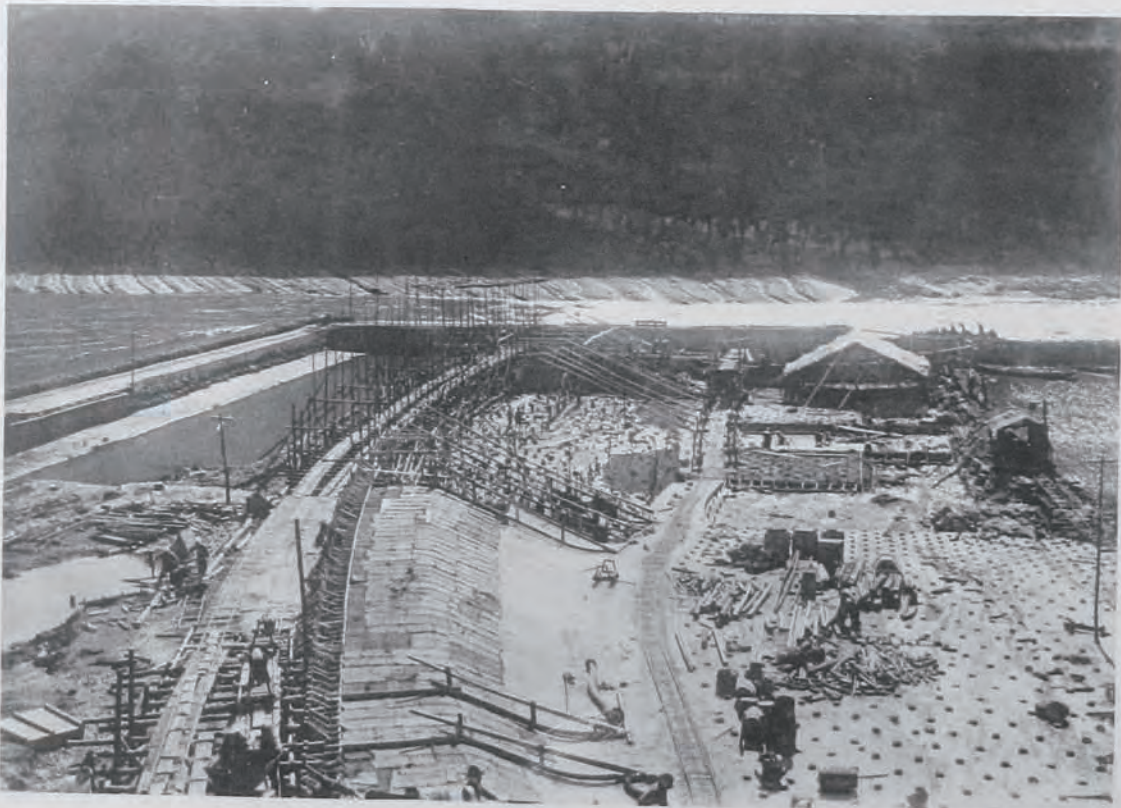
(30) 信濃川補修工事可動堰基礎及水叩工事
 (新潟縣三島郡大河津村地先)
 昭和五年二月可動堰右半部基礎混凝土終了後更ニ左半部ヲ締切ル



(31) 信濃川補修工事固定堰

(新潟縣三島郡大河津村地先)

固定堰下流高水敷ノ崩壞箇所ヲ埋戻シ張石ニテ幅四十八米五ノ水叩ヲ補足ス



(32) 信濃川補修工事第二床固堰堤

(新潟縣三島郡寺泊町地先)

堰堤長百八十米ノ右半部施工中

昭和四年度直轄工事年報

總論

第一 治水事業

我國ハ古來水害多ク其損失價額モ年々數千萬圓ノ多キニ達スルヲ以テ政府ハ夙ニ治水ノ必要ヲ認メ河川ノ修築改良ニ努力セルコト久シ而シテ政府ガ始テ直轄工事ヲ施行シタル河川ハ淀川ニシテ其起工ハ實ニ明治七年五月ニ在リ次デ同八年六月利根川ノ工事ニ著手シ翌九年十一月ニハ信濃川ノ工事ヲ起シ同十一年三月ニハ木曾川、同十五年六月ニハ北上川、同年七月ニハ阿賀野川、同十六年八月ニハ富士川、同年十一月ニハ庄川、同十七年四月ニハ阿武隈川、同年七月ニハ最上川及筑後川、同年八月ニハ吉野川、同十八年三月ニハ大井川、同年六月ニハ天龍川ノ工事ヲ實施スルニ至リシガ是等十四河川ノ工事ハ専ラ低水工事及砂防工事ヲ施行シタリシモノニシテ明治十九年ニ至リ始テ淀川以外ノ河川ニ高水工事ヲモ併セ行フコトトシ夫々工事ヲ進行セシメタリ其後同二十九年四月ニ至リ法律第七十一號ヲ以テ河川法ヲ公布セラレタル結果、同法ニ依リ淀、筑後ノ兩川ニハ同年六月ヨリ高水防禦工事ヲ實施スル事トナリ續テ同三十年四月ニハ庄川、九頭龍川、同年九月ニハ利根川第一期工事、同三十九年四月ニハ遠賀川、同四十年四月ニハ淀川下流、吉野川、高梁川、信濃川分水工事、同四十一年一月ニハ利根川第二期工事、同四十二年四月ニハ同川第三期工事、同四十三年四月ニハ利根川支川渡良瀬川ノ改修工事ヲ施行スルニ至レリ然ルニ明治四十

三年ニ於テ全國各地方大水害ノ爲メ未曾有ノ悲慘事ヲ現出セルニ依リ政府ハ臨時治水調査會ヲ設ケ根本的治水ノ計畫ヲ樹立スル事トナリ同會ニ於テ決議シタル計畫豫算ヲ第三十七回帝國議會ニ提出シテ協賛ヲ得同四十四年度ヨリ該計畫通リ事業ヲ遂行スルニ至レリ右計畫ハ河川改修ト砂防トノ二工事トシ河川ノ改修ハ河川法ニ依リ國ノ直轄事業トシテ改修ヲ爲スベキ河川ヲ六十五河川ト定メ之ガ施行時期ヲ二期ニ區別シ改修ノ利益ヲ可成的全國各地ニ均霑セシメントスルモノナリ其河川名即チ左ノ如シ

第一期河川

利根川 信濃川 木曾川 淀川 九頭龍川
 吉野川 庄川 高粱川 遠賀川 北上川
 雄物川 荒川 阿賀野川 富士川 最上川
 神通川 岩木川 加古川 綠川 斐伊川
 (以上二十河川)

第二期河川

天龍川 阿武隈川 筑後川 那珂川 庄内川
 中川 手取川 矢作川 大和川 吉井川
 馬淵川 紀ノ川 大淀川 由良川 多摩川
 關川 米代川 鳴瀨川 久慈川 菊池川
 郷川 旭川 渡川 蘆田川 川内川
 相坂川 千代川 鶴見川 大野川 球磨川
 相模川 肱川 矢部川 狩野川 圓山川
 肝屬川 太田川(静岡) 豐川 白川 大分川

酒匂川 鈴鹿川 太田川(廣島) 名取川 仁淀川
 (以上四十五河川)

右ノ内第一期河川ハ大正十七年度迄ニ全部ヲ竣功セシメ第二期河川ハ第一期河川ノ工事期間内ニ調査ヲ行ヒ第一期河川改修工事ノ竣功ヲ俟テ改修ニ著手シ得ベキ準備ヲ爲スコトトシ又砂防工事ハ河川改修ノ計畫ニ伴ヒ直轄河川ノ流域ニ對シテハ國自ラ之ヲ施行スルヲ原則トシ地方行政廳ニ於テ施行スルモノニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與フルコトトセリ

以上ノ計畫ニ依リ明治四十四年度以降著々事業ノ進捗ニ努メタルモ大正二年度ニ至リ財政上ノ都合ニ依リ一部繰延ベノ不得止ニ至リタル爲メ第一期事業全體ノ完成年限ヲ一箇年度延長シ同十八年度迄ニ全部完成ノ事ニ變更シタルモ大正十年年度ニ至リ第一期河川中既ニ竣功セルモノ三河川ト竣功ニ近ヅケルモノ數河川ニシテ未著手ノモノハ斐伊、綠ノ二河川ニ過ギザリシ(後兩川トモ著工)ト一面ニハ河狀ノ變態、産業ノ推移等治水計畫上更ニ調査ヲ必要トシタルヲ以テ第二臨時治水調査會ニ於テ慎重審議ノ結果既ニ國ニ於テ施行中ノ河川竝ニ砂防工事ノ外ニ前記第二期河川其他ヨリ改修河川ヲ選定シ大正十一年度以降二十箇年度内ニ施工スルヲ適當ナリト認メ之レガ決定ヲ見タルモノ即チ左記河川是ナリ

- 鬼 怒 川(利根川支川) 小 貝 川(利根川支川) 信濃川上流(新潟縣下) 犀 川(信濃川支川)
- 野 洲 川(淀川支川) 木 津 川(淀川支川) 北上川上流 雄物川上流
- 最上川上流 天 龍 川 阿武隈川 筑 後 川
- 那 珂 川 庄 内 川 手 取 川 矢 作 川
- 大 和 川 吉 井 川 馬 淵 川 紀 ノ 川

總 論 (治水事業)

大淀川	由良川	關川	米代川
久慈川	旭川	渡川	蘆田川
川内川	千代川	鶴見川	大野川
相模川	肱川	狩野川	肝屬川
豐川	白川	大分川	酒匂川
鈴鹿川	太田川(廣島)	名取川	仁淀川
新宮川	安倍川	菊川	大井川
北川	常願寺川	小矢部川	黒部川
天神川	日野川	佐波川	那賀川
土器川	(以上五十七河川)		

右ノ内帝國議會ニ於テ改修スベキ繼續事業トシテ協賛ヲ經タルモノハ信濃上流天龍千代蘆田紀ノ筑後、北、旭、鬼怒、狩野、大淀ノ十一河川ナリトス

斯ノ如ク政府ハ銳意河川改修工事ニ努力セリト雖モ其改修區域ハ利害ノ關係極テ重大ナル部分ノミナルヲ以テ其上流又ハ支派川改修ノ如キハ自然之ヲ關係地方ノ經營ニ委ネザルベカラズ又第二期河川ノ改修ハ第一期河川工事ノ竣功後ニアラザレバ著手スル能ハザルノ狀況ナルモ比年洪水頻リニ臻リ損害甚大ナルヲ以テ政府ハ益河川改修速成ノ緊要ナルヲ認メ關係府縣ニ於テ根本的改修計畫ノ調査ヲ了シ工事ニ著手スルニ於テハ國庫財政ノ都合ニ依リ相當補助ヲ與ヘ且場合ニ依リ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルノ方針ヲ決定シ河川改良費トシテ大正六年度ヨリ江合、鳴

瀬兩川改修費中へ國庫ヨリ二分ノ一ヲ補助シ大正七年度ヨリ多摩川、千曲川(信濃川上流)ノ改修工事ニモ亦工費ノ半額ヲ補助シ且其事業ヲ直接施行スルコトトナリ尙翌八年度ヨリハ太田川、阿賀、阿武隈兩川ノ改修工事、同九年度ヨリハ圓山川ノ改修工事ニ對シ孰レモ半額ノ補助ヲ與へ且其工事ヲ全部直接施行スル事トナリシガ以上七河川トモ大正十二年度ヨリ他ノ河川ト共ニ直轄施行ノコトトナレリ又淀川改修工事ハ大正六年九月三十日及同年十月一日ノ大洪水ニ鑑ミ更ニ増補工事ヲ施行スルノ必要ヲ認メ大正七年度以降河川法第八條ニ依リ該工事ヲ直轄施行スルニ至レリ

第一期河川中既ニ完成ヲ告ゲタルモノハ筑後川、利根川第一期、淀川及同川下流、木曾川下流、庄川、遠賀川、九頭龍川ノ幹川及同支川日野川及足羽川、渡良瀬川(利根川支川)、信濃川、吉野川、高梁川ノ十流域ニシテ工事中ノモノハ利根川第二期及第三期(江戸川、中川ヲ含ム)、荒川、北上川、阿賀野川、最上川、江合鳴瀬兩川、雄物川、淀川、増補、多摩川、千曲川(信濃川上流)、加古川、神通川、岩木川、太田川(静岡)、阿賀、阿武隈兩川、圓山川、富士川、木曾川上流、斐伊川、信濃川上流(新潟縣下)、天龍川、千代川、蘆田川、紀ノ川、筑後川新工事、綠川、北川、旭川、鬼怒川(利根川支川)、大淀川、狩野川ト新ニ那賀川、大野川、渡川ヲ加ヘタル三十四流域ナリ而シテ右ノ内附屬物及水路維持工事トシテ實施中ノモノハ木曾川、淀川、利根、渡良瀬兩川、信濃川ノ五河川ナリ又各河川ノ水源保全タル砂防工事ノ竣成シタルハ吉野川及野洲川(淀川支川)ニシテ實施中ノモノハ淀川、富士川、桂川(淀川支川)、千曲川(信濃川上流)、鬼怒川(利根川支川)、神通川、常願寺川、手取川、揖斐川、舊木曾川支川、木津川(淀川支川)ノ十河川ナリトス

第一 港灣改良事業

港灣改良工事ニ關シテハ明治初年以來或ハ直轄工事ヲ起シ或ハ國庫補助ヲ與へ之ガ助成ニ努力シタリ

シガ時運ノ急進ト共ニ港灣問題ハ益重要ヲ加ヘタレバ明治三十三年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ港灣調査會ヲ新設シ港灣ニ關スル重要事項ヲ審議セシメタリシモ同會ハ同三十六年ニ至リ各種ノ調査會廢止ト共ニ一時廢絶シ其後同三十九年六月ニ至リ再ビ内務省ニ港灣調査會ヲ設置シ更ニ同四十年六月勅令第二百四十三號ヲ以テ港灣調査會官制ヲ定メラレ同會ニ於テ本邦ノ港灣ヲ三種ニ分チ第一ハ國ニ於テ修築スルモノ、第二ハ地方起工ノモノニ對シ國庫ヨリ相當補助ヲ與フルモノ、第三ハ地方ノ獨力經營ニ委ヌベキモノトニ區別シ即チ明治四十年十月同調査會ニ於テ第一種港灣トシテハ橫濱、神戸、敦賀、關門、海峽(下關、門司)ノ五港ヲ選定シ第二種港灣トシテハ東京、伊勢灣内ノ一港、大阪、鹿兒島、長崎、境、新潟、船川(土崎ヲ含ム)、青森、仙臺灣内ノ一港、其後伊勢灣内ノ一港トシテハ四日市港、仙臺灣内ノ一港トシテハ鹽釜港ヲ選定ス)ノ十港ト定メ又大正八年七月名古屋港ヲ同九年十月清水、那覇ノ兩港ヲ同十年六月若松、高松、今治、小松島、伏木、伊萬里ノ六港ヲ加ヘ更ニ昭和二年十月小名濱、細島、大分、浦戶、宮古、七尾、尾道、博多ノ八港ヲ選定シ同三年八月舞鶴港ヲ同四年七月酒田港ヲ同年十二月宇野、三角ノ兩港ヲ追加シ三十一港トナレリ而シテ右ノ諸港灣中敦賀港ハ明治四十二年七月起工シ大正三年三月竣功セシモ其後第二期修築工事ヲ行フノ必要ヲ認メ更ニ同十一年度ヨリ起工ス又關門海峽改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ起工シ又神戸港防波堤築造工事、同港修築工事、門司港修築工事、橫濱港維持工事ハ大正八年度ヨリ起工シ下關港ハ同十年度ヨリ起工セシガ其内神戸港防波堤築造工事、橫濱港維持工事ハ同十年度ヨリ各修築工事ニ包括セラレ何レモ目下工事實施中ナリ又鹽釜港修築工事ハ工費ノ二分ノ一ヲ補助セラレ同三年度ヨリ起工シ又新潟港ハ同三分ノ一ヲ補助セラレ同六年度ヨリ起工十四年度ニ於テ竣功シ長崎港ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同九年度ヨリ起工昭和二年度ニ於テ竣功シ清水港モ同率ノ補助ニ依リ同十年度ヨリ起工シ高松、境

ノ兩港亦工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十一年度ヨリ起工シ今治港ハ今治市施工ノ後ヲ承ケ同十二年
度ヨリ工費二分ノ一ヲ補助セラレテ續工シ小松島及鹿兒島ノ兩港モ同年度ヨリ起工シ伏木港ハ同十三
年度ヨリ土崎、小名濱、宮古、浦戸、七尾、尾道、舞鶴、博多ノ八港ハ本年度ヨリ大體同一ノ補助率ニ依リ起工シ夫々
工事實施中ナリ而シテ右補助港灣ノ工事ハ何レモ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行
セルモノナリ其外四日市港ハ明治四十三年度ヨリ、船川港ハ同四十四年度ヨリ、青森港ハ大正三年度ヨリ、
名古屋港ハ同九年度ヨリ、那覇港ハ同十年度ヨリ、大阪港ハ同十一年度ヨリ何レモ大體二分ノ一ノ補助ヲ
受ケ縣又ハ市ニ於テ工事ヲ施行シタルガ内青森港ノミ同十二年度ニ於テ竣功ヲ告ゲタリ
以上ノ港灣中既ニ完成ヲ告ゲタルモノハ敦賀港第一期、新潟港、長崎港、高松港ニシテ下關港モ本年度ニ於
テ竣功シ工事中ノモノハ關門海峽、鹽釜港、神戸港、門司港、橫濱港、清水港、敦賀港、境港、小松島港、今治港、鹿兒島
港、伏木港、土崎港、小名濱港、宮古港、浦戸港、七尾港、尾道港、舞鶴港、博多港ノ二十港ナリトス

第三 復舊及補修事業

大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル稀有ノ大震災ノ爲メ直轄事業其他ノ被リタル損害ハ多大ナルモ
ノニシテ之レガ焦眉ノ急ト爲シ河川復舊工事トシテハ利根川及渡良瀬川、荒川、多摩川、富士川ノ五河川流
域ニ對シ大正十二年及同十三年度ノ兩年度ニ於テ應急施行シ又砂防復舊工事トシテハ相模川及酒匂川、
早川、花水川、多摩川ノ五河川流域ニ對シ同十三年度以降十箇年度ノ繼續工事トシテ施行スルモノニシテ
既ニ河川工事ハ豫定ノ如ク之ヲ完了シタリ尙橫濱港ニ對シテハ同十二年度以降三箇年度施行ニ係リ其
費額ハ從來ノ橫濱港修築費ノ第三期工事ト共ニ橫濱港復舊及修築費トシテ施行スルモノニシテ其復舊

總

論 (復舊及補修事業)

工事ハ同十四年度ヲ以テ完了シタルガ故ニ震災復舊事業トシテハ砂防工事ヲ剩スノミトナレリ又大正十四年八月中旬ニ於ケル近來稀有ノ大出水ニ因リ利根川本流筋及派川江戸川支川渡良瀬川ノ被害ニ對シ大正十四、十五ノ兩年度ニ於テ之レガ復舊工事ヲ施行シタリ尙昭和三年八月初旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ因リ利根、渡良瀬兩川維持工ニ與ヘタル被害ニ對シテモ昭和三、四ノ兩年度ニ之レガ復舊工事ヲ要スルコトトナリ施行中ノ處本年度ヲ以テ其工ヲ竣ヘタリ又信濃川大河津自在堰ハ昭和二年六月下旬竝ニ同年七月上旬ニ於テ突如「ビイヤ」陥没ノ爲メ水量調節ノ機能ヲ失ヒタル影響トシテ大河津下流ノ本流及派川中ノ口川沿岸ノ灌漑ト航通トニ支障ヲ及ボシ之ガ應急工事ヲ施行セルト共ニ其復舊及附隨ノ諸工事ヲ施行スルコトトナリ其應急工事ハ同年度内ニ之レガ完成ヲ見タリ故ニ本事業トシテハ相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事竝ニ信濃川補修工事ノミナリトス

第四 本年度施行工事

本年度ニ於テ直轄工事ヲ施行シタルハ河川改良三十四、河川附屬物及水路維持四、砂防十、港灣改良二十一、復舊及補修三、合計七十二工事ニシテ何レモ本省直轄ノ下ニ東京、横濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、神戸、下關ノ八土木出張所ニ於テ工事施行ノ任ニ當レリ而シテ是等ノ總工費豫算ハ河川改修工事費四億八百十七萬二千八百四十五圓、河川附屬物及水路維持工事費九百七十三萬七千三百圓、砂防工事費一千二十二萬九千二百三十八圓、港灣改良工事費一億三千五百三十九萬二千六百六十圓、復舊及補修工事費九百三十二萬五百圓、合計五億七千二百八十四萬二千五百四十三圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功額ヲ累算スレバ三億四千九百九十七萬六千七百二十三圓ニ達シ其内本年度ノ竣功ニ屬スルモノ二千八百九十五萬五千九百九十四

圓ナリトス而シテ本年度未竣功歩合ハ河川改良工事費ハ其總工費ノ六割一分ニ當リ河川附屬物及水路維持工事費ハ同五割三分、砂防工事費ハ同四割七分、港灣改良工事費ハ同五割八分、復舊及補修工事費ハ同六割二分ニシテ各工事ヲ通シタル竣功歩合ハ同六割ニ當レリ

今以上ノ工事費ヲ各工事ニ區別シ更ニ其工事ノ著手順ニ依リ列記スレバ左表ノ如シ但シ前年報ニ比シ差違アルハ工事費豫算ヲ改訂セルモノアルト、竣功セルモノヲ除キ新規著手ノ分ヲ加ヘタル等ニ因ル但シ淀川流域砂防工事ノ竣功高工費豫算額ヨリ超過セルハ本年度ニ於テ計畫期限滿了トナリシモ尙急施ヲ要スル箇所ニ對シ續工スルモノナルヲ以テ豫算額改訂スベキ筈ナルモ其増額詮議中ニ係リ未決定ナルガ故ナリ又表中「□」ハ管理者負擔額、「○」ハ縣負擔額、「▲」ハ提供材料及勞力費、「■」ハ寄附物品評價額、「●」ハ千住機械工場委託製作品價額、「●」ハ依託工事費、「*」ハ超過額ヲ示ス

河川改修工事	工事名	擔當出張所	工費豫算	竣功			合計	殘高		竣功歩合
				前年度迄竣功高	本年度竣功高	合		高	高	
利根川改修工事	東京	東京	六三、四〇三、一一八	六二、三六二、一八四	六、二五七、九四四	六二、九八七、九二八	四一、五二〇、六	四一、五二〇、六	六四・九	
荒川改修工事	東京	東京	五四、七七四、〇〇〇	四四、四五五、九七三	一、六九一、〇七二	四六、一四七、〇四四	三、一九一、八九二	八六、二六、九五六	〇・八四	
北上川改修工事	仙臺	仙臺	一四、三三二、〇〇〇	二、五八三、二〇四	六〇八、七八七	三、一九一、八九二	一、三〇一、九七九	一、三〇一、九七九	〇・九一	
阿賀野川改修工事	新潟	新潟	一一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇五一、二八〇	五九八、〇〇八	一、一〇八、二八八	五七五、六四三	八九、一七二	〇・九三	
最上川改修工事	新潟	新潟	一四、八五〇、〇〇〇	八、三〇六、一四四	一、三〇二、四四七	九、六一一、三六二	五、七三七、六三九	五、七三七、六三九	〇・六一	
江合、鴨瀬兩川改修工事	仙臺	仙臺	一〇、一五四、〇〇〇	三、四七二、九六〇	七〇〇、〇一九	四、一七二、九七九	三六、五五七	五、九八一、〇二二	〇・四一	
雄物川改修工事	仙臺	仙臺	一一、五〇〇、〇〇〇	六、二五四、四〇九	四〇八、七五五	六、六六三、一五九	三五、二一九	四、八三六、八四一	〇・五八	

總論 (本年度施行工事)

河川		工事名		工費豫算		竣功高		高計		殘高		竣功	
河川	工事名	出張所	擔當	工費豫算	前年度迄竣功高	本年度竣功高	合	高計	殘高	竣功	高計	竣功	
淀川	改修増補工事	大阪	大阪	一四、三五七、四七七	一、九八三、六〇一	九二七、九三三	一、三、九二一、五三四	四三五、九四三	〇・九七	〇・九七	一、三、九二一、五三四	〇・九七	
多摩川	改修工事	東京	東京	七、五二二、〇〇〇	一、六八八、三三三	一、〇〇〇、二六八	一、七、五二二、〇〇〇	八二〇、三〇五	〇・八九	〇・八九	一、七、五二二、〇〇〇	〇・八九	
千曲川	改修工事	新潟	新潟	一一、七〇九、〇〇〇	二、八七九、四一六	三、三六五、九五三	一、一、〇八四、三六九	三、三六五、九五三	〇・五六	〇・五六	一、一、〇八四、三六九	〇・五六	
加古川	改修工事	大阪	大阪	六、〇三〇、〇〇〇	七、二六七、〇一九	四、四七五、七七五	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・八七	〇・八七	一、一、〇八四、三六九	〇・八七	
神通川	改修工事	新潟	新潟	九、〇七二、五〇〇	五、〇〇一、一九二	二、八、六二五	五、〇〇一、一九二	三、〇七五、二五八	〇・六六	〇・六六	五、〇〇一、一九二	〇・六六	
岩木川	改修工事	仙臺	仙臺	一〇、三五〇、〇〇〇	一、九三七、八八三	一、六九三、六四一	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・八〇	〇・八〇	一、一、〇八四、三六九	〇・八〇	
太田川	改修工事	名古屋	名古屋	四、七八三、〇〇〇	三、五一一、七三二	三、〇〇七、九〇七	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・八〇	〇・八〇	一、一、〇八四、三六九	〇・八〇	
阿賀川及阿武隈川	改修工事	仙臺	仙臺	一三、七二〇、一五〇	六、八五二、八三〇	五、九一一、四三〇	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・五四	〇・五四	一、一、〇八四、三六九	〇・五四	
圓山川	改修工事	大阪	大阪	五、九一一、〇〇〇	三、四二〇、二四四	三、〇〇八、三三九	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・六六	〇・六六	一、一、〇八四、三六九	〇・六六	
富士川	改修工事	東京	東京	一一、八六五、〇〇〇	五、四九五、五九九	三、〇八七、七八一	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・五二	〇・五二	一、一、〇八四、三六九	〇・五二	
木曾川上流	改修工事	名古屋	名古屋	二四、三二四、六〇〇	六、六六四、五二七	六、九一五、五五七	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・三五	〇・三五	一、一、〇八四、三六九	〇・三五	
斐伊川	改修工事	大阪	大阪	六、〇六〇、〇〇〇	一、二三四、四九二	一、八一六、五三三	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・三六	〇・三六	一、一、〇八四、三六九	〇・三六	
信濃川上流	改修工事	新潟	新潟	六、四八〇、〇〇〇	一、九六一、三六八	一、五三三、九二八	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・三〇	〇・三〇	一、一、〇八四、三六九	〇・三〇	
天龍川	改修工事	名古屋	名古屋	六、四八〇、〇〇〇	一、二九七、七八八	一、四一〇、六九九	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・二七	〇・二七	一、一、〇八四、三六九	〇・二七	
千代川	改修工事	大阪	大阪	五、五四五、〇〇〇	一、六一一、二九八	一、五七九、九三五	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・四〇	〇・四〇	一、一、〇八四、三六九	〇・四〇	
蘆田川	改修工事	大阪	大阪	五、五四五、〇〇〇	一、二九六、二七四	一、五二五、一七〇	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・三三	〇・三三	一、一、〇八四、三六九	〇・三三	
紀ノ川	改修工事	大阪	大阪	四、六〇〇、〇〇〇	一、一九八、五八一	一、二〇三、五四四	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・三〇	〇・三〇	一、一、〇八四、三六九	〇・三〇	
筑後川	改修工事	下關	下關	一一、三二〇、〇〇〇	二、五八六、七七八	四、五六六、六九九	一、一、〇八四、三六九	一、一、〇八四、三六九	〇・二八	〇・二八	一、一、〇八四、三六九	〇・二八	

砂防工事		河川水路		及物屬附		工事	
常願寺川流域砂防工事 新瀉 二七三六、〇〇〇	神通川流域砂防工事 新瀉 二七六、八三八	東瀧川流域砂防工事 東瀧 六六四、五〇〇	新瀧川流域砂防工事 新瀧 二七六、八三八	大坂 六九〇、〇〇〇	東瀧 一、四〇一、〇〇〇	大坂 九六、〇〇〇	東瀧 七五六、六〇〇
桂川流域砂防工事 大坂 九六、〇〇〇	千曲川流域砂防工事 大坂 九六、〇〇〇	鬼怒川流域砂防工事 大坂 七五六、六〇〇	利根川流域砂防工事 大坂 六六四、五〇〇	信濃川維持工事 大坂 二七三六、〇〇〇	信濃川維持工事 東瀧 六六四、五〇〇	信濃川維持工事 大坂 二七三六、〇〇〇	信濃川維持工事 東瀧 六六四、五〇〇
淀川流域砂防工事 大坂 六九〇、〇〇〇	富士川流域砂防工事 大坂 一、四〇一、〇〇〇	淀川流域砂防工事 大坂 九六、〇〇〇	淀川流域砂防工事 大坂 七五六、六〇〇	信濃川維持工事 大坂 二七三六、〇〇〇	信濃川維持工事 東瀧 六六四、五〇〇	信濃川維持工事 大坂 二七三六、〇〇〇	信濃川維持工事 東瀧 六六四、五〇〇
綠川改修工事 下關 四、〇〇〇、〇〇〇	北川改修工事 下關 二、三六〇、〇〇〇	旭川改修工事 大坂 八、〇〇〇、〇〇〇	鬼怒川改修工事 大坂 一四、五〇〇、〇〇〇	大淀川改修工事 大坂 六、五〇〇、〇〇〇	狩野川改修工事 大坂 六、三三〇、〇〇〇	那賀川改修工事 大坂 六、〇〇〇、〇〇〇	大野川改修工事 大坂 七、五〇〇、〇〇〇
渡川改修工事 神戶 七、五〇〇、〇〇〇	神戶 六、〇〇〇、〇〇〇	下關 六、〇〇〇、〇〇〇	神戶 六、〇〇〇、〇〇〇	神戶 六、〇〇〇、〇〇〇	神戶 六、〇〇〇、〇〇〇	神戶 六、〇〇〇、〇〇〇	神戶 六、〇〇〇、〇〇〇
小計(三四) 四〇八、一七二、八四五	小計(三四) 四〇八、一七二、八四五	小計(三四) 四〇八、一七二、八四五	小計(三四) 四〇八、一七二、八四五	小計(三四) 四〇八、一七二、八四五	小計(三四) 四〇八、一七二、八四五	小計(三四) 四〇八、一七二、八四五	小計(三四) 四〇八、一七二、八四五
大坂 六六六、九八二 三二、七七	東瀧 一、二二四、〇九六	東瀧 七六、八〇〇	東瀧 六、三三三、二二三	東瀧 二、二二三、八〇一	東瀧 二、二二三、八〇一	東瀧 二、二二三、八〇一	東瀧 二、二二三、八〇一
大坂 二、八二、〇三六	東瀧 二、九二、二二二	東瀧 二、一、四〇九	東瀧 六、四八、一九三	東瀧 三、三三、一七	東瀧 三、三三、一七	東瀧 三、三三、一七	東瀧 三、三三、一七
大坂 八二、八三〇	東瀧 五、四七、七〇六	東瀧 一、二六、四九五	東瀧 一、四三七、四〇二	東瀧 五、八八、八五二	東瀧 五、八八、八五二	東瀧 五、八八、八五二	東瀧 五、八八、八五二
大坂 三、一七七、一七七	東瀧 一、八四、五、二九四	東瀧 七、八七、三五五	東瀧 一、三〇、六二、五九八	東瀧 五、九一、一、四八	東瀧 五、九一、一、四八	東瀧 五、九一、一、四八	東瀧 五、九一、一、四八
大坂 〇、二二	東瀧 〇、三三	東瀧 〇、〇二	東瀧 〇、一〇	東瀧 〇、〇〇	東瀧 〇、〇〇	東瀧 〇、〇〇	東瀧 〇、〇〇

總論 (本年度施行工事)

工 良 改 灣 港	事 工 防 砂		工 事 名	擔 當 出 張 所	工 費 豫 算	竣 功 高			殘 高	竣 功 合 計	
	小	計(〇)				前年度迄竣功高	本年度竣功高	合 計			
關門海峽改良工事			下關		一、三八五、三〇一	▲	一、三、一八二、七五四	▲	一、三、六九一、七九〇	一、六六二、八〇八	〇・九二
鹽釜港修築工事			仙臺		五、一五二、八一四	▲	四、一三三、二八六	▲	四、五二六、〇六六	六、二六七、四四八	〇・八八
神戶港修築工事			神戶		三、四、九七二、八〇一	▲	二、四、五七二、二二七	▲	二、六、四六七、二四〇	八、五〇五、五六一	〇・七六
門司港修築工事			下關		五、五五二、九二〇	▲	四、四六六、五二八	▲	四、九三三、三四九	六、二九一、五七一	〇・八九
橫濱港修築工事			橫濱		二、〇、三〇七、八〇〇	▲	八、〇五三、三七四	▲	九、三九二、六九六	一、〇、九一五、〇一四	〇・四六
清水港修築工事			橫濱		七、三六一、六六〇	●	五、五四四、〇八八	●	六、〇三八、五五一	一、三三三、一〇九	〇・八二
下關港修築工事			下關		三、一九五、六〇〇	▲	二、五四三、〇九三	▲	二、〇、九三一、四八八	二、六四一、一一二	一・〇〇
敦賀港修築工事			名古屋		三、一九〇、〇〇〇	●	三、六〇、四二一	●	二、五四五、八四二	六、四四一、五八	〇・八〇
境港修築工事			大阪		一、六九〇、一〇〇	▲	一、四五二、六七一	▲	一、六五五、三七〇	三、四七三、〇	〇・九七
小松島港修築工事			神戶		三、二四六、〇〇〇	▲	九二六、〇五四	▲	一、二五四、〇一三	一、九九一、九八七	〇・三九
今治港修築工事			神戶		二、八一七、〇〇〇	▲	一、八二四、四五六	▲	二、一五二、六五六	六、六四三、三四四	〇・七六
鹿兒島港修築工事			下關		二、七七三、八〇〇	▲	一、〇一四、一一九	▲	一、二八四、三三二	一、四八九、四四八	〇・四六
伏木港修築工事			新潟		四、六二九、一五四	▲	一、五二〇、四三六	▲	一、八四七、四六九	二、七八一、六八五	〇・四〇
土崎港修築工事			仙臺		二、三三〇、〇〇〇	▲	一、四、四二四	▲	一、四、四二四	二、三三三、五七六	〇・〇〇六
小名濱港修築工事			仙臺		三、六四〇、〇〇〇	▲	二八、五一四	▲	二八、五一四	三、六六一、四八六	〇・〇〇八
宮古港修築工事			仙臺		二、〇七〇、〇〇〇	▲	二四、三三二	▲	二四、三三二	二、〇四五、七六九	〇・〇〇一
浦戶港修築工事			神戶		四、一三〇、〇〇〇	▲	一九、一六一	▲	一九、一六一	四、一〇八、三三九	〇・〇〇五

總	事工修補及舊復		事	
	小	計(三)	小	計(二)
計(七三)	計(三)	計(二)	計(二)	計(二)
五七二、八四二、五四三	九、三一〇、五〇〇	一、三三〇、一、五九〇	一、三三〇、一、五九〇	一、三三〇、一、五九〇
三三三、〇二二、五二九	三三八、三四、二六五	七、一〇二、九、七二七	七、一〇二、九、七二七	七、一〇二、九、七二七
二八、九五五、一九四	一、九八四、一五七	一、四七五、五二五	一、四七五、五二五	一、四七五、五二五
三、四一、九七六、七三三	五、八一八、四二二	二、三九八、二七八	二、三九八、二七八	二、三九八、二七八
二、三三〇、八六五、八二〇	三、四九二、〇七八	二、一五二、七二二	二、一五二、七二二	二、一五二、七二二
〇・六〇	〇・六二	〇・五八	〇・五八	〇・五八

第五 竣功工事

直轄施行ニ係ル河川改修工事、砂防工事及港灣改良工事ニシテ昭和三年度迄ニ竣功シタル主要ナルモノヲ一括シ其竣功順ニ列記スレバ左表ノ如シ

河川改修工事	工 事 名	府 縣 名	著 手 年 度	竣 功 年 度	豫 算 高	竣 功 高
筑後川改修工事	福岡、佐賀	明治二十九年	明治三十六年	一、四八四、〇〇〇	一、四六八、〇三四	
淀川改修工事	大阪、滋賀、京都	同 二十九	同 四十二年	一〇、〇九四、〇〇〇	一〇、〇六二、一一三	
木曾川下流改修工事	岐阜、愛知、三重	同 二十	大正元年	九、四六四、三三八	九、四九九、三七三	
庄川改修工事	富山	同 三十三年	同 元	二、九九二、四三三	二、九七二、三三九	

總	港灣改良工事			砂防工事		河川改修工事					工 事 名	府 縣 名	著 手 年 度	竣 功 年 度	豫 算 高	竣 功 高	
	小	新	長	敦賀 港 修 築 工 事	小	吉野川 流域 砂防 工事	小	高梁川 改修 工事	吉野川 改修 工事	信濃川 改修 工事							渡良瀨川 改修 工事
計(七)	計(四)				計(三)			計(二)									
	香川	長崎	新	福	滋賀	德島	岡	德島	新	茨城、群馬、栃木	福	大	福	岡			
		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		同	昭和三十二年	大正十四年	同	大正十三年	同	同	同	昭和三十二年	同	同	同	同	同	同	同
10,109,750	7,833,707	22,000,000	2,490,000	2,342,107	600,000	1,500,000	9,305,539	7,926,087	1,270,162	2,354,950	2,400,000	5,550,000	3,755,000	4,831,000			
100,511,145	7,733,763	21,988,884	2,463,768	2,326,901	598,833	1,412,588	92,588,291	7,826,206	1,179,385	2,353,826	1,127,033	5,545,151	3,739,586	4,815,455			

第一章 河川改修工事

第一 利根川改修工事

緒言

本工事ハ明治三十三年度ヨリ昭和五年度ニ至ル三十一箇年度繼續事業トシテ總工費六千三百四十萬三千百十七圓ヲ以テ群馬縣佐波郡芝根村以下千葉縣海上郡銚子町地先海ニ至ル幹川二百籽及派川江戸川五十九籽竝ニ中川二十五籽合計二百八十四籽ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

本工事ハ當初工費五百八十一萬四千二百二十六圓ヲ以テ第一期工事トシテ下流部タル千葉縣佐原町以下海ニ至ル間及五十一萬六千圓ヲ以テ埼玉縣妻沼町以下海ニ至ル間ト江戸川流頭附近ノ低水工事ヲ明治三十三年度ニ著手シ同四十二年度ニ於テ第一期工事ハ一旦竣功(低水工事ハ大正十一年度竣功)シタリシガ先是八百二十一萬四千七百七十五圓ヲ以テ第二期工事トシテ茨城縣取手町以下佐原町間ヲ同四十年
度ニ著手シ續テ七百八十一萬一千九百十六圓ヲ以テ第三期工事トシテ其上流芝根村以下取手町間ヲ同四十二年度ヨリ著手シタリ然ルニ偶同四十三年ノ夏季ニ至リ稀有ノ出水ニ遭遇セシヲ以テ第一期、第二期及第三期ノ既定計畫ニ擴張ヲ加ヘ増工事ヲ施スノ必要起レルト派川江戸川ヲ改修スルノ得策ナルヲ認メタルニ依リ工費一千三百二十萬圓ヲ追加(工費合計三千五百五十五萬六千八百十七圓)シ大正八年度ヲ以テ竣工期限トシ工事實施中ノ處其後精確ナル調査ノ結果再ビ既定工費増額ノ必要ヲ生ジタルト江戸川改修工事ノ爲メ同支川庄内古川ノ流路ヲ遮斷シテ之ヲ中川ニ注流セシメ(庄内古川ハ中川ノ附帶工

事トシテ管理者ニ代リ國ニ於テ施行ス且中川ノ改修工事ヲ施行センガ爲メ同五年度以降工費七百三十八萬五千三百十五圓ヲ追加(工費合計四千二百九十四萬二千三百三十二圓)シ施行年限四箇年度ヲ延長シ同十二年度迄ニ竣功セシムルコト、ナリ引續キ施工中ナリシガ同三年度以來歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ諸物價及勞銀昂騰著シク爲メニ工費ニ不足ヲ生ジタルト第三期中川及低水工事ニ於ケル一部追加改修ノ必要ニ因ル工費トヲ合シ二千七十六萬八千二百圓ノ増額ヲ要セシガ十二年度以降ノ低水工事ハ利根、渡良瀬兩川維持工事ニ包含セララル、コト、ナリタルヲ以テ右低水工費ヲ控除シタル二千四十六萬九百八十五圓ヲ増額シ前記ノ如ク總工費ヲ六千三百四十萬三千百十七圓トシ竣功期限ヲ昭和二年度トセシモ其後更ニ同五年度迄延長セリ

河狀並計畫大要

利根川ハ流域面積一萬五千七百六十二平方糎ニシテ一府六縣ニ互リ流路總延長四千四百三糎(内幹川三百二十二糎)航路延長八百五十二糎(内幹川二百七十五糎)ニ及ビ特ニ派川タル江戸川ヲ經テ沿川各地ト帝都トノ聯絡ヲ有ス灌溉區域十一萬七千六百七十七ヘクタール(内幹川三萬三百十六ヘクタール)水害區域十三萬七千七十五ヘクタール(内幹川十二萬一千九十四ヘクタール)ニ上レリ
從來本川ノ最大洪水ハ約十年ニ一回ト稱セラレシガ近時著シク其度數ヲ増加シ明治二十三年、同二十九年、同三十一年、同三十五年、同三十九年、同四十年、同四十三年、大正三年等大水害頻ニ起リ以上八箇年ヲ平均スルモ實ニ一千四百七十八萬四千二百九十五圓ノ損害ヲ被レルノ狀況ニシテ最近非常ニ水害ヲ輕減セリト雖モ尙大正五年、同八年、同九年、同十一年及同十四年ノ五箇年平均水害損失額ハ五百十三萬四千五百

三十四圓ノ多キニ達ス而シテ是等ハ農作物及堤防等ノ損害ノミヲ算出シタルモノニシテ其間接ノ被害タル交通、商業、衛生等數字ニ計上シ得ザルモノニ至リテハ殆ンド測知スベカラザルモノアリ若シ夫レ權現堂ヨリ上流右岸堤ノ破壊ヲ見ンカ洪水帝都ヲ襲フニ至ルヲ以テ本川ノ水災關係ハ古來最モ重大視セラレタルモノナリ蓋シ洪水ノ原因種々アルベシト雖モ河狀不良ニシテ堤塘薄弱河積不足加フルニ漸次河床ノ埋没ヲ來シタルニ起因スルナラン乎因テ本計畫ニ於テハ本川ノ流量ヲ左ノ如ク定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルニ在リ

芝根村以下江戸川分流點ニ至ル

五、五七〇（支川渡良瀬川ノ流量ハ利根川
最高水位ニ影響ナキモノトス）

江戸川へ分流

二、二三〇

江戸川へ分流點以下鬼怒川合流點ニ至ル

三、三四〇

鬼怒川合流點以下海ニ至ル

四、三一〇（鬼怒川高水流量ノ内利根川最大高水流量ニ
影響スルモノヲ毎秒九百七十立方メートルトス）

堤防ハ右ノ流量ヲ標準トセル水位以上一米五乃至一米八ノ高サヲ保タシムルモノナリ元來毎秒五千五百七十立方メートルノ流量ハ本川ニ於テ五年乃至十年毎ニ襲來スル最大高水ヲ標準トセルモノナレドモ明治四十三年ノ洪水ノ如キハ毎秒六千九百六十立方メートルニ及ベルガ故ニ斯ノ如キ場合ニ處スルガ爲メ前記ノ流量ヲ標準トセル水位以上尙九十糎ノ増水ヲ見ルモノトシテ築堤ハ六十糎乃至九十糎ノ餘裕ヲ存セシムルコトトセリ

今各區域ニ就キ改修計畫ヲ述ブレバ第三期改修區域ニ屬セル上流芝根村字沼ノ上以下妻沼町間ハ急流部ニシテ高水勾配五百分ノ一乃至一千五百分ノ一、妻沼町以下境町間ハ緩流部ニシテ二千二百分ノ一乃至三千三百分ノ一、境町以下取手町間ハ鈍流部ニシテ五千五百分ノ一乃至一萬分ノ一ヲ有セシムルコト

トセリ而シテ其幅員ニ於テハ前記沼ノ上以下永樂村字赤岩ニ至ル間ハ利根川高原部ヨリ初テ平地ニ出
デタル部分ニシテ所謂汎濫區域ニ屬シ其河幅ハ廣大ニシテ砂礫ノ沈澱多ク洪水毎ニ流路ヲ變ジ舊堤ハ
斷續不同且河狀最モ險惡ノ部分タリ故ニ本改修計畫ニ於テハ大略現川ヲ中心トシテ五百四十五米ノ河
道ヲ設ケ法線内ハ掘鑿ヲ施シテ所要ノ断面ヲ與ヘ尙兩岸ニ三百六十四米ノ堤外地ヲ存セシメ遊水區域
トシ以テ危險性ノ河川ニ備ヘタリ然レドモ島村附近竝ニ尾島町字前小屋附近ハ屈曲甚シク流路モ數派
ニ岐レ所謂亂流區域ナルヲ以テ在來ノ河身ニ關セズ計畫法線ヲ定メ不規則ヲ匡正シ禍根ヲ斷ツコト、
セリ又中瀬村及明戸村大字石塚竝ニ秦村附近ハ所謂論所堤ヲ控ヘ數百年來水論絶ユルコトナキ箇所ナ
ルヲ以テ何レモ新堤ヲ築造シテ水害ノ根源ヲ絶ツコト、シ其結果福川吐口ニハ逆水樋門ヲ設置スルコ
ト、セリ

支川烏川ハ殆ンド幹川ニ直角ヲ爲シテ合流スルガ爲メ幹川ノ水流ハ八丁河原ニ衝突シ次デ八斗島ヲ襲
フノミナラズ烏川ハ幹川ノ爲メ流路ヲ支ヘラル、ヲ以テ幹川ノ河身ヲ左方ニ轉ズル様法線ヲ選定シ赤
岩以下福田村字三ツ堀間ハ五百四十五米ノ河幅ヲ標準トシ法線ヲ規定セルモ此區間ハ河狀比較的良好
ナルヲ以テ大體現川ニ依リ幅員ノ足ラザル部分ハ之ヲ擴張シ河積ノ足ラザル部分ハ掘鑿ヲ行ヒ河幅ニ
餘地アル部分ハ舊態ニ委ネ可及的河積ニ餘裕ヲ與フル計畫ヲ採レリ其結果左岸富永村、梅島村、千江田村、
新郷村字中田、靜村字塚崎、長須村、中川村字莚打、右岸井泉村、村君村、大越村、關宿町、川間村等各地先ハ何レモ
引堤ヲ爲スコト、セリ又派川權現堂川ハ分派點ニ於テ締切り專ラ赤堀川ヲ擴張シテ幹川ト爲シタリ
福田村字木ノ崎地先ハ中利根川中著名ナル狹窄部ニシテ河幅僅ニ百二十三米、河狀大屈曲ヲ成セルヲ以
テ新川ヲ開鑿スルコト、セリ

前記三ツ堀以下取手町間ハ宛然遊水地ノ如ク兩岸遠ク一千六百三十米乃至三千二百七十米ヲ隔テ、丘陵ニ依リ圍繞セラレ勾配極メテ緩ナルヲ以テ高水法線ヲ八百十八米ト定メ新堤ハ可成舊堤ヲ擴張シ遊水地ノ働キヲ減殺セザル方針ヲ採レリ又鬼怒川ハ幹川ニ直角ヲ爲シテ合流シ幹川ノ洪水ヲ支ヘ其排除ヲ阻ムコト大ナルヲ以テ吐口ヲ引下ゲ逆水ノ影響ヲ減少セシムルコト、セリ而シテ堤防高ハ計畫高水位上川俣鐵橋上流ハ一米八、其下流ハ一米五ト爲シ天端幅七米三、表裏二割法トシ川裏ニハ天端ヨリ一米八下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ夫レ以下三割法ト爲シ川裏ハ馬踏ヨリ四米五ニ下リテ相當前小段ヲ設ケルコト、セリ

第二期改修區域ニ屬スル取手町以下佐原町ニ至ル間ハ河幅五百四十五米ヲ標準トシテ河道ヲ規定セルモ布佐、布川、兩町間狹窄部ノ如キハ河幅ノ擴張ヲ許サザルニ依リ此部分ハ土砂ヲ浚渫シテ河積ヲ補フコト、シ取手町字片町、井野村字小堀間、生板村、大字藤藏川岸ヨリ支川長戸川合流點ニ至ル間及滑河町地先並金江津村、十余島村間、東大戸村川尻ヨリ同村飯島ニ至ル各箇所ハ孰レモ新川ヲ開鑿シテ河道ヲ改メ流心ヲ匡正シ派川將監川ハ締切リテ廢川ト爲シ長戸川ト幹川トノ合流點ニハ水門ヲ設ケ印旛沼ヘノ逆流ヲ遮斷シ又霞ヶ浦沿岸ノ汎濫ヲ防止スル爲メ支川横利根川合流口ニ閘門ヲ設置スル等ノ計畫ナリシガ明治四十三年八月ノ洪水ハ遙ニ同二十九年第一期、第二期共同年ノ出水ニ基キ流量每秒三千七百五十立方米トシテ計畫シタルモノノ水位ヲ超ヘタルヲ以テ既定計畫ヲ變更シ且追加スルノ必要ヲ生ジ洪水流量ハ之ヲ每秒四千三百十立方米ト爲スノ可ナルヲ確メタリ然レドモ既ニ施工中ノ築堤ハ動カシ難キモノアリ高水波ノ推移上既定河幅ハ之ヲ變更スルノ不得策ナルヲ認メ上流ヨリ豊住村迄ハ計畫高水位ヲ更ニ九十糎高メ夫レヨリ漸次低下セシメ下流佐原町附近ニ至リ從來ノ計畫高水位ニ合セシメ築堤ハ之

ヲ擴大シ下流第一期改修部内ハ約三十糶ノ嵩置ヲ施行スルコト、セリ又當初計畫ニ於テハ在來ノ堤塘ニシテ明治二十九年程度ノ出水ニ耐ユベキモノト認メタル所ハ其加工ヲ除キタレドモ追加計畫ニ於テハ之ヲ編入セリ即チ左岸取手町ヨリ金江津村ニ至ル間右岸我孫子町ヨリ木下町ニ至ル間及佐原町ヨリ津宮村ニ至ル間是ナリ要スルニ取手町以下小文間村ノ一部ヲ除キ總テ堤塘ヲ擴築又ハ新築連續セシメ遺ス所無カラシム又橋村、椎柴村間ハ第一期改修區域ノ下流ニ位スレドモ改良河川ニ伴フ河潮兩水ノ關係及大出水等ノ影響ニ依リ水路ニ淺所ヲ生ジタルヲ以テ此部分ヲ浚深シ佐原町地先即チ小支川小野川口ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スルコト、セリ

支川小貝川ハ當初其合流點ニ逆水門ヲ築設スルノ計畫ナリシガ其後調査ノ結果之ヲ廢止シ上流相馬町常磐線鐵道橋以下約七籽八ヲ改修スルコト、シ内上流半部ハ縣ノ施行ニ委ネ下流半部ハ國ニ於テ施行スルコト、ナレリ而シテ幹川堤塘ハ其高ヲ計畫高水位以上一米五ト爲シ天端幅五米五、表裏共二割法ニシテ川表ハ天端ヨリ二米川裏ハ一米八下リテ各三米六ノ小段ヲ設ク但シ川裏小段以下ハ三割法ト爲シ尙法先ハ約三米六ノ餘地ヲ存セシメタリ小貝川堤塘ハ表小段及川裏ノ餘地ヲ廢シタル外幹川堤塘ト同形トス

江戸川ハ茨城縣猿島郡五霞村山王地先ヨリ新川ヲ開鑿シテ利根幹川ヨリ分流セシメ其流頭ニハ床固工ヲ施シ洪水ノ流入ヲ規定シ尙低水路ニ開閉自在ノ洗堰ヲ設ケ其低水流量ヲ調節スルト共ニ高水流量ノ一部モ亦調節スルヲ得ザラシム蓋シ江戸川ノ最大高水流量ハ每秒二千二百三十立方米ナルヲ以テ其大部ヲ高水敷ヨリ放流セシメ殘餘ヲ低水路ニ據ラシムルコト、シ高水敷ニ於ケル流量ノ如何ニ依リ低水路ヨリスルモノヲ加減シ得ベカラシム低水時ニ於テ調節スルノ要ハ利根川ト江戸川トノ間ニ存セル既

往水位ノ關係ヲ改修後ニ於テモ尙保有セシメントスルニ外ナラズ又低水路ニハ閘門ヲ設ケ水運ノ便ニ資スルモノトス

江戸川河道ノ現状ハ甚シキ迂曲無ク大體良好ナルヲ以テ流末ヲ除ク他ノ部分ハ全ク現川ニ沿ヒ或ハ左岸ニ或ハ右岸ニ河幅ヲ擴張スルコト、シ堤防ハ多クハ舊堤ヲ利用シテ之ヲ増築シ又河床ヲ掘鑿シテ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ低水路ハ利根沿岸ヨリ帝都ニ通ズル航路トシテ河船ノ往來頗ル頻繁ナルニ依リ成ルベク從來ノ低水路ニ觸ル、ヲ避ケ堤外地高水敷ノ掘鑿モ亦低水位以上九十裡ニ止ムルモノトシ以テ所要ノ河幅ヲ定メタリ如斯ニシテ流頭ヨリ下流行徳迄ハ全然現川ニ沿ヒ改修ヲ加フルモ行徳以下ハ流路迂回スルヲ以テ稍直線ニ新川ヲ開鑿シテ高水ノミヲ海ニ注ガシメ現川ニハ航行及灌漑ニ必要ナル水量ヲ通ズルモノトス河幅ハ流頭以下川間村字金野井迄ハ二百五十五米、同所以下野田町迄ハ二百三十六米、以下海ニ至ル迄ハ四百米トス又堤防高ハ計畫高水位以上一米五ト爲シ天端幅ハ五米五、表法ハ右岸二割五分、左岸二割ニシテ川裏ハ天端ヨリ一米五下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ小段迄ヲ二割法、以下ヲ三割法トス

中川ハ埼玉縣松伏領村下赤岩以下東京府奥戸村上平井迄延長二十五籽ヲ改修スルモノニシテ地勢平坦ナルヲ以テ利根川其他ノ洪水ノ餘波ヲ被ラザル限リ本川自ラ水害ヲ起スコトナシト雖モ庄内古川外三惡水路ノ併合ニ依リ改修ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ是等ノ流量ヲ新タニ増加スルモ現在ノ高水位ヲ昂メズ且其沿岸ノ排水ニ惡影響ヲ與ヘザルコトヲ目的トス依テ現河底ヲ浚渫スルコト流心ニ於テ九十裡乃至一米五トシテ河積ヲ補充スルコト、シ只吉川町並潮止村地先ハ甚シク屈曲セルヲ以テ新川ヲ開鑿シテ直通河道ヲ設クルコト、ス河幅ハ元荒川合流點迄ヲ百二米トシ其下流ヲ百四十五米トセリ而シ

テ築堤ハ前記吉川町及潮止村新水路ノ兩岸ニ新設スル外ハ二、三箇所ノ引堤又ハ増築ニ止メ其他ハ大體舊堤ヲ其儘利用スルコト、セリ

庄内古川ハ江戸川右岸地方ノ諸惡水ヲ集メタル河川ナルガ江戸川改修ニ伴ヒ之ニ接觸セル十軒餘ノ附替ヲ要スルニ至レルモノナレドモ同川ニ併行施設スルヨリハ寧ロ近距離ノ中川ニ合流セシムル方水利上竝ニ工費節約上得策ナルヲ認メ且其上流權現堂川ニ注グ羽生領（一名島川ト稱ス）島中領及五霞村等三惡水路ノ改修ヲ要スルモノアルヲ以テ中川改修ノ附帶工事ト爲シ管理者ニ代リ國ニ於テ之ヲ施行スルコト、セリ

施工狀況

第一期工事ハ既ニ竣功セシヲ以テ茲ニハ目下施工中ノ第二期、第三期、江戸川及中川ニ於ケル工事ノ概要ヲ記述スベシ

第二期改修ハ明治四十年ノ創業ニ係リ同年七月以降佐原及安食ニ土地收用事務所ヲ設ケ所要土地ノ買收調査ニ著手シ次デ同四十二年度以降滑河、取手、木下、河原代ノ順序ニ同事務所ヲ増設シ大正三年度迄ニ前後九箇年度ヲ費シ殆ンド全部買收セシヲ以テ各事務所ヲ廢止セリ而シテ其後ニ於ケル追加買收ヲ合スルトキハ其總段別一千四百八十四町一段步餘、用地費二百九萬七千九百四十五圓トナレリ

工事施行ニ關シテハ第一期工事ニ使用シタル諸機械器具ヲ其儘充用シ得タレバ幸ニ施工準備ニ多クノ日子ヲ要セザリシヲ以テ明治四十二年一月佐原町及安食町ニ各工營所ヲ設ケ滑河町ノ上流ハ安食、同下流ハ佐原ニテ分擔施工セシガ大正二年四月兩所ヲ合併シ安食町ニ改修事務所ヲ置キ全區域ヲ統轄施工

スルコトトセリ其後年ト共ニ功程益々進捗セシガ同六年度以降漸次戰時ノ好景況ニ伴ヒ物價ノ昂騰ト勞力不足トニ依リ大ニ其功程ヲ妨ゲラレ又同十二年九月一日ニ於ケル大震災及同十四年八月竝ニ昭和三年八月ニ於ケル兩度ノ出水ニ因ル被害等相踵ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ不斷ノ努力ニ依リ豫定ノ功程ヲ擧ゲ得ルニ至リ本年度迄ニ築堤土量一千八百九十五萬七千四百二十二立方米、浚渫土量三千百三十八萬二十八立方米、護岸及水制延長三萬四千六百四米、特種工事三箇所、附帶工事直轄施行六十一箇所ヲ施工セリ

本年度ニ於テハ工事施行區域タル左岸茨城縣鹿島郡若松村右岸千葉縣香取郡橘村ヨリ上流取手鐵道橋ニ至ル間ニ於テ佐原、安食、取手、昭和四年九月三十日廢止ノ三工場ヲ置キ其下ニ若干ノ見張所ヲ設ケ築堤七箇所其土量七萬七千二百七十五立方米、浚渫五箇所其土量十四萬五千二百一十一立方米、(内機械浚渫一箇所其土量四萬九千九百三十立方米、人力掘鑿四箇所其土量九萬五千九百九十一立方米)及護岸水制十四箇所其延長一千八百十六米ヲ施工セリ而シテ使用機械ノ主ナルモノハ零立方米四積土運車四百臺、四疋五軌條三十籽、五立方米積工業船四十隻、人力杭打機五臺、手働捲上機四臺等ナリトス今各方面ニ於ケル施工ノ概況ヲ述ブレバ次ノ如シ

小見川町附近ハ第一期工事ニ於テ既ニ竣功セル堤塘ニ嵩置ヲ施行スル追加工事ニシテ左岸輕野、豐浦、大倉各村地先及津ノ宮、佐原間右岸笹川、森山、小見川、豐浦、大倉ノ各町村地先ハ孰レモ前年度迄ニ竣功ヲ告ゲ前年度起工ノ左岸輕野村高濱地先ハ本年度之ヲ續工シ馬匹運搬ニ依リ竣功セシメタルヲ以テ茲ニ第一期部内築堤嵩置工事ハ豫定通り完成セリ

佐原町附近ニ於テハ堤防沈下セル右岸佐原町字岩ヶ崎地先ニ嵩置工事ヲ施行シ馬匹運搬ニ依リ約其六

割ヲ終へ前年度起工ノ佐原町地先陸闌工事並ニ同地先機械浚深ハ孰レモ年度内竣功ヲ告ゲ本年度ニ於テハ佐原町字篠原、粉口、岩ヶ崎ノ三箇所ニ護岸及水制ヲ施工シ内篠原、岩ヶ崎ノ兩地先水制及篠原地先護岸ハ竣功セシモ粉口地先ハ未竣功ニ了レリ

東大戸村附近ニ於テハ同村川尻、飯島兩地先ニ各水制ヲ施工シ之ヲ竣功セシメタル外飯島及左岸十余島村六角地先ニ於テ人力掘鑿工ヲ施行シ内六角地先ハ竣功セシモ飯島地先ハ約七割ノ工程ヲ舉ゲ殘餘ヲ繰越セリ

安食町附近ニ於テハ二年度以來續工セル左岸生板村地先人力掘鑿工事ハ年度始メニ於テ之ヲ竣功シ築堤嵩置工事ハ前年度ヨリ繼續ノ左岸生板村及本年度起工ノ同金江津村中田川、右岸布鎌村中谷各地先三箇所ヲ施工シ内中田川地先ハ約八割ノ工程ヲ舉ゲシモ未竣功ニ終リ其他ハ全部竣功セリ又護岸工事ハ二年度起工セル左岸長竿村及前年度起工ノ同村田川、右岸安食町須賀、同村須賀新田各地先四箇所ヲ繼續施工シ内須賀新田一箇所ハ約五割ノ工程ヲ舉ゲ其他ハ全部竣功セリ

木下町附近ニ於テハ前年度起工ノ布川町新宿地先水制一箇所ヲ續工シ約七割ノ工程ヲ見ルニ至リ其他ノ諸工事ハ總テ竣功セリ

取手町附近ニ於テハ前年度起工シタル布川村押付新田地先築堤嵩置工事ヲ馬匹運搬ニ依リ又本年度起工ノ小文間村高野地先人力掘鑿ハ人力運搬ニ依リ孰レモ竣功ヲ告ゲ前年度起工ノ湖北村新木及本年度起工ノ取手町元宿兩地先水制ハ孰レモ年度内竣功シ流水ノ疏通頗ル良好トナレリ

第三期改修ハ明治四十二年度創業直ニ施行準備ヲ爲シ同四十三年度ニ於テ田中村、同四十四年度ニ稻戸井村ニ各工營所ヲ設ケ土地買收ニ關係ナキ箇所ヨリ先ヅ浚深工ヲ開始セリ而シテ所要土地ノ買收ハ同

年一月以降取手、木間ヶ瀬、栗橋、赤岩及境ニ各土地收用事務所ヲ置キ大正五年度迄約六箇年度ヲ費シ大部分ノ買收ヲ了リタルヲ以テ茲ニ各收用事務所ヲ廢止セリ而シテ其後ニ於ケル追加買收ヲ合スルトキハ總段別三千五百二十三町七段步餘ニシテ用地費五百九萬三千八百五十一圓トナレリ

本區域ハ計畫掘鑿土量四千五百七十六萬立方米、築堤土量二千七百五十一萬立方米ノ大土工ナルヲ以テ銳意機械ノ整備ヲ圖リ掘鑿機十六臺、機關車十七臺、浚渫船大小七隻、木造工業船二百十四隻、三十疋軌條約十五籽、十五疋軌條五十三籽、六疋軌條八十五籽、三立方米積土運車七百六十六臺、零立方米六積土運車二千三百三十八臺、其他附屬諸機械ヲ備ヘ漸ク準備成リタルヲ以テ大正元年度ニ至リ全區域ヲ三分シ田中、栗橋、尾島ニ各工區事務所ヲ設置シ專心功ヲ進メタル結果同六年度末ニ至リ略成功ニ近ヅキタルヲ以テ同七年五月前記三工區事務所ヲ合併シ栗橋町ニ第三期改修事務所ヲ置キ殘工事全部ヲ統轄施工スルコトトセリ而シテ主要工事ハ同十年度迄ニ殆ンド竣成セシニ依リ其後ハ護岸水制ヲ主トシ整理掘鑿及堤防補修等ヲ施行セリ然ルニ偶々同十二年九月一日ニ於ケル大震災及同十四年八月竝ニ昭和三年八月ニ於ケル兩度ノ出水ニ因ル被害等相踵ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ只管豫定ノ進捗ニ努メ本年度迄ニ築堤土運搬二千八百十一萬七千六百四十一立方米、浚渫土量四千六百十萬四百六十六立方米、護岸水制延長十萬九千四百七十四米、特種工事四箇所、附帶工事直轄施行六十八箇所ヲ竣成セリ

本年度ニ於テハ前年度未了ノ境町地先護岸ヲ續工之ヲ竣功セシメタルヲ以テ茲ニ利根川第三期ノ大工事モ本年度ニ於テ全部完成シ別途施行ノ維持工事ト相俟テ復々往年ノ慘害ヲ見ルコトナカルベシ左ニ各方面ニ於ケル施工ノ概要ヲ述ベシ

取手、境間ニ在リテハ築堤、掘鑿及附帶工事全部竣成シ兩岸ニ於ケル流水激衝箇所ハ護岸ニ依リ悉ク防禦セラルルニ至リ鬼怒川合流口及右岸福田、旭、川間、關宿並ニ左岸猿島各町村地先引堤箇所ハ床固水制ヲ施工シテ深掘ニ備フルト共ニ低水路ノ匡正ヲ計レリ

境、赤岩間ニ於テハ重要工事タル權現堂川締切、其他築堤、掘鑿及附帶工事等總テ竣功シ流水激衝部ハ新舊護岸ニ依テ悉ク防禦セラレ大箇野及對岸大越兩村地先ノ亂流箇所モ亦大ニ革マリ左岸千江田、梅島、富永、右岸村君等ノ引堤箇所ハ床固水制ヲ施工セシニ依リ深掘ノ跡ヲ絶ツニ至レリ

赤岩、沼ノ上間ハ築堤、掘鑿及附帶工事等總テ竣功シ護岸水制ハ水衝リ強キ箇所及低水路ノ新堤ニ接近セル所ハ悉ク防禦工ヲ了リ其延長舊護岸ヲ合スレバ正ニ全河岸ノ七割九分ニ達セリト雖モ利根川ノ急流部ナルヲ以テ左岸赤岩、古海、小島、大館、長沼、前河原、八斗島、沼ノ上右岸出來島、間々田、中瀬、仁手、山玉堂等ノ各地先ハ流水間斷ナク護岸ニ激衝シ脚部危險ナルヲ以テ更ニ根固及床固等増補ノ必要アルベシ

派川江戸川改修ハ大正二年度創業直ニ野田町及松戸町ニ各土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買收調査ヲ行ヒ良好ノ成績ヲ以テ同四年三月迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ了リ同月限り兩事務所ヲ閉鎖シ其後少許ノ追加買收ヲ行ヒ本年度ニ於テモ三段歩餘ヲ買收セリ其總段別一千七十八町八段歩餘、用地費三百三十六萬一千九百六十圓トナレリ

工事施行ニ關シテハ同三年十二月野田町ニ改修事務所ヲ設ケ直ニ築堤及掘鑿工事ニ著手シ同四年度以降漸次功程進捗セシガ同六年度以降戰時ノ影響等ニ妨ゲラレ其後同十二年九月一日ノ大震災及同十四年並ニ昭和三年ニ於ケル水害等相踵ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ不斷ノ努力ニ依リ幸ニ豫定ノ進捗ヲ見ルニ至リ本年度迄ニ築堤土量一千八百九十五萬七千四

百二十二立方米、浚渫一千六百九十五萬三千二百七十五立方米、護岸水制延長四萬七千三十六米、特種工事四箇所、附帶工事直轄施行四十箇所ヲ施行セリ、今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ築堤工事ハ前年度ヨリ繰越ニ係ル市川、松戸、流山、豊岡、關宿、五霞各町村地先六箇所及本年度起工セル篠崎、野田、七福、關宿各町村地先四箇所ヲ施工シ土運搬五萬三千九百立方米ヲ舉ゲ流山、豊岡、關宿、五霞地先四箇所ヲ竣功セリ

浚渫工事ハ前年度ヨリ續工セル小岩、行徳、關宿、五霞各地先人力掘鑿五箇所、行徳町地先機械掘鑿一箇所、機械浚渫一箇所及本年度起工セル篠崎村地先人力掘鑿一箇所、行徳町地先機械浚渫二箇所ヲ施工シ土量四十九萬三千百三十二米ヲ舉ゲ小岩、五霞兩地先ヲ除ク外全部竣成セリ

護岸水制工事ハ前年度ヨリ續行セル行徳町地先護岸一箇所其延長百九十一米、本年度起工セル行徳、三輪野江、五霞各地先水制三箇所其延長四百六十三米ハ孰レモ年度内之ヲ竣成セリ

特種工事ハ本年度著手シタル行徳町地先床固補修工事竣功シ前年度ヨリ引續キ施工ニ係ル五霞村地先關宿高水路床固及之ニ關聯セル中島築立ノ二工事ハ起工以來銳意工事ノ進捗ニ努メタル結果本年度ニ於テ漸ク完成ヲ告グルニ至レリ

附帶工事ハ前年度ヨリ續行セル豊岡村地先木津内樋管改築工事一箇所及本年度起工セル松戸町地先坂川排水機鐵管繼足竝ニ同町地先赤塚樋移築、豊岡村地先中島樋管ノ三工事竣功シ管理者施行ニ對シ國庫補助一萬七千三百二十圓ヲ交附セリ

中川改修ハ大正五年度創業直ニ測量調査等ノ施工準備ニ著手シ翌六年度ヨリ土地買收ニ關係ナキ部分ヨリ工事ヲ開始セリ而シテ土地買收ハ同八年九月新宿町ニ土地收用事務所ヲ設置シ買收調査ヲ遂ゲ同九年度迄ニ其大部分ヲ買收同十一年度ニ至リテ完了セリ其總段別百三町一段步餘ニシテ用地費六十一

萬八千四百三十五圓トナレリ

本工事ハ當初江戸川改修事務所ニ於テ施行セシガ同八年十一月府下南葛飾郡龜青村大字龜有ニ中川改修事務所ヲ設ケ同所ニ於テ施行スルコトニ改メ其下ニ工場及派出所等ヲ置キ銳意施工ニ努メ起工以來築堤土量三十萬二千四百四十六立方米、浚渫土量四百三十九萬七千八百二立方米、護岸延長四百八十米ヲ竣功セリ

附帶工事ハ直轄施行ニ係ルモノ六箇所ヲ竣成シ管理者施行ニ對シ國庫補助ヲ爲シタルモノ一萬一千三百七十三圓トナレリ

本年度ニ於テハ前年度起工ニ係ル高水敷床均掘鑿及堤防手入ヲ續工シ前者ハ二十九萬四千五百十八平方米、後者ハ二十九萬七千六百四十平方米ヲ竣成セリ

庄内古川外三惡水路附替工事ハ中川改修附帶工事ノ一ナレドモ其實中川改修促進ノ因トナリ且工事ノ規模大ナルヲ以テ其施工ニ相當準備ヲ要シ大正六年度ニ於テ幸松村ニ土地收用事務所ヲ設ケ所要土地ノ買收(管理者負擔)ヲ行ヒ翌七年度ヨリ工事ニ著手シ本年度迄ニ築堤土量八十三萬七千九百九十九立方米、堤防手入四十五萬五千五百五十平方米、浚渫土量二百六十二萬六百四十八立方米、橋梁架設二十四箇所、樋管新設八箇所、水路附替四箇所、堰二箇所及雜工事四箇所ヲ施行セリ

本年度ニ於テハ庄内古川低水路床均權現堂川及島川ヲ人力ニ據リ一萬三千立方米ヲ掘鑿シ築堤ハ現水路在來堤ノ手入ヲ行ヒ十九萬七千四百五十五平方米ヲ竣成セシメ雜工事ハ前年度ヨリ繰越セル橋梁一箇所、床固堤一箇所及本年度新ニ著手セル暗渠二箇所、護岸一箇所、村道橋一箇所ヲ施工シ孰レモ竣功セリ

以上施行ニ依リ中川ニ於ケル諸工事ハ昭和四年十月三十一日庄内古川外三惡水路附替工事ハ同年十一

月三十日孰レモ竣成ヲ見ルニ至レリ

本改修工事用諸機械器具ノ製作及修理ハ當初佐原次デ明戸、栗橋、取手、野田、松戸及龜有等ノ各地ニ獨立工場ヲ置キ之ニ當ラシメシガ事業ノ進捗ニ伴ヒ漸次閉鎖シ現在ニテハ規模ヲ縮少シ改修事務所々管ノ下ニ僅ニ事業ヲ續行セルモノ一、二アルノミトナレリ

本年度利根川改修工事總竣功高ハ六十二萬五千七百九十四圓ニシテ創業以來ノ累計ハ六千二百九十八萬七千九百十二圓トナリ之ヲ總工費豫算六千三百四十萬三千百十七圓ニ比較スルトキハ九割九分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「x」ハ材料採集費支辨石材及砂利價額「△」ハ船舶及機械費支辨製作品及評價品價額「○」ハ管理者負擔額「▲」ハ提供材料及勞力費ヲ示ス

費用目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	* 二五、〇八四、七七七 四、二三四、六三八七	七、〇六七、八六五 一、一八〇、二八〇	* 九四、一八一 三六、八九四	七、〇〇七、二 三、三八五	* 四二、二七九、〇五八 四、二三八、二八一	七、一四六、九三三 二、四六八、五五七	〇・〇〇
浚渫	* 一〇、八二二、三二一、四二四 一、一四四、六六〇、九	一、二、四九一、八九四 一、六六、八八五	* 六三、八、二五三	一、三五、二六七 五、四、二四一	* 一〇、八、八六九、六七七 一、一四四、六六〇、九	一、二、六二七、一六一 二、二二一、二四六	〇・〇〇
護岸水制	一八九、二四米	四、五五七、五八六 一、一四一、一七一	二、四八〇米	一、三三、二二三 六、三三九	一九一、五九四米	一、四、六六七、七〇九 一、四、五三三、九〇九	〇・九四
工事費	竣功 一價所 一五	△△x 二、四四九、六二七 二、八一一、一七 五、三五、一九六	竣功 一價所 一	△x 一、二、八八三 二、一九〇	竣功 一價所 一六	△△x 二、四六二、五〇九 五、三五、一九六 二、一、九六〇、九	一・〇〇
特種工事	竣功 一價所 一五	△x 二、四四九、六二七 二、八一一、一七 五、三五、一九六	竣功 一價所 一	△x 一、二、八八三 二、一九〇	竣功 一價所 一六	△△x 二、四六二、五〇九 五、三五、一九六 二、一、九六〇、九	一・〇〇
障害物除却	五三、一〇七 立方米	八、六九九	立方米	八、六九九	五三、一〇七 立方米	八、六九九	一・〇〇
材料採集費	六六、三五四 段	一、〇七八、九〇八	三段	二、一、五九一	六六、三五七 段	一、〇七八、九〇八	一・〇〇
用地費	六六、三五四 段	一、一七八六、一二四	三段	二、一、五九一	六六、三五七 段	一、一、八〇七、七一五	一・〇〇

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
附帶直轄施行	未竣工 一七八	二、一八三、五〇六	未竣工 一四	八、四一六、六三九	未竣工 一八二	二、二二一、一四六
工事管理施行	竣工 六四	一、三〇八、三六二	竣工 一	一、七三三、三〇〇	竣工 六五	一、三〇八、三六二
船舶及機械費		九、九三三、〇四〇		六、四八二、〇四二		一、三〇八、三六二
測量費		二〇七、四四〇		三、七三三、一		二、一〇一、五二七
營業繕費		七〇六、七二四		八、七五五、六二五		七、一五、四七九
雜費		五、一〇三、一五六		一、三三三、一八一		五、一〇三、一五六
亡失毀損		二、五一一、四一四		六、七三三、一		二、五一一、四一四
共濟組合給與金		五五八		五、四九七		五五八
低水費(諸費共)		六八八、七八五		五、四九七		六八八、七八五
總計		六、二二六、二一八		六、二二六、二一八		六、二二六、二一八

本表ノ竣工額(低水工費ヲ除ク)ヲ更ニ各改修別ニスレバ左ノ如シ

第一期改修

費目	竣工高		費目	竣工高	
	數量	金額		數量	金額
築堤	三、二一四、七〇六	五、一六、二二六	船舶及機械費	竣工 五	二、八七、七三三
本工	* 六九二、四三三	一、三〇八、三六二	費(管理施行)	竣工 五	四、二、六四八
歩合	一、〇〇	一、〇〇	歩合	一、〇〇	一、〇〇

費目	前年度迄竣工高			本年度竣工高			合計		
	數	量	金額	數	量	金額	數	量	金額
築堤	*	一四、九二四、六六〇 立方米	三三〇、二八、二八	*	七、七、二七五 立方米	四〇、五三〇	*	一五、〇〇一、九三五 立方米	三、〇六八、七五八
浚渫	*	三、九五五、四八七 立方米	二二、六四、二六	*	一四、五、一一	四〇、八二〇	*	三、九五五、四八七 立方米	二、四〇五、〇四六
護岸水制	*	二一〇、〇七〇、七二八 立方米	一、一七六、七七三	*	一、八一六	七〇、七七三	*	二一〇、〇七〇、七二八 立方米	一、二四七、五四六
特種工事		三二、七八八 米	一、五七六、七七三		一、八一六	七〇、七七三		三二、七八八 米	一、二四七、五四六
障害物除却		一七、二四四 立方米	三、六五五		一、八一六	七〇、七七三		一七、二四四 立方米	三、六五五
材料採集費		一四、八四一 段	二、〇九七、九四五		一、八一六	七〇、七七三		一四、八四一 段	二、〇九七、九四五
用地費		六、一	四、三、〇六五		一、八一六	七〇、七七三		六、一	四、三、〇六五
附帶直轄施行費		一、二	三、五、二五三		一、八一六	七〇、七七三		一、二	三、五、二五三
工事直轄施行費		一、二	九、三、七六〇		一、八一六	七〇、七七三		一、二	九、三、七六〇
船舶及機械費		一、二	一、四、七、一九九		一、八一六	七〇、七七三		一、二	一、四、七、一九九
測量費		一、二	三、六、〇、七八一		一、八一六	七〇、七七三		一、二	三、六、〇、七八一
營繕費		一、二	六、六、四、三〇		一、八一六	七〇、七七三		一、二	六、六、四、三〇
雜費		一、二	九、〇、二、七九		一、八一六	七〇、七七三		一、二	九、〇、二、七九
亡失毀損		一、二	一、三、五、九、五七〇		一、八一六	七〇、七七三		一、二	一、三、五、九、五七〇
合計			九			九			九

第二期改修

費目	前年度迄竣工高			本年度竣工高			合計		
	數	量	金額	數	量	金額	數	量	金額
特種工事		一〇、二六四 立方米	二、二五〇		一、〇〇〇	一、〇〇〇		一〇、二六四 立方米	三、〇〇〇
障害物除却		四、四六一 段	六、二、五、五二四		一、〇〇〇	一、〇〇〇		四、四六一 段	七、二、五、五二四
用地費		一、〇	四、八、七、一四		一、〇〇〇	一、〇〇〇		一、〇	五、八、七、一四
直轄施行費		一、〇	一、九、六、九		一、〇〇〇	一、〇〇〇		一、〇	二、九、六、九
總計			九			九			九

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
費目							
共済組合給與金		10,127		11,011		21,138	四分
總計		14,083,361		13,031,133		27,114,494	〇・九九

第三期改修

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	立方米 * 25,066,817	1,391,064	立方米 * 25,066,817		立方米 * 25,066,817		四分
浚渫	立方米 * 25,066,817	4,599,249	立方米 * 25,066,817		立方米 * 25,066,817		〇・〇〇
護岸水制	箇所 * 109,464	2,280,954	箇所 * 109,464		箇所 * 109,464		〇・〇〇
工事	箇所 * 109,464	6,330,000	箇所 * 109,464		箇所 * 109,464		〇・〇〇
特種工事	箇所 * 109,464	2,240,333	箇所 * 109,464		箇所 * 109,464		〇・〇〇
障害物除却	箇所 * 109,464	1,273,600	箇所 * 109,464		箇所 * 109,464		〇・〇〇
材料採集費	立方米 25,729	2,794	立方米 25,729		立方米 25,729		〇・〇〇
用地費	坪 35,337	5,093,851	坪 35,337		坪 35,337		〇・〇〇
附帶直轄施行	箇所 68	226,861	箇所 68		箇所 68		〇・〇〇
工事管理費	箇所 68	226,861	箇所 68		箇所 68		〇・〇〇
船舶及機械費		721,600					〇・〇〇
測量費		3,598,837					〇・〇〇
總計		14,083,361		13,031,133		27,114,494	〇・九九

江戸川改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		歩合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	* 一、三、八、六、二、一、八	二、一、〇、三、〇、七、五、四	*	一、七、〇、〇、〇、六	* 一、三、八、七、九、三、二、四	二、一、三、六、三、六、八	〇・九七
工浚	一六、四六〇、一四三	三、四、一、二、四、二、九	四九三、一三二	九、一、九、四、七	一六、九五三、二七五	三、五〇四、三、七、六	〇・九九
事護岸水制	四六三、八二二	一、〇、九、一、二、六、七	六五四	三、七、五、八、一	四七〇、三六六	一、〇、九、七、六、八	〇・八三
費特種工事	箇所三	一、三、七、八、二、四、七	箇所一	二、二、八、八、三	箇所四	二、〇、八、一、一、二	一・〇〇
材料採集費	一〇、七八四段	二、〇、三、〇、九、九	三段	二、一、九、〇	一〇、七八七段	四、一、八、三、一、四	
用帶直轄施行	箇所二	三、三、四、〇、三、六、九	箇所一	二、一、五、九、一	箇所三	三、三、六、一、九、六〇	
費工事	未竣功	一、五、三、一、八、一、二	未竣功	二、七、七、五、二	未竣功	三、四、一、五、六、四	
船及機械費	三、七	七、〇、五、七、六	一	四、一、三、三	三、八	七、九、五、三、二	〇・九七
總計		一九、二、九、四、四、九、〇		五、一、四、六		一九、二、九、九、六、三、六	一・〇〇
營繕費		一、九、三、九、四、八				一、九、三、九、四、八	
雜費		三、一、一、二				三、一、一、二	
亡失毀損		一、四、二、九、五、六、六		二、六、八、五		一、四、三、二、二、一、一	
共濟組合給與金		四、六、七		一、五、一		四、六、七	

第一章 河川改修工事 (利根川改修工事)

中川改修

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
測量費		四三、一〇〇七		一、〇三三		四四、一三四	劃分
營繕費		二六三、七八六		三、六〇五		二六七、三九一	
雜費		一、六四一		七、九二九		一、七五〇	
亡失毀損		一、六八一		八二		一、七六三	
共濟組合給與金		四三、七四六		二、九二八		四六、六七四	
總計		一七、八四三、五三〇		三七、二四四、〇一三		一八、二一五、九七〇	〇・九八

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	* 二、八五六、二七〇六 立方米	二、九三七二		五、二四九		三、四六二	劃分
工浚	四、三九七、八〇二	一、二五三、九六〇		二、五〇〇		一、二五六、四六〇	
事護岸水	四八〇米	一、一三三、三六〇				一、一三三、三六〇	
用地費	四八〇米	八、五九二				八、五九二	
附帶直轄施行	箇所 一、〇三一段	六、一八四、四三五				六、一八四、四三五	
工事管理施行	箇所 五	一、一六〇、〇五四		六、六八八、一五一		一、一六〇、〇五四	
船及機械費	二	一、〇四五、四五九		一、〇五三		一、〇四五、四五九	
測量費		八、一五三、〇〇		八、九七		八、一六二、九七	
總計		一七、八四三、五三〇		三七、二四四、〇一三		一八、二一五、九七〇	〇・九八

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費
▲□ 四、六二一、五八六 一、三七一、二五五	▲ 四一八、三八五 八三三	一六、〇三二	五二、四四三
▲□ 六二七、八九五 一、三二五、五五五	▲ 一一、三七六	四一七	四九二
▲□ 四、六四九、四八一 一、九七八、九〇一 一、三七八、二五五	▲ 四二九、七六一 八三三	一六、四四九	五二、九三五
一〇〇			

第二 荒川改修工事

緒言

本工事ハ分チテ上下流ノ二工事トス即チ下流工事ハ當初明治四十四年度ヨリ大正九年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費一千二百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ同五年度ニ於テ施行年限ヲ三箇年度延長ト共ニ總工費ヲ一千五百十萬圓ニ増額施行中ノ處同七年度以降歐洲大戰ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ同八年度ニ於テ七十四萬四千圓同九年度以降ニ於テ物價騰貴ニ因ルモノト追加設計ニ依ル工費トヲ合セ五百八十八萬五千圓同十年度以降二回ニ互リ七百四十一萬五千圓ヲ増額(工費合計二十九百十四萬四千圓トナル)シ施行年限ヲ昭和二年度迄延長セリ然レドモ新荒川下流部小名木川新交叉點ニ於ケル治水上竝ニ航通上ノ變遷ニ伴ヒ新タニ施設ノ要ヲ認メタルヲ以テ同二年度ニ於テ工費二百二十萬圓ヲ増額シ總工費ヲ三千百三十四萬四千圓ニ改メ施行年限ヲ同三年度迄トセシガ工事上ノ都合ニ依リ同四年度迄延長シ同年度ニ於テ財政緊縮ノ爲メ更ニ同五年度迄延長結局二十箇年度繼續事業トセリ其施行區域ハ左岸埼玉縣川口町右岸東京府岩淵町以下砂町地先海ニ至ル延長二十二軒四ナリトス上流工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費一千四百萬圓ヲ以テ施行中ノ處是亦戰時ノ影響ニ因リ當初ノ豫算ニテハ到底遂行シ能ハザルガ故ニ大正十二年度以降ニ於テ工費一千萬圓ヲ増額シ施行年限ヲ五箇年度延長セシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度ニ於テ更ニ五箇年度ヲ延長シ昭和十二年度迄二十箇年度繼續事業トセシガ財政緊縮ノ爲メ本年度ニ於テ工費五十七萬圓ヲ減額シテ總工費ヲ二千三百四十三萬圓ニ改メ施行スルコト、セリ

其施行區域ハ埼玉縣大里郡武川村以下同縣北足立郡川口町ニ至ル延長六十二軒三及支川入間川筋左岸同縣比企郡伊草村右岸同縣入間郡山田村落合橋以下荒川合流點ニ至ル五軒九同支川新河岸川筋同縣北足立郡新倉村地内ノ現在荒川合流點以下東京府岩淵町地先岩淵水門下ニ至ル新水路十一軒一ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ其流域埼玉及東京ノ兩府縣ニ跨リ面積凡三千百平方軒内支川入間川七百八十平方軒新河岸川三百四十平方軒流路延長百八十軒(外入間川九十八軒新河岸川二十八軒)ヲ有シ關東平野ノ中央ヲ貫流スルヲ以テ其概半一千六百平方軒ハ平坦ナル沃野ニシテ本川ニ因リ灌溉スル水田約一萬二千ヘクタールニ及ベリ出水ハ主トシテ夏季ノ豪雨ニ起因シ其流量頗ル大ニシテ出水急ニ減水緩ナルヲ以テ沿川地方ノ被害ハ年々巨額ニ上リ其上流改修區域ニ關聯スル部分ノミヲ舉グルモ水害區域實ニ五萬七千ヘクタールニ達シ無堤地ノ冠水ハ勿論或ハ堤防ヲ破壊シ冠水十數日ニ互レルノミナラズ決水ハ滔々トシテ武藏野ノ平野ニ漲リ東京市本所深川ト中川トノ中間ニ流下シ來リ時ニ利根川ノ汎濫ト合シ遂ニ帝都ヲ襲フコトアリ其水災關係ノ重大ナルハ推シテ知ルベキナリ

本川ハ源ヲ甲武信嶽ノ東坂ニ發シ諸所盆地ノ水ヲ集メ東流スルコト約六十軒埼玉縣秩父郡樋口村ニ至リ盆地東嶂ノ斷層谷ニ隨テ漸ク武藏平野ノ西北隅ニ出ヅ是ヨリ東流約三十軒ニシテ上流改修端武川村ニ至リ茲ニ兩岸漸ク平夷トナリ廣濶ナル川敷ヲ占有シテ亂流トナリ初メテ兩岸ニ堤塘ヲ見ル下リテ久下村附近ニ至レバ堤内ノ耕地却テ河床ヨリ低キ處アリ一朝破堤センカ洪水ハ元荒川筋ノ低地ニ奔流シ埼玉縣過半ノ平野ヲ浸シ餘勢遠ク東京附近ニ達ス吹上村ヲ過グルニ及ビ水流ハ漸ク其勢ヲ失ヒ低水路

ハ茲ニ一定シ幅員六七十米ヲ保ツモ高水敷ハ益々其幅員ヲ擴大シ平方町ニ至ル間廣キハ二千七百米、狹キモ尙一公里ヲ下ラズ而シテ低水路ニ沿ヒ別ニ畑圃ノ小堤ヲ設ケ小洪水ノ汎濫ヲ防ゲリ田間宮村以下左岸一帶ハ丘陵起伏シ浸水深ク内ニ及バズト雖モ右岸ハ比企郡一帶ノ低地ヲ控へ破堤ノ災厄ヲ被ルコト頻繁ナリ夫レヨリ平方町ニ入り入間川ヲ合シテ後ハ緩流トナリ迂曲益々甚シク低水路ノ幅員ハ九十米ナリト雖モ高水敷ハ愈濶ク一千百米乃至三千三百米ニ達ス是ヨリ以下兩岸共ニ堤防アレドモ右岸新河岸川合流點以下ハ武藏野ノ高丘近ク迫リ岩淵町ニ至ル間ハ概ネ無堤ナリ而シテ久下村以下幹川ノ堤外地ハ頗ル廣漠トシテ田園開ケ村落散在シ樹林畑圃等ヲ繞ラシ僅ニ一條ノ低水路ヲ通ジ恰モ原始的河川ノ状態ニ在ルヲ以テ遊水地トシテハ其效頗ル大ナリト雖モ高水ノ疏通ニ關シテハ支障尠カラザルナリ

河狀如斯ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ上流部ハ現在堤外遊水地ノ大勢ヲ保有セシメ其間深十分ナル水路ヲ開鑿シテ流水ノ疏通ヲ計ルト共ニ大ニ低水路ノ屈曲ヲ矯正シテ疏通力ノ増大ヲ計リ下流々量ノ調節ニ努メ下流部亦高水防禦ヲ目的トシ傍ラ水利ノ改善ヲ計ラントス依テ第一期計畫ニ於テハ利害關係ノ最モ重大ナル川口町鐵道橋以下砂町地先海ニ至ル二十二軒四ニ互リ現川ノ外ニ一大放水路ヲ開鑿シ高水ヲ流下セシメントスルニ在リ蓋シ本計畫ニ依ルトキハ帝都ヲシテ洪水ノ範圍外ニ立タシメ又現川(川口町以下)竝ニ其河口ニ於ケル主砂ノ沈澱ヲ輕減シ航路ノ改良ヲ企圖シ得ベキ外沿川人家櫛比ノ現川ニ改修ヲ施スノ不利ヲ避ケ得ベケレバナリ

下流改修ノ計畫流量ハ每秒四千七百七立方米ニシテ尙非常出水ノ場合ハ每秒五千五百七十立方米ヲ流下シ得ルモノトシ該流量ノ内八百四十立方米ヲ岩淵町以下ノ現川ニ流下セシメ殘餘ハ新タニ開鑿セル

新川ニ放流セシム蓋シ現川ニ於ケル上記流量ハ新タニ築堤ヲ行ハズシテ汎濫ヲ見ルコトナク流下シ得ベキ適量タレバナリ

放水路トシテ開鑿セル新川ハ新荒川ト假稱シ川口町鐵道橋以下現川ノ左側ニ沿ヒ千住町ノ北端ヲ過ギ國有鐵道常磐線及私設鐵道東武線京成電車線等ヲ橫斷シ奥戸村ノ南端ニ至リ更ニ總武線ヲ橫斷シ之ヨリ一大彎曲ヲ爲シテ中川ニ併行シ砂町地先ニ於テ海ニ注ガシム其河幅ハ起點ヲ四百五十四米、河口ヲ五百八十二米トス

新荒川ニ依テ橫斷セラル、綾瀨川ハ新荒川ノ左側ニ沿ヒ中川ニ落シ中川ハ又新荒川ノ左側ニ沿ヒ海ニ注ガシム而シテ綾瀨川ヨリ隅田川ニ通ズル航路ト平井ニ於ケル舊中川ノ新荒川兩岸堤ニ依リ橫斷セラ、箇所及小名木川ヨリ江戸川ヲ經テ利根運河ニ通ズル航路ナル新川(船堀川)ノ新荒川兩岸堤ニ依リ遮斷セラル、處ニハ水門又ハ閘門ヲ設置ス又右岸岩淵町現川分派口ニハ水門ヲ設置シ平時ニハ平水量ヲ通ジ高水時ニハ規定ノ流量以內ヲ通ゼシム又必要ノ場合ハ同所ニ閘門ヲ設ケ如何ナル出水時ニ於テモ既往航行ノ便ヲ保タシメントス分派口以下ノ現川ハ一部附替ヲ要スル所アルモ大體舊態ニ依リ幅員ヲ上流部百九米、下流部百四十五米ト規定シ流路ニ修整ヲ加フルノ外上述ノ如ク築堤ヲ行ハズ新荒川ノ堤防ハ掘鑿土ノ處分上其體積ヲ大ニシ右岸堤ハ帝都ヲ防護スル關係上特ニ堅牢ヲ期シ天端幅十四米五、外法三割、内法二割ト爲シ天端ヲ下ルコト一米八ノ處ニ三米六ノ裏小段ヲ附ス天端高ハ計畫高水位以上約二米ヲ保タシメ非常出水時ノ場合ニモ尙一米内外ノ餘裕ヲ存セシム左岸堤ハ天端幅十米九ニシテ法及小段堤高等凡テ右岸堤ニ同ジ

綾瀨川堤防ハ天端幅五米五、天端ヨリ一米八下リニ一米八ノ裏小段ヲ附シ中川堤防ハ天端幅七米三ニシ

テ小段ヲ附セズ兩川トモ内外法何レモ二割トス

上流改修ノ計畫流量ハ每秒五千五百七十立方米ト定メ廣濶ナル遊水地ヲ有スル河狀ニ鑑ミ下流ニ至ルニ從ヒ遊水地面積ニ約比例シテ漸次遞減シ川口町鐵道橋下ニ至リ每秒四千七百七十立方米トセリ其高水位ハ既往ノ最大洪水タル明治四十三年及大正三年ノ水位ヲ標準トシテ新川ニ要スル河積ヲ算定セリ低水路ハ大體其現狀ヲ存置シ屈曲甚シクシテ水流ヲ阻碍シ河岸ノ維持困難ナル所若シクハ新高水敷ヲ別ニ選定シタル所ハ新タニ之ヲ開鑿ス其幅員ハ大體現狀ニ法リ入間川合流點ノ上流部ハ五十五米同下流部ハ七十米乃至九十米ト定メタリ

高水敷ハ大里郡久下村(右岸同郡市田村)以下田間宮村ニ至ル間ハ現低水路ヲ挾ンデ幅員三百米乃至四百五十米、田間宮村以下平方村ニ至ル間ハ低水路著シク曲折シ其兩岸高キヲ以テ新川ハ之ヲ左岸高臺沿ヒノ低地ニ移シ四百五十米ト爲シ東吉見村地先ニ於テ新堤ヲ築設スルノ部分ハ特ニ五百五十米ニ擴大セリ入間川合流點(平方町)以下ハ新川ノ幅員ヲ五百五十米ト定メ土合村(右岸宗岡村)ニ至ル間ハ大體現低水路ニ隨フト雖モ其間馬宮村附近ニ於テハ屈曲急ニシテ且河岸地高キヲ以テ左岸ノ低地ニ川敷ヲ選定シ土合村以下ニ於テハ低水路ノ屈曲愈々甚シク之ニ沿フテ適當ナル川敷ヲ索ムルコト難キヲ以テ堤外地ノ地形ニ從ヒ新タニ川敷ヲ選定シ笹目村以下ハ上流遊水地ノ調節ニ依リ流量著シク緩和サレ更ニ遊水地ノ必要ナキヲ以テ掘鑿ニ依リ十分ナル河積ヲ與ヘ河幅ヲ一定シテ五百五十米ト爲シ新堤ヲ築キテ川口町(右岸岩淵町)ニ至リ下流改修堤塘ニ接續セシム堤外ノ田圃及濕地ハ新高水敷ノ開鑿ニ依リ排水ヲ良好ニシ浸水ノ機會ト期間トヲ著シク減少セシムベシト雖モ猶溢水ノ流勢ヲ殺ギテ耕宅地ヲ保護シ流水ヲ河心ニ集注セシメンガ爲メ流勢ノ強弱、堤外地ノ廣狹等ヲ參酌シテ横堤ヲ適當ノ間隔ニ築設シ改修ノ

效果ヲ全フセントス

支川入間川ハ芳野村菅間地先ヨリ植木村ニ至ル間低水路ヲ抉ンデ幅員百八十米ノ高水敷ヲ低水位上一米八ニ掘下ゲ更ニ植木村ヨリ荒川幹川右岸新堤防ニ沿フテ長約五千米ノ新川ヲ開鑿シ出丸村舊堤突端ヨリ現在入間川ヲ締切リ幹川右岸堤ニ竝行セル瀨割堤ヲ設ケテ古谷村古谷上ニ於テ幹川ニ合流セシメ其逆流ヲ免レシム

支川新河岸川ハ現在ノ合流口ヲ遮斷シ荒川ノ新堤ニ沿ヒ新タニ河道ヲ開鑿シテ之ヲ導キ下流岩淵町地先岩淵水門下ニ於テ舊荒川ニ合流セシメ荒川ノ高水ト全ク絶縁シ逆流ノ患ヲ除キ同沿岸惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ併セテ水運ノ便ヲ増進セシム

堤防ハ大部分舊堤ノ擴築ニシテ在來無堤ノ部分及新タニ高水敷ヲ選定セル一部ニハ新堤ヲ築造ス堤形ハ兩者共天端幅七米五（入間川筋ハ六米五）兩法二割五分ニシテ天端高ハ計畫高水位上美谷本村附近ヨリ上流ハ一米八、同下流ハ二米一タラシメ天端ヨリ一米八下リテ川裏ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ小段上法ヲ二割トス横堤ハ天端幅六米乃至七米五、兩法二割ニシテ天端高ハ計畫高水位上約一米ト爲シ突端ハ十分ノ一勾配ヲ以テ高水敷ニ取リ付クルモノトス

施工狀況

荒川下流改修工事ハ明治四十四年度ノ創業ニ係リ直チニ所要土地ノ買收ヲ開始シ大正二年度ニ至リ一部買收済ノ箇所ヨリ工事ニ著手シ爾來致々トシテ工事ノ進捗ヲ圖リシモ用地買收未済箇所各所ニ點在セルノ外改修區域内ニハ常磐、東武、總武ノ三鐵道及京成電氣軌道ノ横斷セルアリ且帝都連互ノ樞要道路

無數ナルガ爲メ施行區域ヲ極限セラレ隨所ニ著手シ得ザリシガ其後用地買收ノ進ムニ隨ヒ漸次工事ノ進捗ヲ見ルニ至レリ然レドモ尙一部買收不承諾者アリシ爲メ是等ハ同五年十一月土地收用審査會ノ裁決ヲ求メ同六年五月其決定ヲ受ケ爾來銳意進工中同年十月一日竝ニ翌七年九月二十四日ノ二回ニ互リ暴風竝海嘯襲來シ船舶及機械器具ノ毀損又ハ流失ヲ見更ニ同十二年九月一日ニ於ケル大震被害等アリ之レガ爲メ事業ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ努メテ豫定ノ進工ヲ圖リ本年度迄ニ築堤土量一千百八十萬六千二百四十四立方米、浚渫土量二千二百九十萬六千九百五十二立方米、護岸水制延長一萬五千四百八十五米、特種工事七箇所、附帶工事ノ直轄施行十三箇所ヲ竣成セリ

高水調節ニ關シテハ大正十三年九月ノ出水ニ際シ初メテ岩淵水門ノ調節ニ依リ洪水ヲ新荒川放水路ニ流通セシメ同水門下流舊川ハ勿論上流部ノ水害ヲモ併セ輕減シ得タリ爾後數次ノ出水中昭和三年八月一日ノ如キハ明治四十三年以來ノ大出水ナリシモ同水門及芝川、綾瀬、隅田、中川、木下川等ノ各水門ノ開閉ト相俟テ其都度之ヲ調節シ本改修工事ノ偉大ナル效果ヲ實現セリ目下放水路ノ浚渫及護岸工事ヲ進メツ、アルヲ以テ完成ノ曉ニ於テハ高水ノ疏通頗ル良好トナリ其效果愈々大ナルモノアルヲ信ズ

工事施行ニ關シテハ明治四十四年度創業ニ際シ東京府下千住町ニ改修事務所ヲ設ケ其下ニ多數ノ工場及派出所ヲ置キ各工事ヲ施行セシガ現在ニ於テハ砂町、小名木川、岩淵ノ三工場及五派出所ニテ諸工事ヲ續行シ工事用諸機械器具ノ製作及修理ハ改修事務所隣地ニ千住機械工場ヲ置キ之ニ當ラシメタリ今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ

築堤工事ハ本砂町、砂町、葛西村及岩淵町各地先四箇所竝ニ綾瀬村地先柳原堤防補修ヲ前年度ヨリ續行シ新タニ中平井地先堤防補修ヲ起工セリ内竣功セルハ葛西村、柳原ノ二箇所ニシテ其他ハ六歩乃至九步通

リ進捗シ運搬土量二十六萬二千三百九十九立方米ニシテ延長二千百九十一米ヲ完成セリ

浚渫工事ハ前年度ヨリ繰越ノ砂町、中川右岸舊堤、吾嬬町（以上新荒川）松江町（新中川）尾久町（舊川）ノ各地先五箇所及新タニ起工セル葛西村（新荒川）地先ニ於テ鋤簾式及唧筒式浚渫船ヲ使用シテ土量七十四萬一千三百九十九立方米ヲ浚渫シ中川右岸舊堤、尾久町ノ二箇所ヲ竣成セシメ其他ハ八歩乃至九歩通竣功セリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繰越ノ砂町、葛西村、江北村、南平柳村、岩淵町及川口町（以上新荒川）新中川左岸堤端第一（新中川）ノ各地先ニ於テ十一箇所、新タニ起工セル砂町、松江町、小松川町、南綾瀬町、綾瀬村、江北村（以上新荒川）新中川左岸堤端（新中川）ノ各地先ニ於テ十一箇所、計二十二箇所ニシテ内十六箇所ヲ竣功シ葛西村、松江町、南綾瀬町、南平柳村、江北村、新中川左岸堤端ノ六箇所ハ五歩乃至八歩通リ進捗ヲ告ゲ延長六千二百八十八米ヲ完成セリ

特種工事ハ前年度ヨリ續行ノ小松川、船堀ノ二閘門及岩淵水門補修ノ外岩淵水門扉塵除補修ヲ起工シ内二閘門ハ各九歩通リノ進捗ヲ告ゲ其他ハ全部竣功セリ

荒川上流改修工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ先ヅ埼玉縣浦和町ニ土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買収調査ニ著手シ同九年十月事務所ヲ鴻巣町ニ移シ同十三年度迄ニ一千五百四十九町歩ヲ買収セリ其後事業縮少ノ爲メ一時事務所ヲ廢止セシガ下流改修工事ノ進捗ニ伴ヒ昭和二年度ニ於テ再ビ鴻巣町ニ事務所ヲ設ケ前年度迄ニ前後通計一千七百六十五町一段歩ヲ買収セリ然レドモ本年度ニ於テハ工費ノ都合上工事施行ニ支障ヲ來ササル程度ニ止メ僅ニ二十三段歩ノ買収ヲ以テ打切トナシ事務所ヲ改修事務所内ニ移轉セリ

工事施工ニ關シテハ大正九年一月荒川上流改修事務所ヲ入間郡古谷村ニ設ケ次デ其下ニ數箇所ノ工場

及派出所ヲ置キ先ヅ低水路ノ屈曲甚シク川敷ノ附替ヲ爲スベキ箇所若クハ掘鑿土量比較的多ク竣功ニ長年月ヲ要スル箇所ヲ選ビ下流部ヨリ順次上流ニ及ブ方針ヲ以テ同年度末ヨリ工事ニ著手シ掘鑿土砂ノ多クハ之ヲ兩岸築堤ニ利用シ一部ハ民地ニ捨土セリ斯クテ逐次工ヲ進メ本年度迄ニ機械掘鑿二十九箇所同浚渫一箇所人力掘鑿十九箇所築堤二十箇所及護岸七箇所ヲ施行シ内機械掘鑿二十一箇所同浚渫一箇所人力掘鑿九箇所築堤三箇所及護岸五箇所ヲ竣功セリ

本年度ハ前年度ヨリ繼續ノ機械掘鑿十三箇所人力掘鑿七箇所築堤十二箇所護岸一箇所竝ニ本年度起工ノ機械掘鑿三箇所人力掘鑿四箇所築堤五箇所護岸四箇所ヲ施行シ内機械掘鑿八箇所人力掘鑿一箇所及護岸三箇所ヲ竣成セリ而シテ起工以來ノ功程ハ浚渫土量一千八百十八萬四千七百六十三立方米築堤土量一千三百三萬七千五百四十五立方米護岸延長三千七百三米ニシテ計畫ニ對シ浚渫約六割三分築堤約四割五分護岸約一割ノ竣功ニ當レリ

使用機械ノ主ナルモノハ短梯鋤鏈型掘鑿機十臺、二十種機關車十一臺、蒸汽シヨベル型掘鑿機一臺、ドラグライン型掘鑿機一臺、三立方米積片側傾斜土運車九百三十臺、三立方米六積兩側傾斜土運車四十九臺、零立方米六積土運車九百十二臺、三十疋軌條十五籽(二本併列)、二十疋軌條四籽(二本併列)、十五疋軌條六十五籽(二本併列)、六疋梯型軌條四十五籽、工業船大小六十八隻、易搬機關七臺、離心動唧筒七臺等ニシテ是等機械ノ修理及小製作ハ古谷村ニ機械工場ヲ戸田村ニ其分工場ヲ置キ各之ニ當ラシム

左ニ地方別施工ノ概況ヲ述ベシ

川口町ヨリ笹目村ニ至ル間ハ其區間ノ彎曲甚シキ低水路三箇所ヲ短縮スル新水路附替工事ハ曩ニ竣功シ横曾根村地先流路ハ約二分ノ一ニ戸田村地先ハ約三分ノ一ニ笹目村地先ハ約八分ノ五ニ短縮セラレ

高水敷掘鑿ハ横曾根、戸田、笹目、赤塚、岩淵、志村ノ各地先ニ於テ施工シ前年度迄ニ殆ンド竣功ヲ告ゲ本年度著手セル赤塚地先ハ其二割四分ヲ戸田新曾兩地先ハ全部竣功シ新水路ノ開疏ト相俟テ流水ノ疏通著シク佳良トナレリ

築堤ハ左岸横曾根村地先ニ於ケル舊堤擴築ヲ除キ他ハ凡テ新築ニシテ前年度迄ニ左岸横曾根、戸田、笹目、右岸浮間、戸田、赤塚ノ六箇所施工中笹目、浮間、赤塚ノ三箇所ヲ竣功シ横曾根及兩岸戸田地先ハ本年度之ヲ續工シ其大半ハ竣功ヲ告ゲ新タニ著手セル岩淵町、志村兩地先ハ僅ニ一割ノ功程ニ過ギズ
護岸ハ戸田村大字新曾地先ノ在來低水路護岸ハ曩ニ竣功シ本年度起工セル浮間地先新低水路護岸モ亦年度内竣功セリ

美谷本村ヨリ土合村ニ至ル間ノ低水路ハ紆餘屈曲殊ニ甚シク所謂雜丹袋ト稱シ新ニ低水路ノ附替ヲ要スルモノ白子村地先、下内間木地先、新倉村地先及上内間木地先ノ四箇所アリシガ何レモ曩ニ竣功シ各流路ハ約二分ノ一乃至四分ノ一ニ短縮セリ高水敷掘鑿ハ白子、内間木、下内間木、美谷本、美女木、松本新田、及上内間木ノ各地先ニ於テ施工シ何レモ前年度迄ニ竣功ヲ告ゲ左岸土合村及右岸内間木、宗岡兩村地先ニ於ケル殘存部ハ本年度著手シ前者ハ二割、後者ハ一割ヲ竣成セリ尙下内間木地先高水敷ハ年々土砂堆積シ高水ノ疏通ヲ阻碍スルヲ以テ之レガ床均ヲ起工シ二割餘ヲ竣成セリ

右岸新倉村ヨリ上流ハ在來無堤地ニシテ且新河岸川合流シ其一帶ニ洪水汎濫スルヲ以テ此部分ニハ新堤ヲ築造スルコト、シ白子、内間木兩村地先築堤ハ既ニ著手セシモ未ダ完成セズ左岸舊堤ハ總テ擴築シ笹目村地先ニ於テ新堤ニ接續セシム其盛土ハ前年度迄ニ約八割ニ達シタルヲ以テ引續キ築立及芝付ヲ施工中ナリ此區間ノ廣大ナル遊水地ニハ四條ノ横堤ヲ築設中ニシテ一部盛土不足ノモノアレドモ本年

度ヨリ築立及芝付ヲ施工セリ

護岸ハ白子村地先新低水路ニ施工セルモノハ既ニ竣功シ本年度起工セル内間木村地先新低水路兩岸各一箇所ハ其大部分竣功セシモ木ダ完成セズ大久保村ヨリ馬宮村ニ至ル間ハ廣漠タル遊水地ヲ控ヘ堤塘ハ左岸大久保村ノ一部及右岸馬宮村地先ニ於ケル新設ヲ除キ他ハ全部舊堤擴築ニシテ大正十三年度以降續工シ左岸ハ馬宮村地先ノ一部及其下流新築部分ヲ殘シ概ネ竣功ヲ告ゲ右岸新築部分ハ其功程約九割ニ達シ南畑及宗岡兩村地先舊堤擴築部分ハ前年度末ヨリ築立及芝付ヲ施工シ約七割ヲ竣功セリ又横堤ハ左岸七箇所右岸三箇所アリ築立及芝付施工中ナリ

護岸ハ前年度起工ニ係ル新水路流頭右岸古谷本郷地先ヲ續行シ年度内竣功セリ

大石村ヨリ川田谷村ニ至ル間ハ左岸ハ丘陵相連リ其間ニ所謂山附堤防六箇所アリ内大石及川田谷兩村地先ノ擴築ハ用排水路ノ關係ニ依リ約其四割ヲ施工セシニ過ギズ右岸ハ廣大ナル遊水地ヲ抱ケル舊堤擴築ニシテ八ツ保村地先ハ昭和二年度出丸村地先ハ前年度ヨリ續工シ前者ハ約八割五分、後者ハ七割五分ヲ竣功セリ而シテ此區間ハ低水路ノ屈曲甚シキヲ以テ左岸丘麓ニ近ク新低水路延長三千五百七十米ヲ選ビ大正十一年度以降掘鑿ヲ續工シ低水路ハ機械掘鑿ニテ其全部ヲ高水敷ハ人力掘鑿ニ依リ約八割ヲ竣功セリ

田間宮村以下石戸村地先ニ至ル延長六千六百三十米ノ低水路附替工事ハ馬室及石戸兩地先延長三千五百八十八米ヲ昭和二年度ヨリ右岸小見野村地先高水敷ハ前年度ヨリ何レモ機械掘鑿ヲ續工シ前者ハ其四割、後者ハ七割ヲ竣功セリ

横堤ハ北吉見、東吉見ノ兩村地先ニ於テ三箇所ヲ築造スルコト、シ用土運搬中ナリ

新河岸川ハ現在合流地點ナル北足立郡新倉村地先ヨリ岩淵町地先岩淵水門下ニ至ル間ノ舊荒川利用部
分ヲ除キタル延長八千八百米ヲ開鑿シテ新水路ヲ通ズ其川敷幅六十三米六低水路九米乃至三十米九水
深一米七乃至二米八アリ大正十二年度ヨリドラグライン掘鑿機ヲ使用シ志村地先舊荒川利用部ヨリ著
手シ本年度迄ニ上流新倉村地先合流點ニ至ル延長五千七十三米及下流志村地先ニ至ル七百七米計五千
八百四十三米ヲ開鑿シ六割六分ノ功程ヲ見ルニ至レリ
本年度竣功高ハ上、下流ヲ通ジ百六十九萬一千七十二圓ニシテ創業以來ノ累計ハ四千六百十四萬七千四
十四圓トナリ之ヲ總工費豫算五千四百七十七萬四千圓ニ比較スルトキハ約八割四分ノ竣功ニ當レリ其
工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「△」ハ船舶及機械費支辨製作品價額「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ提
供材料及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	* 二〇、九三七、〇五六 立方米	一、二二五、七六六 圓	* 二、〇九三、九七九 立方米	一、二〇〇、六九五 圓	* 二二、〇三〇、〇三五 立方米	一、四三六、二九一 圓	〇・七六
浚渫	三九、一五三、五〇三	八、六五〇、八一三	一、九三八、二二二	四一六、二七五 圓	四一、〇九一、七二五	九、〇六七、〇八七	〇・七六
護岸	一〇、四九七	八五一、三一四	八、六九一	二七一、八九四	一九、一八八	一、一三三、二〇八	〇・五六
特種工事	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	〇・九五
用地費	二八、五五二	三、九一五、八一三	二	二八三、三九四	二八、五八五	四、一九九、二〇七	〇・九五
附帶直轄施行	竣功	▲	竣功	▲	竣功	▲	〇・八一
工費	竣功	▲	竣功	▲	竣功	▲	
船舶及機械費	竣功	▲	竣功	▲	竣功	▲	
管理者施行	竣功	▲	竣功	▲	竣功	▲	

本表竣功額ヲ上流ト下流トニ區別スレバ左ノ如シ

下流改修

總計	測量費	營繕費	雜費	共濟組合給與金	亡失毀損其他
▲□ 四四、四四五、九七二 二、五八三、一〇四	▲ 一、三六、五五三	▲ 五八、七八七	▲ 四八六、七四一	▲ 八二、二四五	▲ 三、一七四、八〇二
▲ 二、一三九	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 二、六四五	▲ 一、三〇、八六〇	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇
▲□ 一、六九一、〇七二 六〇、八七八七	▲ 六、二五〇	▲ 二、二五一	▲ 七、九〇八	▲ 一、三三九七	▲ 三〇一、三二八
▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 二、一三九	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇
▲□ 四六、一四七、〇四四 三、一九一、八三三	▲ 一、四二、八〇三	▲ 六、一〇三、八〇	▲ 四九四、六四九	▲ 九、六一七	▲ 三、一七四、八〇二
▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇	▲ 一、〇八四、六六〇
▲ 〇・八四					

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	* 一、六九七、一五二 九、八四六、六九四	▲ 一、〇三六、七四四 八、四八二、〇四〇	* 一、九三三、九九七 六、八四〇、九二七	▲ 三、〇〇七、八六六 五、〇〇九、九六六	* 一、八九九、一〇六 九、九一五、〇九六	▲ 一、〇六七、五三〇 一、三三三、九八〇	〇・九九
濬渫	二二、一六五、五五三 九、一九七	▲ 一、六一五、六〇〇 八〇五、六一五	七四二、三九九 六、二八八	▲ 一、三〇二、七六六 二、〇四、一五九	二二、九〇六、九五二 一、五八八、五五	▲ 四、二二一、五三三 一、八〇六、三三六	〇・九九
護岸水制	九、一九七	▲ 一、二四、七七〇	六、二八八	▲ 一、九三、九六〇	一、五八八、五五	▲ 一、〇〇九、七七四	〇・九五
特種工事	未竣功	▲ 三、九一五、八一三 四七二、三六二	未竣功	▲ 二、八三三、三九四 一、五三三、〇七五	未竣功	▲ 一、〇九九、二〇七 三、一八、七三〇	〇・九五
用地費	一〇、九一一	▲ 五、八九八、五六〇	未竣功	▲ 二、三三三、三三三	一〇、九一一	▲ 五、九〇〇、八九八	
附帶直轄施行	竣功	▲ 一、五一一、二五一 二〇、九八八、〇七	竣功	▲ 一、九一、二二五 五〇、三九六、七	竣功	▲ 一、五一一、二五一 二〇、九八八、〇七	一〇〇
工事管理費	竣功	▲ 四、五四〇、三〇四	竣功	▲ 九、九二、二一四 一、七二、二六八	竣功	▲ 四、五四〇、三〇四	
船舶及機械費	竣功	▲ 六、七二、九四四 二、七四、七四六	竣功	▲ 一、四、九二、二一四 一、七二、二六八	竣功	▲ 六、八八、一五九 二、九一、〇一四	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣工高		合計		歩竣合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
測量費							
營業繕費							
雜費							
共濟組合給與金							
亡失毀損其他							
總計		三〇、一九〇、八五五 三、一〇四、三二六		八七、七、二八七 六〇、四、二八七		一一〇、一、一四二	〇・九九

上流改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣工高		合計		歩竣合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	* 一、一〇九、〇三二 立方米	二七、八、九三三	* 一、九四七、三三三 立方米	八、九、八二九	* 一、三〇三、三七七 立方米	三六、八、七六一	〇・四五
工事浚護	一六、九八七、九五〇	四、四九九、二二二 八三、〇七五	一、一九六、八一三	三、四六、三四一	一八、一八四、七六三	四、八四五、五五三	〇・六三
費用岸水	一、三〇〇米	四、五、六九九	二、四〇三米	四、五〇〇	三、七〇三米	一、二二四、三四	〇・一〇
用地費	一七、六五一	四、七五八、〇五八	二、三三	九、六四八	一七、六七四	四、七六七、七〇六	〇・八〇
附帶直轄施行	竣功	六、〇〇八〇	竣功		竣功	六、〇〇八〇	〇・〇一
工事費	竣功	三、〇〇六〇	竣功		竣功	三、〇〇六〇	
船舶及機械費		五、六六三				五、六六三	
測量費		三、三五七、八九六		一、五〇、二九五		三、三五〇、八一九	
營業繕費		三八二、四九〇		七、〇一四		三八九、五〇四	
總計		一五、五、九六三 八七		五、三九五 五、七〇九		一六、一、六七二 八七	

總計	雜費 共濟組合給與金
▲□ 一四、三四二、二二〇 八三、〇七五	一、三五五、五二八 五二、〇七五
▲□ 八二、三九六、九 四、五〇〇	一、二九五、五九二 九、四二五
▲□ 一五、一五六、一八九 八七、五七五	一、二六五、二二〇 六一、五〇〇
〇・六五	

第三 北上川改修工事

緒言

本川筋ニ於テ曩ニ航路改良ノ目的ノ下ニ岩手縣盛岡市ヨリ宮城縣牡鹿郡石卷港ニ至ル百九十六軒間ヲ工費百二十三萬五千六百五十六圓ヲ以テ明治十三年度ヨリ同三十五年度ニ至ル二十三箇年度間ニ互リテ低水工事ヲ施行シ一旦結了ヲ告ゲタリ而シテ洪水防禦工事トシテ同四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル十二箇年度繼續工費八百萬圓ヲ以テ左岸宮城縣登米郡錦織村右岸同縣同郡上沼村以下海ニ至ル五十九軒間ヲ更ニ改修スルコトトシ施行中偶々歐洲大戰亂以後物價騰貴ニ因リ工費二百六十二萬二千圓ヲ増シ合計一千六十二萬二千圓ト爲シ竣功年度ヲ二箇年度繰延べ大正十三年度竣功ノ筈ナリシモ大正八年度末期ヨリ更ニ急激ニ勞銀物價ノ昇騰ヲ來シ大戰亂ノ終熄後モ著シキ下落ヲ呈セザルニ一方大正九年度ニハ北上川筋二回ノ大洪水アリ其後全川結氷莫大ナル冰雪ノ流下、稀有ノ大雪、霖雨等年毎ニ特異ノ天禍ニ襲ハレシ爲メ春秋兩季農繁期以外ノ期間ニ連月工事休止ノ厄ニ會シ工程ハ豫想ノ半バニモ達セザルノ悲境ニ陥レリ大正十二年度ノミハ上半期ノ稀有ノ霖雨帝都震災ノ一時的工事材料ノ缺乏ニ惱ミタル外ハ下半期ニ於テ天候順調ニ經過シタリシモ過去四箇年度間ノ連續的工事ノ澁滯ハ到底大正十三年度即チ最終年度ノ一箇年度ヲ以テ挽回スベクモアラザレバ工費ヲ更ニ二百七十萬圓増額シテ合計一千三百三十二萬二千圓トシ其竣功期ヲ六箇年度延長シテ昭和五年度トセリ然ルニ昭和三年度ニ至リ新川筋ニ設置スベキ可動堰ノ設計變更ノ必要ヲ生ジ更ニ工費百萬圓ヲ増額シテ總工費豫算額ヲ一千四百三十二萬二千圓トシ竣功年度ヲ一箇年度延長シテ昭和六年度トシ第五十七議會ノ協賛ヲ經タリ

河狀竝計畫大要

本川ノ流域ハ宮城、岩手ノ兩縣ニ跨リ其面積一萬七百十九平方籽ヲ有スル大河川ニシテ流路延長三千七百七十八籽(内幹川二百四十四籽)灌漑面積五萬六千四百ヘクタール、水害區域五萬二千五百ヘクタール(内幹川二萬一千九百ヘクタール)航路延長六百五籽内(幹川二百三十二籽)ナリトス而シテ本川ノ航路ハ北上運河、東名運河、貞山運河等ニ依リ阿武隈川ニ連絡ヲ有スルヲ以テ航行ノ便古來ヨリ盛ニシテ東北地方ノ一大運輸機關タリ現今鐵道ノ便開ケ稍々不況ヲ呈セシガ如キモ水運ヲ利トスル貨物モ亦少ナカラズ河道ハ幹川、狐禪寺、米谷、和淵等ノ如キ狹隘部アリ狐禪寺ノ狹隘部ハ山間部ニ屬スルヲ以テ破堤無シト雖モ上流部ニ一大湖水ヲ現出シテ沿岸ノ水害ヲ釀シ米谷及和淵ノ狹隘部ハ上流ノ水位ヲ高メ破堤ノ因ヲ爲ス而シテ米谷右岸ニシテ破堤センカ南方廣大ナル平野ニ瀾漫シ直チニ支川迫川堤防ヲ突キ沿岸ニ浸水スルノミナラズ逆流シテ其慘害ヲ逞フス又和淵右岸堤ノ破堤ヲ見ンカ是亦遠ク南方ニ波及シ且石卷町ヲ襲フニ至ル明治八年以降其被害數萬ヘクタール以上ニ達シタルモノ數フルニ違アラズ尙本川沿岸ハ高水直接ノ結果タル惡水ノ災害モ亦甚多ク其區域登米、本吉、桃生、牡鹿、遠田、栗原ノ六郡ニ達シ就中迫川及江合川沿岸ヲ主ナル被害トス明治四十三年乃至大正八年ノ水害高ヲ見ルニ一箇年平均二百二十九萬六千七百七圓ノ多額ニ上リ例之バ大正二年ノ如キハ損害額八百八十一萬一千三百四十九圓ニ達セリ本川改修ノ目的ハ高水防禦ヲ主トシ傍ラ航路ヲ修正シ併セテ惡水排除ノ便ヲ圖ラントスルニ在リ而シテ改修計畫ニ採用シタル最大流量ハ北上川本流每秒五千五百七十立方米、迫川同一千二百八十立方米ナリトス

計畫ノ主眼トスル所ハ本吉郡柳津町ニ於テ本川ヲ締切り同所以下之ヲ合戦ヶ谷ニ附替ヘ飯野川町地先ニ於テ追波川ニ合セシメ以下追波川ニ改修ヲ加ヘ以テ之ヲ本流タラメントスルニ在リ斯クスルトキハ柳津町以下舊川沿岸ニ於ケル廣大ナル平野ノ浸水ヲ根絶シ又舊川ニ合流スル追川ノ高水流下ヲ急速ナラシメ同川沿岸ノ水災ヲ輕減スルト同時ニ惡水排除ヲ良好ナラシムルノミナラズ航路ノ改良ヲ見ル等各種ノ利益アリ

柳津町以下新川ニハ最大流量毎秒五千五百七十立方米ノ内四千七百三十立方米ヲ通ズルノ河積ヲ保タシムルモノトシ新川河幅ハ柳津町ニ於テ四百四十五米トシ合戦ヶ谷ニ於テ二百九十米乃至四百四十五米トス合戦ヶ谷新川部ノ兩岸山麓ニ接スル所ハ築堤ヲ要セザレドモ平地部ニハ築堤ヲ爲シ幅百十米乃至百四十五米ノ開鑿ヲ施シテ流積ヲ與フ飯野川地先ニ於テハ新川殆ンド直角ニ方向ヲ轉ジ追波川ヲ利用シテ東方ニ向フ同所以下ノ河幅ハ四百五十五米乃至七百二十七米ニシテ築堤ヲ施シ浚渫ヲ行ヒ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ追波川右岸二俣村及大川村地先ニハ延長五千四百五十四米ノ水路ヲ設ケ其下流端ニ追波川トノ連絡ヲ保ツ爲メ閘門ヲ設ク

柳津町舊川分派口ニハ閘門ヲ設ケ以テ既往航行ノ便ヲ失ハザラシメ又洗堰ヲ設ケテ平水量百三十立方(米)ヲ送り以テ航路ノ便ヲ計リ且高水時ニハ本川最大流量五千五百七十立方米ノ内八百四十立方米ヲ分(米)疏ス

柳津以下石卷ニ至ル舊川筋ハ航路ヲ維持スル爲メ浚渫又ハ低水工事ヲ行ヒ流末石卷ニハ突堤ヲ築キ浚渫ヲ施シテ濬筋ヲ設ケ航行ノ便ニ供セントス

柳津町ヨリ上流國境改修起點ハ日根牛ノ如キ狹隘部ニ限り引堤ヲ爲シ河幅ノ擴張ヲ爲ス外河狀ヲ現狀

ニ委ネ舊堤ヲ増築スルニ止ム

築堤ハ天端幅七米三乃至四米六ニシテ表裏共二割法トシ堤高ハ計畫高水位以上一米二乃至一米五ノ餘裕ヲ有セシメ水勢ノ衝突スル箇所ノ一部ハ三割法ト爲シ且石張護岸ヲ施工ス

施工狀況

本改修工事ハ明治四十四年ノ創業ニ係リ年ヲ閱スル事既ニ久シク竣功期限ハ向フ二箇年度ニ迫リ近ク改修ノ效果ヲ見ントスルニ至レリ

土工ハ全部ニ互リ殆ンド完成ニ近ヅキ工事施行ノ都合上止ムヲ得ザル小部分ヲ剩スニ止リ専ラ施行中ニ屬スルモノハ分水工事ニ關スル洗堰、閘門及可動堰ノ築設ヲ主ナルモノトシ其他排水路、護岸、床固、附帶工事等ナリ

本年度中施行セル掘鑿工事ハ柳津町地先ニ築設中ノ洗堰及閘門ニ通ズル水路ノ開鑿及ビ其對岸豐里村字鴉波ニ設置セル洗堰ニ通ズル水路ノ掘鑿ニシテ何レモ前年度ニ引續キ其一部ヲ施工セリ又本年度末ニ近ヅキ柳津町地内新川呑口ノ舊堤一部ノ取除ニ着手セリ

排水路工事ハ柳津町地内新小川開鑿及ビ追波川右岸沿ヒノ二俣及大川兩村ニ互ル二俣水路ノ掘鑿、築堤及護岸工事ヲ引續キ施行シ本年度中其大部分ヲ了シタリ尙新小川流末ニ設置スベキ柳津水門ハ本年度ヨリ其床掘ニ著手セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ施行中ノ新川筋右岸飯野川字成田及小舟越地内築堤ハ本年度中竣功シ飯野川町字相野谷及ビ中島地内築堤ハ前年度ニ引續キ施工中ナリ本年度中新ニ柳津町地内及ビ其對岸豐里村字

鵜波地内間ノ本川締切堤工事及ビ追波川筋左岸飯野川町字中野地内ノ一部工事ノ都合上未完成ナリシ築堤ニ着手セリ

洗堰及閘門工事ハ引續キ施行中ニ屬スル柳津町地先ノ脇谷閘門ノ本體竣功シ扉及ビ扉開閉機取付ケニ著手シ之レニ隣接シテ築造セル脇谷洗堰ハ扉開閉裝置ノ一部ヲ除クノ外ハ本年度内竣功セリ前年度中新ニ著手セル脇谷第二洗堰ハ水路開鑿及隧道掘鑿ヲ續行セリ又追波川右岸大小村福地地内二俣水路ニ設置ノ福地閘門ハ前年度中ヨリ扉及ビ扉開閉機取付中ノ處本年度ニ至リ愈々竣成セリ

新川筋飯野川町地内ノ可動堰築設工事ハ本體基礎杭打工ヲ終ヘ基礎及ビ本體ノコンクリートヲ施工シ洪水敷ノ降開式轉堰扉ノ据付ケニ著手セリ可動堰ニ連ル右岸寄四徑間、左岸寄一徑間ノ各徑間十七米一ノ固定堰ハ本年度中竣功シ其上流側床ノ石張工及ビ右岸堤防ノ取付箇所練石積護岸ノ一部ヲ施工セリ可動堰下流側床固工事ハ本年度中著手シ床掘及木工沈床ノ一部ヲ施行セリ

新川筋床固工ハ柳津町地内新川呑口及ビ中流部桃生村字山田竝ニ飯野川町字合戰ヶ谷地内ノ新川筋床固工ハ新ニ本年度中著手シ柳津床固ハ洪水敷大部分ノ施工ヲ終ヘ合戰ヶ谷、山田兩床固ハ床掘ヲ爲セリ又前年度中著手セル新川筋下流部飯野川町字成田地内ノ床固ハ本年度中竣功セリ

護岸工事ハ前年度中著手セル追波川右岸二俣村字三輪田地先ノ河身屈曲セル部分延長一千五十六米ニ互ル石張護岸ヲ引續キ施工中ノ處本年度ニ入り竣功シ新川筋飯野川町字成田地内可動堰上流部兩岸ノ新堤保護ノ爲メ延長三千百七十七米ノ捨石護岸ヲ施工セリ又追波川中流部右岸大川村字針岡及釜谷地先ノ新堤ニ水流激突スルヲ以テ水制一箇所ヲ設ケテ堤脚ノ保護ヲ爲セリ

附帶工事ハ飯野川町管理ニ屬スル同町地内排水路工事ニ著手シ水路掘鑿竝ニ排水樋管設置大部分ヲ了

其他飯野川町字成田地内ノ石山ヨリ護岸工事用石材ノ採掘ヲ爲シ又石卷河口ノ突堤一部ノ補修ヲ爲セリ
 本年度ノ竣功額ハ六十五萬三千五百三十九圓ニシテ創業以來ノ累計ハ一千三百一萬九千七百十九圓之
 ヲ總工費一千四百三十二萬二千圓ニ比スレバ九割一分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中□
 ハ管理者負擔額ヲ示ス

費用	掘鑿	浚深	築堤	排防	護岸	洗堰	可動	床固	水門	突堤	用地	附帶	事費	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩竣
														數量	金額	數量	金額	數量	金額	
														立方米	圓	立方米	圓	立方米	圓	圓分
														四、〇四三、二六六	九二五、八七八	九四、七一九	二七、七六七	四、一三七、〇三五	九五三、六四五	〇・七六
														八〇九〇、一八	一、七九六、九一六			八、〇九〇、一八	一、七九六、九一六	〇・九九
														五七四一、三四〇	五七六、二七〇			五、七三七、九七〇	五八九、二九九	〇・九五
														九九二、〇五三	三〇五、九四六			九九二、〇五三	三〇五、九四六	一・〇〇
														一、四六四、七七五	七七三、八四〇			一、四六四、七七五	八〇〇、二五六	
														一、一六二	九四、九〇二			一、一六二	一三八、八三四	
														二	六七七、六七四			二	七五二、二八八	
														二	四六八、一〇八			二	七三七、一九三	
														一	一〇、一六九			一	七六、〇一一	
														一	一三三、五〇七			一	一三三、六三八	
														一	三二四、七二八			一	三二六、八二二	
														七、五六九	一、一八九、五二六			七、五六九	一、二〇、四九六	
														二	九七、一六四			二	一〇八、三九八	
														二	五〇、一七八			二	五五、〇八五	
														三	一六、五四一			三	一七、八七四	

第一章 河川改修工事 (北上川改修工事)

總計	船舶及機械費	測量費	營繕費	雜費	共濟組合給與金	亡失毀損
□ 一、二、三、六、六、一、八〇 五〇、一七八〇	三、三九二、〇〇九	二、二、六一六	一、七、五三六	一、四、三三三、三三三	三、四、〇九二	一、四、四四六
□ 六、五、三、五、三、三、九 四、九〇七	四、七、九〇七	六、二、六	二、四、八二	六、〇、三、三、九	五、七、四、九	
□ 一、三、〇、一、九、七、一、九 五、五、〇、八、五	三、四、三、九、九、一、六	二、三、二、四、二	一、七、五、〇、一、八	一、四、九、二、六、四、二	三、九、八、四、〇	一、四、四、六
〇・九一						

第四 阿賀野川改修工事

緒言

本川ハ曩ニ航路改良ノ目的ヲ以テ新潟縣東蒲原郡津川町以下海ニ至ル約六十五粍ノ間ヲ工費四萬圓ヲ以テ明治十七年七月ヨリ起工シ同十九年度ニ至リ一時工事ヲ中止セシガ其後水災損害ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ大正四年度ヨリ大正十二年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ工費八百萬圓(内新潟縣負擔額二百二十九萬二千圓)ヲ以テ本改修工事ヲ施行スルコトトナリシガ時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月四百萬圓(内新潟縣負擔額百萬圓)ヲ増額シ總工費ヲ一千二百萬圓トシ施工年限ヲ五箇年度延長シタル處更ニ財政上ノ都合ニ依リ年度割額ヲ變更シ且二箇年度ヲ延長シ十六箇年度繼續事業トシテ昭和五年度迄ニ施行スルコトトナレリ其工事施行區域ハ左岸新潟縣中蒲原郡川東村、右岸東蒲原郡下條村以下海ニ至ル約三十五粍ノ間ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ福島、新潟ノ兩縣ニ互リ流域面積八千三百四十平方粍ヲ有シ流路延長二千八百粍(内幹川百六十九粍)航路延長五百八十五粍(内幹川百四十九粍)灌溉面積四萬ヘクタール(内幹川四千四百四十六ヘクタール)水害區域二萬三千二百五十ヘクタール(内幹川七千五百五十六ヘクタール)ナリ而シテ本川ノ洪水ノ春季ノ融雪ト夏秋ノ低氣壓ニ伴フ暴風雨トニ基因シ水源地方ニ於テ一日ノ雨量百粍以上ニ達スレバ警戒ヲ要スベキ洪水ヲ來スコト多シ其水害ノ最モ甚シキ部分ハ山間部ヲ出タル中蒲原郡川東村馬下ヨリ海ニ至

ル延長約三十五軒ノ間ニシテ地勢平坦田園開ケ西ハ遠ク信濃川沿岸ノ平野ニ連リ我國有數ノ米產地タリ兩岸概ネ堤塘ノ設ケアリト雖モ斷續不同、屈曲迂回、構造亦薄弱ナルヲ以テ洪水ノ際ハ沿川ノ各地ニ浸水セザルコトナク又派川小阿賀野川ハ本川ノ洪水ヲ吞ミテ滿水シ管ニ其兩岸ノ破堤汎濫ヲ惹起スルニ止ラス信濃川ノ洪水ヲ増大シ不盡ノ流砂ハ新潟港埋塞ノ一因ヲ爲セリ水害損失額ハ大正元年以降同十年ニ至ル十箇年平均年額百二十八萬圓ニシテ其内大正二年最モ甚シク浸水約二萬ヘクタール、損失額五百三十七萬圓ニ達セリ

本改修計畫ハ最大洪水流量每秒六千九百五十立方米ノ疏通ヲ期シ以テ馬下以下海ニ至ル區間ノ水害ヲ除カントスルモノニシテ河幅ハ起點附近ヲ四百三十米トシ約四軒ノ下流論瀨附近ニ至リテ之ヲ九百米ニ擴張シ以下河口迄同様ノ幅員トス而シテ改修法線ハ大體現川ニ沿ヒテ之ヲ定メ中流澤海附近ノ如キ屈曲甚シキ部分ハ之ヲ矯正シ堤防ハ成ルベク舊堤ヲ利用シテ之ヲ擴築シ其他ハ新堤ヲ築設ス又低水敷及高水敷ニ掘鑿ヲ行ヒテ河積ノ不足ヲ補ヒ尙下流部ニ對シ相當ノ浚深ヲ施シ以テ流積ヲ充分ナラシム小阿賀野川ハ滿願寺ニ於テ之ヲ締切リテ一水門ヲ築設シ一定量ノ水ヲ放流スルノ外本川ノ洪水ト絶縁セシメ其下流沿岸ノ水害ヲ絶ツト共ニ同川ニ合流スル能代川及其他惡水ノ疏通ヲ便ナラシメ又洪水毎ニ新潟港ニ流送スル土砂ヲ止メ信濃川改修ト相俟ツテ同港埋塞ノ主因ヲ除カントス而シテ信、阿兩川舟運ノ連絡ニ對シテハ滿願寺地内ニ一閘門ヲ設置セントス

河口ニ近ク幹川ニ合流シタル加治川及新井郷川ニ對シテハ當初合流點ニ水門ヲ設置シテ逆流ヲ防止スルノ計畫ナリシガ其後新井郷川水害豫防組合ノ出願ニ依リ前記水門ニ代フルニ新水路ヲ開鑿シ直接海ニ放流スルコトニ變更シ而シテ合流點ヲ新堤ニテ橫斷スル箇所ニハ別ニ幅七米二ノ水門ヲ設置シ舟運

ニ支障ナカラシム

堤防ハ早出川落口ヨリ下流ハ凡テ天端幅ヲ九米トシ夫レヨリ上流ハ七米二トシ何レモ表裏二割法ヲ附シ計畫高水位上一米五ノ高ヲ保タシメ水勢衝突ノ箇所ニハ適當ノ護岸ヲ施工スルモノトス
掘鑿箇所ハ論瀨高山ノ堤外地ニ於ケル低水路ノ掘鑿一千百三十米及左岸巢本村一本杉右岸安田村小浮ヨリ以下流心ニ沿ヒタル五百四十五米ノ間平均低水位上零米九乃至一米八ノ面迄之ヲ施行シ尙滿願寺澤海間ノ直通水路ノ掘鑿約一千五百二十七米アリ又浚渫ハ大淵以下ニ之ヲ施行シ其深サハ平均低水位以下一米八乃至二米七トシ又小阿賀野川ニモ現在ノ河身ニ沿ヒ浚渫ヲ行フモノトス

施工狀況

本工事ハ大正四年度創業後直ニ施行準備ニ著手シ翌五年度土地買收ヲ開始シ同六年度ヨリ起工シ本年度迄掘鑿浚渫築堤護岸水制床固閘門水門等ノ諸工事ヲ施行シ本改修工事も近ク完成ヲ告グルニ至リタル處財政緊縮ノ爲メ本年度割工費ノ減少ヲ見タルモ只管豫定ノ進捗ニ努メタリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續施行ノ二十八箇所(外三箇所休工)新ニ起工ノ十八箇所計四十六箇所ヲ實施シ内十箇所ヲ竣功セシメタル外附帶工事トシテ新井郷川改修龜田郷用水路ノ二工事ヲ繼續施行セリ今本年度内施工狀況ヲ述レバ左ノ如シ

掘鑿 前年度ヨリ引續キ施行ノ機械掘二箇所(外一箇所休工)手掘一箇所新ニ手掘一箇所計四箇所ニシテ機械掘ニハ短梯掘鑿機一臺ヲ用ヒ掘鑿土砂運搬ニ二十噸機關車二臺ヲ使用シ又手掘ノ土砂運搬ニハ軌條ヲ配置シ輕運車ニテ人力及牛馬力ニ仍リタル外一部小舟ヲ使用セリ本年度ノ掘鑿土量機械掘一萬六

千五百立方米、手掘十萬三千七十四立方米、計十一萬九千五百七十四立方米ニシテ内八萬一千三百八立方米ヲ新堤敷ヘ三萬八千二百六十六立方米ヲ附近低地ヘ運搬捨土セリ

浚渫 本年度新ニ著手セル小阿賀野川筋既定計畫浚渫箇所ノ一部即チ能代川合流點以下信濃川合流點ニ至ル延長六千六百四十米間ノ浚渫工事一箇所ニシテ人力及浚渫船ニ依リ浚渫、長舟又ハ小舟ヲ以テ土砂ヲ運搬セリ本年度浚渫土量人力五千二百六立方米、機械五千五百二十一立方米、計一萬七百二十七立方米ヲ運搬捨土セリ

築堤 前年度ヨリ繼續セル十箇所、新ニ著手セル三箇所、計十三箇所ヲ實施セリ築立土ハ掘鑿土及採土ヲ用ヒタルモノニシテ採土ハ人力及牛馬力ヲ以テ輕土運車ヲ使用セシモノ竝ニ小舟ヲ以テ運搬セシモノトアリ而シテ利用土八萬一千三百八立方米、採土十九萬三千二百九十九立方米、計二十七萬四千六百七立方米ヲ築立テ三箇所ヲ竣功セリ

護岸、水制及床固 前年度ヨリ引續キ施行ノ護岸工事十箇所、外二箇所休工、水制工事一箇所、假水制工事一箇所、床固工事一箇所ノ外新ニ護岸工事八箇所、水制工事二箇所、床固工事一箇所、計二十四箇所ヲ實施ス工法ハ石張、蛇籠、柴工、沈床、包柴工、石詰、柳枝工、杭柵、篋杭、葦粘土張、混凝土單床、捨石等ニシテ新設床固工事ハ滿願寺、澤海間既設新低水路床固ニ接續シ高水敷ニ施設スルモノニシテ本春融雪洪水ノ爲メ同所高水敷著シク洗掘セラレ低水路ノ變化ヲ來ス虞アルヲ以テ兩岸高水敷全幅ニ互リ柴工、沈床、單床、包柴、蛇籠工ヲ施シ以テ深掘竝ニ岸邊ノ缺潰ヲ防止セントスルモノナリ而シテ本年度ニ於テ護岸工事四箇所、水制工事一箇所、假水制工事一箇所、床固工事一箇所ヲ竣功セリ

水門 前年度ヨリ引續キ施行ノ小阿賀、新井郷川水門工事ノ二箇所ノ外新ニ海老漣川水門工事ノ一箇所

ヲ加へ三箇所ヲ實施ス而シテ小阿賀水門設置箇所ハ舊小阿賀野川締切箇所ニ當リ河床地盤砂利又ハ砂層ナル爲メ洪水ニ際シ河水ノ滲透著シク水門基礎面下ノ土砂流去洗掘ノ虞アルヲ以テ追加工事トシテ水門呑口水叩竝ニ兩側石張ニ沿ヒ鋼矢板、混凝土、粘土詰ノ諸工ヲ施行シ以テ水門ノ安全ヲ圖ルコト、セリ本年度ハ呑口へ柴工沈床百五十平方米、假締切六十米、鋼矢板工延長四十米、混凝土三十九立方米、粘土詰百三十立方米ヲ施行ス新井郷川水門工事ニ對シテハ是亦前年度迄ニ於テ本體全部ヲ完成シタルヲ以テ本年度ニ於テハ開閉機裝置室ノ鐵筋混凝土三立方米、護岸延長三十六米、角落等ノ施行ニ止マレリ又海老澁川水門工事ハ阿賀野川新堤築設ノ爲メ支川海老澁川ヲ遮斷セラル、ヲ以テ同所新堤下ニ内法幅二米一、高二米四ノ二連軸長二十一米ノ鐵筋混凝土水門ヲ新設シ通水ヲ支障ナカラシムルト共ニ洪水時ニ於ケル阿賀野川ノ逆水ヲ防止スルモノニシテ本年度ニ於テハ假水路ノ附替、基礎掘鑿及基礎杭三百十三本、矢板親柱四十九本、矢板百三十四枚ノ各打込ヲ行ヒタル外混凝土十二立方米ヲ施行セリ

土地買收 幹川ハ前年度迄ニ大略買收ヲ了シ本年度ニ於テハ未濟ノ一部中蒲原郡巢本村、新關村、新津町、大江山村、北蒲原郡安田村、京ヶ瀬村、岡方村、松ヶ崎濱村地内ノ土地買收及地上物件移轉料、借地料、河川敷地、補償料等金額四千百九十一圓竝ニ附帶工事トシテ龜田郷用水路工事ニ於テ中蒲原郡大江山村地内ノ土地買收金額五十八圓ヲ支拂ヒタリ

附帶工事

龜田郷用水路工事 本工事ハ大正八年十月著手以來專ラ工事ノ進捗ニ努メ昭和三年度ニ於テ其通水ヲ行ヒタリシガ融雪出水後取入口附近ノ水位低下シ又初夏ノ候ヨリ打續キタル旱魃ノ爲メ阿賀野川全川ニ互リ稀有ノ大渴水ヲ來シタル爲メ取入口ヨリノ自然流水ノミニテハ充分給水シ能ハザルノ状態ニ鑑

ミ追加工事トシテ澤海地内ニ揚水機ヲ設置シ小阿賀野川ヨリ揚水補給スルコト、爲シ昭和四年一月其
 工事ニ著手セルガ右ハ次期給水時迄ニ完成セシムル必要上殘工事ノ施行ヲ一時休止シ揚水機工事ニ全
 カヲ注ギ前年度中略大半ヲ竣成シタルモ尙引續キ本年度ニ於テ暗渠水路橋水路ノ各殘工事竝ニ揚水機
 小屋ノ建設揚水機据付等諸工事ヲ急施シ六月二十二日ニ至リテ之レガ試運轉ヲ終了シ以テ不時ノ渴水
 ニ備フル事ヲ得タリ尙本水路殘工事ニ對シテハ護岸延長二千百九十八米、道路延長九千二米、橋梁一箇所
 ヲ竣功セシメタリ

新井郷川改修工事 本工事ハ大正九年度ヨリノ繼續工事ニシテ大正十三年度始メテ新水路ニ通水後尙
 引續キ掘鑿、浚渫、護岸工事ヲ實施シ來リタルガ本年度ニ至リ新井郷川水門工事ノ略完成ト共ニ阿賀野川
 ヨリノ逆水ヲ全ク防止スルコトヲ得改修ノ目的ヲ達シ得タリト雖モ秋冬ニ於ケル激シキ風波ハ新水路
 ノ川口ヲ閉塞シ又ハ流水ノ幅員ヲ狭少ナラシムルノミナラズ加治川ヨリノ流砂埋積シテ流水ヲ阻止シ
 爲メニ逆水門ヘノ流勢ヲ加へ通船上屢々困難ヲ感セルヲ以テ本年度ハ專ラ新水路吐口ニ對シ兩岸ニ石
 詰梓延長七十九米、柴工沈床四百六十一平方米ヲ施行シタル外砂防簀立工ヲ施シ風波ニ依ル河口閉塞ニ
 備ヘタリ本年度ニ於ケル竣功額ハ五十九萬八千九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計一千百十萬八千二
 百九十圓ナリ之ヲ總工費一千二百萬圓ニ比スレバ九割三分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ
 表中、□ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
掘鑿	四、七九八、二五〇 <small>立方米</small>	一、三六五、六〇六 <small>圓</small>	二一九、五七四 <small>立方米</small>	四二、五五〇 <small>圓</small>	四、九一七、七二四 <small>立方米</small>	一、四〇八、一五六 <small>圓</small>
竣功						〇、九七 <small>圓</small>

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	測量費	船舶及機械費	附帶工事費	用地費	材料運搬費	工事費				
									水閘門	護岸水	築堤	浚深	
						竣功 未竣功		竣功 未竣功	竣功 未竣功	竣功 未竣功	四、四一、二四五	四、六五、九九九	
□ 一〇、五二〇、二八〇 五二五、二四六					二、八二二、四〇一	八二五、〇三三 五二五、二四六	二、三七八、〇八五	一六、四二四	一六二、〇七二	三二八、〇三〇	七二九、三四六	六七九、三一七	九四、五六九
					一九、四七四	一〇八、八五四							
					二四、五九八	九四六、三〇一							
							竣功 未竣功	竣功 未竣功	竣功		二七四、六〇七	一〇、七二七	
						三、九二二	四、一九一	二五、七六〇			三、六三七	九〇、三六二	四、六四二
□ 五九八、〇〇八 六〇、三九七					三、九二二	六〇、三九七	四、一九一	二五、七六〇			二、三二八、八四五	四、六八五、八五二	四、七六、七二六
					五、五八二	九四、五九五							
					六五、六五三	六〇、三九七							
					一、一五二	三、五七五							
							竣功 未竣功	竣功 未竣功	竣功		一六、一三七	四、六八五、八五二	四、七六、七二六
							竣功 未竣功	竣功 未竣功	竣功		一六、一三七	四、六八五、八五二	四、七六、七二六
□ 一一、一〇八、二八八 五七五、六四三					二、八五八、一五四	九一九、七九八 五七五、六四三	二、三九二、二七六	一六、四二四	一八七、八三二	三二八、〇三〇	九五三、一九一	七六九、六七九	九九、二一一
					二〇、六二六								
					一一、四、四三六								
					一、〇一一、九五四								
					二八、五二一								
○・九三						〇・九八	〇・九八	一・〇〇	〇・九四	一・〇〇	〇・六四	〇・八九	〇・九四

第五 最上川改修工事

緒言

本工事ハ曩ニ政府ニ於テ專ラ航路ノ改良ヲ目的トシ工費七十六萬四千九百八十四圓ヲ以テ明治十七年度其工ヲ起シ同三十六年度ニ至リ之ガ竣功ヲ告ゲタリシガ其後年々水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ洪水防禦ヲ目的トシテ大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシ工費八百二十萬圓(内山形縣負擔額二百十九萬九千圓)ヲ以テ改修工事ヲ施行スルニ至レリ其區域ハ幹川左岸山形縣東田川郡清川村、右岸同縣飽海郡上郷村以下海ニ至ル約三十二軒間、支川赤川ハ左岸同縣東田川郡齋村、右岸同縣同郡廣瀬村以下幹川合流點ニ至ル約二十三軒六ノ間ナリシガ大正十年三月支川赤川改修工事ノ計畫ヲ變更シ大山川合流點附近ヨリ西田川郡袖浦村地内西山砂丘ヲ開鑿シ直チニ日本海ニ放流セシムルコトトシ尙同年五月最上川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ山形縣知事稟申ニ係ル酒田港修築工事ヲ百五十萬圓(全部山形縣負擔)ノ追加工費ヲ以テ併セ行フコトトシ繼續年度ヲ大正十七年度迄延長セリ而シテ更ニ物價騰貴ニ依リ總工費ヲ一千五百萬圓ニ増額シ昭和七年度迄工期ヲ延長セルモ偶々關東大震災ノ影響ヲ蒙リ更ニ昭和十一年度迄繰延ベシ爲メ二十箇年度ノ繼續事業トセルモ國庫財政ノ緊縮ヲ要スルガ爲メ昭和三年度以降ニ於テ十五萬圓ノ節約ヲ爲シ總工費ヲ一千四百八十五萬圓ト改メタリ

尙昭和四年六月既定改修工費ヲ増額セズ支川赤川改修計畫ノ一部ヲ變更シ小支川内川ノ新放水路ヲ開鑿シ山形縣ヨリ十萬五千圓ニ相當スル材料其他ヲ提供セシムル事トセリ

河狀竝計畫大要

本川ハ奥羽河川中北上川ニ亞グノ大河ニシテ水源ヲ山形縣南置賜郡吾妻山ニ發シ殆下山形縣一圓ヲ環流シ飽海郡酒田港ニ至リ海ニ注グ其流域面積七千四百三平方糎、流路延長二千三百六十八糎、内幹川二百十六糎、航路延長四百五十九糎、内幹川百九十六糎、永害區域三萬七千二百九十七ヘクタール、内幹川一萬四千四百ヘクタール、灌溉面積五萬七千三百十六ヘクタール、内幹川一千九百五十ヘクタール、ナリトス

莊内平野ハ山形縣下第一ノ米產地ナルニ本流域内ノ降水量ハ一箇年二千糎以上ヲ示シ本邦ニ於テモ有數ノ降雨地ニシテ洪水汎濫ノ害亦甚シク其損害高ハ大正元年ヨリ同十年ニ至ル十箇年ノ損失平均年額百四十三萬一千六百圓ニ上リ就中大正二年ニ於ケル五百十五萬四千五十八圓、同九年二百四十四萬六十七圓、同十年ハ八百三十五萬三千七百七十圓ニ達スル大損害ヲ見タリ

本川改良計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ工事ヲ水害ノ最モ大ナル範圍ニ局限シ幹川ハ東田川郡清川村以下海ニ至ル間約三十二糎、支川赤川ハ鶴岡市附近以下海ニ至ル約二十糎ノ間ニ施行スルモノニシテ其計畫最大流量ハ幹川毎秒六千九百五十立方糎、赤川一千六百七十立方糎ト定メ之ヲ快通セシムル爲メ掘鑿或ハ浚渫ヲ施スモノトス改修區域内ノ幹川最上川ハ急流ニシテ河狀極メテ不規律又支川赤川ハ緩流ニシテ兩岸相當ノ堤防アルモ廣狹不同ナルヲ以テ本計畫ニ於テ標準河幅ヲ次ノ如ク一定セリ

幹川

清川附近
狩川、白ヶ澤間

二五五*

三六四

幹川

中牧田、落野目間
落野目以下
京田川合流點間

六三六*

七二七

支川

菅原橋、横山間
横山以下大山川合流點迄

二七三*

三六四

新堤ハ天端六米三、表裏兩法二割トシ其天端ハ計畫高水位以上一米五タラシメ在來ノ堤防ハ相當擴築シ水勢ノ激突著シキ箇所ハ總テ石張ヲ以テ護岸ヲ施スモノトス而シテ三米以上ノ直高ヲ有スル築堤ニハ天端ヨリ三米下リテ裏法ニ幅一米八以上ノ小段ヲ設ケ其以下ヲ二割五分法トシ更ニ直高五米以上ノ場合ニハ天端ヨリ五米五下リテ兩法ニ幅二米七以上ノ小段ヲ設ケ其以下ヲ三割法トス

支川赤川ハ流末ナル西田川郡袖浦村大字黒森地内大屈曲箇所ニ於テ西山砂丘ヲ貫キ長サ二千八百米ノ新水路ヲ開鑿シ全川ヲ日本海ニ放流セシメントス其掘鑿土量八百五萬立方米底幅百米、切割高四十五米ナリ之レガ爲メニ上流洪水ノ期間ヲ短縮スル效果著シキモノアルベシ

又小支川内川ハ從來赤川ノ出水毎ニ其逆流ヲ受ケ鶴岡市及其附近ハ常ニ汎濫ノ災ヲ蒙リシヲ以テ延長一千百三十七米ノ新放水路ヲ掘鑿シテ其合流點ヲ引キ下ゲ水害ヲ根絶セシムル事トセリ

京田川ハ從來最上川、赤川兩川出水ノ都度其逆流ト自己ノ出水トノ爲メ沿岸ノ沃野ニ浸水シ汎濫ノ害ヲ免レザリシガ赤川分流ノ結果最上川左岸堤防ヲ延長シテ其合流點ヲ下流ニ移スコトヲ得自然該川ノ排水良好トナリ併セテ逆流ノ被害モ輕減スルコトヲ得ベシ

最上川河口ハ酒田港ト全然分離シテ左岸ニ偏移シ右岸堤防ハ飽海郡酒田町對岸中洲上ニ築キ閘門ヲ設ケ本川ト酒田港トノ連絡ニ備ヘ尙其先端ニ接續シ長六百四十四米、水深九米ノ海中ニ達スル突堤(中央)ヲ設ケ又左岸堤防ノ先端ニハ長二百二十七米ノ防砂堤(南)ヲ築造ス又酒田港ハ其港口ニ最上川右岸堤(前記)中央突堤ト相對シテ同ジク水深九米ノ海中ニ達スル北突堤ヲ築キ港内ハ低水面以下一米八乃至七米六ニ浚渫シテ沿岸ヲ埋立テ且適當ノ護岸工事ヲ施スモノトス

附帶工事トシテハ橋梁ノ増設、架換、水門及樋門ノ新設、用排水路ノ改築等ヲ施工シ從來ノ水害ヲ除去シ又交通ノ利便ヲ増進スルモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度幹川右岸全部ノ土地買收ヲ了シ本年度迄二十數次ニ互リ幹川左岸ノ大部分、支川赤川新放水路用地、鶴岡市附近竝ニ下流左岸東郷村地内新堤敷ノ大部分、内川新放水路用地、右岸廣瀨村、渡前村、横山村新堤敷ノ一部ノ買收ヲ爲シ其進捗ニ伴ヒ大正八年度ヨリ工事ニ著手シ同九年度ニ機械工場ヲ設置シ諸機械船舶ノ修理製作ヲ經營セリ

本年度ニ於ケル本工事施行箇所ハ前年度ヨリ繼續ノ三十四箇所（内六箇所ハ休工中ノモノ）ト新ニ著手ノ二十三箇所トノ五十七箇所及附帶工事繼續一箇所ト新ニ著手一箇所トヲ施工セリ今本年度ニ於ケル施工ノ狀況ヲ述ブレバ左ノ如シ

掘鑿 前年度ヨリ繼續施行ノ幹川ニ於ケル山寺、狩川、第一大河渡、小出川原、支川赤川ノ第四西山ノ各人力掘鑿及第二宮野浦機械掘鑿ノ六箇所、休工中ナリシ幹川ノ下瀨、竹田各人力掘鑿ノ二箇所、本年度著手ノ幹川筋第二大河渡人力初瀨機械掘鑿ノ二箇所、計十箇所ニシテ人力掘鑿工事ニ於テハ土運搬用トシテ人力馬匹ノ外二十噸機關車一臺、四噸ガソリン機關車一臺、三噸半ガソリン機關車一臺、三噸ガソリン機關車三臺ヲ使用シ機械掘鑿ニ於テハ掘鑿機二臺、機關車二臺ヲ運轉シ土量九十一萬二千四百四十三立方米ヲ掘鑿運搬シ年度内ニ狩川第一大河渡、竹田ノ三人力掘鑿及第二宮野浦機械掘鑿ヲ竣功セリ

浚渫 前年度ヨリ繼續セル宮野浦浚渫、休工中ノ下瀨浚渫及本年度著手セル第一酒田浚渫ノ三箇所ニシ

テ唧筒式浚渫船二隻ヲ運轉シ合計土量二十五萬一千三百六十九立方米ヲ浚渫セリ

築堤 幹川ニ於テ相澤、榎木、竹田、白ヶ澤、山寺、支川赤川ニ於テ地藏俟、鶴岡、成田、榊ノ内ノ九箇所ヲ前年度ヨリ繼續施工シ休工中ナリシ幹川ノ向小出、槇島ノ二箇所及幹川ノ九木原、狩川、第二九木原、赤川ニ於テ助川ノ四箇所ヲ起工シ全川ヲ通ジテ十五箇所ヲ施工シ年度内ニ土量六十六萬三千七百二十六立方米(内掘鑿土利用四十七萬二千八百八十九立方米)ヲ築立テ相澤、榎木、地藏俟、鶴岡、白ヶ澤ノ五箇所ヲ竣功セリ

尙本年度ニ著手セル最上川ト酒田港トヲ隔離スベキ地點ノ下瀬假締切工事ハ唧筒式浚渫船ヲ使用シ大部分土砂ヲ用ヒ年度内ニ竣功ヲ見ルニ至レリ

護岸 前年度ヨリ繼續施工ノ幹川亂流部ノ小出上川原、同下流部ニテ九木原、及休工中ナリシ第二宮野浦及支川赤川ニ於テハ第一西山新川、第二西山新川、護岸ノ五箇所ヲ續行シ新ニ幹川亂流部ニ屬スル小出川原、第二山寺及下流部ノ下瀬護岸、宮野浦假護岸ヲ赤川ニ於テ細谷、第三西山新川ノ六工事ヲ起シ年度内ニ第二宮野浦、第一西山、第二西山、細谷ノ各護岸及宮野浦假護岸ノ五箇所ヲ竣功セリ

法留 赤川新水路掘鑿砂丘法面ニ連柴網工竝ニ胡頹子ノ挿木ヲ爲シ法面ヲ保護スルモノニシテ前年度ヨリ引續キ施工ノ上段部ハ竣功シ更ニ第二、第三法留工ニ著手シ年度内ニ總計三萬一千九十平方米ヲ施工セリ

假床固 前年度ヨリ繼續施工ノ赤川新水路一箇所ニシテ大部分ハ前年度中ニ施工シ殘部分ノ柴工沈床ヲ施行シ年度内ニ竣功セリ

突堤 前年度ヨリ繼續施工ノ中央突堤(第一部)及本年度著手ノ中央突堤第二部(第一部ニ接續施工ノモノ)ニシテ年度内ニ基礎施工延長八六米一五、方塊据付甲號二百四十三個、乙號百七十三個、上部場所詰混凝土

一千四百七十三立方米、捨石一萬二百五十一立方米、木床三個ヲ沈設セリ

開門 酒田港ハ最上川右岸脊割堤ニ依リ本川ト遮斷セララルガ故ニ該川ヲ唯一ノ航路トシテ酒田町ニ往復セル諸船ノ水路連絡ノ目的ヲ以テ酒田町下瀬地内ニ施設スルモノニシテ前年度ニ於テ基礎工事ノ大部分ヲ終了シ引續キ施行年度内ニ竣功セリ

石材採取 立谷澤、黒川ノ二箇所ハ前年度ヨリ繼續施行ニシテ本年度著手ハ三崎、狩川ノ二箇所計四箇所ナリ突堤幹川下流部竝ニ西山新川ニ使用スル割石ハ主トシテ三崎地先ニ於テ採取シ曳船ニ依リ海上運搬ヲ爲シ立谷澤、狩川及赤川上流黒川地先ヨリ採取セル玉石ハ幹川上中流部及赤川ノ護岸水制工事に用トシテ共ニ船積運搬ニ依リ所要現場ニ配給シタルモノニシテ年度内採取量割石二萬一千七百立方米、間知石二千九百十八個、切石三百五十六個、玉石四千二百三十三立方米トス

砂利採取 前年度ヨリ繼續ノ第五回及新ニ著手ノ第六回、第七回ノ三工事ニシテ共ニ突堤用方塊製造場所詰混凝土材料ニ使用シ年度内ニ數量五千四百五十二立方米ヲ採取セリ

方塊製造 前年度ヨリ繼續ノ第三回及新ニ著手ノ第六回、第七回ノ三工事ニシテ年度内ニ甲號方塊三百三十八個、乙號方塊二百七十個ヲ製造セリ

附帶工事 前年度ヨリ繼續ノ古川樋門新設工事及幹川筋東田川郡狩川村地内ニ於テ荒鍋樋門新設工事にトノ二箇所ニシテ前者ハ年度内ニ竣功シ後者ハ基礎ノ大部分ヲ施行セリ

船舶及諸機械修理製作 當所附屬ノ機械工場ニ於テ専ラ施行セシメ年度内ニ製作シタル主ナルモノハ鐵管、鐵製ポンツン等又修理ノ主ナルモノハ浚漉船、曳船機關車、掘鑿機、土工用諸器械ニシテ工費七萬七千四百圓ヲ支出セリ

土地收用 工事施行ニ必要ナル範圍ニ止メ年度内買收ヲ終リタルモノ十町一段八畝二十四歩ナリ
 以上本年度ニ於ケル竣功額ハ八十萬六千二百四十七圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ九百十一萬二
 千三百六十一圓ナリ之ヲ總工費豫算額一千四百八十五萬圓ニ比スレバ六割一分ノ竣功ナリトス其工事
 竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「○」ハ赤川普通水利組合ヨリ提供「x」ハ土取出願者ヨリ提供「◎」ハ吉
 田堰普通水利組合ヨリ提供「△」ハ山形縣ヨリ提供「▲」ハ別設計採取製造ノ使用材料評價
 額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	11,333.5	1,921,949.9	9,121.4	1,444,121.2	20,454.9	3,366,071.1	0.711
浚深	640.6	167,833.3	251.3	46,245.5	891.9	214,078.8	0.330
築堤	2,365.2	511,309.9	2,157.8	81,801.1	4,523.0	593,111.0	0.65
護岸	81.0	181,844.4	31.6	8,371.1	112.6	190,215.5	0.18
突堤	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	0.10
開門	竣功	241,434.4	竣功	25,614.3	竣功	267,048.7	1.00
材料採取及製造	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	0.10
材料運搬	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	0.10
導水堤除却	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	0.10
用地費	5,277.7	2,066,392.2	5,072.2	2,743,331.1	10,350.0	4,809,723.3	1.00
附帶工事費	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	0.13
船舶及機械費	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	未竣功	0.13

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
測量費		二二、一七九		二二、三三三		二四、四一〇
營業繕費		一八三、七七七		三、七五四		一八七、五三一
雜費		九五四、四七三		九七、〇四二		一、〇五一、五一五
共濟組合給與金		三三、三五六		六、四一九		三八、七七五
總計		四三三、〇六〇		一三〇、四四一		五六二、五〇一
		八、三〇六、一四四		八〇六、二四七		九、一一二、三六一
		四八、九七五		三三、三三三		四八、九七五
		三〇、〇四二		一三、〇四四		三〇、〇四二
		三九、六〇六		一三、〇四四		五二、六五〇
		六、六〇二		一、三〇四		七、九〇六
		二、一七九		二、三三三		二、一七九
		一八三、七七七		三、七五四		一八七、五三一
		九五四、四七三		九七、〇四二		一、〇五一、五一五
		三三、三五六		六、四一九		三八、七七五
		四三三、〇六〇		一三〇、四四一		五六二、五〇一
						〇・六一

第六 江合、鳴瀬兩川改修工事

緒言

本川改修ハ大正六年度宮城縣ニ於テ起工シタル事業ニシテ同十年度ニ至リ明治三十年法律第三十七號ニ依リ内務大臣ニ於テ直接施行スル事トナレリ當初ノ豫算總額五百六十九萬二千圓ノ内縣施行額百三十一萬二千圓ヲ控除シタル殘額四百三十八萬圓ヲ以テ大正十五年度ヲ竣功期限トシ爾來繼續實施中ナリシガ大正十二年度ニ至リ河川法ニ依ル國ノ直轄工事トナリ同時ニ物價騰貴ニ因ル工費不足額ノ内百萬圓ヲ追加シ事務費ヲ分チ豫算ヲ更正シ工費總額ヲ六百四十七萬四千圓トシ昭和四年度迄ノ繼續事業ト定メタリ超エテ大正十四年度ニ至リ既往ニ於ケル工事施行ノ實績ニ鑑ミ物價騰貴ニ因ル工費不足額三百七十三圓ヲ追加シ工費總額ヲ一千二十萬四千圓トセリ其竣功年度ハ昭和十年度ト更定シタルモノナルガ更ニ昭和四年度ニ於テ施行年限ヲ一箇年度短縮シテ昭和九年度トシ且工費五萬圓ヲ減額シ總工費一千十五萬四千圓トナレリ前記工費總額ノ内國ノ施行工事費ハ八百七十六萬二千圓、同施行事務費八萬圓、縣ノ施行額百三十一萬二千圓ナリ而シテ改修區域ハ鳴瀬川ニ在テハ宮城縣志田郡高倉村ヨリ河口ニ至ル五十籽六、吉田川ハ黒川郡落合村ヨリ小川落口二子屋ヲ經テ鳴瀬川ニ沿ヒ河口ニ至ル三十一籽四又江合川ハ江合橋上流栗原郡宮澤村ヨリ下流志田郡荒雄村大字福沼ヨリ新川ヲ開鑿シ鳴瀬川ニ合流セシムル迄ノ七籽九ニシテ延長約九十籽ニ達ス

河狀並計畫大要

鳴瀬川流域ハ江合川流域ニ連リ其面積八百七十九平方糎ヲ有ス本川ノ最上流ヲ夕日川ト稱シ源ヲ陸羽國境宮城縣加美郡小野田村舟ヶ嶽ニ發シ同郡山間一帶ノ溪流ヲ合シテ流下シ保能川、田川、荒川、多田川ノ各支川ヲ容レ志田、遠田兩郡ノ平坦部ヲ貫流シ數多屈曲ノ後桃生郡小野村ヲ經テ同郡野蒜村ニ至リ海ニ注グ幹川ノ流路約九十糎ニ及ブ本川中治水ノ重要ナル區域ハ加美郡中新田町附近ヨリ海口ニ至ル約五十一糎ノ間ニシテ流心概シテ統一シ流勢亦緩和シ志田郡三本木町附近以下河床ニ砂礫ヲ見ルコト稀ナリ中新田町以下本川ノ右岸ハ山勢稍逼リ耕地廣カラザルモ左岸ハ末流約八糎ヲ除キ廣大ナル平野ニシテ洪水被害ノ大ナルモ亦此區域ナリトス

吉田川ハ源ヲ黒川郡吉岡町ノ西方北泉岳ニ發シ溪流ヲ集メ流程凡三十一糎ニシテ品井沼ニ入ル流域三百八平方糎、落合村附近ヨリ下流兩岸ハ概ネ堤防ヲ有シ新舊二個ノ潛穴ヨリ高城川ニ出デ松島灣ニ注グ江合川ハ北上川ノ一大支川ニシテ宮城縣玉造郡荒雄嶽ニ發源シ鬼首村ヲ過ギ大澤、大谷等ノ支流ヲ加ヘ同郡岩出山町ニ至リ漸ク平地ニ臨ミ鳴瀬川ト相竝ビテ東流シ遠田郡涌谷町ヲ經テ桃生郡前谷地村和淵ニ於テ北上川ニ合ス流路約九十八糎、流域六百三十二平方糎ヲ有ス本川ハ志田郡古川町北方江合橋附近ヨリ上流ハ一般ニ流勢急激ニシテ亂流ノ状態ヲ呈シ諸所ニ砂礫ノ寄洲アルモ同所ヨリ下流ハ河狀一變シ勾配大ニ緩ミ流心漸ク統一ス

今各川ノ灌溉面積竝ニ水害面積ヲ調査スルニ灌溉面積ハ鳴瀬川一萬二千ヘクタール、支川吉田川ハ七百ヘクタール、江合川ハ七千七百九十ヘクタールニシテ水害區域ハ鳴瀬川ニ於テ一萬四百九十ヘクタール、吉田川ニ於テ一千二百ヘクタール、江合川ニ於テ五千七百ヘクタールヲ算ス

改修計畫ハ鳴瀬、江合兩川筋ノ高水防禦ノ目的ヲ達シ竝ニ江合川ニ於テ江合橋以下約二十七糎ノ兩岸堤

防ヲ節約スル目的ヲ以テ荒雄村福沼ヨリ一條ノ新川ヲ開鑿シ以テ江合川ノ洪水全部ヲ導キ之ヲ鳴瀬川ニ合流セシメ鳴瀬川ハ河幅ヲ擴張整理スルト同時ニ堤防ヲ堅牢ナラシメ河積不足ノ所ハ掘鑿又ハ浚渫ヲ爲シ著シキ屈曲ハ之ヲ直通セシメ以テ江合、鳴瀬兩川洪水ノ全部ヲ快通セシメ傍ラ吉田川ハ之ヲ鳴瀬川ヨリ分流シ河口附近ニ於テ鳴瀬川本流ニ注ガシメ品井沼ノ湛水ニ因ル害ヲ輕減セントシ尙併セテ多田川ノ逆水被害ヲ防グ爲メ現在堤防ノ嵩置ヲ爲スモノナリ

計畫高水流量ハ鳴瀬川ニテハ新江合川合流點迄每秒一千五百三十立方米、新江合川合流點以下二千二百三十立方米、江合川一千三十立方米、吉田川五百六十立方米ナリ又河幅ハ鳴瀬川百四十五米乃至三百六十四米、新江合川ハ百二十七米、吉田川上流ハ九十一米乃至三百六十四米、下流ハ七十三米乃至八十二米ナリ築堤ハ其天端ヲ計畫高水位以上一米二トシ天端幅五米五、兩法二割トシ尙水流衝激ノ局部ニ對シテハ特ニ護岸工事ヲ施シ其他屈曲部ヲ緩和シ用惡水路ノ改築等ヲ圖ルモノナリ突堤ハ野蒜築港當時築造セシモノヲ利用増築スルモノニシテ東西兩突堤ニ於テ百八十一米ヲ延長ス

施工狀況

本川改修工事ハ大正六年度宮城縣ニ於テ起工シ江合川ノ舊川部、鳴瀬川筋支流多田川落合ヨリ上流部、吉田川筋粕川村ヨリ上流部ノ築堤工事ヲ大正九年度迄ニ完成シ大正十年度ニ至リテ其他ノ工事ヲ内務省ノ直轄事業ニ移セリ

直轄工事ハ大正十一年十月ニ至リ始メテ本工事ニ著手セリ爾來本年度迄ニ施行セシ區域ノ概要ヲ掲グレバ鳴瀬川ハ下流部ニ於テ河口ヨリ舊小川落合附近丁杭二里二十二丁ニ至リ、中流部ニ於テハ二里二十

二丁ヨリ上流鹿島臺村舟越、南郷村和田多沼地内六里一丁ニ至リ、上流部ニ在テハ松山町須摩屋、不動堂村地内六里十八丁ヨリ江合川新川落口九里四丁ニ至ル吉田川ハ下流野蒜運河附近零里十四丁ヨリ小野村川下地内一里二十五丁附近ニ至ル部分ト其上流松島町及鹿島臺村地内二里十五丁附近ヨリ三里零丁ニ至ル間竝ニ三里七丁ヨリ三里二十四丁品井沼排水路附近ニ至ル區域ナリトス而シテ施行工事ノ種類ハ堤外地ノ掘鑿、山地切取竝ニ築堤ヲ主トシ一小部分ノ護岸工事ヲモ施セリ

掘鑿機械ハスチームシヨベル二臺ヲ山地切取ニ、一立方米マリオン三十二番型ドラグラインエキスカブエーター二臺及短梯掘鑿機一臺ヲ土砂掘鑿ニ使用シ之ニ二十噸機關車四臺ヲ配屬セシメ以テ土石運搬ノ作業ヲ掌ラシム其他人力掘鑿積込ヲ爲シ小形ノ蒸汽機關車一臺竝ニガソリン機關車二臺ト人力及馬力トロ運搬畚擔等ヲ併用シ掘取土砂ヲ利用シテ築堤ヲ完成セシムル方針ニテ工事ヲ進行セシム而シテ大正十一年度以來移動土石ノ累計ハ四百八十萬四千六百六十立方米ニシテ内九十二萬九千二百四十四立方米ハ本年度ノ施行ニ係ルモノナリ

護岸工事トシテハ鳴瀬川筋小野村濱市地先ニ三百六十九米ノ石張法固、南郷村中屋敷地先ニ二百二十三米ノ混凝土張法固、同村二郷地先ニ三又梓水制五十三米三、鹿島臺村住在家地先ニ竝杭打水制六十五米五ニテ竣功セリ

附帶工事ハ鳴瀬川筋ニ於テ樋管六箇所、水路附替六箇所（樋管付隨施工分二箇所ヲ含む）此延長五千四百三十八米五、道路附替一箇所其長八百六十一米ヲ竣功シ橋梁一箇所ヲ施工中ナリ

土地買收ハ工事施行上急ヲ要スル部分ヨリ調査發表ヲ爲シ起工以來累計四百十七町歩ノ買收ヲ終ヘ本年度ニ於テ五十五町七段歩ノ發表ヲ爲セシガ手續未濟ノ爲メ十五町四段歩ヲ翌年度へ繰越スコトトナ

レリ

本年度ノ竣功額ハ總計七十萬十九圓ニシテ本年度迄ノ直轄施行額累計ハ四百十七萬二千九百七十九圓ナリ之ヲ總工費豫算額一千十五萬四千圓ニ比スレバ四割一分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	立方米 三、八七四、九一六	一、〇〇一、〇五五	立方米 九二九、二四四	二八八、六一〇	立方米 四、八〇四、一六〇	一、二八九、六六五	〇・五四
工事築	二、三三九、一六六	三、三三三、三三三	五三三、七四四	一〇、八八〇	二、八七二、九一〇	三、三三三、一三三	〇・四〇
費護	三六九米	五、九一八	二二三米	五、九九二	五九二米	一一、九一〇	〇・一一
用地	三、四一五段	九八九、〇六一	七五五段	二〇八、五〇六	四、一七〇段	一一、九七五、六六七	〇・五八
附帶工	未竣功	□	未竣功	九、五三〇	未竣功	五二、九七八	
直轄施行	未竣功	□	未竣功	五、三五六	未竣功	三六、五五七	
事費	未竣功	□	未竣功	二八、三三三	未竣功	二、八三三	
船舶及機械		七四五、七八四		一〇八、〇一三		八五三、七九七	
測量		七、五四四		二五六		七、八〇〇	
營繕		三九、八〇四		三、五一五		四三、三一九	
雜費		三〇、二七七九		六、一一七		三六、三九六	
共濟組合給與金		一、二、五〇一		三、六〇〇		一、六、一〇一	
總計		三、四七二、九六〇 三、一〇一、〇一〇		七〇〇、〇一九 五、三五六		四、一七二、九七九 三、六、五五七	〇・四一

第七 雄物川改修工事

緒言

本工事ハ當初大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費七百二十萬圓ヲ以テ施行スルモノナリシガ大正十二年度ニ至リ物價騰貴ノ爲メ總豫算工費ヲ一千百七十萬圓(内地方負擔額三百四萬七千圓)ニ増額シ其施行年限ヲ昭和六年度ニ延長セシガ偶々大正十二年九月一日關東大震災ニ因リテ五箇年度ヲ延長シ昭和十一年度迄ニ繰延べ施行中ナリシガ昭和四年度ニ於テ二十萬ヲ減額シ總豫算工費ヲ一千百五十萬圓トナシタリ

其改修區域ハ幹川ニ在リテハ左岸秋田縣河邊郡豐岩村、右岸同縣同郡川添村以下海ニ至ル間二十一籽及支川岩見川ニ在リテハ左右岸秋田縣河邊郡豐島村以下雄物川合流點ニ至ル間五籽計二十六籽ナリ

河狀並計畫大要

雄物川ハ流域面積四千八十平方籽、流路一千二百四十五籽(内幹川百四十九籽)、航路延長三百三十四籽(内幹川百三十七籽)、灌溉面積三萬九百十三ヘクタール(内幹川三千三百三十四ヘクタール)ヲ有シ水害區域二萬二千六百九十ヘクタール(内幹川一萬一千五十八ヘクタール)ナリ而シテ其沿岸ハ幹支川トモ無堤ノ部分多ク偶々一部ニ堤防ヲ見ルモ極メテ不規律ニシテ且河幅一定セズ殊ニ幹川ノ下流部ハ土崎港ニ至ル迄ノ流心不定加之屈曲甚シキヲ以テ洪水ノ際ハ毎々其疏通ヲ妨ゲラレ從テ支川岩見、旭ノ如キハ逆流ニ因ル水害著シク明治二十九年ノ汎濫區域一萬七千八百五十ヘクタールニ及ビ其損失價額實ニ一千三百萬

圓ニ及ビ其後明治四十三年ノ被害ノ如キモ亦三百十餘萬圓ニ達シタルノ實狀ナリ

本計畫ハ秋田市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トシ併セテ河口ヲ改善セントスルモノナリ而シテ計畫高水流量ハ幹川河邊郡川添村以下海ニ至ル間每秒五千五百六十五立方米、支川岩見川ハ豊島村以下幹川合流點ニ至ル間每秒五百五十六立方米ト定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ有セシムルモノトス而シテ河邊郡新屋町ニ於テハ現水路ヲ全ク締切り同町西方ノ丘陵ヲ橫斷シテ直路日本海ニ注グベキ長サ二千米餘ノ一大新水路ヲ開鑿ス其水面幅ハ高水時ニ於テ三百六十四米トシ上流ニ於ケル流路ニ對シテハ堤防ヲ築キ水積ヲ補ヒ屈曲ヲ矯メ水制ヲ設クル等諸般ノ施設ヲ爲スモノトス又締切堤ノ東方秋田市牛島町ニ閘門ヲ設ケテ航行ニ便シ之ヨリ以下舊川ハ幅五十五米乃至九十米ヲ限り低水時一米五ノ水深ヲ保ツ程度ニ浚渫ヲ加ヘ舟筏航行ノ用ニ供シ併セテ下流幹支川惡水排除ノ便ニ備ヘントス

土崎港ハ雄物川ノ土砂河口ニ流下シ來リテ堆積スルヲ以テ船舶ノ出入ヲ妨ゲラレ不良ノ狀態ニ陥ルノ虞アルヲ以テ差當リ現在出入船舶ノ狀況ニ鑑ミ之ニ適應スル程度ニ止ムルコトトシ突堤ヲ築キ浚渫ヲ爲シ以テ干潮面下四米五ノ水深ヲ保持セシムルモノトス

支川岩見川ハ其合流點附近ノ河狀不自然ナルガ爲メ一朝洪水ニ際シテハ其慘害怖ルベキモノアルヲ以テ現在ノ流末水路ヲ附替ヘ適當ノ築堤ト掘鑿トヲ施シ洪水ノ防禦ニ備フルモノトス

本工事施行部ハ前述ノ如ク多クハ無堤地ニ屬シ河幅一定セザルヲ以テ河狀ニ應ジ築堤ヲ以テ河幅ヲ制限ス即チ幹川ニテハ三百八十米乃至六百米、支川岩見川ニテハ四百四十五米乃至百八十米ナリ

堤防ハ幹支川共天端幅五米五、表法二割トシ天端以下三米五ニ幅九米、支川岩見川ハ三米五ノ小段ヲ設ケ以下三割法トス裏法ハ上部ヲ二割五分トシ天端以下二米五ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ夫ヨリ下部三割ト

ス而シテ法先ノ水中ニ没スル所ハ相當ノ犬走下埋ヲ施ス天端高ハ幹川ニ於テハ計畫高水位ヨリ一米五高トシ支川岩見川ニ於テハ一米乃至一米五トス新川下流突堤ニ接續スル部分ハ馬踏七米、表法一割五分ニシテ護岸工ヲ施シ裏法ハ二割トス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度ニ於テ一部ノ土地買收ヲ行ヒ同八年度ヨリ河邊郡新屋町地内新川開鑿工事ニ著手シ爾來十一箇年度間改修ノ主力ヲ此主要工事ニ傾注シ漸次上流部ノ施工ニモ及ボセリ追次工費用諸機械ノ設備漸ク完備充實ノ域ニ達シタリト雖モ年度割工費ノ減額ニ依リ本年度モ亦前年度同様充分ナル活動ヲ爲ス能ハザリキ

掘鑿工事ハ新川開鑿工事ニ於テ短梯掘鑿機三臺ヲ操業シ土量七十五萬九千二百七十五立方米ト外ニ人力掘鑿土量八萬三千八百八十五立方米ヲ施行セリ本年度計八十三萬九千六百六十立方米、起工以來ノ累計九百四十萬八千五百四十九立方米ニシテ新川開鑿計畫土量ニ對シ六割八分ヲ竣功セリ其他ハ一箇所ニシテ四ツ小屋第二掘鑿六萬八千六百六十立方米ノ掘鑿運搬ヲ爲シ本年度合計九十萬五百二十立方米ナリ築堤工事ハ本川筋ニ於テ石田坂第二築堤ハ二萬一千九百九十六立方米、用土ハ全部附近民有地ヨリ無償採取搬入、四ツ小屋第二築堤ハ五千九百九十九立方米、支川ニ於テハ岩見川右岸第一、第二築堤五萬三千四百七十一立方米ヲ施行ス石田坂ヲ除キ他ハ皆其部所掘鑿土ヲ利用セリ本年度合計八萬一千三百六十七立方米トス

新川開鑿部ニ於ケル法留工ハ本年度ハ主トシテ法切等ノ土工ニ從事セル爲メ芝付面積少ナク五百二十

平方米ニ過ギズ累計六萬六千八百七十二平方米ノ芝張ヲ施工セリ
 本川土崎港口ニ於ケル假突堤ハ水流及漂砂移動等調査ノ目的ヲ以テ施工中ノモノナリシガ愈々南突堤
 及北突堤施工ノ時期ニ到達セルヲ以テ昭和四年七月三十一日打切竣功ト爲セリ南突堤ハ同年八月一日
 著手沈床工一千四百七十平方米捨石工八百六十七立方米ヲ施工シ北突堤ハ十一月一日ニ著手捨石工百
 九十九立方米ヲ施行セリ

工所用石材採取ハ本年度一千九百六十四立方米ニシテ所要地ヘノ運搬量一千六百七十八立方米餘ナリ
 附帶工事ハ石田坂樋門新設及水路附替工事ハ前年度ニテ大部分施工済ニシテ本年度ハ僅カニ其殘工事
 ヲ施行シ昭和四年六月竣功セリ又本年度新ニ支川岩見川筋右岸四ツ小屋村地先ニ四ツ小屋樋管新設工
 事ヲ施行セリ同部落排水路ハ計畫新堤ニ遮斷セラルルヲ以テ鐵筋混凝土造内徑九十糎ノ樋管ヲ敷設ス
 ルモノニシテ四年九月著手同十一月竣功セリ

土地買収ハ前年度ト同ジク工事上必要缺クベカラザル程度ニ止メ本年度完了セルハ十一町三段其金額
 四萬九千三百十四圓ナリ

改修工事ノ本年度竣功高ハ四十萬八千七百五十圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功高ハ六百六十六萬三
 千百五十九圓ナリ故ニ總工費豫算額一千百五十萬圓ニ對シ五割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ
 但シ表中「ロ」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合 計		竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
(掘)							
	九、六二一、〇九五		九、〇〇、五二〇	一、六八、五九三	一〇、五二一、六一五	二、三三六、一八四〇	〇・六九
	<small>立方米</small>		<small>立方米</small>		<small>立方米</small>		<small>割分</small>
		二、一、九三、二四七					
		円		円		円	

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	測量費	船舶及機械費	工事費 （管理者施行）	附帶 直轄施行	用地費	工事費		築堤
									突堤	護岸水制	
									未竣功 二	未竣功 三、五一二 箇所	七九六、七九二
											九三八
六、二五四、四〇九 三三三、九一七		二二、二九一	七二一、五七三	一〇四、四九九	四六、三〇四	二、四一〇、七四八					五九、五二六
									未竣功 三	未竣功 一、一三三 箇所	八一、三六七
											一六、一三六
四〇八、七五〇 一、二九五		四、二六七	六五、八三三	一、七四五	一、八三六	九二、二五六					一、六八一
									未竣功 四	未竣功 三、六二五 箇所	八七八、一五九
											九三八
六、六六三、二五九 三五、二一一		二五、五五八	七八七、四〇六	一〇六、二四四	四八、一四〇	二、五〇三、〇〇四					七五、六六二
											六七、七二六
											三九、一七五
											〇・七八
											〇・四五
〇・五八											

第八 淀川改修増補工事

緒言

淀川改修工事ハ明治二十九年年度ニ起リ同四十三年度ニ於テ工費一千六萬餘圓ヲ以テ滋賀縣瀬田川以下海ニ至ル高水工事ヲ一旦結了シタルモ大正六年十月計畫高水ニ達スル大出水ニ際シ右岸大冠村地先淀川本堤竝改修區域外ナル支川數箇所ニ破堤ヲ生ズルニ至レリ之レガ爲メ直接損害高六百餘萬圓ニ上レリ其他交通衛生ノ障害ニ因ル間接ノ影響ハ實ニ計數ヲ以テ揣リ難キモノアリ政府當局ニ於テモ此慘害ニ鑑ミ尙増補工事ヲ行ヒ安全ヲ計ルノ緊急ナルヲ認メ京都府伏見市以下ニ對シ大正七年度以降同十二年度ニ至ル六箇年度間繼續事業トシ工費五百七十六萬圓俸給事務費二十一萬圓合計五百九十七萬圓ノ豫算ヲ以テ高水工事ヲ施工スルコトナレリ其後歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ物價勞銀暴騰ノ爲メ大正十二年度ニ於テ施行年限ヲ大正十五年迄三箇年度延長スルト共ニ工費ヲ一千二百一萬三千五十一圓ニ増額スル事トナリシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度以降年割額ヲ變更シ施行年限ヲ一箇年度延長シ昭和二年度竣功ノ豫定ヲ以テ施行中ナリシガ尙追加施行ノ必要ヲ生ジ翌三年度ニ於テ工費増額二百五十五萬七千圓施行年限延長三箇年度即チ總工費一千四百五十七萬五十一圓ニシテ昭和五年度竣功ト定メシモ更ニ本年度ニ於テ年割額ヲ變更シ施行年限ヲ一箇年度延長シ昭和六年度竣功スルコトナレリ

河狀竝計畫大要

淀川ハ流域八千二十平方料ニシテ其内五割弱ハ琵琶湖ノ水域、二割ハ木津川、一割三分ハ桂川、殘餘ノ二割

弱ハ本流沿岸ノ水域ニ屬ス幹川流路ノ延長ハ湖水流出口、伏見間三十軒、伏見以下海口間四十六軒、合計七十六軒ニシテ其滋賀縣ニ屬スル部ヲ瀬田川、京都府ニ屬スル部ヲ宇治川ト稱ヘ京都、大阪兩府界ナル山崎ニ於テ宇治、木津、桂ノ三川合流シテ淀川本流トナル

流域内耕宅地ノ總面積ハ約十九萬八千ヘクタールトス其内沿岸平坦部ハ琵琶湖沿岸三萬四千七百ヘクタール、山城平地部一萬五千九百ヘクタール、攝河平野三萬四千七百ヘクタール、合計八萬五千三百ヘクタールニシテ本川改修ト密接ノ利害關係ヲ有スルモノナリ

既往調査ノ結果ニ依レバ洪水ノ最大流量ハ宇治川毎秒八百三十五立方米、木津川四千六百五十立方米、桂川一千九百五十立方米、三川合流以下淀川本流五千五百六十立方米トス低水流量ハ淀川本流平均低水位ニ於テ毎秒百九十五立方米餘ニシテ如何ナル渇水時ト雖モ八十三立方米ヲ下ルコトナシ但シ渇水ノ大部分ハ宇治川ヨリ來ルモノニシテ琵琶湖貯水ノ放流ニ依ルモノナリ

今回ノ改修區域ナル伏見以下幹川ノ水面勾配ハ高水低水共ニ概ネ三千分ノ一以下ノ緩流ニシテ舟運上最モ利用サルル區域ナリ増補工事ノ計畫ハ大正六年十月ノ洪水ニ鑑ミ第一、伏見觀月橋以下ニ於ケル堤防ノ餘裕ヲ同年ノ洪水位以上一米二乃至一米五ニ増築スルコト第二、伏見市ノ浸水ヲ防止スル爲メ新堤ヲ築造スルコト第三、三川合流附換ヲ爲スコト第四、橋本下流ニ在ル中洲ヲ除去スルコトヲ主要ナル工事トス尙前改修ニ於テ包含セザリシ各支川堤防モ幹川洪水ノ及ブ範圍ニ限り相當補強スルコトトセリ

幹川堤防ハ天端幅大體五米五、所定高水位以下零米六及三米三ノ處ニ各幅三米七ノ裏小段ヲ同上三米ノ處ニ幅九米一ノ表小段ヲ設ケ法勾配ハ表小段以上二割、同以下三割、裏上部小段以上二割、同以下二割五分ヲ標準斷面トシ地形及地質ニ應ジ小段ニ多少ノ變更ヲ爲ス大體ハ外腹付ナルモ地形上之ヲ許サザル區

間及屈曲矯正箇所ハ内腹付トス

三川合流以下堤防高ハ所定高水位以上一米五トシ非常特別流量毎秒六千六百八十立方米ヲ疏通シ猶堤防ニ九十種ノ餘裕ヲ保タシメントス而シテ宇治川筋ハ木津川合流點附換ニ依ル水位低下ヲ豫想シ所定高水位以上一米二ニ止ムルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年五月調査測量ヲ開始シ同年末略之レヲ終ヘ同八年二月ヨリ大阪府枚方町ニ改修事務所ヲ開設シ工事ニ著手セリ爾來水防上比較的不安ナル重要區域ニ對シ先ヅ以テ工事ヲ進ムル方針ニテ人員及土工機具ヲ配置シ專ラ築堤中洲掘鑿及護岸ノ普及ヲ計レリ

本年度迄ノ竣功總高ハ筑堤八百八十一萬九千餘立方米、掘鑿及浚渫五百八十六萬餘立方米、護岸水制延長四萬七千八百餘米、閘門洗堰及樋門等ノ特種工事九箇所ニシテ其内本年度竣功高ハ築堤二十七萬四千餘立方米、掘鑿及浚渫十五萬一千餘立方米、護岸水制延長二千七百餘米、特種工事三箇所ナリ

以上本工事ノ竣功總高ハ計畫全量ニ對シ略九割六分ニ當ル此外用惡水樋門、道路、橋梁等ノ附帶工事モ大部分竣功シ目下施工中ニ屬スルモノハ左岸枚方以下八樋管其他ニシテ數フルニ過キズ今之レガ施工ノ概況ヲ上流部ヨリ順次述ブレバ次ノ如シ

伏見横大路向島方面 此方面ノ主ナル工事ハ伏見締切新堤竝ニ之レニ伴ヒ必要ヲ生ジタル派川平戸川締切樋門、三栖閘門及洗堰、高瀬川附換、京都市疏水放水路新設、電車橋二箇所、府道橋三箇所ニシテ其他ハ在來築堤ノ嵩置腹付竝ニ伏見及横大路護岸等ナリ

以上ノ中本年度ニ於テ其大部ヲ竣功セシメ目下工事中ニ屬スルモノハ三栖地先舊高瀬川流末締切工事ナリ

築堤ハ總テ堤外中島機械掘鑿土砂ヲ使用スルモノニシテ本年度迄ノ掘鑿運搬土量ハ八十四萬九千餘立方米ニシテ本年度ノ運搬土量ハ六萬餘立方米ナリ目下引續キ工事中ニシテ土量ハ高瀬川築堤ニ使用シツツアリ

高瀬川附換關係ノ工事ハ築堤其他ノ土運搬約六十八萬立方米餘ヲ終ヘ目下殘工事ノ進行ニ努メツツアリ前年度迄ニ新川横斷ノ府道橋二箇所及京阪電車橋其他用惡水樋五箇所竣功シ本年度ニ於テ府道橋一箇所竣功シ伏見市道橋二箇所ハ目下工事中ニ屬ス疏水放水路工事ハ上流分流點ニ於ケル制水門ヲ除キ其他ハ竣功セリ此方面ノ工事トシテハ僅ニ高瀬川裏護岸及三栖締切堤工事其他ニシテ昭和五年度ニ於テハ其完成確實ナリ

宇治木津桂三川合流方面 三川合流附換工事ハ宇治川ニ對スル木津川ノ洪水ノ害ヲ緩和スル目的ニシテ現在ノ宇治、桂隔流堤ノ上半ヲ切り取り之レニ宇治川低水路ヲ通シ殘部下半ヲ現在ノ木津、宇治兩川末端、劔先堤防ニ取付クルモノナリ之レニ伴ヒ施行スベキ工事ハ桂川右岸山崎引堤、桂川低水路ノ附換、宇治川新低水路ノ開鑿、宇治、桂脊割堤竝ニ用惡水路樋門移築等ノ工事ニシテ此掘鑿運搬土量約百二十萬立方米、護岸延長約七千米、總工費約百萬圓ナリ

桂川低水路附換ハ昭和二年度末ニ於テ舊川締切新川通水ヲ行ヒ宇治川新低水敷開鑿工事ハ昭和二年度ヨリ著工シ昭和三年二月十日始メテ新水路ニ通水ス之レヨリ先キ舊宇治川流末一部ノ締切ニ著手シ新水路ニ通水ト同時ニ之レガ締切ニ主力ヲ注ギ隔流堤裏護岸ヲ兼用シテ沈床工ヲ施行シ同年二月十九日

完全ニ流水ヲ遮斷スルニ至レリ茲ニ於テ現在宇治川ヲ遮斷シテ長約六百米ノ隔流堤築造ニ全カヲ傾注シ前年度末迄ニ全土工ニ對シ八割ノ功程ヲ舉ゲ本年度殆ンド竣功セリ本年度ニ於テハ隔流堤保護ノ爲メニ木津川流末右岸ニ水制工ヲ施行スルコトトシ目下工事中ナリ宇治、桂兩川新低水路間ノ背割堤土工及護岸ハ前年度ニ引續キ施行シ來リ本年度ニ於テ沈床ヲ殘シ殆ンド竣功セリ此外八幡町地内淀川本筋左岸築堤護岸及木津筋兩岸築堤ハ既ニ完了ス此築堤土量二十七萬五千餘立方米、護岸延長一千九百米ナリ

樟葉、牧野、島本、五領方面 此方面ノ工事ハ在來ノ堤防ニ對スル嵩置腹付中島掘鑿及護岸ニシテ起工以來引續キ施行ノ結果略々竣功セリ京都及大阪府界ニ近キ京阪電車軌道併用堤防四百米ノ箇所モ本年度竣功セリ掘鑿土量ハ樟葉村六十萬九千餘立方米、牧野村六十三萬餘立方米、島本村十七萬三千餘立方米、五領村三十四萬三千餘立方米、合計百七十五萬餘立方米ニ達ス此内機械掘鑿約百萬立方米ニシテ掘鑿土砂ハ大部分築堤ニ利用セリ護岸ノ主ナルモノハ上牧護岸延長四百五十五米、前島護岸延長一千七百米合計二千五百五十五米ナリ尙此方面ノ附帶工事トシテハ牧野村新樋改築工事ヲ殘スノミナリシモ本年度竣功セリ枚方、大冠、三箇牧方面 此方面ハ水防上重要區域ナルヲ以テ大正八年著工以來極力築堤土工ノ進捗ヲ計リ表小段上九十糎迄ノ腹付ハ既ニ十年迄ニ大體終了シ大正十年九月ノ出水ハ枚方標最高五米四十四糎ヲ示シ同六年ノ大洪水ニ比シ僅ニ十二糎ノ下位ニシテ天端以下一米ニ達スル大出水ナリシモ水防上危險ト認ムル事ナカリキ其後機械掘鑿土砂ヲ利用シ計畫天端高迄ノ嵩置腹付ヲ施シ昭和元年度迄ニ本支川殆ンド竣功シ僅ニ枚方築堤上段ノ殘工事アルノミニシテ昭和五年度中ニハ完成ノ見込ナリ新淀川方面 左岸築堤ハ大正十四年度ニ著手シ下流傳法町ヨリ上流ニ向ツテ工事ヲ進メ前年度竣功セ

リ土量三十六萬一千餘立方米ナリ右岸新淀川第一築堤ハ昭和元年度同第二築堤ハ本年度ニ於テ著手シ下流ニ向ツテ進ミ本年度末迄ニ三十五萬二千餘立方米ノ土運搬ヲ終リ右岸全築堤ニ對シ六割ノ功程ニ達ス

毛馬閘門及洗堰補修工事ハ昭和三年十一月著工日夜工ヲ急ギ前年度末ニ於テ閘門ハ制水扉室ノ築造及壁體繼足ノ大部ヲ了シ閘扉ノ補修取付ヲ完了セリ洗堰ハ移動締切棒ヲ使用シ堰柱ノ繼足ヲ爲スモノトシ前年度末迄ニ左右橋臺及堰柱四本ノ繼足ヲ略完了シ本年度ニ入り殘部ノ竣功ヲ見タリ

昭和三年度ニ於テ長柄地先洪水敷掘鑿ヲ了シ茲ニ床固水制ヲ施設スルト共ニ長柄固定堰天端ノ切下ヲ施工セリ長柄起伏堰上下流ノ低水路護岸ハ延長八百四十米ニ互リ前年度末ニ於テ殆ンド完了シ本年度全部竣功ス長柄運河給水樋門工事ハ昭和四年十月著工シ日夜工ヲ急ギ本年度末迄ニ大部ノ完了ヲ見タリ

附帶工事 附帶工事トシテ施行セル工事ノ起工以來本年度末迄ノ竣功工費二百十九萬八千餘圓内國庫補助額百四十餘萬圓施行場所五十八箇所ニシテ本年度竣功高ハ工費三十八萬圓内國庫補助額三十二萬餘圓施行場所五箇所ナリ

本年度著手ノ附帶工事中主要ナルモノハ淀川左岸八樋管統一用水路工事ニシテ多年淀川治水ノ懸案ナリシモ漸ク昭和四年十年組合ノ成立ヲ見同年十一月中旬著工セリ本工事ハ二箇年度繼續事業トシテ成立セルモ現在樋管ノ脆弱ニシテ一日モ速ニ之レヲ撤去スルノ急務ナルヲ痛感シ舊樋ノ撤却ト新水路ノ開鑿トヲ併行急施シテ凡ソ六箇月ニ完成シ次年灌漑ニ支障ナカラシムルコトトセリ即チ十一月中旬準備ニ著手シ爾來日夜工ヲ急ギ本年度末迄大部ノ工事ヲ完了セルヲ以テ昭和五年四月下旬新水路ニ通水

見込確實トナレリ其他本年度竣功又ハ工事中ノ附帶工事ハ京都府道橋、高瀬橋、伏見市道橋、三雲橋、用人橋、牧野村新樋ニシテ伏見市道橋ヲ除キテハ何レモ本年度内竣功セリ

用地買收 起工以來本年度迄ノ總支出額ハ百七十六萬九千餘圓ニシテ其内田畑三百三十一町餘段其價額百四十萬一千餘圓、宅地工場敷地ハ二町八段餘其價額八萬七千四百餘圓、雜種地六十八町餘段其價額十一萬三千三百餘圓、地上物件移轉補償等十六萬八千餘圓ニシテ何レモ圓滿ニ各所有者ノ應諾ヲ得タルモノナリ本年度ニ於テ協議買收ノ見込無キモノ一件ニ對シ收用法ヲ適用セリ

以上工事ノ狀況ヲ綜合スルニ京都府下ニ於テハ伏見觀月橋以下本川筋兩岸ノ築堤護岸等ハ大略終了シ三川合流附換關係工事モ進捗シ殆ンド其主要部分ノ工事ヲ完成セシメタリ大阪府下ニ於テハ京都府界以下左岸ハ殆ンド竣功シ右岸モ大阪市姫島町ニ至ル間ノ諸工事ヲ完成セシメ全改修工事ニ於ケル主要ナル工事ハ殆ンド完了セリ且多年懸案ノ左岸八樋管合同工事モ目下工事中ニシテ來年度初期ニハ完成ノ見込ニシテ殘餘ノ工事モ昭和五年度中ニハ大體完了ノ見込ナリ

淀川増補工事ノ本年度竣功額ハ九十二萬七千九百三十三圓ニシテ起工以來ノ累計一千三百九十四萬七百五十八圓ナリ之レヲ總工費豫算一千四百三十五萬七千四百七十七圓ニ比較スルトキハ九割七分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量、「○」ハ無代價品評價額、「▲」ハ提供品價額及勞力費、「×」ハ占用補償、「□」ハ管理者負擔額、「△」ハ製作品使用價額、「●」ハ千住機械工場委託製作品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	
	數	金額	數	金額	數	金額	數	金額
築堤	* 三、八四一、〇七三 四、七〇三、九四九	立方米 二、四五八、二二六 二、五七〇、二二二	* 一、三二一、九二二 一、四二二、六四八	立方米 九三、七九六 七五、七五	* 三、九七二、九九五 四、八四六、五九五	立方米 二、五五二、〇二二 二、七三〇、四七二	○ 〇、九七	四分

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘鑿	五、五四九、二八七 立方米	一、六七四、七二五 四、二八二、二五〇	一、二七三、三三三 立方米	五、二六九、九四三 一、五三三、四一〇	五、六七六、六〇八 立方米	一、七二七、〇七九 四、四一三、七九〇	〇・九八
工事濶	一五九、五八三	六、二四三、八三三	二四、二四五	一、一八三、三九	一八三、八二八	七、四二七、二二二	〇・九八
護岸水制	四五〇、九九九 米	一、六三七、三〇四 四、四二二、六六六	二七、三三三 米	九四四、四一五 三、一六三、二六	四七八、三三三 米	一、七三三、一七九 四、七四二、九三二	〇・九八
特種工事	×	×	×	×	×	×	〇・九五
用地費	四〇一、一段 四九所	一、七四七、八五九 四、一五六	五段 三六所	一、五三三、九五七 三、一五七、四	四〇一、一段 四六所	一、七六五、七〇五 四、一五六	〇・九五
附帶工事費	未竣功	一、〇八一、〇一〇 三、八八三、三三三	未竣功	三三〇、〇〇一 五、三三二、五〇六	未竣功	一、四〇一、〇一〇 四、一五六	〇・九五
船舶及機械費	未竣功	二、三五八、二二四 一、九二二、二四	未竣功	五八、七六六 五、三三二、五〇六	未竣功	二、四一六、九八〇 一、九二二、二四	〇・九五
測量費	〇	五、三三四	〇	五、三三四	〇	五、三三四	
營繕費	〇	一、七〇〇、二〇〇	〇	七、七五四	〇	一、七七七、七四	
雜費	〇	一、一四三、五三七 九六二	〇	一〇五、八六二 一、八八八	〇	一、二四九、三九九 一、八八八	
亡失毀損	〇	一、〇〇五	〇	五、三二五	〇	一、〇〇五	
共濟組合給與金	〇	四四、八二四	〇	〇	〇	五〇、一三九	
總計	〇	一、二、九九三、六〇一 三、八八三、四七八 一、九二二、三三四	〇	九、二七、九三三 五、三二、八〇五	〇	一、三、九九二、五三四 四、四一七、七四三 一、九二二、三三四	〇・九七

第九 多摩川改修工事

緒言

本工事ハ當初明治三十年法律第三十七號ニ依リ河川改良費トシテ大正七年度ヨリ同十四年度ニ至ル八箇年度繼續事業トシ工費五百六十萬圓、事務費二十八萬圓、計五百八十八萬圓ヲ以テ左岸東京府北多摩郡砧村右岸神奈川縣橘樹郡高津村以下東京府荏原郡羽田町地先海ニ至ル約二十二軒ヲ改修スル計畫ナリシガ歐洲大戰以來勞銀及諸物價ノ昂騰著シク到底當初ノ豫算ヲ以テ遂行シ能ハザルニ至レルヲ以テ同十二年度ニ於テ改良費ヲ治水費ニ改メ河川法第八條ニ據リ施行スルコトトナリ同時ニ總工費ヲ七百七十六萬二千圓、事業費七百五十五萬七千九十二圓、事務費二十萬四千八百八圓ニ増額シ施行年限ヲ昭和三年度迄トセシモ同年九月一日ノ大震災ニ依ル一般事業繰延ノ結果尙二箇年度ヲ延長セシガ昭和四年度ニ至リ財政上ノ關係ニ依リ工費二十四萬圓ヲ減額スルト共ニ施行年限ヲ更ニ同六年度迄延長シ十四箇年度ノ繼續事業トセリ

河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山本谷ニ發シ小菅、日原ノ溪流ヲ合セ東流青梅町ニ至リ右折シテ東南ニ向ヒ更ニ秋川、淺川ノ二支川ヲ合流シ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ流レ下流東京府荏原郡羽田町ニ至リ海老取、八幡等數條ノ濬ヲ分岐シテ東京灣ニ注グ流路延長百二十八軒、流域一千六十四方軒ニ過ギザルモ其清流ハ東京市ヲ初メ附近一帶ノ飲料水トシテ上水ノ源ヲ爲ス外沿岸ノ灌溉下流部ノ舟楫等其利便

尠シトセズ然レドモ其水路ハ京濱間ヲ貫流スルヲ以テ利害ハ直接帝都ニ係リ一朝溢水破堤ノ慘ヲ見ンカ其損害實ニ甚シキモノアリ今既往明治四十三年ヨリ大正八年迄ニ於ケル水害損失額ヲ算スレバ一年平均約五十萬圓ヲ下ラザルノミナラズ交通ノ杜絶、衛生其他ニ因ル損害ニ至テハ蓋シ揣ルベカラザルモノアルベシ

計畫流量ハ既往ノ高水流量ヲ參酌シテ定メタル毎秒四千七百七十立方米ヲ快疏スベキ河積ヲ有セシムル爲メ從來ノ無堤、霞等廣狹一樣ナラザルモノヲ河狀ニ應ジ上流三百八十三米、河口五百四十五米ノ間ニ河幅ヲ整正シ其兩岸ニ天端高ヲ計畫高水位上一米五トシ天端幅五米五、兩法各二割川裏ニ一米八下リテ三米ノ小段ヲ附シタル堤防ヲ新設又ハ舊堤ヲ擴築シテ其高水敷ヲ定メ障害物ヲ除却シテ流水ヲ圓滑ナラシメ尙河積不足ノ箇所ハ掘鑿或ハ浚渫ヲ施シテ之ヲ補フコトトセリ低水路ハ下流地方ノ狀勢ニ鑑ミ上流ニ於テハ平均干潮時水深一米五、底幅七十三米トシ漸次増大シテ河口ニ至リ水深三米六、底幅百四十六米ニ達セシメ以下落筋ニ於テ水深三米六、底幅百九米ヲ保持セシムルコトトセリ其他若干ノ排水路樋門並水路附替等ノ附帶工事及水流急ナル箇所ニハ護岸工事ヲ施行ス

施工狀況

本工事ハ大正七年度創業直ニ施行準備トシテ實地調査ニ著手シ同八年四月川崎市小向（元橋樹郡御幸村）ニ土地收用事務所ヲ設ケ同年度ニ於テ全部ノ査定ヲ終ヘ同十三年十一月迄ニ九割以上買收セルヲ以テ同月限リ事務所ヲ閉鎖シ殘餘ハ改修事務所ニ於テ處理スルコトトセリ而シテ本年度迄ニ買收セシ總段別ハ計畫ノ九割九分即チ四百二十五町六段步餘ニシテ用地費二百五十五萬六千七百八十一圓ヲ要セリ。

工事施行ニ關シテハ大正八年六月改良事務所(大正十二年度多摩川改修事務所ト改稱、同十四年度川崎市久根崎ニ移轉ス)ヲ同所ニ設置シ實地測量ヲ行ヒ同九年度ヨリ掘鑿及築堤工事ニ著手セリ
掘鑿工事ハ河狀掘鑿ノ高低土量ノ多寡等ヲ考察シ先ヅ屈曲ノ最モ甚シキ箇所ヨリ起工スルコトトシ同年十月人力掘鑿ヲ開始スルト共ニ機械ノ購入其他施工準備ニ努メ同十年十月ヨリ機械掘鑿工事ヲ起シ次テ同十三年四月ヨリ鋤簾式及唧筒式浚渫船ヲ使用シ低水路浚渫ニ著手セリ而シテ本年度迄ノ工程ハ總土量七百五萬四千三十六立方米ヲ算シ計畫ニ對シ九割八分ノ竣成ヲ見ルニ至レリ
築堤工事ハ總テ掘鑿土ヲ利用セル爲メ掘鑿工事ノ進捗ハ併セテ築堤工事ノ促進トナリ逐次築立及芝付ヲ施工シ上流砧村、下流羽田町地先ヲ除クノ外ハ殆ンド完成シ計畫ニ對シテハ是亦九割四分ノ竣成ヲ告ゲ殊ニ羽田町地先一千六百三十二米ノ間ハ土地ノ情況ニ鑑ミ舊堤表法肩ニ高水位上一米ノ鐵筋煉瓦ノ胸壁ヲ築設シ數箇所ニ陸闌ヲ設置セルヲ以テ舊堤ハ完全ナル道路ニ利用セラレ交通上ハ勿論其他該町民ノ裨益スル所蓋シ尠少ナラザルベシ

本年度ニ於テハ工費年割額削減ノ結果豫定ノ工程ヲ見ルコト能ハザリシモ左ニ其概況ヲ述ベン
浚渫工事ハ左岸六郷、羽田、右岸川崎ノ各市町村地先ニ於テ低水路浚渫四箇所、川崎地先ニ機械掘鑿一箇所、左岸砧、東調布、矢口、六郷、羽田、右岸川崎ノ各市町村地先ニ人力掘鑿九箇所ヲ施工シ内川崎地先ニ於ケル機械浚渫、人力掘鑿各一箇所、矢口及六郷地先ニ於ケル人力掘鑿各一箇所竣功シ土量三十四萬一千八百五十立方米ヲ舉ゲ其他ハ未竣功ニ終レリ

築堤工事ハ左岸玉川、東調布、矢口、六郷、羽田地先ニ於テ十箇所ヲ施工シ内矢口、六郷地先ニ於テ各一箇所、羽田地先ニ於テ五箇所ノ竣功ヲ告ゲ右岸ハ高津、中原、川崎地先ニ五箇所ヲ施工シ全部竣功セシメタル外全

區域ニ互リ堤防坂路法保護工事ヲ施行セリ

附帶工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノ左岸玉川、矢口兩地先各一箇所、右岸川崎地先ノ四箇所ハ何レモ年度内竣功シ本年度著手ノ左岸六郷地先水門及羽田地先排水樋管十四箇所ハ前者ハ未竣功ナルモ後者ハ全部竣功セリ

上記諸工事に用機械器具ノ修理及製作ハ大正十年四月改修事務所内ニ修理製作工場ヲ設置シ之ニ當ラシメ同十四年十二月迄繼續シ來リシモ作業ノ益々繁多トナルニ及ビ偶々改修事務所移轉ヲ機トシ從來ノ規模ヲ擴張シ事務所ト同一敷地内ニ獨立工場ヲ設ケ作業ヲ續行セリ

本川沿岸ハ概ネ低地ニシテ濕潤荒蕪ノ地散在シ其發展ヲ阻碍セラルル所尠カラザリシガ當改修工事ノ施行セラルルニ及ビ其剩餘土ヲ利用シ土地ノ改良ヲ企テ捨土出願スル者續出スルニ至レルヲ以テ剩餘土處分法トシテ最モ好適ナルヲ認メ多クハ其希望ヲ容レ捨土運搬ニ要スル材料及勞力其他ヲ提供セシメ大正九年度以降實施シ來レリ之レガ爲メ改良セラレタル土地ハ實ニ四百七十町步餘ニ及ビ沿川附近ハ工場或ハ住宅地ト化シ道路ノ改善、交通機關ノ設備等相俟テ其面目ヲ一新シ沿岸ノ發展ハ眞ニ隔世ノ觀アルニ至レリ

本年度竣功高ハ三十三萬五千七百四十二圓ニシテ創業以來ノ累計ハ六百七十萬一千六百九十五圓トナリ之ヲ總工費豫算七百五十二萬二千圓中大正十一年度迄ノ事務費二十萬四千八百八圓(十二年度以降ノ事務費ハ治水事業費事務費ニ編入)ヲ控除シタルモノニ比較スルトキハ八割九分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中*ハ利用土量、×ハ材料採集費支辨砂利及石材價額、△ハ船舶及機械費支辨製作品及評價品價額、□ハ管理者負擔額、▲ハ提供材料及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
築堤	* 二、四三三、三九一 立方米	二、四三三、三九一	* 二、五〇〇、四二二 立方米	二、五〇〇、四二二	* 二、四五八、四三三 立方米	二、四五八、四三三	二、七二二、八〇七	〇・九四
濬深	六、七一一、一八六	一、二二九、四二五	三、四一八、五〇〇	三、四一八、五〇〇	七、〇五四、〇三六	一、二二八、二九四	一、二二八、二九四	〇・九八
護岸	五、〇八八	一、八、六三八	米		五、〇八八	一、八、六三八	一、八、六三八	〇・八〇
工事費	二〇、〇〇〇 立方米	三、五、九六六	立方米	三、七三二	二〇、〇〇〇	三、九、六九八	三、九、六九八	
砂利採集	二〇、〇〇〇	六、三、六六三			二〇、〇〇〇	六、三、六六三	六、三、六六三	
材料採集	一、二、九〇〇	八、一、〇一五			一、二、九〇〇	八、一、〇一五	八、一、〇一五	
用地費	四、一、三三三	二、五、三、五、六四六	三段	二、一、一三六	四、一、三三三	二、五、三、五、六四六	二、五、三、五、六四六	
附帶工事費	未竣功 前所 六	六、七、二、八三三	未竣功 前所 一	三、九、六、六四一	未竣功 前所 二	一、二、〇、七二四	一、二、〇、七二四	〇・五六
船舶及機械費		一、四、三、七、〇三三		一、四、三、七、〇三三		一、四、三、七、〇三三		
測量費		四、九、〇、七六六		二、六、七、七〇二		二、六、七、七〇二		
營業繕費		四、二、九、六六八		二、〇、九、九		二、〇、九、九		
雜費		七、一、三、九〇		二、三、七、六		二、三、七、六		
共濟組合給與金		六、三、三、九八六		九、三、五、二八		九、三、五、二八		
總計		三、三、二、一、一六		七、〇、九、五		三、九、三、一、一	〇・八九	
	▲□	六、三、六、五、九五三 二、八、七、九、四一六 二、八、七、九、四一六	▲□	三、三、五、七、四三 三、七、九、七、八二 三、七、九、七、八二	▲□	六、七、〇、一、六九五 三、二、五、六、一、九八	六、七、〇、一、六九五 三、二、五、六、一、九八	〇・八九

第一〇 千曲川改修工事

緒言

本工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百五十萬圓(内長野縣負擔額四百二十五萬圓)ヲ以テ起工セシニ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年三百三十二萬九千圓(内長野縣負擔額五十二萬一千五百圓)ヲ増額スルト同時ニ施工期限ヲ昭和六年度迄繰延ベタルモ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ更ニ五箇年度ヲ延長シ昭和十一年度ニ竣功セシムルノ豫定トナリ尙財政緊縮ヲ要スル爲メ昭和三年度以降ニ於テ十二萬圓ノ節約ヲ爲シ總工費一千百七十萬九千圓ヲ以テ既定計畫ノ工事ヲ遂行スル事トナレリ

改修區域ハ幹川ニ在リテハ左岸上田市、右岸小縣郡神川村以下下高井郡高丘村大字立ケ花ニ至ル五十七軒竝ニ其下流左岸下水内郡秋津村、右岸下高井郡倭村以下同郡瑞穂村左岸下水内郡太田村ニ至ル十三軒、支川犀川ニ在リテハ右岸更級郡共和村以下幹川合流點ニ至ル十軒此總延長八十軒ノ間ナリ

河狀竝計畫大要

本川ハ流路延長一千五百九十一軒(内幹川二百軒)流域面積七千百十平方軒(内平地面積一千三十三平方軒)ニシテ灌溉面積五萬百七十ヘクタールナリ而シテ改修區域内ニ於ケル水害區域一萬五千九十三ヘクタール、水害損失平均年額百十八萬六千七百五十八圓(明治三十九年ヨリ大正九年ニ至ル十五箇年間)ナリトス

本川改修ノ目的ハ主トシテ沿岸地ノ洪水防禦ニ在リテ被害激甚ナル地方ノ無堤部ニ堤防ヲ築造シ有堤部ニ在リテモ其構造薄弱ナル箇所ハ之ヲ補強シ以テ堤内地ノ安全ヲ計ラントス即チ改修區域内下高井郡高丘村大字立ヶ花以下下水内郡秋津村大字蓮ニ至ル狹窄部ヲ除キテ河積足ラザル所ハ之ヲ掘鑿シ常ニ汎濫スル箇所ニハ堤防ヲ築キ以テ河狀ヲ整理スルト同時ニ舊堤ハ努メテ之ヲ利用シ洪水ノ疏通及惡水ノ排除ニ遺憾無キヲ期セリ

流量ハ主トシテ明治四十三年及大正三年ニ於ケル高水位ニ據リ調査考究ノ末千曲、犀兩川合流點迄ハ兩川共各每秒二千七百八十立方米トシ合流點以下ノ幹川ヲ每秒五千五百七十立方米ト定メタルモ元來河狀著シク不規則ニシテ且屈曲甚シク霞堤或ハ無堤ノ箇所斷續シ到底河幅ノ整一ヲ期シ難キモ大體次ノ如ク整理スルモノトス

上田附近	二二〇 ^米	犀川合流點以下	九一〇 ^米
鼠附附近	三六五	飯山	八二〇
稻荷山附近	四二〇	犀川	五四五
稻荷山附近以下犀川合流點迄	四九〇	平川	

掘鑿ハ土量多カラザルヲ以テ悉ク人力掘トシ土運車ニ依リ大部分築堤敷ニ運搬投棄スルモノニシテ其總土量九十五萬九千四百立方米トス築堤ハ天端幅七米二、兩法各二割トシ其天端ヲ計畫高水位上一米五トシ成ルベク舊堤ヲ利用シテ嵩置腹付ヲ施シ尙ホ其安全ヲ期センガ爲メ裏法ニ小段ヲ設ケ堤高三米六以上四米五未滿ハ小段幅二米七(小段ハ堤頂以下二米七ノ箇所ニ設ク以下同斷堤高四米五以上五米五未滿ハ小段幅四米五、堤高五米五以上ハ小段幅七米三トス而シテ築堤ノ總延長ハ百三十九軒其土量ハ五百

七十八萬九千九百立方米トス

護岸ハ大體石張工ニシテ堤腹ノ法面直接河水ニ接觸スル所若クハ其侵害ヲ被ルノ虞アル箇所ニ施行ス其高サハ大體ニ於テ高水位ニ達セシムルモノトシ又流勢竝ニ河狀ヲ參酌シ木工沈床、金網蛇籠、片梓留等ノ根固工事ヲ施行シ或ハ杭柵、聖牛等ノ水制工事ヲ施行スルモノトス

特種工事ニ在リテハ支川蛭川、赤野田川、百々川、淺川、篠井川、樽川其他小支流ニ水門ヲ設ケ洪水ノ際ニハ門扉ニ依リ逆流ヲ防止スルモノトス其數二十七箇所ナリシモ地勢ノ狀況ニ鑑ミ卷込堤又ハ霞堤或ハ附帶工事トシテ施行スルモノアリ現在ニ於テハ二十箇所ナリトス

附帶工事ハ用惡水樋門六十六箇所ノ處地勢ノ狀況ニ鑑ミ七十七箇所トス其他用惡水路、道路及橋梁ノ新築或ハ改築ヲ要スルモノアリ内道路三十五路線、橋梁五箇所ナリトス

施工狀況

本工事ハ大正七年度ノ創業ニシテ直ニ施行準備ニ著手シ同八年二月ニ入り土地買收ヲ初メ其進捗ニ伴ヒ千曲、犀兩河ノ左右兩岸ニ築堤ヲ主トシ護岸水制竝ニ水門其他ノ諸工事ヲ施行シツ、現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ施行ノ工事四十一箇所及新ニ著手シタル鳥居築堤工事外二十二箇所、計六十四箇所ヲ實施シ築堤四箇所、水門一箇所、護岸一箇所、採石一箇所、附帶工事暗梁五箇所、道路附替二箇所、計十四箇所ノ竣功ヲ見タリ又土地買收ハ上流左岸小縣郡川邊村以下更級郡村上村、右岸小縣郡鹽尻村以下埴科郡坂城町ニ至ル延長約二十軒及各所ニ少部分ノ買收未濟ヲ殘シ殆ンド全線ニ互リ買收ヲ了セリ作業出役者ノ多クハ沿岸住民ニシテ農蠶業ノ餘暇ニ出役スルモノナレバ夏季ニ勞力ノ不足ヲ告

グルヲ以テ冬季農閑期ニ於テ特ニ進展ヲ圖リ居レリ今本年度施行ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ
掘鑿 本工事ハ改修計畫ニ基キ河積ノ狹少ナル部分ヲ平水位迄掘リ下ゲ流路ノ所要斷面積ヲ得ントス
ルモノニシテ掘鑿ハ人力ニ依リ運搬ハ土運車ヲ使用シ人力又ハ馬力ニ依リ其土砂ノ一部ハ築堤用土ニ
利用シ殘部ハ附近廢川敷地又ハ荒廢地ニ運搬捨土スルモノトス本年度ハ前年度ヨリ繼續施行ノ一箇所
ニ實施シ年度内ニ土量三萬一千五百九十三立方米ヲ掘鑿運搬セリ
築堤 前年度ヨリ繼續施行セル二十二箇所及新ニ著手ノ十一箇所計三十三箇所ノ工事ヲ實施シ内四箇
所ヲ竣功セリ而シテ築立ニハ根掘土ヲ利用ノ外舊堤及堤外地ヨリ採土シ運搬ハ人力又ハ馬力ニ依リ土
運車擔策等ヲ使用シ土量四十九萬三千八十五立方米ノ築立ヲ了セリ
護岸 前年度ヨリ繼續施行セル八箇所及新ニ著手ノ四箇所計十二箇所ニ於テ實施シ内一箇所ヲ竣功セ
リ石張木工沈床竝ニ捨石工等ヲ施設シ延長一千八百六十米ヲ完成セリ
水制 本年度ニ於テハ水流ノ河岸ニ偏シ河床著シク低下シ既成護岸ヲ浸蝕スルノ虞アル場所一箇所ニ
木工沈床、大聖牛竝ニ捨石工等ヲ實施シタルモ施工日尙淺ク竣成スルニ至ラズ
水門 前年度ヨリ繼續施行シタル篠井川、宮川ノ二箇所ニシテ篠井川水門ニ在リテハ前年度迄ニ殆ンド
完成ヲ告ゲタリシモ河水ノ滲透地下水ノ湧出ニ備フル爲メ鋼矢板工ヲ施設シ年度内其大部分ヲ終了セ
リ其他水叩、混凝土護岸、石積掘鑿、埋戻等ヲ交互ニ施行シ全工事ノ九割ヲ竣成セシメタリ又宮川水門ニ在
リテハ基礎本體翼壁混凝土石積水路附替等ノ諸工事ヲ順次施行シ本年度ニ於テ全ク竣功セシメタリ而
シテ混凝土ハ手練又ハ混凝土混合機ヲ使用シ鋼矢板打ニハ十馬力石油發動機ニ依リ二百四十疋及五百
七十疋錘ヲ使用シ又河水ノ滲透地下水ノ湧出等ノ排水ニハ十馬力電動機ニ依リ渦卷ポンプヲ使用セリ

採石 前記諸工事ニ使用スル石材ヲ人力ニ依リ採取ノ上使用各地へ荷馬車ヲ以テ運搬配給スルモノニシテ前年度ヨリ繼續施行セル一箇所及新ニ著手ノ一箇所、計二箇所ニ實施シ三千三十立方米ノ石材ヲ斫出シ各使用箇所へ三千七百七十三立方米ヲ搬出シ一箇所ヲ竣功セリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ改修工事区域内ニ屬スル上田市外十二箇町村内ノ堤敷及堤外地ノ買收竝ニ地上物件ノ移轉ヲ實施セリ右ハ何レモ土地收用法ニ據ラズ協議ヲ以テ施行シ其總段別二町六段五畝二十四歩其支拂總額一萬六千二百九十五圓ナリ

諸機械ノ修理製作ニシテ規模ノ大ナルモノハ新潟機械工場ニ依囑シ他ハ現場附近ノ民間鐵工場ニ請負ハシメタリ

附帶工事 前年度ヨリ繼續施行セル暗渠工事四箇所、道路附替三箇所及新ニ著手ノ暗渠工事二箇所、水路附替二箇所、道路附替二箇所、計十三箇所ニ實施シ本年度内ニ於テ暗渠工事五箇所、道路附替二箇所、計七箇所ヲ竣功セシメタリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ四十四萬五千七百七十五圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計七百七十一萬二千七百九十四圓ナリ之ヲ工事費豫算一千七百七十萬九千圓ニ比スレバ六割六分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「ロ」ハ管理者負擔額、「*」ハ利用土量、「▲」ハ別設計石材斫出評價額、「■」ハ寄附額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘	立方米 一六、七五五	七、七九五	立方米 三二、五九三	一五、八二五	立方米 四八、三四九	一一三、六二〇	四七・〇
築	立方米 四、〇八九、〇三三	二二、四三三、〇四五	立方米 四八六、五二四	二二、一三九、三	立方米 四、五七五、五五七	二二、六四二、四九七	〇・六七
堤	立方米 四、〇八九、〇三三	四〇、六六六	立方米 六、六六一	五、四二八	立方米 四、〇八九、〇三三	二二、四三三、〇四五	〇・六七
整	立方米 一六、七五五	七、七九五	立方米 三二、五九三	一五、八二五	立方米 四八、三四九	一一三、六二〇	四七・〇
本	立方米 四、〇八九、〇三三	二二、四三三、〇四五	立方米 四八六、五二四	二二、一三九、三	立方米 四、五七五、五五七	二二、六四二、四九七	〇・六七

費目	前年度迄竣功額		本年度竣功額		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
工事費	未竣功	二三四、七六一	未竣功	一一、〇九一	未竣功	二四六、六六二	〇・四七
水門	六所	六、六四八	一〇所	一一、〇九一	一六所	一七、七三九	〇・四七
護岸	一八〇〇米	四四七、〇〇四	一、八六〇米	七、八八〇	一九、八六〇米	五二五、八八〇	〇・二九
採石	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
材料運搬	〇	四四六、一九四	〇	六、八三五	〇	四五三、〇二九	〇
用地	二、七七五度	七、一八三	二、七段	〇	二、八〇二度	七、一八三	〇・八九
附帶工事費	五五所	一、八二五、五二七	二二所	一、六、二九五	二、八〇二度	一、八四一、八二二	〇・八九
船舶及機械費	〇	一五五、三四三	〇	六、六九〇	〇	一六一、六九〇	〇・四五
測量費	〇	八、六五九	〇	二、六九七	〇	一、一三四、三五六	〇
營業繕費	〇	六五、四七六	〇	二、七二二	〇	六七八、五九七	〇
雜費	〇	四、五七二	〇	二、三三三	〇	六、九〇五	〇
共濟組合給與金	〇	一〇九、三三六	〇	五、一五三	〇	一一四、四八九	〇
總計	〇	八、二四、九五八	〇	五、七、九一八	〇	一三、九、八七六	〇・六六
	〇	一五、九六五	〇	二、九七四	〇	一八、九三九	〇・六六
	〇	七、二六七、〇一九	〇	四、四、五、七七五	〇	一一、七、一、三五〇	〇・六六
	〇	四、〇五九	〇	一、一八七	〇	五、二四六	〇・六六

第一一 加古川改修工事

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ工費豫算四百八十五萬圓ナリシガ物價騰貴ノ爲メ大正十二年四月三百萬圓ヲ増額シ總額七百八十五萬圓ヲ以テ昭和八年度迄延長施行ノ事トナリシモ昭和四年六月財政緊縮ノ爲メ百八十二萬圓ヲ減額シ總工費ヲ六百三萬圓ニ改メタリ其區域ハ左岸兵庫縣加東郡市場村、右岸同縣來住村以下海ニ至ル間ニシテ左岸ハ十六糎六、右岸ハ十七糎二ナリ

河狀並計畫大要

加古川ハ流域面積一千八百五十平方糎、流路延長八百四十四糎(内幹川九十二糎)、航路延長九十糎(内幹川七十五糎)、灌溉段別一萬一千九百ヘクタール(内幹川四千六百ヘクタール)ヲ有スル河川ニシテ一名印南川又ハ氷河ト稱ス源ヲ兵庫縣丹波國氷上郡神樂村稻土栗鹿山ニ發シ氷上郡内ニ在リテハ神樂川又ハ佐治川ト稱シ丹波播磨ノ國界ニ至リテ篠山川ト合シ初メテ大河ト爲リ南流シテ多可郡ニ入り幾多ノ河川ヲ合シテ國包ニ至リ加古川ト稱ス夫レヨリ山陽線加古川驛ノ西南ニ於テ東西二派ニ岐レ其幹流ハ高砂ト尾上トノ間ニ於テ海ニ入り派流ハ高砂ヲ抱圍シテ荒井村ノ西ニ於テ海ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニアラザルモ下流部ハ播州ノ沃野ヲ橫斷シテ古來灌溉ノ利ト運輸ノ便トニ依リテ流域内ノ文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ然レドモ本川ハ地勢上勻配急峻ナルノミナラズ比年上流ノ土

砂流出シテ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク明治四十年ノ水害ノ如キハ浸水田畑一萬八千百ヘクタール損失價額百萬六千六百六十六圓ニ上リ大正十年ニモ百一萬八百二十五圓ノ損害ヲ見タリ而シテ是等大洪水ハ凡ソ四年目毎ニ發生シ小水害ニ至テハ殆ンド枚擧ニ違アラザル状態ナレバ全川ヲ通ジテ洪水防禦ノ必要ヲ感ズルコト切ナレドモ上流ハ被害區域比較的狹ク損害ノ程度モ亦尠少ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ先ヅ下流水害ノ最モ顯著ナル部分約十七軒七ノ間ヲ限リ改修工事ヲ施スコトトシ左支美囊川合流點附近河積ノ充分ナラザル所ハ河幅ヲ擴メ或ハ河底ヲ掘リ下ゲ又同處以下加古川町ニ至ル間ハ在來ノ堤防中利用シ得ベキモノハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ河狀ヲ整理シ以テ必要ナル河積ヲ與ヘ又無堤ノ箇所ニハ新堤ヲ築造シテ高水流量毎秒四千四百五十立方米ヲ快流セシムルヲ程度トシ尙堤防ハ高水以上堤頂迄ノ餘裕ヲ一米五ト定メタリ

本川ハ加古川町ノ下ニ於テ東西ニ分派スレドモ派川洗川ノ方ハ維持上ノ必要ニ依リ之ヲ締切リテ只平水量ノミヲ通ズルニ止メ幹川ノ方ハ河積充分ナラザルヲ以テ河幅ヲ擴メ尙感潮部ハ河底ヲ浚渫スルコトトス又河口ニ於ケル高砂港ハ從來非常出水ノ場合ニハ必ズ浸水ヲ免カレザリシヲ以テ同町ノ堀川ハ新堤ヲ以テ之ヲ本川ト隔離シ其上端ニハ樋門ヲ設ケ平時ハ通水通船ノ用ニ供シ洪水ノ際ニハ之レヲ閉鎖シ以テ高砂町ヲシテ全然洪水ノ患害ヲ免カレシムルモノトス

河幅ハ在來ノ堤防位置極メテ不整ナレドモ河積不足ノ爲メニ已ムヲ得ザル場合ノ外ハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ法線ヲ定メタルヲ以テ改修計畫ニ於テモ亦河幅ノ廣狹一樣ナラズ即チ改修區域ノ上端(左岸加東郡市場村、右岸同郡來住村間)ニ於テハ三百二十七米ニシテ夫レヨリ以下一縮一張シテ左岸加古郡加古川町右岸印南郡米田村間ニ於テハ四百九米トナリ特ニ加古川町以下ハ從來兩派ニ分流シタル洪

水量ヲ一川ニ併合スルコトナリタルガ爲メ勢ヒ廣大ナル河幅ヲ要スルヲ以テ河口(左岸加古郡尾上村、右岸同郡高砂町間)ニ於テ六百二十四米ト定メタリ
 堤防ハ全川左右兩岸共天端幅七米ニ、表二割、裏二割五分トシ堤天ヲ計畫高水位上一米五ノ高ニ在ラシム
 唯洗川締切ノ箇所ニ限リ堤裏ニ於テ堤頂ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ附シ小段以下ノ法ヲ三割ト爲サントス而シテ是等築堤用土ハ全部掘鑿土ト舊堤土トヲ充用スルノ方針ナリ又堤防法先ハ全川ニ互リ張石工ヲ施シ堤天ハ礫ヲ散布シテ路面ヲ形成シ堤腹ニハ適宜張芝若クハ筋芝ヲ施スモノトス
 左ニ堤防ノ延長及土量等ヲ表示ス

種別	區域	延長	土量	張石	均張石高	芝付	地盤平均高上
左岸	海 口 ヨ リ	一六、二三〇 <small>米</small>	九二九、八二〇 <small>立方 米</small>	一一一、一五〇 <small>平方 米</small>	七・四 <small>米</small>	二二九、六六〇 <small>平方 米</small>	三・六 <small>米</small>
右岸	同	一四、三九〇	一、一〇一、七三〇	一一〇、二五〇	七・六	二二二、一四〇	四・六
總計		三〇、六二〇	二、〇三一、五五〇	二二一、四〇〇	七・五	四六一、八〇〇	四・四

掘鑿土量ハ左岸百七十三萬三千四百三十立方米、右岸百八十八萬四千九百立方米、合計三百六十一萬八千三百三十立方米ニシテ掘鑿運搬ハ主トシテ人力及牛馬力ニ依ラントス而シテ掘鑿土ノ内二百三萬一千五百五十立方米ハ左右岸ノ築堤ニ充用シ殘餘ハ之レヲ捨土處分ニ委スルモノトス
 浚渫ハ主ニ下流部ニ於テ行フコトトセリ蓋シ洪水ノ疏通ヲシテ良好ナラシムルト同時ニ潮汐ノ昇騰ヲシテ容易ナラシメ將來舩船ヲシテ昇潮ノ際ニハ高砂堀川ヲ通過セズシテ高砂鐵橋附近迄遡航スルノ便

ヲ得セシメ又退潮ノ際ニハ之ガ流勢ヲ利用シテ些少タリトモ河底維持ノ作用アラシメントスルニ在リ而シテ浚渫ノ深ハ上端ニ於テ平均低水面以下約零米九トシ之ヨリ深ヲ増シ零町零間ニ於テ二米二ト爲シ夫レヨリ中等潮位以下二米四ノ水深線ニ達シテ止ム此土量約百三十二萬二千三百立方米ニシテ内十三萬二千三百立方米ハ人力ニ依リ百十九萬立方米ハ浚渫船ニ依リテ掘上ゲ甲ハ堤内ニ捨土シ乙ハ海上ニ投棄スルモノトス

加古川下流ノ舟航ハ高砂港内碇泊船トノ連絡ノ必要上皆高砂樋門ニ依リ安全トナレル高砂堀川ヲ常航路トスルノ傾向アルヲ以テ昭和二年八月ヨリ設計ヲ變更シ本川ノ浚渫計畫ヲ打切り之ニ代フルニ高砂堀川ノ浚渫ヲ爲ス事トナレリ其計畫ハ零里零町ヨリ零里十一町迄ハ中等潮位以下二米七夫レヨリ上流高砂樋門（零里十六町半）迄ハ中等潮位以下一米五ニ浚渫スルモノニシテ浚渫敷幅ハ十一町以下ハ平均約七十米夫レヨリ上ハ平均約十八米ニシテ土量十六萬四千立方米ナリ

堤腹ニハ總テ堅固ナル張石ヲ施ス計畫ナレドモ更ニ堤法保護ノ爲メ流心ノ彎曲部堤防ノ低水路ニ接近セル處等水勢ノ激突スル箇所ニハ護岸工ヲ施スモノトス其總延長一萬八千八百三十米ナリ

流末二千百八十米間ヲ浚渫スル結果上流河床ノ低下ヲ來タシ既設工作物ニ影響スル處尠カラザルベキヲ慮リ浚渫區域ノ上端適當ノ位置ニ平水路ヲ橫斷シ床固堰堤ヲ設ケテ河床ノ低下ヲ防止セントス

現在ノ左岸堤防ハ海口ニ於テ急ニ喇叭狀ヲ成シ爲メニ退潮ノ流勢ヲ殺ギ土砂ノ沈澱ヲ誘致スル傾向アリ故ニ本計畫ニ於テハ左岸堤防ヲ延長シテ右岸ノモノト略同長ナラシメ其構造ハ根元四十五米ハ普通土堤トシ夫レヨリ堤端迄二百九十一米ノ間ハ全部張石堤トシ馬踏七米二兩法二割堤面ハ高潮面上一米五ト定メ洪水ノ際モ平常ニ於テモ流水ヲシテ成ルベク海中ノ深處ニ射出セシメントス

特種工事トシテ設置スヘキ樋門ハ洗川樋門及高砂堀川樋門ノ二ナリ
附帶工事ノ主ナルモノハ播州鐵道株式會社ノ高砂鐵橋及相生、加古川、都染ノ三人道橋延長若クハ架換其
他全區域内兩岸ノ用惡水樋門ノ擴築若クハ改築又ハ同水路ノ附換等ナリトス

施工狀況

加古川改修工事ハ大正七年度ノ著工ニシテ七、八兩年度ハ主トシテ準備測量九、十兩年度ハ土地收用及工
事ノ一部ヲ施行シ以後専ラ工事ヲ施シタリ

本年度施行區域ハ前年度ニ引續キ右岸加古郡高砂町、印南郡米田町及平莊村地先左岸ハ加古郡加古川町
八幡村、印南郡上莊村地先ニシテ其狀況左ノ如シ

築堤工ハ左岸ハ上莊村及八幡村地先ノ一部ヲ殘シテ全部、右岸ハ美囊川合流點以下海ニ至ル全部ヲ成功
セリ

掘鑿工ハ五噸機關車二臺、一立方米積鍋土運車五十臺零立方米六積箱土運車四百五十臺及零立方米三積
鍋土運車五十臺ヲ使用シ人力及馬力ヲ併用シ左岸ハ八幡村及上莊村地先ノ一部ヲ殘シテ美囊川合流點
以下海ニ至ル全部、右岸ハ上莊村地先三里十八町半以下海ニ至ル全部ヲ竣成セリ

浚渫工ハ前年度同様神戸土木出張所ニ於テ引續キ埋立土砂ノ必要上同所ニ代行セシム是レ昭和二年八
月設計變更ノ結果ニ依ル高砂堀川浚渫ハ兵庫縣ヨリ轉借セル唧筒式浚渫船ヲ使用シテ前年度ニ引續キ
目下尙施行中ナリ

護岸工ハ左岸ハ八幡村地先ノ一部ヲ殘シテ美囊川合流點以下全部、右岸ハ上莊村地先以下海ニ至ル全部

成功セリ

加古川床固工ハ昨年度末ノ著工ニテ本年度ニ於テ其大部分ヲ完了シ高砂石堤ハ目下工事中ナリ

土地收用ハ加東郡來住村黍田地先、美囊郡別所村正法寺地先及加古郡八幡村中西條地先ニ於テ夫々堤防敷及洪水敷用地トシテ些少ノ土地買收ヲ行ヘリ

斯クノ如クニシテ本年度迄ノ築堤ハ施行豫定延長三萬二千百八十四米ノ約九割二分、掘鑿ハ全土量ノ約九割四分、浚深ハ設計變更高砂堀川ノ本年度ニ於ケル浚深土量ヲ合シテ全土量ノ約四割八分、護岸工ハ施工豫定延長二萬八千五百六十二米ノ約八割八分ノ成功ヲ見タリ

特種工事高砂樋門及洗川樋門ハ既ニ竣功シ洗川ハ完全ニ締切ラレタルヲ以テ右岸惡水排除上大ナル利益アリ尙左岸ノ小支流草谷川ハ從來霞堤ニテ開放ノ儘ナリシガ本年度ニ於テ樋門ニ依リ本川ニ合流セシムルノ計畫ヲ以テ目下施行中ナリ

附帶工事ハ前記草谷川樋門施工ニ當リテ附換ノ必要ヲ生ジタル五ヶ井用水路及向野用水路ノ附換工事ヲ目下施行中ニテ之等ヲ除クノ外美囊川合流點以下全部ヲ前年度迄ニ竣功セリ

斯クテ工事ノ進捗ニ伴ヒ加古川沿岸加古、印南兩郡ノ大平野ハ管ニ洪水ノ憂ヲ全ク除カルルニ至リタルノミナラズ用水取入及惡水排除ノ苦患モ亦充分緩和サルルニ至レルナリ

本年度竣功高ノ主ナルモノヲ掲グレバ築堤二萬五千七百五十八立方米此工費一萬一千五百二十五圓、掘鑿及浚深十七萬五千七百五十四立方米此工費五萬六千二百二圓、護岸及水制延長一千百四十六米此工費六萬七千三百四十一圓、特種工事一箇所此工費二萬五千五十五圓、附帶工事三箇所此國庫補助額三千六百二

十二圓等ナリ

尙本年度ニ收用セシ用地ハ二町三段五畝九步ニシテ移轉料ヲ合シテ四千百九十三圓ナリ

加古川改修本年度竣功高ハ二十一萬八千六百二十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ五百二十一萬九千八百十七圓ナリ之ヲ總工費六百三萬圓ニ比較スレバ八割七分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ提供品價額及勞力費「○」ハ無代價品評價額「◎」ハ土木試験所へ流用減額「×」ハ占用補償ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築	* 二四、七七一〇 二二、四一六四一二 立方米	二一九、七八九四 二二、四一六四一二	* 二五、七五八〇 九三、〇〇四	一一、五二五門 六、五五門	* 二、四七七〇 二、四四二、一七〇 立方米	二、三三、三三四四 二、四〇、二四〇四	〇・八〇
工掘	三、二一八、四八六	一、三三九、三七九 五七、三二二〇 四〇〇	八二、七五〇	三〇、八一二	三、四一、四九〇	一、二七〇、一九一 五七、三二二〇 四〇〇	〇・八五
事濬	五五一、〇四九	一一五、七三六	一一、四六六	二五、二九〇	六三三、七九九	一四一、〇二六	〇・八〇
費護岸	未竣功	五九二、〇五八 二四、二七米	一、一四四、四四一 一八	六七、三四一	二五、二七三	六五九、三九九 四六	〇・六九
費特種工事	× 未竣功	一、〇九九、五九五	未竣功	二五、〇五五	未竣功	一三九、四九九 一八	一・〇〇
費用	未竣功	一、四七、一七九 一箇所	四、一九三	四、一九三	一、五〇、一九一 一箇所	一、一〇三、五八八 四〇六、七二六	〇・七五
附帶工事	未竣功	四〇三、一〇四 三箇所	三、六二二	三、六二二	未竣功	四〇六、七二六	
船舶及機械		八〇三、九九一	二一、九五〇	八一九、九四一		八一九、九四一	
測量		二〇、九九七	二、五二八	二、五二八		二、五二八	
營業繕費		三五、六二〇	一、二一六	一、二一六		三六、八三六	
雜費		三三八、六二二 七、〇〇〇 四三五	三三三、〇六七	三三三、〇六七		三七一、六八九 七、〇〇〇 四三五	
共濟組合給與金		一三、五四四	二、〇二六	二、〇二六		一五、五七〇	

第一章 河川改修工事 (加古川改修工事)

費 目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合 計		竣 功 合 步
	數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額	
總 計		▲□ 五,〇〇一,一九三 五,三四〇,三三二 五,七三三,〇〇〇 円		▲□ 二,八六二,九五 円		▲□ 五,二二一,九八 五,三六六,八二 五,七三三,〇〇 〇 円	〇.八七 十分

第一二 神通川改修工事

緒言

本工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算六百五十萬圓内富山縣負擔額百七十六萬三千圓ヲ以テ起工セシガ其後富山縣知事ノ稟申ニ依リ本川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ之ト同時ニ東岩瀨港修築工事ヲモ施行スベク工費五十八萬圓全部富山縣負擔ヲ増額シ又起工以來時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年二百十三萬二千五百圓内富山縣負擔額五十三萬四千圓ヲ増額スルト共ニ施行期限ヲ昭和五年度迄繰延ベシガ更ニ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ止ムナク四箇年度ヲ延長シ昭和九年度ニ竣功セシムル豫定トナレリ然ルニ國庫財政ノ緊縮ヲ要スル爲メ昭和三年度以降ニ於テ十四萬圓ノ節約減額ヲ爲シ總工費九百七萬二千五百圓ヲ以テ右岸富山縣上新川郡大澤野村、左岸婦負郡杉原村以下海ニ至ル約二十二軒ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ洪水ノ被害ヲ除去セントスルモノナリ

河狀並計畫大要

神通川ハ幹川ヲ上流ニ於テ宮川ト稱シ源ヲ飛驒國川上嶽ニ發シ北流シテ高山町ノ高原ヲ過ギ川上川、大八賀川、小八賀川、荒城川、十鳥川等ノ支川ヲ併セテ飛越國境ニ到リ一大支川高原川ニ會ス高原川ハ源ヲ飛驒山脈鎗ヶ嶽及穗高嶽ニ發シ平湯川、双六川、跡津川等ヲ合セテ來リ會ス兩川合流シテ以下ヲ神通川ト稱シ越中ノ溪谷ニ入り更ニ北流シテ富山平野ヲ貫キ東岩瀨港ニ至リ海ニ注グ其流域面積二千七百八十平

方籽内飛驒ニ屬スルモノ二千十平方籽ニ達スレドモ平地僅カニ百七十平方籽ニ過ギズ流水急ニシテ舟筏ヲ通ゼズ越中ニ屬スルモノハ七百七十平方籽ニシテ其内平地面積二百六十平方籽ヲ有シ河口ヨリ上流二十七籽笹津ニ至ル迄舟揖ノ便アリ地勢平坦ニシテ其汎濫面積七千ヘクタールニ達ス水害ノ狀況ハ急流河川ノ特性トシテ大水ノ襲來極メテ迅速且猛烈ニシテ忽チ堤防護岸ヲ破壊シ濁流市街村落ニ奔流シ家屋ヲ流失シ人畜ヲ損傷シ耕地ハ砂礫ノ埋没スル所トナリ其害實ニ甚大ナリ即チ大正元年乃至同十年ノ平均損失年額百四十萬三千八百八十圓ニシテ就中大正三年ノ九百三十一萬八千四百四十圓ヲ最大トス

本川改修ノ目的ハ洪水防禦ニ在リテ富山市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トスルモ一面東岩瀬港ノ改善ヲ圖ラントスルモノニシテ本川ノ計畫洪水量ヲ每秒五千六百立方米ト定メ之ヲ放流セシムルニ足ルノ河積ヲ有セシメ東岩瀬港ニ在テハ本川ヲ附換ヘ全ク内港ヲ分離シ突堤ヲ築キ以テ水深ヲ保チ船舶ノ出入ニ便ナラシメントスルモノナリ

由來本川ハ堤防ノ築設比較の普及スレドモ未ダ統一の施設ニナレルモノ無ク多クハ不規則ナル霞堤ヲ爲シ河積概ネ狹小ニシテ堤高亦不足シ屢々破堤汎濫ノ因ヲ爲セリ故ニ全川ヲ通ジテ河幅ヲ擴メ所要ノ掘鑿ヲ行ヒテ專ラ河積ノ増加ヲ圖リ兩岸ニハ堅固ナル堤防護岸ヲ施シ以テ洪水ノ横溢ヲ防ガントス河道ノ位置ハ比較的良好ナルヲ以テ多クハ現狀ニ準據シ努メテ在來ノ堤防ヲ利用セントス上流起點城生以下成子ニ至ル間流路東西ニ岐ルル所モ之ヲ合一セズ現在ノ形狀ニ依リ兩岸ニ築堤シ添島以下熊野川落合ニ至ル亂流部ハ河幅廣濶ナレバ兩岸舊堤ヲ増築スルニ止ム富山市附近ノ新舊兩川ノ内舊川ハ平時全ク通水ヲ見ズ且高水ノ疏通ニ對シ其利用甚ダ乏シキヲ以テ之ヲ締切リ新川即チ馳越川ヲ多少擴大

シテ全流量ヲ之ニ依リ疏通セシメ舊川ノ落合ハ之ヲ閉鎖シ其惡水ハ本川ニ沿ヒテ水路ヲ造リ下流ニ導キ以テ富山市ノ逆水ニ因ル水害ヲ輕減スルモノトス舊川落合下流ハ河幅不足ナルヲ以テ之ヲ擴大シテ兩岸共概ネ新堤ヲ築キ流末二籽ノ間ハ河道ヲ新ニ掘鑿シテ西ニ移動シ瀨割堤及突堤ヲ設ケテ全ク東岩瀨港ト分離セシメ直ニ海ニ通ゼシム而シテ港トノ連絡ハ水門ニ依ルコトトセリ又東岩瀨港ハ港内ヲ低水位以下四米五ノ水深ニ浚渫シ東突堤ヲ水深九米迄延長シ堆砂ノ西遷ヲ防ギ新川ノ右岸突堤ト相俟テ水深ノ維持ヲ圖ラントス

兩岸堤防中心間距離ハ凡ソ左ノ標準ニ據リ施行シ此間計畫高水量五千六百立方米ヲ流下セシムベキ水面勾配ヲ定ムルコト次ノ如シ

區 間	兩岸堤中心間距離	計畫高水位勾配	區 間	兩岸堤中心間距離	計畫高水位勾配
岩木・成子間 （幹川派川）	自至 三三〇米 一五〇	一分一 一九〇分一	布瀨・四ツ谷間	自至 四四〇米 五一〇	一分一 八〇〇分一
成子・添島間	自至 三六〇 四〇〇	一分一 二一〇分一	四ツ谷・千原崎間	自至 四七〇 五五〇	一分一 一、二〇〇分一
添島・布瀨間	自至 四七〇 七三〇	一分一 三〇〇分一	千原崎・河口間	自至 四〇〇 五五〇	一分一 七六〇分一

堤防ハ天端幅ヲ十二籽附近ヨリ上流ハ九米一、下流ハ七米三トシ其法面ハ表裏共二割トス其高ハ計畫高水位上一米五ノ餘裕ヲ存セシメ必要ナル箇所ニハ小段ヲ設ク此土量二百十六萬立方米、延長四萬四千米ニシテ一般ニ掘鑿土ヲ以テ之ニ充當スベキモ其運搬延距離ニ互ルカ又ハ特ニ良質ノ土砂ヲ要スル場合ニハ他ニ採土場ヲ求メザルベカラズ其土量約三十萬立方米ナリ

掘鑿工事トシテハ流積擴大ノ爲メ河幅ノ整理ヲ行フモ尙掘鑿ニ俟ツベキモノ尠カラズ其土量三百六十萬立方米ニシテ築堤用土ニ充用シタル殘餘ハ卑低地ノ埋立等ニ使用シ或ハ民有地ニ投棄シ又河口ニ近キ所ニ在テハ海中ニ放棄ス

浚渫工事ハ流末海ニ至ル二籽ノ間ニシテ其底幅ハ百八十米ヨリ二百二十米ニ達シ其深度ハ上流ニ於テ基線以下二米ニ始マリ順次四米八ニ遞下ス其土量ハ六十萬立方米ナリ

護岸工事ハ石張、沈床、沈柁等ヨリ成ル即チ築堤ニハ十二籽附近ヨリ上流ハ表法全部ニ同下流ハ計畫高水位以下ニ張石ス又水面以下ノ保護ニ關シテハ富山市ヨリ上流ハ木工沈床、混凝土沈床若クハ單床、川倉、蛇籠等ヲ適宜按配シ下流ハ概シテ柴工沈床ヲ施スモノトス

水制工事ハ主トシテ下流流路ヲ限定スベキ區域ニ配設シ浚渫ト相俟チテ河身ヲ定メ水深ヲ維持セントス總テ粗朶沈床、木工沈床及石張ヲ用フルモノトス

突堤工事中右岸突堤ノ瀨割堤防ノ末端ニ接續シ其長サ三百十八米ニシテ緩曲線ヲ以テ水深九米ノ箇所ニ達セシメ本川ヲ流下スル土砂ヲ深水ニ導クト同時ニ現在東岩瀨地先突堤ノ延長工事ト共ニ兩々相俟テ港口ノ保護及港内ヘノ土砂浸入ヲ防止セシム又左岸突堤ハ延長百四十五米ニシテ單ニ沿岸漂砂ノ東進ヲ防止スルモノナリ

水門工事中富山市ヲ貫流セル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキモノハ設計ヲ變更シ水路ヲ設クルヲ良策ト認メタルニ依リ之ヲ廢止シ右岸新堤裏ニ沿ヒ水路ヲ開鑿シ惡水ヲ下流ニ導キ且之ニ依リテ本川トノ舟運ヲ計リ逆水ノ害ヲ輕減シ舊神通廢川地帯ノ利用ニ便ナラシム又右岸一籽附近ニ設置スルモノハ本川ト東岩瀨港トノ聯絡用ニ供スルモノナリ附帶工事ノ用惡水樋門、用惡水路、道路及橋梁等改築ヲ要ス

ルモノ多キヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

東岩瀬港ハ神通川ノ河口ニ位シ富山市唯一ノ海門ニシテ往時帆船時代ニ在テハ日本海ノ要港トシテ繁榮ヲ極メタリシガ時勢ノ變遷ハ汽船海運ノ時代トナリ河口ノ狀況ハ其入航ヲ妨ゲ偶々寄港スルモノアルモ河口ヲ隔ツル遠キ沖合ニ碇繫シ貨物ノ揚卸ヲ爲サザルベカラズ殊ニ秋冬ノ候ニ際シテハ波浪土砂ヲ壓シテ河口ヲ閉塞シ水深漸ク六十糎ニ過ギザルコトアリ明治四十三年河口右岸ニ突堤ヲ増築シ對岸草島地内ニ水制工ヲ施シ更ニ左岸ニ突堤ヲ築造スル等河口ノ改良ヲ企圖セリト雖モ規模小ニシテ其效果大ナラズ依然トシテ航路閉塞シ小船ノ出入ニモ不便ヲ來スコト尠カラズ從テ大正五年頃ニハ出入貨物ハ益々減退シ明治四十一年頃ニ比スレバ其量三分ノ一ニ減ジタリ富山市ヨリノ出入貨物モ亦其價額ニ於テ僅カニ十分ノ一ニモ達セザルノ悲境ニ在リ茲ニ於テカ神通川改修ヲ好機トシ本港ヲ修築シ航路閉塞ノ源ヲ絶チ其利用ノ途ヲ増進シ從來ノ衰運ヲ挽回スル所アラントス是レ本港修築ノ起リタル所以ナリ

曩ニ神通川改修工事ノ計畫ヲ樹ツルヤ併テ河口ノ改良ヲ企圖シ東岩瀬港沿岸ニハ特殊ノ護岸工事ヲ施シ其終端ヨリ水深九米ニ至ル迄突堤ヲ築造シ地先水面ヲ水深五米ニ浚渌シ河流自然ノ水勢ニ依リ其水深ヲ維持セシメ一千噸内外ノ船舶出入碇繫ニ便ゼシムルコトトセシモ一般河口ニ見ルガ如ク自然ノ水勢ニ依ル水深ノ維持極メテ困難ニシテ殊ニ本港ノ如キハ日本海ノ漂砂ト神通川ヨリ流下シ來ル土砂トハ港内ニ堆積シ常ニ浚渌ヲ施サザレバ到底所要ノ水深ヲ維持スルコト能ハザルナリ故ニ若シ河口ヲ完全ニ港灣トシテ利用セントセバ神通川ト東岩瀬港トヲ全然分離スルヲ以テ得策ナリトス依テ大正十一年神通川改修計畫中下流ノ一部ヲ變更シ河道ヲ西方ニ移設シ下流現在ノ低水路ノ水面積ヲ本港灣ノ施

設ニ供スルコトトシ港口ハ現在ノ東突堤ヲ増築延長シテ約四百十米トシ東岸ヨリスル漂砂ヲ防ギ之ト相對シテ改修工事ニ於テ築造スベキ右岸突堤ニ依リテ西方ヨリノ漂砂ヲ防ギ内部ノ水面約十二萬五千平方米ヲ水深四米五ニ浚深シテ一千噸級船舶ノ碇繫及貨物ノ揚卸ニ便ナラシメントス然ルニ低水路ノ水面積ノミヲ以テ港灣施設ニ供セントスルハ將來港域擴張ノ要ヲ生ジタル場合不利ナルヲ以テ寧ロ更ニ河道ヲ西方ニ移シテ舊左岸堤敷ニ新右岸堤ヲ築造シ河敷全部ヲ港域ニ供スルヲ得策ト認メタルヲ以テ此變更ニ要スル土地、材料、勞力等約二十萬圓ヲ地元東岩瀨町ヲシテ提供セシムルコトトシ大正十四年十二月再ビ前記ノ如ク計畫ヲ變更シタリ

施工狀況

本工事ハ大正七年七月ノ創業ニ係リ先ヅ河口附近水制工事ニ著手シ次デ土地買收ノ調査ヲ開始シ其進捗ニ從ヒ逐年下流ヨリ上流ニ溯リ施工スルモノニシテ左岸ニ於テハ草島、百塚、神明、鶴坂、熊野、宮川、杉原ノ七箇村及富山市、右岸ニ於テ東岩瀨町、大廣田、豊田、奥田、堀川、蜷川、新保ノ六箇村及富山市ノ各地先ニ於テ掘鑿、浚深、築堤、護岸、突堤等ノ諸工事ヲ實施スルニ至リ其區域兩岸各約十八村ニ達セリ

左ニ本年度施工ノ概況ヲ述ベン

掘鑿 前年度來繼續ノ十一箇所ト新ニ著手セル二箇所計十三箇所ヲ專ラ人力ヲ以テ施工シ主トシテ零立方米六積及零立方米四積土運車ヲ使用シテ人力又ハ馬力ヲ以テ運搬シ一部ハ一立方米二積土運車ヲ使用シテガンリン機關車ヲ以テ運搬セリ其功程十七萬五千四百九立方米ニシテ内十二萬四千二百六立方米ヲ築堤敷ニ投棄シ殘部ハ高水敷ノ低濕ナル箇所ニ之ヲ投棄セリ

浚渫 前年度ニ引續キ唧筒式浚渫船神通丸(能力一時間六百瓩)ヲ用ヒテ東岩瀨港浚渫ノ進捗ニ努メシモ船體及機械ノ大修繕ニ時日ヲ要シ年度内ニ十七萬八千六百八十立方米ノ竣功ヲ見タルノミ而シテ土砂ハ全部港外ノ深淵ニ投棄セリ

築堤 主トシテ掘鑿土ヲ利用シテ築立テ左岸杉原村下流、右岸新保村下流延長約三十六籽ノ間ニ於テ前年度ヨリ繼續ノ八箇所ト新ニ著手ノ二箇所、計十箇所ニ施工シ内四箇所ハ年度内ニ竣功セリ本年度ノ築立土砂總計十三萬九千六百八十一立方米ニシテ内八千四百四十立方米ハ採取土ナリ

護岸水制 前年度ヨリ繼續セル十四箇所ト新ニ著手セル十箇所、計二十四箇所ヲ施工シ内五箇所ハ年度内ニ竣功セリ其功程石張三萬七千四百六十一平方米、栗石護岸六千八百七十平方米、木工沈床五千四百二十平方米、柴工沈床三千六百三十四平方米、鐵線蛇籠二百七十七本ナリ又水制工事ハ柴工沈床七千九百平方米、同石張一千七百二十平方米ナリトス是等諸工事ニ使用セシ石、栗石及砂利等ハ全部本川筋ヨリ直營ヲ以テ採取セルモノナリ

突堤 前年度ニ引續キ東突堤及中央突堤ノ施工ヲ爲シ東突堤ハ第一區ニ於テ三百八十瓩ノ捨石一千二百八十四個、捨方塊小(八瓩ノモノ)二十九個ヲ夫々投棄シ且場所詰混凝土百四十三立方米ヲ施工シ第二區ニ於テ百十瓩ノ捨石一千九百二十立方米、五百六十瓩ノ捨石一千九百八十二個、捨方塊大(十二瓩ノモノ)十八個、小二百六十三個、直壁方塊大百五十六個、小四十個ヲ据付又ハ沈設セリ混凝土方塊ハ僅ニ大二個ヲ製作セルノミ中央突堤ハ第一區ニ於テ柴工沈床八百五十平方米、百十瓩ノ捨石四百七十七立方米、三百八十瓩ノ捨石三百八十六個、五百六十瓩ノ捨石四百八十二個、直壁方塊小百四個ヲ第二區ニ於テ柴工沈床八百平方米、百十瓩ノ捨石六百八十七立方米、五百六十瓩ノ捨石二百五十一個ノ据付又ハ沈設ヲ見混凝土方塊製

造ハ大三百七十九個、小七百五十七個、計一千百三十六個ヲ製作シタリ
 以上本年度ヲ通ジテ出水又ハ波浪等ニ因ル被害ナク頗ル順調ニ工事ノ進捗ヲ見タリ東岩瀨港ノ浚深ハ
 殆ド竣成シ突堤工事進捗ト相俟ツテ漸ク安全ナル碇繋地タラントシ本年度中ノ入港船舶一千噸級ノモ
 ノ三十數隻ニ及ビ昨年度ノ十數隻ニ比シ倍加スル至レリ

船舶機械修理製作 其程度大ナルモノハ新潟機械工場ニ依託シ其他ハ附近鐵工業者ニ請負ハシメタリ
 附帶工事 前年度ニ殆ド竣成ヲ見タル平屋川排水樋管新設工事ハ昭和四年五月竣功ヲ見管理者富山市
 長ニ引渡シタリ又布瀨排水路附替工事ハ昭和四年十一月起工シ年度内ニ工程半ニ達セリ
 尙大正十四年十二月流末法線一部變更ノ認可ヲ得タルモノハ之ニ要スル土地、材料、勞力等ハ總テ東岩瀨
 町ニ於テ負擔スルモノニシテ土地買収及築堤工事ハ全部完了シ本年度ニ於テハ不用突堤取掛工事ヲ施
 工セルモ未ダ竣功ヲ見ズ

本年度ニ於ケル竣功額ハ四十八萬五千三百三十圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ五百九十九萬七千
 二百四十三圓ナリ之ヲ總工費九百七萬二千五百圓ニ比スレバ六割六分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左
 ノ如シ但シ表中「▲」ハ東岩瀨町提供土地、材料及勞力費、「ロ」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
掘	1,115,338	907,334	175,490	82,955	1,290,828	990,289	0.68	
浚	634,956	96,398	178,680	34,326	813,636	130,714	0.62	
築	1,652,997	288,761	1,332,780	107,872	2,985,777	299,633	0.80	
護岸	24,836	1,224,511	4,027	192,507	28,863	1,417,018	0.56	
堤								
深								
整								
工本								

總計	突堤		水路		雜工		材料運搬		用地		附帶工事		船舶及機械		測量		營業繕費		雜費		共濟組合給與金	
	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功	完成	未竣功
▲□																						
五、五一、九一二 一、三、七、五九四 一、九、三、八八三																						
▲□																						
四八五、三三〇 一、六、九、三五〇																						
▲□																						
五、九、九、七、二四二 一、三、八、四、八八九 一、九、四、〇、四六六																						
○・六六																						

第一三 岩木川改修工事

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費七百萬圓ヲ以テ施行ノ計畫ナリシガ諸物價昂騰ノ爲メ既定豫算ノ範圍内ニテハ工事ノ遂行不可能ノ爲メ三百四十萬圓ヲ増額シテ總工費ヲ金一千四十萬圓トシ其繼續年度ヲ昭和十一年度迄トシタリ而シテ昭和四年度ニ於テ五萬圓ヲ減額シ結局總工費一千三十五萬圓トナレリ

施行區域ハ幹川左岸青森縣中津輕郡新和村大字種市、右岸同縣北津輕郡鶴田村大字大性以下十三湖迄四十四籽九及支川十川左右岸同縣北津輕郡梅澤村以下新合流點迄六籽八又支川山田川ハ同縣西津輕郡車力村地内田光沼下流約十籽ナリトス

河狀竝計畫大要

本川ハ水源ヲ秋田縣界ニ發シ流域面積二千六百六十八平方籽、流路延長八百三十七籽(内幹川九十籽)航路延長百六籽(内幹川七十一籽)灌溉面積二萬四千ヘクタール水害區域九千二百ヘクタールヲ有シ青森縣西津輕郡、中津輕郡、南津輕郡、北津輕郡ノ四郡ニ跨ル大河ニシテ流末十三湖ト稱スル周圍約二十四籽、面積二千ヘクタールノ湖水ヲ通ジテ一小口ヲ以テ日本海ニ注グ

岩木川ハ流路甚ダ不規則ニシテ其下流部川幅最モ狹キガ故ニ出水毎ニ必ラズ破堤或ハ溢水ヲ來シ沿岸耕地ニ汎濫スルヲ以テ本計畫ニ於テハ堤防ノ改築竝ニ河敷ノ掘鑿ヲ爲シテ河積ヲ擴張シ以テ洪水量ヲ

安全ニ流下セシメ又支川十川ハ流路甚ダ狭ク且迂曲甚ク殆ンド無堤ノ状態ナルヲ以テ出水毎ニ湛水シ殊ニ春季融雪ノ際ノ如キハ沿岸一帯ニ湛水數週間ニ互ルコトアリ故ニ新ニ堤防ヲ設クルト共ニ新川延長約三籽三ヲ掘鑿シテ現在ノ合流點ヨリ約十六籽上流ニ於テ岩木川ニ合流セシメ又十川ノ岩木川合流點ニハ逆水門ヲ設置シテ其逆流ヲ防グモノトス

岩木川海口即チ十三水戸口ニハ突堤ヲ築造シ海口ノ閉塞ヲ防ギ排水ヲ完全ナラシメ十三湖沿岸湛水ノ害ヲ防ガントス又十三湖ニ直接注入セル山田川ニ於テハ河身ノ擴張及築堤ヲ爲シ溢水ノ害ヲ除キ且十三水戸口ノ施工ト相俟ツテ沿岸ノ湛水ヲ輕減セシムルモノトス

計畫高水流量ハ幹川上流部毎秒一千三百九十立方米、十川新合流點以下舊合流點間毎秒一千五百九十立方米、其下流毎秒一千六百七十立方米トシ十川改修箇所毎秒三百三十四立方米、十川舊川毎秒百六十七立方米、山田川ハ毎秒五十六立方米トス又川幅ハ幹川ノ上流ニ於テ二百十八米トシ漸次擴大シ下流ニ於テ六百三十六米ト爲シ又十川ハ六十四米、山田川ハ四十八米ト定メタリ

掘鑿土量七百八十四萬三千七百立方米、浚渫土量五百二十三萬五千百立方米、總計掘上土量一千三百七萬八千八百立方米ニシテ大部分ハ築堤用土ニ使用ス

築堤ハ大部分新堤築設ニシテ舊堤増築ハ一小部分ニ過ギズ築堤延長ハ幹川約八萬米、支流十川約一萬三千米、山田川約一萬九千米、合計十一萬二千米ニシテ幹川及十川ニ於テハ天端幅五米五、外法二割、内法二割及二割五分、山田川ニ於テハ天端幅二米七、兩法共二割ノ勾配ト爲シ天端餘裕高ハ幹川ニ於テハ一米八、十川ニ於テハ一米八乃至九十糎又山田川ニ於テハ九十糎トス尙必要ノ箇所ニ對シテハ護岸工ヲ施スモノトス

海口突堤ハ大體ニ於テ捨石竝ニ混凝土塊ヲ用ヒ兩岸ヨリ各三百六十米ヲ築造スルモノニシテ兩者ノ間隔ハ二百七十米トス
附帶工事ノ主ナルモノハ木橋架替七箇所、用水伏越樋五箇所、水門三箇所其他水路附替等トス

施工狀況

本工事ハ大正七年六月ノ創業ニシテ初年度及八年度ニ於テハ測量其他施行準備ニ取掛リ九、十兩年度ハ一部分ヲ人力ヲ以テ掘鑿シ十一年度以降ニ至リテハ土工用諸機械稍々完備セルヲ以テ人力竝ニ機械ヲ以テ掘鑿セリ掘鑿工事ノ進行ニ伴ヒ其土砂ヲ利用シ築堤工事モ著々進行セシムルコトヲ得タリ
當地方ハ冬季十二月ヨリ翌年三月迄ハ嚴寒降雪多量ニシテ工事施行殆ンド不可能ナリ四、十、十一各月亦天候不良ノ爲メ工事殆ンド中止ノ狀態ニ在リ五、六、九各月ハ工事ノ進行ヲ計ルニ最モ好時期ナルニモ拘ラズ農繁期ナルガ爲メ勞力供給ノ點ニ於テ満足シ得ズ要スルニ一箇年ヲ通ジテ本工事ノ生命トスル處ハ只、七、八兩月アルノミナリ

本年度ニ於テ掘鑿工事ハ人力掘鑿ニテハ零立方米四積トロヲ以テ人力トロ、馬匹トロ運搬ヲ爲シ地形ニ依リ畚運搬ヲモ施行セリ又冬季降雪量少キ事近年稀ナル狀態ナリシ爲メ試驗的ニ馬檣運搬ヲモ施行セリ又機械掘鑿ニ在リテハ掘鑿機二臺、機關車三臺及三立方米積土運車約三百臺ヲ以テ極力工程ノ進行ニ努メタリ

掘鑿工事施行ノ區域ハ本川筋北津輕郡五所川原町、中川村、武田村、西津輕郡稻垣村、車力村ノ各地先ニシテ掘鑿總土量二十九萬七千三百八十二立方米、此工費八萬三千九百七十一圓ニシテ土量ノ大部分ハ此區域

ニ於ケル築堤用ニ供シタリ

浚渫工事ハ山田川ノ機械浚渫ノ準備ノミニシテ此工費百三十八圓ナリ

築堤工事ハ前述ノ如ク掘鑿土ヲ利用シ其不足土砂ハ附近官有地ヨリ運搬セリ施行箇所ハ西津輕郡柏村、稻垣村、車力村、北津輕郡金木町、三好村、武田村各地先ニ互リ此竣功數量八萬九千二十四立方米此工費四萬九千五百七十五圓ニシテ竣功延長七千八百三十三米ナリ

護岸及水制工事ハ北津輕郡鶴田村、五所川原町、中川村、三好村、西津輕郡柏村、川除村、稻垣村ノ各地先ニシテ工法ハ箇所ニ依リ根固工トシテハ沈床、單床又ハ粗朶柵ヲ施シ法留工トシテハ礫詰、柳枝又ハ鐵線蛇籠工ヲ施セリ此竣功延長二千二百三十七米此工費三萬九千百三十四圓ナリ

突堤工事ハ西津輕郡十三村地先十三水戸口ニ施行セルモノニシテ既設假突堤ノ補修ヲ爲シ更ニ延長六十三米ニ互リ敷ニ幅三十六米及四十一米ノ沈床ヲ置キ其上ニ捨石ヲ爲シタリ本工事ニ必要ナル石材ハ北津輕郡小泊村大字下前海岸附近ノ輕石ヲ甲板張舢船ニ積込ミ十五噸汽船ノ曳航ヲ以テ又地方帆船ヲ以テ十三水戸口附近ニ運搬セルモノニシテ此石材數量四千八百五立方米此工費四萬二千八百十三圓トス

附帶工事ハ西津輕郡柏村地先用水樋門鐵筋混凝土造内法高一米八、幅一米六二、連長十六米ノモノ一箇所、西津輕郡稻垣村大字繁田地先用水路附替工事延長一千九百五十三米ノモノ一箇所ニシテ何レモ前年度ヨリ繰越セルモノニシテ本年度全部竣功セリ而シテ本年度國庫補助額ハ八千三百四十一圓、管理者負擔額一千六百四十一圓ニシテ外ニ管理者施行ニ係ル縣道橋及道路附替工ニ對シ九萬一千七百十四圓ヲ國庫ニ於テ負擔シタリ

土地買収ハ工事ノ都合上必要ニ迫リ已ムヲ得ザル箇所ノミニシテ此土地買収並ニ物件移轉料十一萬六千九百二十二圓ナリ
 本事業ノ本年度竣功額ハ五十九萬五千七百六十八圓ニシテ起工以來ノ總竣功額ハ六百二十三萬五千六百五十四圓ナリ之レヲ總工費一千三十五萬圓ニ比スレバ六割ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	三、三〇五、八三二 立方米	一、〇八四、〇九六	二九七、三八二 立方米	八三、九七一	三、六〇三、二一四 立方米	一、一六八、〇六七	〇・四六
本築堤	三、五九九	一、六八〇	—	一三八	三、五九九	一、八一八	〇・七七
工事突堤	二、四九八、五三五 箇所	二九三、一三八	八九、〇二四 箇所	四九、五七五	二、五八七、五五九 箇所	三四、二七一	〇・七七
護岸水制	四、六一九米	八四、四五四	未竣功	—	—	—	—
障礙物除却	—	一五一、二六九	二、二三七米	三九、三四	六、八五六米	一九〇、四〇三	—
假設工	—	五二、九七二	—	—	—	—	—
用地費	四、四三〇段	三二、三九四	三、四八段	—	四、七七八段	三二、三九四	—
附帶(直轄施行)	—	一、五九五、七五一	—	—	—	—	〇・四三
工事費(管理者施行)	未竣功	—	未竣功	—	未竣功	—	—
船舶及機械費	未竣功	—	未竣功	—	未竣功	—	—
測量費	—	二五、六七五	—	—	—	—	—
營業繕費	—	一五、三八九	—	—	—	—	—
雜費	—	七三、二四九	—	—	—	—	—
合計	—	一、四八四、二四	—	—	—	—	—
合計	—	四六、七九八	—	—	—	—	—
合計	—	一六二、四三二	—	—	—	—	—
合計	—	五三四、三〇一	—	—	—	—	—

第一章 河川改修工事（岩木川改修工事）

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
共濟組合給與金		一七、四五三		三六、九六		二二、一四九	歩分
總計		五、六三九、八八六 一五、三八九		五九五、七六八 一、六四一		六、三三五、六五四 一七、〇三〇	〇・六〇

第一四 太田川改修工事

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ當初工費三百四十四萬圓、事務費二十一萬圓、合計三百六十五萬圓(内静岡縣負擔百八十二萬五千圓)ヲ以テ河川改良工事トシテ大正十四年度ニ至ル七箇年度繼續事業トシテ起工セシガ大正十二年度ノ初メニ至リ時局ノ影響ヲ受ケ物價及勞銀ノ騰貴ニ因リ工費百十九萬圓ヲ増額シ又財政上ノ都合ニ依リ施行年限ヲ延長シ昭和四年度ニ至ル十一箇年度ノ繼續事業トシ同時ニ河川法ニ基キ工事ヲ國ニ於テ直轄施行スルコトトナレリ地方費負擔額モ十二年度以降ノ分ハ同法ニ依ルコトトナレルヲ以テ結局工費四百六十九萬七千五百八十圓、事務費十四萬五千四百二十圓、合計四百八十四萬三千圓(内地方費負擔二百六萬九千圓)ニ變更セシガ更ニ同年九月一日ノ關東地方大震火災ノ影響ニ因ル事業繰延ノ爲メ施行年限ヲ昭和六年度迄延長シ其後昭和四年ニ至リ經費節減ノ爲メ六萬圓ヲ減額シ工費ヲ四百七十八萬三千圓(内地方費負擔二百四萬九千圓)ニ改メタリ

施行區域ハ幹川筋ニ在リテハ静岡縣周知郡森町以下海ニ至ル約二十二軒、支川敷地川ニ在リテハ同縣磐田郡三川村以下幹川合流點ニ至ル約七軒、支川原野谷川ニ在リテハ同縣小笠郡原谷村以下幹川合流點ニ至ル約十九軒、小支川逆川ニ在リテハ同縣小笠郡西山口村以下原野谷川合流點ニ至ル十軒、小々支川倉真川ニ在リテハ同縣小笠郡西郷村以下逆川合流點ニ至ル二軒餘、其他是等諸川ニ相關聯セル支川ノ一部ヲ合セ總計約六十軒ナリトス

河狀竝計畫大要

本川ハ大井及天龍ノ二大河ノ間ニ介在シ中遠ノ南部ヲ貫流スル流域面積五百八平方糎降水量饒多ナレドモ急流ニシテ平時水量乏シク殆ンド水運ノ便ヲ有セズ幹川流路ハ僅ニ四十四糎ニ過ギズト雖モ分合スル支派川二十有餘アリテ其總延長三百糎ニ達ス從テ灌溉面積比較的多ク九千七百六十ヘクタールニ互リ其利益大ナルモノアレドモ水害區域モ亦廣ク九千二百ヘクタールヲ算シ小河川ノ割合ニ損失ヲ受クルコト甚大ナリ而シテ其原因ハ主トシテ河狀ノ不良及堤防ノ薄弱ニ歸ス明治四十三年乃至大正八年ノ十箇年間ニ於ケル水害損失價額ノ如キ一箇年平均三十二萬百七十五圓ニ當リ就中明治四十四年ノ水害ハ百二十六萬二千六百七十二圓ノ多額ニ達シタリ而シテ本川ノ水害ハ獨リ田畑ヲ荒廢セシムルノミナラズ第一號國道タル東海道ヲ初メ重要道路ヲ數箇所ニテ橫斷スルヲ以テ一朝出水ノ際ハ忽チ交通ヲ杜絶シ從テ鐵道東海道線ノ如キモ不通ノ災厄ニ會フコト稀ナラザルノ狀態ニ在リ

本計畫ハ主トシテ洪水ノ疏通ヲ良好ナラシメ之レヲ防禦スルニ在リ改修ノ方法トシテハ在來ノ不規則ナル堤防ヲ改廢整理シ其薄弱ナルモノハ之ヲ擴築シ必要ノ箇所ニハ新ニ堤防ヲ設ケ河積不足ノ箇所ハ引堤或ハ掘鑿ヲ施シ以テ河狀ヲ矯正シ屈曲ヲ緩和シ時ニ新川ヲ開鑿シテ之ニ換ヘ支川ニシテ逆流ノ虞アルモノ及各用惡水路等ニハ必要ニ應ジ水門等ヲ築設シテ洪水ノ浸入ヲ防ガントス

本計畫ニ採用セル最大流量及河幅等ハ次ノ如シ

河川名	流量	河幅	高水位配位	河川名	流量	河幅	高水位配位
太田川 <small>原野谷川 合流點以下</small>	<small>毎秒立方米 一、九五〇</small>	<small>四二〇 米</small>	<small>一、二〇〇分一</small>	原野谷川	<small>毎秒立方米 九七五 至自 九三五</small>	<small>九七〇 至自 九五五</small>	<small>一、二〇〇分一</small>

敷	幹川上流	至自	九七〇 九七五	至自	九〇 九〇	至自	二四三分一 八七〇分一	倉	逆	至自	二五〇 五〇〇	至自	三六 六八六	至自	七五五分一 七五〇分一
地	川	至自	二五五 三〇〇	至自	五五〇 五五〇	至自	七三〇分一 七三〇分一	眞	川	至自	一六五	至自	三六	至自	六三〇〇分一 六三〇〇分一

堤防ノ標準断面ハ太田川、原野谷川合流點以下河口ニ至ル間ハ天端幅三米五、表法二割、裏法二割五分トシ
 太田川、原野谷川合流點以上及敷地川、逆川ハ大部分天端幅三米乃至三米五、兩法共二割トシ其他ノ小支川
 ハ天端幅二米七、兩法二割トシ天端高ハ計畫高水位上零米九乃至一米二トス尙勾配ノ急ナル箇所及水勢
 ノ激突スル虞アル箇所ニハ相當ノ保護工事ヲ施スモノトス

施工狀況

本工事ハ大正八年度創業以來施行準備ニ著手シ同八年度九年度ニ於テ實地測量竝ニ土地買收調査ヲ爲
 シ同十年度ヨリ同十二年度ニ至ル三箇年間に於テ三回ニ互リ全改修區域ノ殆ンド全部約百五十三町步
 ノ土地買收及地上物件ノ移轉ヲ完了シ續ギテ大正十三年度ニ於テ約一町三段歩ノ局部買收ヲ行ヒ昭和
 二年度ニ於テハ小々支川倉眞川上流未買收土地約九段歩ノ買收ヲ終リ前年度ニ於テ小支川逆川中流部
 切擴箇所ニ於ケル約七段歩ノ追加買收ヲ行ヒ本年度ニ於テモ約八段歩ノ追加買收ヲ行ヒ之レガ買收費
 二千三百二十圓ヲ支出セリ

工事ニ在リテハ大正十年度中買收區域ノ一部ヨリ著手シ漸次幹支川ノ各所ニ及ボシ大正十二年度ニ至
 リテ區域殆ンド全川ニ互リ專ラ築堤掘鑿工事ノ進捗ニ努メ特ニ幹川中流部竝ニ支川原野谷川、逆川合流
 附近ノ開鑿工事ニ全力ヲ注ギタリシガ昭和元年度ニ至リ此開鑿工事モ全ク完成シ其他ノ箇所ニ於テモ
 敷地川上流左岸堤ノ工事中ナルヲ除キ幹支川共僅カニ一小部分ヲ餘シ略々全部ノ竣成ヲ見ルニ至レリ

尙低水路ノ開鑿及切擴箇所ニハ大正十二年度以來必要ニ應ジ各所ニ護岸工事ヲ施行シ以テ水勢ヲ緩和シ堤脚竝ニ沿岸ノ侵蝕崩壞ヲ防止シ又新川開鑿工事ノ竣功ト共ニ洪水ノ疏通良好トナリ逐年河床低下ノ傾向アルニ依リ既設護岸ノ保持上之レガ防止ノ爲メ昭和四年三月ヨリ太田川中流部及逆川上流部ニ床固工事ヲ施行セリ又昭和四年十月改修以來ノ洪水ニ際會シ逆川及倉真川合流附近ニ於テ河積ノ狹隘ヲ感ジタレバ之レガ掘鑿切擴ゲヲ爲シ且兩川ノ合流ヲ良好ナラシムル爲メ脊割堤ヲ築設セントシ之レガ用地ノ買收ヲ爲セルモ起工スルニ至ラズシテ年度ヲ經過セリ

附帶工事ニ於テハ本工事ノ施行ニ伴ヒ必要箇所ニ樋管、水路、橋梁等逐次施行シ昭和元年度ヨリ施行中ノ逆川支川垂木川改良工事ハ本年度末迄ニ全部ヲ竣功シタリ

本年度中ニ於テ著手セル工事ハ護岸二十八箇所ニシテ前年度ヨリ施行ノモノヲ合セ本年度施行中ニ屬スルモノ築堤十三箇所、掘鑿四箇所、護岸四十九箇所、附帶工事二箇所ニシテ本年度中竣功セルモノ築堤四箇所、掘鑿一箇所、護岸二十箇所、附帶工事二箇所ナリトス

護岸工事ハ箇所ニ依リテ其工法異ナレルモ主トシテ根固及法覆工トシテハ上流部ニテハ鐵線蛇籠工ヲ、中流部以下ニテハ混凝土工、包柴工、粗朶工等ヲ施行シ水制工トシテハ鐵線蛇籠、木床、粗朶沈床若シクハ梁掛、杭出等ヲ施行シ床固工トシテハ粗朶沈床、單床、鐵線蛇籠等ヲ施行セリ

而シテ本年度竣功延長ノ護岸九千五百二十米、床固十三箇所此延長五百四十三米、計一萬六十三米ニシテ著手以來竣功總延長ハ護岸三萬一千七百米、床固二十五箇所此延長七百四十九米、計三萬二千四百四十九米ナリ

本年度太田川改修工事ノ竣功額ハ三十萬三千九百七圓ニシテ創業以來ノ累計ハ三百八十一萬六千百三

十五圓トナリ工事費豫算四百七十八萬三千圓ニ對シ八割ノ竣功トナル其工事竣功表次ノ如シ但シ表中
 「*」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	* 二、八五六、四九八 立方米	一、二六六、〇〇〇	* 五九、一八一 立方米	三九、六七五	* 二、九一五、六七〇 立方米	一、二六六、二七五	〇・九五
本工掘	* 二、〇三〇、三三二 米	七、一八四、八	* 一、七三三、二	七六	* 二、〇三〇、三三二 米	七、一九二、四	〇・八〇
工事費	二、二、三八六 米	三六九、五三八	二、〇〇六、三	二、〇、五〇四	三、二、三九二 米	五八〇、〇四二	〇・八五
假設	二、二七九	一、〇三二	二		二、二七九	一、〇三二	
附帶	未竣功 來竣功	□	未竣功 來竣功	□	未竣功 來竣功	□	
直轄施行	三、四〇	一、〇〇、二七四	二	一、〇、五〇七	三、四〇	一、〇〇、七八一	
工事費	五八	五、〇八一	四四	五、五七三	六二	六〇、六五四	
用土地	二、五五五	七四、七〇九	八段	一、三三三	四	二七、九四〇	
船舶及機械費		一、〇八五、七二三		二、三三〇		一、〇八八、〇三三	
測量費		二八四、三四二		二、一三二		二八六、四七四	
營業繕費		一五、七八七		三、三二四		一九、一一一	
雜費		一三、五七八		一一四		一三、七〇二	
共濟組合給與金		三四九、四〇二		二九、六四六		三七九、〇四八	
總計		九、四〇六		一、六七六		一一、〇八二	
		三、五一二、二二八 八、一、七三五		三〇三、九〇七 六、九〇九		三、八一六、一三五 八、八、六四四	〇・八〇

第一五 阿賀川及阿武隈川改修工事

緒言

本工事ハ大正八年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トシテ工事費一千三百七十二萬百五十圓(内阿賀川七百三十三萬九百七十七圓、阿武隈川六百三十八萬九千七百七十三圓)事務費二十萬七千九百六十圓、合計一千三百九十二萬八千一百十圓ヲ以テ施行ノ計畫ナリシモ大正十二年帝都ノ大震災ニ依リ財政上年割額ヲ變更シ昭和十一年度迄三箇年度ノ繰延ヲ爲セリ

阿賀川改修區域ハ幹川北會津郡大戸村大字雨屋以下河沼郡川西村大字長井ニ至ル三十一軒五支川宮川ハ同縣北會津郡荒井村以下阿賀川合流點ニ至ル二軒八支川湯川ハ若松市以下阿賀川合流點ニ至ル二軒四、合計三十六軒七ニシテ阿武隈川改修區域ハ幹川安積郡永盛村以下田村郡逢隈村ニ至ル間竝ニ同縣安達郡本宮町附近及福島市ヨリ下流伊達郡五十澤村ニ至ル三十七軒支川荒川筋ハ同縣信夫郡荒井村地藏原以下合流點ニ至ル十三軒一、合計五十軒一ニ達シ郡山平野本宮市街地竝ニ信達平野ノ主要部ヲ包含ス即チ兩川ヲ通ジタル改修區域ノ延長ハ八十六軒八ナリトス

河狀竝計畫大要

阿賀川ハ阿賀野川ノ上流福島縣ニ屬スル部分ノ稱呼ニシテ阿賀野川全部ノ流域面積八千九十七平方糎(内福島縣管内六千四百十六平方糎)、流路延長ハ二百二十八軒(内福島縣管内百二十四軒)ヲ有ス而シテ支川只見川及同川合流點以下ハ概ネ山間部ニ屬シ灌漑ノ利ニ乏シク水害モ亦少シト雖モ只見川合流點ヨリ

上流ハ會津平野ヲ貫流シ灌溉ノ利多キニ伴ヒ水害モ亦甚シク明治四十三年ヨリ大正八年ニ至ル十箇年ノ損失平均年額八十六萬三千百十六圓ニ達ス加之河道亂レ堤防薄弱若クハ無堤部ノ所多シ

本改修計畫ノ主眼ハ洪水防禦ニシテ即チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シ在來堤防薄弱ナルモノハ之ヲ補強シ低キモノハ之ヲ高メ無堤地ニハ堤防ヲ築キ河積不足ノ箇所ハ掘鑿竝ニ浚深等必要ノ工事ヲ施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニ在リ而シテ洪水位低下ヲ圖リ山間狹窄部ニ於テ三箇所ノ切割ヲ施行ス又支川宮川及湯川ハ各新水路ヲ開鑿シテ幹川ニ合流セシムルモノトス

高水流量ハ幹川ニ於テハ雨屋蟹川橋間每秒三千六十立方米、蟹川宮古橋間三千二百立方米、宮古橋日橋川合流點間三千四百八十立方米、日橋川合流點下流四千二百六十立方米トシ支川湯川ハ百八十立方米、同宮川ハ三百九十立方米ト定メ其河幅ハ幹川雨屋以下山崎渡船場ニ至ル平地部ハ三百六十四米乃至五百四十五米、山崎以下山間部ハ百四十九米、支川湯川ハ七十三米、同宮川ハ九十米トス

堤防ハ天端幅五米五乃至七米三、表法二割五分乃至三割、裏法全部二割トシ天端餘裕高ヲ一米二トス

阿武隈川ハ源ヲ福島縣西白河郡旭嶽ニ發シ福島縣ノ中央部ヲ貫通シ宮城縣ニ入り太平洋ニ注グ流域面積四千九百三十五平方糎(内福島縣管内四千二十五平方糎)流路延長二百五十九糎(内福島縣管内百九十六糎)ニ及ビ灌溉ノ利ヲ享クルコト多シト雖モ水害ヲ被ムルコトモ亦甚大ナリ特ニ福島市附近信達平野及郡山市附近安積平野ニ於テ最モ甚大ナリトス又信達平野左岸ニ存在スル各支川ハ水源地荒廢シテ急流ナルガ爲メ土砂ノ搬出甚シク從ツテ亂流ノ状態ニシテ洪水量比較的多シ就中荒川ヲ以テ最モ然リトス本改修計畫ノ主眼ハ洪水防禦ニシテ河道ヲ矯正シ在來ノ無堤地ニ堤防ヲ新築シ薄弱ナルモノハ補強シ低キモノハ之レニ嵩置シ河積不可箇所ハ掘鑿竝ニ浚深等ノ必要工事ヲ施シ以テ洪水量ヲ快通セシムル

ニ在リ

計畫高水流量ハ改修ノ最上流安積郡永盛村ヨリ大瀧根川合流點マデ每秒二千三百六十五立方米夫ヨリ以下ヲ二千七百八十立方米、福島市附近荒川合流點下流三千九百立方米、松川合流點下流四千七百七十立方米、摺上川合流點下流四千七百三十立方米、廣瀨川合流點下流五千二百九十立方米ニシテ支川荒川筋ハ須川合流點上流七百立方米、下流一千二百五十立方米ト決定セリ

計畫河幅ハ幹川筋ニ在リテハ谷田、大瀧根川合流點上流百八十二米乃至二百米、同下流二百十八米乃至二百三十六米、福島下流三百二十七米乃至四百米トシ荒川筋ハ四百四十五米乃至二百十八米トス堤防ハ阿武隈川、支川荒川共天端五米五、兩法二割トシ天端餘裕高ハ幹川ニテ一米二、支川荒川ニテハ六十糎トス

施工狀況

阿賀川改修工事ハ大正十年二月ノ創業ニ係リ本年度施行工事ハ前年度同様廣瀨村青津、慶徳村山科間同泡ノ卷地内、同土堀地内及川西村袋原地内ノ新川開鑿竝ニ堂島村赤星大澤間右岸、廣瀨村青木青津間左岸、慶徳村山崎地内右岸ノ切擴ダヲ續行更ニ堂島村大澤下流右岸、川西村津尻地内左岸ノ掘鑿ヲ起シ泡ノ卷地内、土堀地内、袋原地内ノ掘鑿竣功部分ニ對シテハ夫々護岸工事ヲ施シ大澤地内右岸ニ鐵線蛇籠工ヲ施行セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ施行中ノ赤星大澤間右岸、濁川右岸、青津山科間右岸ヲ續行シ更ニ大澤、田原間及青木、青津間ノ築堤ニ著手セリ

而シテ本年度ノ掘鑿土量ハ五十七萬九千四百六十一立方米ニシテ工費ハ掘鑿、築堤、護岸ヲ合セ十七萬二

千四百五十八圓ナリ

本改修工費竣功額ハ本年度三十三萬八千七百八十七圓、當初ヨリノ累計ハ二百七十八萬三千七百五十六圓ニシテ總工費豫算額七百三十三萬九百七十七圓ニ對シ三割八分ノ竣功ナリ

阿武隈川改修工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ諸般ノ準備完了シ土地收用モ殆ンド了シタリト雖モ豫算ノ關係上著シク工事ノ進捗ヲ見ザルハ頗ル遺憾トスル處ナリ其施工區域ハ前年度ト同様幹川筋福島下流信達平野、本宮市街、郡山平野及支川荒川筋ニシテ前年度ニ引續キ掘鑿築堤及護岸工事等ヲ施行シ伊達郡伊達崎村地内新川掘鑿部ノ低水路モ殆ンド完成シ昭和五年三月十四日ノ出水ニ通水シタリ本宮市街地ノ築堤及護岸モ大部分竣功シ近ク完成スル豫定ナリ

附帶工事タル行合橋ハ昭和三年十月著手シ昭和四年十月工費六萬四千九百九十圓（内國庫負擔八千圓）ニテ竣功シ伊達郡伊達崎村地内新川ニ架設スル伊達崎橋ハ國庫負擔三萬二百五十七圓ニテ目下施行中ナリ

本宮町地内新設惡水樋管三箇所ハ昭和五年二月竣功セシガ荒川筋信夫郡荒井村地内ノ用水樋管ハ昭和五年三月著手未竣功ナリ而シテ樋管工事ハ直接施行シ橋梁工事ハ管理者施行トス

本改修工事竣功額ハ本年度支出額二十五萬二千五百五十圓當初ヨリノ累計四百六十六萬四百一十一圓ニシテ總額六百三十八萬九千七百七十三圓ニ對シ七割三分ノ竣功ナリ

本年度阿賀川及阿武隈川兩川改修工事竣功額ハ五十九萬一千三百三十七圓、累計竣功額七百四十四萬四千六百六十七圓ニシテ總工費一千三百七十二萬百五十圓ニ對シ五割四分ノ竣功ナリ其竣功表左ノ如シ但シ表中「ロ」ハ管理者負擔額ヲ示ス

阿賀川改修

本表ヲ更ニ河川別ニスレバ次ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	八一六、四三九 立方米	四六一、六七七 円	八一六、四三九 立方米	四六一、六七七 円	八一六、四三九 立方米	四六一、六七七 円	〇・四二
工築	四、六八八、五九四	一、三六一、四〇〇	二、三三八、四一六	二八一、一五七	五、八八八、六九二	一、六四二、五五七	〇・三四
事護岸水	一、九八四、三四六	四五五、九九五	二、五四六	一四、三三二	二、二二二、七六二	四七〇、三二六	
費堰門	一、二、六〇一 箇所	一九九、二二二	二、五四六 箇所	五四、七三九	一、五、一四七 箇所	二五三、九六〇	
用地	二	一四三、七一〇	二	一四三、七一〇	二	一四三、七一〇	
附帶直轄施行	六、二四二 箇所	四三、五〇三	三、四〇段 三、四〇箇所	七、七、三三三	六、五八二 箇所	四三、五〇三	〇・九四
工事費	未竣功	一、〇五九、一八七	未竣功	二、一〇九四	未竣功	一、一三六、五二〇	
船舶及機械費	未竣功	二一、四九四	未竣功	二、一四〇	未竣功	二三、五八八	
測量	未竣功	一、一九三	未竣功	八、〇〇〇	未竣功	一、一九三	
營業繕費	未竣功	三七、四四三	未竣功	六、八〇〇	未竣功	四三、二四三	
雜費	未竣功	二、三〇一、九二九	未竣功	八、四九六	未竣功	二、三一〇、四二五	
共濟組合給與金	未竣功	八、三〇九	未竣功	一、八〇二	未竣功	一〇、一一一	
總計	未竣功	六、八五二、八三〇	未竣功	五九一、三三七	未竣功	七、四四四、二〇七	〇・五四

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工費	225,850	108,967	579,461	154,938	225,850	108,967	0.30
工事費	1,864,810	689,036	20,818	6,877	2,444,271	843,974	0.30
護岸水制	62,491	7,573	20,818	6,877	83,309	14,450	0.04
用地費	645	28,380	49	1,643	694	29,023	0.04
附帶直轄施行	1,439	247,258	331	74,503	1,770	321,661	0.44
工事費	1	1,079	1	541	2	1,620	0.04
船舶及機械費		1,007,917		41,966		1,049,883	
測量費		2,809		880		3,689	
營業繕費		27,452		4,567		32,019	
雜費		315,180		42,266		357,446	
共濟組合給與金		9,418		2,247		11,565	
總計		2,444,969		338,787		2,783,756	0.38

阿武隈川改修

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工費	590,589	352,710	590,589	352,710	590,589	352,710	0.49
工事費	2,813,784	672,364	620,637	126,219	3,434,421	798,583	0.58
堤鑿	1,921,855	448,422	227,598	74,544	2,149,453	523,066	0.48
總計							

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	測量費	船舶及機械費	工事費 〔直轄施行 管理者施行〕	附帶費 〔直轄施行 管理者施行〕	用地費	水堰門	護岸水制
						未竣功 未竣功	未竣功 未竣功	四、八〇三 二	一、九五六 一	一、七〇、八四一 一
□	四、四〇七、八六一 一〇、六五二	七、九〇七	三、四二、三二一	五、六六八四	五、五〇〇	一、二九四、〇一二	三、七、四四三	八二、二〇二九	四三、五〇三	一、四三、七一〇
						未竣功 未竣功	未竣功 未竣功	一、三三九段	二、四九七 一	二、四九七 一
□	二、五二、五五〇 一、一四〇〇	一、八六五	三、三、八三三	二、二、三三六	九二二	三、三、〇〇一	八、〇〇〇	二、〇、九四	二、八三〇	四、四、〇九六
						未竣功 未竣功	未竣功 未竣功	四、八一二 一	一、四、四三三 一	一、四、四三三 一
□	四、六六〇、四一 一、一七九二	九、七七二	三、七六、一五四	五、八、九二〇	六、四二二	一、三、一七、〇二三	四、五、四四三	八、一四、八五九	四、三、五〇三	二、二四、九三七
	〇・七三							一〇〇		

第一六 圓山川改修工事

緒言

本川ハ第二期川ニ屬シタル關係地方ニ於テ急施ヲ請願シ第一期川ニ準ジ大正九年七月ニ於ケル臨時議會ノ協贊ヲ經テ國庫ヨリ工費ノ半額ヲ補助シ且明治三十年法律第三十七號ニ依リ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルコトトナレルモノニシテ當初大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百萬圓(工事費四百六十五萬圓、事務費三十五萬圓)ナリシガ其後物價及勞銀ノ昂騰ニ依リ豫算額ノ約一割八分ヲ増加セラレ總工費豫算五百九十一萬一千圓(工事費五百八十萬六千圓、事務費十萬五千圓)トシ施行年度又延長セラレ昭和九年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トナリシモ昭和四年ニ於テ二箇年度ノ短縮トナリ昭和七年度ニ至ル十三箇年度ノ繼續事業ニ更メラル其工事施行區域ハ幹川左岸兵庫縣城崎郡國府村右岸同郡中筋村以下海ニ至ル二十三軒三、支川出石川左岸同縣出石郡室埴村、右岸同郡出石町以下圓山川合流點ニ至ル九軒三、合計三十二軒六ナリトス

河狀並計畫大要

圓山川ハ其源ヲ兵庫縣朝來郡生野町圓山字内尾谷ニ發スルヲ以テ其稱アリ兵庫縣下ニ於テハ加古川ニ次グ大河ニシテ其流域但馬國ノ大部分ヲ占メ沿岸ニハ豊岡町ヲ初メトシ城崎、出石、八鹿、和田山ノ諸邑アリ河口ニハ津居山ノ要津ヲ有シ但馬唯一ノ平野ヲ南北ニ貫流シ日本海ニ入ル水運ノ便、灌漑ノ利アルモ比年洪水頻ニ臻リ明治維新後ニ於テハ明治十八年及同二十六年ヲ其最ナルモノトシ近年ニ於テハ明治

四十年八月以來大正元年、同七年、同八年、同十年及同十二年九月ノ如キ洪水頻出シ以テ其被害甚大ニシテ沃野、家屋殆ンド水底ニ葬ラレ豊岡町ノ如キハ街路ニ舟ヲ浮ベ交通ニ資シ其狀況一望大湖ノ觀アリ加フルニ其減水遲々トシテ滯水旬日ニ互ル事アリ慘狀言語ニ絶ス然モ沿岸ハ概ネ低濕且堤防矮小ニシテ中位ノ出水ニ際シテモ其汎濫區域廣ク被害又大ナリトス

本川全流域面積一千三百二十平方糎餘、幹川流路延長六十七糎餘ニシテ支川ヲ合スレバ六百四十糎ニ達ス其平地面積凡ソ百九十平方糎ニシテ全流域ノ約一割四分強ヲ占ム支川ノ主ナルモノヲ大屋、八木及出石ノ各川トス

本流域ハ日本海ニ面シ然モ一盆地地形ヲ爲シ氣象ニ於テ特異ナル處アリ其降水日數極メテ多ク最近十箇年間ノ平均ヲ兵庫縣神戸測候所豊岡出張所ノ觀測ニ依ルニ一箇年ノ降水日數二百二十三日其年降水量二千三十六糎ニ及ビ流域内ニ於ケル最大降水日量ハ二百五十糎(明治四十年八月西氣及城崎)ニ達ス水害ハ殆ンド毎年之ヲ見ザルハ無ク時ニ一箇年間ニ數回ニ及ブ事アリ明治四十年、大正元年、同七年、同八年、同十年及同十二年ハ近來ニ於ケル顯著ナルモノニシテ大正七年ノ洪水ニ於テモ湛水面積四千ヘクタール、浸水家屋三千餘戸ニ及ビ其損失見積價額二百十三萬圓ニ達シ同十年ニハ百十六萬圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ要旨ハ高水防禦ニ在リ從テ高水量ニ對スル相當ノ河積ヲ與ヘ高水時間ノ短縮ヲ圖ランガ爲メ屈曲甚シキ箇所ニハ新川ヲ開鑿匡正シ以テ疏通ヲ速カナラシメ堤防ハ新設又ハ増築シテ汎濫ヲ防ギ各小支川ニハ逆水樋門ヲ設ケ以テ逆水ノ防禦ニ資ス

計畫高水量ハ出石川合流點以上幹川ニ於テハ每秒二千五百立方糎、同下流二千八百立方糎、出石川ニ於テハ五百立方糎トシ計畫高水位ハ大體ニ於テ大正元年ノ高水位ニ準據シ其勾配一千五十分ノ一ヨリ三千

六百分ノ一ノ間ニ變化シ中流部豊岡町附近ニ於テハ二千六百分ノ一トス

幹川城崎郡國府村松岡以下同村上佐野、左小支八代川合流點附近ニ至ル間ハ大體現狀ニ依リ舊堤ノ補強ニ止メ以下同郡田鶴野村赤石玄武洞ニ至ル間ハ河幅ノ擴張ヲ爲スト共ニ同郡中筋村加陽、八條村佐野間及同郡新田村今森、塩津間竝新田村立野ニ於テ新川ヲ開鑿シ以テ高水ヲ快疏セシム

田鶴野村玄武洞以下ハ所謂山間部ニシテ所々河積狹隘ノ箇所アルモ比較的不急ノ工事ナルヲ以テ其特ニ著シキ障碍トナル箇所ニ除却工事ヲ施シ城崎町ハ一部之ニ築堤包圍ス河幅ハ出石川合流點附近ニテ三百米トシ漸次擴大シテ田鶴野村赤石ニテ約三百六十米ニ達セシム

幹川堤防ハ天端幅五米五、表法二割トシ出石川合流點以下及同所以上ノ右岸堤防ハ裏二割天端ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ裏小段ヲ置キ以下二割五分勾配トシ支川出石川ハ兩岸堤防ノ位置甚不規則ナルモ河幅概シテ廣濶ナルヲ以テ概ネ現狀ニ則ルコトトシ唯其中流部及下流部ニ於テ特ニ狹隘ナル箇所介在セラルヲ以テ其最小幅員ヲ百米トシテ擴大ス其堤防ハ天端幅五米五、兩法二割トス計畫堤防ハ計畫高水位ニ對シ幹川筋ニ於テハ一米ニ出石川筋ニ於テハ一米二乃至九十糎ノ餘裕アラシム

堤防ノ總延長四十糎餘ニシテ築堤土量約三百萬立方米其掘鑿竝浚渫土量三百八十五萬立方米トス護岸工ハ河道ノ彎曲セル箇所又ハ流勢ノ激衝スル部分ニ施行シ現在定著セル河岸ハ成ルベク之ヲ利用セントス

樋門ノ主ナルモノハ小支六方川、八代川、奈佐川ノ逆水樋門及ビ豊岡町北端舊川締切箇所ニ樋門ヲ設置シ逆水ヲ防禦スルト共ニ惡水排除及舟運ヲ司ラシム

奈佐川ハ逆水樋門ヲ以テシテハ改修ノ效果著シカラズトシ昭和三年度ニ奈佐川及大濱川改修トシテ總

工費五十八萬六千九百四十圓ヲ以テ兵庫縣之ヲ起業シ國庫ヨリ十七萬五千圓ノ補助ヲ與ヘ直接施行スル事トナレリ其施行年度ハ昭和三年度ヨリ同六年度ニ至ルモノトス

附帶工事ハ前記奈佐川及大濱川改修外用惡水路ノ新堤ヲ貫流スル箇所ニ施行スベキ樋門等ヲ初メトシ橋梁水路等三十箇所ニ及ブ

施工狀況

本改修工事ハ大正九年度ニ著手セリト雖モ同年度ハ實施測量準備ニ止マリ同十年度及同十一年度ハ實施測量ト共ニ下流部ノ幅杭ヲ設置シ同十二年四月以降幹川町杭一里三十一町ヨリ同三里三町半間即チ豐岡町北端以下玄武洞以上ノ人力掘鑿及築堤ニ著工シ同十三年度ニハ之ヲ幹川三里十町ニ及ボセリ内三里三町半以上ハ高水敷ノ整理ト共ニ新低水路ノ機械掘鑿準備ニ供ヘタリ

大正十四年度ニ於テハ既著工部ノ工事進捗ヲ計ルト共ニ豐岡町東側新田村立野地先ニ於テ新川開鑿ニ著手シ一時間百二十五立方米掘鑿機及二十噸機關車ノ運轉ヲ開始セリ尙本川吐口即チ城崎郡港村津居山地先ニ於テハ其右岸ニ土砂堆積シ河口ノ疏通ヲ妨グルヲ以テ此土砂浚漑ニ從事シ之ガ爲メ二百噸掘浚漑船並曳船足羽丸各一隻四十八立方米木製土運船二隻及六十立方米積鋼製土運船一隻ニ據リ大正十四年度及同十五年度ニ於テ合計四萬八千五百立方米餘ノ土砂ヲ浚漑シ日本海ニ投棄シ凡ソ所期ノ目的ヲ達セルヲ以テ一先ヅ竣功トシ後日ノ變化ヲ見ルコトトセリ昭和元年度及同二年度ハ前年度ニ引續キ著工部分ノ進捗ニ努メ新田村立野地先新水路殆ンド竣功セルヲ以テ掘鑿機ハ之ヲ上流同村今森地先ノ新水路ニ從事セシムル事トシ全施行區域ハ出石川合流點迄延長セリ

昭和三年度ニハ既著工區域ノ完成ニ努ムルト共ニ年度ノ後半ニハ本川筋ニ於テハ右岸城崎郡中筋村町杭四里十五町、左岸ハ同郡八條村町杭四里八町半迄支川出石川ハ右岸中筋村町杭零里八町半迄ニ及ボセリ

本年度施工區域ハ本川筋ニ於テハ右岸ハ五里零町即チ改修終點、左岸ハ四里十四町、支川出石川ハ右岸零里十六町迄之ヲ延長セリ

本年度起工ニ係ル主ナル工事ヲ述ブレバ右岸四里二十七町ヨリ五里零町ニ至ル西芝及中ノ郷築堤ハ全部官地掘鑿自辨土ヲ以テ舊堤ヲ擴築シ其大約ノ盛土ヲ了ヘタリ同築堤ハ中郷護岸ヲ以テ水流ノ衝激ニ備ヘタリ同四里二十七町半以下出石川合流點四里五町半間ノ加陽及土淵築堤ハ其用土ノ一部ヲ中筋村加陽地先ノ新低水路掘鑿ナル加陽機械掘鑿ニ依リ殘餘ハ官地掘鑿自辨土ニ據リ其新低水路掘鑿大約ヲ竣功シ以テ築堤ノ盛土其約半ヲ了ヘタリ新低水路ハ急曲セルヲ以テ是ニ加陽及上佐野護岸ニ依リ法面保護ニ供ヘタリ

左岸部ニ於テ前年度著工セル九日市人力掘鑿ハ其工ヲ了ヘ九日市及佐野人力掘鑿ノ竣功又近キニ在リ以テ三里三十町半以上四里六町半以下ノ九日市及佐野築堤又其八割ノ盛土ヲ終了セリ

支川出石川ニ於テハ本年度ニ於テ右岸中筋村本川町杭四里四町ヨリ出石川町杭零里十六町ニ至ル清冷寺及伏築堤ヲ著工セリ

新田村今森ニ於ケル新低水路ノ掘鑿殆ンド竣功セルヲ以テ同地點ノ新川通水近キニ在リ尙下流豊岡町附近ニ於ケル立野第一同第二築堤、大磯築堤及新田築堤竝立野第三人力掘鑿ヲ竣功シ大磯人力掘鑿ノ竣功亦近キニ在リ

斯クノ如クニシテ本年度迄ニ築堤ハ計畫ノ四割五分、掘鑿ニ於テハ六割五分ヲ竣功セリ

昭和四年度ニ於ケル使用土工機械ノ主ナルモノハ一時間百二十立方メートル掘鑿機二臺、二十噸機關車三臺、五噸機關車二臺、三噸ガソリン機關車一臺、三立方メートル側開土運車二百四十臺、零立方メートル六箱土運車五百五十臺、零立方メートル三鍋土運車二百七十臺、竝零立方メートル六側開鐵土運車二百臺トス。此外兵庫縣ヨリ借用セル八噸機關車二臺及一立方メートル鍋土運車百六十臺ヲ使用ス

土地買收ハ大正十二年度以來第一次ニ於テ城崎郡新田村立野町杭三里九町半以下同郡田鶴野村赤石以上、第二次ハ同十三年度ニ同三里九町半以上新田村今森町杭二十八町半以下、第三次ハ同十四年度ニ同町杭以上出石川合流點以下右岸堤外地全部、第四次ハ同十五年度ニ同堤内地全部、第五次トシテ昭和三年度ニ於テ本川右岸五里零町以下ノ堤敷地及左右岸四里十五町以下ノ河川敷全部、竝支川出石川右岸零里零町乃至零里二十九町、左岸零里十六町以上零里二十八町以下ノ堤敷又ハ河川敷ノ買收手續ヲ採リ殆ンド其全部ノ承諾ヲ見タリ以上ノ買收總段別ハ約百七十七町一段トス

附帶工事ハ豐岡町外十四箇町村治水事務組合ノ申請ニ係ル城崎郡田鶴野村地先宮島樋門、下鶴井惡水路(同樋門共)、一日市吸水管竝玄武洞樋門ハ既ニ竣功シ附帶工事奈佐川及大濱川改修ハ築堤、掘鑿、護岸及樋門類ニ於テ全工事ノ三割ノ竣功ヲ見タリ

本年度ノ竣功高ハ五十萬八千三百三十九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ三百九十二萬八千四百八十三圓ナリ之ヲ總工費豫算額五百九十一萬一千圓ニ比スレバ六割六分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量、「□」ハ管理者負擔額、「△」ハ提供品價額及勞力費、「○」ハ無代價品評價額、「◇」ハ直營取出石材及砂、砂利採取使用價額、「◎」ハ保管轉換品價額、「△」ハ製作品使用價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	* 立方米 一、四六六、六八九	△ 一一、七七一、四一四	* 立方米 三七三、九三一	△ 五、二七九、〇八〇	* 立方米 一、八四〇、六二九	△ 一六四、〇二五	〇・二六
掘鑿	二、〇〇七、四八七	△ 七〇七、一六七	四八八、三八五	△ 二、九三三、七五二	二、四九五、八七二	△ 八三〇、九一九	〇・六〇
工事	四八、五二八	△ 二一、九四〇	米	△ 四二、二四四	四八、五二八	△ 二一、九四〇	〇・二六
事費	護岸及水制 四、七二八	△ 一〇三、〇五三	米	△ 一、一三六、九一四	四、七二八	△ 一、一三六、九一四	〇・二六
費用	特種工事 一、五三五	△ 一、六八〇、五六三	米	△ 一、六三三、〇一九	一、五三七一段	△ 一、六四三、五八二	〇・二二
附帶工事費	未竣功 一、五三五	△ 三九、五五九	米	△ 七、九三三	一、五三七一段	△ 九、三九三	〇・二二
船舶及機械費	△ 四三三、五〇九	△ 九六八、一一一	米	△ 五二、四八四	四三三、五〇九	△ 九六八、一一一	〇・二二
測量費	△ 二六、二七二	△ 二六、二七二	米	△ 一、七四五	二六、二七二	△ 二八、〇一七	〇・二二
營業繕費	○	○	米	○	○	○	〇・二二
雜費	△ 二六〇、三二三	△ 六三三、三三三	米	△ 五、四九五	二六〇、三二三	△ 六三三、三三三	〇・二二
亡失毀損	△ 三三六、八三五	△ 三三六、八三五	米	△ 五五	三三六、八三五	△ 三三六、八三五	〇・二二
共濟組合給與金	△ 四〇三	△ 四〇三	米	△ 五五	四〇三	△ 四〇三	〇・二二
總計	三、四二〇、一四四	△ 五九、〇五九	三、〇〇三	△ 一五〇、八三三	三、九二八、四八三	△ 一四九、九八五	〇・六六

第一七 富士川改修工事

緒言

本工事ハ大正九年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費九百三十萬圓(上流部七百萬圓下流部二百三十萬圓)ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ豫算編成當時ニ比シ一般物價及勞銀ノ昂騰甚シク工費ニ不足ヲ告ゲタルヲ以テ大正十二年度以降増額シテ一千二百萬圓(上流部九百萬圓下流部三百萬圓)ニ改メ施行年限ヲ昭和六年度迄延長セリ然ルニ大正十三年度ニ於テ財政上ノ都合ニ依リ施行年限ヲ更ニ昭和十一年度迄延長シ十七箇年度繼續事業トシ施行中ナリシガ一般財政緊縮ノ爲メ本年度ニ於テ工費十三萬五千圓ヲ減額シテ總工費ヲ一千八百八十六萬五千圓ニ改メ施行スルコトナレリ

其區域ハ上流部ニテハ幹川山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ同縣南巨摩郡五開村ニ至ル二十軒支川笛吹川同縣東八代郡石田町ヨリ同縣西八代郡市川大門町三川合流點ニ至ル十九軒又下流部ニテハ幹川靜岡縣庵原郡富士川町以下海ニ至ル八軒計四十七軒ナリトス

河狀並計畫大要

富士川ハ幹川ヲ上流ニ於テ釜無川ト稱シ源ヲ山梨縣ノ西北隅ニ屹立セル駒ヶ嶽ノ西麓ニ發シ甲信ノ境ヲ北流スルコト十八軒餘ニシテ南折シ同縣北巨摩郡ニ入リ一大斷層谷ヲ流レ大武川、小武川、塩川、御勅使川等ノ支川ヲ合シ龍王村ニ至リ始メテ甲府盆地ニ出ヅ甲府盆地ハ太古一大湖水ナリシガ富士川ノ作用ニ依リ陸化シタル所ニシテ地形平夷面積一萬三千ヘクタールニ達シ灌溉ノ便全シト雖モ一朝洪水ニ際

會セバ水災最モ慘狀ヲ來ス地方ナリ釜無川ハ之ヨリ盆地ヲ貫キ中巨摩郡忍村ニ至リ笛吹川及蘆川ノ東ヨリ來ルニ會ヒ之ヨリ以下ヲ富士川ト稱シ南巨摩郡鵜澤町地先禹ノ瀨ニ至リテ再ビ山地ニ入り南流シ早川、芝川等ノ支川ヲ合シ静岡縣富士郡岩松村ニ至リ再ビ平原ニ出テ駿河灣ニ注グ此平原モ亦本川砂礫ノ沖積セルモノニシテ其面積五千ヘクタールニ達シ古來水災激甚ノ地ナリトス而シテ水源ヨリ笛吹川合流點迄ノ流程五十八粍合流點ヨリ河口迄ノ流程七十一粍合計百二十九粍ナリ又支川笛吹川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ノ北隅甲武信ヶ嶽、國師ヶ嶽及奥千丈嶽ニ發シ山嶽ノ間ヲ西南ニ流レ同郡日下部村ニ於テ甲府盆地ニ出テ重川、日川、金川、荒川等ノ支川ヲ集メ忍村ニ至リ釜無川ニ合流ス其流程五十粍ナリ本川流域ハ長野、山梨、静岡ノ三縣ニ跨リ流域面積四千五百三十平方粍ナレドモ其大部ハ山嶽部ニシテ平地ハ六百十平方粍ニ過ギズ支川ヲ合セ流路延長一千七百八十粍、航路延長九十粍、灌溉區域一萬八千二百ヘクタールニ及ビ水害區域一萬三千五百ヘクタールヲ算ス而シテ流域ハ山地大部分ヲ占メ加フルニ山林ハ濫伐セラレ水源ノ荒廢渺カラズ且花崗岩、閃綠岩等ヨリ成レル山地ノ風化崩壞スルモノ多キヲ以テ豪雨ノ際ハ雷ニ出水量多大ナルノミナラズ時トシテハ土砂流ヲ起シ而モ河床勾配急峻流勢急激ナルニ依リ堤塘ヲ破壞シ沿川ノ耕地ヲ變ジテ礫川ト化セシメ大慘害ヲ醸セシコト稀ナラズ殊ニ明治四十年ノ大出水ニ際シテハ笛吹川支川重川、日川、金川等ノ水源大崩壞ヲ來シ土砂ヲ以テ甲府平原ノ一半ヲ埋沒スルニ至リ其水害損失價額ハ實ニ一千二百萬圓ノ巨額ニ昇レリト云フ近時水害減少シタリト雖モ尙大正五年以降同十四年ニ至ル十箇年間ニ於ケル平均一箇年水害損失價額ハ約四十三萬九千圓ニ達ス本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ本計畫ニ採用シタル高水流量及河幅左ノ如シ

縣名	河川名	區間	高水流量	河幅
山梨縣	釜無川	龍王村ヨリ笛吹川新合流點ニ至ル 石和町ヨリ荒川合流點ニ至ル	無砂立方米 三、一〇〇	至白
山梨縣	笛吹川	荒川合流點ヨリ蘆川合流點ニ至ル 蘆川合流點ヨリ富士川合流點ニ至ル	二、五〇〇	至白
山梨縣	富士川	笛吹川新合流點ヨリ天神瀧ニ至ル	二、八〇〇	至白
山梨縣	富士川	松野村ヨリ海ニ至ル	五、六〇〇	至白
静岡縣	富士川		九、八〇〇	至白

改修方法トシテハ上流部山梨縣下ニ屬スル區域中釜無川筋龍王村以下花輪村地先淺原橋ニ至ル間ハ兩岸堤防堅固ニ且其位置宜シキヲ以テ在來ノ儘トシ唯兩岸堤脚ヨリ水制ヲ出シ流心ノ堤脚ニ接近スルヲ防ガントス又支川笛吹川ニ於テハ河積不足ナル箇所ハ河幅ヲ擴張シ掘鑿ヲ施ス外一部河床ノ隆起著シキ箇所ハ浚渫ヲ行ヒ堤防ノ薄弱ナル箇所ハ嵩置腹付ヲ爲サントス而シテ笛吹蘆ノ兩川ハ共ニ忍村ニ於テ釜無川ニ合シ而モ釜無川及蘆川ハ急流ニシテ河床高ク笛吹川ハ兩川ノ間ニ介在シ勾配緩ナルガ爲メ其合流口閉塞セラレ洪水ノ排疏頗ル困難ナルヲ以テ笛吹川ハ蘆川ト共ニ新河道ニ依リテ三籽ノ下流ニ導キ西八代郡高田村地内ニ於テ幹川ニ合セシメ笛吹川ノ疏通ヲ助ケントス富士川(釜無、笛吹、蘆)ノ三川合流點以下ヲ富士川ト稱スハ鵜澤町地先禹ノ瀨ニ於テ狹塞セラレ水面勾配緩トナリ從テ三川合流點以下ノ現川敷ハ計畫流量ヲ排疏スルニ足ラザルヲ以テ前述ノ如ク笛吹川ヲ分流スルト共ニ河幅ヲ擴張シ且堤防ニ嵩置ヲ加ヘ掘鑿ヲ施シテ充分ナル流積ヲ與ヘントス又禹ノ瀨以下ニ在リテハ大柳川殆ンド直角ニ幹川ニ流入シテ其洪水ノ疏通ヲ阻ム虞アルニ依リ床固ヲ築造シテ河床ヲ整正セントス尙蘆川、戸川及

小柳川等ニモ床固ヲ設クルモノトス

下流部静岡縣下ニ屬スル區域中岩松村以下東海道線鐵道橋以上ハ流勢ノ激衝スル所略一定スルヲ以テ現存工作物ノ機能ヲ増進セシムルニ努メ鐵道橋以下ニ於テハ水勢ノ激衝スル堤脚ニハ水制ヲ出シ左岸下流無堤ノ箇所ニハ新ニ堤塘ヲ設ク尙上下流部改修區域ヲ通ジ堤塘護岸等ハ必要ニ應ジテ擴築或ハ増築ヲ爲スモノトス

山梨縣南巨摩郡五開村ヨリ静岡縣庵原郡富士川町ニ至ル約五十軒ノ間ハ殆ント山間部ニシテ平地少ク洪水ニ因ル被害比較的重大ナラザルヲ以テ本改修計畫ニ計上セズ

堤防ハ上流部釜無川及富士川ニテハ天端幅六米、兩法二割五分、笛吹川ニテハ天端幅六米、兩法二割トシ天端ヲ計畫高水位以上幹川ニ於テ一米八乃至一米五、支川笛吹川ニ於テ一米六乃至一米二タラシム又下流部ニテハ左岸堤ハ天端幅八米ニシテ岩松村地先ニ於テハ表法六割、裏法二割トシ之ニ計畫高水位以上一米ノ箇所ニ幅七十米乃至五十米ノ表小段ヲ附ス加島村及田子浦村地先ニ於テハ表法二割、裏法六割トシ右岸堤ハ天端幅六米、表法二割、裏法二割五分ヲ標準トシテ何レモ天端ヲ計畫高水位以上一米八トシ河口ニ至ルニ從ヒ此餘裕ヲ減ジ一米タラシム

河幅ハ上流部釜無川及富士川ニテハ多クハ在來堤ヲ擴築スルニ止マリ釜無川ニテ三百米乃至四百米、富士川ニテ三百六十米乃至五百米ナリ又笛吹川ハ河積不足ノ爲メ引堤セシ部分尠カラズ二百米乃至二百九十米ナリ又下流部ニ於テハ多クハ在來堤ヲ擴築シ左岸無堤ノ箇所ニ新堤ヲ築設セシ爲メ河幅著シク不同ナリ即チ改修上流端岩本一番出ニテハ三百六十米ナレドモ雁堤附近ニテハ九百米以上ニ増大シ國道橋ニテ再ビ四百米ニ縮少シ鐵道橋ニテハ五百七十米トナリ以下漸次擴大シ宮下突出部ニテ一千米堤

防末端ニテ一千七百米ニ達ス

施工狀況

本工事ハ大正九年度ノ創業ニ係リ直ニ上流及下流ニ各土地收用事務所ヲ設置シテ土地買收調査ヲ行ヒ翌十年度ヨリ買收協議ヲ開始シ事務ノ進捗ニ伴ヒ下流ハ同十年八月、上流ハ同十三年六月各事務所ヲ閉鎖シ殘務ハ上流及下流兩改修事務所ニテ處理スルコトトナリ同十四年度迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ了レリ其總段別百八十八町三段步餘ニシテ用地費九十三萬四百五十五圓トナレリ

工事施行ニ關シテハ下流部ハ同十年四月富士郡岩松村ニ又上流部ハ翌十一年一月西八代郡市川大門町ニ各改修事務所ヲ置キ(下流部ハ昭和四年九月上流部ト合併セリ)其下ニ數箇所ノ工場及派出所ヲ設ケ各種工事ヲ施行シ本年度迄ニ築堤四百二萬八千七百四十二立方米、浚渫三百二十八萬二千三百七十八立方米、護岸水制一萬二千六百七十八米ヲ竣成セシメ外ニ附帶工事直轄施行十一箇所ヲ施行シ同管理者施行ニ對シ國庫補助額四萬四千四百四十八圓ヲ交附セリ

今年度施工ノ概況ヲ述ベンニ上流部ニテハ前年度ヨリ繼續ノ築堤十八箇所、掘鑿十二箇所、護岸水制十箇所及附帶工事二箇所竝ニ本年度起工ノ築堤六箇所、掘鑿三箇所、護岸水制十八箇所、附帶工事五箇所ヲ施工シ内築堤六箇所、掘鑿二箇所、護岸水制二十箇所、附帶工事六箇所ヲ竣功セリ

工事施行區域ハ釜無川筋鏡中條村地先ヨリ下流鯉澤町地先ニ至ル間及笛吹川筋萬年橋附近ヨリ下流三川合流點ニ至ル間ニシテ先ヅ人力掘鑿ニ依リ釜無、富士兩川高水敷及寄洲竝笛吹川高水敷ト低水路ヲ施工シ土量五十一萬一千四百五十六立方米ヲ舉グ内十一萬二千九百九十七立方米ヲ堤防法先低地竝ニ廢川

敷ニ搬入セリ

築堤工事ハ富士釜無兩川及笛吹川ノ新堤築設竝ニ舊堤擴築等ニシテ其土砂ハ前記掘鑿箇所ヨリ三十九萬九千二百五十九立方米、民地土取場ヨリ四萬二千五百九立方米ヲ搬入シ芝付面積十萬四千八百九十一平方米ヲ施工セル外富笛築堤ノ一部トシテ其末端ニ石堤延長三百五十米ヲ竣功セシメタリ而シテ本川改修要旨ノ一タル急流釜無川ト甲府盆地ノ惡水排疏ヲ司ル笛吹川トノ合流點ヲ三籽餘ノ下流ニ附替工事ハ本年度末完成シタルヲ以テ新舊笛吹川合流點ニ於ケル水位ノ差ハ九十糎ニ達シ今後笛吹川ニ於ケル低水ノ排疏及洪水ノ疏通ニ著シキ好影響ヲ來スベシ

護岸水制工事ハ釜無川筋鏡中條村以下ニ於テコンクリート合掌杵七箇所、コンクリート大聖牛九十二組、木材聖牛十組、コンクリート方格杵二十七箇所ヲ敷設シ舊笛吹川締切箇所ニ釜笛締切堤護岸、同川裏法根固及今福築堤末端護岸等ヲ起工セルト共ニ忍築堤及上曾根築堤ノ川裏漏水甚シキ箇所ニ川裏根固石張ヲ施工シ尙新蘆川右岸河原間護岸ト笛吹川筋乙黒地先木材杭出十箇所トヲ竣功セシメタリ即チ本年度功程石張七千五百五十九平方米、コンクリート合掌杵二百十四米、コンクリート大聖牛四百七十三米、木材聖牛四十六米、コンクリート方格杵百四十四平方米、改良木床一千四百六十四平方米、木材杭出百米ニシテ竣功延長二千二百六十四米トナレリ

附帶工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ上野樋門及下大鳥居樋門竣功シ西八代郡豊和村起業ニ係ル黒澤樋門、市川大門町ノ向新田樋管、東八代郡上曾根村ノ上曾根樋管、白井河原村ノ白井河原樋管、富士見村ノ富士見樋管ヲ起工シ内富士見樋管ヲ除クノ外全部竣功セリ尙管理者施行ノ用排水路附替工事五箇所ニ對シ一萬一千四百七十三圓ノ國庫補助ヲ爲セリ

下流部ニテハ前年度ヨリ繼續ノ築堤一箇所護岸水制十箇所竝ニ本年度起工ノ築堤二箇所護岸水制七箇所及附帶工事一箇所ヲ施行シ内護岸水制六箇所附帶工事一箇所竣功ヲ告ゲ築堤工事ハ右岸田子浦村ノ危険ヲ防禦シタル田子浦築堤ノ效果ヲ猶一層完フセシメンガ爲メ更ニ其下流ニ田子浦第二築堤ヲ起工シ土量五千七十一立方米ヲ搬入シ且新堤ノ補修ヲ施行セリ

護岸水制ハ右岸國道橋ノ前後ニ岩淵護岸、岩淵第二護岸及左岸鐵道橋下流ノ森島及古田堀護岸等ヲ竣功セシメ下流田子浦第三護岸ニ引續キ田子浦第四護岸ヲ起工シテ田子浦第二築堤ノ末端ヲ堅メ加島村地先舊堤築留ニ接シ長二十米ノ加島水制ヲ起工シ其下流ニコンクリート大聖牛及改良木床ヨリ成ル中掘第二水制ヲ施工シテ前記護岸ト共ニ田子浦村地先新堤ノ保護ニ資セリ尙上流岩松村岩本地先舊堤通稱九十間堤ニ於ケル水制(俗稱瘤出)ノ前後ニ岩本舊堤根固護岸ヲ起工セシガ何レモ未竣功ニ了レリ年度内功程ハコンクリート方格枠七千八百平方米、コンクリート大聖牛二十一組、石堤八千六百四十九平方米ニシテ竣功延長一千十米トナレリ

本年度竣功高ハ六十九萬五千五百六十七圓ニシテ創業以來ノ累計六百十九萬一千百二十六圓トナリ之ヲ總工費豫算一千百八十六萬六千圓ニ比較スルトキハ五割二分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「^{*}」ハ利用土量「[△]」ハ船舶及機械費支辨製作品價額「[□]」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數	量	數	量	數	量	
本築	*	三、五五七、五五三 立方米	*	四、四六、八三九 立方米	*	四、〇〇四、三六二 立方米	〇八六
工事	*	二、四、三六〇 立方米	*	三、九九、二五九 立方米	*	二、四、三六〇 立方米	〇八六
深堤	*	二、六八九、六〇七	△	二、二九、六三六 立方米	*	三、〇一八、八六六 立方米	〇五二
		額		額		額	
		二、一八〇、五二四		三、九、四八八		二、一六〇、〇〇四	
		五、六七六、九		三、九、四八八		九、六、二五七	

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
費(護岸水制)	九四〇四米	一、〇六八、二一四	三、二七四米	二七二、一九二	一、三三九、四〇四	一、四二九	〇・三一
用地費	一、八八三	九三〇、四五五	一、七〇〇	一一、四七三	一、八八三	九三〇、四五五	〇・三〇
附帶(直轄施行)工事費	未竣功	六八、六三五	未竣功	二、七二〇	一、〇〇〇	九二、三五五	
船舶及機械費	一六	三三、九七五	五	一一、四七三	二二	四四、四四八	
測量費		四六〇、三三四		五〇、四五二		五一〇、七八六	
營業費		二二、三三七		三、三九八		二四、六三五	
雜費		二六、七九六		八五四		二七、六五〇	
共濟組合給與金		四三七、五五三		七二、一三〇		五〇九、六八三	
總計		一、一〇八〇		三、二二五		一、五、三〇五	〇・五二
		五、四九五、五五九		六九五、五六七		六、一九一、一三六	
		三七、五九九		一、四九五五		四九、〇四六	

第一八 木曾川上流改修工事

緒言

本川ハ曩ニ洪水ノ害ヲ除キ惡水ノ疏通ヲ圖リ兼テ舟楫ノ便ヲ改良センガ爲メニ國ニ於テ明治二十年
度ヨリ木曾、長良、揖斐三川ノ改修工事ヲ施行シ大正元年度竣功ヲ告ゲ豫定ノ效果ヲ舉グルヲ得タリ然ルニ
右改修區域ノ上流ニ屬スル部分ハ河幅狹隘、屈曲著シキ箇所アリ且河底ニ土砂埋堆シ堤防亦薄弱ナルノ
ミナラズ無堤ノ箇所スラアリテ洪水ノ脅威ヲ受ケ一朝破堤ノ厄ニ會センカ當ニ上流廣漠タル平野ヲ水
底ニ沒セシムルノミナラズ濁流更ニ下流ヲ襲ヒ既成下流改修ノ效果ヲ空シクスルノ虞アルヲ以テ上流
改修ノ必要ヲ認メ工費二千萬圓(内愛知縣負擔六十八萬四千圓、岐阜縣負擔四百七十四萬五千圓)ヲ以テ大
正十年度ヨリ十箇年度繼續事業トシテ施行スルコトトナリタリ其後大正十一年度ニ至リ二箇年度ヲ延
長シ又大正十二年度關東大震災ノ爲メ五箇年度ヲ繰延ベ十七箇年度繼續事業トセリ然ルニ本川改修工
事施行上之レニ附帶シテ支派川改修ノ必要ヲ認メ昭和三年五月第五十五議會ニ於テ犀川外二箇川改良
工事ニ對シ二百四十一萬四千五百五十圓(全部國費)ヲ追加シ更ニ第五十六議會ニ於テ境川外五箇川ノ改良工
事ニ對シ二百一十一萬四千五百五十圓(全部國費)ヲ追加シ尙昭和四年ニ經費節減ノ爲メ二十一萬圓ノ減額ヲ
行ヒ結局總工費ヲ二千四百三十一萬四千六百圓トセリ其改修區域ハ木曾川筋愛知縣丹羽郡犬山町以下
既成區域ニ至ル約三十一軒、長良川筋岐阜市以下約二十七軒、揖斐川筋岐阜縣揖斐郡北方村以下約十八軒、
叡川筋岐阜縣本巢郡山添村根尾川分派口以下揖斐川合流點ニ至ル約十二軒、牧田川筋流末約四軒並ニ犀
川、三水川、牧田川上流、境川、鳥羽川、粕川、杭瀬川、津屋川、水門川等ノ各支派川ナリトス

河狀並計畫ノ大要

木曾川ハ源ヲ長野縣西筑摩郡木祖村ナル鉢伏山ニ發シ高山峻岳重疊タル木曾溪谷ヲ奔流シ大小數多ノ溪流ヲ併セ藪原、福島、上松等ノ山村ヲ過ギ岐阜縣下ニ入り丘陵ノ間ヲ紆餘曲折數次八百津町ヲ過ギ大支飛驒川ヲ右方ヨリ合セ太田ニ至リ少許ニシテ尾濃ノ國界ヲ流レ愛知縣丹羽郡犬山町ニ至ル之ヨリ地勢展開シ所謂尾濃勢ノ平野ニ出ヅ以下初メテ堤防ノ設アリ犬山町ヨリ少許ニシテ亂流數條ニ岐レ岐阜縣羽島郡川島村ヲ擁シ更ニ西流スルコト約三十一糎、同郡桑原村ニ至ル夫レヨリ下流ハ即チ既改修部分ニシテ流下スルコト約三十一糎、三重縣桑名郡伊曾島村、木曾岬村ノ間ニ於テ伊勢灣ニ朝ス流路約二百二十糎ニシテ灌溉面積約二萬四千五百九十ヘクタール、流域面積約五千二百七十五平方糎ニシテ内山地面積四千百十八平方糎、平地面積一千百五十七平方糎ナリ

長良川ハ岐阜縣郡上郡高鷺村奥本谷ニ發源シ南流シテ八幡町、美濃町等ヲ過ギテ吉田、板取、武儀、津保ノ諸川ヲ容レ方向ヲ西ニ轉ジ金華山ノ北麓ヲ經テ岐阜市ニ至リ平地ニ出ヅ次デ右方長良古川ヲ分派シ本流ハ市ノ北境ヲ流レテ本巢郡合渡村一日市場ニ至リ再ビ古川ヲ容レ西南ニ折レ東海道鐵道橋ノ上ニ至リ右支系貫川ヲ合ス夫ヨリ墨俣町ヲ經テ海津郡吉里村大字成戸ニ達ス之レヨリ以下ハ即チ既改修部分ニシテ南流スルコト約二十四糎、三重縣桑名郡伊曾島村地先ニ至リ揖斐川ト合シ伊勢灣ニ注グ下流改修前ニ在リテハ前記成戸ニ於テ木曾川ニ合流セシモ改修ノ結果分流スルニ至リシモノナリ流路長約百四十九糎ニシテ灌溉面積約一萬二千七百三十一ヘクタールニ及ビ流域面積約二千三百十三平方糎ニシテ内山地面積一千八百九十七平方糎、平地面積四百十六平方糎ナリ

揖斐川ハ源ヲ岐阜縣揖斐郡徳山村ナル奥山ニ發シ始メハ東南ニ流レ後南折シテ同郡北方村ニ至リ平坦部ニ出デ始メテ堤塘ノ設ケアリ夫ヨリ揖斐町ヲ經テ養基村大字歴永ニ至リ右支粕川ヲ容レ更ニ本巢郡川崎村大字宮田ニ於テ根尾川ノ分派藪川ヲ容ル夫レヨリ南流呂久ヲ過ギ東海道鐵道橋ニ達ス以下ハ既成部分ニシテ養老郡池邊村ニ至リ右支牧田川ヲ合シ今尾ヲ經テ更ニ津屋川ヲ合シ濃勢ノ國界千本松ニ至リ以下長良川ト瀨割堤ヲ距テテ相竝ビ遂ニ同川ト合シ三重縣桑名町ヲ經テ同郡城南村ニ至リ海ニ注グ流路長約九十八軒ニシテ灌溉面積約一萬四千七百二十ヘクタール、流域面積一千五百一十一平方軒ニシテ内山地面積一千二平方軒、平地面積五百九平方軒ナリ

支川根尾川ハ源ヲ岐阜縣本巢郡根尾村ノ山中ニ發シ山添村大字山口ニ至リ初メテ平坦部ニ出デ二派ニ岐ル右派ハ藪川ト稱シ西南ニ流ルルコト約十軒本巢郡川崎村ニ於テ揖斐川ニ入ル左派ハ糸貫川ト稱シ東南ニ流ルルコト約十六軒ニシテ同郡生津村ニ至リテ長良川ニ注グ流域面積ハ約四百十六平方軒ニシテ流路長ハ約五十九軒ナリ

木曾川ノ水害ハ古來激甚ニシテ其度數モ亦頻繁ナリ特ニ西濃地方ハ我邦ニ於ケル稀有ノ水害地ニシテ是レ地勢低濕ノ致ス所ナリト雖モ一ハ河況不良ナルニ起因セズンバアラズ而シテ各川有堤部ニシテ一朝破堤センカ水害ヲ被ルベキ虞アル部分ハ岐阜縣内四萬七千四百三十一ヘクタール、愛知縣管内四萬四千七十ヘクタール、三重縣管内四千七百ヘクタール、合計九萬六千二百ヘクタールナリ

上流改修計畫ハ主トシテ下流改修工事既成部分ノ上流ヲ改修セントスルモノニシテ其計畫ノ大要ヲ舉グレバ左ノ如シ

木曾川ハ局部ヲ除キ河狀概シテ良好ニシテ相當ノ河幅ヲ保チ不良ノ屈曲無ク河底甚シク埋堆セルモノ

無キヲ以テ大體現状ニ依リ著シキ變更ヲ加ヘズ唯近年出水ノ趨勢ニ鑑ミ兩岸舊堤ヲ擴築シテ天端幅七米、兩法二割トシ小段ヲ附シ天端餘裕高ヲ二米五トス唯川島村地先ニ於テハ河身數派ニ分レ出水ノ都度其趨勢ヲ異ニシ爲メニ堤防ニ惡影響ヲ及ボシ其危險ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ數多ノ支派流ヲ遮斷シテ河身ヲ一定シ以テ洪水ノ際其快流ヲ圖リ併セテ堤防ニ向ヒ奔流スルノ危險ヲ防止セントス即チ本水路ハ相當ノ河積ヲ保タシムル爲メ多少ノ掘鑿ヲ施シ兩岸ハ前後ノ護岸高ニ準ジ適宜之レヲ施工シ以テ該附近ノ耕地ノ保護タラシメントス

長良川ハ岐阜市附近ニ於テ古川、古々川ノ兩川ヲ分派シ洪水ノ際ハ其幾分ヲ兩派ニ依リテ疏通スルノ現狀ナルモ此ノ如キハ河狀荒廢ノ原因トナリ得策ニ非ザルヲ以テ兩派川ヲ締切リ本流ハ河幅狹隘ノ部分ヲ擴大シ三百米乃至四百米ト爲サントス而シテ現在河幅ノ之レヨリ廣キ部分ハ其儘トシ舊堤ニハ増築ヲ施シ堤防ハ天端幅七米、兩法二割トシ尙小段ヲ附シ天端餘裕高ハ大體ニ於テ二米五トス而シテ必要ナル河積ヲ與フル爲メ堤防間ニ於テ適當ノ幅ヲ定メ掘鑿ヲ施シ且河渡以下ハ低水敷ヲ規定シ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ニ連絡セシメントス

揖斐川ハ藪川合流點以上ハ局部ヲ除キ現在河幅可ナリ廣キヲ以テ増大スルヲ要セズ大體ニ於テ舊堤ニ擴築ヲ施シ同川合流點以下ハ從來無堤ニシテ洪水ノ際兩岸廣濶ナル區域ニ汎溢スルヲ以テ之レヲ防止スル爲メ適當ノ河幅ヲ定メ兩岸ニ築堤ヲ爲サントス堤防ハ藪川合流點以上ハ天端幅五米五、兩法二割、同合流點以下ハ天端七米、兩法二割トシ高サ大ナル箇所ニハ小段ヲ附シ天端餘裕高ハ二米五トス尙必要ナル河積ヲ與フルガ爲メ相當ノ掘鑿ヲ爲シ又藪川合流點以下ノ低水路ヲ定メ少許ノ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ノ低水路ニ接續セシメントス

根尾川ノ一派タル系貫川ハ其分派口附近ニ於テ締切ヲ施シ尙樋門ヲ設ケ灌溉等ニ必要ナル水量ヲ流下セシム從ツテ根尾川ノ洪水ハ總テ藪川ニ流下セシム

藪川ハ大體ニ於テ現在ノ河幅廣大ナルヲ以テ之レヲ擴大セズ舊堤ノ増築ヲ施スニ止ム堤防ハ天端幅五米五兩法二割ニシテ成ルベク小段ヲ附シ天端餘裕高ヲ二米タラシメ尙河中ニ於テ必要ナル掘鑿ヲ施スモノトス

牧田川ハ高淵ノ狹窄部以下ニ改修ヲ加フルモノトス尙木曾、長良、揖斐、藪、牧田ノ五河川共必要ナル箇所ニハ相當ノ護岸竝ニ水制ヲ施工シ又締切箇所等ノ必要ナル所ニハ樋門ヲ設ク而シテ既成改修工事ニ屬スル區域ト雖モ近時ノ出水ノ趨勢ニ鑑ミ前回改修ノ際工費等ノ都合ニ依リ充分改良ヲ加フルコト能ハズシテ現時尙堤防薄弱惡水排除ニ障害アル箇所等ニ對シテハ精査ノ上相當ノ施設ヲ加フルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十年度ノ創業ニシテ用地買收ノ爲メ大正十一年一月土地收用事務所ヲ竹ヶ鼻町ニ開設シ後加納町ニ移セルモ大正十三年十一月之ヲ閉鎖シ改修事務所ニ於テ其事務ヲ取扱ヒ來リタリ其後藪川筋土地買收ノ爲メ昭和三年十一月北方町ニ事務所ヲ設置セルモ昭和四年七月之レヲ岐阜市ニ移轉セリ本年度ハ尙後工事ヲ進捗スルニ其用地ニ不足ヲ告ゲントスル情勢ナリシヲ以テ銳意用地ノ買收ニ勗メシ結果買收ヲ完了セルモノ土地百七町步餘ニ達シ此代金七十二萬八千五百圓及地上物件移轉料二十五萬五千五百四十三圓、合計九十八萬三千六百四十八圓ヲ支拂ヒタリ創業以來本年度迄ノ買收總段別ハ三百六十八町三段步此代金二百二十三萬八千三百五十六圓、地上物件移轉料七十八萬九千九百三十三圓及

諸補償費四萬二千五百七十圓、合計三百七萬八百六十圓ナリトス
工事施行ニ關シテハ大正十二年一月岐阜市忠節町ニ木曾川上流改修事務所ヲ設置シ揖斐川、長良川、木曾川ノ順序ニ工ヲ起シ揖斐、長良、川島ノ三工場ヲ設ケ工事ヲ施行セルモ本年度ハ藪川、中島、海津ノ三工場ヲ増設シ都合六工場ト爲セリ

起工以來本年度迄ノ工程ハ掘鑿土量四百七十萬一千二百十三立方米、築立土量六百三十八萬三千四百四十六立方米、護岸延長一萬六千四百四十八米、水制延長二千六百八十四米二、附帶工事九箇所、假設工事四箇所ニシテ之ニ使用セル主要機械ハ掘鑿機四臺、二十噸機關車四臺、五噸機關車四臺、其他自働杭打機、混凝土混合機等ニシテ其修理ハ岐阜機械工場ニ於テ施行セリ

本年度ニ於ケル施行工事ハ機械掘鑿五箇所、人力掘鑿五箇所、築堤十箇所、護岸十三箇所、水制四箇所、假設工事一箇所、其他直轄施行ノ附帶工事一箇所、管理者施行ノ附帶工事二箇所、木曾川支派川改修一箇所、其總竣功額ハ五十萬二千七百九十五圓ニシテ外ニ提供材料勞力費六千六百八十圓ナリ今施工ノ概況ヲ述ブレバ次ノ如シ

揖斐川筋ニ在リテハ著手劈頭改修區域ノ下流部タル呂久地先ノ新川附替ニ成功シ引續キ上流ノ築堤ヲ促進シ今ヤ其八割ヲ竣成セルヲ以テ改修ノ效果見ルベキモノアリ本年度ハ下流改修當時増築ヲ施行セザリシ海津郡西江村地先ニ西江築堤竝ニ西江護岸ヲ起工シ高須輪中ノ安全ヲ圖レリ

上流ニ於ケル北平野及鶯築堤ハ附帶工事又ハ用地買收未濟ノ關係上一部未竣功ノ儘引續キ工事ヲ中止シ呂久人力掘鑿ハ平野井川吐口ノ處分未解決ノ爲メ久シク休工セルモ議漸ク熟シ昭和五年一月平野井樋門著手セララルルニ當リ再ビ之レヲ開始セリ

長良川筋ニ於テハ最初下流改修ノ際殘サレタル西小藪地先ノ舊川締切ヲ遂行シ進ンデ其上流十七籽間ニ工ヲ擴メ尙同所ヨリ下流油島ニ至ル十六籽ノ間ハ一氣ニ舊堤擴築ヲ施シ其大部分ヲ完成シ附帶工事ノ施設ト相俟テ是等ノ區間ハ著シク河積ノ擴大、築堤ノ堅牢竝ニ排水ノ改良トヲ加フルニ至レリ本年度工事ハ專ラ名森村、福壽村、小熊村及日置江村附近ニ集中セル大土工ニ全力ヲ傾注シ名森、福壽、小熊ノ各機械掘鑿及日置江、日置江第二ノ各人力掘鑿工事ヲ施行シ福壽機械及日置江人力ヲ竣功セリ築堤ハ名森、大江、福壽、福壽第二、日置江ノ各工事ヲ促進シ内福壽築堤ヲ竣功シ又大江護岸、福壽第三護岸、福壽第四護岸、名森水制ハ何レモ之レヲ竣功セリ

木曾川筋ハ從來上流川島村地内亂流部ノ河身整理ニ努力シ整理法線ニ施行セル各護岸工事ハ前年度迄ニ其大半ヲ竣成シ河身ノ面目一新スルニ至レリ本年度ハ專ラ河狀ノ推移ヲ監視シ機ニ臨ミ既設工事ノ補足ト補修ヲ行フコトトシ河田島護岸追加、松倉島第二護岸、笠田護岸追加、笠田第四護岸、松倉島第三護岸、松倉島護岸追加、中屋護岸、中屋水制、松倉島水制、河田島水制追加、松原島第三護岸追加、松倉島第三護岸追加竝ニ前宮假護岸工事等十三工事ヲ施行竣成セリ

下流中島郡長岡村河岸ニ存在スル神明津砂丘ハ木曾川筋ニ於ケル一大狹窄部ヲ形成セルヲ以テ本年十一月長岡人力掘鑿工事ヲ起シ之ガ除却ニ著手シ同時ニ長岡築堤ヲモ起工シ砂丘前後ノ引堤ヲ行フコトトセリ完成ノ曉ハ洪水ノ疏通ヲ著シク良好ナラシムルモノト信ズ

藪川ハ其源ヲ濃尾地震々源地根尾谷ニ發スル爲メ河床ニ堆積スル土砂多量ニシテ沿岸ハ漏水ニ苦シミツツアリ本年度初メテ同川筋ニ工事ヲ開始セリ工事ハ最下流ヨリ著手シ掘鑿ヲ主トス即チ川崎人力及川崎機械掘鑿ニシテ將來糸貫川併流ニ要スル河積ノ擴大ト川床ノ低下ヲ目的トス

附帶工事トシテハ揖斐川筋左岸平野井川吐口ニ新設樋門ヲ直接施行ノ下ニ著手シ其他前年度來引續管理
 者施行ニ係ル境川放水路附替工及本年度著手ノ北平野惡水路附替工トス又附帶工事ノ内岐阜縣施行
 ニ係ル支派川改修工事ハ地方ノ要望ニ依リ既ニ豫算ノ成立ヲ見タルモ其後各川共水利關係複雑セル爲
 メ設計ノ調査ニ時日ヲ要スルト局部ノ利害相反スル爲メ工費負擔ノ協調至難ナルトニ依リ起工ノ運ビ
 ニ至ラザリシガ揖斐川支流粕川改修ノミハ年度末ニ至リ起工シ支派川改修ノ先鞭ヲ付ケタリ
 本改修工事ノ本年度竣功額ハ百八十一萬六千五百三十三圓ニシテ起工以來ノ累計總額ハ八百四十八萬
 一千六十圓即チ總工費二千四百三十一萬四千六百圓ニ對シ三割五分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如
 シ但シ表中「△」ハ利用土量「▲」ハ民費支辨「△」ハ製作品價額「□」ハ管理者負擔額「×」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功額		本年度竣功額		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	▲ 二六、四一四 立方米	▲ 九、九四七、七九七	▲ 四、〇八二、五三三	▲ 一、三三三、五〇八	▲ 三〇、〇二二、四三八	▲ 一、一、二八、三〇六	〇・四五
掘鑿	* 二、九四九、四三五	▲ 九、一五、三七四	▲ 五、四四七、七七一	▲ 一、一七、二九五	▲ 四、七〇一、二二三	▲ 一、〇、四二、六六九	〇・三二
護岸	▲ 四、五、六、四四二	▲ 三、六、〇、六三三	▲ 三、八、三、四四五	▲ 四、七、六、二二五	▲ 三、九、〇、八三三	▲ 四、〇、〇、八二五	〇・三二
假設	▲ 一、四、八、一七米	▲ 五、九、二、〇六六	▲ 四、三、二、一五米	▲ 一、一、七、七、九四	▲ 一、九、一、三、二二米	▲ 七、〇、九、八六〇	〇・四七
工事費	▲ 三、八、五	▲ 九、四、四、七	▲ 四、一、〇	▲ 九、一、三、三	▲ 七、九、五	▲ 一、八、六、八〇	〇・六二
用地	▲ 二、六、一、三	▲ 一、五、一、〇、二、五	▲ 一、〇、七、〇	▲ 七、二、八、一、〇、五	▲ 三、六、八、三	▲ 二、一、三、八、三、五、六	〇・六二
地上物件移轉料	▲ 二、六、一、三	▲ 五、七、六、九六〇	▲ 三、三	▲ 七、四、九、六、五	▲ 二、五、五、五、四、四	▲ 八、三、二、五、〇、四	〇・六二
附帶	▲ 一、六、一、三	▲ 二、六、九、一、一、三	▲ 三	▲ 七、四、九、六、五	▲ 二、五、五、五、四、四	▲ 三、四、四、〇、七、八	〇・六二
工事費	▲ 一、六、一、三	▲ 六、八、〇、九、〇	▲ 三	▲ 三、九、九	▲ 三、九、九	▲ 六、八、四、八、九	〇・六二
船舶及機械費	▲ 一、六、一、三	▲ 一、〇、七、〇、三、六、七	▲ 三	▲ 一、七、六、七、〇	▲ 一、七、六、七、〇	▲ 一、一、四、七、〇、六、七	〇・六二
測量費	▲ 一、六、一、三	▲ 三、三、〇、七、一、五	▲ 三	▲ 七、二、〇、〇	▲ 七、二、〇、〇	▲ 三、八、四、五	〇・六二
測量費	▲ 一、六、一、三	▲ 三、三、〇、七、一、五	▲ 三	▲ 七、二、〇、〇	▲ 七、二、〇、〇	▲ 三、八、四、五	〇・六二

第一章 河川改修工事 (木曾川上流改修工事)

總計	營繕費	雜費	共濟組合給與金
▲□	△	×△	
六、六六四、五二七 三六、〇〇九、六三〇	二六、一二六	五八八、〇三四 二八	七九、一九五 五四二
▲□	△	×△	
一、八一六、五三三 六、六八九、〇九九	六、六五七	二二八、七一八	六、六五六
▲□	△	×△	
八、四八一、〇六〇 四六、八四八、九	三二、七八三	七二六、七五二 二八	八五、八五一 五四二
〇・三五			

第一九 斐伊川改修工事

緒言

本工事ハ大正十一年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ總工費六百二十萬圓ヲ以テ起工セシガ大正十四年度末ニ至リ施行年限ヲ延長シテ昭和十一年度ニ至ル十五箇年度繼續事業ト改メラレ又昭和四年六月緊縮ノ爲メ十四萬圓減額トナリシヲ以テ總工費六百六萬圓ニ改定サレ島根縣簸川郡出西村岩樋以下宍道湖(定川吐口)ニ至ル十五糎六及下流大橋川即チ松江市白瀉魚町ヨリ中海ニ至ル七糎七ノ改修工事ヲ施行スルモノナリ

河狀竝計畫大要

斐伊川ハ山陰屈指ノ大河ニシテ源ヲ鳥取、島根兩縣界ニ聳ユル船通山ノ鳥上瀧ニ發シ島根縣下ヲ貫流ス上流ヲ横田川ト稱シ西流シテ仁多郡横田村ニ至リ左支下横田川ヲ入レ尙西流シテ同郡三成村ニ於テ左方ニ大馬木川ヲ合セ同郡溫泉村ニ至リ左支阿井川ヲ入レ飯石郡田井村ニ於テ左支深野川ヲ納レ方向ヲ變ジ北流シテ大原郡木次町ニ於テ久野川ヲ右方ヨリ入レ三刀屋村ニ至リ更ニ大支三刀屋川ヲ左方ヨリ併セ稍西ニ轉ジ簸川郡出西村ニ至リ左支赤川ヲ入レ西流スルコト約七糎八急ニ方向ヲ變ジテ北ニ向ヒ始メテ簸川平野ニ出デ直ニ新川ト稱スル派川ヲ右方ニ分派シ同郡伊波野村ヲ經テ東北ニ轉ジ同郡出東村ニ至リ定川ヲ左方ニ派シ東ニ向ヒ更ニ二十間川、北二十間川等ヲ分派シ次デ宍道湖ニ注グ支派川ノ數七十五、流路延長五百七十五糎八ナリ

宍道湖ハ面積八千三百ヘクタールヲ有スル淡水湖ニシテ略長方形ヲ爲シ東西ニ長ク其長約十六糎三、幅約六糎、周圍四十七糎ニシテ湖岸ハ出入極メテ少シ斐伊川ハ其西端ヨリ注ギ其他數多ノ小流ヲ併ス湖脚ハ東端ニ在リテ三川ニ依リ海ニ排疏ス一ハ佐陀川ニシテ濱佐陀ヨリ分派シ宍道山脈ノ低部ヲ横斷シ西北ニ流レ惠曇村ニ至リ直ニ日本海ニ注グ流路八糎三、往昔人工ヲ加ヘ開鑿セシモノナリト言フ二ハ大橋川ニシテ松江市ヨリ分派シ市中ヲ貫キ東流スルコト七糎七、馬瀉ニ至リ中海ニ注グ三ハ天神川ニシテ人工河川タリ同ジク松江市ヨリ分レ東流四糎一、津田村ニ至リ大橋川ニ合流ス湖ノ東端ニハ松江市アリ其他沿湖ニハ小郡邑乏シカラズ又多少ノ田園ヲ存ス

斐伊川ノ流域ハ島根縣下仁多、飯石、大原、簸川ノ四郡ニ跨リ面積一千六十六平方糎ニ達ス域内ハ流末簸川平野ヲ除ケバ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ巒嶽起伏セリ簸川平野ハ其東方ノ宍道湖松江平野竝ニ中海ト共ニ日本海ノ一部タリシニ主トシテ斐伊川ノ流送セシ土砂堆積シテ水面上ニ表ハレタルモノニシテ面積約一萬五千四百ヘクタール、現今ニ於テモ尙増大シツツアリ土地肥沃ニシテ山陰最大ノ農產地タリ宍道湖及大橋川等ノ流域ハ松江市竝ニ簸川、八東兩郡ニ跨リ南ハ斐伊川流域ヲ劃スル山地北ハ宍道山脈ニ境シ西ハ簸川平野ニ東ハ中海ニ依リテ限ラルル面積ハ斐伊川流域ヲ除キ約四萬五千六百二十ヘクタール（湖ノ面積ヲ含ム）アリ松江市附近ハ小平野ヲ爲シ土地肥沃產業發達セリ流域内山地ノ狀況ハ概シテ良好ニシテ山林濫伐ノ爲メ著シク荒廢ニ歸セル處ナキガ如シト雖モ唯至ル所砂鐵ヲ産スルヲ以テ古來山地ヲ崩壞シ其採取ノ事業ヲ經營スルモノ多數ニシテ主トシテ土砂流出ノ原因ヲ爲セリ

灌溉段別ハ斐伊川ニ在リテハ八千六百七十三ヘクタール、宍道湖及大橋川等ニテハ二千四百七十八ヘク

タール、合計一萬一千百五十一ヘクタールニ達セリ

斐伊川ハ古來屢次水害アリ往古流末ハ現今ノ川跡村附近ヨリ西流シテ日本海ニ注ギシガ寛永年間ノ洪水ニテ東流宍道湖ニ注流スルニ至レリト云フ爾來出水毎ニ屢其位置ヲ變ジ或ハ人爲ニ依リ派川ヲ改鑿スル等幾多ノ變遷ヲ經テ以テ現今ノ河道ヲ形成スルニ至レリ即チ右派新川ハ水害ヲ免レンガ爲メニ天保年間ニ於テ新鑿セシモノニ係リ左派定川モ其後更ニ開鑿セシモノニシテ佐陀、天神二川ノ如キモ亦湖ノ水害ヲ輕減センガ爲メ人工ニ依リ開鑿セシモノニ係ル維新以後ニ至リテハ被害特ニ著大ニシテ人畜ノ溺死、家屋ノ流失、破壊、耕地ノ荒廢、生産ノ損耗等舉ゲテ算フベカラズ之ガ復舊ニ要スル經費モ亦莫大ナリトス明治二十六年ノ洪水ノ如キハ特ニ其最モ甚シキモノナリ今水害ヲ受クベキ區域ヲ舉グレバ斐伊川本川ニ在リテハ其面積一萬一千五百一ヘクタール、宍道湖以下ニ於テ六百四十四ヘクタール、合計一萬二千百四十五ヘクタールニ達ス内出西村以下改修區域ニ屬スルモノハ凡テ一萬二百七十ヘクタールナリ斐伊川ハ上流ニ於テ多少ノ水害無キニ非ズト雖モ其被害甚大ナルハ下流地方ナルヲ以テ改修ハ出西村以下即チ簸川平野ニ屬スル部分ニ止メ計畫流量ハ三千六百立方米トシ定川分派口ニ至ル迄ハ單ニ舊堤ニ嵩置ヲ施スニ止ム然レドモ兩堤間ノ狀況甚ダ不規則ニシテ且河積不足ナルヲ以テ若干ノ掘鑿ヲ施シ之ヲ整正シ以テ前記流量ヲ安全ニ疏通スルニ足ラシム定川分派口以下ハ本川ヲ捨テ定川ヲ擴築シ必要ナル河積ヲ與フルモノトス

堤防ハ舊堤擴築竝ニ新堤共凡テ天端ヲ計畫洪水位以上一米五ノ高ニアラシメ馬踏幅七米五、兩法二割ノ勾配ヲ與ヘ凡テ芝ヲ附シ必要ナル箇所ニ石張其他護岸ヲ設クルモノトス

新川ヲ締切リ廢川ト爲シ締切點ニハ新ニ樋門ヲ設ケ用水ヲ分派セシム更ニ宍道湖ニ一時貯溜スル水ヲ

迅速ニ排疏セシメンガ爲メ大橋川ヲ擴張シ兼テ舟運ノ便ヲ計ラントス即チ現在河幅ノ狹隘ナル處ハ之ヲ擴張シテ七十二米トシ夫ヨリ廣キ處ハ河中ニ於テ幅七十二米ノ部分ヲ浚深シ兩法ニハ適當ノ勾配ヲ附シ尙崩壞ノ虞アル箇所ニハ護岸ヲ施スモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正十一年度ノ創業ニシテ同年度及十二年度ハ實施測量ニ著手シ十三年度ハ事務所ヲ建設シ專ラ計算製圖等ノ整理ヲ爲シタルト共ニ船舶機械ノ整備ヲ爲シ大正十三年十一月ヨリ大橋川筋ノ浚深ヲ開始シ前年度迄ニ浚深土量百一十一萬六千三百八十二立方米ヲ揚ゲ此工費十六萬五千四十一圓外ニ民費四萬四千七百五十四圓掘鑿土量六萬七千八百九十九立方米此工費一萬八千九百九十二圓外ニ民費八千二百七十一圓及護岸二千六百八十四米此工費八千七百六十九圓外ニ民費一萬五千八百九十五圓及無代價品評價額七千四百七十九圓ヲ竣功セリ今年度内施工狀況ヲ述ブレバ次ノ如シ

掘鑿工事ハ大橋川左岸耕地ニ於ケル二箇所ニシテ前年ヨリ引續キ施行シ内一箇所ヲ竣功セリ何レモ人力ニ依ルモノニシテ六疋軌條三千二百三十七米、トロ七十二臺ヲ使用シ土量一千立方米ヲ揚ゲ此工費四百十三圓外ニ民費一圓ヲ要シ合計六萬八千八百九十九立方米此工費一萬九千四百五圓外ニ民費八千二百七十二圓ナリ

浚深工事ハ大橋川筋島根縣八束郡川津、津田、朝酌、竹矢等ノ各村地先ニ互リ四箇所ノ内一箇所竣功セリ工法ハ專ラ機械浚深ニシテ之レニ使用セル機械ハ一千二百立方米掘鋤鏈式浚深船二隻、同電動唧筒式浚深船一隻、十五噸錐付碎岩船一隻、曳船三隻、六十立方米積土運船五隻、三十六立方米積土運船五隻、二十噸積工

業船十隻等ナリ大橋川浚渫工事ノ土砂ノ處分ハ起工當初ハ専ラ中海水中ニ於テ可成漁業其他ニ支障無キ箇所ヲ選ミ投棄シ來リシガ同川沿岸ハ無堤地ニシテ土地低ク潮水ノ害ヲ受クルコト屢ナルヲ以テ一般ニ良田ナラズ爲ニ松江市及八束郡津田村ニ於テハ聯合耕地整理組合ヲ組織シ面積四十八ヘクタール餘ノ民有地ニ浚渫土ヲ捨土方出願シ其他個人ニテ出願セル希望者ニ材料及勞力ヲ提供セシメ元年度ヨリ捨土ヲ開始シ其合計面積ハ五十二ヘクタール餘ニ達シ此捨土量前年度迄ニ五十九萬一千九百六十九立方米ニ達シ提供民費六萬八千九百二十圓トナレリ大橋川ハ中流部ヨリ吐口ニ至ル河底ニハ岩盤散在セルヲ以テ前年度迄ハ此等ノ部分ヲ可成避ケテ浚渫シ來リタレドモ本年度ハ十五噸錐付碎岩船ヲ併用シ年度内ニ土量二十七萬二千九百八立方米ヲ浚渫シ此工費四萬三千二百五十六圓(外ニ民費一萬二千六百四十五圓)ヲ支出セリ此内七萬八千五百四十五立方米ハ民地ニ捨土シ提供民費二百十三圓ニ達シ殘土ハ中海ニ捨土セリ以上合計土量ハ百三十八萬九千二百九十立方米トナリ此工費二十萬八千二百九十七圓(外ニ民費五萬七千三百九十九圓)ナリ

護岸水制工事ハ前年度大橋川左岸ニ二箇所起工シ本年度内ニ竣功セリ即チ護岸長七百三十米ヲ遂行シ此工費八千五百四十九圓(外ニ民費三千三百四十八圓及無代價品評價額五百十六圓)ヲ支出シテ竣功シ合計三千四百十四米此工費一萬七千三百十八圓(外ニ民費一萬九千二百四十三圓及無代價品評價額七千九百九十圓)ナリ

附帶工事ハ斐伊川筋簸川郡久木村地内千卷樋管改築工事ヲ國庫補助六百圓、久木村、出東村組合負擔六千四百圓ヲ以テ直轄起工シ本年度内ニ國庫補助百三十九圓、組合負擔三千四百二十七圓ヲ支出セリ土地買收ハ大正十五年六月一日ヨリ松江市新材木町ニ收用事務所ヲ開始シ大橋川筋用地買收調査ニ著

手シ八東郡、川津、朝酌、津田各村地内十九町步餘ノ買收ヲ了シ昭和二年一月十日簸川郡平田町ニ移轉シ斐伊川筋ノ調査ヲ開始シ前年度二十九町步餘ヲ買收シ本年度ニ至リ百二十二町步餘此買收費八十萬四千七百十六圓ヲ支出シ合計百七十二町步此買收費百六萬九千四百六十四圓ヲ支出セリ

本改修工事及境港修築工事用機械器具ノ修理ニ關シテハ大正十四年度ニ事務所構内ニ機械工場ヲ建設シ同十五年度ヨリ修理製作ヲ開始シ本年度ニ及ベリ

斯ノ如クニシテ本川本年度ニ於ケル竣功高ハ九十五萬一千九百三十八圓ニシテ其起工以來本年度迄ノ累計二百十八萬六千四百三十圓ヲ要シタリ之ヲ總工費豫算六百六萬圓ニ比スレバ三割六分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「▲」ハ提供品價額及勞力費、「□」ハ管理者負擔品價額、「○」ハ無代價品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘鑿	立方米 六七、八九九	一八、九九二	立方米 一、〇〇〇	四、一三三	立方米 六八、八九九	一九、四〇五	〇・〇二
工浚	米 一、二六、三八二	一六五、〇四一	米 二七、二、九〇八	四三、二五六	米 一、三六、二九〇	二〇八、二九七	〇・〇二
事護岸	米 二、六八四	四四、七五四	米 七三〇	一、二六四	米 三、四一四	五七、三九八	〇・〇三
費水制	箇所 四九三	七、四七九	箇所 一	五、一六	箇所 四九四	七、九九五	
附帶工事費	箇所 四九三	二六四、七四九	未竣功	八〇四、七一六	箇所 一、七一九	一、〇六九、四六五	
用地費		五三三、九八七		四〇、七二三		五七四、七一〇	
船舶及機械費		一一、七〇六		九一七		一二、六二三	
測量費		一八、〇三六		七三七		一九、七七三	
營業繕費		一九九、七八一		四九、三六四		二四九、一四五	
雜費		五九		一九		七八	

共濟組合給與金	
總	計
▲□	一、二、四、三、一
▲□	三、一、二、四
▲□	一、四、五、五、五
○	三、六
▲□	一、二、三、四、九、九、二
▲□	六、八、九、二、〇
▲□	九、五、一、九、三、八
▲□	一、五、三、四、二、七
▲□	二、一、八、六、四、三、〇
▲□	八、四、九、一、四、七

委託工事

大橋川改修ニ伴ヒ島根縣ニ於テハ松江港修築ノ必要ヲ生ジタルト共ニ之レガ施行ニ就テハ浚渫土利用等ノ便宜ノ爲メ工事施行ヲ委託シ來リタルヲ以テ昭和四年七月ヨリ起工セリ而シテ之レガ總工費十三萬七千圓ニ對シ本年度ハ六萬八千四百七十二圓ヲ支出シ五割ノ竣功ヲ告ゲタリ

第二〇 信濃川上流改修工事

緒言

本川ハ曩ニ航路改善洪水防禦ノ目的ヲ以テ新潟縣長岡市以下ノ河身ノ改修ヲ實施セラレ明治三十八年度ニ其工ヲ終了シタルモ尙治水工事ノ必要ヲ認メ同市下流約十六粍ノ地點タル大河津村ヨリ新水路ヲ開鑿スルコトトナリ又上流長野縣下ニ於テハ千曲川及犀川ノ水患ヲ除却スルコトトナレリ即チ前者ハ明治四十年年度ニ起工シ後者ハ大正七年度ヨリ著手シタリシニ依リ本改修工事ノ急施ヲ促進シ大正十二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算額六百六十萬圓(内新潟縣負擔額二百三十四萬九千圓)ヲ以テ起工セシガ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ四箇年度ノ繰延トナリ昭和十年年度ニ竣功セシムル豫定トナリシモ尙國庫財政ノ緊縮ヲ要スル爲メ昭和三年度以降ニ於テ十二萬圓ノ節約ヲ爲シ總工費六百四十八萬圓ヲ以テ既定計畫ノ工事ヲ遂行スルコトトナレリ其區域ハ左岸新潟縣三島郡片貝村右岸古志郡六日市村ヨリ下流南蒲原郡中之島村地内信濃川締切堤防ニ至ル約三十一粍ノ間ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ甲武信ヶ嶽ニ發シ流域ハ長野、群馬、新潟ノ三縣五市二十四郡ニ跨リ總面積一萬二千二百六十二平方粍、流路延長三百六十九粍、航路延長六百九十九粍、灌溉面積七萬六千二百二十一ヘクタールヲ有シ越後平野ヲ貫流ス其灌溉ノ利大ナリト雖モ水害モ亦劇甚ナリトス

本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ候颱風ニ伴フ暴雨トニ起因スルモノニシテ上流長野縣下ニ於テ一日ノ降水量七十耗以上ニ達セバ警戒スベキ洪水ヲ醸生スルコト多シ其水災ノ最モ甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル古志郡六日市村妙見以下約三十一軒ノ間ニシテ地勢平坦東ハ遠ク下越平野ニ連ル産業ノ發展地タリ然ルニ兩岸ハ構造薄弱ナル堤防ニ抱擁セラルルノミナラズ斷續屈曲シ河狀亦著シク惡化シ其幅員一定セズ廣キハ一千六百三十六米、狹キハ五百四十五米ヲ示シ恰モ瓢ノ連結セルガ如ク所々ニ砂礫又ハ芝生ノ寄洲介在シ甚シキニ至リテハ長約二千二百米、幅五百五十米ニ互ル一大島地ヲ現出シ中ニ數多ノ人家及田畑ヲ有スル等流水ハ常ニ阻害セラレ亂流ス故ニ一旦出水ノ際ハ兩岸ヲ破壊シ中越平野ヲ泥海ト變ジ交通ヲ杜絶シ人畜ヲ害スルコト甚シク其水害區域一萬八千五百九ヘクタールニ及ベリ今其水害損失價額ヲ見ルニ明治四十一年ヨリ大正六年ニ至ル十箇年間ノ平均年額ハ四十三萬六千二百六圓ニシテ就中大正三年ノ百五十四萬七千圓ヲ最大トス

本計畫ハ妙見以下大河津締切堤防ニ至ル間ノ水災ヲ絶ツヲ目的トシ最大流量ヲ每秒五千五百六十五立方米ト定メ之ヲ疏通セシムルニ足ル流積ヲ有セシム而シテ現在ノ河幅ハ前述ノ如ク廣狹不規則亂雜ナルヲ以テ全川ヲ通ジ八百二十米ヲ標準トシ地形ニ應ジ最小六百十八米、最大一千二百十八米ニ整理シ無堤部ニハ堤防ヲ新設シ有堤部ハ成ルベク舊堤ヲ利用シ其構造薄弱ナル箇所ハ増築シ堤内ノ安全ヲ計ルト共ニ流積不足ノ部分ニハ掘鑿、浚渫ヲ施シ以テ洪水ノ疏通ヲ圖リ逆流ノ甚シキ支川及惡水路ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スル等水害ノ因ヲ一掃セシムルニ在リ

築堤ハ全川ニ互リ馬踏七米二、表裏共ニ割法トシ其高ハ計畫高水位以上一米五ノ餘裕ヲ與ヘ成ルベク舊堤ヲ利用シ河幅或ハ屈曲ノ關係上舊堤ニ依ルヲ得ザル箇所ハ河狀ニ應ジ適當ノ位置ニ新設ス長岡市附

近ニ合流スル太田、澁海兩川ノ落口ハ新堤ヲ瀨割堤ト爲シ新落口ヨリ上流舊落口ニ至ル間各一千九十一米ノ舊堤ハ嵩置工事ヲ施行ス築堤ニ要スル總土量ハ三百四十二萬六千立方米ニシテ内八十四萬一千四百立方米ハ掘鑿土ヲ利用シ其他ハ附近ヨリ採土スルモノトス

掘鑿工事ハ左岸脇川新田ヨリ金ヶ崎間、右岸長呂ヨリ中條間ニ於テ平均低水位上零米九ノ面迄施工ス此外全川ヲ通ジ新堤外部ノ舊堤取拂ヲ爲スモノニシテ總土量二百二十二萬三千九百立方米ニ達ス浚渫工事ハ下流大河津分水路ニ接續スル區域ニシテ底幅八十二米乃至百八十二米、深平均低水面下一米八ニ施工ス其土量百四十四萬二千五百立方米ナリ

護岸及水制工事中護岸ハ主トシテ長岡ヨリ上流兩岸堤防及下流沿岸ニシテ流衝ニ面セル箇所竝堤脚ノ平水ニ落ツル部分ニ對シ表法高水面以下ヲ石張トシ低水ニ接セル箇所ハ沈床工ヲ又水制工ニ在リテハ流心ノ匡正ヲ要スル部分ニ石張沈床工ヲ施行スルモノトス

水門工事ハ新川外數箇所ノ排水路ニ設置シ何レモ逆水止門扉ヲ用フ

附帶工事ハ長生橋、與板橋ノ改築、黒川外二箇川ノ改修、樋管改築、水路附替等ニシテ樋管改築八十五箇所ノ多キニ及ブヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ同年十二月實施測量ニ著手シ翌十三年度之ガ完了ヲ告ゲ同十四年度ニ入リテ用地ノ買收ヲ開始シ土工機械ノ整備ヲ爲スト共ニ附帶工事タル黒川外二箇川改修工事ノ實施測量ヲ了シ同年十一月南蒲原郡中之島村地内ニ掘鑿工事ヲ開始セリ由來此地方夏期ハ恙蟲發生、冬期

ハ數尺ノ積雪等作業上ノ障害ヲ有スト雖モ一意工事ノ進展ヲ企圖シ本年度ニ及ベリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續施行ノ十二箇所新ニ著手ノ五箇所ヲ實施セリ

掘鑿 前年度ヨリ繼續施行ノモノ六箇所新ニ著手ノモノ一箇所計七箇所ニシテ人力又ハ機械掘鑿ヲ爲シ前者ハ人力及ガソリン機關車三臺及十噸機關車一臺ヲ以テ後者ハ二十噸機關車二臺ヲ以テ何レモ新堤敷ニ運搬投棄セリ而シテ本年度内ニ竣功セルモノ三箇所ナリ

築堤 前年度ヨリ繼續施行ノモノ四箇所新ニ著手ノモノ一箇所計五箇所ニシテ其築立土ハ掘鑿土ヲ利用スルモノト採土ヲ要スルモノトノ二種ニシテ土量一萬五千五百七十立方米ヲ採土シ土羽付成工延長二千九百五十五米ナリトス

護岸水制 前年度ヨリ繼續施行ノモノ二箇所ニシテ内年度内ニ竣功セルモノ一箇所此成工延長一千八百八米ナリ尙假護岸二箇所ヲ施行シ年度内ニ竣功セシム又護岸工事ノ施行ヲ容易ナラシムル爲メニ假水制工一箇所ヲ施セリ

附帶工事 本年度ハ大正十四年度ヨリ繼續施行ノ黒川外二箇川改修工事ト新ニ著手セル府縣道新瀉與板線橋梁與板橋繼足工事トヲ施行シタリ

黒川外二箇川改修工事 前年度迄ニ用地買收略終了シタルヲ以テ殆ンド全川ニ互リ諸工事ヲ起セリ即チ掘鑿工事ニハ人力ヲ主トシドラグライン掘鑿機及ガソリン機關車各一臺ヲ使用シ土量二十四萬一千七百五十五立方米ヲ掘鑿ス築堤工事ハ土羽付成工延長一萬二百二十五米ニシテ其他護岸橋梁及水閘等ノ諸工事ヲ施行シタリ

與板橋繼足工事 幅員四米五延長三百九米ノ木橋架設ニシテ工費五萬一千四十圓(全額國庫負擔)ヲ以テ

年度内ニ竣功セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ四十一萬二千五百十圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計百九十七萬三千八百七十九圓ナリ之ヲ總工費六百四十八萬圓ニ比スレバ三割ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ表中ハ新潟縣負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	立方米 七六五、四三二	二九三、五一四	立方米 二五九、九四八	八〇、四五三	立方米 一、〇二五、三八〇	三七三、九六七	四五分
工事築護	五、一三、二七三	五九、九四二	一七、二、二〇九	二二、五八〇	六八五、四八二	八二、五二二	〇・〇九
費事	二五〇	八八、九六九	一、一〇八	三五、〇五八	一、三五六	一二四、〇二七	〇・一一
用地	一、〇六三	五七七、四一〇	四二段	二五、三五〇	一、一〇五	六〇、二七六	〇・四五
附帶工事	未竣功	九〇、一、三四二	三一段	一六七、二九九	三一段	一、〇〇二、〇四一	〇・二六
船舶及機械	未竣功	二五六、五一六	未竣功	二五、九二二	未竣功	二八二、四三七	
測量		一九、〇〇九		一、四八〇		二〇、四八九	
營業繕費		二五、〇八七		一、八七七		二六、九六四	
雜費		一七一、三〇八		五〇、三三六		一二一、六四四	
共濟組合給與金		五、九三九		二、二五六		八、一九五	
總計		一、五六一、三六八 九〇、一、三四二		一、四一二、五一〇 一〇〇、六九九		一、九七三、八七八 一〇〇、二〇四一	〇・三〇

第二一 天龍川改修工事

緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ昭和七年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費六百六十萬圓内静岡縣負擔二百二十九萬九千圓ヲ以テ工事ニ著手セシガ大正十二年九月一日關東大震火災ノ影響ニ依リ事業年度ヲ四箇年度即チ昭和十一年度迄繰延ベ次デ昭和四年度ニ至リ經費節減ノ爲メ十二萬圓ヲ減額シ工費六百四十八萬圓内静岡縣負擔二百二十五萬九千圓ニ變更シタリ

本川ハ曩ニ主トシテ水害除去ノ目的ヲ以テ改修計畫ヲ立テ明治十八年度ヨリ工費六十六萬圓ヲ以テ工事ニ著手シ静岡縣磐田郡二俣町以下河幅ヲ整理シ新堤ヲ築キ舊堤ヲ増築シ其他護岸、水制、床固等ノ施設ヲ爲シ兼テ磐田郡二俣町上流長野縣下伊那郡龍丘村大字時又ニ至ル山間狹窄部ニ於ケル危岩暗礁ヲ破碎シ明治三十三年度ニ至リテ一先ヅ竣功セシメタリ其結果河狀匡正セラレ流路稍安定シ相當ノ效果ヲ收メタリ爾來地方廳ハ其維持ヲ爲スト共ニ漸次新工事ヲ施シツツ現今ニ至レリ然ルニ東海道鐵道橋下流ハ依然トシテ荒廢憂懼ノ狀態ニ在リ其上流ト雖モ堤防ノ鞏固ヲ誇ルニ足ラズ又長野縣管内ニ於テモ相當ノ水害無キニ非ラザレバ早晚改修ノ要アルハ之ヲ認ムル處ナルモ先ヅ最モ急務ナル下流静岡縣管内二俣町以下海ニ至ル二十八軒間ヲ更ニ改修セントスルモノナリ

河狀並計畫大要

天龍川ハ源ヲ諏訪湖ニ發シ長野縣ヲ經テ愛知、静岡兩縣ノ界ヲ流レ遂ニ静岡縣ニ入り遠州灘ニ注グ幹川

流路長約二百十六軒、其流域面積四千八百八十平方軒ニシテ灌漑段別ハ全流域ニ在リテハ一萬七千八百二十一ヘクタール内改修區域ニ屬スルモノ三千二百十六ヘクタールナリ

上流部ニ在リテハ沿川ニ廣大ナル平地アレドモ中流ハ全ク山間部ニシテ耕地田園ノ展クルモノ無ク靜岡縣二俣町ニ至リテ更ニ廣濶ナル平野ニ出ヅ此地方ハ田園ヨク展ケ農桑ノ業盛ナリ加之濱松市ヲ始メ數多ノ名邑アリ東海道鐵道並國道此附近ヲ通過シ交通ノ便備ハリ商工業亦發達セリ

本川ハ古來屢々水害アリ最近ニ於テハ明治四十四年ノ洪水ヲ以テ最モ甚シトス當時河水暴漲シ堤防ノ決壊セルモノ數箇所ニ達シ家屋ノ流失破壞又ハ田園ノ荒廢ニ歸セルモノ甚ダ多ク浸水區域數千ヘクタールニ及ビタリ而シテ水害ヲ受クベキ區域ハ靜岡縣下ノミニテ一萬一千八百四十二ヘクタールニ及ビ其殆ンド全部ハ改修區域ニ屬ス以テ其利害關係區域ノ廣大ナルヲ見ルベキナリ

計畫流量ハ萬延元年以來ノ洪水ト稱セラルル明治四十四年ノモノヲ標準トシ其後流量實測ノ結果ニ依リ雨量等ヲ參酌シテ當時ノ最大流量ヲ推定スルニ一萬一千三百三十立方米ヲ得タリ依テ改修計畫ニ於テハ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ日途トシ計畫高水位モ亦局部ヲ除キテハ大體ニ於テ當時ノ最高水位ヲ超過セシメザルヲ程度トセリ

東海道鐵道橋ヨリ上流ハ曩年改修工事ノ際河幅ヲ整理セルヲ以テ大體ニ於テ相當ノ幅員ヲ有スルガ故ニ河幅ノ擴張ヲ要セズ單ニ多少ノ掘鑿ニ依リ河積ヲ補充シ舊堤ヲ増築スルニ止メ從來ノ霞堤トナレル箇所ハ大體其儘ニ存置シ鐵道橋ヨリ下流ハ現在三派ニ岐レ河狀不整河積亦不足ナルヲ以テ改修ニ當リテハ中流ヲ擴張シテ適當ナル河幅ヲ與ヘ舊堤ノ利用シ得ルモノハ之ヲ増築シ然ラザル箇所ニハ新堤ヲ築設シ又掘鑿並浚渫ニ依リ洪水疏通ニ必要ナル河積ヲ有セシメ東西ノ兩派ハ之ヲ締切ルモノトス

堤防ハ新堤並舊堤擴築共ニ凡テ其天端ヲ計畫高水位上一米八ノ高ニ在ラシメ天端幅七米、天端ヨリ一米八ヲ下リテ幅三米六ノ裏小段ヲ附シ法ハ川表二割五分、川裏小段以上二割同以下二割五分トシ尙必要ナル部分ニハ石張其他適當ナル護岸ヲ施スモノトス又在來ノ水制ハ成ルベク之ヲ利用シ尙必要ナル箇所ニハ之ヲ新設セントス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度創業以來諸般ノ準備ヲ爲スト共ニ同十四年度ニ於テ實施測量ニ著手シ東海道鐵道橋下流ノ改修法線ヲ決定シ之ガ用地買收ヲ爲ス爲メ大正十五年二月土地買收事務ヲ開始シ前年度迄ニ右岸濱名郡河輪村、芳川村及飯田村ノ一部並ニ左岸磐田郡掛塚町地内ニ於テ約百七町七段ノ用地ヲ三次ニ分チテ買收シ更ニ本年度ハ第三次買收ノ殘部及第四次買收トシテ上流部右岸濱名郡中瀬村上島地内ノ用地約二十九町步、家屋二十戸、其他ニ對シ諸種ノ調査ヲ進メ年度内ニ全部契約ヲ締結スルコトヲ得タリ

工事施行ニ關シテハ昭和二年七月改修事務所ヲ濱名郡中ノ町村ニ開設シ諸機械材料ノ整備ヲ爲スト共ニ工事用機械器具等ノ修理製作ヲ直接施行スル爲メ附屬機械工場ヲ濱名郡河輪村ニ設置シ昭和三年一月初メテ工事ニ著手スルニ至レリ本年度施行セシ工事ハ前年度ヨリ引續キ施行中ノ河輪機械掘鑿、芳川掘鑿、河輪築堤及本年度起工ニ係ル掛塚機械掘鑿、掛塚人力掘鑿、芳川築堤ノ六工事ニシテ何レモ未竣功ノ儘翌年度ヘ繰越セリ

本年度ノ工程ハ掘鑿土量三十二萬八百三十五立方米、築堤土量二十三萬二千八百十七立方米ニシテ工費

九萬九千八百七十三圓ヲ要セリ而シテ築堤土ハ凡テ掘鑿土ヲ運搬利用セリ又掘鑿土量ノ内機械掘鑿機
關車運搬ニ依ルモノ五割八分、人力掘鑿機關車運搬ニ依ルモノ二割五分、人力掘鑿運搬ニ依ルモノ一割七
分ナリトス

本年度竣功高ハ四十一萬九千八百九十一圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百七十一萬七千六百七十九圓トナ
リ總工費六百四十八萬圓ニ對シテ二割七分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量
「○」ハ無償品評價額、「△」ハ製作品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩竣功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工掘鑿	立方米 二〇五、七二九	四五、七〇八	立方米 三二〇、八三五	八四、八五三	立方米 五二六、五六四	一三〇、五六一	〇・〇五
築堤	* 一九九、六八〇	八七七	* 二二二、八一七	一五、〇二〇	* 四三二、四九七	一五、八九七	
用地費	一〇七七	一、〇〇六、二五九	二九五	二二六、六〇四	一、三三七二	一、三三三、八六三	
船舶及機械費		一五三、八七二		五五、四四三		二〇九、三一五	
測量費		四、六九四		一六、六五六		二一、三三〇	
營業繕費		一、四〇三		一、一〇〇		二、五〇三	
雜費		一〇、二六一		二、二二二		一二、四七三	
共濟組合給與金		七五、九九三		三二、七〇六		一〇八、六九九	
總計		一、二九七、七八八		四一九、八九一		一、七一七、六七九	〇・二七

第二二一 千代川改修工事

緒言

本改修工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算五百六十六萬圓ヲ以テ施行スルモノナリシガ本年度ニ於テ十一萬五千圓ヲ減額シ總工費豫算五百五十四萬五千圓(内鳥取縣負擔百八十萬二千六百六十七圓)ヲ以テ施工スルコトト改メタリ而シテ其區域ハ幹川筋鳥取縣八頭郡河原町以下海ニ至ル約十七籽、支川袋川筋岩美郡宇倍野村下流本川合流點ニ至ル約五籽八及野坂川筋約一籽五、砂見川筋零籽九、合計二十五籽二ノ間ヲ施工スルモノトス

河狀並計畫大要

千代川ハ源ヲ鳥取縣八頭郡山鄉村大字駒歸宿字沖ノ山ニ發シ大體北流シ左支新見、佐治、曳田、砂見、野坂、湖山ノ六川及右支智頭、八東、袋ノ三川ヲ合シ氣高郡賀露村ニ於テ日本海ニ注グ其流域ハ鳥取、岩美、氣高、八頭ノ一市三郡ニ跨リ集水面積一千八百八十平方籽餘、幹川流路延長五十三籽、灌溉面積七千ヘクタール、水害區域八千ヘクタール餘ヲ算シ沿川ニハ縣ノ首都鳥取市ヲ有シ其河口ニ當レル賀露港ハ漁港トシテ又避難港トシテ將又支川袋川ヲ經テ鳥取市ニ物資ヲ供給スル關門トシテ重要視セララル流域内ニ於ケル都邑ハ古來本川ニ依リ水運ノ便、灌溉ノ利等惠澤ニ浴スルコト尠カラズト雖モ一面比年生ズル洪水ノ慘害ニ苦シメラルルコト亦莫大ナリ乏シキ舊記ヲ搜リ僅カニ知り得タル處ノミヲ以テスルモ天文年間以降約三百八十有餘年間ニ大洪水ト認ムベキモノ實ニ四十六回ヲ數フ就中大正七年九月ノ洪水ノ如キハ沿川ノ

平野ハ悉ク水底ニ没シ鳥取全市ヲ舉ゲテ一米五乃至四米餘ノ冠水數日ニ互リ一望大海ノ觀ヲ呈シ其汎濫面積約八千ヘクタールニ及ベリ

今現況ヲ見ルニ該川堤防ハ薄弱不規則ニシテ河幅廣狹常ナク河積ノ不足ナル部分隨所ニ介在シ一朝洪水ニ際會セバ破堤ノ厄ヲ蒙ムルト同時ニ汎濫度ナク田畑ノ荒廢、財物ノ流失、人畜ノ死傷等其慘害目ヲ掩ハシムルモノ多數ナルノミナラズ其支流ナル袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ其河積ハ既往洪水ヲ流下スルニ必要ナル河積ノ半ニモ足ラザル部分多キヲ以テ未ダ大洪水ト稱シ得ザル程度ノ出水ニテモ市内ニ溢流シ産業交通ニ累スルコト鮮少ナリトセズ

本改修計畫ノ要旨ハ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメ且高水時間ノ短縮ヲ圖リ併セテ沿岸一帶惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ尙河口ニ於ケル舟楫ノ便ヲ圖ラントスルモノニシテ本川筋河原町（終點）以下八千代橋ニ至ル間ハ大體現況ニ準據シ在來堤ヲ利用擴築補強シ其甚シク突出シテ河幅狹ク洪水ノ排除ニ支障アル箇所ハ之ヲ退ケ無堤部ニハ相當河幅ヲ定メ新堤ヲ築造シ河積ノ足ラザルハ掘鑿ニ依リ之ヲ補フモノナリ

八千代橋以下現在河道ハ稍々北東ニ向ヒ濱坂地先ニ於テ更ニ西北ニ大屈折ヲ爲シ且沿岸ニハ秋里、江津ノ二部落アリ現況ニ依リ改修セントスルトキハ江津部落ヲ移轉セシメザルベカラザルノミナラズ現在袋川合流點ニ於ケル洪水位ハ之ヲ低下セシムル事能ハズシテ鳥取市ノ排水ニ不利ヲ來スベキヲ以テ八千代橋附近ヨリ北々西ニ向ヒ大體直流スル新河ヲ開鑿シ江津ノ下流ニ於テ現在ノ河道ニ合シ河口ニ至ラシム

支川袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ河積足ラザルノミナラズ曲折甚ダシク現在ニ依リ改修セントセバ工費巨

額ニ上ルベキヲ以テ若櫻街道ノ東方ヨリ新川ヲ開鑿シ千代橋上流ニ於テ千代川本流ニ合セシメ現在河道ハ單ニ袋川ノ平水路ニ供セラルルコトトナルヲ以テ全ク市内ノ汎濫ヲ防止スルヲ得ベシ

野坂川ハ本川ト殆ンド直角ニ交加シ爲メニ排水ヲ阻害セラルルコト甚シキヲ以テ其合流點ヲ八千代橋附近迄引下ゲ水位ノ低下、洪水ノ排疏ニ便ナラシム

砂見川モ亦同一ノ理由ニ依リ其合流點ヲ稍々下流ニ導キ湖山川ニハ本川合流點ニ樋門ヲ設ケ本川逆流ヲ防止セントス本川ノ計畫高水位ハ大體既往ノ最大洪水タル大正元年九月及同七年九月ノ高水位ニ準據シタルモノニシテ河狀不正ノ爲メ特ニ水位ノ昇騰ヲ來シタルト認メタル區間ニ對シテハ之ヲ整正シ水位ノ低下ヲ計レリ而シテ計畫高水流量ハ大正九年以降普通洪水ニ對スル實測ヲ重ネ之ニ依リテ得タル結果ト流域内ノ降雨量及附近類似河川ノ高水流量ヲ資料トシテ既往ノ最高水位ニ對スル高水流量ヲ推算スルニ袋川合流點以上ニ於テ每秒三千立方米、其以下ニ於ケルモノ每秒三千三百立方米ト定メ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ期セリ支川袋川ノ流量ハ每秒五百五十立方米ト定ムルノ妥當ナルヲ認メタリ

河幅ハ幹川筋上流河原町附近ニ於テ約二百十米トシ以下順次擴大シ大正村附近ニ於テハ三百米、新袋川合流點以下八千代橋附近迄三百四十六米、千代川新開鑿ノ部分ハ三百十八米、賀露村附近ニ於テ約三百七十米ヲ保タシム袋川筋ニ在リテハ上流ハ大體現狀ノ儘トシ其新川ニ屬スル部分ハ上流部六十四米、下流部若櫻街道附近以下ハ八十五米トス

堤防ハ幹川筋ニテハ天端幅下流部七米五、上流部六米、法ハ表裏トモ二割五分トシ堤高ノ大ナル箇所ニハ小段ヲ設ケ其天端ハ計畫高水位以上一米二ヲ保タシメ尙之レニ要スル土砂ハ直接掘鑿セルモノヲ利用セントス法ハ土羽付ヲ爲シ必要ニ應ジ石張ヲ施工シ其他適當ニ護岸ヲ設ク又支川袋川ノ堤防ハ天端幅

五米五、法ハ表裏共二割トシ天端ハ計畫高水位以上零米九トス又之ニ要スル土砂及土羽付ハ前同斷トス

施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度創業以來専ラ實施測量及諸般ノ調査ヲ爲シ測量トシテハ幹川及支川袋川筋ノ法線杭又ハ敷幅杭ノ變更竝縦横斷及平面測量ノ一部ヲ施行セリ

築堤工事ハ前年度ニ引續キ千代川下流新開鑿部兩岸堤ナル秋里及江津築堤、安長及晚稻築堤ヲ施行セリ而シテ本年度内工費八千九百四十圓ヲ要セリ

機械掘鑿工事ハ前年度ニ引續キ鳥取縣氣高郡千代水村地内ニ於テ千代水第一及千代水第三機械掘鑿ヲ續行シ内千代水第一機械掘鑿ヲ竣功セリ何レモ二十噸機關車及バケツト型掘鑿機一千二百立方メートルヲ使用シ三立方メートル積土運車竝ニ米國製三立方メートル積ダンブカーヲ併用シ銳意工事ノ進捗ヲ圖レリ本年度内ノ工程ハ掘鑿運搬土量五十一萬八千二百九十五立方メートル、工費九萬九千五百五十圓ヲ要セリ

人力掘鑿工事ハ前年度ニ引續キ新野坂川及新袋川筋開鑿ノ爲メ野坂川第一、第二人力掘鑿及古市人力掘鑿ヲ施工セシガ更ニ新袋川筋ニ於テ富安人力掘鑿、千代川筋ニ於テ千代水第一及千代水第二人力掘鑿、西品治人力掘鑿ノ工ヲ起シ一立方メートル積及零立方メートル三積鐵製土運車竝ニ零立方メートル六積木製土運車ヲ使用シ六十四噸、デーセル機關車一臺ト共ニ人力及馬力ヲ併用セリ本年度ノ工程ハ掘鑿運搬土量三十九萬九千六十九立方メートル、工費十萬六千九百四十六圓ヲ要セリ

護岸工事ハ本年度ヨリ開始シ先ヅ千代川下流新開鑿部低水路兩岸保護ノ爲メ千代水低水路護岸ヲ起工

セリ工法ハ割石詰柵トシ柴工單床ヲ以テ根固トセリ本年度内工費三萬五千三百三十一圓ヲ要シタリ
 護岸工事用割石斫採ノ爲メ千代川河口附近ニ於テ濱坂採石工ヲ開始セリ本年度ノ工程ハ割石一萬二千
 三百立方米、工費二萬四百三十圓ヲ要セリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ千代川右岸岩美郡美保村ヨリ同郡倉田村ニ至ル間及袋川新開鑿區域ノ買
 收ヲ續行尙殘部ノ調査ニ從事セリ而シテ本年度買收段別二十九町六段步餘此用地費二十一萬三千八百
 四圓ヲ要セリ

本工事本年度竣功高ハ五十七萬九千九百三十五圓ニシテ起工以來ノ累計二百十九萬二千二百三十四圓
 ナリ之レヲ總工費豫算五百五十四萬五千圓ニ比スレバ四割ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ
 表中「*」ハ利用土量、「▲」ハ提供品價額及勞力費、「×」ハ直營斫出石材價額、「○」ハ無代價品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	* 五七三、一一一 <small>立方米</small>	六、七〇八	* 九一七、二六四 <small>立方米</small>	八、九四〇 五五〇	* 一、五七三、一一一 <small>立方米</small>	一五、六四八 五五〇	〇・〇五
掘護岸及水制	一、一三七、七二三	二五、一〇三 七六	▲ 九一七、二六四	二〇六、〇九六 三、一八〇	二、〇五五、〇七七	四五八、一三五 三、二五六	〇・四五
工事費	一、一五二	八六〇、一四二	二九六	二二二、八〇四	一、四四七	一、〇七三、九四六	〇・〇七
用地費		二八一、九九八		四一、〇二二		三三三、〇一〇	
船舶及機械費		一一、八四二		五九三		一二、四三五	
測量費		一六、四一六		一九七三		一八、三八九	
營業繕費	○	一七四、七二二 三六	○	四九、一三一	○	二二三、八五三 三六	
雜費		七、四三二		二、六二五		一〇、〇五七	
共濟組合給與金							

總計	費目	
		數量
	前年度迄竣功高	
	數量	金額
	本年度竣功高	
	數量	金額
	合計	
	數量	金額
	竣功合	
	數量	金額

總計

費目

前年度迄竣功高

本年度竣功高

合計

竣功合

▲ 一、六二二、二九九
七六九 円

▲ 五七九、九三五
三八〇 円

▲ 二、一九三、二三四
三、二五六 円

○ 四〇 円

第二三 蘆田川改修工事

緒言

本工事ハ工費五百六十六萬圓(内廣島縣負擔百九十八萬九千圓)ヲ以テ大正十二年度ヨリ昭和七年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十一年度迄延長施行スルコトトナリ又昭和四年六月財政緊縮ノ爲メ工費十二萬圓ヲ減額シ總工費ヲ五百五十四萬圓(内地方負擔百九十四萬九千圓)ト改メタリ其區域ハ幹川筋廣島縣蘆品郡府中町以下海ニ至ルニ十七籽五、左支高屋川筋深安郡湯田村以下幹川合流口ニ至ル六籽五及右支瀬戸川筋ノ幹川合流點附近ナリトス

河狀並計畫大要

蘆田川ハ廣島、岡山ノ兩縣下一市八郡ニ互リ源ヲ廣島縣世羅郡神田村甲山ニ發シ漸次溪流ヲ收メ蘆品郡川邊村ニ至リ右支御調川ノ合流スルヤ流量頓ニ倍加ス流路ハ之ヨリ漸ク峽谷ヲ脱シ府中町ヲ過グルヤ地勢全ク展開シテ廣濶ナル備後平野ニ出デ神谷川、有地川其他ノ小支流ヲ合セ東流シテ深安郡中津原村ニ至リ急ニ百三十餘度回轉シテ西南ニ方向ヲ轉ジ左支高屋川ヲ合セ福山市ノ西ヲ繞リテ更ニ右支瀬戸川ヲ入レ沼隈郡水呑村竹ノ端ニ至リテ燧灘ニ注グ而シテ府中町ヨリ上流ハ山間ノ急流ニシテ奔湍岩ヲ衝キテ流レ府中町ヨリ蘆品郡新市町落合ニ至ル間モ亦急勾配ニシテ河底ハ礫又ハ小砂利ノミナレドモ神谷川合流點以下ハ河狀一變シテ細砂緩勾配トナリ高屋川合流點以下ニ至レバ所々ニ寄洲ヲ生ズ

本川ハ流域面積八百七十平方糎、流路延長七百三十四糎（幹川七十八糎）、灌溉面積七千百七ヘクタールヲ有スル中國有數ノ河川ニシテ沿川都邑ノ受クル産業上ノ利益頗ル大ナルモノアリ然レドモ比年洪水ノ爲メ慘害ヲ逞フシ彼ノ大正八年七月及九月兩度ノ出水ノ如キハ上流府中町ヨリ下流川口村ニ互ル五千八百六十三ヘクタールノ沃野ヲ變ジテ一大沼湖ト化シ福山市ヲ初メ沿川ノ都邑浸水ヲ見ザルナク人畜ノ死傷、家屋ノ倒壞、堤防及道路橋梁ノ破壞流失等直接ノ損害額實ニ四百三十餘萬圓ノ多キニ上レリ若シ之ニ加フルニ産業、交通、衛生等諸方面ニ互ル被害ヲモ具サニ考慮スル時ハ其慘害ノ巨大ナルヲ知ルベク明治四十三年以降十箇年間ノ平均水害損失額四十七萬八千餘圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ主眼ハ洪水量排疏ニ充分ナル河積ヲ與ヘテ汎濫ヲ防止シ併セテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ支川ニ對シテハ逆水ノ被害ヲ輕減シ以テ沿川一帯ノ平野ノ水害ヲ除却シ且惡水ノ排除ヲ容易ナラシメントスルモノナリ

高水流量ハ上流府中町附近ニ於テハ每秒一千百立方糎トシ以下順次増加シ高屋川合流點以下一千九百五十立方糎、瀬戸川合流點以下二千百立方糎トシ支川高屋川ハ上流川北村附近ニ於テ二百立方糎、千田村字横尾以下四百二十立方糎ト定ム

河幅ハ府中町附近ニ於テ百二十米ニ始マリ最下流部ニ於テ四百米トシ高屋川ニ在リテハ上流ニ於テ四十七米、幹川合流點附近ニ於テ九十米ヲ保タシム

堤防ハ幹川筋ニ在リテハ天端幅五米乃至九米、兩法二割乃至二割五分トシテ高サ高キモノニ在リテハ小段ヲ設ケ天端ハ計畫高水位以上一米五乃至二米ノ餘裕ヲ存セシム支川高屋川ハ天端幅四米、兩法二割、天端ハ計畫高水位以上一米ヲ保タシム支川高屋川及瀬戸川ノ下流部ハ幹川ノ汎濫ヲ被リ湛水時間長期ニ

互ル低濕地ナルヲ以テ背割堤ヲ築キテ合流點ヲ引下ゲ惡水ノ排除ト逆水ノ低下トヲ圖ルコトトセリ計
畫高水勻配ハ府中町附近ニ於テ三百二十分ノ一、最下流部ニ於テ二千四百分ノ一トス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ爾來實施測量其他諸種ノ調査ニ從事シ昭和元年九月一日ヲ以テ沼
隈郡草戸村地内ノ掘鑿築堤工事ニ著手セリ其後工事ノ進展ニ伴ヒ本川斷面九籽ヲ境界トシ下流部ニ草
戸工場、其上流部ニ郷分工場ノ二工場ヲ設ケ夫々管轄區域内ノ掘鑿築堤護岸工事ヲ施行セリ

本年度ニ於テ草戸工場内ニ水呑工事場ヲ設ケ工事ノ一部ヲ分擔セシメ郷分工場ハ工事及工費ノ都合上
昭和四年八月以降休工セシメ主トシテ既成堤防ノ維持修繕ヲ掌ラシメタリ

從來掘鑿ハ總テ人力ニ依リ運搬ハ馬力ヲ主トシ之ニ人力ヲ適宜併用セシモ本年度ヨリ昨年度購入セシ
六噸重油機關車ヲ運轉シ人馬力運搬ヲ適宜之ニ併用セリ

土地買收ニ關シテハ大正十四年九月收用事務開始以來昭和三年度迄ニ於テ五次ニ互リ沼隈郡草戸村、水
呑村、神島村、山手村、郷分村及深安郡本庄村各地内ノ百五十一町二段步餘ニ係ル買收ヲ發表シ内第五次發
表郷分村關係部分三十八町步ヲ除キテハ殆ンド全部ノ買收ヲ了ヘタリ本年度ニ於テハ支川洗谷、妙見、半
坂各川ノ用地沼隈郡水呑村、草戸村、佐波村地内及幹川筋深安郡本庄村、中津原村、森脇村地内段別五十一町
一段餘、地上物件移轉料ヲ加ヘ三十八萬五百五圓餘ノ買收支出ヲ爲セリ昭和三年度發表ノ郷分村關係土
地ハ本年度ニ於テ僅々二三ノ承諾者ヲ出シタルノミ依然毫モ局面ノ進展ヲ見ズシテ年度ヲ終リタルハ
遺憾トスル處ナリ

本工事本年度竣功高ハ五十二萬五千七百七十圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百八十二萬一千四百四十一圓ナリ之レヲ工費總豫算五百五十四萬圓ニ比スレバ三割三分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「▲」ハ提供品價額及勞力費「△」ハ製作品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	* 三六八、五七三 立方米	一五、七二九 円	* 一九〇、一四二 立方米	一七、七六九 円	* 五五八、七二五 立方米	三三、四九八 円	〇・二一
工事掘護	四一、一五五〇 米	一〇六、四一〇 円	二〇六、五六五 米	五五、七五七 円	六一八、一二五 米	一六二、一六七 円	〇・二八
費岸	三、八四四 米	五、一三〇 円	七六 米	三、一〇四 円	三、九二〇 米	五、四、四〇八 円	〇・〇九
用地	一、二八 段	七八三、七七一 円	五一二 段	三八〇、五〇五 円	一、六四〇 段	一、二六四、二七七 円	〇・二三
附帶工事費	未竣功 箇所一	八八、八五六 円	未竣功 箇所一	—	未竣功 箇所一	八八、八五六 円	〇・二三
船舶及機械費	—	一一八、五七一 円	—	二〇、三四六 円	—	一三八、九一七 円	—
測量	—	一六、五八五 円	—	三、一七六 円	—	一九、七六一 円	—
營業繕費	—	八、三四六 円	—	三、七二五 円	—	一二、〇七一 円	—
雜費	—	一〇四、二九三 円	—	三九、三八一 円	—	一四三、六七四 円	—
共濟組合給與金	—	二、四〇五 円	—	一、四〇七 円	—	三、八一二 円	—
總計	—	一、二九六、二七一 円	—	五二五、一七〇 円	—	一、八二一、四四一 円	〇・三三

第二四 紀ノ川改修工事

緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費豫算四百七十二萬圓(内和歌山縣負擔百六十二萬五千圓)ナリシガ昭和四年六月財政緊縮ノ爲メ十二萬圓ヲ減額シ總工費四百六十萬圓(内地方負擔百五十八萬五千圓)ト改定ス其施行區域ハ左岸和歌山縣那賀郡小倉村、右岸同縣同郡岩出町即チ貴志川合流點以下海ニ至ル幹川筋約二十籽ノ間ナリ

河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ大和伊勢ノ國境ナル大臺原山附近ニ發シ西北流シテ山間ヲ紆餘曲流スルコト數回奈良縣吉野郡國樸村ニ至リテ高見山ヨリ發スル右支小川ヲ納レ同郡上市町ニ至リテ方向ヲ西微南ニ轉ジ吉野山ノ北麓ヲ流レテ吉野川ト稱シ五條町ニ於テ左支黑龍川ヲ併セテ和歌山縣下ニ入り茲ニ始メテ紀ノ川ト稱セラル

夫レヨリ橋本町ヲ過ギ九度山町ニ至リテ左支丹生川ヲ入レ尙モ同方向ニ流レ妙寺、名手、粉河等ノ小都邑ヲ經其間左右ヨリ數多ノ小支ヲ併セ更ニ岩出町ノ東端ニ至リテ最大支貴志川ヲ左方ヨリ納レ同町ノ狹窄部ヲ經テ始メテ和歌山平野ニ出デ更ニ流ルル事約十八籽和歌山市ノ北端ヲ擁流シ左方ニ和歌川、水軒川ヲ分派シ右方ヨリ土入川ヲ入レ尙二、三ノ中洲ヲ擁シ數派ニ離合シ末端ハ一川トナリテ海ニ注グ
幹川流路ノ延長約百三十籽ノ内奈良縣ニ屬スルモノ七十五籽、和歌山縣ニ屬スルモノ五十五籽ナリ又水

面勾配ハ高水時岩出町ニ於テ凡ソ四百分ノ一、最下流部ニ於テ凡ソ一千五百分ノ一トス
流域面積ハ奈良縣下ニ屬スルモノ九百五十六平方糎、和歌山縣下ニ屬スルモノ九百六十平方糎、合計一千九百十六平方糎、此内八割二分ハ山地ニシテ平地ハ僅ニ一割八分ニ過ギズ然カモ該平地中ノ約八割ハ和歌山縣ニ屬ス

斯ノ如ク全流域ノ約八割ハ山地ニ屬シ然カモ水源地方ハ主トシテ古生層ヨリ成レル峯巒重疊セルヲ以テ水清ク豊ニシテ平時舟楫灌漑上ノ利益相當ニ大ナルモノアリト雖モ一朝非常洪水ノ場合ニハ和歌山市街ノ一部ヲ始メ沿岸ノ低地部ニ汎濫シテ耕地ノ荒廢、家屋ノ倒破、堤塘、橋梁等ノ損壞甚シク之レニ加フルニ一般産業、交通、衛生上等ノ諸方面ニ被ル損害ヲ具サニ計上スル時ハ其額亦尠カラズ就中近年ニ在リテハ明治三十二年及ビ大正六年ノ洪水ヲ其最タルモノトス

本改修計畫ハ洪水防禦ヲ主眼トシ其流量竝ニ水位ハ從來ノ最大洪水タル大正六年十月ノモノヲ基準トス即チ同年ノ最高水位ヲ超過セザル水位ヲ以テ最大高水量毎秒五千六百立方米ヲ安全ニ疏通セシメ得ベキ工事ヲ施設スルニ在リ

紀ノ川ハ現在河幅概シテ廣濶ニシテ岩出狹窄部ノ百七十米ヲ除ケバ他ハ三百三十米乃至七百六十米ヲ有スルニ依リ岩出狹窄部ヲ二百七十米ニ切り擴ゲ其他二、三ノ狹隘ナル箇所ハ四百三十米乃至四百九十米ニ擴張ス

然レドモ河中ハ現在ノ儘ニテハ河積不充分ナルヲ以テ必要ノ掘鑿及浚渫ヲ行ヒテ前記ノ計畫流量ヲ快疏スルニ充分ナラシメ上流ノ洪水位ヲ低下シテ冠水ノ區域ト時間トヲ縮少セシメントス

堤防ハ舊堤擴築部竝ニ新堤共總テ其天端ヲ計畫高水位以上一米五ニ在ラシメ其標準斷面ハ天端幅七米、

表法ハ二割トシ尙高サノ大ナル堤防ニ在リテハ天端以下四米ヲ下リテ十割法ノ幅五米ノ表小段ヲ附シ小段以下ハ三割法トシ必要ナル箇所ニハ石張其他適當ナル施設ヲ爲スモノトス次ニ裏法ハ通ジテ二割トシ天端ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ裏小段ヲ附スル豫定ナリ其他必要ニ應ジテ支派川入口ニ樋門ヲ設置シ尙河口ニハ突堤ヲ設ケントス

施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度ノ著手ニシテ大正十五年八月第一回土地買收ヲ發表シ同年十二月初メテ右岸海草郡楠見村地先ニ工ヲ起シ次デ昭和二年七月同郡四箇鄉村地先ニ掘鑿ヲ開始シ昭和三年十二月右岸同郡紀伊村地先ニ昭和四年五月同郡川永村地先ニ同年八月左岸同郡西和佐村地先ニ夫々掘鑿ニ著手シ是等掘鑿土ヲ以テ其地先ノ築堤捨土ヲ爲セリ

本年度掘鑿ニ於テハ昨年度ヨリ繼續セル右岸海草郡楠見村地先楠見機關車運搬人力掘鑿同郡紀伊村地先小豆島機關車運搬人力掘鑿左岸同郡四箇鄉村地先有本機械掘鑿ヲ進捗セシメタル外右岸同郡川永村地先川永人力掘鑿同郡有功村地先有功人力掘鑿及左岸同郡西和佐村地先西和佐人力掘鑿ヲ開始シ掘鑿土ハ一部民有地へ捨土スルノ外地先ニ於ケル築堤ニ捨土シタリ

人力掘鑿ハ遠距離ハ五噸蒸氣及六噸ガソリン機關車ヲ使用シ短距離ニノミ人力運搬ヲ爲シ工期ノ増進ト共ニ費用ノ輕減ヲ計リタル結果本年度ニ於テハ人力掘鑿機關車運搬ニテ三十三萬二千九百五十八立方米ヲ掘鑿運搬シ百立方米當二十二圓八錢トナリ人力掘鑿人力運搬ニテ三十四萬一千五百九十六立方米ヲ掘鑿運搬シ百立方米當二十五圓三十三錢トナレリ

機械掘鑿トシテハ昨年來零立方米七五デメートルシヨベル及セミデメートル鋤簾式掘鑿機ヲ使用セシガ其成績頗ル良好ナリ

此二掘鑿機ハ同一箇所ニテ使用シ大體ニ於テ鋤簾式掘鑿機ニ於テ掘鑿殘土トナリシモノヲシヨベルニテ掘鑿セシメ常ニ河中ニ殘土無キ様力メタル結果シヨベルニ於テハ其掘鑿費多少高價トナリタルモ尙一箇年度ノ掘鑿土量九萬三千百五十七立方米ニシテ其百立方米當十九圓六十一錢ナリ

セミデメートル鋤簾式掘鑿機ハ一箇年度ノ掘鑿土量九萬四千二百十二立方米ニシテ其百立方米當十七圓四十八錢ナリ而シテデメートルシヨベルハ其運搬機トシテ六米噸ガソリン機關車ヲ使用シ後七噸デメートル機關車ヲ使用セリ

七噸デメートル機關車ハ初メテノ使用ニシテ且日尙淺キ爲メ其成績不明ナルモ今日迄ノ狀況ヨリ見レバ今後ガソリン機關車ヨリ以上ノ好成績ヲ擧ゲ得ル見込ナリ土運車トシテハ一立方米一積ダンブカートヲ使用セリ又セミデメートル掘鑿機ハ其運搬車トシテ六米噸ガソリン機關車ヲ土運車トシテ一立方米積鍋トロヲ使用セリ

築堤ハ前年度ニ引キ續キ掘鑿土ヲ利用シ右岸ニ於テハ海草郡川永村下流野崎村ニ至ル間一萬二千八百八十一米ニ著工シ右支千手川及鳴瀧川ノ兩岸海草郡直川村楠見村及野崎村ノ一部等總計六千九百九十米ヲ竣功セリ

左岸ニ於テハ同郡和佐村下流和歌山市ニ至ル間一萬二百二十六米ニ著手シ同郡四箇鄉村ノ一部及和歌山市ノ一部三千七百四十六米ヲ竣功シ他ハ工事中ニ屬ス

土地買收ハ大正十五年度ニ於テ右岸右支千手川合流點下流海草郡野崎村大字北島ニ至ル及ビ左岸同郡

四箇鄉村大字松島ヨリ和歌山市宇治ニ至ル間ヲ第一回買収發表シテ以來第二回第三回第四回ト買収ヲ發表シ昨年度迄ニ於テ右岸海草郡川永村下流同郡野崎村大字北島ニ至ル間及左岸那賀郡小倉村下流和歌山市宇治ニ至ル間ノ買収ヲ殆ンド終リタリ

本年度ニ於テハ昨年買収發表後多少未承諾トナレルモノヲ承諾セシメタル外工事ノ都合上土地買収ヲ發表セズ河口附近兩岸及上流右岸那賀郡岩出町及山崎村ノ買収準備調査ノミニテ年度ヲ終レリ今日迄ノ買収及補償累計ハ其段別ニ於テ六十九町八段此金額五十五萬三千二百六十圓ナリ

附帶工事ハ昨年度著手セル左岸和歌山市宇治地先宇治樋門ヲ昭和五年三月竣功シ左岸海草郡四箇鄉村大字松島地先彌一郎樋門及右岸海草郡楠見村大字粟地先ノ粟樋門ニ著手シ後者ハ昭和五年三月竣功セリ

本工程本年度ノ竣功高ハ二十萬三千五百四十四圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計百四十萬二千二百二十五圓ナリ即チ總工費豫算四百六十萬圓ニ比シ三割ノ功程ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「▲」ハ提供品價額及勞力費「□」ハ管理者負擔品價額「○」ハ無代價品評價額「×」ハ占用禁止補償ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	* 四四七、七一六 <small>立方米</small>	一五、六四八 七、〇五五	* 四九一、五二二 <small>立方米</small>	一三、二四二 四、二七二	* 九三九、二三七 <small>立方米</small>	二八、七九五 一八、二九五	〇・二二
突堤	▲ 九五〇、五五九	一六、八四五 一、七七一	▲ 八六一、九二三 <small>米</small>	一、八三三 一、〇一七	▲ 一、八一三、四八二	二五、二一九 一、八八一	〇・三五
掘護	▲ 七〇三 <small>米</small>	一一、〇四七	▲ 一、八三三 <small>米</small>	一、〇一七	▲ 七〇三 <small>米</small>	一一、〇四七	〇・〇二
岸水	× 四〇四段 二五三	一、三八四 八、〇〇六	× 一、二七段 四七	一、三三三 九、二二二	× 四三一段 二六七	一、三九七 五、七四三	
地費							

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	員數	金額	員數	金額	員數	金額	
附帶工事費	未竣功 箇所	六、九四九	未竣功 箇所	二、一五一	未竣功 箇所	九、〇六三	〇・三三
船舶及機械費	未竣功 箇所	一八、六六九	未竣功 箇所	三六、四七五	未竣功 箇所	五五、一四七	
測量費	未竣功 箇所	二七四、八三三	未竣功 箇所	三九、四二一	未竣功 箇所	三一四、二五四	〇・三三
營業繕費	未竣功 箇所	二二、七一八	未竣功 箇所	三、二七〇	未竣功 箇所	二五、九八八	
雜費	未竣功 箇所	一六、六三九	未竣功 箇所	一、八〇七	未竣功 箇所	一八、四四六	〇・三三
共濟組合給與金	未竣功 箇所	一三三、五九九	未竣功 箇所	四二、一九八	未竣功 箇所	一七五、七九七	
總計	未竣功 箇所	一、一九八、五八一	未竣功 箇所	二〇三、五四四	未竣功 箇所	四、〇〇二	〇・三三
	未竣功 箇所	八四、六六九	未竣功 箇所	二四、五四四	未竣功 箇所	一〇九、二一三	
	未竣功 箇所	三三〇、六六一	未竣功 箇所	五九四、六五七	未竣功 箇所	九二五、二七四	
	未竣功 箇所	五〇七四	未竣功 箇所	二、〇〇四	未竣功 箇所	七、〇七八	
	未竣功 箇所	一、三三、五九九	未竣功 箇所	四二、一九八	未竣功 箇所	一七五、七九七	
	未竣功 箇所	一六、六三九	未竣功 箇所	一、八〇七	未竣功 箇所	一八、四四六	
	未竣功 箇所	二二、七一八	未竣功 箇所	三、二七〇	未竣功 箇所	二五、九八八	
	未竣功 箇所	二七四、八三三	未竣功 箇所	三九、四二一	未竣功 箇所	三一四、二五四	
	未竣功 箇所	一八、六六九	未竣功 箇所	三六、四七五	未竣功 箇所	五五、一四七	
	未竣功 箇所	六、九四九	未竣功 箇所	二、一五一	未竣功 箇所	九、〇六三	
	未竣功 箇所	〇	未竣功 箇所	〇	未竣功 箇所	〇	

第二五 筑後川改修工事

緒言

本工事ハ工費一千百三十二萬圓(内福岡縣及佐賀縣負擔三百九十六萬七千圓)ヲ以テ當初大正十二年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ豫定ナリシモ其後事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十二年度迄延長施行スルコトトナレリ其區域ハ幹川福岡縣浮羽郡千年村以下河口ニ至ル六十二軒其他支川小石原川佐田川派川早津江川諸富川等ヲ加ヘ合計七十六軒餘トス

河狀並計畫大要

筑後川ハ九州第一ノ大河ニシテ源ヲ熊本縣ノ東北部ニ發シ大分福岡佐賀ノ三縣内ヲ貫流シ有明海ニ注グ流路延長百三十八軒其流域ハ前記四縣ニ跨リ全面積二千八百六十平方軒ヲ有ス本川下流福岡縣及佐賀縣ニ屬スル部分ハ沿岸肥沃ナル田園相連リ所謂筑紫平野ノ米產地ニシテ其灌溉ハ一ニ本川ニ依リ總面積實ニ四萬五千ヘクタールト稱ス加フルニ舟楫ノ便亦宜シク古來其惠澤ニ浴スルコト多大ナルモノアルモ一方ニ於テハ洪水ノ害ヲ被ムルコトモ甚シク全流域ノ水害面積ハ三萬二千ヘクタール餘ニシテ年々出水毎ニ受クル損害莫大ナルモノアリ本川ハ曩ニ明治十六年度政府ニ於テ河口ヨリ大分縣隈町ニ至ル間ノ改修工事ヲ企圖シ工費約百二十萬圓ヲ投ジ同三十一年度竣功セリ然レドモ該工事ノ目的ハ主トシテ低水路改良ニ在リテ高水防禦工事ノ如キハ全然地方ノ經濟ニ委シ其負擔ニ耐フル範圍内ニテ施行セルニ過ギザルヲ以テ金島小森野天建寺坂口ノ四放水路開鑿セラレタリト雖モ未ダ充分ナル效果ヲ

舉グルニ足ラズ而カモ工事中途ニシテ明治二十二年ノ大洪水ニ際會シ激甚ノ損害ヲ被ムルニ及ビ第一次高水防禦工事ノ機運ヲ齎シ遂ニ明治二十九年之レヲ起工シ八年ノ歲月ト百四十餘萬圓ノ財ヲ費シ同三十六年其工成ルニ及ンデ稍被害ノ程度ヲ輕減スルヲ得タリ然ルニ本工事モ財政上其他ノ理由ニ依リ局部的ノ工事ニ止マリシヲ以テ再ビ大正十年ノ非常洪水ヲ來タシ其慘害ノ程度ハ明治二十二年ニ讓ラズ茲ニ第二次改修トシテ本工事ノ計畫ヲ見ルニ至レリ

本計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ第一次改修ヲ補足シ全川ヲ通ジ一貫シタル工事ヲ爲スニ在リ改修ノ方法トシテハ河狀ヲ正シ或ハ掘鑿ヲ施シ現在ノ不規則ナル堤防ヲ改築若クハ増築シ必要ノ箇所ニハ新タニ之ヲ設ケ汎濫ヲ防ギ河積ヲ擴張シテ洪水ノ疏通ヲ計リ細支流ニシテ逆流ノ害アルモノハ水門ヲ設ケテ其浸水ヲ防止ス又金島以下四放水路ハ之ヲ本流ニ開鑿シ洪水ノ疏通ヲ計リ下流感潮區域ニシテ出水ノ影響少ナキ部分ニ於テモ必要ニ應ジ堤防ヲ一層強固ニシ其安全ヲ期シ兼ネテ高潮ノ脅威ニ備ヘシム尙諸富及若津港ヨリ下流河底ニ沈積セル土砂ハ適宜之ヲ浚渫シ河積ノ増大竝ニ航路ノ改良ニ資セントス

計畫高水量ハ幹川筋毎秒五千立方メートルシ派川早津江川ハ其内一千七百立方メートル諸富川ハ二千五百立方メートルヲ分流スルモノトス又計畫河幅ハ幹川筋二百五十米乃至九百五十米、早津江川二百米乃至七百五十米、諸富川二百米乃至二百三十米トス堤防ノ標準斷面ハ天端幅七米、兩法二割、天端高ハ計畫高水位上一米五トシ支派川等ハ之ニ準ジ尙實地ノ狀況ニ應ジ其斷面ヲ定ム

施工狀況

本工事ハ大正十二年度創業ト共ニ直チニ施行準備及測量ニ著手シ翌年度ヨリ工事竝ニ土地買収ヲ開始シ以後漸次區域ヲ擴張シ工事ノ進捗ヲ計レリ本年度施行區域ハ前年度ニ引續キ小森野放水路ヨリ下流大中島ニ至ル延長二十軒餘ノ間ニシテ改修區域ノ中央以下ニ當リ又凡テ感潮區ニ屬セリ而シテ施行工事箇所ハ前年度ヨリ繼續セルモノ十七箇所、本年度新ニ著手セルモノ二箇所、計十九箇所ニシテ兩岸高水敷竝ニ低水敷掘鑿及築堤工事ヲ施行シ内人力掘鑿一箇所、築堤一箇所ヲ竣功セリ又前年度ヨリ繼續セル二箇所、本年度新タニ著手セル六箇所、計八箇所ノ附帶工事ヲ施行シ内七箇所ヲ竣功セリ

掘鑿工事ハ天建寺、坂口、小森野ノ三箇所ニ於テハ一千二百立方メートル掘梯形掘鑿機ト二十瓩機關車ニ依ル機械掘鑿竝ニ機械運搬ヲ爲シ其他ニ於テハ凡テ人力掘鑿ヲ行ヒ其土砂ハ長距離ニ涉レルモノハ四瓩ガソリン機關車五臺ニ依リ殘餘ハ人力又ハ馬力ニ依リ之ヲ運搬セリ坂口放水路ヨリ下流右岸ノ掘鑿ハ潮汐ノ干満甚シキ箇所ナルヲ以テ豫メ潮止堤ヲ築造スル要アルノミナラズ土質頗ル軟弱ナル爲メ之ガ施行上多大ナル困難アリシモ逐次進捗シ今ヤ本區域ノ一小部分ヲ餘スノミニ竣功セリ又坂口、天建寺、小森野ノ各放水路ニ於ケル掘鑿工事箇所ハ毎年洪水ノ都度激流ノ爲メ荒サレ之レガ復舊ニ時日ト費用トヲ要スルコト大ナルモノアリシモ銳意工事ノ進捗ニ努メ天建寺ハ其約六割ヲ竣成シ坂口之ニ次ギ小森野ハ下流一小部分ヲ了セズ小森野放水路落合ヨリ下流天建寺放水路ニ至ル間ノ兩岸高水敷掘鑿工事ハ全部竣功セリ而シテ本年度内ニ於ケル掘鑿總土量ハ九十三萬七千五百八十八立方メートルニシテ其約六割ヲ築堤土ニ充用シ三割餘ヲ附近民有地ニ他ハ高水敷低地ニ投棄セリ

築堤工事ヲ施行セシハ右岸小森野放水路ヨリ下流域原川落合ニ至ル間及左岸久留米市ヨリ下流坂口放水路附近ニ至ル間ニシテ兩岸共相當ノ竣成ヲ見ルニ至レリ而シテ所要築土ハ全部掘鑿土ヲ受ケ入レ年

度内ニ於テ六十萬四千四百九十五立方米ノ築立ヲ施行セリ
 附帶工事ノ本年度ニ於テ施行セルモノハ前年度ヨリ繼續施行セル古賀坂
 逆水門、大汲場陸圍ノ二箇所及新タニ著手セル徳富、江口、小森野ノ三樋管ノ五箇所ニシテ小森野樋管工事
 ヲ除キ他ハ悉ク竣功シ管理者ニ於テ施行セルモノハ豆津樋管及水路附替二箇所ニシテ何レモ年度内ニ
 竣功セリ

斯クシテ大中島ヨリ上流小森野放水路ニ至ル間ハ兩岸共築堤工事竝ニ高水敷及低水路ノ掘鑿工事進捗
 シ洪水ノ疏通益々良好トナリ溢流汎濫ヲ防止シ又附帶工事ノ竣成ニ依リ錯雜多岐ニ涉レル用惡水關係
 ヲ著々改善シタル等效果大ニ見ルベキモノアリ

土地買収ニ在リテハ前年度迄ニ於テ九十九町九段歩ヲ買収シ本年度ニ於テハ小森野放水路ノ上端ヨリ
 上流神代橋ニ至ル間ノ兩岸用地約二十二町歩餘ニ對スル協議ヲ開始シ大部分ノ承諾ヲ得タリ而シテ本
 年度ニ於ケル買収總段別ハ十九町八段歩ナリトス

本工事本年度竣功高ハ五十五萬六千六百六十九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ三百十四萬二千九百
 四十七圓ヲ算シ總工費一千百三十二萬圓ニ對シ二割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」
 ハ利用土量「▲」ハ土捨出願者提供材料及勞力費「○」ハ評價品價額「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

本工 掘築	費目		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功 歩合
	數	量	數	金額	數	金額	數	金額	
堤	*	立方米 二五三九、二五六	○	六三三、四一三 二六二、四六三 一一、一五六	*	立方米 九三七、〇五八	○	二〇六、九八四 四五、五六四 一一、一三三	〇・三九
鑿	*	立方米 一、一六六、八三九	○	一、一六六、七五九	*	立方米 六〇四、四九五	○	二六、七五五	〇・二二
		立方米 四、四七六、三二四		三、八四〇、〇九五 一、二二六、九 二、六一三		立方米 四、四七六、三二四		三、八四〇、〇九五 一、二二六、九 二、六一三	〇・三九
				一、一六六、八三九				一、一六六、八三九	〇・二二

費 水 門	用 地 費	船 舶 及 機 械 費	附 帶 工 直 轄 施 行 費	事 費 〔 管 理 者 施 行 〕	測 量 費	營 繕 費	雜 費	共 濟 組 合 給 與 金	總 計
第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九	第一箇所 九九九
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四四、六二六 一、一四一	八六〇、六五七	六七〇、八五一 七九三	二八、七二一 一四、六二八	二六、二四六	三二、〇三〇 八	一五九、三五 四五	六、一一八	二、五八六、七八 二六二、四六三	二、五八六、七八 二六二、四六三
第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八	第一箇所 一九八
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一八九、九九一	七〇、六八七 四四	一五、七五四 六、八六九	五、一四〇	二、二一八	一、六六八	三四、六二一 五七	二、三五三	五五六、一六九 四五六、四九九	五五六、一六九 四五六、四九九
第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七	第一箇所 一九七
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四四、六二六 一、一四一	一〇、五〇、六四八	七四一、五三八 八三七	四四、四六七 二一、四九七	五、一四〇	二八、四六四	三二、六九九 八八	一九三、八五六 一〇二	三、一四二、九四七 三〇八、〇二七	三、一四二、九四七 三〇八、〇二七
○・二八									

第二六 綠川改修工事

緒言

本工事ハ工費四百萬圓(内熊本縣負擔百十七萬四千圓)ヲ以テ大正十四年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋熊本縣下益城郡杉上村以下河口ニ至ル約十六軒及支川加勢川筋飽託郡日吉村以下幹川合流點ニ至ル約四軒及派川嘉永新川ナリトス

河狀並計畫大要

綠川ハ源ヲ熊本縣阿蘇郡小峯村三方嶽ニ發シ西北ニ向ヒ深山幽谷ノ間ヲ奔流シテ上益城郡白糸村ニ至リ高サ約五米ノ瀑布トナリ同郡宮内村上揚ニ達シ初メテ平地ヲ見更ニ甲佐町ニ下レバ鶴瀬堰アリテ同川ヲ横斷ス之レヨリ流路北折シテ乙女村ヨリ再ビ西北流シ上島村ニ於テ支川御舟川ヲ合シ水勢漸ク大トナリ勾配稍緩トナル尙下リテ下益城郡杉合村釋迦堂ニ至リ加勢川ノ合流スルヤ河幅却テ狹小トナリ流路亦迂回曲折ス爲ニ洪水疏通ノ障害ヲ爲スコト甚シク上流ニ多大ノ損害ヲ來スヲ以テ既往ニ於テ別ニ堀川放水路ヲ設ケ杉合村小岩瀬ニテ本川ニ合セシメタルニ依リ今日ニテハ平水ハ主トシテ放水路ヲ流下シ本流ハ加勢川ノ流路タルノ状態ヲ爲セリ夫レヨリ更ニ西流スルコト須臾ニシテ流路急ニ南折シ大彎曲シテ走瀉村ヲ抱擁ス因テ此處ニ嘉永新川ヲ設ケ川口村方丈ニテ本川ニ落合セシメ洪水時ノ放水路ト爲ス同所ヨリ下流ハ河幅頓ニ増大シ西流シテ筑紫海ニ注グ全流路延長約九十八軒ニ達ス本川ハ流域面積一千八十平方軒ニシテ大河ナリト謂フベカラザルモ沿岸一帶ハ耕地低濕ニシテ一朝非

常洪水ニ會セバ殆ンド平地部全區域ニ汎濫シ其災害甚大ナルモノアリ由來本川ノ水害ハ比較的勻配急ナル幹川上流ヨリ急奔シ來リタル洪水忽チ杉合村地内ノ狭窄部ニ扼セラレテ漸次水位ヲ昇騰シ其極終ニ堤防ノ決潰等ヲ誘起シ又支川ニ逆流スルニ因リテ生ズルモノニシテ非常洪水ナラザルモ湛水數日ニ瀰ルコト多ク年々ノ損害少ナカラズ之ヲ以テ古來本川ノ治水ニ關シテハ各所ニ放水路ヲ開鑿シ或ハ堅固ナル堤防ヲ築設スル等洪水防禦ニ苦心ヲ拂ヒタル跡歴然タルモノアリト雖モ是等ノ多クハ局部ノ施設ニ止マリ未ダ根本的ニ被害ヲ一掃スルニ至ラズ大正元年ノ大洪水ノ如キハ其損害額實ニ百五十萬圓ノ多キニ達シタリト言フ

本川ノ水害ハ前記ノ如ク杉合村附近ニ於ケル河積不足ノ爲メニ洪水ヲ疏通シ能ハザルニ主因スルヲ以テ本改修ニ於テハ堀川ヲ擴幅開鑿シテ本流ト爲スト同時ニ同所以下ノ本流亦河幅ヲ増大シ河狀ヲ矯正シ又走瀉村附近現在ノ迂回水路ハ甚シク洪水ノ疏通ヲ阻害スルヲ以テ嘉永新川ヲ擴張シテ之ヲ本流ト爲シ其他河口ヨリ上流御舟川合流口附近ニ至ル區間ニ於テ數箇所河幅ヲ擴大スルノ外多クハ舊堤ノ増築ニ止メントス支川加勢川ノ水害ハ主トシテ幹川ヨリノ逆水ニ歸因スルヲ以テ釋迦堂ニ於テ本支川ヲ絶縁シ日吉村野田地先以下舊水路ヲ適宜改修シ中綠村中無田地先ヨリ幹川右岸堤防内側ニ沿ヒ新川ヲ開鑿シテ同村道古閑地先ニ於テ合流セシメントス

計畫高水量ハ幹川筋每秒三千三百四十立方米、支川加勢川ハ同四百二十立方米ト定ム又計畫河幅ハ幹川筋杉合村鐵道橋附近ノ二百二十米ヲ最小トシ二百六十米乃至三百五十米トシ加勢川ニ於テハ八十五米トス

堤防ハ天端幅五米五、兩法二割、天端高ハ計畫高水位以上一米乃至一米五トス

施工狀況

本工事ハ大正十四年度ノ創業ト共ニ直チニ施行準備及測量ヲ昭和二年度ニ於テ土地買收ヲ開始シ同三年十二月放水路嘉永新川ノ開鑿工事ニ著手シ爾來引續キ施行シ來リシガ尙本年度ニ於テ新タニ同所ノ築堤及其上流ニ當ル加勢川新川附替部ノ掘鑿工事ヲ開始セリ是等各工事ハ著手以來日尙淺ク孰レモ未ダ竣功スルニ至ラズ

掘鑿工事ハ總テ人力掘鑿ニ依リ其運搬ニハ四瓩五ガソリン機關車二臺竝ニ人力及馬力ヲ以テ施行セリ本年度ニ於ケル掘鑿土量ハ十八萬五千百七十七立方米ニシテ全部築堤土ニ利用セリ
築堤工事ハ其所要土砂ヲ全部掘鑿工事ヨリ受ケ本年度内ニ於テ二十一萬六千九百三十二立方米ノ築立ヲ了セリ

土地買收ニ關シテハ前年度迄ニ左岸飽託郡走瀉村及右岸同郡海路口村、川口村、中綠村ニ互リ六十一町三段歩ノ買收ヲ了シ本年度ニ於テハ第三次買收トシテ左岸飽託郡杉合村地内ニ於テ三十町九段六畝歩ノ買收協議ヲ開始シ年度内ニ大部分ノ承諾ヲ得其内二十町四段歩ノ買收ヲ了セリ

本年度竣功高ハ二十一萬四千三十六圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ八十二萬二千八百二十三圓ヲ算シ總工費四百萬圓ニ對シ二割一分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量、「▲」ハ土捨出願者提供材料勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
掘鑿	* 六三、三七九 立方米	▲ 一七、四一〇 九七〇〇円	* 一八五、一七七 立方米	▲ 三七、四八九 円	* 二四八、五五六 立方米	▲ 五四、八九九 九七〇〇円	〇・〇九
築堤							
用地費	六一三 段	四三三、五六六	二〇四 段	一三五、八二二	八一七 段	五六八、三八七	〇・〇八
船舶及機械費		一一一、四五六		一三三、七九二		二四五、二四八	
測量費		一〇、〇三〇		二、一八一		一二、一四一	
營業繕費		三、〇八九		六三		三、一五二	
雜費		三三、三五七		一四、七四〇		四八、〇九七	
共濟組合給與金		八七九		六〇一		一、四八〇	
總計		▲ 六〇八、七八七 九七〇〇		▲ 二二四、〇三六		▲ 八三二、八二三 九七〇〇	〇・二二

第二七 北川改修工事

緒言

本工事ハ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ總工費二百三十六萬圓(内地方負擔八十三萬一千圓)ヲ以テ改修セントスルモノニシテ其區域ハ幹川北川ニテハ福井縣遠敷郡三宅村以下海ニ至ル約十四籽、支川南川ニテハ同縣同郡口名田村以下海ニ至ル約六籽、支川遠敷川約二籽、合計二十二籽ナリトス

河川並計畫大要

北川ハ源ヲ滋賀縣高島郡三谷村ノ山地ニ發シ溪谷ヲ流レ二、三ノ細流ヲ併セ南流スルコト數里ニシテ急ニ方向ヲ轉ジ北西ニ向ヒ福井縣ニ入り遠敷郡熊川村ヲ經テ兩岸漸ク開ケ三宅村以下兩岸堤塘ノ設ケアリ川ハ一路直流數個ノ小支ヲ容レ遠敷村ニ至リ左支遠敷川ヲ併セ雲濱村ニ至リ多田川ヲ吞ミ次デ南川ト合シ小許ニシテ海ニ注グ流路延長約三十五籽トス河口ハ左岸ニ突堤ノ設ケアリテ小濱港ヲ成ス又河口近ク右方ニ江湖川アリ其北川ニ接近セル處北川右岸堤上ニ古來三箇所ノ溢流堰ヲ設ケ以テ洪水ノ際其一部ヲ江湖川ニ放流スルノ用ニ充ツ

南川ハ源ヲ遠敷郡奥名田村ヨリ發シ溪間ヲ略東流シ細流ヲ集メ知三村ニ至リ方向ヲ轉ジテ東北ニ向ヒ口名田村ニ至リ兩岸漸ク開ケ今富村ニ至リテ始メテ堤塘ノ設アリ次デ大彎曲ヲ爲シ小濱町ヲ經テ北川ニ合ス流路延長約四十籽ナリトス

流域ハ滋賀縣高島郡、福井縣遠敷郡ニ跨リ全面積四百四十二平方料ニシテ一般ニ山岳ニ富メリト雖モ著シキ峻峯ナシ山地ハ殆ンド古生層ニ屬スル粘板岩、硅岩等ヨリ成リ平地ハ第四紀新層ニ屬スル沖積地ナリ山地ノ森林狀態ハ必ズシモ良好ナルニアラズト雖モ又甚シキ荒廢ノ跡ナシ

沿岸ノ平地ハ凡テ北川本支流ヨリ灌溉ノ惠ヲ受クルモノニシテ其面積二千四百十ヘクタールナリ其殆ンド全部ハ福井縣下ニ屬シ亦改修區域内ニ在リ舟運ハ著シキモノ無シ唯河口附近ニ於テ小舟ノ通ズルヲ見ルノミ河口ハ即チ小濱港ニシテ風光明媚ナル小濱灣ノ奥底ニ横ハリ古來著名ナル港津ナリト雖モ惜ラクハ水深小ニシテ大船巨舶ヲ容ルベカラズ

北川ハ從來河幅狹隘、堤防薄弱ナルヲ以テ出水ニ會セバ堤防決潰シテ浸水ノ害ヲ被リ甚シキハ毎年數回ニ及ブコトアリ特ニ流末地方ニ在テハ南北兩川ノ洪水相會シ然モ河口狹隘ナルヲ以テ疏通ノ快速ナルヲ得ズ爲メニ小濱町ノ一部及雲濱村ノ如キハ濁水人家ヲ沒シ慘害ヲ逞ウス舊藩時代ニ於テ北川堤防ニ溢流部ヲ設ケ洪水ノ一部ヲ江湖川ニ放流スルノ施設ヲ爲シタルモ尙不充分タルヲ免カレズシテ災害ヲ被ルコト頻繁タリ明治二十九、三十二、四十、大正六、十年ノ洪水ノ如キハ其被害特ニ著シキモノアリ今水害ヲ受クベキ面積ヲ掲グレバ全流域内ニテハ一千五百十九ヘクタールニシテ内一千四百四十ヘクタールハ改修ニ依リテ被害ヲ免ルル區域ニ在リ大正四年ヨリ同十三年ニ至ル最近十箇年間ニ於ケル水害ニ因ル年平均損失額ハ十五萬四千八百八十圓ニシテ内十四萬七千圓ハ改修ニ依リテ全ク之ヲ免カルルヲ得ルナリ

計畫高水流量ハ從來ノ最高洪水ヲ基準トシ今回調査ニ當リ實測セシ結果竝ニ當時觀測セル水位等ヨリ推定シテ左ノ如ク決定セリ

北 川

上流改修起點ヨリ鳥羽川合流點ニ至ル

三〇〇〇無砂立方米

鳥羽川合流點ヨリ杉山川合流點ニ至ル

四六〇

杉山川合流點ヨリ日笠川合流點ニ至ル

五〇〇

日笠川合流點ヨリ宮川合流點ニ至ル

六〇〇

宮川合流點ヨリ遠敷川合流點ニ至ル

七〇〇

遠敷川合流點ヨリ海ニ至ル

九五〇

南 川

一〇〇〇

遠 敷 川

三〇〇

計畫高水位モ亦從來ノ最高水位ヲ基準トシテ之ヲ定メ前記流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ改修計畫ノ主眼トセリ

幹川北川筋ニ在テハ上流改修起點ヨリ宮川合流點ニ至ル迄ハ河幅大體充分ナルヲ以テ單ニ舊堤ヲ擴築スルニ止メ同點以下ハ河幅概シテ不足ナルヲ以テ多少之ヲ擴張シ或ハ新堤ヲ設ケ或ハ舊堤ノ利用スベキハ之ヲ擴築ス又國富村大字丸山以下ハ現川ヲ右方ニ導キ現在ノ江湖川ヲ擴張シテ之ニ充ツルモノトシ江湖川ハ之ニ並行ニ新水路ヲ設ケ西津村ニ至リ新北川ニ合流セシメントス
支川南川ハ上流改修起點ヨリ今富村大字湯岡ニ至ル間ハ在來ノ堤防ヲ擴築スルニ止メ同所以下ハ多少河幅ヲ擴張シ尙現在ノ水路ハ著シク迂回セルヲ以テ雲濱村地内ニ一條ノ直路ヲ開鑿シ同村大字竹原ニ至リ北川ノ現水路ニ合セシメ以下ハ北川ノ現水路ヲ以テ南川ノ新水路ニ宛ツ斯クシテ南北兩川ハ全ク分流セシメントス

支川遠敷川ハ小支松永合流點以下幹川トノ合流點ニ至ル間河幅ハ充分ナリト雖モ堤防薄弱ナルヲ以テ之ヲ擴築スルモノトス

堤防ハ天端幅四米五兩法二割乃至三割トシ天端ハ計畫高水位以上一米五トシ尙直高ノ大ナル堤防ニハ小段ヲ附ス堤防及河岸ノ必要ナル箇所ニハ適當ナル護岸工ヲ施シ河敷内ニ在テハ河積ノ不足ナル部分ハ掘鑿若クハ浚渫ヲ行ヒテ補充セシメ下流ニ於テハ兼テ舟運ニ便ナラシメントス

施工狀況

本改修工事ハ大正十五年度ノ創業ニシテ爾來實施測量及諸般ノ調査ヲ爲シ昭和三年十月初メテ人力掘鑿ヲ起工シ更ニ本年度ニ於テ築堤及護岸工事ニ著手セリ

土地收用ニ關シテハ昭和二年十二月第一次買收協議ヲ開始シ昨年度ニ於テハ第二次ヲ發表シタルモ約七割ノ未承諾者ヲ殘シ本年度ニ入り北川筋左岸遠敷郡國富村ヨリ今富村、遠敷川合流點ニ至ル間、右岸同郡國富村ヨリ野木村ニ至ル間、遠敷川筋左右岸共遠敷村地内即チ北川合流點ヨリ終點迄、南川筋左右岸共今富村地内ノ幅杭設定測量並ニ買收調査ヲ了へ此區間ノ用地面積十八町二段一畝ニ對シ同四年十二月十日第三次土地買收ノ協議ヲ開始シ年度内ニ第二次ノ未承諾者ヲ併セ殆ンド應諾ヲ見ルニ至リ僅少ノ事故其他ニ依ル未承諾者ヲ殘シ年度ヲ終レリ而シテ本年度迄ニ買收セル總段別三十八町一段步此用地費二十八萬二千八百五十二圓ヲ支出セリ

掘鑿工事ハ昨年度起工シタル南川筋雲濱村、國富村及今富村地先ニ一箇所、北川筋雲濱村、西津村及國富村地先ニ一箇所ヲ續工セル外新ニ北川筋國富村及今富村地先ニ一箇所ノ人力掘鑿工事ニ著手シ本年度迄

ニ總土量十六萬九千八百五十八立方米、工費五萬七千八百二十三圓ヲ要セリ
 築堤工事ハ本年度ニ於テ北川筋左岸雲濱村及國富村地先ニ一箇所、右岸西津村及國富村地先ニ二箇所、南
 川筋左右岸今富村、雲濱村及國富村地先ニ各一箇所宛著手セリ而シテ所要土砂ハ掘鑿土ヲ利用スルコト
 トセルモ全區域ヲ通シ掘鑿土量ハ築堤用土ニ對シ不足ヲ告グルヲ以テ本年度ハ先ヅ遠敷郡國富村大字
 羽賀地内民有山地ノ土砂ヲ無償提供ヲ受ケ人力掘鑿ニ依リ採取シ不足ヲ補ヘリ而シテ本年度總土量十
 九萬一千四百四十五立方米、工費三萬三千三百五十六圓ヲ支出セリ
 護岸工事ハ江湖川筋西津村地先ノ新川開鑿部ニ假護岸一箇所竝ニ南川筋今富村及雲濱村地先ノ新川開
 鑿部ニ床固工事一箇所ヲ著手セルモ本年度内ニ竣成ヲ見ルニ至ラザリキ
 本年度ノ竣功高ハ二十九萬二千二百二十一圓ニシテ創業以來ノ累計五十一萬四千七百六圓トナリ之ヲ
 總工費豫算二百三十六萬圓ニ比スレバ二割二分ノ竣功トナル其竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量
 「△」ハ製作品及評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘鑿	18,809	6,761	15,109	5,062	16,988	5,782	81
工事築護	*	△	149,625	33,356	149,625	33,356	100
費用	225	141	166	141	381	282	100
用地	△	△	△	△	△	△	100
船舶及機械費	165	165	165	165	330	330	100
測量費	△	△	△	△	△	△	100
合計							

第二八 旭川改修工事

緒言

本工事ハ工費八百萬圓(内岡山縣負擔二百七十五萬九千圓)ヲ以テ昭和元年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ岡山縣御津郡牧石村以下海ニ至ル約十七糎ノ間ナリ

河狀並計畫大要

旭川ハ流域面積一千七百二十三平方糎ニシテ内山地面積一千四百八平方糎、平地面積三百十五平方糎、流路延長約百五十糎ナリ、灌溉面積一萬九百ヘクタールヲ有スル河川ニシテ其大部分ハ岡山市附近ノ平野ニ屬スルモノナリ而シテ本川ハ其源ヲ岡山縣眞庭郡ノ北境ナル鷲ヶ峯ヨリ發シ始ハ略東流シテ同郡茅部ヲ過ギ方向ヲ南ニ轉ジ山間ノ諸溪流ヲ併セ勝山町ニ至リ右支新庄川ヲ納レ東南ニ轉向シ久世町ヲ過ギ左支目木川ヲ併セ落合町ニ至リ更ニ右支備中川ヲ收メ山間ヲ紆餘曲流シテ久米郡福渡町ニ至リ左支誕生川ヲ合セ更ニ下リテ御津郡金川町ヲ經テ右支宇甘川ヲ容レ次デ方向ヲ略南ニ變ジ同郡牧石村ニ至リ山間ヲ離レテ平野ニ出ヅ次ニ左方ニ百間川ヲ分派シ岡山市内ヲ貫流シテ再ビ方向ヲ稍東南ニ轉ジ上道郡三幡村ニ至リ兒島灣ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニアラザルモ下流部ハ岡山ノ沃野ヲ橫斷シ灌溉ノ利ト運輸ノ便トニ因リテ流域内文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ

然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ニシテ流域ハ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ丘巒群起セリ而シテ此等山嶽ハ

主トシテ古生層ニ屬スル粘板岩及凝灰岩若クハ花崗岩ヨリ成ル後者ハ其性質上風化甚シキヲ以テ是レヨリ構成セラルル山岳ニハ禿裸ノ地多ク土砂流出ノ因ヲ爲シ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク古來屢々水害ニ惱マサレタリ舊藩時代ニ入ルニ及ビ洪水ノ被害ヲ受クル事頻繁タリシヲ以テ貞享三年遂ニ百間川ナル放水路ヲ開鑿スルニ至レリ然レドモ爾來尙洪水ノ害絶ヘズシテ屢々市街ノ浸水堤防ノ決潰橋梁及家屋ノ流亡田畑ノ荒廢人畜ノ死傷等慘害ヲ被ムル事實ハ記錄ニ依リ之ヲ窺フニ足ルモノアリ近年幸ニシテ大洪水ニ遭遇セザルモ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ浸水田畑一萬一千百ヘクタールニシテ損失價額四百九十七萬餘圓ニ上レリト云フ

今水害ヲ受クベキ面積ヲ掲グレハ全流域内ニテハ一萬一千五百ヘクタールニシテ特ニ岡山市ノ發達ニ伴ヒ市街ノ浸水スルガ如キハ戰慄ニ堪ヘザルモノナルガ改修ニ依リ是ヲ除キ其水害ヲ免カルル面積ハ約九千百ヘクタールナリ

計畫流量ハ既往ニ於ケル最高水位ヲ基準トシ每秒五千立方米トシ尙計畫高水位ハ既往洪水ニ於ケル最高水位ヲ超過セシメザル様之ヲ定メタリ

上流改修起點ヨリ岡山市上流ニ至ル約七軒間ハ大體現在河幅廣濶ナルヲ以テ局部ヲ除ク外ハ現在堤防ヲ補強スルニ止メ以下岡山城ト後樂園トノ間ニ横ハル部分ハ河幅狹隘河積又不充分ニシテ之ヲ擴張スル必要アルモ其餘地ナキヲ以テ新ニ後樂園ノ上流ヨリ其後方ヲ經過スル新川ヲ開鑿シ岡山市内相生橋附近ニテ現河川ニ合セシメ以下河口ニ至ル迄ハ現在河幅概シテ狹小ナルヲ以テ多少之ヲ擴張ス而シテ河口ヨリ上流岡山市内京橋ニ至ル約八軒間ハ低水路ヲ規正シ之ニ浚深ヲ施シ舟運ノ便ヲ計リ尙堤外地ニハ掘鑿ヲ行ヒ以テ所要ノ河積ヲ與フルモノトス

又必要ナル箇所ニハ護岸若クハ水制ヲ施シ流路ノ擾亂ヲ防ギ河岸ノ崩壞ヲ止メ又ハ堤防ノ安全ヲ計ラントス
 堤防天端幅七米五兩法二割乃至三割天端高ハ計畫高水位上一米五トシ尙適當ナル小段ヲ前後ニ附スルモノトス

施工狀況

本年度ニ於テモ工事ニ關シテ施設セルモノ無シ調査作業ニ於テハ改修區域内一部ノ實施縱橫斷測量及比較案ノ調査測量ヲ施行セリ
 本年度ニ於テ竣功セシ工費二萬一千四百九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計十二萬六千四百九十五圓ナリ之ヲ總豫算八百萬圓ニ比スレバ約二分ノ竣功トナル其竣功表左ノ如シ但シ表中「○」ハ無代價品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		六〇、四三六 <small>円</small>		四四三		六〇、八七九 <small>円</small>	
測量費		一七、八九七		八、二六〇		二六、一五七	
營業繕費		一、二二八		一一七		一、三四五	
雜費		二四、六〇四 <small>円</small>	○	一、二〇三〇		三六、六三四 <small>円</small>	
共濟組合給與金		九二二		五五九		一、四八〇	
							<small>百分</small>

第一章 河川改修工事（旭川改修工事）

總計	費目	
	數量	金額
—	—	
—	一〇五、〇八六	
—	—	
—	二一、四〇九	
—	—	
—	一二六、四九五	
—	—	
—	〇・〇二	

前年度迄竣功高

本年度竣功高

合

計

竣功
合

額

額

額

額

第二九 鬼怒川改修工事

緒言

本工事ハ大正十五(昭和元年)年度ヨリ昭和十四年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算一千四百五十萬圓ヲ以テ栃木縣鹽谷郡三依、栗山、藤原ノ三箇村及同縣同郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル延長約百十軒及同郡取手町竝ニ千葉縣東葛飾郡田中村地先約十軒ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

河狀竝計畫大要

鬼怒川ハ其源ヲ栃木縣鹽谷郡ノ西邊鬼怒沼ニ發シ日光山塊ノ北麓ヲ繞リテ一路東流シ同郡藤原村ニ至リテ左ニ大支男鹿川ノ南下スルヲ併セ之ヨリ山谷ノ間ヲ東南ニ奔リテ漸ク平野ニ出デ右ニ大支大谷川ノ東流スルニ會シ河内、鹽谷、兩郡ノ界ヲ流レ羽黒村地内ニ於テ西鬼怒川ヲ分派シ阿久津村ニ至リテ再ビ之ヲ併合ス之ヨリ南流スルコト四十二軒ニシテ水戸線鐵道橋ノ上流ニ於テ茨城縣内ニ入り幾クモナクシテ右ニ大支田川ヲ容レ田圃臺地ノ間ヲ紆餘曲折シテ南流スルコト四十五軒餘北相馬郡大野村地先ニ於テ利根川ニ注グ其幹川延長百七十軒(内栃木縣内百二十軒、茨城縣内五十軒)ニシテ平地部ニ於ケル流路ハ兩縣ヲ通ジテ百二十軒ニ達ス

大谷川合流點以上ハ河路概ネ峽谷ヲ成シ堤防護岸等稀ニシテ其下流水戸線鐵道橋ニ至ル延長七十軒ノ間ハ水勢急ニシテ川敷廣ク河水礫洲ノ間ヲ亂流シ兩岸ノ低坦地ハ概ネ堤防ヲ以テ保護セラル派川西鬼

怒川ハ往時一用水路タリシガ明和年間ニ於ケル大洪水ノ際河水溢流シテ一大河道ヲ成スニ至リシモノナリ同鐵道橋以下即チ茨城縣管内ニ屬スル部分ハ河狀一變シ緩流トナリ兩岸ハ大體堤防ヲ以テ保護セラルルモ河幅過狹ニシテ所々ニ急曲アリ爲メニ洪水ノ疏通ヲ阻ミ水位ノ嵩上甚シ水海道町以下ニ於テハ往時東流シテ小貝川(利根川ノ支川)ニ合シタリシモ徳川時代ニ於テ洪水排疏ヲ速ナラシメンガ爲メ丘陵ノ谷間ヲ開鑿シテ新タニ河道ヲ通ジ直ニ利根川ニ注ガシメタルモノニシテ内守谷村大字大木迄ハ河道特ニ狹隘ナリ而シテ流末大木以下延長二軒餘ノ部分ハ利根川ト同時ニ國ニ於テ既ニ改修ヲ施行シタルモノナリ

本川ノ流域ハ栃木縣宇都宮、鹽谷、河内、上都賀、下都賀、芳賀、茨城縣眞壁、結城、猿島、北相馬ノ一市九郡ニ互リ總面積一千八百八十平方軒ニシテ其内譯ハ栃木縣(山地一千百六十平方軒、平地五百平方軒)茨城縣平地二百二十平方軒ナリトス

流域ハ大體南北ニ長ク東西ニ狹クシテ水源山地ハ栃木縣ノ西北部ヲ占メ北ハ帝釋山脈ヲ以テ福島縣阿賀川流域ト隣シ東ハ那須火山系ヲ介シテ那珂川流域ニ接シ西及南ハ足尾山系ヲ以テ片品、渡良瀬兩川(其ニ利根川ノ大支ナリ)ト流域ヲ分ツ日光火山塊ハ其南部ニ盤踞シテ大谷川ノ水源ヲ成シ湯湖、西湖、中禪寺湖等其間ニ横ハル水源ノ地質ハ大體東北部ハ花崗岩屬ノ堅岩ニシテ南部ハ安山岩、凝灰岩等ノ大山岩ヨリ成ル男鹿川ハ約二百六十平方軒ノ流域ヲ有シ岩代國境ヨリ發スル五十里、湯西ノ二小支ノ合シタルモノニシテ其合流點附近ハ川道廣濶ナル湖盆狀ヲ形成シ二百年以前ニ於テ數十年間一大湖ヲ成セルモノニシテ今尙海跡ノ名アリ幹川ノ最上流部及男鹿川流域ハ針濶混生ノ樹木多ク山相一般ニ良好ナルモ幹川ノ南大谷川ノ北部ヲ占ムル日光山地ノ兩斜面ハ其岩質ノ關係ヨリ荒廢甚シク崩潰度ナキ狀態ニシテ

大谷川ニ合スル諸溪流ハ現ニ國及縣ニ於テ砂防工事ヲ實施シツツアリ

大谷川合流點以下水戸線鐵道橋ニ至ル間ノ河道ハ概ネ河水ノ流送堆積セル砂礫層上ニ横タハルモ東岸ニ於テハ所々第三紀ノ臺地アリ、河水ノ衝突ニ因リテ缺潰甚シク赤壁數軒ニ連ナルモノ尠カラズ同鐵道橋以下ハ大體豐饒ナル冲積壤埴土ナルモ所々第三紀ノ丘陵臺地ヲ見ル流末利根川トノ間ニ介在スル菅生低濕地ハ富饒ナル腐埴土ヨリ成リ現在ハ利根川洪水ノ遊水地タリ

本川改修區域ハ水害最モ甚シキ栃木縣鹽谷郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル部分ニシテ其延長百十軒、内栃木縣内六十軒、茨城縣内五十軒ナリ

改修區域ニ於ケル洪水ノ狀況ヲ見ルニ水源山地ヨリ改修上流端ニ流下シ來ル洪水ハ其流量大ニ流勢極メテ激烈ナルモ栃木縣下延長六十軒ノ間ハ河幅廣大ニシテ所々無堤地アリ加フルニ大洪水ノ際ハ所々破堤、溢流等ヲ生ジ遊水面積極メテ大ナルヲ以テ洪水ハ其流量及流勢ニ於テモ大ニ緩和サレタル後ニ茨城縣ニ入ルノ狀況ナリ然レドモ水戸線鐵道橋以下ニ於テハ河道狹少ニシテ堤防亦矮少薄弱ナルヲ以テ破堤、溢流等尙頻繁ナルモノアリ而シテ流末既改修部ニ在リテハ每秒二千五百立方米ノ高水流量ヲ安全ニ疏通シ得ルモ合流點以下ニ在リテハ兩川最大流量ノ遲速ヲ考慮シ利根川ノ河積ハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水流量ヲ每秒約一千立方米ト見積リテ決定セルモノナリ

鬼怒川ノ現狀竝ニ利根川トノ關係上記ノ如クナルヲ以テ本川ノ水害ヲ救ハンガ爲メ單ニ無堤地ノ汎濫、堤防ノ缺潰、溢流等ヲ防止シ他ニ何等ノ方法ヲ講ゼザルニ於テハ必然遊水面積ヲ縮少シ洪水ノ流量ヲ増加シ其流下ヲ速カナラシムル結果ヲ招致シ茨城縣内ニ於テハ河幅ノ大擴張ヲ要シ惹テハ利根川ニ流出スル高水流量ヲ愈々大ナラシメ合流點以下ノ河道ニ對シ尠カラザル脅威ヲ及ボス事トナルニ依リ計畫

トシテハ下流ニ排疏スル高水流量ヲ現狀以上絶對ニ増大セシメザル方針ヲ採リ先ヅ改修區域ノ河道外汎濫地ニ代テ洪水ノ調節ヲ爲シ其流量ヲ低減センガ爲メ男鹿川海跡ノ河袋ニ一大調整池（容量約五千萬立方メートル）ヲ設ケ大雨ノ際水源ヨリ流下シ來ル洪水ヲ一時池中ニ停滯セシメ排水門ヲ設ケテ徐々ニ之ヲ排疏シ以テ改修上流端ニ於ケル最大流量毎秒五千立方メートル四千方米ニ低減シ之ヨリ以下ハ現在ノ河道ノ調節作用ニ依リ高水流量ヲ次第ニ低減セシメ流末既改修部ニ互リテ毎秒二千五百立方メートル止ムルノ方法ヲ採用セリ即チ本川ノ計畫高水流量ハ改修區域上流端ニ於テ毎秒四千立方メートル定メ之ヨリ次第ニ減ジテ水戸線鐵道橋ニ於テ毎秒三千立方メートル改修末端ニ於テ毎秒二千五百立方メートル定メタリ而シテ改修工事ハ大體現在ノ河幅ヲ保持シ其過狹ナル部分ヲ擴張シ栃木縣内ニ於テ四百五十米乃至一公里、茨城縣内ニ於テ百七十米乃至五百米ノ河幅ヲ有セシメ堤防ノ薄弱ナル部分ハ之ヲ増築シ無堤地ニシテ汎濫ノ害著シキ箇所ハ新タニ堤防ヲ繞ラシ以テ沿川ノ水害ヲ根絶セントス改修堤防ハ大體天端幅三米五乃至七米、兩法二割乃至三割ト爲シ天端ハ計畫高水位以上一米二ノ高ヲ有セシムルモ現在河幅廣大ナル部分ハ之ヲ一米ニ止メタリ而シテ水流ノ衝ニ當ル河岸ニ對シテハ護岸、水制等ノ補足又ハ改修ヲ行ヒ以テ岸地ノ缺潰ヲ防ギ堤防ノ安固ヲ圖ラントス

水源ニ於ケル洪水調節ノ結果西鬼怒分派點ニ於ケル計畫流量ハ毎秒四千立方メートル低下スルヲ以テ現在ノ幹川タル東鬼怒ニ於テ多少ノ堤防増築ヲ行ヘバ一川ノ河幅ニ依リ能ク全流量ヲ疏通シ得ベキヲ以テ西鬼怒川ヲ其分派口ニ於テ締切リ其川敷及遊水地約百五十ヘクタールノ開墾ヲ可能ナラシム水戸線鐵道橋附近ハ河幅過狹ニシテ高水ノ疏通堤防護岸ノ維持共ニ困難ナルノミナラズ屢々鐵道ヲ不通ナラシムルヲ以テ橋長ヲ増大シ河積ノ擴張ヲ行ヒ茨城縣内宗道村附近ハ河道ノ屈曲特ニ甚シク水位ノ嵩上工

作物ノ被害共ニ著シキモノアルヲ以テ新川ヲ開鑿シテ高水ノ疏通ヲ良好ナラシメントス
而シテ利根川改修ニ於テハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水流量ヲ每秒一千立方メートル見積
リタレドモ近年ノ洪水狀況ヲ調査スルニ一千四百立方メートル以上ニ達スル場合アルヲ以テ鬼怒川改修後ニ
於ケル該流量ヲ一千六百立方メートル定メ利根河積ニ對シテ過大ナル流量每秒六百立方メートル合流點附近ニ
於テ一時滯溜セシムルノ策ヲ採レリ即チ茨城縣北相馬郡菅生沼沿岸及千葉縣東葛飾郡田中村ヨリ我孫
子町ニ互ル利根川遊水地ニ新堤ヲ繞ラシテ二大調節池ヲ設ケ數箇所ニ溢流部ヲ置キ下流端ニ排水門ヲ
設ケ以テ水位過嵩ノ際河水ヲ流入滯溜セシメ河道ノ減水ヲ待テ池内ノ滯水ヲ排出セシメントス而シテ
此等調節池地域ノ荒蕪地ハ從來堤外遊水地ニシテ出水毎ニ水底ニ沒スルノ状態ナリシガ改修後ニ於テ
ハ大洪水ノ場合ニ於テノミ溢流ノ爲メニ冠水スル事トナリ從テ約一千二百ヘクタールノ低坦地ハ大ニ
其利用率ヲ高ムルニ至ルベシ

施工狀況

本工事ハ便宜上下流ニ分チ下流部ヨリ述ベンニ先ヅ施行準備トシテ大正十五年十二月茨城縣結城郡宗
道村及栃木縣河内郡本郷村ニ各測量員詰所ヲ置キ實地測量調査ニ著手シ翌昭和二年一月宗道村ニ土地
收用事務所ヲ設ケ結城郡大形村新川開鑿用地ノ買收調査ヲ行ヒ前年度迄ニ五十三町六段步餘ヲ買收セ
リ本年度ニ於テハ引續キ河内郡上三川町芳賀郡中村及長沼村ノ三箇町村内ニ於テ前年度未了ノ堤塘用
地四町五段步ノ買收ヲ終ヘ新ニ本郷村上三川町中村長沼村及結城郡西豊田村等ニ於ケル兩岸堤塘用地
ノ買收協議ヲ開始シ内四町一段步ノ買收ヲ了リ其餘ハ翌年度ニ繰越トナレリ而シテ本年度迄ニ買收セ

ル總段別ハ六十二町二段步餘ニシテ用地費二十七萬八千三百九圓トナレリ

工事施工ニ關シテハ昭和二年二月茨城縣眞壁郡伊讚村字伊佐山ニ鬼怒川改修事務所ヲ置キ左岸鹽谷郡大宮村、右岸河内郡篠井村以下利根川合流點ニ至ル間ヲ事業區域ト定メ各種測量調査及機械器具ノ整備電話架設等施工準備ニ努メ斯クテ本川中彎曲最モ甚シキ大形村鎌庭地先ノ新川開鑿工事ヲ同三年二月ヨリ著手シ得ルニ至リ本年度迄ニ竣功セルモノ浚渫土量十六萬八千八十六立方米、築堤土量十九萬七千三百六十七立方米トナレリ

今年度施工ノ概況ヲ述ベンニ幅杭建設、調査、測量等ハ前年度ヨリ引續キ施行セル外大形村鎌庭地先新川開鑿工事ヲ繼續施行シ土量八萬八百八十三立方米ヲ舉ゲ左岸中村地先及右岸長沼村竝ニ鎌庭地先新川右岸等ニ築堤ヲ起工シ土量十九萬七千三百六十七立方米ヲ搬入セリ而シテ本工事用機械器具ノ製作及修理ヲ擔當スル修理工場ハ前年度ニ於テ大形村鎌庭地先ニ設置セシガ引續キ諸機械類ノ据付等ヲ行ヒ本年十月ヨリ作業ヲ開始スルニ至レリ

上流部ニ於テハ是亦準備トシテ大正十五年九月鹽谷郡藤原村ニ測量員詰所ヲ置キ實地測量調査ヲ行ヒ翌昭和二年五月鹽谷郡三依村大字五十里字關門ニ改修事務所（昭和四年四月一日堰堤事務所ト改稱）ヲ設ケ同郡三依、栗山、藤原ノ三村ヲ事業區域ト定メ大支男鹿川（湯西川ヲ含ム）筋ニ一大調整池ヲ設クル爲メ前記關門地先ニ於ケル堰堤築設箇所ノ地層試鑽其他事業遂行ニ必要ナル調査ヲ行フト共ニ施行準備ヲ進メ前年度迄ニ地層試鑽ハ略完了シ會津西街道ノ調整池敷ニ當ル部分ノ縣道附替調査ハ年度内其大部分ヲ終了セリ

工事施行ニ付テハ先ヅ材料運搬軌道敷設ノ爲メ本年度ニ於テ會津西街道筋藤原村大字藤原地先下野電

正		誤		表	
頁	四	一五五	二一七	三八三	〃
行	一二	一〇	七	五	六
正	大淀、那賀、大野、渡ノ十四河川	石和町	河狀		
誤	大淀ノ十一河川	石田町	河川		
				× 一四、〇八四	× 九五、〇八三
				× 一四、〇八四	× 九五、〇八三

氣鐵道新藤原驛ヨリ三依村字關門地先堰堤築設地ニ至ル約十二軒ノ縣道擴築工事ヲ施行シ殆ンド之ヲ完成セシメ堰堤築設地附近ニ於テ男鹿川ノ平水及小出水ノ排水ヲ兼ネ作業用動力發生ヲ目的トスル水電工事(使用最大水量毎秒四立方米四、落差二十五米、出力一千キロワット)ノ一部ニ著手シ尙工事用諸機械器具ノ製作及修理ヲ施行スル爲メ藤原村ニ工作工場ヲ設ケ主要機械ノ購入ヲ爲ス等著々準備ニ努メ相當進捗ヲ見ルニ至レリ

本年度竣功高ハ上、下流ヲ通ジ六十四萬八千九百九十三圓ニシテ創業以來ノ累計ハ百四十三萬七千四百二圓トナリ之ヲ總工費豫算一千四百五十萬圓ニ比較スルトキハ約一割ノ竣功ニ當レリ工事竣功表左ノ如シ但シ表中「△」ハ船舶及機械費支辨製作品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	立方米 八七、二〇三	△ 三〇、九二〇	立方米 一九七、三六七	△ 二七、四九六	立方米 一七、三六七	△ 二七、四九六	〇・〇二
工事費	未竣功 八六		未竣功 八六		未竣功 八六		〇・〇六
費	未竣功 五三六		未竣功 八六		未竣功 八六		
用地費	竣功	二四、二八〇	竣功	三三、五〇四	竣功	二七、八三〇	
附帶工事費(管理者施行)	竣功	二二、九七八	竣功	五〇	竣功	五〇	
船舶及機械費	竣功	△ 三三〇	竣功	△ 二二、三八四	竣功	△ 二二、三八四	
測量費	竣功	△ 五二、九四九	竣功	△ 二二、一八六	竣功	△ 七五、一三五	
營業繕費	竣功	△ 七八、一八七	竣功	△ 一一、三八二	竣功	△ 一九二、〇〇一	
雜費	竣功	△ 二九、三三六	竣功	△ 二四、一一二	竣功	△ 五、三四八	
共濟組合給與金	竣功	△ 一四九、〇二四	竣功	△ 一三九、九〇九	竣功	△ 二八、八九三	
	竣功	△ 五、三四六	竣功	△ 五、〇五六	竣功	△ 一〇、四〇二	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		歩竣 合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
總計	—	七八九、二〇九	—	六四八、一九三	—	一、四三七、四〇二	〇・一〇

本表竣功高ヲ更ニ上流ト下流トニ區別スレバ左表ノ如シ

下流改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		歩竣 合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
立方米	—	—	—	—	—	—	—
堤	—	—	—	—	—	—	—
築	—	—	—	—	—	—	—
工事費	—	—	—	—	—	—	—
深	八七、二〇三	三〇、九二〇	一九七、三六七	二七、四九六	一九七、三六七	二七、四九六	〇・〇二
地	—	—	—	—	—	—	—
費用	—	—	—	—	—	—	—
附帶工事費(管理者施行)	—	—	—	—	—	—	—
船及機械	—	—	—	—	—	—	—
測	—	—	—	—	—	—	—
量	—	—	—	—	—	—	—
營繕	—	—	—	—	—	—	—
費	—	—	—	—	—	—	—
雜費	—	—	—	—	—	—	—
共濟組合給與金	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	六四六、一五〇	—	二七三、九五五	—	九二〇、一〇五	〇・〇八

上流改修

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費一堰堤	未竣功 箇所		未竣功 箇所		未竣功 箇所		
船舶及機械費		△		△		△	
測量費		五〇、六七六 二二七		一八六、一〇九 二、三二四		二三六、七八五 二二七	
營業繕費		三二、八五五		一一、一五七		四五、〇一一	
雜費		一一、三二七 七〇九		一〇七、四四一 五八二		一一〇、七五八 一、二九一	
共濟組合給與金		四五、一三一		六四、三〇二		一〇九、四三三	
總計		一、〇八〇		一、九二五		二、九九五	
		一四三、〇五九		三七四、三三八		五一七、二九七	〇・一五

第三〇 大淀川改修工事

緒言

本工事ハ工費六百五十萬圓(内宮崎縣負擔二百十九萬九千圓)ヲ以テ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋宮崎縣東諸縣郡倉岡村以下海ニ至ル約十四籽、支川本庄川筋同郡本庄町以下幹川合流點ニ至ル約十二籽及小支川深年川筋同郡本庄町以下本庄川合流點迄約二籽、合計二十八籽トス

河狀並計畫大要

大淀川ハ九州屈指ノ大河ニシテ幹川ハ其源ヲ鹿兒島縣喻嶽郡末吉村金御嶽ニ發シ山麓ヲ南東ヨリ北西ニ向ツテ迂回シ宮崎縣北諸縣郡都城盆地ニ出デ都市ノ西端ヲ北流シ萩原川、沖水川、横市川、安永川、東嶽川、高崎川ノ諸水ヲ容レ盆地ノ北隅ニ於テ轟ノ峽谷ニ入り岩瀨川ヲ加ヘテ著シク流量ヲ増大シ東轉シテ鱈塚山脈北部ノ峽谷ヲ作リ紆餘屈折シテ東諸縣郡高岡町ニ至リ浦之名川ヲ容レ次第ニ山ヲ離レ東諸縣郡倉岡村ニ於テ本庄川ノ來リ注グニ會ヒ川ニ愈々大トナリ宮崎平野ヲ南東ニ流レ宮崎市ヲ貫キ宮崎郡赤江町ニ於テ日向灘ニ朝ス其流路約百二十六籽、大小支川七十八箇川ヲ合セテ約八百六十籽ヲ算ス支川本庄川ハ其源ヲ熊本縣球磨郡黒原山ニ發シ山谿ヲ東南ニ流レテ宮崎縣東諸縣郡綾村ニ至リ綾南川ト合シ水量倍加シテ同郡本庄町地内ノ水田ノ間ヲ亂流シツツ同郡本脇村ニ於テ北ヨリ來レル東諸縣郡掃部嶽ヲ水源トセル深年川ヲ容レテ大淀川ニ注グ其流路約八十一籽ナリ

本流域ハ宮崎縣ノ南部ニ位シ西諸縣、東諸縣、宮崎、北諸縣ノ四郡、宮崎、都城ノ二市及鹿兒島縣噲啖郡ニ跨リ尙纔ニ宮崎縣兒湯郡、熊本縣球磨郡、鹿兒島縣始良郡ノ一部ニ及ビ其面積二千二百二十四平方籽（內山地一千二百十六平方籽、平地九百八平方籽）灌溉面積一萬七千ヘクタールニシテ上ハ都城市ヲ中心トセル肥沃ナル都城平野ヲ涵養シ下ハ宮崎市ヲ中心トシテ豐穰ナル宮崎平野ヲ灌溉スルノミナラズ此流域内ハ本邦有數ノ森林地帯ニシテ日向杉、日向檜ヲ始メ數多ノ良材ハ皆此大淀川ヲ利用シテ搬出セラレ宮崎市及河口赤江ハ其集散地ノ中心ナリ然ルニ本川流域タルヤ本邦ニ於ケル著名ナル多量降雨地ノ一ニ數ヘラレ宮崎市ノ平均年降水量ハ約二千六百籽、山嶽地方ハ三千籽ヲ示シ而カモ八、九月ノ候ニ於テハ強烈ナル颯風屢々通過シテ之ニ伴フ豪雨著シク宮崎市ニ於テハ明治十九年九月二十四日ノ如キ降雨量四百九十籽ニ達シ大正五年九月二十二日ハ實ニ四時間ニテ二百七十七籽ヲ示セリ從ツテ出水量モ亦多大ニシテ一箇年内數度ノ洪水ヲ被ムルヲ常トス

然ルニ此地方ハ土地廣ク人煙稀薄ナリシニ依リ敢テ治水ノ業ニ從フモノナク從ツテ未ダ何等堤塘護岸ノ設ケナク全ク洪水ノ汎濫横溢ニ委スルノミナルヲ以テ一朝出水センカ宮崎、都城ノ兩市ヲ始メ沿川都邑ハ濁流ニ没シ其汎濫面積五千三百五十ヘクタールニシテ其都度耕宅地ノ荒廢、道路橋梁ノ破壞流失等甚シク之レニ加フルニ一般産業、交通、衛生上等ノ損害ヲ計上スル時ハ其額尠カラザルモノアリキ殊ニ近年日豐鐵道ノ全通ヲ始メ本流域内外ニ於ケル諸種ノ交通機關ノ著シキ發達ハ此地方ノ人口ト産業ニ異常ナル膨脹ト増進トヲ促シ從ツテ洪水ヨリ被ムル損害モ亦累年増加スルノ狀況トナレリ是レ本改修ノ計畫ヲ見ルニ至リシ所以ナリトス

本改修計畫ノ要旨ハ主トシテ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ幹川ニ於

テハ大體倉岡村以下海ニ至ル間兩岸ニ新ニ堤塘ヲ築キ左支本庄川ハ河身不整ニシテ亂流甚シキガ故ニ著シク彎曲セル部分ハ河身ヲ改メ流身ヲ匡正シ堤塘ヲ設ケ又小支深年川ハ本庄川トノ合流點ノ位置不適當ニシテ其逆流甚シキヲ以テ本庄川ノ河身ヲ附替ヘ合流點ヲ引下ケ之レガ緩和ヲ計ルト共ニ築堤ヲ爲シ以テ洪水ノ汎濫ヲ防ギ其他全川ニ互リ河積狹小ナル箇所ハ掘鑿浚渫ヲ施シテ洪水ノ快疏ヲ計リ必要ナル箇所ニハ護岸水制ヲ施行ス又支流ニシテ逆流ノ害アルモノハ水門ヲ設ケテ其浸入ヲ遮斷シ尙漂砂ニ依ル河口ノ變動ヲ輕減センガ爲メ突堤ヲ設クルモノトス

計畫高水流量ハ幹川筋ニ於テハ本庄川合流點以上ヲ每秒三千六百立方米以下ヲ每秒五千五百立方米トシ支川本庄川ハ小支深年川合流點以上ヲ每秒二千立方米以下ヲ每秒二千二百立方米トシ深年川ハ每秒四百立方米トス而シテ計畫高水位ハ大體既往洪水ニ於ケル最高水位ヲ超過セシメザル様之ヲ定ム計畫河幅ハ幹川筋三百四十米乃至八百八十米本庄川筋二百十米乃至二百七十六米深年川筋九十五米乃至百三十米トス而シテ堤防標準断面ハ天端幅下流七米上流六米表法二割裏法二割五分トシ計畫高水位以下五十糎ノ處ニ幅三米五ノ小段ヲ設ク堤高ハ計畫高水位上一米五ヲ保タシムルモノトス

施工狀況

本工事ハ昭和二年度ノ創業ニシテ前年度迄ニ實施測量ヲ終了シ引續キ諸般ノ調査並準備ヲ進メ來リ愈四年六月初メテ左岸宮崎市下北方町地先ニ掘鑿ヲ開始シ五年三月左岸同市下水流町地先ノ掘鑿ニ著手セリ本年度内ニ掘鑿シタル土量十萬三千五百三十二立方米ニシテ内七萬七百二十三立方米ハ築堤敷ヘ其他ハ附近民有地又ハ官有地ヘ捨土セリ掘鑿ハ總テ人力ニ依リ運搬ハガソリン機關車一臺並ニ人力及

馬力ヲ併用セリ尙四年五月内務省新潟土木出張所ヨリ短梯掘鑿機及機關車各一臺ノ移管ヲ受ケ之ニ依リ機械掘鑿竝ニ二十瓩機關車運搬ヲ創始セントセシモ本年度内ニハ單ニ其準備工ヲ爲シ得タルノミ土地買收ニ關シテハ前年度六月收用事務所ヲ開設シ爾來同年度ニ於テ前後二回ニ互リ左岸宮崎市、宮崎郡瓜生野村及東諸縣郡倉岡村ノ一部竝右岸宮崎郡生目村地内ノ土地買收協議ヲ開始シ年度末迄ニ其約三割餘ヲ買收シタリシガ本年度ニ於テハ其殘リノ全部竝ニ新ニ買收協議ヲ開始セル右岸倉岡村地内ノ買收ヲ完了セリ斯クテ本年度末迄ニ買收セル土地ノ總段別ハ百十八町九段歩ヲ算スルニ至レリ本年度竣功高ハ三十三萬四千百十七圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計五十八萬八千八百五十二圓ヲ算シ總工費六百五十萬圓ニ對シ九分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「〇」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費一掘鑿	立方米 三〇四段	〇	立方米 一〇三、五三二 八八五段	〇	立方米 一〇三、五三二 一、一八九段	〇	〇〇四
用地費		一〇〇、八〇九		二六、二〇四 九四四		二六、二〇四 九四四	
船舶及機械費		一一六、八五四		二二八、五九二		三一九、四〇一	
測量費		一三三、三〇七		六二、九三九 八二		一七九、七九三 八二	
營業繕費		一、六七四		三〇、九〇三		一六、三九七	
雜費		二二、五七六		一、一六一		二一、八三五	
共濟組合給與金		五二五		二二、四四〇 一五		四三、〇一六	
總計		二五四、七三五		三三四、一二七 六九一		五八八、八五二 一、二〇六	〇〇九

第三一 狩野川改修工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ總工費豫算六百三十五萬圓(内静岡縣負擔二百十九萬九千圓)ヲ以テ施行スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川狩野川ニ在リテハ静岡縣田方郡修善寺町字瓜生野ヨリ海ニ至ル約二十六軒、支川黄瀬川ニ在リテハ駿東郡大岡村地内合流點附近約一軒合計二十七軒ナリトス

河狀並計畫大要

狩野川ハ源ヲ伊豆半島ノ中央天城山脈ニ發シ下田街道ニ沿フテ北ニ奔流スルコト二十二軒其間左支猫越川、船原川、桂川及右支大見川ヲ容レ同郡田中村字大仁ニ至リテ北方ニ展開セル平原ニ出ヅ之ヨリ更ニ北ニ向ツテ蛇行スルコト約十軒、同郡函南村字日守ニ至リテ西北ニ流路ヲ轉ジ箱根山腹ヲ流下スル來光川、大場川、境川ノ諸支川ヲ併セ水量漸ク増加シ駿東郡清水村字下徳倉ニ於テ高臺ノ間ニ入りテ西ニ向ヒ大岡村木瀬川ニ至リテ右支黄瀬川ヲ合シ水量益々増大シ沼津市ニ至ルヤ南ニ急轉シ我入道ニ於テ駿河灣ノ東北隅ニ注グ其流路約五十軒ナリ

支川黄瀬川ハ源ヲ静岡縣駿東郡玉穗村字中畑ニ發シ富士、愛鷹ノ兩火山ト箱根火山トノ間ヲ南流シ久保川及蘆ノ湖ヨリ發スル深良川ヲ入レテ水量ヲ加ヘ清水村ニ於テ東海道ヲ横斷シ幹川狩野川ニ注グ其流路約三十二軒ナリ

本川ハ幹川ノ外大小支川三十有七ヲ有シ其流域ハ静岡縣沼津市駿東田方ノ一市二郡ニ跨リ總面積八百五十三平方糎（内山地六百六十二平方糎、平地百九十一平方糎）、流路延長四百十六糎、灌溉區域ハ三千四百九十ヘクタール、水害區域ハ三千七百九十ヘクタールナリ而シテ支川黄瀬川ノ流域面積二百八十一平方糎（内山地二百二十四平方糎、平地五十七平方糎）ヲ算ス

狩野川ハ大河川ニアラズト雖モ沿川修善寺以下耕地廣濶、農桑牧畜ノ業夙ニ開ケ其流末ニハ沼津市ヲ擁シ河口ハ沼津港ニシテ伊豆沿岸交通ノ關門タリ加フルニ兩岸一帶ノ地風光明媚到ル所史料遺蹟ニ富ミ又諸所ニ溫泉地帯ヲ控ヘ所謂東海ノ勝區ニ屬シ交通發達殷賑ヲ極ム

然ルニ本川ノ水源地天城連山ハ本邦多雨ノ地域ニシテ上流湯ヶ島ニテ年雨量四千糎内外、日雨量二百八十糎ニ達シタルコトアリ而シテ夏秋ノ颱風ハ概ネ此附近ヲ通過スルヲ以テ暴風雨屢々起リ而モ一般ノ地質火成岩ナルヲ以テ豪雨到レバ忽チ洪水起リ修善寺沼津間ノ沃野ハ濁流滿溢シテ慘狀ヲ極ム就中大正九年ノ大出水ノ如キハ損害二百四十萬餘圓ニ達シ人命ヲ失フ者十八件ニ及ブノ慘狀ヲ呈セリ

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ計畫高水量ハ幹川狩野川改修起點ニ於テ每秒一千七百立方糎、以下漸次増大シ黄瀬川合流點上流ニ於テ二千七百立方糎、以下海ニ至ル間ヲ三千五百立方糎トシ又支川黄瀬川ニ於テハ八百四十立方糎トセリ

幹川狩野川ノ計畫河幅ハ百四十米乃至二百三十五米トシ築堤ハ大體地形ニ應ジテ所々斷續施工シ大平村地内ニ於テ舊堤ノ一部ヲ利用補強スルノ外悉ク新堤ナリ而シテ同村地先河身ノ大屈曲部ハ捷路ヲ開鑿シテ直通セシメ、堀ノ上下德倉ノ狹隘部其他河積ノ不充分ナル箇所ハ掘鑿ヲ施シテ洪水ヲ快通セシメ

下流沼津市内ノ地域ニ於テハ別ニ低水路ヲ浚深シテ適當ナル流積ヲ與フルト共ニ併セテ舟運ノ利便ヲ圖ルモノトス而シテ沿川必要ナル箇所ニハ護岸若クハ水制工ヲ施シ河口ニハ突堤ヲ設ク
支川黃瀬川ハ其流末右岸ニ堤防ヲ設ケテ耕地ヘノ汎濫ヲ防ギ其他ノ小支川及惡水路ニ對シテハ地勢ニ應ジテ適宜取付堤ヲ築キ或ハ樋門ヲ設クルモノトス
堤防ハ天端幅六米、表法二割、裏法二割五分、天端高ヲ計畫高水位上一米五十糎トシ裏法ニハ天端ヨリ二米ヲ下リ幅三米ノ小段ヲ設クルヲ標準トス

施工狀況

本改修工事ハ昭和二年度ノ創業ニシテ本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ實施測量並諸般ノ調査測量ヲ爲シ幹川狩野川筋改修區域全般ニ互ル法線ノ設定ハ一先ヅ完了ヲ告ゲタリ又右岸ニ於テ中郷村、函南村ノ一部、清水村ノ一部、左岸ニ於テ函南村、大平村、清水村ノ一部等ニ築堤敷及掘鑿敷ノ幅杭ヲ設置セリ而シテ昭和四年八月左岸沼津市上香貫地先ノ人力掘鑿工事ニ著手シ次デ同地先ノ築堤工事及護岸工事ヲモ起工スルニ至レリ掘鑿工事ニ於テハ零立方米六積土運車ヲ以テ人力運搬ト爲シ掘鑿土砂七萬五千八百三十一立方米ノ内二萬五千三百七十八立方米ハ築堤工事ニ利用シ殘餘五萬四百五十三立方米ハ附近民地ヘ捨土セリ

土地買收ニ關シテハ昭和三年四月一日狩野川改修事務所内ニ土地收用事務所ヲ設置シ爾來銳意調査ノ進捗ヲ圖リ前年度ニ於テ買收協議ヲ爲セル第一次買收地沼津市上香貫地内左岸土地六町二段餘ニ對シテハ全部ノ買收ヲ了シ之ニ接續セル第二次買收地一段八畝歩餘ニ對シテモ殆ンド全部ノ買收ヲ了セリ

此外同市地内御成橋下流部ニ屬スル區域約三町步及上流清水村ノ一部、中郷村、大平村、函南村地内等四十町餘ノ土地調査ニ著手シ其進捗ニ努メタルモ年度内ニハ買收協議開始ノ運ビニ至ラザリキ
 本年度竣功額ハ四十三萬一千百六十三圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計五十萬五千五百九十四圓即チ
 總工費六百三十五萬圓ニ比スレバ八分ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「▲」ハ提供勞力
 費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	*		*		*		
工事掘鑿							
費護岸							
用地							
船舶及機械							
測量							
營業繕							
雜費							
共濟組合給與金							
總計							〇〇八

第三二 那賀川改修工事

緒言

本工事ハ工費豫算六百三十萬圓内高知縣負擔二百十四萬圓ヲ以テ昭和四年度ヨリ同十六年度ニ至ル十三箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其改修區域ハ幹川那賀川ニ於テハ德島縣那賀郡大野村ヨリ海ニ至ル十二籽、派川岡川ハ同郡左岸中野島村、右岸寶田村ヨリ海ニ至ル六籽又支川桑野川ハ同郡長生村ヨリ岡川合流點ニ至ル五籽ニシテ合計二十三籽ノ區間ナリトス

河狀並計畫大要

那賀川ハ其源ヲ德島縣海部郡奥木頭村大字北川字高野瀨ニ發シ德島高知ノ兩縣界山脈ノ東麓ニ沿ヒテ南下東折シ那賀郡宮濱村大字日眞ニ至リテ劍山ノ東麓ニ發スル左支北股川ト會ス兩川合流ノ後ハ愈々群山重疊ノ間ニ入りテ屈曲極メテ繁ク延野村字川口ニ至リテ急ニ北東ニ折レ和食ノ盆地ニ出デ右支中山川ト會スル所ニ鷺敷町アリ河畔高燥ノ地ニ位置スト雖モ下流ニ狹窄部アリテ洪水ノ疏通ヲ妨グルヲ以テ水害ヲ被ルコト頻繁ナリ本川ハ此處ニ一大灣流ヲ爲シタル後隣川勝浦川トノ分水嶺下ニ沿フテ流下シ大野村大字上大野ニ至リ初メテ平地部ニ出デ其方向ヲ眞東ニ變ジ同村大字下大野ニ於テ右ニ派川岡川ヲ分チ尙東流シテ富岡町大字原ヶ崎ニ至リ再ビ岡川ト會シ同地ト平島村トノ間ニ數箇ノ三角洲ヲ抱キテ紀淡海峽ニ注グ四國有數ノ大河ニシテ此流路延長約三百四十八籽、内幹川流路延長ハ約百四十三籽ニシテ平地部ヲ流ルルハ僅ニ十二籽ノ間ナリ

潮汐ノ影響ハ幹川ニ在リテハ河口ヨリ約四糎上流ナル平島村大字赤池附近迄又派川岡川ニ於テハ略桑野川合流點ニ達シ河口ニ於ケル潮差ハ平均一米、最大一米八ナリ

右支桑野川ハ源ヲ那賀郡新野村大字荒田野宇喜來ニ發シ殆ト東北ニ向ヒテ流下シ桑野村ヲ過ギ長生村ニ至リ初メテ那賀郡ノ平野ニ出デ富岡町ノ北邊ニ於テ岡川ニ合流ス其流路延長ハ約二十五糎ナリ流域ハ德島縣那賀海部ノ兩郡ニ互リテ東西ニ長キ柏葉狀ヲ爲シ面積約八百六十平方糎、内山地ハ約七百九十平方糎、平地ハ約七十平方糎ナリ而シテ前記流域ノ内右支桑野川ノ流域ハ那賀郡ノ東部ニ位シ面積約百二十平方糎ヲ有ス

本流域ノ灌溉面積ハ約四千九百ヘクタールヲ算シ内改修區域内ニ屬スルモノ約三千七百ヘクタールニシテ之等ノ用水ハ各所ニ河川ヲ横斷シ半永久的堰堤ヲ築造シ引水スルヲ以テ治水上支障尠カラズ舟運ノ便アルハ大體ニ於テ延野村字川口以下ニシテ下流感潮部ニ於テハ稀ニ帆船ノ出入アリト雖モ其數少ク德島市トノ物資モ陸運ニ依ルモノ多クシテ舟運ハ次第ニ衰微セントスル有様ナリ又木材ハ本川上流地方ノ主産物ナルヲ以テ筏トシテ流下スルモノ毎年約一萬石ニ達シ其大部分ハ富岡町附近ニ於テ製材加工シ各地ヘ移出セララルナリ

本川ハ其流域面積比較的小ナルドモ山地ハ全流域ノ九割以上ヲ占メ又地質ハ主トシテ不滲透性ノ岩盤ヨリ成リ山勢極メテ急峻ナルヲ以テ森林ノ狀態比較的良好ナルニモ拘ラズ流出率極メテ多ク加フルニ四國ノ南海岸ハ夏秋ノ候颱風襲來ノ衝ニ當リ殊ニ本川流域地方ハ其進路ニ直面スルガ故ニ一朝暴風雨ニ際會スルトキハ洪水忽チ起リテ沿川ノ盆地ニ汎濫シ村落ヲ浸シ田畑ヲ荒ラシ多大ノ損害ヲ與ヘ下リテ平地部ニ出ヅレバ河幅廣ク且洪水ノ一部ハ岡川ニ分流スルト雖モ兩川共ニ土砂堆積シテ河積不充分

ナルノミナラズ幅員ノ狹隘部アリテ流水ノ疏通ヲ妨ゲ堤防モ亦薄弱ナルヲ以テ破堤或ハ闕壞各所ニ起リテ兩岸ノ平野ニ汎濫シ耕作物ノ減收、家屋ノ流亡、人畜ノ死傷等甚シキ慘害ヲ惹起スルコト毎年數回ニ及ブコトアリ又右支桑野川沿岸ハ岡川ノ逆水甚シキノミナラズ沿川殆ンド無堤ナルヲ以テ出水ノ際ハ河道ニ漲溢シテ沿岸ノ平地ニ汎濫シ常ニ湛水ノ害ヲ被ルコト甚シ此水害面積ハ約五千四百ヘクタールヲ算シ損害額モ亦多額ニ達ス今大正六年ヨリ昭和元年ニ至ル十箇年平均水害損失額ハ約四十三萬餘圓ニ達シ就中大正七年ニ於テハ三百八十餘萬圓ヲ算スル大損害ヲ被レリ事情斯ノ如クナルヲ以テ本川ノ改修ハ徳島縣多年ノ懸案ニシテ嘗テ明治三十二年頃改修工事ニ著手セシコトアリシガ唯一部ヲ實施セルノミニシテ中止スルニ至リ後大正元年ノ大水害ニ約百萬圓ノ損失ヲ蒙ムリシニ鑑ミ再ビ改修計畫ヲ樹テタリシガ遂ニ實現スルニ至ラズシテ今日ニ及ベリ

計畫高水流量ハ實測ノ結果竝調査當時觀測セル水位ヨリ推算シテ幹川毎秒八千五百立方厘米、桑野川毎秒七百立方厘米ト定メ上記流量ヲ快疏セシムルヲ改修ノ主眼トシ計畫高水位モ亦既往洪水ノ最高水位ヲ超過セシメザルコトトセリ而シテ從來本川洪水量ノ約三分ノ一ハ派川岡川ニ依リテ放流セラレタレドモ本計畫ニ於テハ分派口ニ於テ之ヲ締切リテ本川ト隔離シ之ニ桑野川ヲ合流セシメテ桑野川ノ水位ヲ著シク低下セシメ且河口ニ於テハ幹川ハ舊那賀川ニ又岡川ハ現那賀川ニ分流スルモノトス

計畫河幅ハ幹川ハ大體現在ノ河幅ヲ標準トシ改修起點ニ於テ三百二十米トシ以下漸次擴大シテ河口ニ至リ七百七十米ト爲シ在來ノ堤防ニシテ利用シ得ベキモノハ擴張補強シ尙河幅狹隘ノ箇所ニハ新堤ヲ築造シテ河狀ヲ整理シ桑野川ハ起點ニ於テ八十米、岡川合流點ニ於テ百五十米ト爲シ桑野川合流以下ノ岡川ハ海ニ至ル迄百五十米ノ川幅ヲ保チ幹川トノ隔流堤ニハ水門ヲ設置シテ舟運ニ資セントス

岡川ハ桑野川合流點以下ニ於テハ舊堤擴築又ハ新堤ヲ築造シ其合流點以上ハ高水ノ逆流スル地點マデ在來ノ兩岸堤防ヲ嵩置ス又桑野川ハ兩岸ニ新堤ヲ設クルモノトス尙河積不充分ナル箇所ハ掘鑿又ハ浚深ヲ施シテ充分ノ河積ヲ與ヘ必要ナル箇所ニハ護岸水制ヲ施工シテ堤防ノ安全ヲ圖ルモノトス改修堤防ハ幹川ハ天端幅八米、兩法二割乃至三割トシ適宜小段ヲ附シ天端高ハ計畫高水位上一米五ヲ標準トシ下流ニ至ルニ從ヒ幾分其高サヲ減ジ河口附近ニ於テハ之ヲ一米二ニ止ム派川岡川及支川桑野川堤防ハ天端幅六米、兩法二割乃至二割五分トシ尙適宜小段ヲ附シ天端高ハ計畫高水位上一米五ヲ標準トスル 下流ニ至ルニ從ヒ漸次此餘裕ヲ減ジ一米トス

施工狀況

本改修工事ハ本年度ノ創業ニシテ昭和四年七月二十日那賀郡富岡町ニ改修事務所ヲ開設シ施行準備ヲ爲サントスル折柄政府財政上ノ都合ニ依リ豫算ヲ極度ニ緊縮セラレタルヲ以テ僅ニ測量調査ノ一部ヲ施行シタルニ過ギズ其區域ハ那賀岡及桑野ノ各川ニ於テ橫斷竝縱斷測量及量水標、水準基標ノ設置其他低水流量、水位ノ測定、距離標ノ改設、特種工作物ノ調査等ナリ

本年度ノ竣功高ハ八千七百九十四圓ニシテ之ヲ總工費六百三十萬圓ニ比スルトキハ僅カニ一厘ナリ其工事竣功表左ノ如シ

船舶及機械費	費目	
	數	金
	前年度竣功高	額
	本年度竣功高	額
	合	計
	步竣功合	額

第一章 河川改修工事（那賀川改修工事）

總計	共濟組合給與金	雜費	測量費
八、七九四	一〇三	三、七四五	二、五四二
八、七九四	一〇三	三、七四五	二、五四二
〇・〇〇一			

第三三 大野川改修工事

緒言

本工事ハ工費六百萬圓(内大分縣負擔二百四萬九千圓)ヲ以テ昭和四年度ヨリ同十六年度ニ至ル十三箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ大分縣大分郡竹中村以下海ニ至ル約十八軒ナリトス

河狀並計畫大要

大野川ハ其源ヲ宮崎縣西臼杵郡内祖母山ノ西方ニ發シ西流シテ大分縣ニ入り北東ニ迂回シテ直入郡玉來町ニ至リ之ヨリ左右數多ノ支川ヲ併セ山間ヲ北東ニ縫流シ大分郡竹中村ニ至リ稍展開セル平野ニ出デ尙北流シテ大分郡鶴崎町ニ於テ別府灣ニ注グ其幹川流路約百十軒ナリ

上流水源附近ヨリ玉來町附近ニ至ルマデハ波狀ヲ爲セル丘陵河ニ迫リテ河幅未ダ大ナラズ勾配亦急ニシテ河床ハ柱狀節理アル熔岩露出シ所々砂礫石塊等ノ瀬ヲ阻ムモノ多ク段流數箇所ニ止ラズ特ニ玉來町ニ於テハ玉來川ヲ合セテ魚住瀧トナリ高約十二米ノ段流ヲ作レリ玉來町ヨリ百枝村ニ至ル區間ニ於テ左支稻葉川及濁淵川ヲ併セ緒方川ヲ右ニ合シテ河幅増大シ兩岸ニハ山岳丘陵相連リテ所々熔岩ノ懸崖ヲ見ル流路ノ屈曲此區間ニ於テ最モ著シ而シテ更ニ平井川ヲ左ニ併セ峽谷ヲ東流スルコト約四軒ニシテ奥嶽川ヲ右ニ合ス百枝村ヨリ犬飼町附近ニ至ル區間ニ於テハ兩岸ノ地勢稍開ケテ低夷ナル丘陵河岸ニ連リ河狀屈曲比較的多ク左右多數ノ支流ヲ合スルガ故ニ河幅漸次擴大シ勾配比較的急ナラズト雖モ尙急湍深淵ノ相連レルモノアリ犬飼町ニ近ヅクニ及ビ右支三重川及野津川ヲ左支茜及柴北ノ二川ヲ

合ス夫飼町附近ヨリ河口ニ至ル區間ニ入ルヤ河幅ハ更ニ増大シ山丘亦次第ニ遠カリテ兩岸ノ平野開ケ緩流トナル戸次町上戸次ニ於テ左支河原内川ヲ合シ右ニ戸次古川ヲ派ス戸次古川ハ該所ニ於テ著シク西方ニ迂回彎曲セル幹川ノ下戸次ニ至ル間ヲ東山脚ニ沿ヒテ直流シ洪水時ニ於テノミ流水ノ一部ヲ疏通スル一種ノ溢水路ナリ下リテ左岸松岡村ニ至レバ左ニ派川乙津川ヲ分岐シ北ニ向ヒテ平野ヲ縫流シ鶴崎町ノ東方ニ於テ小中島川及鶴崎川ヲ左ニ派シ洋々トシテ海ニ注グ

河口ニ於ケル潮差ハ平均一米五ニシテ潮汐ノ影響ハ河口ヨリ約九軒ノ松岡村大津留ニ達ス

本川ノ流域面積一千四百五十五平方軒ニシテ内山地一千二百二十八平方軒平地二百二十七平方軒ニシテ大分郡戸次町ヨリ上流部ニ在リテハ河岸一般ニ高ク平地亦少ナキヲ以テ出水時ニ於テモ著シキ水害ヲ見ズト雖モ之ヨリ下流部兩岸ハ古來出水毎ニ甚大ナル被害ヲ蒙リ最近ニ於テハ明治二十六年十月及大正七年七月ニ於ケル洪水最モ著シク孰レモ増水十米乃至十一米ニ及ビ破堤溢流各所ニ起リ兩岸ノ平地ハ全ク水中ニ没シ人畜ノ死傷家屋ノ流失耕宅地ノ荒廢等算無ク慘害其極ニ達シ其汎濫面積ハ實ニ三千二百ヘクタールニ及ビタリ大正六年ヨリ昭和元年ニ至ル十箇年平均水害損失額ヲ見ルニ九萬四千二百九十三圓ニ達シ就中大正七年ニ於テハ六十五萬二千六百二十七圓ノ多キニ達セリ

本川ノ改修計畫ハ水害最モ著シキ區域タル大分郡竹中村ヨリ下流河口ニ至ル延長約十八軒ノ區間ニ於ケル洪水防禦ヲ目的トスルモノニシテ計畫流量ハ每秒五千立方メートルシ之ヲ完全ニ疏通セシメ得ベキ工事ヲ施設セントスルモノナリ

計畫河幅ハ改修起點ニ於テ二百四十メートルシ以下漸次擴大シ鶴崎町地先鶴崎橋ニ於テ三百四十メートル又河口ニ於テ六百四十メートル爲ス而シテ在來ノ堤防ニシテ利用シ得ルモノハ之ヲ擴築補強シ河幅狹隘ナル部分

クハ無堤ノ箇所ニハ新堤ヲ築設シ流積ノ足ラザル箇所ニ於テハ掘鑿浚深ヲ施シテ河狀ノ整正、河積ノ増大ヲ計ルモノトス而シテ流路ノ屈曲著シク河岸崩壞ノ虞アル部分ニ於テハ適當ニ護岸或ハ水制ヲ施シ堤防及河岸ノ安固ヲ期シ併セテ河身ノ亂流ヲ防ギ又河口ニハ突堤ヲ築設シテ其流路ヲ集約シ以テ河口ノ埋塞ヲ輕減セントス

堤防ハ天端幅六米、表法二割、裏法二割五分トシ堤裏ニハ小段ヲ附ス其天端高ハ計畫高水位上一米五トス

施工狀況

本工事ハ本年度ノ創業ニシテ昭和四年八月大分郡鶴崎町ニ改修事務所ヲ設置シ專ラ實施測量ヲ施行セリ其他鶴崎橋(北海道郡大在村)及金谷(北海道郡川添村)ノ二箇所ニ自記檢潮機据付工事ヲ施行シ内一箇所ヲ竣功セリ而シテ本年度工事竣功高ハ一萬一千五百九十九圓ニシテ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
船舶及機械費				三、〇八一		三、〇八一	〇
測量費		△		五、六九九		五、六九九	〇
雜費				二、七四九		二、七四九	〇
共濟組合給與金				七〇		七〇	〇
總計				一一、五九九		一一、五九九	〇〇〇〇

第三四 渡川改修工事

緒言

本工事ハ工費豫算七百五十萬圓(内高知縣負擔二百五十三萬五千圓)ヲ以テ昭和四年度ヨリ同十七年度ニ至ル十四箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其施行區域ハ幹川筋高知縣幡多郡後川村以下海ニ至ル間約十三粍、支川後川筋同郡中村町以下渡川合流點ニ至ル間約五粍及支川中筋川筋同郡中筋村以下渡川合流點ニ至ル間約七粍合計約二十五粍ノ區間ナリトス

河狀並計畫大要

渡川ハ一名ヲ四萬十川ト稱シ吉野川ニ次グ四國第二ノ大河川ニシテ其流域ハ高知、愛媛ノ二縣三郡ニ跨リ總面積二千二百六十七平方粍(内平地面積二百四十平方粍)ヲ有シ流路延長一千百二十粍(内幹川七十五粍)航路延長百四十二粍(内幹川七十五粍)灌溉面積約四千三百ヘクタール、水害面積五千九百ヘクタール(内改修區域三千六百ヘクタール)ナリ而シテ本川ノ洪水ハ概ネ夏季ノ颱風ニ起因スルモノニシテ流域内ノ雨量頗ル多ク我國ニ於ケル新宮川流域ニ亞グ著名ナル降雨地ニシテ最多年雨量ハ大正九年大野見ニ於テ四千五百十四粍、最多月雨量ハ大正七年芳生野ニ於テ一千三百粍、最多日雨量ハ大正七年芳生野ニ於ケル五百七粍ノ記録ヲ有ス加之本川ノ流域ハ颱風我國ニ襲來スル場合其方向ニ直面スル關係ト殊ニ川幅狹隘ニシテ不整ナルガ故ニ忽チ大洪水起リ其慘害ヲ蒙ルコト甚大ナリ就中水害ノ最モ甚シキハ山地部ヲ出デタル幡多郡後川村今成以下海ニ至ル間並ニ之ニ連ナル支川中筋川及後川一帶ノ耕地ナリトス即

チ洪水後川村今成ニ至レバ具同村地先ノ石堤ハ辛フジテ之ヲ防禦シ得レドモ延長短キヲ以テ其末端附近ヨリ忽チ中筋川沿岸ノ低地ニ奔流シ更ニ中筋川ノ上流ニ逆流スルガ故ニ耕地ノ浸水ハ勿論交通杜絶シテ濁流ハ遠ク上流小支山奈川及有岡川ニ及ブラ以テ沿岸一帯ノ生毛悉ク滅盡ニ歸ス中村町ハ同町地先ノ堤防ニ依リ幹川ノ洪水ヲ免ルベキモ支川後川ニ逆流シタル洪水ト共ニ後川ノ水位ヲ昇騰セシムル爲メ中村町ハ全部水中ニ没スルヲ常トス中村町ヨリ下流ハ兩岸無堤ニシテ隨所ニ汎濫ヲ擅ニシ河口ノ砂嘴モ亦洪水ノ疏通ヲ阻害スルヲト夥シ大正六年ヨリ昭和元年ニ至ル十箇年平均水害損失額三十九萬三千餘圓ニシテ就中大正九年ニ於テハ二百四十八萬六千餘圓ニ達スル大損害ヲ被レリ

本川改修計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ計畫高水流量ハ幹川改修起點ヨリ後川合流點ニ至ル區間毎秒一萬三千立方米、後川合流點ヨリ海ニ至ル區間毎秒一萬四千立方米、後川毎秒一千七百立方米、中筋川毎秒五百五十立方米ト定メ此流量ヲ安全ニ疏通セシメ計畫高水位モ亦既往洪水ニ於ケル最高水位ヲ超過セシメザルモノトス

從來渡川ハ全區域ヲ通ジテ殆ンド無堤ナルガ故ニ成ルベク現在ノ地形ヲ利用シ所要ノ河幅ニ新堤ヲ築造シ洪水ノ汎濫ヲ防止シ河積ノ不充分ナル箇所ハ掘鑿又ハ浚渫ヲ施スモノトス

支川後川ハ其合流口ニ約五百五十米ノ脊割堤ヲ築造シテ逆流ノ被害ヲ輕減スルト共ニ新堤ヲ築造シテ中村町ノ浸水ヲ完全ニ防禦シ尙屈曲甚シキ箇所ハ新川ヲ開鑿シテ之ニ換ヘ以テ洪水ノ排疏ヲ完カラシメントス又支川中筋川ニ在リテハ現在合流口以下幹川右岸ニ沿ヒ約一千八百五十米ノ脊割堤ヲ築設シテ八束村大字山路ニ於テ幹川ニ合流セシメ其逆流ニ因ル慘害ヲ輕減シ尙現在ノ流路ヲ所要河幅ニ掘鑿シテ新ニ堤防ヲ築設スルモノトス

計畫河幅ハ幹川ハ大體現在ノ河幅ヲ標準トシ改修起點ニ於テ三百三十米トシ以下漸次擴大シテ四萬十川橋ニテ五百米、後川合流點ニ於テ六百三十米、河口ニ至リ一千米トス後川ハ起點ニ於テ百四十米、幹川合流點ニ於テ百八十米又中筋川ハ百米トス

堤防ハ幹川ニ於テ天端幅七米、外法二割、内法二割五分トシ後川ハ天端幅五米、外法二割、内法二割五分又中筋川ハ天端幅四米、兩法二割トシ其天端高ハ幹川ニ於テ計畫高水位上一米五、支川ニ於テ高水位上一米トス尙必要ナル箇所ニハ裏小段ヲ設ケ水勢ノ衝突スル箇所ニハ適當ノ護岸ヲ施工スルモノトス
改修工事ニ伴フ附帶工事トシテハ縣道橋四萬十川橋ノ繼足及久榮岸橋、後川橋ノ改築竝道路、用排水路ノ附替、樋門樋管ノ新設若クハ改築等ナリ

施工狀況

本改修工事ハ本年度ノ創業ニシテ昭和四年七月二十二日中村町ニ改修事務所ヲ設置シ諸般ノ調査竝改修實施準備トシテ各種ノ測量ヲ開始ス其施行區域ハ後川筋左岸東山村、下田町、右岸中村町及渡川筋ニ於テ右岸具同村ノ一部ニ互リ法線杭ノ設定竝縱橫斷面測量ノ幾部ヲ施行シタルニ過ギザルナリ
本年度竣功高ハ九千四百五十三圓ニシテ之ヲ總工費七百五十萬圓ニ比スレバ一厘ナリ其工事竣功表左ノ如シ

船舶及機械費	費目		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
	—	—	—	—	—	—	—	—
		1,400		2,744.00		2,744.00		2,744.00
								歩合
								功
								歩合
								功

費目	測 量 費			雜 費	共濟組合給與金	總 計
	數	量	金 額			
前年度迄竣功高						
本年度竣功高						
合 計						
歩 竣 功 合						〇・〇〇一

九、四八八
 四、六一五
 一〇六
 九、四五三

四八八

第二章 河川附屬物及水路維持工事

第一 木曾川附屬物及水路維持工事

緒言

木曾川附屬物及水路維持工事ハ明治三十五年度ヨリ毎年工費三萬圓ヲ以テ維持修繕ヲ爲スコトトシ同四十年年度ヨリ大正十八年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシテ年々工費三萬圓總工費六十九萬圓ヲ以テ更ニ維持ヲ爲スコトトナリシガ爾後諸物價暴騰ノ爲メ當初ノ豫算ニテハ維持困難トナリタルヲ以テ大正九年度以降年額五萬四千圓總工費九十三萬圓トナリ更ニ同十一年度ハ年額九萬六千圓總工費九十七萬二千圓ニ増額セラレ同十二年度以降ハ年額九萬六千圓總工費百七十四萬六千圓トナリ加之同十三年度以降ハ年度割額更正ノ爲メ四萬八千圓ノ減額トナリ年額八萬四千圓總工費百六十九萬八千圓トナリ其繼續年度ヲ昭和十年迄延長セラレタルヲ更ニ年度割額更正ノ爲メ大正十四年度ヨリハ年額八萬圓總工費百六十九萬八千圓トナリ繼續年度ヲ昭和十一年度迄延長セラレタリ而シテ維持ノ目的物ハ左ノ如シ

- 一 成戸、船頭平間木曾、長良兩川瀨割堤
- 一 油島締切堤防ヨリ桑名町地先長良、揖斐兩川瀨割堤
- 一 以上瀨割堤防ニ直接關聯セル護岸及水制
- 一 船頭平閘門及前後附屬物

- 一 木曾川河口導水土堤及石堤
- 一 揖斐川河口導水土堤及石堤
- 一 揖斐川流末低水敷

施工狀況

本年度施行ノ工事ハ前年度ヨリ繰越シタル第二楠村堤防補修工事、立田地先護岸新設工事ノ二箇所ハ之ヲ竣功セシメ本年度新ニ著手シタル第三楠村堤防補修工事、立田村大字立田及葛木間堤防補修工事、西桑名町大字福島地先護岸新設工事、立田村大字葛木地先水制修繕工事、八開村大字鹽田地先護岸水制新設工事、楠村大字下坂手地先閘門長良川水路浚渫工事、立田村大字立田地先閘門木曾川水路浚渫工事ノ七箇所ヲ竣功セシメ本年度新ニ著手シタル日原地先堤防補修工事、八開村大字鹽田地先水制修繕工事、立田村大字立田地先水制修繕工事ノ三箇所ハ未竣功ノ儘翌年度へ繰越セリ而シテ以上ノ工事ニ對シ直接支出シタル工費ハ六萬九千十四圓ナリ

船頭平閘門ノ狀況ハ本年度ニ於ケル通航數ヲ示セバ大船(六十石積以上)四千六百九十八隻、中船(六十石積未滿)一千七百六十隻、小船(二十石積未滿)五千四百二十四隻、合計一萬一千八百八十二隻、外ニ木竹筏(一組長九米乃至十三米、幅一米八乃至四米)二千四百二十組ノ通過アリタリ

本年度維持工事竣功額ハ六萬四千七百八十六圓ニシテ起工以來ノ累計百十四萬七千八百三十圓ナリ之ヲ總工費百六十九萬八千圓ニ比スレバ六割七分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「」ハ保管換品價額ヲ示ス

費目	本工事費										總計															
	護岸水制	堤防	導水堤	浚深	閘門	假設工事	材料採集	船舶及機械	測量	營業繕費		雜費	共濟組合給與金													
前年度迄竣工高	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額														
		三六六、〇一三		二四三、五五五		六五、五〇〇		五六、二五八		五一、五〇九		六、一〇六		六九、一九五		二四、八七四		一八		二〇、〇三四		一七七、四一一		二、五八九		一、〇八三、〇四四
本年度竣工高		三一、四六二		一四、九四一		一、四三一		五六六		一、七二三		九〇二		七五〇		一二、四三一		五八〇		六四、七八六						
合計		三九七、四七五		二五八、四九六		六五、五〇〇		五七、六八九		五二、五〇九		六、一〇六		七〇、九一八		二五、七七六		一八		二〇、七八四		一八九、八四二		三、一六九		一、二四七、八三〇
竣功		歩																								〇・六七

第二 淀川附屬物及水路維持工事

緒言

淀川改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ竣功ヲ告ゲ堤防其他ノ工事ハ夫々所屬府縣ニ引繼ヲ了セルモ同川筋一部ノ築造物即チ瀬田川洗堰、毛馬洗堰、毛馬第一閘門、六軒屋閘門、傳法閘門、西島閘門、正蓮寺川締切堰堤ニ對シテハ内務省ニ於テ直接管理ノ任ニ當リ明治四十四年度以降大正十七年度ニ至ル十八箇年度ニ互リ年額一萬一千圓、總豫算十九萬八千圓ヲ以テ之レガ維持修繕ヲ行フコトトナリシガ大正五年四月工費一萬一千圓ヲ増額スルト共ニ年限一箇年度ヲ延長シ尙大正七年度ニ至リ淀川下流改修工事ニテ竣功シタル毛馬第二閘門、長柄起伏堰ト毛馬第一、第二兩閘門前後ノ水路維持ヲモ行フコトトナリタルニ依リ年額ヲ二萬五千圓ニ改定シ豫算總額ヲ三十七萬七千圓トシ翌八年度ニ於テ長柄運河頭部開閉扉ノ維持ヲ加ヘ又大正十年度ニ於テ物價騰貴ノ爲メ年額ヲ四萬圓ニ改メ豫算總額五十一萬二千圓ヲ以テ維持ヲ行フコトトナリシガ大正十一年度ヨリハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル傳法第二閘門及六軒屋洗堰竝ニ「サイホン」ヲ更ニ管理スル事トナリタルト堰桁ノ取替其他ノ修繕ト毛馬閘門前後航路ノ浚渫ヲ爲ス爲メ二萬圓ヲ要スルト大正九年度ニ高粱川ヨリ流用セシ一萬三千五百圓ヲ返還スル爲メ大正十一年度ニ三萬三千五百圓ヲ増額シタリ又大正十二年度ハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル六軒屋第二閘門ヲ追加シタルト閘門及洗堰ノ大修理ヲ要スル爲メ年度割額四萬圓ノ外四萬二千六百圓ヲ増額シ尙十三年度ハ六萬圓、十四年度以降昭和十年度迄ハ各七萬六千圓宛ニ最終年度昭和十一年度ハ四萬四千圓ニ改メ豫算總額ヲ百二十八萬八千圓トナシ年限ヲ亦昭和十一年度迄延長シタリ而シテ本費ハ元全部國庫費ヲ以

總計	共濟組合給與金	雜費	營業繕費	測量費	船舶及機械費	工事費			本工同繕	開門及洗堰開閉
						亡失毀損	浚渫	同修繕		
七〇一、六九一	七、五八〇	八八、二六五	二七、一六三 二八	七七、九七七	一九、三五三	四七八	一五、七四六	二〇八、六一二 一、七九六	二五六、五一七	四
八二、〇八六	一、四一〇	一六、六九三	二〇、七二〇 三九	四、四七〇	一、七八三			一五、四〇九 一、〇〇二	二一、六一一	四
七八三、七七七	八、九九〇	一〇四、九五八	四七、八七三 六七	八二、四四七	二一、一三六	四七八	一五、七四六	二二四、〇二一 一、八九八	二七八、一二八	四
〇・六一										四

第三 利根、渡良瀨兩川維持工事

緒言

本工事ハ當初大正十二年度ヨリ昭和九年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ工費四百一萬四百圓ヲ以テ利根幹川筋竝ニ渡良瀨川下流部ニ於ケル維持修補ヲ施行ノ豫定ナリシガ大正十三年度ニ至リ工費二萬三千圓ヲ増額シ施行年限ヲ昭和十一年度迄延長セリ其後同元年度ニ至リ施行區域ヲ利根川ノ派川江戸川竝ニ渡良瀨川上流部迄擴張スルニ及ビ工費百八十四萬一千四百圓ヲ増額シ總工費ヲ五百八十七萬四千八百圓ニ改メ施行スルコトナレリ

其區域ハ利根幹川筋群馬縣佐波郡芝根村以下(左岸茨城縣鹿島郡矢田部村、右岸千葉縣海上郡椎柴村)ニ至ル約百八十一軒及江戸川流頭以下千葉縣行徳町地先海ニ至ル五十九軒竝渡良瀨川筋栃木縣足利郡毛野村以下茨城縣猿島郡新郷村大字中田地先利根川合流點ニ至ル三十五軒計二百七十五軒ナリトス

兩川改修工事ハ大正十一年度迄ニ八步通り竣成渡良瀨川ハ同十五年度竣功ヲ告ゲ堤塘ノ連續、水路矯正等相俟テ河狀整齊シ復タ往年ノ慘害ヲ見ザルニ至レリト雖モ既成部ニ於ケル工作物ハ其竣功古ク堤塘ノ沈下、護岸及水制ノ破損等相當多ク是等ハ年ト共ニ加ハリ其儘放置スルトキハ遂ニハ昔日ノ險惡ナル狀態ニ戻リ所謂九仞ノ功ヲ一簣ニ缺クノ虞無シトセズ且其利害ノ及ブ所數府縣ニ跨リ重大ナル關係アルヲ以テ之レガ維持上常時修補ノ緊切ナルヲ認メ第四十七議會ノ協賛ヲ經テ前記ノ如ク施行スルコトトナレリ

施工狀況

工事施行ニ關シテハ當初利根川第二期、同第三期竝ニ渡良瀬川各改修事務所ニ於テ分擔大正十二年八月ヨリ工事ニ著手セシガ昭和元年度ニ至リ施行區域ヲ江戸川部内（江戸川改修事務所施行）及渡良瀬川上流部迄擴張ニ際シ偶渡良瀬川改修工事竣功ト共ニ同改修事務所ヲ廢止セル爲メ埼玉縣栗橋町ニ利根、渡良瀬兩川維持事務所ヲ設置シ利根川第三期部内及渡良瀬川ノ維持修補ヲ統轄施行スルコトトセリ左ニ各工區別ニ本年度施行ノ狀況ヲ述ベシ

利根川第二期部内ニ於テハ左岸佐原、長竿、源、清田、布川、取手、右岸佐原、瑞穂、滑河、安食、布鎌、木下、布佐、我孫子各町村地先三十箇所ニ於テ堤防ノ破闕、沈下及崩壞又ハ昇降坂路破損等ノ小修補ヲ施工シ土運搬一萬二千四百七十九立方米、築立一萬六千三百四十一立方米ヲ算ス

護岸工事ハ右岸津ノ宮、佐原兩町村地先二箇所ニ於テ石張六百九十四平方米、取除六百十四平方米ヲ施行シ延長百九十米ヲ竣功セシメ水制ハ左岸布川、取手、右岸東大戸、安食、木下、布佐各町地先七箇所ニ於テ下埋百立方米、取除床均九百七十八平方米、沈床六百三十平方米、杭打上置（幹部）四百九十三米、根固石張七十五米ヲ施行シ竣功延長六百四十二米トナレリ

特種工事横利根閘門修補工事ハ前年度迄ニ大小門扉部取付金具取替ヲ完了シ本年度ニ於テペンキ塗替ヲ行ヒ全部竣成セリ尙同閘門管理費本年度支拂額ハ五千二百八十五圓ニシテ管理施行以來ノ累計ハ三萬六百二十八圓トナレリ

利根川第三期部内取手、境間ニ於テハ取手、稻戸井、境各町村地先堤防沈下セシヲ以テ其延長五千米ニ互リ

天端ニ嵩置ヲ行ヒ堤防昇降坂路ノ起終兩端ニハ石張工ヲ施工シ混凝土ブロックヲ以テ階段ヲ設ケ交通ノ便ト堤防ノ保護トヲ計レリ

此區間ニ於テハ努メテ低水路ノ維持矯正ヲ計リ先ヅ下流部富勢、田中、大野ノ各村地先十一箇所ニ於テ鐵筋材杭打上置、同合掌枿及杭打上置等ノ補修工ヲ施シ以テ航路ノ改善ヲ計リ上流部森戸、關宿ノ兩村地先ニ於テハ水制幹部ノ修補ヲ主トシ鐵筋材杭打上置同合掌枿、杭打上置工ヲ施セルモノ四箇所ニ及ベリ而シテ森戸村地先ハ水流偏倚シ堤脚ニ接近セルニ依リ十四箇所ニ互リ根固トシテ沈床或ハ包柴ヲ沈設シ其上部ニ合掌枿ヲ設置シテ法面ノ崩壞竝ニ深掘ニ備ヘ既設護岸ノ安全ヲ期セリ

境、赤岩間ニ於テハ權現堂川締切堤著シク沈下且出水毎ニ浸透セルヲ以テ川裏ニ第一、第二ノ兩小段ヲ増設シ左岸香取、新郷、利島、右岸大越、須賀ノ各村地先堤防モ亦多少沈下セルヲ以テ嵩置ヲ施工セリ而シテ堤防ハ其保持竝ニ交通等ノ關係ニ鑑ミ坂路ノ起終兩端ニハ石張工ヲ施シ陸段ハ混凝土ブロックニ改メ七十箇所ヲ施工セリ又中田、川妻兩地先掘鑿跡ハ洪水毎ニ土砂堆積シ流水ノ疏通ヲ妨グルコト大ナルヲ以テ兩岸高水敷ニ於テ機械掘鑿ヲ施行シ右岸ハ全部、左岸ハ約一割ヲ竣成セリ

護岸ハ新郷、利島、川俣ノ各村地先石張破損セルヲ以テ之ヲ修補シ其上流富永村地先堤外地ハ著シク崩壞セルヲ以テ石張ヲ施シ尙同村ノ一部及佐貫村地先ニハ柳籠工ヲ施行セリ

水制工事ハ香取村地先ノ上層四箇所破損セルヲ以テ鐵筋材杭打上置ニ改メ施工シ約三割ノ進捗ヲ見前年度ヨリ續工セル五霞、利島兩村地先鐵筋材合掌枿ハ之ヲ完成セシメ大箇野村地先ハ杭打上置ニ據リ床固水制ト爲シ其對岸大越村地先舊水制ハ著シク沈下破損セルニ依リ六箇所ニ互リ鐵筋材杭打上置及合掌枿ヲ以テ之レガ修補ヲ計リ尙同村及村君村兩地先低水路ヲ矯正センガ爲メ鐵筋材杭打上置及杭打上

置ノ水制四箇所ヲ設置セリ

赤岩沼ノ上間ニ於テハ左岸永樂、大川、澤野、芝根、右岸妻沼、藤田、旭ノ各町村地先堤防沈下セルヲ以テ延長五千百八米ニ互リ土砂ヲ搬入シテ之ヲ修補シ且堤防保持上竝ニ交通上ノ關係等ニ依リ坂路ヲ修理シ且新設セルモノヲ合セ十二箇所アリ昇降階段ハ總テ混泥土プロックヲ以テセリ

本區間ハ利根川ノ急流部ニシテ島村、字前、河原及豐受村、字長沼兩地先ハ流水ノ激突ニ依リ既設沈床ノ前面著シク深掘セラレ概半流失セルニ依リ鐵線籠及捨石ヲ以テ之ヲ修補シ床固トシテ鐵筋材合掌枰ヲ五箇所ニ沈設シ護岸ノ保全ヲ期セリ又左岸大川、村古海、右岸長井、村善ヶ島兩地先護岸犬走竝ニ合掌枰ハ之亦著シク破損セルヲ以テ之レガ修補ニ著手シ尙床固トシテ合掌枰ノ増設ヲ計リ犬走ノ全部及前年度ヨリ續工ノ世良田、村平塚地先水制修補ハ竣功セリ而シテ其上流島村地先合掌枰ハ施工後相當年月ヲ經腐朽又ハ破損シ且其間隔遠キニ失スルヲ以テ尙十二箇所ヲ増設シテ之ヲ補ヒ八斗島地先法石張ハ崩壞セルニ依リ之レヲ修補シ其他大川、男沼、尾島、豐受、芝根各町村地先護岸及水制ハ孰レモ水流ノ衝ニ當リ根固及床固等ノ破損セルモノ多キヲ以テ孰レモ鐵筋材合掌枰ノ沈枰及鐵線籠等ヲ以テ之ヲ修補セリ

江戸川部内ニ於テハ前年度ニ著手シタル關宿水堰ノ一部修補ヲ續工シタルニ止マリ其他ハ材料購入及關宿閘門ノ管理ヲ施行セリ

尙同閘門管理費本年度支拂額ハ五千三百四十九圓ニシテ管理施行以來ノ累計ハ一萬七千五百九圓トナレリ

渡良瀬川部内ニ於テハ前年度ヨリ續工セル界村高山地先新低水路ヲ完成シ流水ノ疏通大ニ良好トナリ堤防ハ新郷、川邊、生井、部屋、藤岡、西谷、田、吾妻、毛野各町村地先ニ於テ小沈下セルニ依リ嵩置ヲ施工シ尙藤岡

地先ニ前小段ヲ新設セル外堤防昇降坂路ノ起終兩端ニ石張工ヲ施セルモノ五十五箇所、混凝土ブロック階段ヲ設ケタルモノ四十六箇所ニ及ベリ

護岸ハ前年度ヨリ續工セル界村、高山地先ノ柳籠竝ニ合掌枿床固ハ本年度完成シ西谷田村及大島村地先一大屈曲部ノ新水路亦完成セルヲ以テ舊川ハ合掌枿ヲ以テ締切り流水ノ疏通著シク良好トナリ水制ハ藤岡、西谷田、富田各町村地先鐵線籠腐朽セルニ依リ石張或ハ柳籠ニ替へ吾妻村高橋地先沈床ノ破損竝ニ前垂ニ對シテハ片合掌枿ヲ沈設シ之ヲ修補セリ而シテ遊水地内思川合流點ハ出水毎ニ崩壞スルヲ以テ杭柵工ヲ施行シ年度内約四割ノ竣功ヲ見タリ其他渡瀬、吾妻、久野、梁田、毛野各村地先ニ於テ沈床破損、法ノ崩壞又ハ鐵線籠ノ腐朽等アリシヲ以テ夫々修補ヲ加へ藤岡町新水路落口ニ於ケル低水路ノ内右ニ分流セルモノハ合掌枿ヲ以テ締切ヲ行ヘリ

石材斫出及砂利採集兩事業ハ當初利根川改修工事ニ使用スル石材及砂利ヲ供給スル目的ヲ以テ國ノ直營トシ前者ハ大正五年度栃木縣下都賀郡小野寺村ニ岩舟工場ヲ設ケ其裏山ヨリ斫出ヲ開始シ後者ハ同九年度ヨリ同縣同郡穗積村地先思川筋砂利洲ヨリ採集ニ著手セシガ同改修工事モ略完成ニ近ヅキタル結果是等材料ノ需要漸ク減少セルト他方維持工事ニ要スルモノ増加セル關係上昭和二年度ヨリ本工費ヲ以テ之ヲ繼承操業シ年度内石材八千二百八十五立方米ヲ斫出シ砂利一千五十八立方米ヲ採集セリ本年度竣功高ハ四十六萬六千八百三十八圓ニシテ創業以來ノ累計ハ二百六十九萬九千九百六十圓トナリ之ヲ總工費豫算五百八十七萬四千八百圓ニ比較スルトキハ約四割六分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「△」ハ船舶及機械費支辨製作品價額「×」ハ材料採集費支辨石材及砂利價額「▲」ハ提供材料及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	立方米 七六八、八四三	三三三、九六〇・五	立方米 一五二、七九七	六六、六六〇・四	立方米 九二一、六四〇	四〇〇、七二〇・九	四六・六
浚渫	立方米 二五三、六〇四	三二、二六七〇	立方米 八四、二八五	三、二九二	立方米 三三七、八八九	六八、二五三	二五・三
工事	未竣功 六三三、三三六	一、一四九、六〇九	竣功 八、四四四	一四五、八〇九	未竣功 七二、六八〇	一、二九五、四一八	一九・五
護岸	未竣功 二	五二、八六六	竣功 二	一四、三〇八	未竣功 二	六七、一七四	一・七
特種工事	未竣功 二	一〇、五三三	竣功 二	九、八〇一	未竣功 二	一九、三三四	一・九
材料採集費		一三三、九四三		六二、三八三		一九〇、三二六	一九・四
船舶及機械費		七三、五八六		九、九四四		八三、五三〇	九・九
測量費		二六、一〇〇		五三、六七四		七九、二七四	七・九
營業繕費		三、一〇〇		三、〇二七		六、一二七	〇・六
雜費		四〇、七二二		九、六九七		五〇、四一九	五・〇
共濟組合給與金		四〇〇、〇七五		九三、六九六		四九三、七七一	四九・三
總計		一八、一〇〇		四、八四九		二二、九四九	二・三
		二、三三三、三三三		四六六、八三八		二、八〇〇、二一五	〇・四六

本表ノ本工事費竣工高ヲ期別スレバ左表ノ如シ

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	立方米 七〇、〇二八	四八、三九一	立方米 一一、四七九	八、六二七	立方米 八二、五〇七	五七、〇一八	六九・五
浚渫	立方米 七、〇三六	四、八二五			立方米 七、〇三六	四、八二五	一〇〇
工事	未竣功 六、九六四	一八〇、四〇〇	竣功 八三二	六、〇一一	未竣功 七、七九六	一八六、四一一	二五・三
護岸	未竣功 一	二、一一一	竣功 一	二、四四九	未竣功 一	四、五六〇	二五・三
特種工事							
材料採集費							
船舶及機械費							
測量費							
營業繕費							
雜費							
共濟組合給與金							
總計		二、三三三、三三三		四六六、八三八		二、八〇〇、二一五	〇・四六

渡良瀬			江戸川	三期		
内部			内部	内部		
築	浚	護	築	築	浚	護
計			計	計		
岸水制			特種工事	岸水制		
堤			堤	堤		
未竣工			箇所	未竣工		
八、〇二二米	七五、六一二	一四一、八二二立方米	箇所	四八、二五二米	一七〇、七六二	五五六、九九三立方米
▲×	▲×	▲	▲×	▲×	▲	▲×
二二、二五二	一五三、九一〇	五二、五八五	一〇、九一五	八一五、二九九	三六、五七九	二三五、七七一
一七一、三三五	五〇、〇五〇	一一、九九八	二二、五四九	三一、二〇九	一九、六七二	二二九、六二九
竣工			箇所	竣工		
一、七五六米	九、八五五	八、一二六立方米	箇所	五、八五六米	七四、四三〇	一三二、一九三立方米
▲×	▲×	▲	▲×	▲×	▲	▲×
四、五〇一	三、五八七	一〇、三三五	一七、〇六二	一〇、五二八	一七、二二六	一七、〇八七
二、三三七	二、五八七	六、五〇五	三、二九九	一、七二二	二、二九二	四七、六九八
竣工			箇所	竣工		
九、七七七米	八五、四六七	一四九、九四八立方米	箇所	五四、一〇七米	二四、一九二	六八九、一八五立方米
▲×	▲×	▲	▲×	▲×	▲	▲×
二六〇、一〇二	一八八、四七〇	六一、九二〇	二、二六一	四二、九三三	五三、七〇五	二五二、八〇四
一九、三六七	五〇、五二〇	一一、九九八	二五、八四一	五、五三三	二二、九六四	二八七、三二七

第四 信濃川維持工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル五箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費八十七萬六千四百圓(一箇年度十七萬五千二百八十圓)ヲ以テ新潟縣三島郡大河津地内ニ於ケル信濃川附屬物即チ自在堰、固定堰、洗堰及閘門ノ維持竝ニ新潟市内通船川合流點以下海ニ至ル水路ノ維持ヲ爲スモノトス

施工狀況

大河津分水附屬物維持

固定堰修理 本工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノモノニシテ年度内ニ鐵線籠二百六本、混凝土沈床修理延長二百八十一米、水叩張石目潰混凝土七百九十八平方米ヲ施行シタリ

浚渫 閘門上下流ニ於ケル沈澱土砂ノ浚渫ハ前年度ハ閘門開放ノ結果之ヲ施行セザリシモ本年度初頭閘門ノ運轉ヲ再開シテ依リ年度内ニ二百八十七立方米ヲ浚渫セリ

自在堰、洗堰及閘門運轉 本年度ハ閘門ノ運轉ヲ再開シ水位調節ノ爲メニハ洗堰ノ一部ヲ開閉シタリ
河口維持

本工事ニハ唧筒式浚渫船浦賀丸、大阪丸ノ二隻竝ニバケット式浚渫船榛名號一隻ヲ使用セリ浦賀丸及大阪丸ハ主トシテ東突堤頭部前後竝ニ所々ニ點在セル淺瀬ヲ浚渫シ榛名號ハ繫船浮標附近ヨリ北埠頭ニ向フ航路ノ浚渫ヲ爲シ續イテ西突堤燈臺沖ヨリ上流ニ向フ航路幅員九十米、水深七米五ヲ標準トシテ通

船川合流點以下海ニ至ル全航路區間長約二軒間ノ整理ヲ行ヒ本年度ニ於テ合計四十二萬八千二百九十
八立方米ヲ浚渌セリ

然ルニ本年度ニ於テモ亦冬季間屢々襲來セル激浪ニ因リ前年度闕壞シタル東突堤頭部ヨリ隣接海岸ノ
土砂ヲ河口内ニ流入セル外春夏ノ出水時ニ於テ上流ヨリ流下スル土砂堆積セル爲メ航路ノ水深竝ニ幅
員ヲ著シク減ジタリ之レガ復舊ニ極力浚渌セシメタルモ遂ニ年度末ニ於テ西突堤頭部前後約五百米間
ハ其水深五米五ニ低下スルニ至レリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ十五萬六千四十六圓ニシテ累計五十七萬一千九百四十九圓トナレリ之ヲ總工
費八十七萬六千四百圓ニ比スレバ六割五分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
浚渌	八〇〇、六〇七 <small>立方米</small>	一、三三三、五三七 円	四二八、四四〇 <small>立方米</small>	七六六、二二四 円	一二二九、〇四七 <small>立方米</small>	二、〇〇〇、一六一 円	一〇・四三	
本堰堤捨石	一、七六六	五九、八九九			一、七六六	五九、八九九		
工固定堰修理		二、三三、八四二		七、二二五		三、一〇、〇五七		
工自在堰並洗堰		九六四		一、一九〇		二、一五四		
事及採門運轉	二二、一六七	三〇、四四九			二二、一六七	三〇、四四九		
費材料運搬		七、八三〇				七、八三〇		
船舶及機械		八一、九八九		四四、一一三		一二六、一〇二		
測量		二、四八七		一、三九四		三、八八一		
營繕費		二、九六〇		二二〇		三、一七〇		
雜費		七、七、五三六		二、二、七八五		一〇、〇、三二二		

總計	共濟組合給與金
四一五、九〇五	四、四二二
一五六、〇四五	二、五一四
五七一、九五〇	六、九二六
〇・六五	

第二章 河川附屬物及水路維持工事 (信濃川維持工事)

第三章 砂防工事

第一 淀川流域砂防工事

緒言

本工事ハ淀川流域全體ニ互リ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年年度ヨリ十箇年度繼續事業トシテ毎年工費三萬圓ヲ以テ主ニ淀川流域中木津瀬田ノ兩支川ニ於テ施行スルコトトナリ其後兩度ニ之レヲ追加延長シテ昭和四年度ニ至ル二十三箇年度ノ繼續事業トシ總工費豫算六十九萬圓ヲ以テ施行ノコトニ改マリ施行中ノ處昭和二年度ヨリ木津川流域分ハ別途計畫トナリシヲ以テ本川ハ元計畫ノ下ニ於テ年額三萬圓ヲ以テ施行ノコトトナレリ即チ本年度ヲ以テ豫定計畫期限滿了トナリシモ猶未施行地約二千ヘクターノ多キヲ算シ就中急施ヲ要スル箇所多キヲ以テ尙引續キ増額計畫詮議中ニ在リ

施工狀況

本年度工費ハ既定年額三萬圓ヲ以テ本川流域内下田上、雲井(滋賀縣内)ノ二工場ニテ施行シ其竣功セル兀崩面積ハ新設十六ヘクタール七二ニシテ之レニ對スル本工事費二萬二千九百九十九圓(一アール當平均十三圓七十五錢)修繕工事百三十五圓、合計二萬三千百三十五圓ナリ
明治四十年年度以降ノ工事竣功金額ハ五十八萬七千四百四十二圓ニシテ其府縣別左表ノ如シ

種別	滋賀	三重	東京	都奈	良合	計
新設工事	三五〇、二七六	八三四五九	六九、五四九	四三、〇六一	五四六、三四五	五八七、四四二
修繕工事	三七、六三八	二〇五九	九五三	四四七	四一、〇九七	五八七、四四二
合計	三八七、九一四	八五五、一八	七〇、五〇二	四三、五〇八	五八七、四四二	五八七、四四二

尙同四十年年度ヨリ本年度迄ニ竣功シタル總金額ハ六十九萬五千八百八十圓ニシテ總工費六十九萬圓ニ比シ五千八百八十圓ノ超過セルハ一時木津川流域砂防費ヨリ六千圓ヲ流用受入セシニ依ル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中筋工ニハ手入費ヲ含ミ苗木植付ニハ補植費竝ニ手入費ヲ含ム又「」ハ寄付物件評價額「〇」ハ無代價品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
積苗	二二、〇一、四八八	二九五、五〇二	二二、八二八	一〇、三七五	二二、二四〇、一六六	三〇五、八七七
石積	一七、九一一	三三、三七五	八、〇四七	六、一二五	一七、九一八	四三、五〇〇
崖切	立方米 二七三、一二七	三〇、六一一	立方米 九六〇	二〇二	立方米 二七四、〇八七	三〇、八一三
堰堤	一五、三四八	一四、六二六	四七二	一、二六五	一五、八二〇	一五、八九一
筋工	一四、八九九	一六、四三八	一一、六〇〇	二、五〇一	一七、〇五九	一八、九三九
苗木植付	一五、四五〇	二二五、二二九	一六、二六〇	二、六一二	一五、六三三	二二七、七四一
其他	一、二八、七七五	三三七	〇	二八	一、二八、七七五	三三七
船舶及機械費	〇	四四、六二五	〇	五七	〇	四四、六八二
測量	〇	五、三二九	〇	五七三	〇	五、九〇二
合計	二二、〇一、四八八	二九五、五〇二	二二、八二八	一〇、三七五	二二、二四〇、一六六	三〇五、八七七

第三章 砂防工事 (淀川流域砂防工事)

總計	營繕費	雜費	共濟組合給與金
■ 六六六、九八二 三二七	三、〇七四	九〇、九五五	一、三二〇
■ 二八、八九八	四、八三四	二二五	
■ 六九五、八八〇 三二七	三、〇七四	九五、七八九	一、五二五
一、〇〇〇			

第一 富士川流域砂防工事

緒言

本工事ハ明治四十四年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十九箇年度繼續事業トシテ毎年度工費七萬五千圓、總工費百四十二萬五千圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後既定工費ヲ百四十萬一千圓ニ改メ同時ニ年割額ヲ變更シ且施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ施行スル事トナレリ其區域ハ富士川支流笛吹川、小支日川筋及上流釜無川支流御勅使川筋ナリトス

河狀竝計畫大要

日川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ト北都留郡トノ境界ナル大菩薩嶺標高二千五十九米ニ發シ流域面積百八平方料流路延長二十八料ニシテ東山梨郡勝沼町ノ下流四料ノ箇所ニテ笛吹川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ勝沼町地先祝橋迄二十一料ノ間ハ山間部ニシテ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狭ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約三十分ノ一ヲ示セリ祝橋以下笛吹川合流點ニ至ル六料ノ間ハ平地部ニシテ河幅廣ク水面勾配四十分ノ一以下ナルヲ以テ上流ヨリ流下セル土砂石礫ハ概ネ此部内ニ堆積シ亂流ハ輕鬆ナル兩岸ヲ衝キ漸次河幅ヲ擴大セントスル傾向アリ明治四十年八月ニ於ケル大水害ノ際ハ流域山地數百箇所崩潰シ多量ノ土砂ヲ流下セル爲メ強大ナル土石流起リ勝沼町地先平地部ニ於テモ尙重量十數噸ノ大轉石移動シ亂流ハ兩岸ノ高地ヲ崩潰シ沿川各地ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ河狀斯ノ如クナルヲ以テ先ヅ祝橋上流一料一、下流一料九、計三料間ノ兩岸ニ多數ノ水制ヲ施設スル外法線内ノ浚深ヲ行ヒ水

路ヲ一定シテ河岸ノ崩潰ヲ防ギ尙上流十數箇所ニ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ扞止セントス
御勅使川ハ駒ヶ嶽ヨリ南ニ連互スル山脈中辻山(標高二千五百八十五米)大崖頭山等ノ連峰ヲ分水界トシ
トノコヤ峠附近ヨリ其主流ヲ發ス流域面積八十五平方糎、流路延長十九糎ニシテ釜無川ニ合流スル急勾
配ノ河川ナリ水源ヨリ中巨摩郡源村大字駒場地先迄約十二糎間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ
河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約三十分ノ一ナリ之ヨリ以下釜無川合流點ニ至ル七糎ノ間
ハ平地部ニ屬シ河幅急ニ擴ガリ甚シキハ七百米ニ及ビ上流ヨリ流下セル多量ノ土石ハ此部内ニ堆積シ
河床ハ沿岸ノ田畑ニ比シ遙ニ高ク亂流ハ屢々堤防ヲ破壞シ沿川各地ニ多大ノ損害ヲ與ヘ縣下ニ於ケル
荒廢河川ノ著シキモノナリ
河狀斯ノ如クナルヲ以テ山間部幹支川ノ適當ナル位置數箇所ニ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ扞止シ併セ
テ河床ノ低下、岩腹ノ決壊ヲ防止セントス

施工狀況

本工事ハ明治四十四年度ノ創業ニ係リ大正五年度迄ハ主トシテ日川筋勝沼町以下ニ施行シ此期間ニ水
制七十四箇所、護岸一箇所、堰堤一箇所及低水路浚渫約二十六萬五千立方米ヲ完成セリ是等施設ニ依リ水
流ハ一定ノ法線内ニ集マリ河床ハ漸次低下シ約三十二ヘクタールノ石河原ハ豐饒ナル田畑ト化スルニ
至リ極メテ良好ナル結果ヲ得タリ依テ勝沼町附近ノ工事ハ一時修補ニ止メ同九年度以降ハ其上流山間
部ニ鶴瀬、駒飼、長垣、横吹、矢方平、水野田、丸林及支流曲澤ニ一ノ畑、山口、同棚小屋澤ニ棚小屋澤、門井澤ニ門井
澤堰堤ノ十一堰堤ヲ施工シ各本堰堤ヲ完成セリ御勅川筋ニ於テハ大正五年度ヨリ中巨摩郡蘆安村及源

村地内ニ於テ蘆安、源、御庵澤、桃木、桃木上流、藤尾、沓澤、沓澤上流ノ八堰堤及是等ニ附隨ノ工事ヲ施行シ總テ前年度迄ニ竣功セシヲ以テ本年度以降ハ專ラ日川筋ノ施工ニ努ムルコトトナレリ左ニ本年度施工ノ概況ヲ述ベシ

日川筋上流部ニ於テハ前年度ヨリ繼續施工ノ横吹、長垣、初鹿野、棚小屋澤ノ四堰堤中横吹、長垣ノ二堰堤ハ竣功セシモ其他ノ二堰堤ハ未竣功ニ了レリ

前記ノ内横吹堰堤ハ大正十三年度ニ於テ本堰堤完成セシモ其後數度ノ洪水ニ會ヒ前庭水叩洗掘ノ虞大ナルヲ以テ前年度ヨリ副堰堤ヲ起工シ本年四月三十日竣功ヲ告ゲ初鹿野堰堤ハ昭和二年度著手本年度ニ於テ本、副兩堰堤ヲ完成セシモ副堰堤法先水叩保護ノ方塊工事ハ翌年度ニ繰越トナリ棚小屋澤堰堤ハ僅ニ其一部ヲ殘シ未竣功ニ了レリ

本年度起工ノ門井澤堰堤ハ支流門井澤合流點ヨリ上流百八十六米ノ地點ヲ選ビ本堰堤高十五米、長三十四米、副堰堤高四米、長十六米ノ兩堰堤ヨリ成リ本年五月著手セシモ是亦未竣功ニ了レリ

矢方平副堰堤ハ昭和二年度ニ於テ竣功セシ本堰堤法先ノ洗掘ヲ防止セン爲メ其下流二十米ノ地點ニ築設スルモノニシテ高四米長三十米ヨリ成リ昭和四年十二月中旬掘鑿ヲ開始シ準備及床掘等ヲ施工セシモ未竣功ナリ

下流部勝沼町附近ニ於テ曩ニ竣功シタル勝沼水制工ハ其後出水毎ニ河床ノ低下ヲ來タシ流水激突ノ爲メ頭部根固洗掘ノ虞アルモノ十四箇所アリシニ依リ六月下旬ヨリ水制頭部根固捨石工ヲ施行セシモ未竣功ニ了レリ

本年度竣功高ハ五萬五千九十圓ニシテ起工以來ノ累計百二十六萬九千八百八十六圓トナリ之ヲ總工費豫

算百四十萬一千圓ニ比較スレバ九割ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本工費	竣功 七九	二四三、七一九	竣功 一	四、九六八	竣功 七九	二四八、六八七
工事費	竣功 一三	七〇、二二〇	竣功 六二	四一、七二六	竣功 一六五	七四三、八三六
事費	竣功 三	四、九三七	竣功 一	三、七〇	竣功 三	四、九三七
用地費		二、一八三				二、一八三
船舶及機械費		三九、〇九七		三七〇		三九、四六七
測量費		八、二二三		九四		八、三二七
營業費		一一、五九四		二二四		一二、八〇八
雜費		一三、一九九六		七、三一一		一三、九三〇七
共濟組合給與金		一、九五九		四一七		二、三七六
總計		二、二二四、〇九六		五五、〇九〇		二、二六九、一八六
						〇・九〇

第三 桂川流域砂防工事

緒言

本流域内京都府南桑田郡ハ明治十一年度ヨリ同船井郡ハ翌十二年度ヨリ同二十六年迄國費ヲ以テ砂防工事ヲ施行シ來リシガ事業上都合ニ依リ一時中止シ其後京都府ハ國庫ノ補助ヲ得テ南桑田郡ニ屬スル區域ノ繼續施行ヲ開始シ今尙施工中ニシテ船井郡ニ屬スル工事ハ本省ニ於テ大正五年度ヨリ直轄施行スルコトトナリ總工費六萬圓(國庫四萬圓京都府負擔二萬圓)年割額六千圓ヲ以テ十箇年度繼續事業トシテ施行シ來リ大正十四年度ヲ以テ施行年限終了セシモ尙繼續施行ノ必要ヲ認メ豫算三萬六千圓ヲ増額シ(年額六千圓)從テ年限ヲ六箇年度即チ昭和六年度迄延長シタリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ個所ハ桂川小支寺谷川水源船井郡世木村大字天若ニシテ年度内竣功セル兀崩面積四ヘクタール六二ニシテ之レニ對スル本工事費ハ三千三百六十三圓(一アール當平均七圓二十八錢)ナリ

大正五年度起工以來本工事費竣功金額ハ五萬六百九圓ニシテ新設工事四萬九千八百十四圓修繕工事七百九十五圓ナリ

尙大正五年度以來本年度迄ニ支出シタル總金額ハ八萬二千四百三十八圓ニシテ總工費豫算九萬六千圓ニ比シ八割六分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中苗木植付ニハ補植費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
積苗	九一、四六八 <small>米</small>	二五、三六〇 <small>円</small>	六、五六五 <small>米</small>	二、一三八 <small>円</small>	九八、〇三三 <small>米</small>	二七、四九八 <small>円</small>
崖切	二六、〇〇一 <small>立方米</small>	二、六二五	立方米		二六、〇〇一 <small>立方米</small>	二、六二五
堰堤	四〇五 <small>平方米</small>	一、〇七一	平方米		四〇五 <small>平方米</small>	一、〇七一
筋工	一九、七四九 <small>米</small>	二、八三二	二、五六九 <small>米</small>	四〇一	二一、三一八 <small>米</small>	三、二三三
苗木	八八二、六九二 <small>本</small>	一四、八四三	四三、五〇〇 <small>本</small>	六八七	九二六、一九二 <small>本</small>	一五、五三〇
其他		五二五		一三七		六五二
船舶及機械費		一、四六二		一三五		一、五九七
測量費		一六四		五四		二一八
營業繕費		二二二				二二二
雜費		二七、二〇三		一、九九八		二九、二〇一
共濟組合給與金		五〇三		八八		五九一
總計		七六、八〇〇		五、六三八		八二、四三八
						〇・八六 <small>割分</small>

第四 千曲川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ五箇年度繼續事業トシテ工費豫算三十一萬四千百圓ヲ以テ長野縣下千曲川及左支犀川兩流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施スモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ舉ゲ得タリシニ因リ追加工事ヲ企テ工費三萬四千五百圓ヲ増額シ工費豫算三十四萬八千六百圓(内長野縣負擔額十一萬六千二百圓)ヲ以テ同十一年度ニ結了セシモ尙引續キ砂防施行ヲ要スル箇所多キヲ認メ工費四十萬八千圓ヲ以テ同十二年度ヨリ昭和六年度迄九箇年度繼續事業トシテ續行スルコトトナレリ因ニ創業以來ノ豫算總額ハ七十五萬六千六百圓(内長野縣負擔額二十五萬二千二百圓)ナリ

施工狀況

千曲川右支横湯川筋ニ於テハ一時休工中ノ水路張石工一箇所、前年度ヨリ繼續施行ノ筋工、積苗工、石堰堤ノ五箇所及新タニ著手ノ苗木植付工、筋工、石堰堤副堰堤工、石堰堤嵩置工ノ五箇所ヲ實施シ年度内ニ水路張石工其他三箇所ヲ竣功セリ

犀川筋ニ在リテハ木澤ニ於テ前年度ヨリ繼續ノ材料採取工事及新ニ著手ノ堰堤工四箇所、堰堤補修、補強工四箇所ヲ實施シ年度内ニ堰堤工一箇所ヲ殘シ全部竣功シ八代澤ニ於テハ新タニ著手ノ堰堤補修、補強工三箇所、堰堤附屬護岸一箇所ヲ實施シ是亦年度内ニ竣功セリ

岡田川、女鳥羽川及薄川ハ専ラ山地ノ動靜ヲ監視スルニ止メ工事ヲ施セルモノ無ク本年度全流域ニ於ケル竣功額ハ四萬七千三百九十八圓ニシテ創業以來ノ累計ハ六十六萬五百二十一圓ナリ之ヲ總工費豫算七十五萬六千六百圓ニ比スレバ八割七分ノ竣功ニシテ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「」ハ寄附ニ係ル工費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工本							
堰堤		二八〇、二〇八		三二、二五七		三一、四六五	百分
山腹		二、二四三		一、九七		二、二六二	
護岸		一九二、四四五		四、二三六		一九六、六八一	
事費		二六、六一八				二六、六一八	
工費		一〇、四二二		一八六		一〇、六〇七	
材料運搬		一一六		二七		一四三	
用地							
船舶及機械		一二七、五五四		一、三三三		一四、〇六七	
測量		三八八		六六		四五四	
營業繕費		四、一六二		四四		四、二〇六	
雜費		八四、三三二		九、八七二		九四、一九三	
共濟組合給與金		一、六九〇		三九七		二、〇八七	
總計		六、一三三、四三三		四七、三九八		六六〇、五二一	〇・八七

第五 鬼怒川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正六年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ總工費三十九萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後諸物價騰貴ノ爲メ同八年度以降三回ニ互リ二十七萬四千五百圓ヲ増額シ總工費ヲ六十六萬四千五百圓ニ改メ施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ竣功セシムルコトナレリ其區域ハ栃木縣上都賀郡日光町鬼怒川支川大谷川流域ニシテ先支流稻荷川筋ニ施工シ來リシガ同元年度ヨリ新タニ支流荒澤筋ニ又前年度ヨリ同鳴澤筋ニ施工ヲ開始セリ

河狀並計畫大要

稻荷川ハ源ヲ日光町ノ北部女峰山(標高二千四百六十三米)及赤薙山(標高二千百米)ニ發シ幾多ノ溪流ヲ合セ神橋ノ下流約三百米ノ箇所ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長八紵五、流域面積九平方紵アリ平均河床勻配十分ノ一強ニシテ大谷川合流點附近ニ於テモ尙十三分ノ一ノ急勾配ヲ示セリ流域山地ハ地質極メテ軟弱ナルト地勢急峻ニシテ林相粗ナルニ加ヘ屢々豪雨アルヲ以テ山地ハ歲ト共ニ崩壞ノ度ヲ増シ出水ノ際ハ多量ノ土石ヲ流下シ時ニ土石流ヲ起シテ一箇ノ大サ數十立方米ノ大轉石ヲ押流ス事アリ是等ハ下流川幅廣キ箇所ニ堆積スルヲ以テ河床ニハ轉石累々横タハリ流身變動シテ亂流ハ兩岸ヲ浸蝕崩壞シ治水上大ノ障害ヲ來タシ本邦稀ニ見ル荒廢河川ナリ依テ中流部ニ十數箇所ノ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止スルト共ニ河床ノ低下ヲ防止シ尙合流點附近數箇所ニ床固付水制ヲ設ケ流身ノ矯正ヲ計ラント

ス

荒澤ハ源ヲ小眞名子山（標高二千二米）ニ發シ女峰山、男體山（標高二千四百八十四米）等ヨリ發スル數多ノ溪流ヲ合セ大谷川ニ合流ス流路延長十一軒、流域面積二十四平方軒アリ河床勾配ハ合流點附近ニ於テ二十五分ノ一ヲ示セリ本流域地質ハ稻荷川ノ如ク不良ナラズ裏見瀧（合流點ヨリ二千七百米）以上ニハ瀑布多ク河床ハ殆ンド岩盤ヲ露出シ浸蝕作用大ナラズト雖モ男體山ヨリ發スル溪流ハ其厚キ火山灰層ノ山腹ヲ浸蝕スルコト甚シキヲ以テ適當ノ地點數箇所ニ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止セントス

鳴澤ハ源ヲ赤薙山ニ發シ南々東ニ流レ省線日光驛ノ對岸ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長十二軒、流域面積六平方軒四アリ河床勾配ハ合流點附近ニ於テ十五分ノ一ヲ示セリ本流域ヲ構成セル基岩ハ安山岩及集塊質泥流ヲ主トシ上流ハ河床一體ニ安山岩盤ヲ露出スル所多ク合流點ヨリ五千五百米以上ニハ高五米内外ノ小瀑布數箇所アリ河狀概ネ良好ナレドモ下流部ハ大部分集塊質泥流ヨリ成リ河狀不良ナリ而シテ流域内崩壞ノ大ナルモノハ水源附近ニ在リ且本川ハ兩岸到ル處崩壞シ砂礫ノ流出著シキヲ以テ下流部適當ノ地點ニ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止セントス

施工狀況

本工事ハ大正七年度ニ於テ稻荷川筋ニ施工ヲ開始シ前年度迄ニ堰堤十六箇所（内未竣功一箇所）床固四箇所ヲ施工シ本年度ニ於テハ釜ツ澤下流堰堤ヲ繼續施工セル外高十八米、長六十米、築立々積二千百十一立方米ノ釜ツ澤堰堤及第十堰堤増補並修補ヲ起工シ内第十堰堤増補並修補工ハ竣成シ釜ツ澤下流堰堤ハ四割八分、釜ツ澤堰堤ハ僅ニ一分通ヲ竣工セリ

荒澤筋ニ於テハ前年度迄ニ丹勢山堰堤竣功シ元年度起工セル大久保堰堤ハ本年度續工竣功セリ
 鳴澤筋ニ於テハ前年度起工セル小倉山堰堤ヲ繼續施工シ是亦年度内竣功セリ
 本年度竣功高ハ四萬三千二十圓ニシテ起工以來ノ累計ハ五十六萬三千八百二十一圓トナリ之レヲ總工
 費豫算六十六萬四千五百圓ニ比較スレバ八割五分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工(堰堤)	竣功 未竣功	三六三、六七四 四	竣功 未竣功	三七、〇九六 四	竣功 未竣功	四〇〇、七七〇 四	一〇〇・八五
船舶及機械費	四	二五、八〇二	七二二	七二二	四	二六、五二三	
測量費		三、一九七	二六	二六		三、二二三	
營業繕費		九、二二二	四六	四六		九、二六八	
雜費		五九、四二九	四、八七六	四、八七六		六四、二九五	
共濟組合給與金		一、四九六	二五五	二五五		一、七五一	
總計		五二〇、八〇一	四三三、〇一〇	四三三、〇一〇		五六三、八二二	〇・八五

第六 神通川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニ係リ昭和四年度ニ至ル十一箇年度繼續事業トシ工費二十七萬五千九百三十八圓ヲ以テ神通川上流岐阜縣下宮川筋及高原川筋ニ於テ砂防工事ノ急施ヲ要スル溪流ニ施行スルモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ舉ゲ得タリシガ大正十四年度以降ノ年度割額變更ニ際シ五萬九千百圓ヲ減額シ昭和二年度迄ニ竣功セシムル豫定ナリシモ尙追加工事ヲ要スルモノアリ昭和三年度以降六萬圓ヲ増額スルト共ニ工期ヲ三箇年度延長シ總工費二十七萬六千八百三十八圓ヲ以テ昭和五年度竣功ノコトト爲セリ

施工狀況

高原川筋砂防工事 本工事ハ岐阜縣吉城郡船津町地内高原川筋右支六郎谷ニ施行スルモノニシテ大正九年度以降繼續施工スルコト十年度溪谷漸ク治マリ今ヤ一部山腹ノ整理ヲ殘スノミトナレリ
本年度ハ前年度ニ引續キ左岸上流山腹整理ニ努メタリ即チ山腹石積工、芝萱筋植工、積芝工等ヲ施シテ斜面ヲ整ヘ又苗木ヲ植付ケ草木ノ生育ヲ期セリ
本年度内ノ施行工事ハ山腹石積工五百五十五平方米、芝萱筋植工二萬六千米、積芝工三千米、苗木植付工三萬四千米ニシテ其施行額一萬一千五百六十七圓之レニ施工中ノ諸費ヲ加ヘテ一萬四千八百八十四圓ナリトス而シテ起工以來ノ工費累計十九萬二千六百四十九圓ナリ

宮川筋砂防工事 宮川筋ニ在リテハ大正八年度ヨリ大正十年度迄岐阜縣吉城郡坂下村地内小豆澤及桑谷ノ二溪谷ニ數箇所ノ石堰堤ヲ築キ爾來山地ノ動靜ヲ監視シ居リシガ近年諸溪谷ハ著シク治マリテ草木繁茂スルモ獨リ瀧谷ノミハ溪筋荒廢シテ治マル處ヲ知ラザルヲ以テ先ヅ中流部ニ高九米ノ玉石混凝土堰堤ヲ築キ上流ヨリ來ル土石ヲ扞止スベク昭和四年九月工ヲ起シ同年十二月竣功セリ外ニ往年竣功ノ小豆澤ノ一堰堤ノ補修ヲ爲セリ本年度ノ施行額五千一圓ニシテ施工中ノ諸費ヲ加ヘテ六千四十三圓ナリトス起工以來ノ工費累計六萬四千三百三十五圓ナリ

以上本川流域砂防工事本年度ノ竣功額ハ二萬九百二十七圓ニシテ起工以來ノ累計二十五萬六千九百八十四圓之ヲ總工費二十七萬六千八百三十八圓ニ比スレバ九割三分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本堰堤		一〇七、二七八		五、〇〇一		一一二、二七九
工山腹		七七、六八〇		一一、五六七		八九、二四七
工事費		一〇、七三六		一〇四		一〇、七三六
護岸		四、四八五		一〇四		四、五八九
船舶及機械費		三三三		三		三五四
測量費		一一〇		六五		八五
營繕費		三、四九五七		四、〇三〇		三、八九八七
雜費		五七八		一一九		七〇七
共濟組合給與金						
總計		二二六、〇五七		二〇、九二七		二五六、九八四
						〇・九三

第七 常願寺川流域砂防工事

緒言

常願寺川ハ富山縣屈指ノ大河ニシテ水利ノ恩惠ヲ受クルコト甚大ナリ然ルニ安政五年二月二十六日越前、越中兩國ノ大地震ニ依リ本川水源地上新川郡立山温泉附近ナル大鷲山、小鷲山崩裂シテ常願寺川上流ノ湯川、眞川ノ溪流ヲ塞ギシガ三月十日ニ至リ決潰シ家屋百二十餘軒流失ス震後二箇月ヲ經テ四月二十六日再ビ泥川ノ決潰アリ百三十五箇村ヲ通ジテ溺死者百四十人、流失浸泥家屋一千四百五十八軒ニ及ベリ爾來河狀一變シ逐年砂礫ノ流失夥シク河流沿岸ノ被害亦甚シキニ依リ同縣ニテハ國庫ノ補助ヲ仰ギ工費百十三萬一千餘圓ヲ投ジ明治三十九年度ヨリ大正十一年度迄繼續事業トシテ銳意砂防工事ニ努メ殆ンド完成ノ域ニ達セシニ偶々大正十一年七月ノ豪雨ニ際會スルヤ十七箇年度間ニ施行セシ前記工事ハ根底ヨリ破壊セラレ益々工事ノ施行至難トナリシニ依リ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ總工費二百七十三萬六千圓(内富山縣負擔九十一萬二千圓)ヲ以テ直接施行スルコトトナレリ

河狀並計畫大要

常願寺川ハ源ヲ富山縣藥師ヶ嶽(標高二千九百二十六米)及立山(標高二千九百九十二米)ニ發シ上瀧町附近ニ至リ平野ニ出デ上新川、中新川ノ兩郡界ヲ貫流シテ日本海ニ注グ其流路延長五十六軒餘ニ過ギザルモ此間灌漑ノ利潤夥シク灌田面積一萬二千四百ヘクタールニ及ブ而シテ本川ノ平坦部ハ往古河幅漸ク二

百米内外ニシテ堤防ハ僅カニ點在スルニ止マリ流身深ク自然ノ護岸ニ依リテ容易ニ沿岸ヲ保護シ得タリ然ルニ安政年間ニ於ケル大地震ニ因リ河狀著シク變化シ逐年砂礫ヲ押流シ下流川幅廣キ箇所ニ堆積シテ流身ノ變動ヲ招キ亂流ハ沿岸ヲ缺損シ治水上種々ノ障害ヲ惹起シツツアリ故ニ本川ニ對シ徹底的ニ工事ヲ施行センニハ極メテ多額ノ工費ヲ要スルヲ以テ差當リ本川上流部ニ於テ堰堤ヲ設ケ河床ノ低下ヲ防グト同時ニ流下土石ヲ扞止スルモノトス

而シテ其計畫ハ湯川本流中唯一ノ岩盤露出セル箇所ニ一大堰堤ヲ築設シ以テ兩岸山腹ノ崩壞ヲ防止スルト共ニ多量ノ土石ヲ堆積セシメ河床ノ一定勾配形成ヲ待チ其上流ニ順次數多ノ堰堤ヲ設置シ白岩ヨリ立山溫泉下流部ニ至ル湯川本流筋ノ崩壞ヲ治メ又最モ荒廢セル出シ原谷ニ對シテハ同溪流ト湯川本流トノ合流點ニ設クル堰堤ヲ基礎トシテ是亦數箇所ノ堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

施工狀況

本工事ハ大正十五年度ノ創業ニシテ先ヅ工事材料運搬ニ供スル爲メ富山縣中新川郡立山村藤橋ヨリ同村水谷平ニ至ル約十五軒ノ道路工事ニ著手セリ本道路ハ常願寺川右岸ニ位シ激流岩ヲ嚙ム斷崖絶壁ニアラザレバ粗鬆常ニ崩壞ヲ續クル泥流堆積層ニシテ加フルニ夏季頻々タル降雨出水竝ニ降雪季ノ雪崩ニ依ル被害ニ惱ミシモ漸ク本年度ニ於テ竣功シ尙同道路上ニ敷設スルガソリン機關車運搬用軌道工事モ竣功ヲ見ルニ至レリ又水谷平ヨリ下流約一軒附近ニ於テ上下ノ運搬軌道ヲ連絡スベキインクライン軌道敷設ハ其準備工事ヲ竣功シ軌道敷設モ亦略竣功セリ

水谷平ヨリ白岩堰堤箇所ニ至ル約八百米ノ道路ハ殘工事タル隧道一箇所ヲ貫通セシメ今ヤ軌道敷設ヲ

待ツノミトナレリ而シテ各種工事材料ハ主ニ富山縣電氣局專用軌道ニ托シ藤橋千丈ヶ原地先對岸上新川郡大山村瀬戸藏ニ輸送スルヲ有利ト認メ之ヲ連絡セシムル爲メニ常願寺川ヲ横斷スル軌道延長四百六十米ノ敷設ヲ爲シ略竣功ヲ見ルニ至レリ

斯クテ本砂防工事ノ眼目タル白岩堰堤ヲ築造スル準備トシテ其上流左岸ニ高サ十米ノ護岸工事ヲ施行スル事トシ是ニ著手セリ抑モ白岩堰堤ノ基礎タラシムベキ花崗片麻岩層ハ川筋中央部ヨリ稍左岸寄りノ箇所ニ於テ河床内ニ深ク傾走シ左岸ヲ構成スルハ單ナル火山堆積土塊ナリ故ニ到底重力堰堤ノ基礎タル能ハザルノミナラズ湯川本流ノ激衝ニ依リ山脚逐年洗掘セラレ將ニ危機ニ瀕セルヲ以テ水路附替工事ヲ施行シ牛柵水剝ヲ以テ辛ウジテ水流ヲ中央ニ導キ得タリ事態此ノ如キヲ以テ本護岸工事ハ堰堤ニ對シ重大ナル使命ヲ有スルモノニシテ其構造ハ玉石混凝土壁トシ下流端ヲ堰堤箇所岩盤左端ニ於テ堰堤ト接合セシムルモノトス本年度ニ於テハ最モ危險ナル下流部二十米ヲ施行セリ

尙工費用セメントハ前述ノ運搬軌道ヲ通ジテ水谷倉庫ニ一千數百樽、藤橋倉庫ニ二千數百樽ヲ運搬格納シ次年度工事ニ備フルコトヲ得タリ

本年度ハ四月上旬工事ニ著手シ十二月下旬降雪ノ爲メ施行不可能ニ至ツテ工事ヲ休止セリ

本年度ニ於ケル竣功額十九萬二千二百圓ニシテ創業以來ノ累計六十八萬七千八百七十六圓ナリ之ヲ總工費二百七十三萬六千圓ニ比スレバ二割五分ノ竣功トナレリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費				一〇、七四四		一〇、七四四	
用地費				一〇		一〇	
船舶及機械費		一〇四、〇二八		三七、〇六三		一四一、〇九一	
測量費		三、八三七		一、一四三		四、九八〇	
營業繕費		二九、七四二		四八、八一		七八、五五三	
雜費		三五七、〇〇九		九三、六四三		四五〇、六五二	
共濟組合給與金		一、〇三三		七八六		一、八一八	
總計		四九五、六七六		一九二、二〇〇		六八七、八七六	〇二五

第八 手取川流域砂防工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ十三箇年度繼續事業トシ總工費百九十一萬一千圓(内石川縣負擔六十三萬七千圓)ヲ以テ石川縣能美郡白峰村字柳谷、甚之助谷及龍ヶ馬場溪ニ施行スルモノナリ而シテ本工事ニ就テハ既ニ明治四十四年度石川縣ニ於テ其調査ヲ爲シ砂防工事施行ノ必要ヲ認メ大正元年度ヨリ國庫ノ補助ヲ得テ大崩壞地域タル柳谷上流及甚之助谷ニ於テ練積堰堤、山腹工事等ヲ施行シ昭和元年度ニ及ビタルモノニシテ其工費七十萬六千餘圓ナリ

河狀並計畫大要

白山ハ加賀、飛彈ノ兩國ニ跨リ頂上ハ御前、劔、大汝ノ三峰ニ岐ル就中御前岳ハ最高峰ニシテ國幣中社白山比咩神社奥宮ヲ祀ル標高二千七百二米地質ハ侏羅層中ノ中世紀層ヲ主トス所謂手取層ト稱スルモノニシテ半鹹半淡水中ニ沈成シ礫岩、粘盤岩、眞岩等ノ累層ヨリ成レリ而シテ上記三峰ハ即チ外輪山ニシテ環狀ヲ成シテ相連リ内側ニ向ツテ急傾斜ヲ成シ中ニ盃狀ヲ成セル噴火口ノ跡アリ御前岳ト大汝トノ間ニハ小噴火口又ハ硫氣洞ノ跡ト認メラルモノ尠カラズ有史以來白山噴火屢々ニシテ就中延應元年、天文二十三年ニ起リシモノ等ハ最モ著名ナリ

御前岳ノ裳ニ展開セル彌陀ヶ原ハ高山植物ノ繁生ヲ以テ名アリ而シテ此高原ノ東側ニ發スル溪流ハ萬歳谷ト稱シ不動瀧ノ水源ヲ爲ス甚之助谷ハ其南側ニ發シ左支龍ヶ馬場溪ヲ合シ大崩壞地域ヲ通過シテ

不動瀧ノ水ト合ス此合流點以下ヲ柳谷ト稱ス崩壊地域ハ甚之助谷、龍ヶ馬場溪及柳谷ニ互リ延長約四軒、崩壊面積約六十六萬平方米餘、標高一千三百米乃至二千米ノ間ニ位置ス地勢極メテ峻峻ニシテ其溪流勾配ハ龍ヶ馬場溪及甚之助谷ハ共ニ約二分ノ一、柳谷ハ約五分ノ一トス而シテ是等諸溪ノ大崩壊ノ素因ハ主トシテ白山噴火ノ餘響ニ依リ硫氣作用ヲ感受シタルモノニシテ其作用ハ深ク内部ニ及ビ以テ風化水蝕ヲ容易タラシムルモノナリ林相ハ概シテ良好ニシテ柳谷、別當谷合流點附近(標高一千三百米)ハブナ樹ノ密林ニシテ白樺ヲ交ヘ甚之助谷及龍ヶ馬場溪方面(同一千六百米乃至二千米)ニ至リテハ白樺、ミヤマハシノ木ニトド松ヲ交ヘ熊笹密生ス

白山砂防地崩壊ノ激甚ナルト溪流勾配ノ急ナルトハ前述ノ如クニシテ到底姑息ノ工法ニ依ル能ハザルハ明瞭ナルガ故ニ專ラ練積堰堤工事ニ依リ溪流勾配ノ緩和ヲ圖リ以テ山脚ノ侵蝕崩壊ヲ防止スルノ外途ナク石川縣ニ於テ施設セル柳谷、甚之助谷ノ各堰堤上流部ニ是等現在堰堤ヲ基礎トシタル階段堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

施工狀況

本工事ハ昭和二年度ノ創業ニシテ直ニ施行準備ニ著手シ昭和二年八月ヨリ起工セリ

本年度ニ於テモ掛員詰所及人夫收容小屋等ノ修繕ヲ爲スト共ニ運搬道路ノ修繕ヲ施行シ尙人夫收容上狹隘ナル爲メ字一之瀬、柳谷、不動坂、龍ヶ馬場ヘハ新ニ五棟ノ人夫小屋ヲ建設シ又セメント格納上必要ヲ生ジ柳谷工場附近ニ於テ倉庫一棟、甚之助谷ニ於テ假置場一棟ヲ新設シ是等ノ設備ヲ進ムルト共ニ先ヅ前年度ヨリ繼續ノ柳谷第八號堰堤工事ニ著手シ次デ甚之助谷第八號、甚之助谷上第八號、柳谷第九號堰堤

ト順次ニ著手シ夫々工事ノ進捗ヲ圖リ十月下旬迄ニ前記四箇所ハ孰レモ竣功ヲ告ゲタルガ早クモ降雪ノ爲メ工事施行不可能トナリ昭和四年十月三十一日ヲ以テ本年度ノ工事ヲ打切リテ下山シ金澤市内ノ假事務所ニ於テ執務スルコトトセリ而シテ本年度竣功高ハ十二萬四千七百三十圓ニシテ前年度ヨリノ累計二十六萬四千百九十二圓ナリ之レヲ總工費百九十一萬一千圓ニ比スレバ一割四分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
本工事費一堰堤		九〇、八六一		九一、七八八		一八二、六四九	
船舶及機械費		五、四四〇		二、三六九		七、八〇九	
測量費		一、六二三		五〇〇		二、一三三	
營業繕費		一一、一〇八		七、七八六		一八、八九四	
雜費		二九、九六七		二一、九〇一		五一、八六八	
共濟組合給與金		四六三		三八六		八四九	
總計		一三九、四六二		一二四、七三〇		二六四、一九二	〇・一四

第九 揖斐川流域砂防工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ工事費百二十五萬圓ヲ以テ揖斐川支川根尾川ニ施行スルモノトス

河狀竝計畫大要

根尾川ハ源ヲ岐阜、福井兩縣ノ境溫見峠ニ發シ山間溪谷ヲ縫流シ能郷、河内、東等ノ溪流ヲ集メ流ルル事約四十六軒ニシテ山間部ヲ放レ藪川トナリ揖斐川ニ注グ勾配甚ダ急ニシテ河床ハ概ネ崩壞セル土石ノ沈澱セルモノヨリ成リ河幅狹キ箇所ハ兩岸岩磐露出シ深谷ヲ爲ス所尠カラズ其流域面積約三百八十平方軒ナリトス

根尾川ハ明治二十四年濃尾大地震ノ震源地ニシテ既ニ三十餘年ヲ經過スト雖モ震災ニ起因スル兀崩未ダ其儘ニ放棄セラレ其範圍亦甚ダ廣シ從ツテ土砂ノ流出極メテ多ク下流藪川ノ河床ヲ高メ堤防ニ危害ヲ及ボスノミナラズ河床隆起ノ爲メ滲透水夥シク沿岸耕地ヲシテ徒ラニ水濕過度ノ惡田ト化セシメ延テハ其害ヲ揖斐川ニモ及ボシ木曾川上下流改修工事ノ效果ヲ空フスルノ虞アルヲ以テ充分ナル砂防工事ノ施行ハ一日モ忽ニスベカラザルモ其工費巨額ニシテ國費多端ノ折柄全部ノ施行ハ到底望ムベカラザルヲ以テ先ヅ砂害最モ大ナル能郷谷、宮井谷、初鹿谷ノ三箇所ニ施工スル事トセリ該三溪流ハ孰レモ河床概ネ崩壞セル土石ヨリ成リ兩岸岩磐露出シ堰堤築設ニ好適ナル場所ヲ有スルヲ以テ適當ナル所ニ堰

堤數十箇所ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止シ河床勾配ヲ緩和セシメントス又延長二千米餘ノ護岸工及數十ヘクタールノ山腹工ヲ施シ以テ土石ノ崩落河岸ノ侵蝕ヲ防禦セントス

施工状況

本年度施行セシ工事ハ前年度ヨリ繼續ノ能郷谷ニ於ケル禮野及能郷堰堤、初鹿谷ニ於ケル蛇洞堤、宮井谷ニ於ケル高畑竝西ヶ谷山腹及本年度著手セル宮井谷長谷山腹ノ五工事ナリ今其概要ヲ述ブレバ左ノ如シ

前年度ヨリ繼續施行ノ禮野堰堤工ハ五割七分、能郷堰堤工ハ七割一分、蛇洞堰堤工ハ六割五分、西ヶ谷山腹ハ八割二分ノ竣功ヲ告ゲ昭和二年度起工ニ係ル火洞及西ヶ谷堰堤竝高畑山腹工ハ豫算ノ都合ニ依リ休止シ前記各工事ト共ニ未竣功ノ儘次年度へ繰越セリ又本年度起工ニ係ル長谷山腹工ハ西ヶ谷口ヨリ七百三十二米上流左支長谷ノ左岸ニ施行スルモノニシテ昭和四年六月十六日工ヲ起シ其三割ヲ竣功シテ翌年度へ繰越セリ

本年度揖斐川流域砂防工事竣功額ハ五萬六千五百五圓ニシテ起工以來ノ累計十九萬五千三百九十八圓トナリ總工事費百二十五萬圓ニ比スレバ一割六分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工 堰堤	一箇所	八八、八八八円	一箇所	三八、四九一円	一箇所	一一七、三七九円	100%
山腹	一箇所	七、五八一	一箇所	五、七五三	一箇所	一三、二六四	100%
工事費	一箇所	九一、四〇九	一箇所	四四、二四四	一箇所	一三五、六五三	100%

第三章 砂防工事 (揖斐川流域砂防工事)

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	測量費	船舶及機械費
一三八、八九三	五六五	三三、七一〇	七、九〇六	一、一〇八	九、一三五
五六、五〇五	二九四	一〇、七一七	四五八	七九二	
一九五、三九八	八五九	三四、四二七	七、九〇六	一、五六六	九、九二七
〇・一六					

第一〇 木津川流域砂防工事

緒言

本流域内ノ砂防工事ハ淀川流域全體ノ砂防工事トシテ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年
 度ヨリハ以降二十三箇年度ノ繼續事業ト改マリ年額三萬圓總工費六十九萬圓ノ内ヲ以テ瀬田川流域
 ト合同施行中ノ處更ニ昭和二年度ヨリ本流域ニ對シ増額シ同年以降十三箇年度ノ繼續ト爲シ總工費四
 十四萬七千三百圓ヲ以テ本川單獨施行ノコトトナレリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ箇所ハ前年來ヨリ引續キ施行セル箇所ニシテ木津川上流小支河合川水源三重縣
 阿山郡玉瀧村(伊賀砂防工場)及木津川左小支名張川水源山地奈良縣山邊郡豊原村(豊原砂防工場)ノ二工場
 ニテ施行シ其竣功セル元崩面積ハ新設二十ヘクター七四ニシテ之レニ對スル本工事費二萬一千四百
 六十一圓(一アル當平均十圓三十五錢)ナリ

本工事竣功累計ハ六萬六千百三十一圓ニシテ其縣別左表ノ如シ

種別	三重	奈良	良	合計
新設工事	三四、六七一圓		三二、二八一圓	六五、九五二圓
修繕工事	一七九			一七九
合計	三四、八五〇		三二、二八一	六六、一三一

本工事本年度ノ竣功額二萬六千九百二十六圓ニシテ起工以來ノ累計八萬一千七百五十九圓ナリ之レヲ
 總工費豫算四十四萬七千三百圓ニ比スレバ一割八分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中苗木
 植付ニハ補植費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
積苗	一二九、〇三四 <small>米</small>	二九、一三二	六〇、八二四 <small>米</small>	一三、七六九	一八九、八五八 <small>米</small>	四二、九〇一	〇・一八
山腹積	二九四	一七八	八〇	四六	三七四	二二四	
本工	四八一、一〇〇 <small>本</small>	五、五一〇	一九七、五〇〇 <small>本</small>	一、七六四	六七八、六〇〇 <small>本</small>	七、二七四	〇・一八
工筋	二六、八〇〇 <small>米</small>	四、六九〇	一一、六〇〇 <small>米</small>	一、九三六	三八、四〇〇 <small>米</small>	六、六二六	
事	一六、二〇一 <small>立方米</small>	二、七二四	一一、三二八 <small>立方米</small>	二、一三八	二八、五一九 <small>立方米</small>	四、八六二	〇・一八
費	其他	二、四三六	一、八〇八	五四五	四、二四四	四、二四四	
船舶及機械費	一、〇三五	一六一	七八	七九	一一三九	一一三九	〇・一八
測量費	三二七	三二七	—	—	三二七	三二七	
營業繕費	八、三三一	三〇四	四、六四八	一九四	一二、九七九	一二、九七九	〇・一八
雜費	—	—	—	—	—	—	
共濟組合給與金	—	—	—	—	—	—	〇・一八
總計	—	五四、八二八	—	二六、九二六	—	八一、七五四	

第四章 港灣改良工事

第一 關門海峽改良工事

緒言

本工事ハ關門海峽整理ノ第一期工事トシテ明治四十三年度以來工費一千三百七十六萬圓外ニ昭和二年
度ニ追加セラレタル浚渫跡ノ水深維持費二十八萬六千圓ヲ併セ合計一千四百四萬六千圓ヲ以テ航路ノ
改良竝ニ泊地ノ擴張ヲ施行シ昭和三年度迄ニ大體竣功セリ而シテ之ニ引續キ更ニ第二期工事トシテ工
費一千七百三十萬圓ヲ以テ航路ヲ改良スルノ計畫成リシモ政府財政ノ關係上之ガ工費全額ヲ豫算ニ計
上スルコト困難ナリシ爲メ差當リ昭和四年度ニ於テ新ニ豫算六十萬圓ヲ計上シ第二期工事計畫ノ主旨
ニ基キ最モ急施ヲ要スル航路ノ浚渫及除礁工事ヲ行フコトトナリシガ都合ニ依リ之レヨリ十萬圓ヲ減
額シテ五十萬圓ニ改訂シタリ斯クテ起工以來ノ該豫算ハ一千四百五十四萬六千圓トナレリ

港狀竝計畫大要

關門海峽ハ本邦ニ於テ最モ須要ナル航路ノ一ナルモ幅員狹隘不規則ニシテ且潮流強ク而カモ岩礁諸所
ニ散在スルヲ以テ航海者ノ常ニ最モ困難ヲ感ズル所ナリ加之輓近通航船舶ノ増加竝ニ船型ノ増大ハ益
々其困難ノ度ヲ高メ且一面關門兩港ニ於ケル泊地モ亦狹隘ヲ感ズルコト切ナルノミナラズ尙内外貿易
ノ發展ニ伴ヒ益々之レガ改良ノ急ヲ要スルニ至レリ

本海峽ハ將來ヲ慮リ充分ナル計畫ヲ樹テ之レガ改善ヲ圖ランニハ海峽内ノ航路竝ニ關門兩港泊地ノ浚
 漑ヲ成シ岸壁其他港灣トシテノ設備ヲ完ウスルノ要アルベキモ其工費ハ頗ル多額ニ上ルベク且一舉ニ
 是等ノ工事ヲ遂行スルノ必要ナカルベキニ依リ先ヅ第一期工事トシテ明治四十三年度ヨリ

一 海峽東口部埼沖ヨリ西口塵寄洲ニ至ル航路約十一哩間ヲ幅員四百六十米乃至一千二十米、水深十
 米ヲ有セシムル爲メ浚漑及除礁工事ヲ施スコト

二 周防灘ヨリ部埼沖ニ至ル航路約二哩間ヲ幅員五百六十米、水深九米ニ浚漑スルコト

三 門司港内水面積約百三十二萬平方米ヲ水深十米ニ浚漑スルコト

四 下關停車場前面ニ若干ノ浚漑ヲ施シ三十三萬平方米ノ泊地ヲ得ルコト

五 浚漑跡ニ漂砂堆積スル箇所アルヲ以テ之レガ水深維持ノ爲メ浚漑ヲ行フコト

ノ各工事ヲ施工シ來レリ其計畫高ハ土砂浚漑一千二十四萬五千二百五十八立方米、除礁二百四十二萬一
 千百八十立方米ニシテ昭和三年度末迄ニ殆ンド完成シ僅少ノ殘工事モ本年度早々竣功セリ

尙別途大正八年度ニハ門司港修築、同十年度ニハ下關港修築ヲ起工シ後者ハ本年度ニ竣功シ前者ハ明年
 度ニ竣功スベク海峽ノ面目爲メニ一新スルニ至レリ

然ルニ近時船型ノ増大ニ伴ヒスエズ運河ハ水深十二米ニ、パナマ運河ハ同約十二米ニ浚漑ヲ了シ本邦ニ
 於テモ既ニ神戸、橫濱兩港ニ於テ十二米岸壁ヲ築造セラルル今日國際的航路ニ當レル本海峽モ亦更ニ之
 ヲ擴張シ水深十二米ニ浚漑スルノ必要アルモ之ガ所要工費五千餘萬圓ニ達シ目下ノ財政狀態ニ於テ其
 支辨ハ容易ナラズ依テ第二期工事トシテ

一 西口笠瀨ヨリ周防灘ニ至ル航路ヲ十一米ニ浚漑シ

二 東口ニ於テ本航路タル北水道ノ外中央水道ヲ八米ニ浚深シ主トシテ六千噸級船以下ノ航路タラシメ

以テ通航ヲ整理シ大型船ノ航通及碇泊ヲ安全且容易ナラシメ世界交通上ノ大勢ニ順應セムトス其計畫高ハ土砂浚深一千二百一萬立方米、除礁百五十八萬七千立方米ナリトス而シテ本年度(初年度)ノ豫算ニヨリ施工スベキモノハ右ノ内土砂浚深二十萬立方米、除礁十四萬立方米ナリ

施工狀況

本工事ハ起工以來二十箇年度ノ星霜ヲ經第一期ニ屬スル工事ノ施行年度ハ既ニ前年度ニ於テ終了シ其工事ハ同年度末迄ニ大體竣功シタルモ彦島金ノ弦岬沖ノ岩礁除却工事ノ實施ニ當リ特ニ作業困難ナル事情ヲ生ジ遂ニ其區域ノ一部未竣功ノ儘越年セルヲ以テ此部分ノ施工ニ要スル豫算ハ之ヲ本年度ニ繰越シ本年度ニ於テ新ニ著手セル第二期工事ト併セテ之ガ工事ヲ施行スルコトトセリ斯クテ本年度ノ施工ニ依リ第一期計畫ニ屬スル工事ハ全ク竣功シ第二期計畫ニ屬スルモノハ漸ク施行ノ端ヲ開ケリ其功程左表ノ如シ但シ第一期工事施行箇所ハ彦島南岸金ノ弦岬沖(高瀬ノ一部)ノミニシテ碎岩浚深ノ數量中ニハ碎岩船ヲ用ヒズ直接浚深船ヲ以テ軟岩盤ノ浚深ヲ爲セルモノ二萬六千六百七十立方米ヲ含ム

種別	數量	内訳		施行箇所
		第一期工事	第二期工事	
土砂浚深	三三〇、四五二 立方米	—	三三〇、四五二 立方米	小横瀬、六連出、大礮根、笠瀬
碎岩	五八、八六五	二四、二九三	三四、五七二	金伏瀬、小横瀬、與次兵衛瀬、高瀬、粗瀬、笠瀬

種別	數量	内		施行箇所
		第一期工事	第二期工事	
碎岩 浚 渫	九三、九六五	三八、〇三七	五五、九二八	金伏、與次兵衛瀨、高瀨、狙瀨、六連出、笠瀨

今各箇所別施工概況ヲ記スレバ左ノ如シ

金伏群礁 長府町前田沖ノ航路中心線ニ接近シテ孤立點在スルハダノ瀨、スキアガリ瀨、野山瀨、細瀨、高芋瀨、金伏瀨等ノ總稱ナリ孰レモ硬質ノ岩礁ナレドモ既ニ數年前水深十米以上ニ浚了シ目下數多ノ船舶ハ何等顧慮スル所ナク是等各殘礁上ヲ通航シツツアリ然ルニ今回更ニ水深一米ヲ増サントシテ浚渫作業ヲ開始スルニ至リシニ依リ作業船ハ從來ニ比シ甚ダシク危險ノ度ヲ加ヘシ爲メ本年度ニ於テハ作業船ノ前後ニ各挂燈浮標一箇ヲ碇置シテ其位置ヲ明示スルコトトシ舊立標跡ナル金伏瀨全體ニ互リテ碎岩ヲ爲シ次デ其一部ノ浚渫ヲ施行セリ

前田沖 海峽東口北水道ノ内前田沖ニ位スル部分ヨリ金伏群礁ヲ除ケル總稱ニシテ小横瀨、トウラゴ瀨、門司崎沖淺洲等ヲ包含ス本年度ニ於テハ先ヅ小横瀨ニ著工シ其東部ニ於テ約二萬五千立方メートルノ浚渫ヲ爲シ之ヲ計畫深度十一米ニ浚了シ別ニ其中央ニ於テ一部ノ碎岩ヲ施行セリ

與次兵衛瀨 彦島町弟子待ト門司市大里町トノ間航路ノ中央ニ位スル部分ヲ稱シ大里側法線ニ接スルニ挂燈浮標一個宛ヲ碇置シテ之ヲ防止スルコトトセリ本年度ニ於テハ航路ノ中心線ニ近キ部分ヨリ著工シ先ヅ碎岩船ヲ使用シテ碎岩シタル後其作業跡ノ浚渫ヲ施行シ大部分ヲ計畫深度十一米以上ニ浚了スルヲ得タリ尙右ノ外試ミニ碎岩船ヲ作業セシムルコトナク直接浚渫ヲ行ヒタルモ成績良好ナラザリ

シニ依リ暫時ニシテ中止セリ

金ノ弦岬沖 彦島南岸金ノ弦岬沖合南北兩法線ノ間ニ介在スル區域ヲ稱シ鳴瀬、狙瀬、高瀬等ヲ包含ス此區域中航路ノ中心附近ニハ前年度迄ニ竣功スベカリシ第一期工事唯一ノ殘部(高瀬ノ一部)アリキ而シテ右殘部ノ生ゼシハ作業船繫置ノ危險ニ依リ工事ノ遷延ヲ來タセシニ依ルモノナルカ本年度ニ於テハ作業船ノ繫鋪及錨鎖ノ大部分ヲ取替へ且作業位置ノ前後ニ各一個宛ノ挂燈浮標ヲ設置スルヲ得此附近一帶ニ互リテ碎岩竝ニ浚渫ヲ行ヒ極力作業ノ進捗ニ努メ水深十一米以上ニ浚渫スルヲ得タル部分少ナカラズ而シテ前記ノ殘部ハ此作業ニ依リ總テ水深十米以上トナリ二十年ニ互リテ施行セル第一期工事ハ茲ニ全ク竣功セリ尙此外大山鼻地先ニ於テ一小部分ノ浚渫ヲ施行セリ

大礮根附近 福浦沖南側ノ假法線ニ沿ヒ帶狀ヲ爲シテ連リタル區域ニシテ大礮根及六連出シヲ總稱ス本箇所中其東南部六連出シハ第一期工事ニ於テ既ニ水深十米ニ浚渫濟ナルモ西北部大礮根ハ未著工ノモノニ屬シ水深僅ニ五米内外ノ地點アリ航路ノ彎曲セル部分ニ近ク航通上障害少カラズ屢々大型汽船ノ此處ニ坐洲スルモノアルヲ以テ其水深ヲ増大シ航路ノ急激ナル彎曲ヲ改ムルコトハ最大ノ急務ナリ土質ハ六連出シニ於テハ硬粘土及岩盤ヨリ成リ大礮根ニ於テハ砂利中ニ岩礁散在セル部分ト貝殼混リ細砂ヨリ成ル部分トアリ本年度ニ於テハ之レガ除却ニ主力ヲ傾注シ浚渫區域中岩盤ヨリ成ル部分ハ大半ハ未竣功ノ儘殘リシモ貝殼混リ細砂ヨリ成ル部分ハ計畫深度ニ浚了スルコトヲ得タリ而シテ浚渫土量ハ二十九萬立方米餘ニ達セリ

笠瀨附近 彦島西山沖笠瀨、塵寄洲等ヲ總稱ス其位置航路ノ中心ニ近ク大礮根ト共ニ海峡西口航海上ノ一大難所タリ本年度ニ於テハ專ラ笠瀨ニ於テ工事ヲ施行セシガ同瀨ハ前記大礮根同様第一期工事ノ區

域外ニ在リテ今回第二期工事ノ計畫ニ基キ初メテ著工セシ所ナリ其西端ノ一部ニ同瀬ノ核心トモ稱スベキ硬質岩礁ノ隆起セルモノアリ其最淺水深ハ約三米六ニ過ギズ而シテ其南側ハ水深特ニ急激ニ増大シ懸崖ヲ成シ居リ作業甚ダ困難ニシテ功程ノ進捗極メテ僅少ナリキ其他ノ部分ハ主トシテ軟粘土ヨリ成リ浚深容易ナリシノミナラズ著工前ノ水深モ大ナリシ爲メ多クハ計畫深度十一米以上ニ浚了スルヲ得タリ

本年度ノ竣功高五十六萬九千十六圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ一千三百六十九萬一千七百九十圓トナリ既定工事費豫算高一千三百八十五萬三千十一圓ニ對シ九割九分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ水深維持工事ノ浚深土量「△」ハ評價品見積價額「▲」ハ寄附及提供材料價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚深費	* 一三三、〇二八、二〇一 <small>立方米</small>	五、〇九三、四六三、四 一、六六九、〇三三、五	* 四三六、四一七 <small>立方米</small>	一七八、六一九、四 一、一三三、三三三	* 一三三、〇二八、二〇一 <small>立方米</small>	五、〇九三、四六三、四 一、六六九、〇三三、五	一〇〇 <small>百分</small>
埋立及護岸費	▲	四一八、三三九、一 一、三九七、九二二、五	▲	四一八、三三九、一 一、三九七、九二二、五	▲	四一八、三三九、一 一、三九七、九二二、五	
船舶及機械費	▲	七、〇九八、四〇〇 一、三三八、二四四、四 四、八五五、一五五	▲	三三八、〇三七 一、四〇〇、八〇二	▲	七、〇九八、四〇〇 一、三三八、二四四、四 四、八五五、一五五	
測量費	▲	二〇六、八四七 三、六七四、七〇七 三、四八〇、〇〇〇	▲	六、八四五 二二、三、六九二 三、四八〇、〇〇〇	▲	二〇六、八四七 三、六七四、七〇七 三、四八〇、〇〇〇	
營業繕費	▲	四八、〇五七 七、四八四、四〇二	▲	三、二四〇 二、八	▲	四八、〇五七 七、四八四、四〇二	
雜費	▲	六四、八三五	▲	四二、三五五	▲	一〇七、一九〇	
共濟組合給與金	▲	五七、六五八	▲	八、四九九	▲	六六、一五七	
海底電線移設費	▲	一三五、二一九 二八、六二五	▲	一、三三二	▲	一三六、四四〇 二八、六二五	

本表ノ竣功額ヲ更ニ第一期及第二期工事ニ區分スレバ左ノ如シ

第一期工事

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	* 13,028.10 447.22 13,475.32 立方米	▲ 5,093.46 1,448.90 1,669.00 3,975.56	* 38,037	▲ 22,410.00	* 13,028.10 447.22 13,475.32 立方米	▲ 5,093.46 1,448.90 1,669.00 3,975.56	100
埋立及護岸費	▲ 4,183.91	▲ 4,183.91	▲ 4,183.91	▲ 4,183.91	▲ 4,183.91	▲ 4,183.91	
船舶及機械費	▲ 7,098.40 1,348.55 4,850.40	▲ 7,098.40 1,348.55 4,850.40	▲ 7,098.40 1,348.55 4,850.40	▲ 7,098.40 1,348.55 4,850.40	▲ 7,098.40 1,348.55 4,850.40	▲ 7,098.40 1,348.55 4,850.40	
測量費	▲ 2,067.87 3,478.00 5,545.87	▲ 2,067.87 3,478.00 5,545.87	▲ 2,067.87 3,478.00 5,545.87	▲ 2,067.87 3,478.00 5,545.87	▲ 2,067.87 3,478.00 5,545.87	▲ 2,067.87 3,478.00 5,545.87	
營業繕費	▲ 48,057	▲ 48,057	▲ 48,057	▲ 48,057	▲ 48,057	▲ 48,057	
雜費	▲ 64,835	▲ 64,835	▲ 64,835	▲ 64,835	▲ 64,835	▲ 64,835	
共濟組合給與金	▲ 57,658	▲ 57,658	▲ 57,658	▲ 57,658	▲ 57,658	▲ 57,658	
海底電線移設費	▲ 135,119 28,625 166,744	▲ 135,119 28,625 166,744	▲ 135,119 28,625 166,744	▲ 135,119 28,625 166,744	▲ 135,119 28,625 166,744	▲ 135,119 28,625 166,744	
總計	▲ 13,475.32 189,655	▲ 13,475.32 189,655	▲ 71,550.17	▲ 71,550.17	▲ 13,475.32 189,655	▲ 13,475.32 189,655	100

總計	▲ 13,475.32 189,655	▲ 56,901.26	▲ 13,475.32 189,655	▲ 70,427.77
----	------------------------	-------------	------------------------	-------------

第二期工事

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	398,380	157,209	398,380	157,209	398,380	157,209	40%
船舶及機械費		1,133		1,133		1,133	
測量費		286,576		286,576		286,576	
營業繕費		123,346		123,346		123,346	
雜費		6,030		6,030		6,030	
共濟組合給與金		2,854		2,854		2,854	
總計		497,466		497,466		497,466	99%

第一 鹽釜港修築工事

緒言

本工事ハ大正元年十一月宮城縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得テ起業シタルモノニシテ總工費三百四十五萬圓ヲ以テ大正三年度ヨリ工事實施中ナリシガ同六年度ヨリ内務大臣直接施行スル事トナリ即チ同年度ヨリ豫算額二百九十三萬三千圓ヲ以テ大正六年度ヨリ同十一年度迄六箇年度繼續事業トシテ施行中同十一年度ニ道路費ノ内へ三萬圓全部宮城縣負擔増額シ又歐洲大戰亂以來物價騰貴ノ影響ヲ受ケ工費ニ不足ヲ來セルニ依リ同十二年度ニ二百五十萬圓ノ増額ヲ行ヒテ總工費ヲ五百四十六萬三千圓内宮城縣負擔二百七十八萬八千圓ト爲シ竣功年度ヲ昭和四年度迄延長セシガ大正十二年九月帝都ニ未曾有ノ大震災起レルガ爲メ國庫財政ノ都合上更ニ一箇年度ヲ繰延べ竣功期限ヲ昭和五年度トセリ

港狀並計畫大要

本港ハ仙臺市ノ東方約十六軒松島灣ノ西南隅ニ位シ西北南ノ三面ハ殆ド丘陵ヲ以テ圍繞セラレ僅ニ東方松島灣ニ面ス港内水面狹ク市街地小ナリト雖モ本港ハ古來水陸交通ノ衝ニ當リ鐵道運河ノ便ヲ有シ水陸ノ聯絡稍良好ナリトス港内四時平穩ナルモ水深頗ル淺ク又松島灣ハ背後ニ山脈ヲ負ヒ島嶼前面ニ連リ常ニ風波ノ虞ナキモ灣内淺クシテ大船ヲ入ルルニ至ラズ灣ト外海トヲ聯絡スル水道四アリ其主要ナルモノヲ代ケ崎水道トス其東北約二軒ニ石濱錨地アリ水深大ニシテ巨船ノ碇泊ニ適ス修築工事ノ大要ヲ述ブレバ石濱錨地ノ入口ヲ港口ト爲シ其左右ニ南北防波堤ヲ築キ以テ大洋ヨリ襲來

ル風浪ニ對シ代ケ崎以東ノ外港水面ヲ掩護シ同錨地ノ碇泊及航行ヲ安全ナラシムルニ在リシガ外洋ニ於ケル防波堤ノ築造ハ施行容易ナラザルト築港ノ將來トニ鑑ミ寧ロ内港ノ充實ヲ圖ルノ利ナルヲ認メ大正十三年度ニ於テ既定計畫ノ變更ヲ行ヒ實施ト同時ニ之レガ築造ヲ中止セリ航路ハ港口ヨリ殆ンド一直線ニ代ケ崎ニ至リ少シク折レテ内港泊地ニ達セシム其延長五千米ニシテ幅員底幅九十一米、水深最大干潮面以下六米七トス

内港泊地ハ埋立地ニ面シテ水面積約三十三萬一千平方米ヲ有シ之レヲ最大干潮面以下七米六ト四米六ノ水深ニ浚深ス

埋立地ハ現在鐵道用地ノ東方ニ面積五十二萬九千六百平方米ヲ埋築スルモノニシテ其高ハ朔望平均滿潮面上一米七（最大干潮面上三米七）トス其東方ニ濕渠及貯木場ヲ設ク濕渠ハ三千噸級船舶及一千噸級船舶ノ繫船岸（三千噸級有効長三百三十米、一千噸級同二百七十米）ヲ備ヘ荷役ニ便ズ

埋立地ノ沿岸西方ハ魚類處理場、上屋倉庫敷地ニ充テ其東方ニハ薪炭、木材等ノ荷揚場ヲ設ケ鐵道トノ聯絡ヲ期スルト共ニ埋立地内ニハ一條ノ水路ヲ導キ各工場敷地ヘ水運ノ便ヲ圖ルモノトス其幅十八米乃至五十五米トス而シテ埋立地ノ道路ハ幅九米乃至二十二米トシ縱横ニ築設シ以テ交通ノ便ヲ圖ル要スルニ本計畫ハ新ニ五十二萬九千六百平方米ノ市街地及倉庫敷地ヲ埋築シ延長約二千米ノ荷揚場ヲ建設シテ一箇年約八十餘萬噸ノ貨物ヲ處理セシムルニ在リ

施行狀況

本工事ハ大正六年内務省所管ニ移リテ以來既ニ十三箇年ヲ閱シ爾來年ト共ニ工事ノ進行セルモノ多ク

最近巨船ノ入港漸次其數ヲ増加シ港勢ハ頓ニ上リ内港荷役ニ依ル貨物ノ移出入量ノ増加ヲ來タシ日ニ隆昌ニ向ヘリ今工事ノ概要ヲ記述セントス

浚渫 航路船溜及代ヶ崎水道狹窄部ノ擴張ヲ通ジテ最大干潮面下四米六ノ水深ヲ有シ航路ニハ六米七ニ達セル箇所多ク巨船ノ出入ニ支障無キ程度ニ至レリ而シテ本年度中施行セルハ前記代ヶ崎以東ノ外港航路竝ニ内港航路ト船溜ノ一部ニシテ前年度ヨリ繼續施行中ノ外港航路ノ海港岩盤箇所碎岩工事ハ所定ノ水深ニ碎岩浚渫シ竣功ヲ見ルニ至リ航行船舶ノ安全ヲ期シツツアリ

埋立 大部分竣功ヲ告ゲ本年度ニ於テ一部地盤軟弱ノ爲メ沈下セル箇所竝ニ護岸及岸壁裏込箇所ノ埋立等ヲ施行シ既成部分ノ工事上支障無キ箇所ハ前年度宮城縣ニ引繼ギ尙本年度ニ於テモ一部分引渡ヲ了シ利用サレツツアリ本年度中土量十一萬一千三百三十四立方米、累計二百四十一萬四千八百七十立方米ヲ算シ計畫土量二百二十五萬六千八百二十三立方米ニ對比シ土量ノ超過ヲ見タルガ地盤軟弱ナル箇所ノ沈下ニ因ルモノニシテ尙相當ノ土量ヲ要スル見込ナリ

岸壁及護岸 鹽釜町尾島地先ニ前年度來施行中ノ一米二ノ物揚場護岸ハ前年度迄ニ延長三百二米ヲ竣功セシガ殘工事ハ基礎惡シキヲ以テ特ニ其安定ヲ俟テ施行ノ豫定ナリ而シテ本年度ハ新タニ多賀城村地先ニ鐵筋混凝土護岸延長百十米ノ築造ニ著手シ其一小部分ヲ剩スノミニテ殆ド竣功セリ又同地先ニ施行セル四米六岸壁(延長二百八十三米)ノ内基礎岩盤ノ鐵筋混凝土部分長九十一米ハ既ニ前年度迄ニ竣功シ基礎軟弱ナル部分ノ鐵矢板岸壁(延長百九十二米)ハ目下施工中ニシテ其對岸七米六岸壁(延長三百四十九米)ハ本年度迄ニ百米ヲ完成シ二百四十九米ノ大部分モ殆ンド竣功ヲ告ゲ只コーピングノ場所詰混凝土竝ニ防舷材及繫船工ノ一部分完成セザルアルノミ

道路 埋立地ニ縱横ニ道路ヲ築造スルモノニシテ港橋以西ノ最モ緊急ヲ要スル箇所延長一千七百五十六米ハ前年度迄既ニ竣功ヲ告ゲ以東繫船岸壁ニ通ズル道路ハ岸壁工事竝ニ埋立工事ノ進捗ニ伴ヒ施行スル豫定ナリ

防砂堤 代ヶ崎水道ヨリ内港ニ侵入スル漂砂ノ防止ニ備フルモノニシテ馬放島ト地藏島間及代ヶ崎水道南側外港航路ニ稍竝行シテ捨石防砂堤ヲ築造シ前年度迄延長五百七十七米ヲ竣功シ本年度ニ於テハ捨石四百五十五米ヲ投ジ幅員ノ不足ヲ補ヒ延長三十米竣功シ漂砂侵入防止ニ對シ相當效果ヲ舉ゲツツアリ

水路 埋立地内ニ水運ノ便ヲ圖ル爲メ延長二千四百九十八米ノ水路ヲ掘鑿スル計畫ニシテ前年度迄ノ竣功長一千九百四十一米ニ達セリ尙本年度ニ於テハ所定ノ幅員ニ達セザル岩盤箇所ヲ水中爆破ニ依リ掘鑿シ竣功延長四百五十八米ニ達シ殆ンド竣功ヲ告ゲ殊ニ貞山運河トノ聯絡ハ大代、蒲生方面ト鹽釜間ノ水路ノ距離ヲ短縮シ頗ル舟楫ノ便ヲ増大セシメタリ

航路標識 前年度迄ニ地藏島上ニ燈臺一箇所、鹽釜町北濱及其西方山上ニ各一本ノ竿燈ヲ尙外港ニ於ケル目標トシテ外港航路入口ノ北側ニ一個、水島附近外港航路ノ南側ニ一個ノ挂燈浮標ヲ設置シ以テ航行船舶ノ安全ニ供ス

防波堤 大正十三年度ニ於テ計畫變更ト同時ニ打切竣功トシテ築造ヲ中止セリ

本年度ニ於ケル船舶及機械ノ修理製作ハ主トシテ附屬機械工場ニ於テ直營施行セリ其主ナルモノハ浚渫船、碎岩船、汽船、石油發動機船及土運船等ニシテ尙簡易ナル一部修繕ノ如キモノハ便宜民間ノ請負ニ附シタリ

本年度本港修築工事ノ竣功額ハ二十九萬一千七百八十圓ニシテ起工以來ノ累計ハ四百五十二萬六千六百十六圓ナリ之レヲ總額五百十五萬二千八百十四圓ニ對比セバ八割八分ノ竣功ヲ告ゲタリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚深費	四、〇七七、八七二 <small>立方米</small>	八三六、四一五	五六八、七三一 <small>立方米</small>	八〇、八二六	四、六四六、六〇三 <small>立方米</small>	九一七、二四一	〇・八三
埋立費	二、三〇三、五三六	八五九、二一五	一一一、三三四	二一、七六三	二、四一四、八七〇	八八〇、八七八	一・〇七
岸壁及護岸費	四三三	一五七、七八九	六〇	一一、五五六	四九三	二七六、三四五	
防波堤費	五四、二七三 <small>立方米</small>	二一、〇九〇	立方米		五四、二七三 <small>立方米</small>	二一、〇九〇	一・〇〇
防砂堤費	五七七 <small>箇所</small>	三七、二九八	三〇	八三二	六〇七 <small>箇所</small>	三八、一三〇	
航路標識費	五	一六、七五三	箇所		五	一六、七五三	
道路費	一、七五六 <small>米</small>	八五、四三〇	米		一、七五六 <small>米</small>	八五、四三〇	〇・九六
水路費	一、九四一	一九八、七七三	四五八	三、一〇二	二、三九九	二〇一、八七四	
材料採取及製造費		二七五、四〇七				二七五、四〇七	
雜工事費		九三、五三〇		一、一六七		九四、六九七	
用地費		五一、五〇一				五一、五〇一	
船舶及機械費		一、〇二〇、六八一		二九、二三五		一、〇四九、九一六	
營業繕費		四七、七五九		六五		四七、八二四	
雜費		五〇七、三三〇		三二、八二八		五三九、一四八	
共濟組合給與金		二五、四二六		四、四〇六		二九、八三二	
總計		四、二三四、二八六		二九一、七八〇		四、五二六、〇六六	〇・八八

第三 神戸港修築工事

緒言

曩ニ政府ハ本港修築計畫ヲ定メ對外貿易ノ一部ハ明治三十九年度以來神戸税關海陸聯絡設備トシテ大藏省ニ於テ起工シ翌四十年年度之ヲ擴張シテ小野濱前面ニ繫船突堤四條ヲ築設シ上屋其他ノ陸上設備ヲ施シ爾來年ヲ經テ其竣功部分ハ大正二年度以來税關ニ於テ利用ヲ開始シ舊來ノ面目一新シタリト雖モ歐洲大戰ニ於ケル本港對外貿易ノ發展ハ更ニ計畫ノ擴張ヲ促シ且港内ノ靜穩ヲ期スベキ防波堤ノ築造及對内貿易設備ニ至リテハ一日モ忽緒ニ附スベカラザルモノアリ茲ニ於テ神戸市ハ之ガ急施ヲ要望シ政府ニ向テ經費ノ一部ヲ負擔セラレンコトヲ稟請スルニ至レリ即チ政府ハ之ヲ採納シ總工費當初二千七百十萬圓ノ豫算ヲ以テ大正八年度工事ニ著手シタリシガ大正十三年度ニ於テ既定計畫ニ更改増補ヲ加ヘテ工費五百七十七萬八千二百八十二圓ヲ追加シタリ而シテ其工費ハ元十箇年度ナリシガ第一次繰延二箇年度第二次繰延三箇年度及一箇年度短縮ヲ見差引四箇年度ヲ延長シ十四箇年度ノ繼續事業トナレリスクシテ小野濱及海岸通地先ニ於ケル外國貿易設備ヲ初メトシ兵庫地先及國產波止場附近ニ於ケル内國貿易設備竝沖合防波堤ノ築造等將來本港ノ發展ニ資スベキ施設ノ完備ヲ期セントス其工費左ノ如ク國庫負擔二千四百十九萬六千六百五十八圓、神戸市負擔一千三百十四萬八千六百二十四圓、昭和四年度ニ於ケル節減額二十萬三千圓ノ内國庫負擔十二萬七千六百五十四圓、神戸市負擔七萬五千三百四十六圓ヲ控除スナリ但シ「」ハ節減額ニシテ内事業費十九萬五千八百圓、俸給及事務費七千二百圓ナリトス

費目	大藏省施行並同省ヨリ引繼豫算		追加豫算	現豫算	摘
	當初豫算	追加豫算			
外國貿易設備費	—	—	—	—	負擔歩合 國庫 二分ノ一
内國貿易設備費	—	—	—	—	負擔歩合 國庫 二分ノ一
防波堤築造費	△ 一、九二〇、〇〇〇	九、三〇〇、〇〇〇	一、四一三、四七八	△ 一〇、七一三、四七六	負擔歩合 神戸市 三分ノ一
總計	△ 二、七五〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇	三、二〇一、五〇一	△ 一四、六七一、五〇一	全部國庫×二ハ大藏省施行、△ハ引繼額
	四六七〇、〇〇〇	二七、一〇〇、〇〇〇	五、七七八、二八二	△ 三七、五四八、二八二	事業 三、五、一六八、六〇一 俸給及事務費 二、三、七九、六八一

港狀並計畫大要

神戸港ハ兵庫、神戸ノ兩灣ヲ以テ形成セラレ其經界ハ從來ノ北東脇ノ濱海岸ニ建設シタル立標ト南西和田岬ニ建設シタル立標トヲ以テ表示シ港内ノ面積九百九十萬平方米ナリシガ大正十三年三月一日勅令第四十七號ヲ以テ北東新在家町ノ南角ヨリ南十五度ニ引キタル一線ト南西和田岬ヨリ北八十四度三十分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界ト爲シタル區域内ニ擴張セラレタルヲ以テ此水面積一千九百八十萬平方米ヲ算シ海岸線ノ延長約十八軒ナリトス而シテ港内ヲ三區ニ分チ第一區ハ東防波堤北燈臺ヨリ零度ニ引キタル線ト同堤南燈臺ヨリ二百七十度ニ引キタル水域内、第二區ハ東防波堤南燈臺ヨリ二百七十度ニ引キタル線ト東堤ノ二及南防波堤内ノ水域内、第三區ハ第一區及第二區外ノ水域ニ屬シ汽船及帆船ハ主トシテ第一及第二區ニ軍艦及危險物ヲ登載シタル船舶ハ第三區ニ碇泊セシメ雜種船及小形船ハ各區ノ沿岸水域ニ繫留セシムルモノトス

本工事ノ計畫中外國貿易設備ニ對シテハ濱邊通地先ニ於テ面積二十六萬三千百平方米、海岸通地先ニ於

テ面積四萬六千平方米ヲ干潮面上三米三ニ埋立テ濱邊通地先ニ八十米乃至十二米ノ繫船岸壁延長二千六百一米ヲ築造シテ二萬噸以下ノ汽船繫留ニ適セシメ又濱邊通及海岸通ニ於テハ水深二米七乃至三米六ノ物揚場延長二千七百十三米ヲ築造スルモノトス

内國貿易設備ニ對シテハ海岸通地先ニ於テ面積六萬三百平方米、兵庫地先ニ於テ面積二十六萬九千七百平方米ヲ干潮面上三米三ニ埋立テ之ニ水深五米五乃至九米ノ繫船岸壁延長三千百六十八米ヲ築造シテ一萬噸級以下ノ汽船繫留ノ便ニ供スル外水深二米七乃至三米六物揚場ノ延長二千四百五十五米ヲ築造シ尙現在ノ鐵道棧橋ヲ改築スルモノトス

上記計畫中改良ヲ施シタルモノハ濱邊通ニ於ケル第五突堤ノ幅員ヲ百四十五米ニ擴大シ兩側上屋ノ中間ニ幅員三十六米ノ倉庫敷地ヲ設ケ貨物荷捌上倉庫ト上屋トノ聯絡ヲ近接迅速ナラシメ常時上屋内ノ貨物掃盡ニ利便ヲ考慮シタルト第六突堤ノ幅員ヲ百六十三米トシ其中央ニ幅員五十四米、長四百九米ノ水路ヲ設ケ其兩岸ヲ物揚場ニ充テ一面本船荷役ノ傍ラ上屋ノ背後ニ解船荷役ヲ併行シ得ベキ嶄新ナル設備ヲ施シ以テ水陸運送貨物荷捌上多大ナル便ヲ企圖セリ

沖合ニ於ケル防波堤ハ南及東ノ二堤ヨリ成リ之ニ假防波堤ヲ加ヘ總延長六千六百四十九米ニ達ス而シテ南堤ハ半島堤ヲ合シテ延長一千五百六十四米、東堤ハ既成堤一千百四十九米(大藏省施行)及其一、其二ヲ合シ延長三千九百九十四米ニシテ假防波堤ハ延長一千九十一米ナリ今其法線ヲ記スレバ大要次ノ如シ

南堤ハ港界ヲ表示スル和田岬立標ヨリ東微北ニ走ル一線上ニ於テ陸岸ヨリ二百七十三米ヲ隔テタル位置ヲ以テ起點トシ東西ニ延長一千二百十九米ヲ築造シ其終端ニ於テ東堤ノ頭部トノ間ニ二百七十三米ノ港門ヲ設置ス又陸地ト起點トノ間ニ副門ヲ存シ其西方ニ半島堤延長三百四十五米ヲ築キ以テ陸岸ニ

達セシム

東堤ハ一直線ニ北微西ニ延長一千五百十三米ヲ走リ既成防波堤トノ間ニ幅員九十一米ノ東副門ヲ存置ス之ヲ東堤ノ二トス而シテ東堤ノ一ハ既成防波堤ノ東端ヨリ東方ニ曲線ヲ描キテ走ルコト五百二十七米之ヨリ一直線ヲ以テ磁針方位南八十度東ニ八百五米ヲ延長シ尙其終端ヨリ北四十七度東ノ方向ニ於テ二百七十三米ノ第二港門ヲ設ケ夫ヨリ北ニ向ツテ一千九十一米ノ假防波堤ヲ築造スル計畫ナルヲ以テ此堤ニテ抱擁スル水面積ハ九百九十萬平方米ヲ算ス就中舢舨船及小蒸汽船ノ碇繫場ニ適スル船溜水面積ハ濱邊通四萬七千四百平方米、米利堅波止場附近十九萬三千七百平方米、國產波止場附近五萬一千六百平方米、兵庫新川沖十八萬九千八百平方米、合計四十八萬二千五百平方米ニ達ス

施工狀況

本年度ノ施工狀況ヲ便宜大別シテ外國貿易設備、內國貿易設備、防波堤築造竝ニ材料採取及製造ノ各項ニ分類シ其概要ヲ記述セントス

一 外國貿易設備

岸壁 濱邊通第五突堤及第六突堤ニ於ケル水深十米部ニ對シ吸揚浚渫船敏馬號ヲ運用シテ掘鑿跡ニ沈澱セル軟泥ヲ排除シタリ

濱邊通第一突堤増築工事ハ昭和二年八月以來繼續施行シタリシガ本年度ハ水深十米岸壁ニ於テ繫船設備延長百十三米、水深十米九岸壁ニ於テ上部基礎二十一米、混凝土工三十八米、繫船設備九十一米又水深十二米岸壁ニ於テハ繫船設備百二十一米ヲ施工シタル外接續部ノ整理工ヲ施シテ昭和四年八月三十一日

ヲ以テ本岸壁ノ完成ヲ告ゲタリ

濱邊通第五突堤水深十米部ノ床拵延長七十米、函沈置六十五米、填充工三十米ヲ施工ス又同第六突堤水深十米部ニ於テ床拵延長二百九十三米、函沈置二百八十米、填充工二百六十五米、裏詰百七十五米ヲ施工ス而シテ以上第五、第六突堤ノ本年度迄ノ功程ハ計畫ニ對シ七割ノ竣功ナリ

物揚場 本年度ハ海岸通突堤東側水深三米六物揚場ニ對シ基礎捨石延長十二米、荷重据置十米ヲ施工シタルニ過ギズ

埋立 海岸通突堤東側水深三米六、物揚場背後ニ於テ六千九立方米、濱邊通地先ニ於テハ主部上埋一萬二千三百二十四立方米、同第一突堤上埋ニ六千四百七十二立方米、同第五突堤上埋一萬八千八百十九立方米ヲ埋立テタル外濱邊通埋立地表ノ地均六千五百六十六平方米、同第一突堤ニ於テ一萬七千三百三十九平方米ヲ施工ス而シテ埋立用土砂採取ニハ唧筒浚渫船洞海丸及和泉丸專ラ其作業ヲ司リ前者ハ加古川筋ヨリ後者ハ紀ノ川筋ニ於テ採砂セリ

船溜防波堤 本年度ハ單ニ基礎捨石延長十三米ヲ施工シタルニ過ギズ
以上外國貿易設備ニ屬スル本年度迄ノ竣功歩合ハ六割五分ナリ

二 內國貿易設備

岸壁 海岸通水深九米岸壁部ニ於テ延長三百九十四米ノ基礎掘鑿ヲ施工シタル外兵庫第一突堤水深七米ニ岸壁部ノ軟泥ヲモ排除シタリ

海岸通水深九米岸壁ニ於テ床拵延長二百四十二米、函沈置二百二十六米、填充二百十四米、裏詰二十九米九ヲ施工ス

兵庫第一突堤水深七米二岸壁ノ床拵延長七十二米、函沈置七十六米、填充八十二米、荷重九十四米、裏詰六十三米、同水深九米、岸壁床拵延長十米、函沈置二十七米、填充二十五米、荷重四十五米、裏詰二十八米ヲ施工ス
兵庫第二突堤水深七米二岸壁ニ於テハ沈井工三箇所、連結工四箇所、又水深八米五岸壁ニ於テ沈井工二箇所、及連結工二箇所ヲ施工ス

岸壁上部工事トシテハ兵庫第二突堤水深七米二岸壁上部基礎延長三十二米、混凝土百九十六米、繫船設備百米、同水深八米五岸壁上部基礎延長五十七米、混凝土二百四十二米、繫船設備百五十六米、同水深九米岸壁上部基礎延長八十米、混凝土四百五十米、繫船設備百八十六米ヲ施工シテ功程八分ニ達ス

物揚場 兵庫地先ニ築造スベキ物揚場ハ同地帯ノ岸壁、埋立工事トノ關係上僅ニ各所ノ殘工事アルノミナルモ一舉ニ之ヲ完成セシムルコトヲ得ザル憾アリ本年度ハ水深二米七丙物揚場ニ於ケル方塊沈積十八米、同石垣七十四米、同水深三米六甲物揚場ニ於テ方塊沈積五米、石垣八十二米、同乙丙物揚場ニ於ケル石垣三米及同甲物揚場ニ於ケル石垣五米ヲ施工シテ岸壁、及埋立工事等トノ進捗上ノ步調ヲ期ス

埋立 兵庫下埋ニ要スル土砂ハブリストマン浚渫船ヲ運用シテ港内ヲ浚渫シタル外突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル土砂ヲ利用ス即チ第一突堤下埋ニ十二萬四千三百八立方米ヲ埋築シタル外下埋兼土留用トシテ直營採取ニ係ル砂礫二千百三十一立方米ヲ投入セリ

同所上埋用土砂ハ唧筒浚渫船洞海丸及和泉丸ヲ運用シテ加古川尻及紀ノ川口ヨリ採取輸送シタリ而シテ主部上埋ニ土量三萬一千五十二立方米、第一突堤上埋ニ九萬三千八百六十八立方米及第二突堤上埋ニ九千四百十八立方米ヲ埋築シタル外埋立地表ノ地均七千四百十六平方米ヲ施工ス
以上内國貿易設備ニ屬スル本年度迄ノ功程ハ七割五分ナリ

三 防波堤築造

東堤ノ一 基礎工事ニ於テ掘鑿延長六百五十三米、捨石五百八十米、荷重五百六十一米、上部床均二百三米ヲ又同函据付工事ニ於テ函沈置四十二米、填充三十一米、根固方塊据付三十五米ヲ施工シタル外同頭部基礎掘鑿二十七米ヲ施工ス

東堤ノ二 基礎工事ニ於テハ捨石延長十三米、荷重三米、上部床均七十八米ヲ又同函据付工事ニ於テハ函沈置延長三百九十二米、填充三百九十二米及根固方塊据付三百九十四米ヲ施工シタル外北頭部捨石二米、上部床均二十七米ヲ又本頭部ニ於ケル函据付工事ニ於テハ函沈置、填充竝根固方塊据付各延長二十七米ヲ施工シタルヲ以テ東堤ノ二ハ之レヲ以テ上部工ヲ除ク外全部完成ヲ告ゲタリ

四 材料採取及製造

直營採取材料ハ割石、砂礫、砂利、礫及砂ノ五種ニシテ割石及砂礫ハ兵庫縣津名郡岩屋町字鶴崎海岸ニ於テ人力及爆藥ヲ使用シテ斫出シ一定ノ陸路ヲ輕運車ニテ搬出シ運搬船ニ積込ミ曳船ヲ介シテ神戸港内所定ノ場所マデ海路片道約十二哩ノ間ヲ輸送ス本年度ノ採取量ハ割石五萬二千九百二十三立方米、砂礫二十六萬三千八百七十七立方米ナリ

砂利及礫ハ兵庫縣下加古川筋ニ於テ機械船ニテ採取シタルモノヲ小舟ニテ受ケ之ヲ高砂港口マデ漕航シテ更ニ運搬船ニ積換ヘ曳船ヲ介シテ神戸港内所定ノ場所マデ海路片道約二十八哩ノ間ヲ輸送ス本年度ノ採取量ハ砂利三萬八千八百九十四立方米、礫一千五百十六立方米ナリ

砂ハ混泥土用ニ適スル清砂ヲ要スルヲ以テ特ニ兵庫縣武庫川尻ヲ選ミ唧筒浚渫船和泉丸ヲ臨機運用シテ採砂自航ノ上神戸港内所定ノ場所マデ輸送ノ上陸上ニ藏置ス本年度ノ採取量ハ二萬四千三百六十立

方米ナリ

材料製造ハ岸壁竝防波堤用ノ鐵筋混凝土函ヲ主トシテ各種方塊竝函内若ハ函間填充用混凝土ノ三種ナリ

鐵筋混凝土函製造 本年度ニ於テハ岸壁函十九個五分製造、十九個引卸、防波堤函三十三個製造ノ上同數ノ引卸ヲ完了ス而シテ此總混凝土容積ハ一萬七千四百五十九立方米ニシテ配合ハ一、二、四ナリ但シ引卸個數ハ所要箇所ニ据付ケタルモノトス

方塊製造 本年度ハ防波堤用大方塊六百四十九個ヲ製造シ送出數七百三十一個ノ外異型方塊十二個ノ製造ト送出トヲ施行ス此混凝土容積四千八百二十八立方米七ニシテ配合ハ一、二、五ナリ

混凝土製造 主トシテ鐵筋混凝土函内及同函間填充用其他用ノ混凝土ヲ製造シタルモノニシテ本年度ノ製造量ハ一萬六千九百八十六立方米ニ達シ内函内填充用配合一、三、六一萬四千五百五十九立方米、函間及上部用配合一、二、五、六一萬八千四百四十四立方米并筒製造用配合一、二、四、百五十一立方米、并筒填充用配合一、二、五、六百六十立方米及函内補強用配合一、二、五、八百二立方米ヲ製造セリ

以上本年度施行ニ係ル本港修築工事ノ竣功高ハ百八十九萬五千十三圓ニシテ竣功累計高ハ二千六百四十六萬七千二百四十圓ニ達ス之レヲ總工費三千四百九十七萬二千八百一圓節減額十九萬五千八百圓控除ニ對比スルトキハ七割五分ノ竣功ナリトス其竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ材料採取及製造費ノ項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取材料代ヲ又「△」印ハ同項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル製造品ノ代金ヲ轉記シタルモノナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁費		八三三、三三三		二三八、七〇六		一、〇七一、〇三九	〇・五〇
護岸及物揚場費	六〇〇米	二、二八六、二八八		三、四八〇、九七六	六〇〇米	二、六四四、七八五	〇・五五
防波堤費	三、六一〇	一、一三六、三三三		一、九九九、九九九	三、六一〇	一、一四六、三三二	〇・七〇
船溜防波堤費	一六四	四、七二七、〇七〇	六〇〇	二、二二二、四〇九	一、一七四	四、九四九、四七九	〇・九四
埋立費	四、八六五、五九二	一、七九六、〇一六	一三	一、五三六、一八八	一、一七七	一、三三二、一九三	〇・六三
材料採取及製造費		一、八四四、四二四	三〇四、四〇一	一九五、五三五	五、一六九、九三三	二、〇三九、九五九	
用地費		六、二二一、八三五		一、九二八、二八		五、〇三二、〇〇	
船舶及機械費		六、五五六、〇七九		七、五四、四五二		六、九七六、二九一	
營業繕費		二、四、五三四		一〇一		二、四、六三五	
雜費		七、〇四〇、二六四		二、九六、五四六		七、三三六、八一〇	
共濟組合給與金		一、〇三四、四三三		四、四五六		一、〇三八、八八九	
總計		二、六六六、一四六		一、四一、四七六		一、六七八、一七五	
		五三、三三七		一八、〇七一		七一、四五八	
		二、四、五七二、二二七		一、八九五、〇一三		二、六、四六七、二四〇	〇・七六

第四 門司港修築工事

緒言

本工事ハ總豫算五百二十五萬圓(内門司市負擔八十七萬五千圓)ヲ以テ大正八年度以降八箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ナリシガ豫算ノ關係上大正十二年度ニ於テ工期二箇年度、同十四年度ニ於テ一箇年度ヲ延長シ超ヘテ昭和三年度ニテ工費不足額三十四萬圓ヲ追加シ更ニ同四年度ニ於テ一部計畫變更ニ伴フ工費三十一萬圓ヲ追加スルト共ニ工期一箇年度ヲ延長シ竣功期ヲ昭和五年度トシ且既定豫算ヨリ一萬圓ヲ減額シ豫算總額五百八十九萬圓(内門司市負擔百三萬圓)トナレリ

港狀並計畫大要

門司港ハ夙ニ世界交通ノ要衝ニ當リ船舶出入ノ頻繁ナル實ニ本邦諸港ノ首位ヲ占ム之ヲ以テ同港貿易ハ年々堅實ニ發達シ加フルニ關門海峽整理工事ノ進捗ト北九州工業ノ勃興トハ益々本港ノ眞價ヲ發揮セシムルニ至リタリト雖モ繫船及荷役ノ設備ニ至リテハ何等見ルベキモノ無ク貨物ハ殆ンド沖荷役ニ依リ處分セララルノ狀況ナルヲ以テ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルハ寔ニ焦眉ノ急ニ屬ス是レ本工事ノ因テ起リシ所以ナリ今現計畫ノ大要ヲ記スレバ左ノ如シ

白木崎ヨリ北東ニ向ヒ幅平均九十一米、延長一千三百二十七米ヲ平均最大干潮面以上四米ニ埋立テ其前面ニハ水深十米ノ繫船壁ヲ築造シ以テ外國貿易用ニ充テ一萬噸級汽船七隻内外ヲ同時ニ繫留セシムルモノトス

前記外國貿易用埋立地以東第一船溜入口ニ至ル間ノ沿岸幅約二十米ヲ埋立テ之ニ水深二米四ノ岸壁ヲ築設シ中國通ヒ汽船竝ニ公私汽艇繫留棧橋ノ設置箇所ニ充テ尙第一船溜内ハ其南隅ノ一部ヲ埋築シ其前面ヲ一米八岸壁トシ舳荷役ノ用ニ供スルモノトス

白木崎以南外國貿易用埋立地ニ隣リテ現在海岸ニ竝行シ沖合幅平均九十一米、長八百三十六米ヲ埋立テ其前面ニ水海三米六ノ岸壁ヲ築キ在來ノ貯炭場ヲ此處ニ移シ以テ石炭ノ荷役ニ供セントスルモノトス

前記新貯炭場西南端鐵道省埋立地ノ前面ニ當リ三米六岸壁見透線内ニ長六百七十三米ノ防波堤ヲ築造シ以テ舳船ノ碇泊ニ便ゼシムルモノトス前記二米四岸壁前面ニ浮棧橋二箇所ヲ設ケ以テ關門連絡及一般公共用ニ充ツルモノトス

施工狀況

前年度迄ニ於テ外國貿易部十米岸壁及石炭取扱區域三米六岸壁ノ大部ヲ終了セルヲ以テ本年度ニ於テハ主トシテ防波堤及二米四岸壁ヲ施工シ尙一米八岸壁及棧橋二箇所ノ工事ニ著手セリ工事ノ概況左ノ如シ

岸壁及防波堤用鐵筋混凝土函ノ製作工事ハ大正十三年度末迄ニ三米六岸壁函ヲ八十六個製作進水シ十米岸壁函ハ昭和二年度末迄ニ計畫數全部ヲ完成シ防波堤函ハ前年度ニ於テ三十個ヲ進水据付ケタリ本年度ハ前年度ニ於テ九步通り竣成ノ儘持越セル防波堤函二個ヲ進水シ更ニ三箇所ヲ製作シテ其内一個ヲ進水据付ケ殘數二個ハ略完成セシモ進水ハ後年度ニ讓レリ

塊製作工事ハ前年度迄ニ二米四岸壁用L型塊百八十個及方塊二百六十一個竝ニ防波堤函内填充用塊二

百四個ヲ製作シ本年度ハ二米四岸壁用I型塊百四十五個一米八岸壁用I型塊百十九個、方塊九十個、防波堤函内填充用塊二百八個及同根固方塊二百四十個ヲ製作セリ

岸壁工事ノ狀況左ノ如シ

(イ)石炭取扱所三米六岸壁ハ大正八年度ニ著手シ同十三年度迄ニ工用假船入場出入口約三十六米ヲ除キ他ハ殆ンド竣功シ前年度ニ於テ繫船柱三十八箇所ヲ施シタルガ本年度ニ於テハ防舷材ノ腐蝕セルモノ百二組ノ修理及同新設二十一組トヲ施行セシニ止マル

(ロ)外國貿易部十米岸壁ハ大正十年度ニ著手シ前年度迄ニ岸壁ノ主體全部ヲ完成シ本年度ニ於テハ僅少ナル未竣功部分即チ笠石八十八米三、防舷材二十二組五、同修理五組五、繫船柱九箇所ヲ竣功セシメタリ是レヲ以テ本岸壁ハ殆ンド完成シ防舷材修理五組五ヲ後年度ノ竣功ニ待ツノミトナレリ

(ハ)外國貿易部東側面ヨリ第一船溜入口ニ至ル二米四岸壁ハ前年度迄ニ鐵道棧橋以西ノ部分ヲ完成シ尙同棧橋以東七十米ノ基礎床掘ヲ施行シ本年度ハ前年度ニ引續キテ床掘其他ノ諸工事ヲ施行シ以テ大阪商船株式會社專用棧橋附近約二十五米ヲ除ク全長ニ互リテ大略之ヲ竣功セシメタリ即チ本年度ノ功程ハ床掘約二百二十四米、捨石二百九十米五、地形均二百八十五米、塊据付二百五十七米七、裏込二百七十四米、頂部混凝土鐵道棧橋下部及棧橋取付箇所三十一米五等ナリ

(ニ)第一船溜内一米八岸壁ハ本年度ニ入りテ著手セリ其功程ハ床掘二百五十五米、捨石百四十米、地形均百三十米、塊据付百三米五、裏込六十米ニシテ其他ノ工事ハ施行スルニ至ラズ

防波堤工事ハ大正九年度ニ一部ノ捨石ヲ施シ爾來休工シ昭和二年度末ヨリ再ビ捨石ニ著手シ前年度末迄ニ捨石六百十六米、混凝土函据付三十個延長五百七十三米、函内部填充混凝土百六十四米、同土砂填充百

四十五米、上部混凝土五十一米其他ヲ竣功シ本年度ハ函据付三個（累計三十三個）函内部混凝土填充四百三十六米（累計六百米）、函内部土砂填充四百五十六米（累計六百米）、上部混凝土五百四十一米（累計五百九十二米）、繫船柱七十三箇所、根固方塊百二十箇ヲ竣功セリ

棧橋工事ハ本年度ニ於テ新ニ追加著工セシモノニシテ棧橋通り前面二米四岸壁地先ニ二個ノ鐵筋混凝土浮函ヲ三十八米二ノ間隔ニ沈置シ而シテ各浮函ト後方岸壁トハ渡橋ヲ以テ連絡セシメ一ハ關門連絡渡船用トシ他ハ一般公衆用汽艇發著場タラシムルモノナリ

浮函ハ二個共岸壁用函製作場ニテ製作進水セシメタルモ浮函屋根及渡橋等ノ工事ハ施行中ノ儘年度ヲ越セリ

埋立工事ハ大正八年度石炭取扱所西端ヨリ著手シ次デ外國貿易部ニ及ボシ前者ハ大正十三年度迄ニ本工所用假船溜ニ供セル部分ヲ除キテ全部ヲ竣成シ後者ハ前年度迄ニ淺野セメント株式會社地先前面附近約百米ヲ殘スノ外竣功シ尙ホ前年度ニ外國貿易部二米四岸壁裏約百七十米ヲ施行セリ而シテ本年度ハ外國貿易部ニ於テ未竣功部ヲ完成シ內國貿易部二米四岸壁裏ニ於テ鐵道棧橋以東ヲ施工シ大阪商船株式會社棧橋附近約三十五米ヲ除キテ其以西ヲ完了シ其以東ヲ大略竣功セシメシモ施工中ノ儘後年度ニ移レリ

本年度ノ竣功土量五萬一千五百七十立方米ニシテ起工以來ノ累計百六十九萬八百三十立方米ヲ算シ此外民間等ヨリ投棄シタルモノ累計八萬六千六百六十二立方米ヲ加算スレバ其竣功歩合ハ九割五分ニ達ス而シテ竣功箇所ノ内石炭取扱所東部長五百七十三米、幅七十三米ハ門司市ニ對シ之ガ利用ヲ承認シ又外國貿易部埋立地ノ内東端ヨリ延長六百三十六米ノ區域ハ道路敷ヲ除キ之ヲ大藏省へ假引繼シ尙西端

附近ハ一部ヲ一時石炭置場ニ併用シ一部ハ淺野セメント工場ニ於ケル假荷役設備施行ノ爲メ一時其使用ヲ許可セリ

下水工事ニ於テハ本年度ハ二米四岸壁舊市營棧橋ノ下ニ流吐セルモノヲ完成シ尙榮川下水暗渠ノ設置ニ著手シ先ヅ暗渠函(長一米八)四十七個ヲ製作シ之ガ据付ケハ後年度ニ譲レリ

浚渫工事ハ前年度迄ニ内國貿易部中二米四岸壁前面ノ浚渫ヲ行ヒ本年度ニ於テハ同部ニ屬スル第一船溜内一米八岸壁前面ノ浚渫ヲ施行シ浚渫面積ハ豫定區域ノ大半ニ及ビ其大部ヲ計畫深度一米八以上ニ浚了スルコトヲ得タリ

其他工事に用諸機械ノ運轉、雜石、砂利、砂等ノ直營採取ヲ施行セリ本年度ノ竣功高ハ四十五萬六千八百二十一圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ四百九十二萬三千三百四十九圓(同上)ヲ算シ工費總豫算五百五十五萬二千九百二十圓ニ對シ八割九分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ表中「*」ハ民間等ヨリ直接埋立地内ニ投棄シタル土量、「○」ハ評價品見積價額、「△」ハ寄附並提供材料費ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備型枠費及雜石、砂利、砂等ノ採取費並ニ工事に用諸機械運轉費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	金額		
岸壁及防波堤費	—	—	—	—	—	—	—	—	—
埋立費	—	—	—	—	—	—	—	—	—
浚渫費	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第五 橫濱港修築工事

緒言

本工事ハ當初工費一千三百四十五萬圓ヲ以テ大正十年度以降十箇年度繼續事業トシテ施行中大正十二年九月一日ノ關東大震災ノ爲メ從來ノ港内諸設備ヲ全部破壊セラレタルヲ以テ之ガ復舊ニ一年有半ヲ費シ其間殆ンド施行中止ノ状態ニ在リシガ其完成直後同十四年度ヨリ再ビ本修築工事ニ著手セリ次デ昭和二年度ニ外防波堤築造費八百三十二萬圓ヲ追加シテ二千百七十七萬圓トシ事業年度ヲ延長シ十七箇年度繼續事業トシ竣功期限ヲ昭和十二年度トセリ然ルニ本港ノ現状タルヤ港内設備ノ改善竝外防波堤ノ築設頗ル急務ニ屬スルヲ以テ竣功年度ヲ短縮シ昭和九年度トセリ而シテ昭和四年度以降ニ於テ二十四萬六千圓ノ工費節約ノ結果總額二千百五十二萬四千圓(内事務費百二十一萬六千二百圓)トナリ内一千六百三十四萬二千四百十六圓ハ國庫負擔、五百十八萬一千五百八十四圓ハ橫濱市負擔ナリ

港狀並計畫大要

橫濱港ハ元橫濱村ト稱スル一漁村ニ過ギザリシモ安政六年六月開港以來其内外貿易ハ累年増進長足ノ進步ヲ爲シ神戸港ト相對峙シテ帝國ノ二大門戶タリ依テ政府ハ本港發展ノ趨勢ニ順應シテ明治二十二年度以降漸次防波堤、馴導堤及鐵棧橋ノ築造、港内ノ浚渫、海面ノ埋立、岸壁物揚場ノ築造、上屋、倉庫、鐵道、道路、橋梁、起重機其他ノ陸上設備竝防波堤ノ修繕、棧橋ノ改築等ヲ施行シ大正九年度迄ニ工費總計大約一千八百萬圓(内橫濱市負擔額二百七十萬圓)ヲ支出シテ大ニ本港貿易ノ増進ニ資スル所アリ港灣トシテノ設備

稍々見ルベキモノアリト雖モ駭々トシテ止マザル本港ノ發展ハ早クモ是レガ不備狹隘ヲ告グルニ至リタルヲ以テ政府ハ更ニ本港修築ノ必要ヲ認メ大正十年年度以降十箇年度繼續事業トシテ其豫算ヲ第四十四回帝國議會ニ提出シ工費一千三百四十五萬圓ノ協賛ヲ得テ横濱港第三期擴張工事ノ實現ヲ見ルニ至レリ然ルニ最近鶴見生麥方面ニ於ケル工業ノ發展著シク出入船舶益々多キヲ加フルト共ニ堤外繫泊船ノ増加ヲ來タシ海運不況ノ當時ニ於テスラ入港船舶ノ一割一分ハ堤外繫泊ノ已ムナキ狀況ニ在リ港勢斯ノ如キヲ以テ入港船舶ノ堤外ニ於ケル繫泊竝荷役ノ安全ヲ期スル爲メ更ニ安全ナル外防波堤ヲ施設スルノ要アルモ經費ノ關係上之ガ一部ノ築造ヲ追加シ其豫算ヲ第五十二回帝國議會ニ提出シ前述ノ如ク工費八百三十二萬圓ノ追加協賛ヲ得タリ

一 外國貿易設備

埋立 北防波堤内外ニ互リ面積三十三萬四千五百三十平方米ヲ朔望平均干潮面上三米八ニ埋立ツルモノニシテ延長約一千五百二十米、其幅員ハ三百十二米、二百五十一米及百五十米ノ三段ヨリ成ル又神奈川寄海岸ニ平行シテ港内側ニ小突堤ヲ築設ス

岸壁、物揚場及護岸 前記埋立地ノ港内ニ面スル部分ニハ總テ外航船舶ヲ繫留シ得ベキ延長一千四百九米ノ岸壁ヲ築造シ五萬噸級汽船一隻、三萬噸級一隻、二萬噸級三隻、一萬噸級二隻ノ接岸荷役ニ供シ又船溜ニ面スル部分ハ延長一千八百三十二米ノ岸壁及斜面物揚場トシ其他ノ沿岸ハ之レヲ護岸トス而シテ荷役能力ハ繫船岸ニ於テハ一箇年一米當リ五百五十噸トシ七十七萬五千噸、物揚場ニ於テハ同四百四十噸トシテ八十萬六千噸、合計一箇年百五十八萬一千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

舢船溜及舢船水路 小突堤ノ内側ト千若町及橋本町沿岸トヲ以テ包圍スル海面竝橋本町ノ一部ヲ水深
三米ニ浚深シ舢船溜トス其面積ハ航路ヲ除キ約八萬平方米ナリトス又埋立地背面ト在來防波堤トノ間
ニハ平均幅員約七十米、長約八百二十米ノ水面ヲ存置シテ水深三米ノ舢溜及水路ト爲シ其兩端ニハ在來
防波堤ノ一部ヲ除去シテ出入口ヲ設ケ尙新ニ延長百八十米及二百米ノ防波堤二條ヲ増築シ以テ舢船ノ
出入ニ便ス又大岡川口ニ延長二百米ノ波除堤ヲ築造シ水面積七萬八千平方米ヲ抱擁シテ舢船溜場ニ
充テ現在舢船ノ混雜ヲ緩和セントス

聯絡橋梁 埋立地ト千若町トノ間ニハ徑間三十六米一連、二十米二連、幅員二十四米ノ人道橋ヲ架設ス而
シテ其有効高ヲ朔望平均滿潮面上五米トス

二 内國貿易設備

埋立 表高島町地先ニ於テ面積六萬二千二百四十平方米、山内町地先ニ於テ同四萬九千九百十平方米、合
計面積十一萬二千五百五十平方米ヲ朔望平均干潮面上三米五ニ埋立ツ

岸壁、物揚場及棧橋 前記埋立地前面ノ内山内町地先ニハ延長四百二十三米ノ岸壁(橫棧橋)ヲ築造シ五千
五百噸級汽船三隻ノ接岸荷役ニ供シ又表高島町地先ニ於テモ棧橋二基ヲ築設シ以テ三千五百噸級二隻、
五千五百噸級二隻ノ接岸荷役ニ供ス其他ノ沿岸ハ物揚場及護岸トシ之ガ延長一千三百四十七米ヲ築設
セントス

而シテ荷役能力ハ繫船岸及棧橋ニ於テハ一箇年一米當リ五百五十噸トシテ五十三萬五千噸、物揚場ニ於
テハ四百四十噸トシテ四十二萬六千噸、合計一箇年九十六萬一千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

舢船溜 表高島町地先埋立地ノ背面ト在來海岸トノ間ハ其沿岸ヲ舢船ノ荷役ニ供スルト共ニ舢船ノ船

溜ニ充テ山内町地先埋立地ト淺野造船所埋立地トノ間ハ幅員七十八米ノ水面ヲ存置シ以テ埋立地舢舨船荷役ノ便ヲ計ラントス但シ該水面タルヤ地盤ノ關係上函製造工場用地トシテ他ニ求ムルヲ得ザル好適ノ箇所ナルヲ以テ本修築工事施行中ハ假ニ其一部ヲ埋立テ存置水面ノ幅員ヲ三十五米ニ止メントス

三 浚渫

岸壁ノ水深其他各設備ト相俟テ港内ヲ數區ニ分割シ其水深ヲ七米三乃至十一米トシ且港外ニ於テ幅員二百二十米、長九百米ノ航路ヲ水深十一米ニ浚渫ス其他舢舨溜等ノ浚渫ハ外國貿易設備地附近ノ部分ハ水深三米トセリ而シテ大正十年度以降同十二年八月末日迄ニ於テ面積二百三萬三千三百平方米、此浚渫土量九十三萬五千九百三十立方米ノ竣功ヲ見タリシガ同年十二月港内實測ノ結果既成部分ニ變更ヲ來シ面積百萬二千八百平方米、此土量六十五萬九千二百立方米トナレリ即チ大正十三年度以降浚渫スベキ面積ハ三百二十萬二百平方米ニシテ之ガ浚渫土量四百九十一萬八百立方米トス

四 繫船浮標

近時大型船舶ノ出入激増セル爲メ是等汽船繫留用ノ浮標増設ノ必要ヲ痛切ニ感ズルヲ以テ當初設計ノ設置數量ヲ變更シテ汽船一萬噸級七隻及三千噸級十隻ヲ設置スル豫定ナリ

五 外防波堤

本牧十二天ヨリ鶴見川尻ニ向ヒ起點ヨリ一千九十一米ノ間隔ヲ置キ延長一公里ノ防波堤一基ト夫レヨリ二百七十三米ノ間隔ヲ置キ延長一千二百七十三米ノ防波堤一基トヲ築造シ以テ現在防波堤外繫溜船舶ニ最モ危險ナル東風及東南風ヲ防止セントス

施工狀況

本工事ハ前年度ニ引續キ施行ス其概要左ノ如シ

一 岸壁及護岸

(イ) 三米岸壁及物揚場 施工延長一千百一十一米ニシテ大正十四年十二月工事ニ著手シ前年度迄ニ延長一千一十米ヲ竣功シ本年度ハ殘餘百米ノ施工中ナリ

(ロ) 十米岸壁 延長五百二十八米ニシテ大正十五年五月其西北端ヨリ工事ニ著手シ前年度迄ニ於テ延長四百三十三米ヲ本年度ハ同五十七米ヲ竣功セリ

(ハ) 九米岸壁 延長三百二十七米ニシテ昭和二年三月工事ニ著手シ本年度ハ防舷工ノ殘部ヲ施工シタルノミニシテ昭和四年十二月全部ノ竣功ヲ告ゲタリ

(ニ) 二米七物揚場 山内町地先埋立ノ西側ニ延長百五米ヲ施工スルモノニシテ昭和二年十一月工事ニ著手シ前年度迄ニ於テ延長六十五米ヲ竣功シ本年度ハ附屬工ノ一部ヲ殘スノミニシテ殘部ノ四十米ヲ竣功セリ

(ホ) 護岸及二米岸壁 表高島町地先ノ埋立地周圍ニ護岸延長五百五十九米、物揚場延長六百七十九米、計一千二百三十八米ヲ築設スルモノニシテ昭和三年六月鐵道省寄ヨリ工事ニ著手シ前年度ニ於テ延長三十米、本年度ハ同二十五米ヲ竣功シ三百五十一米ハ目下工事中ニ屬ス

(ヘ) 八米岸壁(山内横棧橋) 山内町地先埋立前面ニ延長四百一米ノ横棧橋ヲ築設スルモノニシテ昭和三年五月工事ニ著手シ本年度末ニ於テハ附屬工ノ一部ヲ殘シ延長百二十米ヲ竣功セリ

(ト) 第一號棧橋 表高島町埋立南東側ニ長百三十五米、幅二十五米ノ棧橋ヲ築造スルモノニシテ昭和三年八月工事ニ著手シ本年度ニ於テ附屬工ノ一部ヲ殘シテ殆ンド竣功セリ

(チ) 第二號棧橋 第一號棧橋北東側ニ是ト竝行シテ長百五十米、幅三十九米ノ第一號棧橋ト同式ノ工事ヲ施工スルモノニシテ昭和三年十月工事ニ著手シ本年度末ニ於テ基礎工ノ全部ヲ竣功シ上部工ハ全面積ノ約六割竣功セリ

(リ) 扶壁體及鐵筋混凝土圓筒構製作 本年度ニ於テ扶壁體ハ三米岸壁及物揚場用六個山内横棧橋用三十個、七米二岸壁物揚場用二個、計三十八個又圓筒構ハ山内横棧橋用四個、表高島第一號棧橋用八個、同第二號棧橋用三十四個、計四十六個ノ製作ヲ爲セリ

(ヌ) 床版及混凝土杭製作 床版ハ山内横棧橋及表高島第一號同第二號棧橋ニ使用スルモノニシテ各型ヲ取混ゼ二百七十八個又混凝土杭ハ表高島第一號棧橋用十二個、二米物揚場用九十九個、計百一十一個ノ製作ヲ爲セリ

(ル) 土丹採集 昭和三年五月起工市内長住町横濱船渠株式會社地先及港内浚渫區域内海底ノ土丹ヲ採集スルモノニシテ本年度ニ於テ一萬六千八百四十一立方米ヲ採取セリ

二 浚渫工事

浮島丸(鋤簾式)龍神(搔揚式)及二號、三號、五號及六號ノ(ブリストマン式)六隻ノ浚渫船ヲ使用シ水深十一米、九米、七米三、三米及二米七區域ヲ浚渫セリ此土量七十二萬三千四百三十三立方米ナリ而シテ之ガ浚渫土砂ハ底開土運船、側開土運船及甲板張土運船ニ搭載シ既定埋立區域内及港外沖合竝啣筒船ノ吸込箇所ニ投棄シ或ハ横濱市ニ讓渡シ其他ハ當所諸工事ニ利用セリ

三 埋立工事

外國貿易設備地 總面積二十四萬四千八百平方米ヲ前年度ニ引續キ施工セルモノニシテ本年度ニ於テハ面積二萬六千五百八十平方米、土量七萬六千四百三十立方米ノ埋立ヲ施セリ而シテ北東ハ外部護岸北西ハ三米岸壁及物揚場、南西ハ九米及十米岸壁ニ依リ其他ハ浚深土丹ヲ利用シテ土留堤ヲ築造セリ
內國貿易設備地 山内町地先橫棧橋裏側面積一萬九千二百平方米及往年ノ震災ニ依リ西南端土留堤ノ一部決潰シタル爲メ墜落セル部分ヲ追加施工スルモノニシテ昭和三年四月工事ニ著手シ前年度ニ於テハ土量一萬六千五十餘立方米ノ埋立ヲ爲セルモ本年度ハ工事ノ關係上僅ニ五百二十二立方米ノ土量ヲ埋立セルニ過ギズ

表高島町地先埋立地ノ一部面積三萬一千二百平方米ヲ干潮面上三米四八ノ高サニ埋立スルモノニシテ昭和四年二月工事ニ著手シ本年度ハ土量七萬九千四百六十二立方米ノ埋立ヲ施行セリ

四 防波堤工事

外防波堤築設工事ハ昭和三年七月鶴見側寄北端ヨリ工事ニ著手シ前年度ニ於テ延長四百五十米、本年度ニ於テ延長四百四十米ノ基礎捨土丹ヲ施行セリ

五 橋梁工事

昭和二年一月起工シ前年度迄ニ於テ全工事ノ九割ヲ進捗シ本年度ハ其殘部ヲ施工シタルモノニシテ昭和四年七月三十一日工費五十六萬七百四十四圓(內五萬九千八百四十五圓ハ製作品及古材料使用評價額)ヲ以テ全工事竣功シ瑞穂橋ト命名ス

六 營繕工事

本年度ハ建物工場設備並諸種ノ修理ニ八千六百七十二圓ヲ要セリ
七 船舶及機械修理製作

本年度ニ於ケル船舶及機械ノ修理製作トシテハ横濱港修築第一工場同第二工場所要諸機械ノ製作並浚
渫船八隻碎岩船一隻起重機船五隻汽船十隻自働艇並發動機船十四隻雜船六十四隻及其他諸機械ノ修理
ヲ爲セリ而シテ船舶及機械ノ修理製作ハ主トシテ直營ヲ以テ施行シタルモ工事ノ都合上其一部ヲ請負
ニ附シタリ

前述ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ竣功額百三十三萬九千三百二十二圓創業以來本年
度迄ノ竣功額九百三十九萬二千六百九十六圓ニシテ工事費二千三十萬七千八百圓ニ對シ四割六分ノ竣
功ヲ見タリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中雜費中ニハ營繕工事費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計額	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
岸壁及護岸費	二、六六九	一、八八三、九九三	二、四二二	七、一〇、〇八三	二、九一一	二、五九四、〇七六	〇・四六	
浚渫費	三、一六五、七九七	九三四、七三八	七、三三三、四三三	八、二五三、一一一	三、八八九、二三〇	一、〇一八、二六九	〇・八九	
埋立費	一、六五三、九七三	二、二二三、二六五	一、五六一、四一四	三、〇、九六五	一、八一〇、三八七	二、五四、三三〇	〇・四一	
防波堤費	四〇〇米	一〇七、八六〇	一箇所	二八、五四二	四〇〇米	一三六、四〇二	〇・〇二	
橋梁費	一箇所	四七六、九五二	一箇所	二二、九四七	一箇所	五〇〇、八九八	〇・七五	
繫船浮標費	七箇	一八三、六二八	一箇	二二、三三〇	七箇	一八三、六二八	〇・四五	
船舶及機械費		二、八六〇、五一二		二、五一一、七一七		三、三一一、三三九	一・〇一	
雜費		一、三三〇、七三四		一九〇、六八〇		一、五二一、四一四	〇・八八	
共濟組合給與金		五二、六九三		一九、八五七		七二、五五〇	四・七七	

第四章 港灣改良工事（横濱港修築工事）

總	
計	
	—
	八〇五三三七四
	—
	一三三九三三三
	—
	九三九二六九六
	〇四六

第六 清水港修築工事

緒言

本港ハ近時港勢ノ發展顯著ナルモノアルニ拘ラズ其設備頗ル不完全ニシテ貨物取扱上不便尠カラズ之ガ修築ノ急務ニ屬スルヲ痛感シ以テ静岡縣ハ本港修築ノ計畫ヲ樹テ大正十年度ヨリ同十五年度ニ至ル六箇年度繼續事業トシテ總工費五百五十萬圓ヲ計上シ其二分ノ一ノ國庫ノ補助ヲ求ムルト共ニ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行方ヲ申請シ來リタルヲ以テ是ガ豫算ヲ第四十四帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ得タリ

次デ大正十一年度ニ於テ静岡縣ハ追加工事トシテ清水港内三保村地先ノ海面五十一萬一千七十平方米ノ埋立ヲ計畫シ其工費六十七萬七千圓ヲ縣費支辨ノ下ニ施行ノ義ヲ申請シ來リシガ是亦第四十五議會ノ協賛ヲ得タリ然ルニ最近ニ至リ港勢急激ニ進展シ當初ノ計畫ニテハ尙不備ナルヲ認メ昭和四年静岡縣ハ擴張工事トシテ總工費百八十萬圓ヲ計上シ内八十萬一千圓ヲ國庫補助トシ之ガ施行ノ件ヲ申請シ來リ第五十六議會ノ協賛ヲ得テ施行スルコトトナリタリ斯クテ是等工事ニ要スル總工費ハ七百九十七萬七千圓(内事務費六十一萬五千三百四十圓)トナレリ本修築工事ハ當初大正十五年度ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシガ偶々政府ノ財政緊縮竝ニ擴張工事ノ爲メ昭和六年度迄即チ五箇年度ノ延期トナリタリ大正十三年度ニ鐵道省ハ省用炭陸揚設備ノ不備ナルヲ以テ静岡縣ト協議ノ上巴川河口以南ノ埋立地三萬五千六百七十平方米ヲ讓リ受ケ其前面ニ繫船岸ヲ築造シ且其前面六萬六千六百十六平方米ヲ浚渫スルノ計畫ヲ樹テ之レガ施行方ヲ静岡縣ニ委託シ同縣ハ更ニ内務省ヘ施行方ヲ申請セシニ依リ内務省ニ於

テ施行スルコト、ナレリ其工費豫算額四十八萬二千二百圓ナリ

港狀並計畫大要

本港ハ本邦東海岸駿河灣ニ在リテ太平洋航路ノ樞要地ニ方リ横濱神戸兩港ノ間ニ介在シ東海道鐵道ニ沿ヒ能ク海陸ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ベク其地形トシテハ三保半島ニ圍マレ港内廣濶波浪常ニ平穩ニシテ水深ク海底ノ地質ハ泥砂ニシテ船舶ノ錨定極メテ安全ナル天然ノ良港ナリ

本港ハ古ヨリ沿岸貿易港トシテハ有數ノ港灣ナリシガ明治二十九年ニ至リ開港外々國貿易港ニ關スル規定發布セラルルヤ港ノ有志者此機失フベカラズト爲シ蹶起相協力シテ縣會ト共ニ政府ニ建議スル所アリ遂ニ其望ヲ達シ明治三十年六月開港外外國貿易港ニ指定セラルルニ至リ同三十二年八月更ニ開港場ニ指定セラレタリ

既往ニ於ケル本港修築工事ヲ視ルニ明治十一年度ノ築造ニ係ル清水波止場アリ舊問屋即チ當時回漕業者ノ發意ニ基キ完成セルモノナリ其後明治四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四箇年度間ニ互リ工費總額三十萬七千八百六十二圓ヲ以テ縣ニ於テ修築工事ヲ實施セリ即チ清水波止場ノ正北ニ當リ海岸ニ沿ヒ水面積約六萬一千五百五十平方米ノ船入場ヲ設ケ水深干潮面下二米一ニ浚渫シ延長六百三十三米ノ物揚場ヲ築造シ又從來ノ江尻船入場ニモ延長二百三十六米ノ物揚場ヲ増設シ水深二米一トシ清水船入場ヨリ江尻船入場ニ至ル海岸ニ沿ヒ總面積十六萬八千八百平方米ノ埋立ヲ施工セリ

然ルニ本港ノ港勢ヲ觀ルニ輸出入貨物ハ年ヲ逐テ増加シ昭和二年ニハ百十一萬二千噸ニ達スルノ狀況ニテ殊ニ本港ニ入港スル外國汽船ハ主トシテ米國航路ノ大型船ニシテ滯船期間ノ短縮ハ切實ニ其必要

ヲ感ズルニモ拘ラズ常ニ遠キ沖合ニ碇泊シ到底荷役ノ敏活ヲ期スル能ハズ貨物取扱上不利不便ナルコト甚大ナリト謂フベシ其他ノ入港船舶ニ對シテモ施設不充分ニシテ近時發展ノ趨勢ニ在ル内外貿易ヲ圓滑ナラシムルコト能ハザルモノアリ

齎ツテ縣下ノ産業狀況ヲ視ルニ富士、駿東地方ノ製紙、紡績、靜岡市ノ製茶、濱松市ノ木綿織物ヲ主トシ縣下各地方ノ工業生産額大正十一年ニハ一億八千四百萬圓ニ達シ且近時豐富ナル縣下發電力ノ計畫ハ五十餘萬馬力ニ達シ本港附近各種工業ノ勃興ヲ促スノ傾向ヲ有シ加フルニ富士、身延ノ中央線連絡ハ昭和三年四月ヲ以テ全ク完成シ甲信二州トノ經濟關係更ニ密接ノ度ヲ加ヘ本港ノ將來益々發展スルノ機運ヲ示シ來レリ尙本港ハ漁港竝木材港トシテ本邦屈指ノ良港タリ

左ニ計畫ノ大要ニ就キ述ベシ

清水波止場ト巴川トノ間其延長六百十八米ノ沿岸ヲ幅百九米ニ埋立テ港灣設備地ニ供ス其前面ニハ岸壁朔望平均干潮面下水深十米六ノモノ二百米、同八米五ノモノ百八十二米、同七米三ノモノ二百三十六米ヲ築造シ其前面ヲ水深九米一、八米五、七米三ニ浚渫シ二萬噸級ノ汽船一隻、八千噸級ノ汽船一隻及三千噸級ノ汽船二隻ヲ同時ニ接岸荷役ニ便セシメ巴川以南ノ沿岸其延長一千三十六米、幅平均二百五十五米ヲ埋立テ港灣設備地及工業用地ニ供セントス

三保村地先ノ海面五十一萬一千七十平方米ヲ埋立テ商工業用地トシテ港灣ノ利用發展ニ資セムトス浚渫ノ箇所及水深ハ十米六岸壁前面及航路幅三百二十七米乃至四百五十五米ヲ差當リ水深九米一、八米五岸壁前面幅三百二十七米ヲ八米五、七米三岸壁前面幅三百二十七米ヲ水深七米三ニ浚渫ス而シテ漁船ノ船溜ニ便センガ爲メ巴川下流湊橋以下河口ニ至ル延長九百九米ヲ幅三十六米、水深一米八ニ浚渫

ス

以上ハ原計畫ノ大要ナルモ大正十四年十二月及昭和二年十月其一部ノ計畫ヲ左ノ如ク變更セリ

一 原計畫ニ於ケル巴川以南ノ物揚場延長三百六十四米ノ内鐵道省委託ニ依ル岸壁工事ヲ施行ノ爲メ此延長二百六十八米ヲ減ズ

二 原計畫ニ於ケル護岸ハ將來ノ利用ヲ考慮シ大部分ヲ水深二米七ノ物揚場ニ變更セリ

三 原計畫ニ於ケル浚渫區域ノ内巴川前面ノ幅員二百三十六米ヲ將來航行船舶ノ安全ヲ期スル爲メ幅員三百二十七米ニ變更ス而シテ浚渫幅員變更ノ結果三保辨天地先ノ土地五千八百二十五平方米ヲ買收スルモノトス

四 甲物揚場ノ内南端ヨリ二十二米ト其内側不二見埋立地ノ内面積六千三百五十平方米トヲ減ジ以小舟溜ニ充當セントス之レガ爲メ不二見埋立地總面積ハ十七萬七千五百五十平方米トナル

五 貝島埋立地ノ南側ハ將來造船所用地ニ利用センガ爲メ其幅員西側ニ於テ十八米ヲ延長シ埋立面積六千二百二十平方米ヲ増加ス之レガ爲メ三保村地先ノ總面積ハ四十九萬八千五百二十平方米トナル而シテ南側ニハ木柵護岸工事ヲ施行ス

又昭和四年度ニ於ケル擴張工事ノ計畫ハ左ノ如シ

岸壁 現計畫ノ甲岸壁ノ北端ヲ更ニ二百米延長シ二萬噸級船一隻ヲ繫留セシム

埋立 前記岸壁ノ後方約九千平方米ヲ埋立テ市計畫ノ埋立地約一萬四千五百平方米ト接続セシム

物揚場護岸 前記埋立地ノ北側ニ七十米ノ護岸ヲ設ケ又西側ニ二百二十米ノ物揚場ヲ築造ス

防波堤 貝島埋立地ノ北西隅ヨリ北方ニ向ヒ長百二十七米ノ防波堤ヲ築造シ又舊船渠ノ入口ニ現存ス

ル延長約五十米ノ防波堤ヲ除却ス

浚渫 折戸灣内ニ於テ二十一萬九千二百平方米ノ水面ヲ水深七米三ニ浚渫シ尙現計畫ニ依ル甲物揚場ノ前面約九萬九千二百平方米ヲ水深二米七ニ浚渫ス

繫船浮標 前記折戸灣内浚渫區域ニ繫船浮標四個ヲ設置シ各三千噸級船ヲ繫留セシム

鐵道省委託工事ハ工費豫算額四十八萬二千二百圓ヲ以テ大正十三年十二月二十五日ニ起工シ昭和四年三月三十一日工費四十八萬二千二百圓ヲ以テ完成セリ

施工狀況

岸壁工事ハ乙岸壁ハ殆ンド完成シ甲岸壁モ裏込工及上部工事ノ各一部ヲ殘シテ完成ノ域ニ達セリ又追加岸壁ハ大函七個ヲ製作シ内五個ハ夫々所定ノ位置ニ沈設ス而シテ物揚場工事ハ甲物揚場斜面工ノ一部ヲ殘シテ竣功ス尙追加物揚場工事ハ長十五米四ノ小函十三個、長七米八ノ小函一個ヲ製作シ夫々所定ノ位置ニ沈設ス又護岸工事トシテハ貝島甲護岸ハ上部工事ノ一部ヲ殘シテ竣功ス之等ニ要セシ工費ハ合セテ十五萬六千四百九十九圓ナリ

埋立工事ハ三保地先十九萬六千二百十八立方米、不二見地先四萬六千六百五十立方米ノ埋立ヲ爲セリ又上均工事ハ三保地先二十萬四千五百六十八平方米、不二見地先二萬二千七百九十七平方米、合計二十二萬七千三百六十五平方米ヲ竣工ス之等ニ要セシ工費ハ合セテ六萬四千九百二十二圓ナリ其他浚渫工事ニ依リ受新田地先十一萬三千七百五十三立方米、清開地先一萬三千八十五立方米、追加埋立地域四萬三千二百二十二立方米ヲ施行セリ尙埋立地一部使用ノ代償トシテ使用者ニ於テ三保地先一萬八千二百六十

八立方米ノ埋立ヲ爲セリ

浚渫工事ハ椿號、菖蒲號、富士號（以上バケット式草薙、唧筒式）第三號、第四號及第五號ブリストマン浚渫船合計七隻ヲ使用シ浚渫計畫區域及岸壁基礎ノ浚渫ヲ行フ土砂運搬ハ曳船小蒸汽船三隻、石油發動機船二隻及土運船百二十立方米積六隻、四十二立方米積二隻、二十四立方米積七隻（内側開四隻、甲板積三隻）ヲ使用ス此浚渫土量合計四十六萬六千三百四十二立方米ニシテ工費九萬七千七百二十七圓ヲ要セリ

浚渫土砂ハ既定埋立區域内ニ投棄竝ニ當港ノ諸工事ニ利用シ若クハ民間ニ讓渡シ其他ハ港界外沖合ニ投棄セリ

防波堤工事ハ舊船渠ノ入口ニ存在セル北防波堤延長約五十米及南防波堤延長約二十米ヲ除却ス而シテ北防波堤ニ於テハ護岸ヲ補修シ且舟航ヲ便ナラシムル爲メ除却セル防波堤ノ基礎ヲ浚渫ス是等ニ要セシ工費ハ合セテ四千五百五圓ナリ

營繕工事ハ列記スベキ程度ノモノナク僅カニ諸修繕ヲ成シタル狀況ニシテ工費四百二十二圓ヲ要セリ船舶及機械費トシテハ事務所及機械工場所要ノ諸機械ノ製作及購入竝ニ浚渫船七隻、起重機船一隻、汽船一隻、小蒸汽船三隻、自働艇及發動機船六隻、土運船十六隻、雜船三十九隻及其他諸器械ノ修理ヲ爲セリ此額十一萬二百一圓ナリ

其他雜工事トシテ三保字平太夫ノ惡水ヲ排出セシムル爲メニ假排水路延長三百十米ヲ施工セリ此工費一千百九十七圓ナリ

前述ノ如ク諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ本年度ニ於ケル修築工事竣功額ハ四十九萬四千四百六十三圓ニシテ累計六百三萬八千五百五十一圓ニ達シ總工事費ニ比スレバ八割二分ニ當ル其工事竣功表左ノ

如シ但シ表中雜費中ニハ土地收用ニ係ル金額三十七萬三千八百六十三圓ヲ含ム

鐵道省委託工事				直轄工事				種別							
總計	雜費	船舶及機械費	浚渫費	岸壁及護岸費	總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	船舶及機械費	防波堤費	埋立費	浚渫費	岸壁及護岸費	費目	
														數量	金額
			四五八、五〇三 立方米	二八二 米								一、五七〇、四七七	三、八六三、九一四 立方米	七七八 米	前年度迄竣功高
四八二、二二〇	四二、七八三	一一一、九三九	七五、五四一	二四一、八五七 円	五、五四四、〇八八	三八、五〇九	七〇九、八一四	一四二、四九八	二、五九〇、五五八			三四六、三二九	八五九、六〇五 円	八五六、七七五	金額
												二四二、八六八	四六六、三四二 立方米		本年度竣功高
					四九四、四六三	一〇、一七三	五〇、〇一四	四二二	一一〇、一〇一			六四、九三二	一五六、四九九 円	九七、七二七	金額
			四五八、五〇三 立方米	二八二 米								一、八一三、三四五	四、三三〇、二五六 立方米	七七八 米	合
四八二、二二〇	四二、七八三	一一一、九三九	七五、五四一	二四一、八五七 円	六、〇三八、五五二	四八、六八二	七五九、八二八	一四二、九二〇	二、七〇〇、七五九			四一、二五一	一、〇二六、一〇四 円	九五四、五〇二	計
一〇〇				一〇〇	〇・八二							〇・七〇	〇・六五 円	〇・七〇	步竣功

第七 下關港修築工事

緒言

本工事ハ總豫算三百六十一萬圓(内下關市負擔百八十萬五千圓)ヲ以テ大正十年年度以降七箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ナリシガ豫算ノ關係上大正十二年年度及同十四年度ニ於テ工期各一箇年度宛ヲ延長シ竣功期限ヲ昭和四年度トシ更ニ昭和三年度ニ工費十五萬七千圓、同四年度ニ一萬一千圓ヲ減額シ豫算總額三百四十四萬二千圓トナレリ

港狀並計畫大要

下關港ハ本邦西部ノ要港ニシテ古來殷盛ヲ極ムト雖モ水深淺ク泊地狹隘ニシテ大船巨舶ヲ容ルルニ足ラズ殊ニ水陸聯絡設備ニ至リテハ一部鐵道構内沿岸ヲ除キ殆ンド之ヲ闕キ輓近内外貿易ノ急激ナル發達ニ伴フ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ハ最早天然ノ形勝ノミニ據ルヲ容サザルニ至レリ然レドモ時運ノ趨勢ト財政ノ狀態ハ未ダ遽ニ大計畫ノ施設ヲ容ルル能ハザルベキヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ讓リ先ヅ以テ焦眉ノ急ニ應ズル程度ニ於テ修築工事ヲ施サントス其計畫ノ大要左ノ如シ

停車場以東ニ屬スル部分ハ内外貿易ニ充ツルモノニシテ其東端ハ內務省埋立地ニ接續シ現在海岸ニ沿ヒ幅五十四米内外ヲ干潮面以上三米八ニ埋立テ其前面ニハ東端ヨリ干潮面以下二米七岸壁延長二百六十七米、五米四岸壁延長二百二十七米、七米二岸壁延長五百九十六米ヲ築造シ七米二岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ延長百十八米ノ防波堤ヲ設ケ其内部ヲ船溜ニ充テ現在海岸ニ沿ヒ三米六岸壁延長百九十六米、一米

八岸壁延長四百九米ヲ築設スルモノトス

停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ下關驛西端貨車航送船發著場ノ北方護岸ニ接續シ中間ニ於テ幅百九米内外ヲ干潮面以上三米八ニ埋築シ其前面ニ五米四岸壁延長三百四十三米、東側ニ護岸延長百七十七米、西側ニ二米七岸壁延長百三十八米及護岸延長三十米ヲ築造スルモノトス埋立面積總計十三萬七千五百二十平方米ニシテ内東部八萬二千九百七十五平方米、西部五萬四千五百四十五平方米ナリ而シテ埋築地上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ待ツモノトス

岸壁ノ前面ハ總テ岸壁深ト同深ニ浚渫シ尙西部埋立地前面ニ横レル淺洲ヲ干潮面以下三米二、同所ト停車場トノ間ニ介在スル淺瀬ヲ同五米四ニ浚渫スルモノトス

以上既定計畫ノ外ニ昭和三年度、同四年度ニ互リ左記工事ヲ追加計畫セリ

唐戶町地先二米七岸壁前面ニ長二十米、幅九米一ノ鐵筋混凝土製浮棧橋二箇所ヲ設ケ一ヲ關門渡船用ニ他ヲ一般公私船舶用ニ充テ尙ホ岬之町地先一米八岸壁前面ニ長十四米五、幅六米四ノ鐵筋混凝土製浮棧橋一箇所ヲ設置シ汽艇ノ發著繫留ニ便セリ

施工狀況

本年度ハ本修築工事ノ最終期ニシテ各工事共既ニ完成又ハ完成ニ近キヲ以テ本年度ハ夫等未竣功部ヲ前年度ニ引續キ施行完成セシメタリ
各工事ニ就テ其概況ヲ記セバ左ノ如シ

岸壁及防波堤用鐵筋混凝土函製作ハ大正十四年度末迄ニ五米四岸壁函二十九個ヲ昭和二年度末迄ニ七米二岸壁函三十二個ヲ前年度末迄ニ防波堤函六個ヲ進水シ所要函全部ノ製作ヲ終了セリ

岸壁及護岸用I型塊及方塊製作ハ西部埋立地ノモノハ大正十三年度迄ニ全部方塊二百二十四箇I型塊八十箇(東部埋立地ノモノハ前年度迄ニ方塊百一個、I型塊四百三十七個、防波堤函内填充用塊七十個ヲ製作シ本年度ニ於テハ一米八岸壁用I型塊四十個、方塊二十三個ヲ製作セリ起工以來ノ累計ハ方塊三百四十八個、I型塊五百五十七個、填充用塊七十個ニ達ス

岸壁、防波堤及護岸築造工事ハ當初西部五米四岸壁ニ著手シ漸次東部ニ及ボシタリ西部工區ハ前年度ニ全ク竣功シ東部工區ハ大正十三年度ニ五米四及七米二岸壁ノ築造ニ著手シ年ヲ重ヌルニ從ヒ漸次他ノ諸岸壁ヲ施工シ前年度末迄ニ三米六及一米八ノ兩岸壁ヲ除ク他ノ諸岸壁ノ主體ハ殆ンド完成セリ本年度ニ於テハ上記兩岸壁ヲ引續キ施行シ尙新シク追加セル一米八岸壁ノ棧橋繫留所及二米七岸壁ノ一部竝ニ五米四及七米二ノ兩岸壁全長ニ跨ル前床混凝土ト他ノ殘存小工事トヲ施行セリ其施工狀況左ノ如シ

(イ) 東部五米四岸壁 防舷材取付箱三十七箇所、防舷材修理二十七組、前床混凝土二百三十六米三ヲ竣功シ本岸壁ヲ完成ス

(ロ) 七米二岸壁 笠石六米、階段一箇所、防舷材取付箱九十四箇所、前床混凝土五百九十六米三ヲ施行シ本岸壁ヲ完成ス

(ハ) 東部二米七岸壁 棧橋設置箇所ノ頂部混凝土十六米八、繫船柱四箇所、防舷材修理四十組、前床混凝土二十一米ヲ施行シ本岸壁ヲ完成ス

(ニ) 東部三米六岸壁 岸壁ノ主體捨石地形均塊据付ハ各全長二百三十米ノ内約二百二十二米竝ニ笠石五十三米六斜路五十二米七繫船柱五箇所其他ヲ前年度ニ施工シ本年度ハ前記諸工事ノ殘部即チ笠石百八十一米八階段一箇所斜路百六十八米二防舷材三十七組繫船柱十三箇所及一米八岸壁ノ浮函繫留所ニ接續スル頂部混凝土延長九米等ヲ完成シ本岸壁ヲ竣功ス

(ホ) 東部一米八岸壁 前年度ニ於テ全長四百米ニ對シ捨石二百九十八米六地形均九十米四塊据付七十七米六ヲ竣功セリ本年度ハ以上三工事ノ殘部ヲ完成ニ引續キ裏込及階段ヲ施行シ背面埋立ノ完成ト共ニ殘餘ノ諸工事ヲ完成セリ即チ斜路三百二十六米五笠石四百米九階段一箇所防舷材六十二組繫船柱二十九箇所棧橋繫留所一箇所及同繫留所附近ノ頂部混凝土二十米ヲ竣功シ本岸壁ヲ完成セリ

(ヘ) 東部護岸 西細江船溜一米八岸壁ノ西端ト舊在來護岸トノ接續箇所ヲ間知石練積トシ其延長一米五ヲ施行完成セリ

防波堤工事ハ延長百二十七米ニシテ前年度ニ於テ殆ンド竣功セルヲ以テ本年度ニ於テハ僅少ナル殘在部ヲ施行シ本工事ヲ完成セリ即チ本年度ノ施行部ハ上部混凝土九米九繫船柱三箇所防舷材四十六組及照明燈一基ナリ

棧橋工事ハ前年度ヨリ施行セルモノ即チ關門連絡渡船其他港内通航汽艇發著用ノ唐戶地先二米七岸壁前面ノ二箇所ハ前年度ニ於テ是ニ要スル鐵筋混凝土浮函ヲ約九割渡橋懸柱等ヲ約四割竣功セシメ本年度ハ其殘部ヲ引續キ施工シテ完成セシメタリ

而シテ尙本年度ニ於テ更ニ岬之町彦島間ノ連絡渡船用棧橋一箇所ヲ岬之町地先一米八岸壁ノ東端附近ニ追加計畫シ之レヲ完成セシメタリ本棧橋ハ豫メ一米八岸壁ノ一部ニ所定ノ凹部ヲ切込ニ此所ニ鐵筋

混凝土浮函ヲ挿入シ其一端ヲ渡橋ヲ以テ地上ト連絡セシメタリ

埋立工事ハ當初西部工區ノ埋立ニ著手シ次デ東部工區ニ施行シタルガ昭和元年度ニ前者ハ完成シ後者ハ前年度迄ニ岬之町地先三米六岸壁ノ西端ヨリ約五十五米ノ地點ヨリ東方一帯ヲ竣功シ本年度ニ於テハ前記三米六岸壁ノ殘部及一米八岸壁全部ニ互ル背面埋立ヲ施工シ之ヲ完了セリ而シテ竣功箇所ノ内西部工區ハ前年度ニ於テ道路敷其他國有地トシテ存置スルモノヲ除キテ之ヲ下關市ニ下付引渡ヲ了シ東部工區ハ當初ヨリ竣功ニ伴ヒ逐次下關市ニ對シ利用ヲ承認シ市ハ假上屋棧橋事務所等ヲ建築シテ埋立地ヲ利用シツツアリ埋立ニ伴ヒテ舊海岸ノ下水ヲ新岸壁ニ導クモノ及舊海岸ニ平行スル集水下水道設置等ノ下水工事モ全ク完了セリ

浚渫工事ハ前年度迄ニ西部浚渫區域ヲ大部分竣功シ未著手箇所ハ僅カニ彦島埋立地ノ前面ニ横ハル淺洲中西北部ノ一小區域ノミトナリ細江船溜モ大部分竣功シ東部浚渫區域ニ於テハ岬之町防波堤沖南部町七米二岸壁及五米四岸壁前ノ各浚渫豫定面積ノ約半ヲ計畫深度ニ竣了シ尙此外二米七岸壁前ノ浚渫ヲ全部竣功セシメ居タリシガ本年度ハ最終年度ナルヲ以テ前記各區域ノ未竣功部分全般ニ互リテ浚渫ヲ施行シ銳意工事ノ進捗ヲ計リシ結果悉ク之ヲ竣功セシムルヲ得タリ

前記諸工事ノ外ニ諸機械運轉及雜石、砂利、砂等ノ直營採取工事ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ三十八萬八千三百九十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二百九十三萬一千四百八十八圓ヲ算シ工費總豫算三百十九萬五千六百圓ニ對シ二十六萬四千百十二圓ヲ剩シテ竣功セリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ下關市及民間ヨリ埋立地内ニ搬入投棄セル土量、「○」ハ評價品見積價額、「▲」ハ寄附及提供材料價額ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備費、型枠費及雜石、砂利、砂等ノ採取費

並ニ工事用諸機械運轉費ヲ含ム尙之ニ事務費ヲ加算スル時ハ總竣功高三百十三萬三千八百九十六圓ナ
リトス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及防波堤費	立方米	一、二八六、二三三	立方米	一、〇四三、三六四	立方米	一、三三九、〇五六	四分
棧橋費		一七、〇三三		一八、〇四五		一八、〇四五	〇〇
埋立費		二七、一九		三、四三		八三、五一〇	〇〇
浚渫費	*	一六四、六六〇	*	二八、七五九	*	一九三、四一九	〇〇
船舶及機械費		三、八五一		九五、〇三五		三、八五一	〇〇
營業繕費		一八一、七五七		二八、七五九		一、五五二	〇〇
雜費		六八五、九九七		六九、七九三		七五五、七九〇	〇〇
共濟組合給與金		四、四二六		二、一八四		三、七二七	〇〇
總計		二、五四三、〇九三		三、八八、三九五		二、九三一、四八八	一〇〇

第八 敦賀港修築工事

緒言

本工事ハ事業費三百十九萬圓、事務費二十一萬圓、合計三百四十萬圓、内福井縣負擔五十萬圓ヲ以テ大正十一年度ヨリ昭和四年度ニ至ル八箇年度繼續事業ナリシモ同十二年度ニ至リ關東大震災ノ影響ニ因リ竣功期ヲ昭和五年度迄繰延ベタリ次デ昭和二年二月ニ至リ既定計畫ノ一部ヲ變更スルト共ニ既設棧橋西方岸壁ヲ鐵道省委託工事トシテ工費四十三萬四千圓ヲ以テ施行スルコトトナリタリ

港狀並計畫大要

本港ハ古來北海ノ要衝ニ當リ其地勢東南西ノ三方ハ連山ニテ圍マレ北方ノ一面ノミ廣ク日本海ニ通ジ港内廣濶ニシテ水深ク大船巨舶ノ碇繫ニ便ナルモ尙此地方ニ多キ北風ニ對シ安全ナル能ハザルヲ以テ曩ニ明治四十二年度ヨリ大正二年度迄ニ工費約七十三萬三千圓ヲ以テ金ヶ崎突堤ヲ延長シ港内ノ浚渫、埋立、棧橋等當面ノ急ニ應ズル施設ヲ爲セシモ其後軍事上及經濟上重要ノ地位ヲ占ムルニ至リタルノミナラズ貨客ノ激增ニ依リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至リ本計畫ヲ樹ツルニ至レリ左ニ當初計畫ノ大要ヲ記ス

防波堤 既設防波堤ヲ同一方向ニ三百九十一米延長シ北風ニ對シ笹ノ川見透線以東ノ水面ヲ掩護セン
トス

岸壁及埋立 既設棧橋西方ニ之ニ接續シテ幅平均五十五米、長百六十四米ヲ埋立テ其前面ニ水深八米五

岸壁ヲ築造シ六千噸級汽船一隻ノ接岸荷役ニ供シ又筥ノ川右岸ヨリ長三百四十五米、幅九十一米ノ繫船埠頭ヲ築造シ其内側ニ八米五岸壁百六十四米竝ニ七米三岸壁五十四米ヲ築キ六千噸級汽船一隻又ハ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供シ又該埠頭ト兒屋ノ川々口トノ間ニ長四百九十米、幅約七十三米ヲ埋立テ其前面ニ七米三岸壁三百九米、五米五岸壁二百米ヲ築造シ三千噸級汽船二隻及二千噸級汽船其他小型船ノ接岸荷役ニ供セントス

浚渫 岸壁ノ築造ニ伴ヒ港内ノ水深モ之レニ相應セシムル様浚渫ヲ施シ以テ水深七米以上ノ水面三十三萬平方米ヲ得ントス是等浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニテ埋立土量六十萬立方米其面積約七萬五千平方米ナリ

前記計畫ニ基キ工事ノ進捗ヲ圖リシガ昭和二年二月其計畫ノ一部ヲ左ノ如ク變更シタリ

防波堤及防砂堤 既定計畫防波堤ヲ更ニ百二十米延長シ又筥ノ川左岸ニ長三百八十米ノ防砂堤ヲ新設シ以テ筥ノ川ヲ港内ニ抱擁シテ其水面積ヲ擴大シテ船舶碇繫ノ便ヲ圖ラントス

岸壁及護岸 既定計畫ノ繫船埠頭ハ之レヲ廢シ兒屋ノ川左岸ヨリ筥ノ川右岸迄長五百八十六米、幅約七十三米ヲ埋立テ其前面ニ兒屋ノ川左岸ヨリ二百米ニ五米五岸壁其西端ヨリ長二百二十三米ノ七米三岸壁ヲ築キ三千噸級汽船及二千噸級汽船ノ接岸荷役ノ用ニ供シ夫レヨリ筥ノ川ニ達スル百六十三米ノ物揚場護岸ヲ設ケ舢舨或ハ小型船ノ荷役ニ充テ將來必要ニ應ジ岸壁ニ變更可能ナラシム

既設棧橋西方埋立及岸壁工事ハ既定計畫ニ基キ其儘鐵道省委託工事トシテ施行ス

浚渫 繫船埠頭廢止ノ結果水深八米五ノ浚渫ヲ廢シ約八萬平方米ノ水面ヲ七米三ニ浚渫シ以テ水深七米三以上ノ水面四十萬平方米ヲ得ントス是等浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニテ埋立土量二十一

萬立方米ニシテ埋立面積内務省工事約四萬四千平方米、鐵道省工事約八千平方米ナリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セル主ナル工事ハ防波堤、防砂堤、埋立、岸壁、函製造、石材斫出及材料採取等ニシテ其概要左ノ如シ

防波堤 前年度ニ引續キ基礎捨石ヲ施シ方塊二百九十七個ノ製作ヲ爲シ進ンデ函六個ノ据付竝ニ中埋
混凝土ヲ施シ更ニ頂部混凝土百八十米ヲ完成シ函内外保護方塊ノ据付ヲモ了シタリ

防砂堤 前年度ヨリ引續キ基礎捨石ヲ爲スト共ニ函十個ノ据付及五個ノ中埋砂ノ填充ヲ爲スト共ニ保
護方塊六十四個ヲ製作シ一部据付ヲ了シ頂部混凝土百五十米ヲ完了セリ

埋立 本工事ニ使用スル土砂ハ主トシテ浚渫船ニテ計畫區域内ヲ浚渫セルモノニシテ一部人力採取、沓
採石場不用土砂ヲ利用セリ本年度ノ工程ハ内務省工事五萬六千九百三十三立方米、工費三萬三百八十一
圓ナリ

鐵道省委託ニ係ル本年度竣功土量ハ一萬五千六百二十四立方米ニシテ起工以來ノ累計十四萬五十立方
米ヲ算シ本年度工費四千五百七十七圓、累計額六萬九百七十四圓ヲ以テ竣功セリ

岸壁 五米五岸壁ハ本年度ハ上部壁體工ノ殘部ヲ了シ完成ヲ告ゲタリ又七米三岸壁ハ五米五岸壁ニ接
續シテ西方ニ延長スルモノニシテ本年度ニ於テハ函ノ据付七個中埋混凝土ノ填充五個ヲ了シ頂部混
凝土約三十米ヲ施シタリ

鐵道省委託ニ係ル八米五岸壁ハ本年度ニ於テハ函二個ノ据付竝ニ中埋、混凝土及舊防波堤トノ繼手箇所

方塊積頂部混凝土等何レモ完成シ竣功ヲ見ルニ至レリ

函製造 本工ハ防波堤、防砂堤、岸壁用函ヲ製造スル工事ニシテ前年度ヨリ引續キ施行シ本年度内ニ防波堤用九米五函七個、防砂堤用三米函二個、同四米五函六個、同六米函一個、七米三岸壁用八米函七個ヲ製作進水セリ

石材斫出 割石ハ前年度同様當港ヨリ海上四籽ヲ距ツル沓及五籽ノ箇所ニアル鷺崎ヨリ斫出シ之レヲ運搬船ニ受ケ曳船ヲ介シテ曳航シ所要工事ニ配付スルモノニシテ本年度工程ハ内務省工事用トシテ四萬十立方米此工費十萬三千四百六十七圓、鐵道省工事用一千三百二十立方米此工費五千五百十六圓ナリ

材料採取 砂及砂利ハ敦賀港内及三方郡南西鄉村松原、同郡耳村和田地先海岸ヨリ直營採取セルモノニシテ本年度採取量ハ内務省工事用トシテ砂九千四百五十六立方米、砂利一萬三千百二立方米、鐵道省委託工事用トシテ砂一千五百三十八立方米、砂利八百三十五立方米ヲ採取シタリ又野面石ハ敦賀灣内ニテ直營採取スルモノニシテ本年度ニ於テ五百二十三立方米ヲ採取シタリ

鐵道省委託工事防波壁 本工ハ在來防波堤ノ天端面ニ施設セルモノニシテ昭和四年五月著手シ延長八十米ヲ完成シ工費七千四百六十一圓ヲ要シタリ

此外大函設備、一部修繕及鷺崎石材積出用埠頭第二次新設ノ爲メ七千五百圓又鐵道省委託大函設備修繕ニ七百八十二圓ヲ要セリ

船舶機械ノ修理製作ハ主トシテ附屬機械工場ニ於テ直營施行セシモ一部止ムヲ得ザルモノニ限り請負ニ附セリ其主ナルモノハ浚渫船、起重機船、汽艇、土運船等ナリ

本年度竣功額ハ五十一萬八千三百五十八圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二百五十四萬五千八百四

十二圓トナリ總工事費三百十九萬圓ニ比スレハ八割ノ竣功トナル又鐵道省委託工事本年度竣功額ハ六萬九千八百三十四圓ニシテ起工以來ノ累計四十三萬二百五十五圓ニシテ本年度ヲ以テ全ク竣功セリ其工事竣功表左ノ如シ

種別	直轄工事		鐵道省	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計	
	費目	數量		金額	數量	金額	數量	金額	數量
岸壁及護岸費	岸壁及護岸費	米	二、〇二七、四八四	一九八	四〇、九五四	一八五、八九〇	二、五四五、八四二	一九八	二、七五〇、〇〇〇
防波堤費	防波堤費	米	二一〇、五〇四	一五、六二四	六六、七二四	一四〇、〇五〇	二、〇九〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	二、〇〇五、〇〇〇
埋立費	埋立費	米	七六八、三三五	一五、六二四	三二六、八六七	一四〇、〇五〇	一、〇九五、二〇二	一五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
雜工事費	雜工事費	米	五八、七四四	一五、六二四	三〇、三八一	一四〇、〇五〇	八九、一二五	一五、〇〇〇	一〇四、一二五
船舶及機械費	船舶及機械費	米	六、四七二	一五、六二四	四六、四二二	一四〇、〇五〇	六、四七二	一五、〇〇〇	六、四七二
測量費	測量費	米	六七一、二八四	一五、六二四	八二〇	一四〇、〇五〇	七一七、七〇五	一五、〇〇〇	七三二、七〇五
營業繕費	營業繕費	米	五、四〇六	一五、六二四	八八三	一四〇、〇五〇	六、二八九	一五、〇〇〇	六、二八九
雜費	雜費	米	四四、五〇〇	一五、六二四	八八三	一四〇、〇五〇	四九、三三三	一五、〇〇〇	四九、三三三
共濟組合給與金	共濟組合給與金	米	二四九、四八一	一五、六二四	四二、二六四	一四〇、〇五〇	二九一、七四五	一五、〇〇〇	三〇六、七五五
總計	總計	米	一一、七五八	一五、六二四	三、九九八	一四〇、〇五〇	一一、五五八	一五、〇〇〇	一三、〇五八
岸壁及護岸費	岸壁及護岸費	米	二四八、〇四八	一九八	四〇、九五四	一八五、八九〇	二八八、〇〇〇	一九八	二八八、〇〇〇
埋立費	埋立費	米	五、六三九七	一五、六二四	四、五七七	一四〇、〇五〇	六〇、九七四	一五、〇〇〇	六〇、九七四
船舶及機械費	船舶及機械費	米	三、四、一三三	一五、六二四	一六、一五一	一四〇、〇五〇	五〇、二八三	一五、〇〇〇	五〇、二八三
測量費	測量費	米	一九五	一五、六二四	一〇〇	一四〇、〇五〇	二九五	一五、〇〇〇	二九五
雜費	雜費	米	六、八二八	一五、六二四	二、二六九	一四〇、〇五〇	八、九九七	一五、〇〇〇	八、九九七

託工事		種別		
總計	營業事務費	費目	前年度迄竣工高	
			數量	金額
				一、六七七 円
				一三、一四四
				三六〇、四二一
			本年度竣工高	
			數量	金額
				五、八八三 円
				六九、八三四
			合計	
			數量	金額
				一、六七七 円
				一九、〇二七
				四三〇、二五五
			歩合	
				一・〇〇

第九 境港修築工事

緒言

本工事ハ總豫算百八十萬圓(内工費百六十九萬百圓、事務費十萬九千九百圓)ニシテ其半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十一年度ヨリ昭和二年度ニ至ル六箇年度ノ繼續事業ナリシガ大正十二年九月關東大震災ノ影響ヲ受ケ工期ヲ二箇年度延長シ昭和四年度ニ竣功ノ豫定ナリシモ尙施設ヲ要スル工事モアルヲ以テ隨テ工費不足ヲ告グルニ至リ豫算二十萬七千六百六十八圓ヲ増加シ更ニ工期ヲ一箇年度延長シ昭和五年度ニ竣功セシムル事ニ目下詮議中ナリ本工事ハ鳥取縣ノ起業ニ係ルモノナルガ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀並計畫大要

境港ハ日本海ニ於ケル樞要港灣ニシテ山陰唯一ノ天然良港タリ殊ニ朝鮮及西比利亞方面トノ通商貿易上至便ノ位置ニ在リト雖モ港口常ニ砂洲ノ爲メ閉塞セラレ水陸聯絡亦不完全ナルヲ以テ從來之レガ利用ヲ完フスルコト能ハズ先キニ明治三十七年物揚場トシテ市街沿岸一千四百十八米ニ平均幅三米六四ヲ埋築セシモ唯小船船ノ繫留ニ適スルニ過ギズ爾後明治四十一年航路維持ノ爲メ長一千四百五十四米五ノ捨石堤ヲ施シ同時ニ航路ヲ浚渫セシモ其效果完カラズ然ルニ輓近出入船舶増加ト船形ノ増大ハ最早現狀ニ委スルヲ許サザルニ至レリ殊ニ近來山陰線全通ノ爲メ本港ハ益々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リ之レガ修築ハ一日モ緩フスベカラザルニ至レリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ

埋立 停車場地先ニ於テ長四百十八米、幅三十六米内外ノ水面ヲ干潮面上一米五ニ埋立ツルモノトス
 岸壁 埋立地ノ前面ニ干潮面以下六米四、岸壁二百七十三米、同五米五岸壁九十一米ヲ設ケ一噸級乃至二千噸級ノ船舶四隻ヲシテ同時ニ繫留ノ用ニ供シ其他ノ沿岸五十四米ニハ物揚場及護岸ヲ設ク
 防波堤 御臺場鼻ヨリ南方二百十八米ノ海岸ニ起リ東方ニ向ヒ延長八百三十六米ニ至リ直角ニ北折シテ延長三百八十二米ニシテ舊捨石堤ニ連續セシメ且該堤ヲ利用増築シ更ニ其尖端ヲ延長シテ一千七百米ニ至リ七米三ノ水深ニ達セシム其延長二千九百十八米ナリトス
 浚渫 埋立地前面ノ水面約十九萬八千三百四十七平方米ヲ浚渫シ船舶繫留ノ用ニ供シ之レニ通ズル航路トシテ延長四千三百六十四米ノ間幅九十二米乃至百八十二米ヲ干潮面下六米四乃至七米三ニ浚渫スルモノトス此浚渫總面積約三十八萬三千四百七十一平方米、土量百十萬二千百五立方米ナリ
 航路標識 出入船舶ニ對シ航路標示ノ爲メ防波堤尖端部ニ燈臺一基、港口航路屈曲部ニ挂燈浮標一個、航路見通市街地ニ導燈一對ヲ設置スルモノトス

施工狀況

本年度施行工事ハ前年度ニ引續キ岸壁、防波堤、護岸、埋立、浚渫ノ工事ヲ主ナルモノトス其他採石及採砂竝防舷材繫船柱工事、方塊製造等モ施行セリ又曳船汽艇ハ前年度同様壽丸外三隻ヲ混凝土塊据付ニハ十二噸吊竝二十噸吊ノ各起重機船ヲ使用セシガ工事ノ一部竣功ヲ見ルニ至リ昭和四年八月二十噸吊起重機船ヲ今治港ニ、同年十二月汽艇足羽丸ヲ尾道港ニ回航セシメタリ尙監督竝雜用ニハ前年度同様發動機船電車丸ヲ使用セリ各工事施行ノ狀況等次ノ如シ

岸壁 前年度ニ引續キ五米五岸壁及六米四岸壁ノ未竣功部分ニ對シ基礎捨石、L形塊及方塊ノ据付ケ、裏込雜石ノ捨込ヲ行ヒ埋立工事ノ進ムニ從ヒ漸次上部笠置混泥土ヲ施工シ昭和四年十二月全部竣功セシメタリ是等工事ノ爲メ使用シタル雜石、方塊、L形塊等ノ數量ハ基礎捨石百四十立方米、方塊五十五個、L形塊十六個、裏込捨石四千百十九立方米ナリ

防波堤 前年度迄ニ於テA B C幹部ヲ通ジ完成セル部分ハ二千六百九十五米ナルガ本年度ニ於テハ引續キC幹部未成部分二十三米ノ箇所及C幹部接續尖端部ニ捨石ヲ施行シ上部ニ方塊ヲ疊積セシ結果C幹部及接續尖端部九十米ハ竣功ヲ告グルニ至レリ本年度ニ於ケル捨石數量ハ二千八百三十八立方米ニシテ混泥土方塊ノ使用數量ハ二百三十九個ナリ

護岸 前年度ニ引續キ基礎捨石ヲ爲シ上部ニ方塊ヲ据付ケ西部護岸ノ一部ニ混泥土ニテ笠石ヲ施シ裏込雜石ノ捨込ヲ行ヒ鐵筋混泥土繫船柱四本ヲ設置シ昭和四年十二月竣功セリ是等工事ノ爲メ使用セシ雜石、方塊等ノ數量ハ基礎捨石九百四十三立方米、方塊百七十三個、裏込捨石八百八十八立方米ニシテ竣功護岸全長ハ東部二十二米五、西部六十五米五ナリ

防舷材繫船柱 前年度ニ引續キ岸壁工事ノ進捗ニ伴ヒ漸次防舷材竝繫船柱ヲ施設シ昭和五年一月末日竣功セリ是等工事ノ總數ハ防舷材長三百六十七米六五、繫船柱五米五岸壁ニ二個、六米四岸壁ニ七個、總計九個ナリ

採石 前年度同様島根縣八束郡森山村大字福浦字玉井地内ニ於テ直營ニテ雜石ヲ採取スルモノニシテ採取石材ハ防堤及岸壁、護岸ノ基礎捨石竝岸壁護岸ノ裏込ニ使用セリ年度内ニ於ケル採石數量ハ二千三百七十立方米ニシテ採石開始以來採取總數量ハ七萬七千七百六十六立方米ナリ而シテ本工事ハ原石モ

殆ンド採取シ盡セシニ依リ本年度ヲ以テ打切竣功トセリ

方塊製造 本工事ハ防波堤、岸壁、護岸用ノ方塊ヲ製造スルモノニシテ工事ノ進捗ニ伴ヒ方塊ノ送出及積込ミヲモ施行セリ年度内ニ於ケル製造數量ハ防波堤用二百四十四個、護岸用百六十個、合計四百四十四個ナリ

埋立 前年度ニ引續キ境町停車場構内前面ノ海岸ト岸壁間ノ海面ヲ前年度同様土運船ニ依リ浚渫土砂ノ直接捨込ヲ行フ一方ポンプ式浚渫船中海ニ依リ吸揚埋立ヲ爲シ昭和四年十二月竣工ヲ告グルニ至レリ年度内ノ埋立土量ハ四萬三千七百五十立方米ニシテ埋立總土量ハ七萬二千七百七十四立方米ナリ排水溝 埋立工事施行ニ依リ從來陸地ヨリ排水ニ使用セシ多クノ排水管ハ其排水出口ヲ阻マルルニ至リシヲ以テ是等ヲ排水スル爲メ舊護岸ニ沿ヒ總延長百七十一米八ノ混凝土溝渠ヲ設ケ排水ヲ行ハントスルモノニシテ昭和四年七月工事ニ著手シ同年十一月竣功セリ

浚渫 前年度ニ引續キ唧筒式浚渫船櫻島丸及中海竝バケット式浚渫船四號ノ三隻ヲ使用シ主トシテ岸壁前面森山村大字小中村地先ノ浚渫ヲ爲シ尙港口附近ノ森山村大字福浦字玉井地先ヲモ浚渫セリ年度内ニ於ケル浚渫土量ハ二十五萬二千五百五十三立方米ナリ

前記以外ニ於テ方塊製造ノ爲メ直營ニテ採砂ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ二十萬二千六百九十九圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百六十五萬五千三百七十圓ナリ總豫算額百六十九萬百圓ニ比シ九割七分ニシテ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「○」ハ無代價品評價額「△」ハ直營所出石材及砂利、砂採取使用價額「△」ハ製作品使用價額「△」ノ數量ハ一旦浚渫投棄セシ土砂ヲ更ニ埋立出願地へ吸揚排砂シタルモノ其金額ハ提供品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計額	步竣合功
	數	金額	數	金額	數	金額		
岸壁及護岸費	八〇米	六一七、三四八	三七二米	七四、九二五	四五二米	六九一、二七三	四分	
防砂堤費	二、六九五	一七九、六三三	一一三	八、一二五	二、八〇八	一八五、七五八	〇・九〇	
浚深費	八八三、八九一	二〇四、四〇七	二五二、五五三	五五、七六八	一、一三六、四四九	二六〇、一七五	〇・九七	
埋立費	二九、〇二四	二、五〇三	四三、七五〇	一一、三三〇	七二、七七四	一四、八一三	〇・八六	
船舶及機械費		三八〇、八七八		二五、一三九		四〇六、〇一七		
測量費		二、一一三		八一七		二、九三〇		
營業繕費		二五、二〇三		五九二		二五、七九四		
雜費		二〇七、九一七		三〇、八〇三		二三八、七二五		
共濟組合給與金		一一、三〇三		二、九七二		一五、二七五		
總計		一、四五二、六七一		二、〇一〇、六八九		一、六五五、三七〇	〇・九七	

第一〇 小松島港修築工事

緒言

本港ハ明治四十年度ヨリ徳島縣ニ於テ港灣修築ニ關スル調査ヲ開始シ大正二年度ニ至リテ工費十四萬四千六百餘圓ヲ投ジ四箇年度ニ互ル工期ヲ以テ内港部ノ整理修築ヲ遂行シ次デ同六年度ヨリ同十年度ニ互リテ更ニ工費十九萬九千四百餘圓ヲ以テ港口ヲ扼スル南北兩突堤ヲ増築シタル外海底ノ浚渫ヲ施シタル結果現ニ一千噸級汽船ノ出入ヲ容易ナラシメタリト雖モ最近本港發展ノ趨勢ハ進ンデ現設備ノ擴張ヲ促スヤ急ナルモノアリ茲ニ於テ徳島縣ハ本港將來ノ發展ニ資スベキ新計畫ヲ樹テ更ニ總工費三百四十四萬九千五百圓(當初豫算三百二十萬二千圓ナリシガ大正十五年四月大字小松島及同中田地先海面ノ埋立費トシテ二十四萬七千五百圓追加)ヲ豫算シ其半額ハ國庫ヨリ補助(但シ追加豫算ニハ國庫補助金ナシ)ヲ得大正十二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル九箇年度ノ縣營繼續事業(當初大正十二年度ヨリ同十九年度ニ至ル八箇年度ノ工期ナリシガ)財政ノ都合上二箇年度繰延一箇年度繰上ゲラルトシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀並計畫大要

本港ハ四國ノ東部ニ位シ阪神兩港トノ聯絡ヲ初メ夙ニ本邦沿岸各地トノ交通開ケ四國東海岸唯一ノ重要港灣ナリ而シテ本港ノ外港部タル小松島灣ハ北東ニ向ツテ展開シ北西東山岬ト東方和田鼻トハ相對峙シテ港口ヲ扼シ其幅員約二千七百米ヲ有ス港内水深クシテ大船巨舶ノ出入碇泊ニ適シ天然ノ良港ヲ

成スト雖モ其内港部ハ僅カニ神代瀬川河口ヲ利用スルニ過ギザルヲ以テ深度不充分ニシテ海陸ノ聯絡設備整ハズ小型船舶ニシテ仍且出入自由ナラザルノ憾アリ然レドモ商工業ノ著シキ發展ハ船舶及貨客ノ増加ヲ來シ現在ノ内港設備ニテハ既ニ狹隘ヲ告ゲ到底時代ノ趨勢ニ順應スル能ハズ加フルニ近キ將來阿土鐵道完成ノ曉ハ愈々本港ハ四國ノ東門ヲ司リ本州トノ聯絡ハ益々重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルベキヲ以テ之ガ修築擴張ハ最モ急務トスル所ナリ其計畫ノ大要左ノ如シ

防波堤ハ現在港外北突堤部ヨリ北防波堤長九十一米ヲ又東防波堤長五百八十米ヲ築造シ港門幅員二百七十三米ヲ保タシム此港門ハ將來必要アルトキハ之ヲ百八十二米ニ短縮シ北防波堤ヲ更ニ九十一米延長スルモノトス而シテ此防波堤ヲ以テ抱擁セラルル水面積ハ約八十七萬六千六百平方米ナリ

岸壁ハ現在繫船岸ノ北側ナル池沼及耕地ヲ浚渫シテ凹字形ノ船溜ヲ設ケ其周圍ニ岸壁ヲ築造ス船溜ハ東部入口ニ於テ幅員百二十七米、西部ニ於テ九十一米トシ入口ニ近キ北側百二十七米、南側百二十九米ハ干潮面下六米四ニ其奥北側十一米、南側九十二米ハ五米五ニ築造シ其兩側ニ二千五百噸級汽船一隻、一千五百噸級汽船二隻ヲ繫留スルヲ得セシム尙凹字形ノ前面南方ノ岸壁ハ帆船又ハ小型汽船繫留ノ便ニ供スル爲メ水深三米ニ築造ス

浚渫及掘鑿ハ港内約三十九萬六千七百平方米ヲ干潮面下六米四ニ浚渫シ又現在港内南隅ノ田面約一萬四千九百平方米ヲ水深干潮面以下二米五ニ掘鑿シテ漁船ノ繫留場ニ充ツ

埋立ハ岸壁ノ左右耕地ヲ埋立テ工場敷地トシテ工事完成後ハ鐵道敷地、上屋及倉庫等ノ敷地ニ充ツルモノトス

以上當初計畫ノ外追加若クハ計畫ヲ變更シタルモノ左ノ如シ

一 大正十五年四月同港内大字小松島及同中田地先ノ海面六萬九千五百平方米ノ埋立追加工事トシテ
工費二十四萬七千五百圓ヲ計上シタリ

二 昭和二年十一月前記埋立計畫ヲ縮小シタル一面元根井地先ニ於テ面積二萬五千平方米ノ埋立ヲ爲
スト共ニ更ニ横須地先ニ於テ面積四萬六千七百七十平方米ノ埋立ヲ爲シ其周圍ニ護岸又ハ物揚場ヲ築
造シ以テ港灣陸上設備用地ニ供ス

當初計畫ニ屬スル漁船溜ノ位置ヲ横須地先埋立地ノ前面ニ變更シタル結果其東角ヨリ延長百六十米
ノ防波堤ヲ突出セシメ之ニ接續シテ築造スル物揚場ノ内延長百六十米ヲ漁船用ニ充テ且在來ノ南突
堤ヲ其先端ヨリ新埋立地ノ取付マデ除却スルモノトス

三 昭和三年二月小松島字港口ニ於ケル當初計畫ノ三米岸壁中其屈曲部ヨリ南西ニ互ル延長百米ヲ廢
シ代フルニ其北部岸壁二百三十一米ヲ一直線ニ南方へ九十九米延長シテ此總延長ヲ三百三十米トシ
其終端ト在來護岸ノ先端トヲ接續セシムル爲メ延長二十米ノ護岸ヲ築造シテ此内部ニ於ケル面積一
千六百平方米ヲ干潮面上三米ニ埋立ツルモノトス

施 工 狀 況

本年度施行ノ工事狀況左ノ如シ

防波堤 東防波堤計畫延長五百八十米ニ對シ前年度迄ニ約五割ノ基礎工ヲ完成セシム本年度ハ基礎捨
石七十一米荷重据置百五十九米三、上部床均百米、函根固方塊据付二十五米竝所要方塊二十三個ヲ製造シ
タル外同堤頭部床掘十三米施行シタルヲ以テ約六割ノ功程ナリ但シ鐵筋混凝土函ノ製造及据付工ハ未

著手ニ屬ス

南防波堤計畫延長百六十米ニ對シ前年度迄ニ基礎工約二割ヲ完成セシメ本年度ハ基礎捨石六十二米五、方塊沈積百四十米、上部工九米六竝所要方塊九十六個ヲ製造シタルモ北防波堤ハ未著手ニ屬ス

岸壁 港口地先ニ築造スベキ水深三米岸壁計畫延長三百三十米ニ對シ前年度迄ニ約四割方完成ヲ告ゲタリシガ本年度ハ引續キ方塊沈積二百六十二米、上部工六十三米、所要方塊三百個ヲ製造シタルヲ以テ約五割ノ功程ナリ

物揚場 横須地先ニ築造スベキ水深二米物揚場計畫延長二百七十二米ニ對シ前年度迄ニ約五割方完成シタル處本年度ハ床掘五米ヲ施行シテ土砂七十二立方米ヲ得之ヲ同地先ノ下埋ニ利用シタル外基礎捨石二十二米、方塊沈積百十米七、上部工七十九米竝所要方塊五十三個ヲ製造シタルヲ以テ約六割ノ功程ナリ

護岸 横須地先ニ築造スベキ第二種護岸計畫延長二百三十一米ニ對シ前年度迄ニ約零割五分方施工シタル處本年度ハ基礎百五十六米、上部工百四十五米施行シタルヲ以テ約六割ノ功程ナリ

元根井地先ニ築造スベキ護岸計畫延長三百二十米ニ對シテハ本年度六月著手シ床掘百五十米ヲ施行シテ土砂二千四十六立方米ヲ得之ヲ横須地先ノ下埋ニ利用シタル外基礎百米、方塊沈積三十米、所要方塊十個ヲ製造シタルヲ以テ約三割ノ功程ナリ

浚渫 本年度ハ凹字形船溜ニ該當スル田面竝其前面ノ海底浚渫ニ對シ陸地ハ人力海底ハ「バケット」式浚渫船香西丸ヲ運用シ運搬ニハ小蒸汽船曾根丸ト之レニ土運船ヲ配屬セシメテ施行ス其功程ハ人力浚渫ニ於テハ土量一萬六千九百九十立方米ヲ得内一萬三千七百三十立方米ハ小松島地先ノ埋立ニ、二千三百六十

立方米ハ同區域ニ於ケル假締切ニ利用ス又香西丸ノ浚渫土量十萬二千四百七十八立方米ノ内九萬百六十三立方米ハ横須地先ノ下埋ニ九千九百七十五立方米ハ小松島地内ノ埋立ニ二千三百四十立方米ハ天候及潮汐ノ關係上港外龜磯地先ニ投棄ス本港計畫浚渫土量約七十萬四千四百立方米ニ對シ本年度迄ノ浚渫工程土量四十一萬一千立方米ニ達シタルヲ以テ約六割弱ノ進捗程度ナリ

突堤除却 港内北突堤計畫實測延長二百七十三米ニ對シ前年度迄ニ百二米除却本年度ハ百三十一米七ヲ施工シテ土石量一萬三千二百二十六立方米九ヲ得又南突堤計畫實測延長二百九十二米ニ對シ前年度ニ八米除却本年度ハ六十二米ヲ施工シテ土石量三千八百八十八立方米一ヲ得タリ右ハブリストマン式浚渫船ヲ運用シテ掘鑿除却ノ上運搬船ニ積込ミ構造物ノ基礎ニ利用セリ本工程ハ本年度ヲ以テ約五割三分ニ達ス

埋立 小松島地先ノ埋立ニハバケツト式浚渫船香西丸ヲ運用シテ港内浚渫土砂ヲ埋立地附近適當ノ位置ニ一旦假置ヲ爲シ更ニ唧筒船香東丸ニテ之ヲ吸揚排砂シタルモノニシテ此工程土量九千九百七十五立方米ナリ之レト併行シテ凹字形船溜トナルベキ一部ニ對シ人力ニテ掘鑿シ輕運車ヲ介シテ埋築シタル土量一萬八千四百七十九立方米ヲ算スル外本工程施行ノ都合上此周圍ニ假締切堤築造ノ要ヲ認メ現在地盤上高二米延長三百九十米則天幅二米底幅四米六十纏ヲ築造シテ北西部ノ埋築ニ支障無キヲ期ス此埋立土量三千十五立方米ナリ

横須地先ノ埋立ニハバケツト式浚渫船香西丸並唧筒船香東丸ヲ運用シ之ニ曳船會根丸及新長柄丸ヲ配屬シテ土量十四萬八千七百十九立方米ヲ埋築シタル外地均四千二百五十五平方米ノ完成ヲ告グ本港計畫埋立土量約六十萬一千六百立方米ニ對シ本年度迄ノ埋立土量約二十四萬七千立方米ニ達シタルヲ以

總計	共濟組合給與金	雜費	營業繕費	測量費	船舶及機械費	用地探取費	材料費	埋立費	浚深費	護岸費	物揚場費	岸壁費
							三六、〇〇〇 ^坪	五七、六八四	二七一、五六八 ^{立方米}			
		×	×				×			×	×	×
九二六、〇五四	三、五六六	八一、八八五 四、六九八	八、六三五	四、六六八	二四〇、七〇九	二二六、九八一	九五、〇八三	一四、〇八四	一〇〇、〇四九	一、三九五 三、三三一	二〇、三三七 六、二二二	二二、三三九 九、七三八
								一八〇、一八九	一二九、九七七 ^{立方米}			
		×	×					×		×	×	×
三二七、九五九	一、七〇七	二九、八八四 三三、五八九 三三、二二八	四二〇	六二、二三八	四四、五九九	三八、六二六 八四〇	三二、二六七	二四、二四三	二二、七四三	五、五一六	一二、六八四	
								二二七、八七三	四〇、一五四五 ^{立方米}			
		×	×					×		×	×	×
一、二五四、〇一三	五、二七三	一一、七六九 四、六九八	四二、三二八	五、〇八八	三〇一、九四七	一三九、六八二	五二、七一〇 八四〇	一三三、三二六	一四、五七九	二五、八五三 六、二二二	三六、〇三三 九、七三八	
〇・三九				〇・二〇	〇・六七	一・〇〇		〇・三二	〇・三〇	〇・三六	〇・三三	〇・〇七

第一 今治港修築工事

緒言

本工事ハ元今治町ノ企業ニ係リ大正三年度ニ其起源ヲ發シ爾來幾多ノ曲折ヲ經テ同九年二月今治町ニ於テ隣村日吉村ヲ併合シ市制施行地ニ指定セラレタルトキ本事業ヲ今治市ノ經營ニ移サル當時其工期ヲ同九年度ヨリ同十二年度ニ至ル四箇年度ノ繼續事業トシテ工事費八十一萬圓ヲ計上シ港内ノ浚渫及埋立ヲ主トシ兼テ棧橋及防波堤ヲ築造スル計畫ナリシガ今治市ニ於テハ該計畫中最モ速成ヲ要スル防波堤ノ築造ヲ起工シ(本堤ハ全部今治市ニ於テ施行濟)著々工事ヲ進メタリ然ルニ本港ニ於ケル最近發展ノ趨勢ハ計畫ノ擴張ヲ促スト共ニ一部計畫ノ變更ヲ要スルモノアリタルヲ以テ之ヲ更正追補シテ更ニ工期ヲ同十二年度以降二十一年度(當初計畫ハ大正十二年度ヨリ同十九年度迄八箇年度ナリシガ財政ノ都合上同二十一年度迄二箇年度延長)ニ至ル十箇年度ノ工期ナリシカ大正十五年九月用地費繰上ゲノ必要ヨリ年度割ノ變更トナリタル結果竣功期ヲ昭和六年度ニ改メラレタルヲ以テ九箇年度ノ今治市營繼續事業トシテ工費三百萬圓(内俸給及事務費十八萬三千圓ヲ含ム)ニ改訂シ其半額ヲ國庫ヨリ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀並計畫大要

今治港ハ伊豫國ノ北海岸ニ瀕シ高繩半島ノ東南ニ方リテ自然ノ灣形ヲ成シ前面ニハ來島海峽ヲ擁シテ瀬戸内海ノ咽喉ヲ扼ス其位置恰カモ阪神關門ノ中間ニ在ルヲ以テ古來ヨリ東西航路ノ要衝ヲ占ム東ハ

燧洋ニ直面シテ遙カニ四坂島ヲ望ミ北ハ大島及三大島等點綴シ南ハ總社川ヲ境トシテ立花村ニ接ス而シテ港界ハ天保山ノ突堤基點ヲ中心トシテ一哩ノ半徑ヲ有スル圓圈ヲ以テ劃シ此水面積三百三十一萬平方米（防波堤内約二十一萬四千八百平方米）ヲ算ス氣候溫和ニシテ常ニ波浪少ナク港内ノ水深ハ概ネ最大干潮面下約十二米トス此附近ハ干滿潮位ノ差瀬戸内海中最モ著シキ地方ニシテ最高高低潮位ノ差四米一、大潮時平均潮位ノ差三米四、小潮位平均潮位ノ差一米四ナリ尙沿岸ハ比較的急勾配ナルヲ以テ水深裕ニシテ時々潮流ノ急ナルモノアリト雖モ大船巨舶ノ碇繫難カラズ其風位ニ關シテハ西風、西北風及南北風ニ對シテハ些ノ影響ナシト雖モ一朝東風ノ襲來スルニ於テハ港内忽チ激浪奔騰シテ船舶ノ出入碇繫共ニ危險ナリ然レドモ最近東防波堤ノ完成ニ依リ港内ハ著シク靜穩ニ歸シ此杞憂ヲ一掃スルコトヲ得ルニ至レリ

交通ハ本港ヨリ僅カニ二時間餘ニシテ中國尾ノ道港ニ達スルコトヲ得ルヲ以テ船舶ノ出入、貨客ノ集散比較的繁ク殊ニ伊豫線開通ノ今日ニ於テハ四國西南部及南九州ノ旅客ハ今治、尾ノ道ヲ經テ山陽線ニ聯絡スベク然ルトキハ彼ノ高松宇野線ニ依ルニ比シ阪神地方ニ到達スル時間ヲ節スルコト必然ナルベシ而シテ本港ハ大正十一年二月開港場トナリ次デ第二種港灣ニ指定セラレタルヲ以テ見ルモ港灣設備ノ必要知ルベキナリ

本工事ハ今治市ニ於テ大正九年度ヨリ同十二年度ニ至ル繼續事業トシテ棧橋、防波堤ノ築造及浚渫、埋立等ノ工事施行中ナリシガ該計畫ヲ左記ノ如ク變更及擴張スルモノトス

船入場ハ天保山ニ於ケル防波堤根元ヨリ南東ニ向ツテ百八十九米之レヨリ略南西ニ向ツテ一線ヲ劃シ尙之レニ連續シテ内港ノ周圍ニ物揚場又ハ護岸ヲ築キ住吉町附近ヲ掘鑿シテ在來ノ内港入口幅員九十

米ハ之レヲ百四十五米ニ取擴メ一面中洲ヲ掘鑿除却ノ上現在ノ船溜幅員四十五米ヲ平均八十米トシテ
内港水面積約一萬六千五百平方米ヲ約五萬五千二百平方米ニ擴張シテ干潮面下二米七ノ水深ヲ保タシ
メ以テ帆船及小蒸汽船ノ繫留荷役ノ用ニ供ス

浚渫ハ元今治地先前面ニ於テ防波堤ノ間ニ介在セル港内水面積十二萬三千二百平方米ノ内水深大ナル
沖合約三萬三千平方米ヲ干潮面以下六米四ニ浚渫シテ三千噸級汽船ノ出入ニ便ナラシメ殘餘水面ハ同
五米五及同一米五ニ浚渫シ又内港部ハ同二米七ニ浚渫又ハ掘鑿スルモノニシテ此總土量約八十萬六千
六百立方米トス但シ陸地ニシテ掘鑿ノ上海面トナル部分ノ面積ハ約二萬八千七百平方米ナリ

埋立ハ港内ノ浚渫及掘鑿ヨリ生ズル土砂ノ一部ヲ以テ大字藏敷地先東側沿岸ニ面積約七萬五千五百平
方米ノ埋立ヲ爲シ倉庫上屋及臨港鐵道ノ敷地ニ充テ又元今治地先ニハ海岸ニ併行シテ一直線ニ護岸ヲ
築造シ面積一萬八千七百平方米ヲ埋立テ更ニ内港部ニ於テ大手通惠比須町及新町地先ニ面積約一萬三
千三百五十平方米ヲ埋築スルモノニシテ此總土量約三十九萬四千八百立方米ナリ而シテ元今治地先ノ
埋立地ハ隣接セル仲洲約五千五百平方米ヲ買收シテ之ト共ニ港灣設備用地ニ供スルモノトス

岸壁及物揚場及護岸トシテハ天保山地先ニ長二百十八米水深干潮面下六米四及五米五ノ岸壁ヲ築造シ
テ三十噸級汽船一隻、一千噸級ノ汽船二隻ヲ同時ニ繫留シ將來敷設セラルベキ臨港鐵道ニ聯絡セシメ且
内港周圍ニ水深二米七ノ斜面荷揚場延長九百五十八米ヲ設ケ其他元今治地先海岸ニ延長六百七米及藏
敷埋立地海岸ニ延長九百九米竝内港ノ一部ニ延長三百七米、總延長一千八百二十三米ノ護岸工事ヲ施ス
モノトス

浮棧橋ハ元今治地先ニ縱型棧橋ヲ三箇所ニ配置シ其各長七十三米、幅九米一(但シ浮函長五十四米五、幅九

米一、此面積四百九十五平方米）トシ之レヲ約七十三米ヲ隔テテ櫛形ニ平行突出セシメ小型汽船及一千噸汽船ノ碇繫荷役並旅客ノ乗降ニ供スルモノトス

施工狀況

本港本年度ノ工事施行狀況ヲ記述スレバ左記ノ如シ

浚渫 岸壁築造位置前面干潮面下六米四及内港部同二米七ノ區域ニ對シブリストマン浚渫船第一、第二號ヲ運用シ之レニ曳船土運船ヲ配屬シテ土量六萬七千五百六十七立方米ヲ浚渫シタリ而シテ本港浚渫計畫土量八十萬六千六百立方米ニ對シ本年度迄ノ浚渫實土量九十一萬一千立方米（約一割強増）ニ達シタルヲ以テ一小部分ノ殘部ヲ除クノ外殆ンド完了シタルモノトス

埋立 浚渫土量並構造物ノ基礎床掘ヨリ生ジタル土砂ヲ利用シテ大字藏敷地先及内港沿岸ヲ埋立テ兼テ大字藏敷地先ノ埋立地表ノ地均ヲ施工ス埋行計畫土量三十九萬四千八百立方米ニ對シ本年度迄ニ土量二十六萬五千立方米餘ノ埋立ヲ遂ゲタルヲ以テ六割七分ノ功程ナリ

浮棧橋 浮棧橋ハ三基築造ノ計畫ニシテ前年度迄ニ鐵製二基ヲ完成セシメ爾來大ニ利用ヲ發揮シ同港ノ海陸聯絡上面目一新ノ觀ヲ呈ス更ニ第三縱棧橋ハ其浮函ヲ鐵筋混凝土製ニ改メ昭和二年度末期ニ於テ起工シ前年度迄ニ約七割進捗ヲ告ゲタリシガ本年度ハ上部壁體ノ殘部ヲ施工シテ浮函ノ碇置ヲ了シ次デ渡橋ヲ取付ケ高欄ヲ裝設シ別途請負工事ニテ照明裝置ヲ了シ昭和四年十一月ヲ以テ全ク完成ヲ告ゲタリ

岸壁及護岸 天保山地先ニ築造スベキ水深干潮面下六米四及五米五岸壁延長二百十八米ニ對シ内五米

五岸壁ヲ昭和三年度ニ起工シ床掘五十四米ヲ施行シタリシガ本年度ハ同床掘ニブリストマン式浚渫船ヲ運用シテ土砂二千九百二十二立方米ヲ得基礎七十二米、方塊沈積六十三米、上部壁體九米ヲ施工シ又所要方塊六百五十二個ヲ製造ス

元今治地先ニ築造スベキ水深二米七、護岸延長六百米ニ對シテハ第三縱棧橋築造位置ノ東方約十九米ヲ除クノ外ハ前年度迄ニ完成ヲ告ゲタリシガ本年度ハ此殘工事ニ對シ基礎及方塊沈積各十九米、上部壁體十六米ト所要方塊二十五個ノ製造ヲ了シタルヲ以テ此方面ハ略ボ完成ス

藏敷地先ニ築造スベキ護岸計畫延長九百米ニ對シテハ前年度迄ニ約四割完成シタリシガ本年度ハ床掘百九十七米ヲブリストマン浚渫船ヲ運用シテ土砂八千六百四十六立方米ヲ得基礎百四十三米、上部工百二十九米ヲ施行シタルヲ以テ此部分ニ對シテハ約六割ノ竣功ナリ

物揚場 内港周圍ニ築造スベキ斜面物揚場計畫延長一公里ニ對シテ昭和三年度ヨリ起工シ前年度迄ニ約三割ヲ完成セシメ其竣功部分ヨリ工事施行上支障無キ範圍ニ於テ今治市ニ一時使用ヲ承認シ一般公用ニ供シ目下大ニ其機能ヲ發揮セラルル狀況ナリ本年度ニ於テハブリストマン浚渫船ヲ運用シテ床掘延長五百十七米ヲ施行シ土量二萬八千六百五十三立方米ヲ得基礎延長四百五十五米、方塊沈積五百三十九米、上部工四百二十五米、直壁上部百四十一米及所要方塊一千二百二十九個ノ製造ヲ了シタルヲ以テ約七割ノ功程ナリ

雜工事 本工中主ナルモノハ橋梁工事ニシテ則チ左ノ如シ

イ、大手通橋梁 内港沿岸地帶大手通地先ト對岸藏敷地先トノ間ニ於ケル舊城濠ニ通ズル水路ニ幅員八米七、長二十一米二ノ渡橋ヲ架スルモノニシテ其構造樣式ハ鑄鐵製圓筒脚柱五本ヨリ成ル橋脚二基ニ工

型及溝型鋼ヲ結合シタル主要構ト鐵筋混凝土橋床竝同高欄ヲ附シテ構成ス

右ハ昭和二年一月ノ起工ニ屬シ前年度迄ニ橋床ノ一部ヲ除キ殆ンド完成セシメタリ本年度ハ橋床百四十六平方米ヲ施行シテ昭和四年五月竣功ヲ告ゲタリ

ロ、啓己堀橋梁 内港沿岸大手通及惠比須町地内ヲ貫流スル啓己堀ニ幅員十二米三、長八米三ノ渡橋ヲ架スルモノニシテ其構造ハ工型溝型鋼ニ横鋼ヲ配シ結合セル主要構ト鐵筋混凝土橋床ニ同高欄ヲ附シテ構成ス

右ハ大正十五年十一月起工シタルモ他工事トノ關係上橋臺完成後一時中止シタリシガ本年度ニ至リテ橋臺上部壁體ト渡橋トヲ施工シテ七割五分ノ功程ヲ見ルニ至レリ

ハ、泉川橋梁 新町及惠比須町地先ノ内港ニ注グ泉川吐口ニ幅員二十二米五、長八米五ノ渡橋構造様式前同斷ヲ架スルモノニシテ昭和四年十月起工シテ年度内五割ノ功程ヲ舉ゲタリ

ニ、中ノ川橋梁 天保山地先ニ於ケル内港ニ注グ中ノ川吐口ニ於テ幅員八米六、長九米四ノ渡橋構造様式前ニ同ジヲ架スルモノニシテ前年度ノ起工ニ屬シ本年度ニ至リテ渡橋ヲ施工シテ昭和五年一月完成セシム

又内港沿岸盛土工事トシテ土量一萬四千五百三立方米ヲ處理シタル外泉川ニ床固堤延長六米二ヲ施行シタリ

材料採取 割石ハ立山採石場ニ於テ爆藥及人力ニ依リ斫出シ輕運車ニテ小運搬ノ後船積ヲ爲シ今治港内所要ノ場所マデ曳船又ハ漕行ニテ輸送セリ本年度ハ一箇重量五十五疋内外二萬七千七百四十七立方米、同五百六十疋内外ノモノ二千九百九十一立方米ノ採取輸送ヲ爲ス

砂利ハ總社川ニテ人力採取ノ上堤防上マデ小運搬ノ後牛馬車及手車ニテ藏敷地内ノ貯藏所マデ搬入セリ此量一萬一千七百八十一立方米ナリ

砂ハプリストマン浚渫船ニテ港内ヲ浚渫シ藏敷地内ノ置場ニ陸揚ヲ爲セリ此量四百八十七立方米ナリ

粘土ハ波止濱地先ノ海底ヨリ人力採取ノ上曳船ヲ介シテ今治港内所要ノ場所マデ輸送ス此量二百七十六立方米ナリ

以上諸工事ヲ施行シタル本年度ノ竣功高ハ三十二萬八千二百圓ニシテ竣功累計ハ二百十五萬二千六百五十六圓ニ達スルヲ以テ之ヲ總工費二百八十一萬七千圓ニ對比スルトキハ約七割六分ノ竣功ナリ則チ左表ノ如シ但シ表中「×」ハ材料採取費ノ項ニ揚ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取材料ノ使用金額ヲ轉記シタルモノナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	八四一、二九〇 <small>立方米</small>	一九三、〇三三 <small>円</small>	六七、五六七 <small>立方米</small>	一五、六三二 <small>円</small>	九〇八、八五七 <small>立方米</small>	二〇八、六六四 <small>円</small>	〇・七八
埋立費	二三八、五三三 <small>基</small>	三三三、七一四	二六、六〇二 <small>基</small>	七、一九一	二六五、一三五 <small>基</small>	四〇、九〇五	〇・五七
浮棧橋費	二、五	二〇、五七六	〇、五	一七、二四九	三	一三、三〇七	一・〇〇
物揚場費	×	六六、三四二	×	九六、八六八	×	一六三、九六〇	〇・七二
岸壁及護岸費	×	二七、〇三三	×	三六、九四六	×	六三、九六九	〇・五七
材料採取費	×	一五、六八五	×	三〇、二四九	×	一八七、一〇五	〇・五七
雜工事費	×	一四、九、五〇二	×	六、二、〇四八	×	二一、一、五五〇	—
用地費	—	二二、〇二五	×	一八、一、一三三	×	四〇、一、三八	〇・九五
船舶及機械費	一〇、五二五 <small>坪</small>	七四三、四一一	—	二、五三四	—	七六三、六七五	一・〇〇
	—	一一、九七四	—	三〇、六〇〇	—	一五二、五七四	〇・五八

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
營業繕費		× 二〇,五七二		× 一,一七六		× 二一,七四八	〇・八五
雜費		一〇六,五六三		二六,〇九一		一三二,六五四	
共濟組合給與金		四,六七六		一,七四〇		七,四一六	
總計		一,八二四,四五六		三二八,二〇〇		二,一五二,六五六	〇・七六

第一二 鹿兒島港修築工事

緒言

本工事ハ鹿兒島縣ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總工費三百萬圓、内半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十二年度以降七箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ナリシガ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ工期三箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ昭和七年度トシ更ニ昭和四年度ニ於テ工費三萬五千圓ヲ減額シ豫算總額二百九十六萬五千圓トナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ九州南部ノ重要港灣ニシテ其背面地域ニ鹿兒島、宮崎ノ二縣ヲ控ヘ沖繩、大島其他南海諸島ト九州本島トヲ連結スル唯一ノ港灣ナリ本港ハ舊藩政時代ヨリ夙ニ港灣ヲ修築シ三五郎波止、新波止、一丁臺場等ノ防波堤ヲ築設シテ北東及南東ノ激浪ヲ防ギ船舶ノ碇繫ヲ安全ナラシメシモ爾來歲月ノ經過ニ伴ヒ港内漸ク埋没シ船舶ノ出入ニ困難ヲ感ズルニ至リシヲ以テ明治三十三年度ヨリ同三十八年度ニ互リ縣費八十五萬圓ヲ投シ港内ノ浚渫ヲ行ヒ船舶ノ碇繫貨物ノ集散ニ多大ノ便益ヲ與ヘ稍々其面目ヲ新ニセリト雖モ輓近内外通商貿易ノ發達ハ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ヲ來シ殊ニ沖繩、大島諸島ノ開發ト本港背面地域交通機關ノ發達トハ本港將來ノ貿易額ヲ著シク増加セシムベキヲ以テ現在ノ港狀ニテハ到底其使命ヲ全フスル事能ハズ是レ即チ本計畫ノ起リシ所以ニシテ當初ノ計畫ハ港内ヲ浚渫埋築シ水深七米二ノ岸壁三百八十二米ヲ築設シ專ラ荷役設備ヲ改善シ以テ本港貿易ノ發展ニ適應セシメントスル

ニ在リシモ最近ニ至リ出入船舶ノ増加、船型ノ増大著シク前述ノ計畫ニテハ港區ノ狹小ヲ感ズルニ至リシヲ以テ大正十五年六月計畫ヲ變更シ先ヅ以テ北防波堤二百六十米、南防波堤二百十米ヲ築設シ辨天臺場及洲崎町埋立地ノ一部ヲ除却シ港内水面積ヲ約二十九萬平方米ニ擴張シ以テ大型汽船ノ碇繫ニ便ナラシムルコトヲ期セリ然ルニ港勢ノ隆盛ハ駭々トシテ止マズ大小帆船、發動機船ノ出入歲々繁劇ヲ加ヘ前述ノ計畫ニテハ小船溜ノ狹隘ヲ著シク感ズルノ趨勢ニ至リシヲ以テ更ニ昭和四年七月再修築計畫ヲ變更セリ是レ即チ現計畫ニシテ其大要左ノ如シ

防波堤 北防波堤長二百六十米ヲ一丁臺場ヨリ南東ニ出シ北東ノ激浪ヲ防ガシメ南防波堤ノ堤頭ヲ北防波堤ノ正南ニ港口百米ヲ隔テ、相對セシメ洲崎町埋立地東岸ニ竝行南下スルコト四百五十米ニシテ新埋立地護岸ニ接續セシム又北港口ハ其幅員廣キニ過グルヲ以テ三五郎波止ヲ三十米南ニ延長シ港口幅員約七十米ニ縮少ス

掘鑿及浚渫 港内中央部ニ介在スル辨天臺場、同渡道、屋久島岸岐ヲ除却シ洲崎町埋立地北半部ヲ掘鑿シ其北岸及東岸ニ三米護岸二百九十米ヲ設ケ以テ荷役ニ便セシムルト共ニ港内水面積ヲ約三十三萬五千平方米ニ擴張シ生産町ヨリ住吉町ニ至ル海面約十萬五千平方米ヲ干潮面以下七米五ニ浚渫シ三千噸級船舶ノ碇泊ニ便セシメ尙其南部水面一帯約五萬五千平方米ヲ干潮面以下三米ニ浚渫シテ帆船其他雜船ノ碇繫所トス

埋立 洲崎町地先ニ於テ南防波堤南端ニ接續シ延長三百米、幅員百米ノ區域ヲ干潮面上四米ニ埋立テ其北岸ニ一米護岸百米ヲ設ケテ荷役ニ便ナラシメ東岸及南岸ニハ現狀ニ應ジ適當ノ護岸ヲ築造ス

棧橋 築町護岸ニ浮函三個ヲ連結シタル棧橋ヲ新設シテ三千噸級船舶ノ繫留用トシ渡道二號棧橋ハ住

吉町南部護岸ニ移設シ在來ノ生産町一號棧橋ト共ニ各一千噸級船舶及灣内交通船舶ノ繫留用トス

施工狀況

本年度ニ於テ施行セル主ナル工事ハ浚渫工事、防波堤工事、函製作工事及方塊製作工事ニシテ其施工狀況次ノ如シ

函製作工事ハ前年度ニ引續キ函工場内諸設備ヲ使用シ防波堤函四個及堤頭用異形函四個、計八個ヲ製作シ昭和四年十一月全ク其工ヲ了ヘタリ

方塊製作工事ハ前年度ニ引續キ北防波堤及南防波堤用各種方塊合計七百九十二個ヲ製作シ起工以來ノ累計個數一千二百六十四個ニ達セリ其竣功容積六千八百九十四立方米ニシテ設計容積一萬一千二百一十一立方米ニ對シ約六割一分ノ竣功ヲ示セリ

防波堤工事ハ前年度ニ引續キ北防波堤各部ノ工事ヲ進メ基礎捨石ニハ專ラ櫻島熔岩ヲ利用シ本年度内ニ延長二十五米(一萬二百三十五立方米)ノ捨込ヲ了シ地形均七十七米函据付七十七米(函据付個數八個)同填充九十九米(函填充個數十個)捨方塊百四十四米(方塊個數七十八個)及頂部混凝土約八十二立方米ヲ施行シ基礎捨石及頂部混凝土ノ一部ヲ除クノ外防波堤ノ主要部ハ全ク竣功ヲ見其歩合九割三分ニ達セリ南防波堤ハ其構造北部五十五米ハ北防波堤ト同ジク南部三百九十五米ハ三段乃至二段ノ方塊積ト爲シ基礎地盤ノ安定ヲ期スル爲メ捨石投入後方塊ヲ積壘シテ沈壓作業ヲ行ヘリ昭和四年八月ヨリ辨天臺場掘鑿雜石ヲ利用シテ基礎捨石ノ一部ニ宛テ櫻島熔岩ヲ其上ニ投入シテ基礎捨石ヲ二百四十米ニ互リ施行シ更ニ基礎沈壓約二百十米、地形均五十二米、函据付二十二米、函据付個數二個、同填充混凝土二十二米、函

填充個數二個）方塊据付三十米（方塊個數百四十四個）ヲ完成セシメ其全工程ニ對スル竣功歩合一割七分ニ達セリ

掘鑿及浚渫工事ハ前年度ニ引續キ搔揚式浚渫船錦江號ヲ使用シ主トシテ辨天臺場中央部以北舊港内ノ約北半部全面ニ互リテ仕上浚渫ヲ施行シ其大部分ヲ完成セリ辨天臺場ハ波浪ニ對スル港内保安上一時ニ全部ヲ除却セズ南防波堤工事ノ進行ニ伴ヒテ掘鑿スル事トセリ搔揚式浚渫船ハ海底ヲ平坦ニ仕上ルニ多少ノ困難ヲ伴フヲ以テ施行上ブリストマン式浚渫船ヲ以テ補助セシムルヲ適當ト認メ本年度ヨリ第一號ブリストマンヲ浚渫工事ニ使用シ曳船及土運船ハ錦江號附屬ノ出島丸及六十立方米土運船三隻ヲ兩者ニ供用セリ本年度施工箇所ノ大部分ハ港内奥部ニシテ水面頗ル狹隘ナルガ上ニ沖繩定期船大阪定期船及種子島定期船等當港ニ於ケル大型船舶ノ出入港區域ニシテ常ニ船舶輻輳シ作業ノ能率ヲ損ジ加フルニ前記仕上浚渫ノ困難ヲ伴ヒタルヲ以テ昨年度ニ比シ工程低下シ本年度竣功土量九萬六千六百三立方米（内九千三十三立方米ハ第一號ブリストマンニ依レルモノ）ナリ而シテ本年度迄竣功土量合計五十一萬五千二百六十一立方米ニシテ計畫總土量ニ對シテ約五割三分ノ竣功ニ達セリ

其他雜石採取工事、砂採取工事、砂利採取工事ノ雜工事ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ二十七萬二百三十三圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百二十八萬四千三百五十二圓ヲ算シ工費總豫算二百七十七萬三千八百圓ニ對シ四割六分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品見積價額ニシテ防波堤及護岸費竣功金額中ニハ函工場設備費、雜石、砂及砂利採取費並ニ工事用諸機械運轉費等ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤及護岸費		二二〇、六二五 六九		一五二、七〇 四六		三七三、三三〇 一五	〇・三五
浚渫費	四一九、一九八 <small>立方米</small>	一一七、七二〇 八	九六、〇六三 <small>立方米</small>	四一、五二四 一七		一五九、二四四 二五	〇・五三
家屋移轉費		八、八三五				八、八三五	
船舶及機械費		五五四、五五一 四、三四〇		三五、六一四 一五		五九〇、一六五 四、四九五	
營繕費		二八、四六八 一〇		一三三		二八、六〇〇	
雜費		七九、七五八 四一		三七、七三九 二九		一一七、四九七 七〇	
共濟組合給與金		四、一六二		二、五一九		六、六八一	
總計		一、〇一四、一一九		二七〇、一三三		一、二八四、三五二	〇・四六

第一三 伏木港修築工事

緒言

本工事ハ富山縣ノ起業ニ係リ總工費五萬圓(内事務費三十三萬一千圓)ヲ以テ大正十三年度ヨリ昭和十年
度ニ至ル十二箇年度ニ施行スルモノニシテ國庫ヨリ其半額ヲ補助シ明治三十年法律第三十七號ニ依リ
國ニ於テ直接施行ス然ルニ昭和四年六月ニ至リ國庫財政ノ關係上既定豫算ヨリ六萬三千三百四十六圓
ヲ節減シ總工費四百九十三萬六千六百五十四圓(内事務費三十萬七千五百圓)ヲ以テ既定年度内ニ施行ス
ルコトトナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ富山灣ノ中樞ヲ占メ小矢部川ノ水運ヲ利用シ舊庄川ノ河口ニ發展セル港市ニシテ海岸ヨリ三百
五十米ヲ隔テテ水深六米夫ヨリ海底緩ニシテ約一千八百米ヲ離レ水深十五米乃至十八米、新湊方面ハ三
百五十米ノ沖ニテ二十一米乃至四十五米ノ水深ヲ保ツ又庄川河口約二千三百米ノ所ハ俗稱藍鬮ト稱シ
水深三百米以上ニ達スル深所ヲ有ス小矢部川ハ源ヲ加賀國境大門山ノ東麓ニ發シ北流シテ東西兩礪波
郡ノ平野ヲ貫流シ幾多ノ細流支川ヲ合セ本港ニ注グ其水量豊富且緩流ナルヲ以テ舟楫ノ便良ク本川左
右沿岸庄川以西高岡以北ノ貨物ヲ蒐集スル自然ノ良港ヲ爲スヲ以テ寛文年間幕府ハ内國ニ十三港ヲ指
定セル時本港モ其一ニ列セラル夫ヨリ後天保、弘化年間ニ佐渡ニ次デ大阪ト共ニ開港シ益々港灣ノ眞價
ヲ認メラレタリ明治八年三菱會社ノ汽船入港ヲ始メトシ逐年發展ヲ促シ東京、大阪、下關、北海道ノ各港、沿

海州薩哈噠、朝鮮等ト通航シ船舶ノ出入頻繁トナリシモ本港ハ庄川ノ河口ニ位シ年々同川ヨリ流出スル土砂ノ爲メ河口埋塞セラレ僅カニ百噸内外ノ船舶ヲ繫グノミナリキ然ルニ同三十三年度庄川改修工事ヲ施行スルニ方リ本港ノ修築ヲ爲シ庄川ト小矢部川トヲ分離シ土砂ノ流入ヲ防ギ港口ニ防波堤ヲ、内港ニ岸壁ヲ築造シ水深維持上浚渫ヲ施ス等港灣ノ設備ニ意ヲ注ゲリ又富山縣ハ横棧橋、上屋ヲ施設シ軌條ノ敷設ヲ爲シ中越線ト連絡ヲ保チ荷役ニ便ナラシメ本港面目ノ一新ニ努力セシヲ以テ船舶及貨物ノ出入激増シ大正元年度ニ二十六萬五千噸ニ過ギザリシガ爾來逐年多キヲ加ヘ大正十年度ニハ七十萬噸ニ及ビ其增加率ハ毎年一割餘ニ相當セリ而シテ今後如何ナル率ヲ以テ増加スヘキカハ素ヨリ推定スルコト頗ル困難ナリト雖モ本計畫ニ於テハ飛越鐵道ノ完成縣内諸工業ノ發達及新潟、敦賀二港ニ於ケル擴張工事竣功後本港ガ受クベキ影響等ヲ考察シ増加率ヲ八分ニ算定セリ即チ大正十年度ニ於ケル輸出入貨物合計七十萬噸ヲ標準トシテ今後八分ノ増加ヲ示スモノトセバ昭和六年度ニハ百五十一萬餘噸ニ達スベキヲ以テ本計畫ニ於テハ百五十萬噸ヲ基礎トシ之ニ應ズル設備ヲ爲スモノニシテ伏木河口ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋間ヲ内港區域トシ水深ノ増加ヲ圖リ船舶繫留區域ヲ擴大シ繫船岸延長増加ノ目的ヲ以テ船渠ノ新設、棧橋及繫船壁ノ増築ヲ爲シ接岸荷役能率ノ増進ヲ圖ラントス其計畫大要左ノ如シ

防波堤擴築 左岸ニ於ケル現在ノ防波堤ヲ三十六米延長シ其根元三十六米ヲ改築ス而シテ右岸防波堤ハ之ヲ九十一米擴築シ左岸防波堤トノ間ニ港口幅員百五十米ヲ存セシメ以テ港口ニ生ズル土砂ノ堆積ヲ防ギ且左岸新湊海岸ヨリ移動シ來ル土砂ノ侵入ヲ防止スルモノトス

横棧橋増設 左岸伏木港地先防波堤根元附近ヨリ現在横棧橋ニ至ル間ニ水深八米五ノ横棧橋長百四十

五米、同七米九ノ横棧橋長百九米及右岸新湊町地先渡船場上流ニ於テハ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米ヲ新設シ其後方ニハ上屋倉庫ノ建設、軌條ノ敷設及道路築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス。船渠新設 右岸新湊町六渡寺地内縣有貯木場ヲ利用シ入口ニ於テ幅員百九米、後方ニ於テ幅員九十一米、奥行二百十八米ノ船渠ヲ新設シ其兩岸ニ水深七米、延長各二百十八米ノ繫船壁ヲ築設シ接岸船ノ便ニ供シ其奥ニハ延長百三十六米ノ物揚場ヲ築設シテ舢舨荷役ニ供ヘ且繫船壁及物揚場ノ後方ニハ上屋倉庫ノ建設、軌條ノ敷設及道路ノ築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス尙以上ノ外伏木橋上流右岸舊庄川落口附近ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋ニ至ル間ニ於テ各入口幅百九米、奥行二百五十四米及三百二十七米竝ニ入口幅百二十七米、奥行二百十八米ノ三船渠ヲ新設シ左岸鐵道橋下流ニ於テモ入口幅九十米、奥行百九米ノ船渠ヲ新設スルモノトス而シテ此等船渠ハ總テ假工事ヲ爲スニ止メ專ラ木材置場ニ供シ將來港ノ發展ニ伴ヒ其周圍ヲ繫船壁ニ改造スルモノトス。浚渫 港口ヨリ上流約六百三十六米迄ヲ水深八米五ニ、夫ヨリ上流九十一米ヲ七米九ニ、其上流二百七十三米ヲ七米三ニ、新湊町地内新設船渠ヲ七米三ニ浚渫シ伏木港上流ニ新設ノ四船渠ハ之ヲ水深零米九ニ浚渫スルモノトス。

埋立 新湊町六渡寺地先右岸防波堤ヨリ庄川左岸ニ至ル間三萬六千三百平方米ヲ浚渫ニ依リ生ジタル土砂ヲ利用シ埋立ツルモノトス。

施工狀況

本年度施行セルモノハ防波堤工事、浚渫工事及雜工事ニシテ其概要左ノ如シ

防波堤 前年度ヨリ繼續施行ノ右岸防波堤及本年度著手セル左岸防波堤ノ二箇所ニシテ前者ハ基礎、直壁、捨石等各細目ニ互リ施行シタルモ主トシテ混凝土塊ノ製造及石材、砂ノ採取ヲ爲セリ

年度内ニ成工セルモノ前年度ニ於テ沈下シタル柴工沈床ノ沈石補填及袋詰混凝土二十五立方米、混凝土塊五十四個、捨石百八立方米ヲ沈設セリ尙混凝土塊六百六十八個ヲ製造シ石材二千二百五立方米、砂五百六十立方米ヲ採取セリ後者ハ年度末ノ著手ニシテ混凝土塊用砂利九十九立方米ヲ採取シタルノミナリ、浚渫 本工事ハ大正十三年本修築工事起工以來施行シ來タルモ平水時ハ勿論融雪期及夏期出水時ニ於ケル流下土量尠カラザルガ故ニ何等水深ノ増加ヲ見ルコトナク單ニ其維持ニ止マレル状態ナリシヲ以テ工費ノ點ヨリ考慮シ昭和二年度以降一時本工事ニカヲ注ガズシテ兩三年後浚渫能力ヲ増加シ一氣ニ施行シテ水深ヲ増加スルヲ得策ト認メ差當リノ水深維持ニ對シテハ富山縣ヲシテ施行セシムルコトトシ本年度ニ於テハ縣ハ五萬三千八圓ヲ支出シ土量二十三萬五千五百二十立方米ヲ浚渫セリ
當所ニ於テハ新湊町地内新設船渠浚渫ノ準備工事トシテ前年度ニ引續キ鐵製土運車ヲ用ヒテ低水面以上ノ掘鑿ヲ爲シタルモ其量三百五十立方米ニ過ギズ

雜工事 本年度施行シタルモノハ新湊町地内港灣用地地均工事竝ニ同内川橋梁架設工事ノ二ナリトス前者ハ土運車ヲ用ヒ四萬一千平方米ヲ均シテ翌年度ニ繰越シ後者ハ新設船渠背面ノ港灣用地ト新湊町大字六渡寺トヲ連絡セシムル爲メ幅員五米五、長十九米二ノ木造三徑間桁橋ニシテ取付道路トシテ東詰延長三米、幅員六米五西詰延長三十四米、幅員十二米ノ砂利道ヲ併セ施行シ年度内ニ竣功セリ而シテ其工費三千百九十二圓ノ内一千百九十七圓ニ相當スル材料及勞力ハ新湊町ヨリ寄附提供ヲ受ケタリ

土地買收 前年度ヨリ引續キ新湊町地内ニ於テ土地一千二百五平方米ヲ買收竝ニ地上物件ノ移轉ヲ實

防波堤 前年度ヨリ繼續施行ノ右岸防波堤及本年度著手セル左岸防波堤ノ二箇所ニシテ前者ハ基礎、直壁、捨石等各細目ニ互リ施行シタルモ主トシテ混凝土塊ノ製造及石材、砂ノ採取ヲ爲セリ

年度内ニ成工セルモノ前年度ニ於テ沈下シタル柴工沈床ノ沈石補填及袋詰混凝土二十五立方米、混凝土塊五十四個、捨石百八立方米ヲ沈設セリ尙混凝土塊六百六十八個ヲ製造シ石材二千二百五立方米、砂五百六十立方米ヲ採取セリ後者ハ年度末ノ著手ニシテ混凝土塊用砂利九十九立方米ヲ採取シタルノミナリ、浚渫 本工事ハ大正十三年本修築工事起工以來施行シ來タレルモ平水時ハ勿論融雪期及夏期出水時ニ於ケル流下土量尠カラザルガ故ニ何等水深ノ増加ヲ見ルコトナク單ニ其維持ニ止マレル状態ナリシヲ以テ工費ノ點ヨリ考慮シ昭和二年度以降一時本工事ニカヲ注ガズシテ兩三年後浚渫能力ヲ増加シ一氣ニ施行シテ水深ヲ増加スルヲ得策ト認メ差當リノ水深維持ニ對シテハ富山縣ヲシテ施行セシムルコトトシ本年度ニ於テハ縣ハ五萬三千八圓ヲ支出シ土量二十三萬五千五百二十立方米ヲ浚渫セリ

當所ニ於テハ新湊町地内新設船渠浚渫ノ準備工事トシテ前年度ニ引續キ鐵製土運車ヲ用ヒテ低水面以上ノ掘鑿ヲ爲シタルモ其量三百五十立方米ニ過ギズ

雜工事 本年度施行シタルモノハ新湊町地内港灣用地地均工事竝ニ同内川橋梁架設工事ノ二ナリトス前者ハ土運車ヲ用ヒ四萬一千平方米ヲ均シテ翌年度ニ繰越シ後者ハ新設船渠背面ノ港灣用地ト新湊町大字六渡寺トヲ連絡セシムル爲メ幅員五米五、長十九米二ノ木造三徑間桁橋ニシテ取付道路トシテ東詰延長三米、幅員六米五西詰延長三十四米、幅員十二米ノ砂利道ヲ併セ施行シ年度内ニ竣功セリ而シテ其工費三千百九十二圓ノ内一千百九十七圓ニ相當スル材料及勞力ハ新湊町ヨリ寄附提供ヲ受ケタリ

土地買収 前年度ヨリ引續キ新湊町地内ニ於テ土地一千二百五平方米ヲ買収竝ニ地上物件ノ移轉ヲ實

施シ計九萬三千六百五十圓ヲ支出セリ
 本年度ニ於ケル竣功額ハ三十二萬七千三十三圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計百八十四萬七千四百六十九圓ナリ之レヲ總工費四百六十二萬九千五百五十四圓ニ比スレバ四割ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「▲」ハ新湊町ノ提供額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
浚渫費	542,823 <small>立方米</small>	83,364 <small>円</small>	350 <small>立方米</small>	270 <small>円</small>	543,173 <small>立方米</small>	83,634 <small>円</small>	0.5	
防波堤費		10,293		4,589		5,704	0.27	
雜工事費		6,664		1,197		7,861	0.15	
用地費	10,550 <small>坪</small>	1,149,816	1,250 <small>坪</small>	93,650	11,800 <small>坪</small>	1,243,466		
船舶及機械費		140,750		144,703		285,453		
測量費		5,858		1,790		7,648		
營業繕費		10,172		5,182		15,354		
雜費		108,024		31,630		139,654		
共濟組合給與金		5,495		2,886		8,381		
總計		1,520,436 <small>▲</small>		311,997 <small>▲</small>		1,832,433 <small>▲</small>	0.10	



第一四 土崎港修築工事

緒言

本工事ハ昭和三年六月秋田縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得テ起業シタルモノニシテ總工費二百五十萬圓(内國庫補助百十八萬七千五百圓)ヲ以テ昭和三年度ヨリ同八年度ニ至ル六箇年度繼續事業トシテ實施中ナリシガ昭和四年六月ニ至リ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直轄施行スルコトナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ秋田縣ノ略中央雄物川ノ河口ニ發達セル港市ニシテ秋田市ヲ包含セル同川附近豐饒ノ地ヲ控ヘ縣下産業消費ノ中心地ニ當リ縣下第一ノ良港灣タルノ素質ヲ有シ本修築工事及雄物川改修新屋分水工事完成ノ曉ニ於テハ北西十二哩ニ在ル船川港ト相俟ツテ殖産興業ニ資スルモノ極メテ大ナルベシ又青森、酒田、新潟ノ諸港ト共ニ北日本海岸ニ於ケル要津トナリ浦鹽港トハ最短距離ニシテ四百十九哩、僅カニ一晝夜半ニテ到達シ得ベキヲ以テ露領西比利亞トハ密接ノ關係ヲ有シ將來日露貿易上有數ノ位置ヲ占ムベク期待セララル

本港海運ノ歴史ヲ案ズルニ往古藩政時代ニ於テハ一千石積、五十石積等ノ帆船ヲ以テ行ハレタリ維新後汽船航海ノ便開クニ及ビ明治十五年頃ヨリ本港ニ寄港スルモノ多ク爾來逐年貨物ノ集散増大シ大正二年ニハ輸出入合計二十三萬五千噸、價額四百五十萬圓ヲ有シ商業殷盛ヲ極メタリ然ルニ其後時運ノ進展

ニ伴フ船腹ノ増大ハ河口水深減小ノ爲メ港勢次第ニ衰退セルヲ以テ本港修築ノ議漸次擡頭シ偶々雄物川改修工事著手セラレ新屋新川開鑿ノ曉ハ港口水深ノ維持容易ナルベキヲ以テ爰ニ本修築ノ成立ヲ見ルニ至レリ其計畫ノ大要左ノ如シ

岸壁及物揚場 雄物川河口ヨリ約千三百米上流右岸ニ南北二基ノ突出埠頭ヲ築キ北部突出埠頭ノ西南二側ハ水深七米六延長三百四十九米、南部突出埠頭ノ周壁ハ水深四米六延長四百六十七米、尙此他ニ水深四米六ニ築造スル箇所二百三十三米アリ南部突出埠頭ノ南方埋立地ノ前面ニ水深二米ノ物揚場ヲ築造シ其延長八百八十一米、其中間ニ面積約一萬四千平方米ノ船溜ヲ設ケ周邊ヲ物揚場トシ水深二米、延長六百七十五米トス

浚渫及埋立 河口ヨリ北部突出埠頭ニ至ル幅員百八十米乃至三百六十米、面積約三十六萬平方米ヲ水深七米六ニ南部突出埠頭ノ前面約十四萬平方米ヲ水深四米六ニ、物揚場前面約十七萬平方米ヲ水深二米ニ浚渫ス右浚渫土砂ヲ以テ兩埠頭竝ニ物揚場以東約十八萬平方米ヲ埋立ツルモノトス

突堤 既定雄物川改修計畫ニ於ケル突堤ヲ相當延長シ南突堤ヲ水深九米ニ、北突堤ヲ水深七米ニ達セシム

施工狀況

本年度工事費年度割五十萬圓ノ豫定ナシリモ財政緊縮ノ結果工事繰延トナリ實行豫算四萬圓トナリシガ故ニ施工ノ準備及調査測量ニ從事シタルノミ調査測量ハ主トシテ土崎港口及ビ雄物川下流附近ノ一般地形測量竝ニ深淺測量ヲ施行シ海岸線ノ移動、水深ノ變動ニ關スル調査觀測ヲ行ヘリ

又必要ナル備品及器械類ノ一部ヲ購入シ尙工費用三十噸積運搬船三隻其他ヲ雄物川改修事務所所屬新屋機械工場ニ委託製作シ年度内ニ孰レモ竣功セリ
 本年度竣功高一萬四千四百二十四圓ニシテ工事費二百三十五萬圓ニ比スレバ六厘ノ竣功ニ當リ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費				10,311.66 圓		10,311.66 圓	100%
測量費				1,400.9		1,400.9	
雜費				2,514		2,514	
共濟組合給與金				175		175	
總計				14,422.46 圓		14,422.46 圓	100%

第一五 小名濱港修築工事

緒言

本工事ハ福島縣ノ起業ニ係リ總工費三百八十八萬圓(内國庫補助百七十八萬圓)ヲ以テ昭和四年度ヨリ昭和九年度ニ至ル六箇年度ノ繼續事業ニシテ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行ス

港狀並計畫大要

本港ハ南ニ開敞セル港灣ニシテ東西二方ハ丘嶺アリテ三崎及八崎ノ兩岬ハ約五軒五ヲ隔テテ相對シ以テ稍々灣狀ヲ形成シ北方ハ平野ニシテ本港將來ノ發展ニ對シ有利ノ地形ヲ爲ス曩ニ福島縣ハ國庫ノ補助ヲ得テ工費約百萬圓ヲ以テ大正七年度ヨリ大正十四年度ニ互リ本港ノ修築工事ヲ施行セシガ其後港勢發展シ現在ニ在リテハ其出入スル船舶ニ對シ既ニ狹隘ヲ告ゲ且水深小ナルノ憾アリ茲ニ於テ福島縣ハ本修築工事ヲ企畫シ防波堤ヲ築キ港内ヲ浚渫シ繫船區域ヲ擴大シ護岸、船渠及繫船岸壁ヲ築造シ接岸荷役ノ能率ヲ増進スルコトトセリ其計畫大要ハ左ノ如シ

防波堤 現在ノ既設外側防波堤ノ西端ノ近クヨリ西方ニ長五百四十五米ノ防波堤ヲ築設シテ波浪ヲ防ギ港内碇泊地ヲ擴張セントス

埋立地 市街地前面ノ海岸ニ沿ヒテ約二十七ヘクタールノ埋立地ヲ設ク

防波堤 埋立地ノ西端ヨリ南方ヘ長四百七十三米ノ防波堤ヲ設ケテ港内ヘ侵入セントスル漂砂ヲ防止セントス

岸壁 埋立地ノ一部ハ之ヲ埠頭ト爲シテ突出セシメ其幅百二十七米、長二百十八米トシ防砂堤ヨリ東方へ二百七十三米ヲ隔テシム埠頭ノ東側二百十八米及西側ノ内百九米ヲ岸壁トシ其前面水深ヲ干潮位以下七米三トシ以テ三千噸級ノ汽船三隻ヲ同時ニ繫留スルヲ得セシム

護岸及物揚場 埋立地ノ前面及兩側ニ延長一千七百九米ノ護岸及物揚場ヲ設ケ小型船舶ノ接岸荷役等ニ充ツ

浚渫 港内碇泊地ノ内約三十一ヘクタールヲ干潮位以下七米三ノ水深ニ浚渫シ以テ三千噸級船舶ノ出入碇泊ヲ便ナラシム

施工狀況

本年度ニ於テハ福島測候所小名濱出張所建物ノ一部ヲ借用シ事務所ニ充テ尙傭人詰所、土工機械及主要材料ノ置場トシテ福島縣小名濱築港事務所ノ一部ヲ借用セリ

本年度ハ工費少額ナリシガ故ニ海岸附近ノ地形測量、水準測量、港内ノ深淺測量、潮位測定、海底地質調査等ヲ施行シ尙割栗石、砂利、砂等工用材料ノ採取地等ノ調査ヲ行ヘルノミ本年度ノ竣功高二萬八千五百十四圓ニシテ工事費三百六十四萬圓ニ比スルトキハ八厘ノ竣功ニ當リ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
船舶及機械費				九、三八五		九、三八五
測量費				九、四〇五		九、四〇五
雜費				九、一五九		九、一五九
竣功歩合						

第四章 港灣改良工事 (小名濱港修築工事)

總計	共濟組合給與金
二八、五一四	五六五
二八、五一四	五六五
〇・〇〇八	

第一六 宮古港修築工事

緒言

本工事ハ岩手縣ノ起業ニ係リ總工費二百二十萬圓(内國庫補助百二萬五千圓)ヲ以テ昭和四年度ヨリ同八年度ニ至ル五箇年度ノ繼續事業ニシテ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行ス

港狀竝計畫大要

本港ハ岩手縣東海岸ノ中央ニ在リテ南西ニ深ク灣入セル宮古灣ニ面ス東ハ重茂半島ニ依リ被覆セラレ南西北ノ三方ハ山嶽ニ包マレ爲ニ最強風タル冬期南西風ノ吹荒ム時ト雖モ激浪起ラズ港内中心地ノ水深亦相當深度ヲ保有シ海底ノ地質ハ砂交リ泥土ニシテ從テ錨泊ニ適ス又港内ニ注グ閉伊川ハ河身概ネ花崗岩質ニシテ土砂ノ流出ニ依リ港内ノ水深ヲ害スルコト少ク唯河口ノ一局部ニ暗礁アルモ遡航約五百米間ハ小型船舶ノ出入容易ナルガ故ニ古來三陸沿岸ノ良港トシテ南部宮古港ノ名世ニ喧傳セラルレドモ其設備タルヤ僅ニ水深二米ノ小棧橋ヲ有スルニ過ギズシテ大型船舶ハ悉ク舳舳ニ依リ荷役ヲ爲スノ現狀ニ在リ其不便尠カラザルノミナラズ北東風ニ依ル外洋ノ波浪ハ館ヶ崎ニ依リ大ニ力ヲ殺ガルト雖モ相當大ナル廻浪ハ港内ヲ襲フノ狀態ニシテ又一面漁業ノ發達ニ伴フ水産物ノ増大ト林産物ノ豐富ナルトニ依リ逐年移出入貨物ノ増加ヲ來セリ本港修築計畫ノ大要次ノ如シ

防波堤 外海ヨリノ廻浪ヲ遮斷シテ港内泊地ノ靜穩ヲ期スル爲メ龍神崎ヨリ南方ニ向ヒ二百五十五米ノ防波堤ヲ築設シ港内水面ヲ掩護セシム

岸壁 出崎附近ニ於テ東方ニ突出セル埠頭一基ヲ設ケ其北岸ニ水深七米三ノ繫船岸壁延長二百十八米ヲ築造シテ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供スルモノトス

護岸 前記出崎埠頭ノ周圍竝欒ケ崎地先ニ護岸物揚場ヲ築設シ更ニ閉伊川ノ左岸ヲ整理シ共ニ護岸物揚場ト爲シ小型船ノ接岸荷役ノ用ニ充ツ是等ノ延長一千三百三十六米トス

浚渫 港内ニ於ケル水面積約十七萬平方米ヲ水深七米三ニ七萬六千平方米ヲ水深五米五ニ浚渫ス

埋立 出崎埠頭附近竝ニ閉伊川左岸ニ於テ七萬六千平方米ノ埋立ヲ爲スモノトス

施工狀況

本工事ハ昭和四年六月ノ創業ニシテ本年度ニ於テハ實行豫算僅少ナルガ故專ラ調査測量ヲ爲シタルニ過ギズ本年度ノ竣功高二萬四千二百三十一圓ニシテ工事費二百七萬圓ニ比スルトキハ一分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費				九、九三七		九、九三七	四分
測量費				六、二四七		六、二四七	
雜費				七、七五〇		七、七五〇	
共濟組合給與金				二九七		二九七	
總計				二四、三三一		二四、三三一	一〇〇

第一七 浦戸港修築工事

緒言

本工事ハ高知縣ノ起業ニ係リ總豫算四百三十七萬圓(内事務費二十四萬圓)ヲ以テ昭和四年度ヨリ同十三年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ國庫ヨリ其半額ヲ補助シ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接工事ヲ施行スルモノトス

港狀並計畫大要

浦戸港ハ四國南部ノ中央ニ位シ西足摺岬東室戸岬相對峙シテ土佐灣ヲ擁シ遙ニ渺茫タル太平洋ニ南面ス港域ハ上龍頭崎ヲ中心トシテ半徑ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内ノ外右ニ種崎千松園左ニ桂濱舊燈臺ヲ扼シテ港口ヲ割シ水面積無慮八百五十萬平方米ヲ算スル浦戸灣ヲ抱擁シテ直ニ高知市ニ聯絡ス現ニ港灣設備ノ見ルベキモノナシト雖自然ノ天惠ハ常ニ港内ヲ靜穩ナラシメ且水深裕ナルヲ以テ大船巨船ノ碇繫上安全ナリ然レドモ出入船舶ノ最モ困難トスル所ハ夏秋ノ候襲來スル低氣壓ハ南東又ハ北東ノ強風ヲ誘發シ速度二十五米以上ニ達シ爲メニ澎湃タル怒濤ノ猛襲スルアリテ之ガ沈靜ニハ數日ヲ經ルコト屢々ナルガ故ニ定期船ノ缺航ヲ見ルコト敢テ稀有ナラズトス

本港修築上ノ既往ニ關シテハ特記スベキモノナシト雖モ維新後數回ニ互リ斯道權威者ヲ招聘シテ調査ヲ遂ゲ幾多ノ計畫成案ヲ得タレドモ遂ニ實現ヲ見ズシテ今日ニ至レリ

夙ニ本港ハ阪神及南九州トノ聯絡交通ヲ司リ所謂四國ノ南部地方ニ於ケル物資ノ集散地トシテ重要ナ

第四章 港灣改良工事 (浦戶港修築工事)

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	船舶及機械費
				m
一九、一六一	七八	九、二二三	一三、一〇〇	八、五六一 円
一九、一六一	七八	九、二二三	一三、一〇〇	八、五六一 円
〇〇〇五				圓分厘

第一八 七尾港修築工事

緒言

本工事ハ石川縣ノ起業ニ係リ總工費三百五十五萬圓(内事務費十八萬圓)ヲ以テ昭和四年度ヨリ同十三年度ニ至ル十箇年度ニ施行スルモノニシテ國庫ヨリ百三十三萬六千圓ヲ補助シ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行ス

港狀並計畫大要

本港ハ能登半島ノ東南ニ灣入セル七尾灣内ニアリ前面ニ能登島ヲ控ヘ東南ニ石動山脈ヲ負ヒ其連脈東北ニ馳セ海ニ迫ル處能登島ノ荒神鼻ト相對シ此距離僅ニ七百米之ヲ小口瀬戸ト稱シ外海ニ通ズ西南ニハ丘陵連互シテ石崎、屏風崎トナリ能登島ノ須曾屏風崎ト相對シテ内灣(西灣)ニ通ズ灣内擴大ニシテ其幅員二哩半ニ達シ相當ノ水深ヲ有シ四時風波ノ虞、漂砂又ハ土砂流入ノ憂無ク日本海有數ノ良港ニシテ舊名香島津ト稱シ昔ヨリ舟運ノ便開ケ和船常ニ輻輳スルヲ見タリ明治三十二年間、港場ニ指定セラレ爾來船舶ノ出入年ト共ニ増加シタルモ灣内ニ蟠居スル幾多ノ暗礁ト海陸連絡設備ノ不完全トニ因リ發展遲々タルヲ認メ石川縣ハ工費四萬六千八百餘圓ヲ以テ明治四十三年ヨリ大正三年ニ至ル間ニ最モ危險視セラレタル小口瀬戸ノ森田礁ヲ破碎除去シ水深七米三以上ニ達セシメ更ニ同期間中ニ工費四萬一千圓ヲ投ジ燈臺、導燈、挂燈、浮標等ヲ設置シタリ又大正三年ヨリ海陸連絡設備工事ニ著手シ工費十五萬七千圓ヲ以テ矢田新地先埋立浚渫及棧橋(長百十二米、幅十二米)ノ諸工事ヲ施行シ大正八年竣功ヲ告ゲタルモ同

十年工費二萬二千八百圓ヲ以テ棧橋補修工事ヲ施行セリ

是ヨリ先臨港鐵道ノ敷設成リタルモ未ダ上屋ノ設備無カリシヲ以テ七尾町ハ大正六年工費三萬八千圓ヲ投ジ矢田新縣有埋立地内ニ木造上屋二棟、倉庫一棟ノ建設ニ著手シ大正八年落成セリ其他港内樞要ノ地先ニ簡易ナル埠頭及棧橋ノ設備ヲ爲ス等面目ヲ一新スルニ至レリ

而シテ今ヤ本港ヲ中心トシテ省線七尾線、七輪線アリ私線七氷鐵道ノ敷設又近キニ在リ加賀能登一圓及越中ノ一部ヲ主タル後方地帯トシ輓近港勢ノ進展著シキモノアリ殊ニ近時對岸滿線及露領沿海州ノ開發之ニ因ル裏日本海運界ノ振興ト共ニ本港ノ利用一層増大スルニ至ルベク昭和二年十一月第二種重要港灣ニ編入セラルルニ及ビ茲ニ本修築ノ計畫ヲ樹立スルニ至レリ

本港ハ上記ノ如ク防波、防砂ノ施設ヲ要セザルヲ以テ主トシテ海陸ノ連絡ト木材、石炭ノ如キ大量貨物ヲ處理スベキ施設ヲ爲シ一般雜貨ノ荷役及漁港トシテノ設備ヲ併セ考慮セリ即チ西部津向方面ヲ工場地帯、中部湊町方面ヲ一般雜貨及漁獲物ノ取扱、東部東湊村方面ヲ木材、石炭等ノ處理ニ充ツルコトトセリ其計畫ノ大要左ノ如シ

埋立 湊町地先水面十一萬七千五百平方米ヲ埋立テ之ヲ商業地域ニ充テ現矢田新棧橋ノ位置ニ二萬三千八百平方米ノ繫船埠頭ヲ設ケ其東部佐味地先へ木材置場トシテ十三萬八千八百四十平方米ノ埋立地ヲ造成ス

棧橋及物揚場護岸 湊町地先埋立地前面ニ物揚場護岸ヲ設ケ一千噸級以下ノ汽船並舢舨、漁船ノ接岸荷役ニ供シ矢田新地先埠頭西岸ニハ水深七米三ノ棧橋、東岸ニハ同五米五ノ棧橋ヲ築造シ四千噸級汽船二隻、一千噸級若ハ二千噸級汽船三隻ヲ同時繫留スルコトヲ得セシメ木材置場前面ハ物揚場護岸ヲ築造ス

貯木場 木材置場前ニ於ケル水面十六萬五千二百九十平方米ヲ周堤及棧道ニ依リ夫々區劃シ貯木池及
 木材整理場ニ充ツ

浚深 埠頭前面九萬九千七百七十平方米ヲ水深千潮面以下六米四乃至七米三ニ浚深ス

施工狀況

本工事ハ本年度ノ創業ニシテ昭和四年九月十六日石川縣鹿島郡七尾町字府中町ニ事務所ヲ設置シ直ニ
 諸般ノ準備ヲ爲スト共ニ測量及矢田新棧橋築造地點ニ於テ十一箇所、湊町埋立地點ニ於テ三箇所、深度海
 底ヨリ十五米二乃至二十一米五ノ地質調査ヲ施行セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ僅カニ一萬六千九百一十一圓ニ過ギズ之ヲ總工費三百三十七萬圓ニ比スルトキ
 ハ五厘ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		円		八〇八〇		八〇八〇	24.2%
測量費				七三三六		七三三六	22.4%
雜費				一、四四三		一、四四三	4.4%
共濟組合給與金				一五二		一五二	0.5%
總計				一六、九一一		一六、九一一	5.1%

第一九 尾道港修築工事

緒言

本工事ハ廣島縣ノ起業ニ係リ總豫算四百十萬圓内工費三百九十一萬圓、事務費十九萬圓ニシテ内百六十五萬七千三百四十圓ヲ國庫ニ於テ補助シ昭和四年度ヨリ同十六年度ニ至ル十三箇年度ノ繼續事業トシ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀並計畫大要

尾道港ハ瀬戸内海ノ略中間ニ位シ尾道市及其東西ニ隣接スル山波、吉和ノ兩村並ニ絲崎町ノ西部ト是等ニ相對峙スル向島、岩子島ノ兩島間ニ介在シ地形東西ニ走ル一海峽ナルガ其延長約十軒、幅員不規則ニシテ曲浦ニ富ミ最大一千三百二十米、最小二百米ニシテ其廣袤六百六十ヘクタールヲ超エ港内四時靜穩ニシテ風浪ノ憂ナク眞ニ天與ノ良港ナルノミナラズ其重要航路タル三原水道ニ直面セルガ故ニ中國中部沿岸ニ於テ船舶ノ寄港上最モ經濟的優秀ノ地位ヲ占ム加之海運ハ關門以東内海航路線ハ何レモ本港ヲ中心トシテ交通網ヲ張り旅客貨物ノ吞吐一トシテ本港ヲ經由セザルモノ無ク山陽鐵道又市ノ中央ヲ貫キテ東西ニ走リ尾道驛ハ近ク港灣ニ臨ミ更ニ之レヨリ分岐シテ北備ニ通ズル尾道鐵道北ニ走リ國道二號線ハ鐵道山陽本線ニ平行シ縣道ノ二線又此處ニ發ス斯クノ如ク海陸共ニ地ノ利ヲ得ルト雖モ惜ムラクハ水深ニ乏シク其平均僅ニ五米内外ニ過キザルヲ以テ現狀ノ儘ニテハ大船巨舶ノ碇繫ニ便ナラズ之レガ根本的ノ修築ハ縣市ノ輿論トナリ遂ニ第五十六議會ノ協贊ヲ經テ茲ニ本修築工事ヲ施行スルコト

トナレリ其計畫大要次ノ如シ

浚渫 西方鯨島東部ニ存在セル二個ノ洲ヲ除キ更ニ漁師町ノ前方ヨリ小歌島ニ至ル約三軒間ヲ幅員百五十米乃至三百六十米ヲ保テ水深平均最大干潮面以下七米五及五米五ニ浚渫ス其面積約五十六萬平方米、土量約百九十餘萬立方米ナリ

又東港口ニ於テハ向島肥濱東地先ヨリ東方ニ向ヒ幅百三十米、延長一千五百米ヲ水深四米五ニ浚渫ス此面積約十萬平方米、土量約十二萬立方米ナリ

尙小歌島西南ニ於テ埋立地間ニ船溜トシテ幅員九十二米、長二百米ヲ水深二米ニ浚渫シ又西御所以東ハ岸ヨリ十二米ヲ離レテ水深三米ニ浚渫シ小形船ノ接岸ニ便ス以上浚渫總土量約二百十三萬立方米ナリ埋立 小歌島ノ西南ニ於ケル約十三萬三千平方米、西御所約一萬五千平方米、栗原川廢川敷約五千平方米竝ニ西御所以西ノ沿岸十二萬三千平方米、合計約二十七萬六千平方米ヲ埋立テントス埋立高ハ小歌島西南ノモノハ最大平均滿潮面以上一米六、其他ハ何レモ滿潮面以上一米三ナリ

繫船岸壁及棧橋 市ノ西端西御所埋立地先ニ於テ延長四百八米ノ繫船岸壁ヲ設ク内延長二百七十二米ハ水深七米五、延長百三十六米ハ水深五米五岸壁ト爲シ之レニ依リ一千噸乃至三千噸級汽船ノ接岸ヲ容易ナラシム

棧橋ハ土堂町以東ノ沿岸六箇所ニ設ケ專ラ小形發動汽船ノ發著ニ便セントス

陸上設備 陸上設備トシテハ西御所埋立地ニ三棟總面積五千六百平方米ノ上屋ヲ建設シ更ニ鐵道引込線路ヲ敷設シテ荷客運輸ノ連絡ニ便ナラシムルト共ニ連絡鐵道背面ニ於テ現在海岸道路幅員ヲ擴張シテ臨港道路ト爲シ其他荷物陸揚及船舶操縦ノ爲メニ要スル諸設備ヲ爲ス

施工狀況

昭和四年六月二十日尾道市役所内ニ一時假事務所ヲ設置シ七月一日尾道市東御所町海岸通二丁目ニ移轉シ事務ヲ開始セリ本年度ハ準備トシテ實施諸測量其他諸般ノ調査ヲ爲シタルノミ本年度ノ竣工工費一萬七千三百六十三圓ニシテ其竣工表左ノ如シ

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合 計		歩 合
	數	金 額	數	金 額	數	金 額	
船舶及機械費				六、九五八 <small>円</small>		六、九五八 <small>円</small>	歩 合
測量費				五、六五二		五、六五二	
營業繕費				三、八六		三、八六	
雜費				四、二七八		四、二七八	
共濟組合給與金				八九		八九	
總計				一七、三六三		一七、三六三	C・C・O・E

第二〇 舞鶴港修築工事

緒言

本工事ハ京都府ノ起業ニ係リ總豫算二百三十萬圓(内事業費二百十八萬圓、事務費十二萬圓)ノ内百五萬三千五百圓ヲ國庫ニ於テ補助シ昭和四年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀並計畫大要

本港ハ京都府加佐郡ニ屬シ舞鶴灣ノ西方ノ灣奥ニ位シ日本海諸港中唯一ノ天然ノ良港ニシテ三方殆ンド山嶽ヲ周ラシ北ノ一方ノミ僅カニ開クルモ外海遠ク且強烈ナル西北風ヲ遮リ灣内常ニ平穩ナルノミナラズ干満ノ差極メテ少ナク水深ク廣濶ニシテ海底ノ地質錨定ニ便ナルヲ以テ船舶ノ碇繫容易ナルノミナラズ附近ハ海產物豐富ニシテ之ニ從事スル漁船亦尠カラズ而シテ本邦商工業ノ中心地タル京、阪、神三都ニハ日本海諸港中最短距離ノ位置ヲ占メ鐵道ノ連絡アリ故ヲ以テ出入船舶逐年増加ノ趨勢ヲ示シ加フルニ大正十二年四月舞鶴鎮守府廢セラレ舞鶴要港部トナリ從來本港ノ受ケタル軍事上ノ制限大ニ緩和セラレテ以來益々船舶ノ出入碇泊自由トナリ今ヤ北鮮、西比利亞、樺太、北海道ノ諸地方トノ輸出入貿易激増ノ勢ニ在リ然ルニ本港既設ノ設備トシテハ高野川右岸及其尖端ニ鐵道省ノ施行ニ係ル物揚場、棧橋、上屋等アルモ何レモ規模狹小ナル上設備不完全ニシテ到底此大勢ニ應ズル事能ハズ茲ニ於テ京都府民ノ蹶起トナリ港灣修築ノ計畫ヲ樹テ茲ニ本港修築ノ成立ヲ見ルニ至レリ其計畫大要次ノ如シ

埋立 舞鶴町大繩場並大野邊地先水面約十一ヘクタールヲ埋立テ其突出部新埠頭地域ヲ上屋、倉庫等ノ陸上設備用地ニ充テ他ハ之ヲ商工業地域トシ尙住吉、入江兩岸整理ノ爲メ零ヘクタールノ埋立ヲ爲ス岸壁、物揚場護岸 前記埠頭兩側ニ延長百八十二米及二百米、水深七米三繫船岸壁ヲ築造シ三千噸汽船二隻、二千噸級汽船二隻ヲ同時ニ繫留スル事ヲ得セシメ埠頭前端及其他埋立地ノ外側ニハ物揚場護岸ヲ築造シ小型船舶ノ接岸荷役ニ供セントス

掘鑿、浚渫 東岸壁及之ニ接續スル物揚場ニ接スル高野川右岸沿民地ヲ買收シ之ヲ掘鑿シ河口幅員ヲ百十米乃至百五十五米ニ擴張ス

繫船岸壁ノ周圍ハ水深干潮面以下七米三ニ高野川、住吉入江合流ヨリ下流ハ水深二米七ニ浚渫ス貯木場 大野邊地先埋立地外方水面ヲ區劃シ簡易ナル木柵二百七十三米ヲ設ケ之ヲ貯木水面ニ充ツ

施工狀況

本工事ハ本年度ヨリ施行ノ事トナリ昭和四年八月十六日舞鶴町所在元加佐郡々役所ノ一部ヲ借リ受ケ事務所ヲ設置シ事務ヲ開始諸般ノ準備ヲ爲セリ然ルニ本港區域ハ要塞地帯ニ屬スルヲ以テ事毎ニ要塞地帯法ノ制限ヲ受ケ爲メニ尠カラズ日子ヲ要シタルモ許可濟ノ分ヨリ著手スル事トシ冬季作業困難ナル陸上ノ測量ヨリ初メ漸次水上ニ及ボシ年度内ニ平面高低測量ノ外業ヲ了リ尙地質測量ニ著手シ雜調査ノ大部ヲ了シタリ而シテ今明兩年度實行豫算僅少ナル爲メ測量完成後ノ工事ニ付考慮ノ結果計畫區域内ノ將來買收スベキ人家ニ適當ナル移轉先ヲ與ヘ且埋立不足土ヲ補充スル爲メ機械費ヲ要セザル點トニ依リ四所村大字下福井地先民有地ノ土石ヲ讓リ受ケ之レヲ人力掘鑿運搬ニ依リ同地先及舞鶴町大

字西地先ノ海面埋立ヲ爲スコトトシ昭和五年三月二十三日其工ヲ起シタルモ年度内ニハ僅カニ運搬線路ノ準備ヲ爲シタルニ過ギズ
 本年度ノ竣功高ハ一萬四千六百八十三圓ニシテ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
埋立費				二、五三三			二、五三三	
船舶及機械費				七、〇八七			七、〇八七	
測量費				二、八八七			二、八八七	
營業繕費				七一			七一	
雜費				二、〇三三			二、〇三三	
共濟組合給與金				七四			七四	
總計				一四、六八三			一四、六八三	〇・〇〇七

第二一 博多港修築工事

緒言

本工事ハ福岡市ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總豫算五百三十萬圓ノ内二百三十一萬七千二百七十圓ハ國庫ノ補助ニ屬シ昭和四年度以降十四箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノトス

港狀並計畫大要

本港ハ九州ノ北岸ニ位シ地形深ク東方ニ灣入シ四時風浪穩ニシテ天然ノ良港ナリト雖モ港内淺ク且水陸聯絡ノ設備不充分ナルヲ以テ貨物ノ大部分ハ數浬ノ沖荷役ニ依リ處理セラルルノ狀況ニ在リ然ルニ輓近後方地域ノ經濟的發展顯著ナルモノアルト取引關係ノ内外ニ伸長スルニ伴ヒ港灣設備ノ必要漸ク急ヲ告グルモノアリ依ツテ之ガ大勢ニ應ズル爲メ本修築工事ヲ施行セントスルモノニシテ其計畫ノ大要左ノ如シ

防波堤 西公園下ヨリ池ノ瀨間ノ瀨ノ暗礁ヲ利用シ北東ニ延長一千二百七十三米ノ防波堤ヲ築設シ西北風ニ依ル港内波浪ヲ遮ラシム

浚渫 港口ニ達スル航路ハ幅員百五十二米、延長二千二百七十三米トシ水深千潮面以下七米ニ浚渫スルモノトス

港内浚渫面積ハ九十四萬五千二百二十四平方米トシ岸壁前面十九萬五千四十平方米ハ水深七米八一萬七千九百九十平方米ハ水深三米六ニ其他ハ七米ニ浚渫スルモノトス

總計	共濟組合給與金	雜費	營業繕費	測量費	船舶及機械費
二六、九四四	一一一	四、一三九	一六、一九三	三、四四七	三、〇四四
二六、九四四	一一一	四、一三九	一六、一九三	三、四四七	三、〇四四
〇・〇〇五					四分厘

第五章 復舊工事及補修工事

第一 相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事

緒言

本工事ハ大正十三年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ總工費四百九十八萬六千八百七十一圓(事務費四十三萬六千八百七十一圓ヲ含ム)ヲ以テ大正十二年大震災ニ因ル山地荒廢復舊ノ爲メ相模川、酒匂川、早川、花水川及多摩川流域ニ施行スルモノトス而シテ本工費ハ關係府縣ニ於テ其負擔ニ耐ヘザルニ依リ全額國庫支辨トス

河狀竝計畫大要

一 相模川流域

相模川ハ源ヲ富士東麓山中湖ニ發シ山梨、神奈川ノ兩縣ヲ經テ相模灣ニ注グ流路延長四百六十粁、流域面積一千六百二十二平方粁ニシテ上流部ヲ桂川ト稱シ下流部ヲ馬入川ト稱ス其工事施工區域ハ幹川桂川、支川笹子川、道志川及中津川トス

桂川流域中崩壞最モ甚シキハ其支流鹿留川及小佐野川トス鹿留川ハ源ヲ道志山地皆形山ニ發シ流路延長十一粁、東桂村落合ニ於テ桂川ニ注グ急流河川ニシテ流域面積三十八平方粁アリ地質ハ支流倉見澤以奧石英閃綠岩、下流ハ凝灰岩ナリ大震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ激甚ニシテ九月十五日ノ出水ニ際シテハ從來十米ニ過ギザリシ川幅ハ一躍百米乃至五百米ニ擴大シ土石及倒木ノ流出甚シク大野ヨリ門原ニ至ル

約二籽ノ區間ハ土石流ノ爲メ沿川地ノ耕地殆ンド荒廢ニ歸シ家屋ノ流失亦尠カラズ之レガ爲メ流身一定セズ爾來耕地ヲ脅シツツアリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費二十二萬圓ヲ以テ鹿留川大野部落ノ上流ニ四箇所其支流倉見澤ニ一箇所計五箇所及小佐野川ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設シ以テ土石ノ流出ヲ防止セントス

笹子川ハ源ヲ笹子峠ニ發シ東南流シ追分ニ至リ狩谷澤ヲ合セテ東流シ笹子初狩廣里ノ諸村ヲ經大月ノ西部ニ於テ桂川ニ合流ス流路延長十五籽流域面積九十四平方籽アリ震災ニ因ル崩壞ハ右岸ニ多ク就中右支柳澤辰巳澤及庭洞澤ヨリ押出セル土石ハ九月十五日ノ出水ニ際シ中央線ノ鐵道ヲ埋メ汽車ノ不通二日間ニ及ベリ

本川砂防計畫ハ本工事費五萬圓ヲ以テ辰巳澤及庭洞澤ニ各四箇所計八箇所ノ小堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止セントス

道志川ハ源ヲ甲斐山伏峠ニ發シ道志丹澤兩山塊ノ溪間ヲ北東ニ貫流シ山梨神奈川ノ縣界ニ於テ丹澤山塊ノ盟主蛭ヶ嶽標高一千六百七十三米ヨリ發スル支流神ノ川ヲ合セ以下蛇行シテ津久井郡三澤村地先ニ至リ相模川ニ合流ス流路延長四十三籽流域面積百四十四平方籽アリ流域内山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ地勢急峻ニシテ林相良好ナラズ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ右岸ナル丹澤山塊ニ於テ甚シク殊ニ神ノ川流域山地ノ如キハ其面積ノ約三割ヲ崩壞ニ歸セリ

本川ハ横濱市水道水源ニシテ同市ニ對シ極メテ密接ナル關係ヲ有ス然ルニ震災以來河水濁濁甚シク之ガ沈澄ニ全市ハ多大ノ經費ヲ投ジツツアリ其復舊ハ一日モ猶豫スベキニアラザルナリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費八十萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所支流神ノ川ニ四箇所室久保澤ニ二箇所西

ノ澤、井口澤、横山澤、此間澤、大群澤、椿澤及三ヶ瀬澤ニ各一箇所、計十八箇所ノ堰堤竝ニ三ヶ瀬澤ニ二箇所ノ床固ヲ設置スルコトトセリ

中津川ハ源ヲ丹澤山、塔ヶ嶽、大山等ニ發シ流路延長十五軒、宮ヶ瀬村落合ニ於テ支流早戸川ト合ス合流以奥ノ流域面積五十三平方軒アリ流域内山地ハ從來森林密茂シ殆ンド崩壞無ク河水常ニ清澄ニシテ各所ニ深淵ヲ形成シツツアリシガ一朝大震災ニ會スルキ全山到ル處大崩壞ヲ生ジ土石及倒木ハ河流ヲ堰キ宮ヶ瀬村附近ニ於テハ一時間以上流水ヲ見ザリシト謂ヘリ而シテ大正十二年九月十五日ノ出水ハ再ビ多量ノ土石及流木ヲ下流ニ押送シ或ハ家屋ヲ流シ田畑ヲ埋メ河床ノ増嵩ハ下流ニ於テ二米、中流ニ於テ五米ニ達セリ支流早戸川ハ源ヲ蛭ヶ嶽、丹澤山等ニ發シ流路延長十二軒、流域面積三十七平方軒アリ流域山地ノ大部分ハ鳥屋村々有林ニ屬シ官行造林ニ據リ年々杉及扁柏ヲ植栽シツツアリシガ大震災ニ因リ被害最モ甚シク三平方軒六ノ村有林中約其四割タル一平方軒五ハ崩壞ニ歸セリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十萬圓ヲ以テ本流(早戸川合流點ノ上流)ニ七箇所、早戸川ニ八箇所、計十五箇所ノ堰堤ヲ築設スルコトトシ早戸川ニ於テハ川口ヨリ上流二軒六ノ地點ヨリ其上流七軒ノ區間ニ六箇所ヲ尙支流宮ヶ瀬、金澤及水澤ニ各一箇所ヲ築設スルコトトセリ

一 酒匂川流域

酒匂川ハ源ヲ丹澤山塊及富士山ニ發シ上流部ニ於テ河内川及鮎澤川ノ二大支流ニ分岐ス其工事ヲ施行セントスル區域ハ河川内及鮎澤川支流野澤川流域トス

河内川ハ源ヲ中部及西部丹澤山塊ニ發シ上流ニ於テ玄倉川、中川世附川ノ三川ニ分岐ス流域面積百七十二平方軒アリ流域山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ之ヲ覆フニ火山灰ヲ以テス玄倉川ハ源ヲ蛭ヶ嶽

丹澤山、塔ヶ嶽等ニ發源シ、流路延長十七粍、流域面積四十六平方粍アリ、中川ト共ニ河内川ニ合流ス、河床勾配ハ合流口附近ニ於テ約五十分ノ一トス、中川ハ源ヲ大群山、加入道其他ニ發シ、流路延長十三粍ニシテ、河内川ニ合流ス、流域面積四十二平方粍アリ、世附川ハ源ヲ西丹澤山塊ニ發シ、流路延長十四粍ニシテ、河内川ニ合流ス、流域面積六十七平方粍アリ、震災ニ因ル河内川流域山地ノ崩壞ハ極メテ甚シク、震災地方第一位ニアリ、就中玄倉川水源地ノ如キハ、全山殆ンド崩壞シ盡シ、慘澹タル光景ヲ呈セリ、加之震災直後九月十五日ノ出水ニハ、多量ノ崩落土石及倒木ハ、山津浪ト成リテ、流下シ各地ニ甚大ナル損害ヲ被ラシメタリ、本川砂防計畫ノ大要ハ、本工事費七十三萬圓ヲ以テ、本流ニ一箇所、支流玄倉川ニ四箇所、中川ニ四箇所、世附川ニ七箇所ノ堰堤ヲ適當ノ地點ニ築設シ、河床ノ浸蝕ヲ防止スルト共ニ、流下土石ヲ扞止セントス、然レドモ、以上ノ工事ハ、此大面積ノ流域及崩壞ニ對スル施設トシテハ、餘リニ小規模ニ失シ、其目的ヲ達スルコト困難ナルニ依リ、竣功後ハ、更ニ數倍ノ追加工事ヲ必要トスルモノナリ、

野澤川ハ源ヲ湯船山、標高一千四十二米、山伏山其他ニ發シ、流路延長七粍、小山町ニ於テ鮎澤川ニ合流ス、ル小河川ニシテ、流域面積十四平方粍アリ、流域内山地ハ御坂層ヨリ成リ、其上層ハ厚ク、火山灰ヲ以テ被覆セラ、震災ニ因ル崩壞ハ相當激甚ナリシモ、地勢竝ニ河床勾配緩ナルガ爲メ、其被害ハ河内川流域ニ比シ遙ニ輕シ、本川砂防計畫ノ大要ハ、本工事費十二萬圓ヲ以テ、本流及支流湯船澤、小野畑澤、竝棚澤ニ計七箇所ノ堰堤ヲ築設セントス、蓋シ本川ノ荒廢ハ之ニ依リ大體防止セララルベシ、

一 早川流域

早川ハ源ヲ箱根火山ノ火口原湖タル蘆ノ湖ニ發シ、仙石原ヲ灌溉シ、銚子ノ口ニテ一瀉絶壁ヲ下リ、宮城火口原ニ入り、底倉ニテ蛇骨川ヲ合セ、東部外輪山タル明星、淺間ノ兩山間ヲ過ギ、湯本ニ於テ須雲川火口瀨ト

合シ小田原町ノ南方ニテ相模灣ニ注グ急流河川ナリ流域面積百六平方糎ヲ有シ流域内最高地點ハ中央火口丘神山ノ絶頂標高一千四百三十八米トス而シテ蘆ノ湖ヨリ海ニ至ル流路延長二十四糎、河床勾配ハ平均三十三分ノ一トス流域山地ヲ構成スル基岩ハ安山岩ニシテ外見上熔岩ト集塊岩トアリ地質極メテ脆弱ニシテ容易ニ風化浸蝕ノ作用ヲ受ク地勢ハ一般ニ急峻ニシテ林相ハ粗ニ未立木地多シ震災前流域山地ハ崩壞少ク土石ノ流出亦多カラザリシガ震災ニ因リ傾斜急ナル山腹ハ到ル處大崩壞ヲ爲シ山容ヲ一變セシメタリ就中須雲川右岸ノ崩壞ハ最モ甚シク丹澤山塊ノ大崩壞ニ比スベキモノアリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十五萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所、支流常盤澤ニ三箇所、須雲川及大澤ニ各二箇所、蛇骨川ニ一箇所、計十三箇所ノ堰堤ヲ築造シ多量ノ流下土石ヲ扞止スルノ外河床ヲ高メテ兩岸崩壞ノ増大ヲ防ギ以テ山腹工事ヲ容易ナラシメ且國道ノ安全ヲ期セントス

堰堤中大平臺上流堰堤ハ五河川流域中最大且最高ノモノニシテ高三十米、長四十二米、築立々積一萬一千五百七十六米、工費十七萬五千圓ヲ要シ貯砂量六十萬立方米ニ達シ出山堰堤、高二十米、長五十二米、築立々積五千七百九十一立方米、貯砂量二十萬立方米、及觀音坂堰堤、須雲川高十米、長五十一米、築立々積二千三百十五立方米ト相俟テ早川治水ノ死命ヲ制ス計畫遂行ノ曉ニ於テハ河狀大ニ改マリ塔ノ澤以下ノ沿川ハ甚シキ水害ナカルベク同時ニ上流ニ於テハ水流緩トナリ浸蝕作用歇ミ復タ昔日ノ狂暴ヲ見ザルニ至ルベシ然リト雖モ工事ノ完全ヲ期セント欲セバ本流ニ對シ追加工事ヲ施行スルハ勿論各支流ニ對シテモ尙多數ノ堰堤ヲ築設セザルベカラズ

一 花水川流域

花水川ハ源ヲ東部及中部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テ玉川、鈴川、金目川、葛葉川及水無川ノ五箇川ニ分

岐シ下流ニ至リ諸川合流シテ花水川トナリ大磯町地先ニ於テ相模灣ニ注グ流域面積二百二十平方杆アリ玉川ハ源ヲ大山ニ發シ東流ス流域山地ハ地勢急峻ナルヲ以テ震災ニ因リ山腹ニハ無數ノ崩壞ヲ生ジ震災直後豪雨ニ際シテハ土石流ヲ形成シ下流部落ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ尙今後危險ノ状態ニ在ル家屋十數戸アリ鈴川ハ源ヲ大山(標高一千二百四十六米)ニ發シ南東流ス傾斜急ナル水源山地ハ震災ニ因リ大面積ノ崩壞ヲ生ジ九月十五日ノ暴風雨ニハ多量ノ崩落土石及倒木ハ山津浪トナリテ大山町ヲ襲ヒ其大半ヲ倒潰セリ爾來一年町民ハ復舊ニ努力シツツアリシガ同十三年九月暴風雨襲來シ山腹ハ益々崩壞ヲ増大シ又々多量ノ土石ヲ流下シテ前年ノ慘禍ヲ繰返スニ至レリ金目川ハ源ヲ大山ノ支峯タル春嶽ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニハ土石流蓑毛彎曲部ノ堤防ヲ決潰シテ部落ニ浸入シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ葛葉川ハ源ヲ三ノ塔山(標高一千二百六米)ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニ因リ土石流ハ入角彎曲部ヲ突破シテ耕地ヲ冒シ廣大ナル耕地ヲ不毛ニ歸セシメ人家ヲ流シ人畜ヲ死傷セシメタリ然ルニ同十三年九月ノ豪雨ハ又々多量ノ土石ヲ流下シ其被害ハ前年ニ倍シ且益々増大セントスル状態ニ在リ水無川ハ源ヲ塔ヶ嶽(標高一千百十米)ニ發シ南流後南東流シ秦野町ノ南部ヲ過グ花水川ノ最大支流ニシテ字大倉ニテ山間部ヲ離ルルヤ河水ハ廣大ナル河原地ニ滲透シ其姿ヲ失ヒ荒廢最ヒ甚シ然レドモ沿川低地ニ人家無キヲ以テ大被害無カリシハ幸ナリキ花水川ノ水源山地ハ地震ノ方向ニ直角ナリシト其地勢急峻ナルトニ因リ震災ニ際シテハ大崩壞ヲ生ジ崩落土石及倒木ハ豪雨ニ會シ一時ニ溪谷ヲ下リシガ上流部ハ河積極メテ狹隘ナリシヲ以テ之レヲ流過スルヲ得ズ遂ニ沿川ノ地ヲ其狂暴ノ手ニ委スルニ至リシナリ事態斯ノ如クナルヲ以テ直ニ本川ニ大堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止セザルベカラズ依テ本工事費二十八萬圓ヲ以テ玉川、葛葉川及水無川ニ各二箇所、金目川ニ三箇所、鈴川ニ八箇所、計十七箇所ノ堰堤ヲ築設シ

其目的ヲ達セントスルモ右ノ程度ニテハ其效果充分ナラズ更ニ増補工事ヲ施行スルノ要アリトス
一 多摩川流域

多摩川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山東谷ニ發シ小菅、日原ノ溪流ヲ合セ東流青梅町ニ至リ右折シテ東南ニ向ヒ拜島村ニテ秋川、日野町ニテ淺川ノ二大支流ヲ合セ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ成シテ東京灣ニ注グ砂防工事ヲ施行セントスル流域ハ全部秩父古生層ニ屬シ地勢急峻ナレドモ土地豐饒ニシテ森林ノ生長良好ナリ而シテ本川ハ東京市水道水源地ナルヲ以テ同市ハ水源涵養ノ目的ニテ山林ヲ買收シ又ハ借入レ其經營ニ努力スレドモ大消費地タル同市ニ遠カラザル關係上他ノ森林ハ濫伐セラレ山地ハ極度ニ荒廢シ甚ダ寒心スベキ狀況ヲ呈スルニ至レリ依テ東京府ニ於テハ同七年度以來本川流域ノ砂防工事ニ著手シ同十二年度迄繼續施行セリ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ他ノ四箇川流域ニ比シ遙ニ輕キモ山地ノ到ル處ニ龜裂ヲ生ジ將來益々崩壞面積ヲ増大スルノ虞アリ殊ニ東京市上水道ニ對シ重大ナル關係アルヲ以テ其砂防ハ一日モ忽諸ニ附シ難シ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費五十五萬圓ヲ以テ青梅町以奧多摩川本流々域四百五十七平方糎、五日市以奧秋川流域百四十一平方糎及八王子以奧淺川流域百三平方糎、合計七百一平方糎ノ流域内河川適當ノ箇所ニ五十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ川床ノ浸蝕ヲ防グト共ニ土石ノ流下ヲ扞止シ尙崩壞ノ増大ヲ防止シ且將來行ハルベキ山腹工事ノ基礎タラシメントス

施工狀況

本工事ハ大正十三年度ノ創業ニ係リ同年度ニ於テハ道志川、桂川(以上相模川流域)、河内川(酒匂川流域)、早川、

早川				酒匂川				中津川			
蛇骨川		須雲川		鮎澤川		河内川		早戸川		水澤	
底倉堰堤		觀音坂堰堤		湯船澤下流堰堤		野澤川		水澤堰堤		水澤堰堤	
大平臺上流堰堤		出山堰堤		湯船澤上流堰堤		世附川		杉平堰堤		長者堰堤	
計		計		計		小川		計		計	
計		計		計		小川		計		計	
一〇	一〇	二〇	三〇	五	六	一〇	一三	一三	一〇	二二	二二
一四	五一	五三	四二	二二	二五	三七	二二	三七	三九	二二	二二
一九、九〇二	四〇〇	二、一三五	一、五七六	七四七	八八三	一、四二二	一、四六三	二、八二八	九四五	一、八五五	一、八五五
三、九〇〇	八、〇〇〇	四六、五〇〇	一七、五〇〇	二、一五〇	一、七二〇	三、四〇〇	二、四〇〇	六六、〇〇〇	二、一〇〇	一、八六〇	五、三、八〇〇
二、四三六		一、一九四	五、一〇五	四二七	六、五一四	三、四四	一、一九六	七四六	八、一八	四、一四	一、七〇五
一九七、三三		二〇、八三四	七五、二九一			九、五〇三	二、三三六	一、六九七	二、二二	一、二、五四九	四、七、一一二
二、五四四		一、〇一〇	一、〇三七	三二二	四、五五	五、三二	六、二八	一、一九〇	六、六〇八	一、四二八	
四〇、三二六	一、一二三	一、六三六	一、二、九八九	五、六三七	九、一九四	一〇、七二七	九、七六八	四、七二〇	二、八六〇	一九、七二五	
一四、九八〇		二、二〇四	六、二四二	三二二	八八二	五、三二	九、七二	三、一九一	一、七、〇五八	二、〇〇六	一、七〇五
三、七、五九	一、一二三	三、七、一九六	八、八、二八〇	五、六三七	一、五、七〇八	一〇、七二七	一九、二七一	五、七、一九〇	三、八、三三五	三、四、九六六	四、七、一一二
〇、六八	〇、二四	一、〇〇〇	〇、五〇	〇、三七	一、〇〇〇	〇、三三	一、〇〇〇	〇、五六	〇、八〇	〇、六七	〇、八八

シ

費目	前年度迄竣功高			本年度竣功高			合計		
	數量	金額	備考	數量	金額	備考	數量	金額	備考
本埠堤	未竣功	一、五八八、五七九	簡所 二六八	未竣功	二二三、五三三	簡所 一一七	未竣功	一、八一三、一一二	簡所 一八七
工事床	未竣功	三二、七二八	米 四二	未竣功	五四、五五九	米 三一	未竣功	八七、二八七	米 一三
事護	竣功			竣功	二二、九三三	米 七	竣功	二二、九三三	
費用地					八三五			八三五	
船舶及機械		五九、五八六			一〇、七六三			七〇、三四九	
測量		一四、六九〇			一、四六二			一六、一五二	
營業繕		二五、二五六			四八一			二五、七三七	
雜費		二九四、九四八			七一、九九五			三六六、九四三	
亡失毀損		四、七四九						四、七四九	
共濟組合給與金		九、一九一			二、六三〇			一、八二一	
總計		二、〇二九、七二七			三六八、五五一			二、三九八、二七八	
								〇・五三	

第五章 復舊工事及補修工事 (相模川外四箇用流域震災復舊砂防工事)

第一 信濃川補修工事

緒言

信濃川改修工事ハ明治四十年年度ヨリ昭和二年度ニ至ル二十一箇年度繼續事業トシテ工費豫算二千三百五十四萬一千九百五圓(内新潟縣負擔額六百十二萬九千圓)ヲ以テ左岸新潟縣三島郡與板町、右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル延長約十軒ノ分水路ノ開鑿竝ニ新潟市信濃川河口ノ改良工事ヲ施行シ洪水ノ汎濫及河口ノ埋塞ヲ防止スルコトヲ目的トシ此ノ内分水路ノ開鑿工事ハ大正十年年度ニ於テ略其功ヲ竣リ大正十一年八月本川左岸ノ舊堤ヲ爆破シテ新水路ニ通水シ爾來能ク分水工事初期ノ目的ヲ完ウスルコトヲ得タリシガ昭和二年六月突如トシテ分水路起點三島郡大河津村地先ニ設置セラレタル自在堰ノ陷没ヲ起シ全ク水位調節ノ機能ヲ失ヒ本川全水量ハ分水路ニ放流セラレテ一時大河津下流ノ本川及ビ派川中之口川沿岸ノ灌漑ト航運トニ障害ヲ及ボスニ至レリ時恰モ農家ノ灌漑時期ニ際會シ洗堰下流ノ通水ハ焦眉ノ急ヲ訴ヘタルガ故ニ工費豫算八十七萬四百一十一圓(外ニ事務費七千二百二十五圓)ヲ支出シテ應急工事ヲ施行シ辛ウジテ本流ノ通水ヲ計リタリ

本補修工事ハ破壞セル自在堰ニ聯關セル築造物ノ復舊及補修ヲ主トシ之レニ附隨シテ必要ナル諸工事ヲ施行スルモノニシテ昭和二年度工事費豫算八十八萬二千圓(外ニ事務費七千二百圓)ヲ以テ工事ニ著手シタリシガ更ニ昭和三年度乃至同五年度ニ於テ三箇年繼續事業トシテ工事費三百五十七萬八千圓(外ニ事務費二十六萬一千圓)ヲ支出シ總工費豫算四百四十六萬圓(外ニ事務費二十六萬八千二百圓及附帶工事費管理者負擔額五十萬二千圓)ヲ以テ施行スルコトトセリ

河狀竝計畫大要

新堰堤可動堰ハ舊自在堰上流百米ノ位置ニ築造シ堰長百八十米之レヲ十個ノ水路ニ分チ各水路ニハストーニー式鋼扇ヲ備ヘ洪水時ニハ之ヲ捲キ揚ゲ固定堰上ノ溢流ト相俟テ毎秒五千五百七十立方米ノ計畫洪水量ヲ分水路ニ放流スルニ支障ナカラシム構造ハ鐵骨又ハ鐵筋混凝土造トシ基礎ハ幅員三十五米ニシテ其四周ヲ鋼矢板ヲ以テ締切リ水ノ滲透ト土砂ノ移動トヲ防止ス

可動堰上下流ニ於ケル洗掘ヲ防止センガ爲メニハ之ニ夫々堅牢ナル床固及水叩工事ヲ施シ右岸堤保護ノ爲メニハ堰堤右岸橋臺ヲ堤脚ヨリ突出セシムルコト九米トス上流床固工ハ幅員二十米ヲ限リテ下層ニ粘土礫上層ニ粗朶沈床ヲ施工シテ此上ニ重量一噸ノ混凝土方塊ヲ沈設シ下流水叩工ハ幅員十米ノ混凝土水叩ノ下流端ニ長六米ランサム式鋼矢板ヲ打込ミ更ニ其下流第一床固ニ至ル平均距離五十米ノ區間ハ上流床固工ト同一ノ工法ヲ以テ河底ヲ固ム

固定堰ハ現堰ヲ補強改造シ其右端ト新可動堰左端トヲ直角ニ連絡シテ鋼矢板ヲ二重ニ打込ミタル圍堰式隔壁ヲ造ル固定堰下流洪水敷ハ溢流水ノ爲メニ洗掘削刻セラレ延イテハ堰體ヲ危險ニ陷シイルル虞アルガ故ニ現堰ニ接續シテ勾配十二分ノ一張石工法ニ依ル水叩ヲ延長シテ堰堤断面ヲ約二倍三分ニ増大シ其末端ニハ鋼矢板ヲ打込ミ以テ堰堤ノ安定ヲ維持セントス

分水路ノ通水以來河床ノ洗掘甚シク且自在堰陷沒ノ結果ハ四箇月餘ノ久シキニ互リテ激流ノ洗フ處トナリ河床ハ異常ナル洗掘作用ヲ蒙リ之ヲ自然ニ放任スルコトヲ許サズ乃チ分水路ヲ維持シ以テ新堰堤ヲ保護センガ爲メニ床固工ヲ施ス第一床固ハ舊自在堰基礎ヲ補強改選シテ新堰堤ニ對スル副堰堤ノ

作用ヲ爲サシメ第二床固ハ分水路終端西蒲原郡國上村大字渡部地先ニ混凝土拱式堰堤ヲ作り河底ノ岩盤ヲ保護スルト共ニ其上流ノ水蝕ヲ防止ス是等二個ノ床固工ノ中間ニハ更ニ適宜ノ位置ニ構造簡易ナル床留工事ヲ施スモノトス

洗堰下流ノ本川筋ハ累年河床上昇シテ通水量ヲ減少シ灌溉ト航行トニ困難ヲ感ジタリシガ自在堰陥没ノ結果流勢分水路ニ集中シ爲メニ前記本川筋ハ土砂ノ沈澱頓ニ増加シ通水杜絶スルニ至リシヲ以テ蒲原平野約二萬六千ヘクタールノ灌溉ト航運トヲ保障センガ爲メ洗堰ヨリ中之口川分派口ニ至ル延長八軒ノ區間ノ附帶低水工事ヲ施行ス即チ低水幅ヲ八十米乃至百米ト定メテ水路ヲ浚渫シ兩岸ニハ水刎兼用ノ護岸ヲ設ケ水流誘導ノ爲メニハ導流堤ヲ作り流水ノ自然作用ニ依テ水路ヲ維持セントス外ニ附帶用水樋管補足工事一箇所アリ

施工狀況

本工事ハ昭和二年十二月九日ノ創業ニシテ同年度内ニ殆ンド準備作業ニ忙殺セラレ前年度ニ於テ各種ノ準備略整ヒ施工漸クニシテ其緒ニ就クコトヲ得タリト雖モ早春ヨリ初夏ニ互ル長期ノ融雪出水夏期及秋期ニ於ケル洪水及ビ冬期ニ於ケル風雪ハ工事施工ヲ遅延セシムルコト尠カラズ加フルニ昭和三年九月十五日舊自在堰右岸堰臺ニ接スル上下流石張護岸突如トシテ陥没シ濁流右岸堤ヲ決潰セントスルニ逢ヒテ徹宵之レガ防禦工事ニ努メ漸クニシテ災厄ヲ未然ニ防止スルコトヲ得タリシガ殘存自在堰基礎ノ危険ナル一日モ之レニ信賴スルコト能ハザルヲ認メタルガ故ニ急遽自在堰應急補強工事ヲ起シ補修工事期間中ノ出水ニ備フル爲メニ曩ニ自在堰應急工事ニ於テ鋼矢板ヲ以テ締切リタル第五號乃至第

八號徑間(左岸寄四徑間)上流ヲ角落式假堰ニ改造スルコトトシタリシガ凡ソ此等ノ情勢ハ補修本工事ノ進捗ニ障害ヲ與フルコト甚大ナルモノアリシモ本年度ニ入りテハ夏季以降概シテ順調ナル天候ニ惠マレ著シキ出水無ク冬期ニ降雪少クシテ工程頓ニ進捗シ特ニ昭和四年十一月冬季ノ渇水ヲ利用シテ分水路低水路全幅ノ右岸寄二分ノ一ヲ締切り更ニ昭和五年二月同左岸寄二分ノ一ヲ締切り以後可動堰工事ヲ全ク乾地作業ニ移シテヨリ施工ノ敏速ト工費ノ低廉トヲ招來スルコトヲ得テ漸クニシテ工事竣成ノ曙光ヲ望ムニ到レリ本年度施工概要次ノ如シ

堰堤 可動堰工ハ前年度ノ起工ニシテ基礎掘鑿ニ於テハ前年度以降プリスマン式浚渫船二隻、電動唧筒式浚渫船二隻ヲ以テ浚渫ニ從ヒタリシモ出水毎ニ沈澱スル土量夥シクシテ可動堰右半部掩護ノ目的ノ下ニ築造シタル假防砂堤モ殆ンド其効無ク浚渫作業ノ全能力ヲ擧ゲテ僅ニ土砂ノ沈澱ニ拮抗シ得ルノ状態ナリシガ昭和四年十一月假締切竣功後ハ頓ニ掘鑿能率ヲ増大スルコトヲ得タリ年度内掘鑿土量九萬五千七百七十六立方米、累計十三萬二千二百七十一立方米ニシテ設計土量二萬四千九百立方米ノ五倍三分ニ達ス基礎締切鋼矢板ハ上流部長十二米ラルセン式、下流部長十一米テル、ルーヂユ式ノ前年度施工ノ殘部及ビ隔壁部長十四米五十糎ラルセン式ヲ合シテ計延長四百四十六米ヲ打込ミ累計八百五米ニシテ之ヲ竣功シタリ基礎杭ハ橋脚部ノ長十三米松丸太及水路部ノ長七米松丸太ヲ合シテ年度内一千六百六十五本累計一千七百本ヲ打込ミ工程九割七分ノ竣功トス橋脚基礎鐵骨トシテハ鐵道省ヨリ購入セル古橋桁長三十四米三十糎、高一米五十糎ノモノ六聯ヲ橋脚毎ニ挿入ス基礎混凝土ニ在リテハ敷均二千七立方米、基礎版五千四百八十五立方米ヲ施工シテ第一號乃至第五號ノ右岸寄五徑間ヲ竣功シ且此部分ハ橋脚ノ施工ニ著手スルコトヲ得テ橋脚混凝土六百二十五立方米、堰體混凝土九百四十六立方米ヲ施工

シタリシガ此外可動堰鋼扉十枚、同戸袋金物十組、橋梁鐵骨十組ハ年度内之レガ製作ヲ竣了シタリ
可動堰上流床固工モ亦前年度ノ起工ニシテ掘鑿ハ年度内三千九百五十九立方米(累計一萬七千二百二十
七立方米)ヲ施工シ粗朶沈床工ハ前年度ニ於テ約五割ヲ竣功シタリシガ本年度ニ於テ之レガ施工ヲ繼續
シ混凝土方塊ノ製作個數一千三百六十五個(累計二千八百二十五個)同沈設個數二千九百九十九個ニシテ方
塊張一千八百八十五平方米ヲ竣功シ約五割ノ工程ヲ舉グルコトヲ得タリ

可動堰下流水叩工 昭和三年度ノ起工ニシテ本年度浚深又ハ掘鑿土量一萬七千二百十五立方米(累計二
萬三千九百十八立方米)ニシテ水叩混凝土ハ設計高一千八百九十平方米ノ内一千七百六十五平方米ヲ竣
功シ同下流端ナル長六米鋼矢板ハ年度内十四米(累計百九十九米)ヲ打込ミテ全ク之レガ竣功ヲ見タリ下
流部粗朶沈床ハ前年度迄ニ略之レガ沈設ヲ終リ混凝土方塊ハ設計高六千四百二十個ノ内製作五千四百
八十三個、沈設五千三百九十九個ニシテ方塊張七千七百七十四平方米ノ竣功ヲ見タリ

固定堰補強工 前年度ノ起工ニシテ水叩修理工ニ於テハ鋼矢板工及捨石補足工トモ前年度中ニ略其工
ヲ竣リ水叩補足工ニ在リテハ下流端長十米テル、ルージユ式鋼矢板ハ年度内延長百七十米(累計五百米)打
込ミタル外混凝土床留工二千二百七十八米、鐵線籠工二千六百七十三平方米、捨石工一萬九千五十二立方
米(累計二萬三百九十七立方米)ヲ施行シテ固定堰本體ノ補強殆ンド成リ外ニ導水路高水護岸ノ施工ニ著
手シテ護岸沿ヒ洪水敷ニハ七千平方米ノ柳枝工ヲ施行シタリ

可動堰ト固定堰トノ境界タルベキ隔壁工ハ本年度ノ起工ニシテ鋼矢板七十七米ノ打込ヲ竣リ掘鑿四千
四百二十二立方米ヲ施工シタル外魚梯ノ増築ニ著手シタリ
床固 第一床固工ハ昭和二年度以降ノ繼續施工ニシテ上、下流水叩補強工及石堤工ニ互リテ蛇籠木工沈

床場所詰混凝土其他ヲ補足シテ之レガ修理ヲ行ヘル外一時施工ヲ中絶シ殘存セル第一號乃至第四號ビ
イヤハ未ダ除却ノ運ビニ至ラザルモ第三號及第四號鋼扉ハ可動堰假締切完成後之レヲ除却セリ

分水路中間ノ五千石、石港兩床留工ハ前年度中ニ竣功ヲ告ゲ分水路末端ノ第二床固工ハ前年度ノ起工ニ
シテ本年度初頭ノ雪解出水ノ爲メニ右岸假締切ノ一部ヲ破壊セラレシガ夏期ノ湧水ヲ利用シテ之レガ
復舊ヲ圖ルト共ニ晝夜兼行ノ努力ヲ以テ施工ヲ急ギ年度内岩盤掘鑿一萬二千八百九十五立方米、累計一
萬三千四百五十五立方米、堰體混凝土三千八百七十九立方米、水叩混凝土五千七百十三立方米ヲ施工シテ
年度末ニ於ケル雪解出水期迄ニ完全ニ堰堤右半部ヲ竣功シタルノミナラズ更ニ此上ニ左岸假締切ノ一
部ヲ築造シタリ

採石 前年度ニ引續キテ野積海岸及彌彦山中腹ノ兩採石場ニ於テハ工事用割石ヲ採取シ長岡市附近及
其上流ニ於テハ玉石及砂利ヲ採取シタリシガ砂利ハ直營採取ノ傍ラ低廉ナル單價ヲ以テ其一部ヲ民間
當業者ヨリ購入シテ工事上ノ需要ヲ滿タスコトヲ得タリ本年度採取量割石八千四百六十九立方米、玉石
三千一立方米、砂利一萬四千九百五十八立方米ニシテ土丹岩ハ本年度之ヲ採取セズ

材料運搬 本工事ハ蒸汽機關車デイズル機關車ヲ用ヒテ購入ニ係ル鋼材、石材、木材、セメント等ヲ地藏
堂驛ヨリ專用線路ニ依リテ大河津工事場ニ運搬シタルモノトス

附帶工事 洗堰下流本川筋中之口川分派口ニ至ル延長八籽ノ低水工事ハ前年度以降工程ノ進捗著シク
シテ本年度ヲ以テ上流部約六籽ノ航路ヲ完全ニ改善スルコトヲ得タリシガ年度内施工ニ係ルモノハ箕
ヶ島、箕ヶ島第二、横田ノ三機械浚渫工、熊之森、小池、中之島、補強ノ三護岸工、中之島、熊之森、西野、尾崎ノ四水制
工之レニ割石採取工及玉石採取工ヲ加ヘタル十二工事ニシテ内前年度ヨリノ繼續施工ニ係ル箕ヶ島機

械浚渫工、熊之森護岸工、熊之森水制工、玉石採取工並本年度起工ノ中之島護岸補強工、西野水制工ハ年度内之ガ竣功ヲ見タリ

機械浚渫工ハ前年度ニ引續キ電動唧筒船二隻、バケツト船二隻ヲ使用シテ年度内浚渫土量四十四萬四千二百十五立方米、累計七十萬九千五百六十四立方米トス

護岸工ハ水路ヲ整理シテ亂流ヲ防止スルガ爲メニ計畫低水路ヲ挾ンデ其兩岸ニ施行シ水制工ハ護岸工ノ間ヨリスル逸水ヲ阻止シテ土砂ノ沈澱ヲ助成スル目的ノ爲メニ之ヲ直交シテ其背面ニ施行シ或ハ低水法線區域外ノ舊水路ニ施行スルモノニシテ適宜ニ粗朶沈床、鐵線猪ノ子、包柴籠、杭柵等ヲ用ヒ本年度施工護岸、水制七工事ヲ通ジテ竣功延長二千三百四十七米、累計八千三百二十七米ナリ特ニ中之島護岸補強工ハ前年度竣功ノ中之島護岸粗朶沈床上ニ捨石ヲ行ヒ以テ新低水路上流端ニ於ケル導流ノ目的ヲ達成センガ爲メニ延長一千四十一米ノ石堤ヲ築設シタルモノトス

低水工事用玉石ハ長岡市上流ニ於テ採取シ來リシガ採取費低廉ナラザルガ爲メ玉石ノ使用ハ本年度限リ之ヲ廢止シ之レガ代用品トシテハ前年度末以降野積海岸採取ノ割石ヲ使用スルコトトシタリ年度内採取割石二萬一千五百二十四立方米、玉石一千九十九立方米トス

附帶蒲原用水樋管補足工ハ本年度起工ニシテ樋管本體ノ補足ハ年度内殆ンド之ガ竣功ヲ見タリ

雜工事 昭和三年九月十五日ノ事變ニ鑑ミテ起工シタル自在堰應急補強工ハ本年度ニ入りテ右岸堤脚根固工事ヲ竣功シ石張護岸ノ修理ヲ繼續シタル外前年度未竣功ノ角落式假堰十六連ヲ完成シテ水位調節ニ遺憾無カラシメシガ可動堰締切完成後自在堰基礎混凝土ニ穿孔シテ強力ナル唧筒ヲ以テ土砂一千四百二十八立方米ヲ基礎空洞ニ注入シタリ

第五章 復舊工事及補修工事 (信濃川補修工事)

本年度ニ於ケル竣功額ハ百四十七萬七千五百二十五圓ニシテ起工以來ノ累計三百十二萬二百九圓トナ
 リ總工費四百四十六萬圓ニ對シテ七割ノ竣功トス工事竣功表次ノ如シ但シ表中「▲」ハ別設計石材新出評
 價額「◎」ハ新潟縣負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
本堰堤	立方米	▲ 三九四、六〇五	立方米	▲ 七六六、八八七	立方米	▲ 一、一六一、四九二	四〇・七	〇・四七
工事床固		▲ 二六四、五六七		▲ 八二、三一七		▲ 一、〇八、八七九	〇・五三	
採石	一〇六、七二〇	▲ 二二、七三二	二六、四二八	▲ 二〇、一六七	一三三、一三八	▲ 二六、三三〇		
事費		▲ 二二、三六二		▲ 五〇、九四四		▲ 二六、三三〇		
費事		▲ 二二、三六二		▲ 五〇、九四四		▲ 二六、三三〇		
用材運搬		▲ 二二、三六二		▲ 五〇、九四四		▲ 二六、三三〇		
附帶工事費		▲ 三、一四四		▲ 一〇、六三八		▲ 三、一四四		
船舶及機械費		▲ 二〇六、一八〇		▲ 一五〇、九五六		▲ 三五七、一三六	〇・七一	
測量費		▲ 一八一、五八九		▲ 一六、三一九		▲ 三、四二九		
營業繕費		▲ 三二八、六五八		▲ 一六八、五二七		▲ 四九七、一八五		
雜費		▲ 六、七五〇		▲ 一、三四三		▲ 八、〇九三		
共濟組合給與金		▲ 七二、五八四		▲ 一五、五九八		▲ 八八、一八二		
總計		▲ 一、六四二、六八二		▲ 一、四七七、五二五		▲ 三、一二〇、二〇七		〇・七〇
		◎ 一、八一、五八九		◎ 一、六七一、三二八		◎ 三、四二九、〇〇七		
		▲ 七、〇四七		▲ 六、二九五		▲ 一、三三三、三三三		

第三 利根、渡良瀬兩川維持工水害復舊工事

緒言

本工事ハ昭和三年八月初旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ依リ被害アリタル利根川、幹川、筋、派川、江戸川及渡良瀬川ノ復舊工ニシテ昭和三、四兩年度繼續事業トシ工費豫算三十萬五百圓ヲ以テ施行スルモノトス左ニ兩川ニ於ケル當時ノ出水竝ニ被害ノ狀況ヲ記述スベシ

昭和三年七月下旬小笠原島及八丈島間ニ起レル七百三十一耗ノ低氣壓ハ同月二十八日八丈島附近ヲ低迷シ二十九日ヨリ密雲次第ニ増加スルト共ニ北東ノ強風加ハリ翌三十日午後ヨリ暴風雨ヲ齎ラシ次第三十一日豪雨襲來ス而カモ颶風ハ北海道ノ東海岸ニ在リシ高氣壓ノ爲メ停滯シ八月一日ニ至ルモ尙降雨連續シ遂ニ一大洪水ヲ起スニ至レリ而シテ渡良瀬川ハ古河ニテ五米八二ヲ示シ利根川筋ハ栗橋以下ニ於テ計畫高水位ニ垂ントシ大正十四年八月ノ洪水ニ匹敵スルニ至リ最大高水流量ハ川俣ニ於テ毎秒四千四百六十立方米、栗橋ニ於テ四千二百十立方米ニ及ビ水勢ハ矢ノ如ク濁流ハ兩岸ニ激衝シ之レガ爲メ護岸ノ破損崩壞、水制ノ沈下、流失等頻出シ其危險言フベカラズ加フルニ十月下旬再ビ之ニ比スベキ出水ヲ見タルヲ以テ一層其被害ヲ擴大セリ

之ヲ各川別ニ舉グレバ利根川第二期部内ハ左岸金江津村ヨリ小文間村ノ間ニ於テ護岸二箇所此延長二百七十米、水制三箇所此延長七百五十米、第三期部内ハ左岸大野村ヨリ上流芝根付ニ至ル十三箇所ニ於テ護岸十箇所此延長三千二百二十米、水制十一箇所此延長一千九百米、派川江戸川ハ左岸市川町ヨリ五霞村ニ至ル間ニ於テ護岸四箇所此延長八百六十米、水制四箇所此延長九百十六米ニ達シ渡良瀬川ハ右岸西谷田

村ヨリ上流梁田村ニ至ル間ニ於テ護岸五箇所此延長七百四十米ニ及ベリ是等被害箇所ハ直ニ復舊セザレバ惹テ堤防ノ崩壊ヲ招キ其慘害ノ程度揣リ知ルベカラザルヲ以テ前年度ヨリ施行スルコトナレリ左ニ各川工區別ニ施行ノ狀況ヲ略述スベシ

施工狀況

本工事ハ極メテ急施ヲ要セシヲ以テ何レモ速成ヲ圖リ前年度ニ於テ其大半ヲ施行シ其餘ハ本年度ニ於テ全部竣功セシメタリ即チ利根川第二期部内ハ左岸金江津村、右岸安食町兩地先ニ於テ護岸石張一千八十平方米、沈床四百五十平方米ヲ施行シ延長百三十五米ヲ竣成シ水制ハ左岸金江津、長芋、小文間各村地先ニ於テ下埋七千三百二十立方米、取除床均二千九百五十平方米、沈床二千二百五十平方米、蛇籠上置（幹部）九十四米及詰石上置（頭部）二百八十四米等ヲ施工シ竣功延長三百七十五米ニシテ豫定通全部施行ヲ終レリ三期部内ニ於テハ左岸香取、新郷、利島、永樂及右岸川俣各村地先護岸石張及沈床ノ大破セルモノ五箇所此延長一千六百九十米ヲ施工復舊シ内永樂村地先ハ水流殊ニ激衝スルヲ以テ護岸脚部ノ安全ヲ期スル爲メ床固トシテ鐵筋材杭打上置同合掌枰ヲ混用設置シ水制復舊ハ左岸大野、二川、右岸芝根各村地先ニ施工セシガ何レモ耐久力等ヲ考慮シ大野、二川兩村地先ハ舊水制ノ上層又ハ上置ニ換フルニ杭打上置、鐵筋材杭打上置及鐵筋材合掌枰ヲ以テ芝根村地先ハ急流部ニシテ水衝リ強キ箇所ナルヲ以テ特ニ根固トシテ鐵筋材方格枰ヲ設置スルト共ニ其安全ヲ期スル爲メ床固トシテ六箇所ニ鐵筋材合掌枰ヲ沈設シ竣功延長一千三十米トナレリ

派川江戸川部内ニ於テハ右岸金杉村地先護岸石張ノ崩壊及沈床ノ破損等延長四百八十米ヲ竣成セシメ

水制ハ左岸市川町地先ニ於テ深掘甚シキ箇所ニ沈床及單床ヲ施シ其上ニ杭打石詰上置ヲ施工セル外根固工トシテ捨石ヲ施行シ其上流松戸町地先ハ水流偏倚シテ河岸ニ迫リ流路全ク破壊サレタルヲ以テ杭打上置ニ依リ其矯正ヲ計リ明村地先水制ハ沈下破損等甚シク水流ノ偏倚ニ依リ堤脚危険トナレルヲ以テ沈床ヲ基礎ニ杭打上置ヲ施行シ延長四百三十二米ヲ完成セリ

渡良瀬川ニ於テハ梁田、毛野兩村地先既設沈床ノ先端洗掘セラレ著シク前垂トナレルヲ以テ片合掌杵ヲ設置シテ之ヲ防ギ且沈床ト片合掌杵トノ間隙ニハ捨石ヲ施行シ竣功延長三百三十米トナリ茲ニ水害復舊工事ハ全部完成セリ

本年度竣功高ハ十三萬八千八十一圓ニシテ前年度ノ竣功高ヲ合シ二十九萬九千九百三十七圓トナリ工費豫算三十萬五百圓ニ比シ五百六十三圓ヲ剩セリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工(護岸修補)	三、一〇四 <small>米</small>	八四、〇七六 <small>円</small>	二、六三五 <small>米</small>	六七、四八七 <small>円</small>	五、七三九 <small>米</small>	一五一、五六三 <small>円</small>	一〇〇 <small>歩分</small>
事費(水制修補)	一、一五三	六三、八七三	一、八三七	五五、二二六	四、〇八九	一一九、〇九九	一〇〇
雜費		一三、一九四		一四、四七三		二七、六六七	
共済組合給與金		七一三		八九五		一、六〇八	
總計		一六一、八五六		一三八、〇八一		二九九、九三七	一〇〇

本表ノ竣功高ヲ更ニ各川工區別ニスレバ左表ノ如シ

利根川第二期

昭和四年度直轄工事年報 (終)

第五章 復舊工事及補修工事 (利根、渡良瀬兩川維持工水害復舊工事)

總計	本工		雜費	共濟組合給與金
	護岸修補	水制修補		
	500	696		
52,321	20,199	26,962	4,814	246
	480	433		
33,559	13,000	15,000	5,293	266
	980	1,128		
85,780	33,199	41,962	10,107	512
100	100			

昭和六年一月二十五日印刷
昭和六年一月二十七日發行

內務省 土木局

印刷者 白 井 祐 吉
東京市牛込區西五軒町五十二番地

印刷所 東京市牛込區西五軒町五十二番地
株式會社 行政學會印刷所第二工場

(電話牛込(34)二九九六)